國譯大藏經

經部
第三巻

目次

漢譯原文

以上

國譯摩訶般若波羅蜜經

(一)卷の第十六

(二)大如品第五十四

(三)爾の時、欲界の諸天子、色界の諸天子、天の末旃檀香を以て、天の青蓮華赤蓮華紅蓮華白蓮華を以て、遙かに佛の上に散じ、來りて佛所に至り、佛足を頂禮して一面に住し、佛に白して言さく、『世尊、(四)諸佛の阿耨多羅三藐三菩提は甚深にして見難く、解し難く、思惟し微妙寂滅を知るべからず、智者は能く知るも(五)一切世間の信ずること能はざる所なり。何を以ての故に、是の深般若波羅蜜中に是の如く說けばなり。色は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ色なり。乃至一切種智は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ一切種智なり。色如相と薩婆若如相とは、是れ一如にして二無く別無し、乃至一切種智如相と薩婆若如相とは一如にして二無く別無しと。』佛欲

【一】宋元明本第十八に作る。
【二】品目丹本大如相品に作る本文中如相品と云ひ、菩薩行品と云ふ。大如一乘の甚深を說き、成佛と平等大慈の佛行と得益とを明す。大論第七十二。
【三】前品に說ける色卽薩婆若の難見難解なるを明し、この法取著を離るるを示す。
【四】成道の佛智甚深難見と深般若難見と同じきが故に結合して說く。

色界の諸天子に告げ給はく、「是の如し是の如し、諸天子、色は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ色なり。乃至一切種智は卽ち是れ薩婆若、薩婆若は卽ち是れ一切種智なり。色如相乃至一切種智如相は、一如にして二無く別無し。諸天子、是の義を以ての故に、(六)佛初め成道の時、心に樂んで默然として說法することを樂まず。何を以ての故に、是の諸佛の阿耨多羅三藐三菩提法は甚深にして見難く、解し難く、思惟し微妙寂滅を知るべからず、智者は能く知るも一切世間の信ずること能はざる所なればなり。何を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提は(七)得る者無く、得る處なく、得る時無ければなり。是を(八)諸法甚深相と名く、謂ゆる二法有ること無きなり。諸天子、虛空の如く甚深なるが故に、是の法甚深なり。如甚深なるが故に、是の法甚深なり。法性甚深、實際甚深、不可思議無邊甚深なるが故に、是の法甚深なり。無來無去甚深なるが故に、是の法甚深なり。不生不滅無垢無淨無知無得甚深なるが故に、是の法甚深なり。諸天子、我甚深、乃至知者見者甚深なるが故に、是の法甚深なり。諸天子、色甚深、受想行識甚深なるが故に、是の法甚深なり。檀那波羅蜜甚深、乃至般若波羅蜜甚深なるが故に、是の法甚深なり。內空乃至無法有法空甚深なるが故に、是の法甚深なり。四念處甚深、乃至一切種智甚深なるが故に、是の法

【五】一切世間。一切の言多くはの意にて實の一切にあらず、これを名字の一切と云ふ。

【六】成道後若干日の思惟不說につきては大小の經律種種に解するも、本經は諸法一切智一如の深般若に安住して不說に說を加ふるを樂まず、多數の信じ難き所なるが故にと解せるなり。

【七】得る者等。成佛に人者時處の分別なきを說く。

【八】成佛の深相卽ち諸法甚深相なり、諸法無二なるが故なり。

甚深なり。』爾の時、欲色界の諸天子、佛に白して言さく、『世尊、是の所說の法は一切世間の信ずることと能はざる所なり。世尊、是の甚深の法は、〔九〕色を受くるが爲の故に說かず、色を捨つるが爲の故に說かず。受想行識を受くるが爲の故に說かず、受想行識を捨つるが爲の故に說かず。須陀洹果を受くるが爲の故に說かず、須陀洹果を捨つるが爲の故に說かず。乃至一切種智を受くるが爲の故に說かず、一切種智を捨つるが爲の故に說かず。諸の世間は皆〔一〇〕著行を受く、謂ゆる色は是れ我、是れ我所、受想行識は是れ我、是れ我所、乃至十八不共法は是れ我、是れ我所、須陀洹果は是れ我、是れ我所、乃至一切種智は是れ我、是れ我所なりとこれなり。』佛諸天子に告げ給はく、『是の如し是の如し、諸天子、是の法は色を受くるが爲の故に說くに非らず、色を捨つるが爲の故に說くに非らず。乃至一切種智を受くるが爲の故に說くに非らず、一切種智を捨つるが爲の故に說くに非らず。諸天子、若し菩薩有りて、色を受くるが爲の故に行じ、乃至一切種智を受くるが爲の故に行せば、是の菩薩は般若波羅蜜を修行すること能はず、禪那波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜を修行すること能はず、乃至一切種智を修行すること能はず。』

〔一一〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の法は一切法に隨順す。云何が是の法一切法に隨順するや。

【九】色を受くる等、受捨生滅あるに般若功德を修する能はざるなり。

【一〇】著行、取著爲作即ち我我所とするなり。

【一一】般若の一切法に隨順し無礙不生無處なるを明す。

是の法は般若波羅蜜に隨順し乃至檀那波羅蜜に隨順し、是の法は內空に隨順し乃至無法有法空に隨順し、是の法は四念處に隨順し乃至一切種智に隨順す。是の法は無礙にして色を礙せず、受想行識を礙せず、乃至一切種智を礙せず。諸天子、是の法を無礙相と名く、虛空の如く等しきが故に。如、法性、法住、實際、不可思議性等しきが故に。空、無相、無作等しきが故に。是の法は不生相なり、色不生、不可得なるが故に。受想行識不生、不可得なるが故に、乃至一切種智不生、不可得なるが故に。是の法は〔二二〕無處なり、色處不可得なるが故に、受想行識處不可得なるが故に、乃至一切種智處不可得なるが故に。』

〔二三〕是の時、欲色界の諸天子、佛に白して言さく、『世尊、須菩提は是れ〔二四〕佛子、佛に隨て生ず。何を以ての故に、〔二五〕須菩提の說く所、皆空と合すればなり。』爾の時、須菩提、諸天子に語らく『汝等、須菩提は是れ佛子、佛に隨て生ずと言ふ。云何が佛に隨て生ずと爲すや。諸天子、如相の故に、須菩提は佛に隨て生ず。何を以ての故に、如來の如相は不來不去なり、須菩提の如相も亦不來不去なり、是の故に須菩提は佛に隨て生ず。復次に、須菩提は本より以來佛に隨て生ず。何を以ての故に、如來の如相は卽ち是れ〔二六〕一切法の如相なり。一切法の如相は卽ち是れ

〔二二〕無處。無住處なり、一切處不可得なればなり。

〔二三〕諸天須菩提を讚するに因みて何者か須菩提なるかを明す。

〔二四〕佛子。世の子に三あり、不隨順生卽ち不肖の子と隨順生と勝生となり。佛法唯一にして隨順子のみ、佛に勝るものなきが故に。佛子は佛口より生じ、法より生ずとす。

〔二五〕須菩提は畢竟空を事とし、佛法に隨順す。

〔二六〕一切法の如相。一切の中須菩提を攝するが故に、須菩提の隨順を明さんが爲に一切法等と行ふ。

如來の如相なり。是の如相中亦如相無し。是の故に須菩提を佛に隨て生ずと爲す。復次に如來如は常住相なり、須菩提如も亦常住相なり、如來の如相は異無く別無し、須菩提の如相も亦異無く別無し、是の故に須菩提を佛に隨て生ずと爲す。如來の如相は礙處有ること無く、一切法の如相も亦礙處無し、是の如來の如相と一切法の如相とは一如にして二無く別無し、是の如相無作にして終に不如ならず、是の故に是の如相は一如にして二無く別無し、是の故に須菩提を佛に隨て生ずと爲す。如來の如相は一切處(一七)念無く別無し、須菩提の如相亦た是の如く一切處念無く別無し、如來の如相は異ならず、別ならず、得べからず、須菩提の如相も亦是の如し。是を以ての故に須菩提を佛に隨て生ずと爲す。如來の如相は(一八)諸法の如相を遠離せず、是の如終に(一九)不如ならず、是の故に須菩提如も異ならざるが故に、佛に隨て生ずと爲すも亦隨ふ所無し。復次に(二〇)如來の如相は過去ならず、未來ならず、現在ならず、諸法の如相も亦過去ならず、未來ならず、現在ならず。是の故に須菩提を佛に隨て生ずと爲す。復次に如來如は過去如の中に在らず、過去如は如來如の中に在らず、如來如は未來如の中に在らず、未來如は如來如の中に在らず、如來如は現在如の中に在らず、現在如は如來如の中に在らず、過去未來現在如と如來如とは一如にして二無く別無し。色如、如來如、受想行識如、如來如、是の色如と受想行識如と如來

【一七】念無く別無し。憶想分別なきなり。
【一八】諸法の如相を遠離せず。一切法を正觀するもの佛なれば、諸法は因緣、佛は果報にして遠離せず。
【一九】不如ならず。如實の故に常にして不如の時なし。
【二〇】如相は三世を出過することを說く

如とは一如にして二無く別無し。我如乃至知者見者如と如來如とは一如にして二無く別無し。檀那波羅蜜如乃至般若波羅蜜如、內空如乃至無法有法空如、四念處如乃至一切種智如と如來如とは一如にして二無く別無し。須菩提も菩薩摩訶薩も是の如を得るが故に名けて如來と爲す。』

(三)是の如相品を說く時、是の三千大千世界の大地六種に震動す、東に涌き西に沒し、西に涌き東に沒し、南に涌き北に沒し、北に涌き南に沒し、中央に涌き四邊に沒し、四邊に涌き中央に沒す。是の時諸の欲天子、諸の色天子は、天の末旃檀香を以て佛の上に散じ、及び須菩提の上に散じ、佛に白して言さく、『未曾有なり世尊、須菩提は如來如を以て佛に隨て生ず。』須菩提復諸天子の爲に說いて言く、『諸天子、須菩提は色中より佛に隨て生ぜず、亦色如中より佛に隨て生ぜず、色を離れ佛に隨て生ぜず、亦色如を離れ佛に隨て生ぜず。須菩提は受想行識中より佛に隨て生ぜず、亦受想行識如中より佛に隨て生ぜず、受想行識を離れ佛に隨て生ぜず、亦受想行識如を離れ佛に隨て生ぜず。乃至一切種智中より佛に隨て生ぜず、亦一切種智如中より佛に隨て生ぜず、一切種智中を離れ佛に隨て生ぜず、亦一切種智如中を離れ佛に隨て生ぜず。須菩提は無爲中より佛に隨て生ぜず、亦無爲如中より佛に隨て生ぜず、無爲中を離れ佛に隨て生ぜず、亦無爲如中を離れ佛に隨て生ぜず。何を以ての故に、是の一切法皆所有無く得べからず、隨て生ずる者無く、隨て生ず

【三】如如の深法を說くが故に六種震動諸天散華を示し、更に隨生の生とすべきもなきを明す。諸天尙法如の貴しとし如を本源とする所を破せんが爲なり。

る法無ければなり。』

〔三二〕爾の時、舍利弗佛に白して言さく、『世尊、是の如は實にして虚ならず、法相、法住、法位甚深なり、是の中に〔三三〕色得べからず、色如得べからず。何を以ての故に、色尚得べからず、何に況んや色如得べけんや。受想行識得べからず、受想行識如得べからず。何を以ての故に、受想行識尚得べからず、何に況んや受想行識如得べけんや。乃至一切種智得べからず、一切種智如得べからず。何を以ての故に、一切種智尚得べからず、何に況んや一切種智如得べけんや』。佛舍利弗に告げ給はく、『是の如し是の如し、舍利弗、是の如は實にして虚ならず、法相、法住、法位甚深なり、是の中に色得べからず、色如得べからず。何を以ての故に、色尚得べからず、何に況んや色如當に得べけんや。乃至一切種智得べからず、一切種智如得べからず。何を以ての故に、一切種智尚得べからず、何に況んや一切種智如當に得べけんや。舍利弗、是の如相を説く時、二百比丘は一切法を受けざるが故に、漏盡きて阿羅漢を得。五百比丘尼は塵を遠け垢を離れて諸法中に法眼を得、天人の中に生ず。五千菩薩摩訶薩は無生法忍を得、六千菩薩は諸法を受けざるが故に、漏盡き心に解脱を得、阿羅漢を成ず。舍利弗、〔三四〕是の六千菩薩は先世に五百佛に値ひて親近し供養し、五百佛法中に於て布施持戒忍辱精進

〔三二〕舍利弗實相の諸法諸法如得べからざるを説くを印可して法益を明かにす。

〔三三〕色・色如。眼所見等を色等の法とし、この法の實相虚ならざるを色如等とす。

〔三四〕是の六千等。菩薩の般若如相を聞き小果羅漢を得る所以を示し、五百佛に親近し、五度を行ずるも、般若方便なきが爲なりとす。

禪定を行じたるも、(二五)般若波羅蜜無く、方便力無きが故に、別異の相を行じ、是の念を作せり、是れ布施なり、是れ持戒なり、是れ忍辱なり、是れ精進なり、是れ禪定なりと。般若波羅蜜無く、方便力無きが故に、布施持戒忍辱精進禪定に異別の相を行ず。異別の相を行ずるが故に、異相無きことを得ず。異相無きことを得ざるが故に、菩薩の位に入ることを得ず。菩薩の位に入ることを得ざるが故に、須陀洹果を得、乃至阿羅漢果を得。舍利弗、菩薩摩訶薩の菩薩道、若は空、若は無相、若は無作法を行ずと雖も、般若波羅蜜を遠離し、方便力無きが故に、便ち(二六)實際に於て證を作し、聲聞乘を取る。』

(二七)舍利弗佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に、倶に空無相無作法を行ずるも、方便力を遠離するが故に、實際に於て證を作し、聲聞乘を取り、菩薩摩訶薩も亦空無相無作法を修するも、方便力有るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛舍利弗に告げ給はく、『菩薩有り、薩婆若心を遠離して、空無相無作法を修せば、方便力無きが故に聲聞乘を取る。舍利弗、復菩薩摩訶薩有りて、薩婆若心を遠離せず、空無相無作法を修せば、方便力有るが故に、菩薩位に入りて阿耨多羅三藐三菩提を得。舍利弗、譬へば(二八)鳥有りて、身長百由旬、若は二百、若は三百由旬、而も翅有ること無く、三十三天より自ら閻浮提

【二五】般若等。般若無きが故に有相に陷り、別法異相を見、全體度生の力とならず、自證自度となるを云ふ。

【二六】實際に於て證を作し。有爲を受けずして無漏無爲に入り證せりとす。

【二七】行同じくして果別なる所以を譬喩を以て廣說す。

【二八】鳥は菩薩に、身の長大は世世五度功德を集むるに、翅なきは般若なく方便なきに喩ふ。

に投ずるが如し。舍利弗、汝の意に於て云何、是の鳥中道にして是の念を作す、三十三天に（二九）還上せんと欲すと。能く還ることを得るや不や。」「得ざるなり世尊。」「舍利弗、是の鳥復是の願を作す、閻浮提に到て身をして痛ませず、惱まざらしめんと欲すと。舍利弗、汝が意に於て云何、是の鳥痛まず、惱まざることを得るや不や。」舍利弗言さく、「得ざるなり世尊。是の鳥地に到らば、若は痛み若は惱み、（三〇）若は死し。若は死に等しく苦しまん。何を以ての故に、世尊、是の鳥は身大にして翅無きが故に。」

「舍利弗、菩薩摩訶薩も亦是の如し。如恒河沙等の劫に布施持戒忍辱精進禪定を修し、大事を發し、大心を生じ、阿耨多羅三藐三菩提を得るが爲の故に無量願を受くと雖も、是の菩薩は般若波羅蜜方便力を遠離するが故に、若は阿羅漢に墮し、若は辟支佛道に墮す。何を以ての故に、是の菩薩は薩婆若心を遠離して、布施持戒忍辱精進禪定あるも、般若波羅蜜無く、方便力無きが故に、聲聞地若は辟支佛道中に墮す。舍利弗、若し菩薩摩訶薩、過去未來現在の諸佛を念ずと雖も、持戒禪定智慧解脱解脱知見に相を取て受持せば、是の人は諸佛の戒定慧解脱解脱知見を知らず、解せず、但だ空無相無作の名字聲を聞くのみ、而して無作の名字聲を取て阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。菩薩摩訶薩、若し是の如く廻向せば、聲聞辟支佛地中に住して過ぐることを得る能はず。何を以て故に、般若波羅蜜方便力を遠離して諸善根を持し、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するが故に。舍利弗、菩薩摩訶薩有り、初發意より已來薩婆若心を遠離

【二九】還上せん。作佛心に喩ふ。
【三〇】若は死等。死は羅漢に、死に等くは辟支佛に、痛惱は菩薩の本願功德を失ふに喩ふ。

せず、布施持戒忍辱精進禪定を行じ、般若波羅蜜方便力を遠離せざるが故に相を取らず、過去未來現在の諸佛は戒定慧解脱解脱知見に於て、空解脱門相を取らず、無相無作解脱門相を取らず。舍利弗、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は聲聞辟支佛道に墮せず、直ちに阿耨多羅三藐三菩提に至る。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は初發心より已來、布施を行じて相を取らず、持戒し、忍辱し、精進し、禪定して相を取らず、過去未來現在の諸佛の戒定慧解脱、解脱知見に相を取らず。舍利弗、是を菩薩の方便力と名く。離相心を以て布施持戒忍辱精進禪定を行じ、乃至離相心をもて一切種智を行ず。」

舍利弗佛に白して言さく、『世尊、我れ佛の所說の義を解するが如く、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜方便力を遠離せざれば、當に知るべし是の菩薩は阿耨多羅三藐三菩提に近づけりと。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は初發心より已來、法の若は色、若は受想行識乃至一切種智を知るべき無ければなり。世尊、菩薩道を求むる善男子善女人有り、般若波羅蜜及び方便力を遠離せば、當に知るべし是の人は阿耨多羅三藐三菩提に於て或は得、或は得ずと。何を以ての故に、世尊、是の菩薩道を求むる善男子善女人の有ゆる布施皆相を取り、有ゆる持戒忍辱精進禪定皆相を取る。是を以ての故に、善男子善女人は阿耨多羅三藐三菩提に於て定まらず。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、般若波羅蜜方便力を遠離すべからず。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜方便力の中に住し、無得無相心を以て應に布施持戒忍辱精進禪定を修すべし、乃至無得無相心を以て應に一切種智を修すべし。』

【三一】爾の時、欲色界の諸天子佛に白して言さく、『世尊、阿耨多羅三藐三菩提は得難し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は應に一切諸法を知り已りて阿耨多羅三藐三菩提を得るも、是の法亦得べからざればなり。』佛言はく、『是の如し是の如し、諸天子、阿耨多羅三藐三菩提は得難し、我も亦一切法一切種智を得已りて、阿耨多羅三藐三菩提を得るも、亦得る所無く、能く知る無く、知る所無く、知る者無し。何を以ての故に、諸法畢竟淨なるが故に。』【三二】須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛の所説の如くば阿耨多羅三藐三菩提得難し。我れ佛の所説の義を解し、我が心に思惟するが如くば。是の阿耨多羅三藐三菩提得易し。何を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提を得る者有ること無く、亦得べき法無く、一切法相空にして、法の得べきもの無く、能く得る者無ければなり。何を以ての故に、一切法空なるが故に亦法の增すべき無く、亦法の減ずべき無く、謂ゆる布施持戒忍辱精進禪定乃至一切種智、是の法皆得べき者無く、能く得る者無ければなり。世尊、是の因縁を以ての故に我れ意に謂へらく、阿耨多羅三藐三菩提得易しと爲すと。何を以ての故に、世尊、色色相空、受想行識識相空、乃至一切種智一切種智相空なればなり。』【三三】舍利弗、須菩提に語るらく、『若し一切法空にして虛空の如く

【三一】佛果得難きを明し、得相なきが故なりとす、而も亦得相なければ退還なきが故に得易しとも云ふべきを示す。難易も實に得べからざるなり。成佛の難易に漸修頓成となり三乘一乘となるものにして、諸論等しく得相なしと云ふ一理由なることを翫味すべし。

【三二】須菩提に成佛得易きを論ず、卽空觀に頓成となる。

【三三】舍利弗成佛得易しと云ふを難ず、發心より、退轉あるが故に。

【三四】虛空等、空ならば發心なし、然るに發心あり、空ならざるべし。

ば。〔三四〕虛空は是の念を作さず、我れ當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと。若し菩薩摩訶薩、一切諸法空なること〔三五〕虛空の如きを信解し、是の阿耨多羅三藐三菩提得易き者ならば、今如恒河沙等の諸菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を求めて、何を以て退還するや。須菩提、是を以ての故に知る、阿耨多羅三藐三菩提の得易からざるを。」〔三六〕須菩提、舍利弗に語るらく、「意に於て云何、色は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く〔三七〕『不。』「受想行識は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く『不。』「乃至一切種智は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く『不。』『色を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く〔三八〕『不。』「受想行識を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く『不。』「乃至一切種智を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く『不。』『舍利弗、意に於て云何、色如相は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く〔三九〕『不。』「受想行識如相、乃至一切種智如相は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。」舍利弗言く『不。』『色如相を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く〔四〇〕『不。』『受想行識如相を離れ、乃至一切種智如相を離れて法有り、阿耨多羅

〔三五〕虛空の如きを信解する故に發心あるも得易しとせんか、成佛少くして還沒多きは何ぞや。
〔三六〕諸法退還なきを論ず。
〔三七〕不とは色等の法畢竟空なれば退せざるを云ふ。
〔三八〕色等を離れて更に法なきが故に退なし。
〔三九〕色等の如も無二相無分別の故に退不退なし。
〔四〇〕色等を破し已れば如も亦空なり、退なき故に不と云ふ。

三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く『不。』『舍利弗、意に於て云何、如は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く『不。』『法性法住法位實際、不可思議性は阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く『不。』『舍利弗、意に於て云何、如を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く『不。』『法性法住法位實際、不可思議性を離れて法有り、阿耨多羅三藐三菩提に於て退還するや不や。』舍利弗言く『不。』須菩提、舍利弗に語るらく、『若し諸法畢竟得べからざれば、何等の法か阿耨多羅三藐三菩提に於て退還せんや。』

〔四一〕舍利弗、須菩提に語るらく、『須菩提の所說の如くば〔四二〕是の法忍中菩薩の阿耨多羅三藐三菩提に於て退還する者有る無し。〔四三〕若し退還せざれば佛求道者三種有りと說く、阿羅漢道、辟支佛道、佛道なり。是の三種無分別と爲る。須菩提の所說の如くば、獨り一菩薩摩訶薩の佛道を求むるもの有るのみ。』〔四四〕是の時、富樓那彌多羅尼子、舍利弗に語るらく、『應に須菩提に問ふべし、一菩薩乘有りと爲すや不や』と。爾の時、舍利弗、須菩提に問へらく、『須菩提、一菩薩乘有りと說かんと欲することを爲すや不や。』須菩提、舍利弗に語るらく、〔四五〕『諸法如中に於て、三種乘、聲聞乘、辟支佛乘佛乘有らしめんと欲する耶。』舍利弗言く、『不とよ。』『舍利弗、三乘分別中、如の得べき

【四一】三乘不可得を論す。
【四二】是の法忍中、須菩提所說の法門に入りて修行するを云ふ、この門を出れば退あり。
【四三】深法忍中無退とするも佛說に反するを難ず。無退ならば佛說の三乘あるべからざるべしとなり。
【四四】舍利弗一乘なるべしと云ふより更に進みて一乘も無きを論ず。
【四五】須菩提如相の四句を以て三乘を破す。

もの有りや不や。』舍利弗言く『不とよ。』『舍利弗、是の如、若は一相、若は二相、若は三相有りや不や。』舍利弗言く、『不とよ。』『舍利弗、汝は如中に於て乃至一菩薩有ることを欲するや不や。』舍利弗言く、『不とよ。』『是の如く四種中に三乘人得べからず。舍利弗、云何が是の念を作すや、是れ聲聞乘を求むる人、是れ辟支佛乘を求むる人、是れ佛乘を求むる人なりと。舍利弗、菩薩摩訶薩は是の諸法の如相を聞きて心驚かず、怖かず、悔いず、疑はず、是を菩薩摩訶薩の能く阿耨多羅三藐三菩提を成就すと名く。』（四六）爾の時、佛須菩提を讃じて言はく、『善い哉善い哉。須菩提、汝の所説は皆是れ佛力なり。須菩提、若し菩薩摩訶薩、是の如諸法別異有ること無きを説くを聞き、心驚かず、怖かず、畏れず、難からず、沒せず、悔いざれば、當に知るべし、是の菩薩は能く阿耨多羅三藐三菩提を成就すと。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、（四七）何等の菩提を成就するや。』佛言はく、（四八）『佛の阿耨多羅三藐三菩提を成就す。』

（四九）須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、應に云何が行ずべき。』佛言はく、『應に（五〇）等心を起し、（五一）一切衆生に於て亦等心を以て（五二）與に語り、偏黨有ること無く、一切衆生中に於て（五三）大慈心を起し、亦大慈心を以て與に語り、一切衆生中

【四六】佛須菩提の佛力によりて大乘無上の成佛を説けるを讃す。

【四七】何等の菩提。三乘なく一菩薩乘もなしとして成就する菩提の何たるかを問ふ。

【四八】佛の菩提。空門に定相なく一相一乘これなり。空を出づれば三乘別ありて、これ佛菩提なりとす。

【四九】成佛の行を明す。

【五〇】等心。空慧眼による平等心なり。

【五一】一切衆生分れて三、怨親中なり。その怨心中心を生せず親愛するを衆生に等心を以

に於て（五四）下意し、亦下意を以て與に語るべし。一切衆生中に於て應に（五五）安隱心を生じ、亦安隱心を以て與に語るべし。一切衆生中に於て應に（五六）無礙心を生じ、亦無礙心を以て與に語るべし。一切衆生中に於て應に（五七）無惱心を生じ、亦無惱心を以て與に語るべし。一切衆生中に於て應に（五八）愛敬心を生じ、（五九）父の如く、母の如く、兄の如く、弟の如く、姉妹の如く、兒子の如く、親族の如く、知識の如く、亦愛敬心を以て與に語るべし。（六〇）是の菩薩摩訶薩は應に自ら殺生せず、亦人をして殺生せざらしめ、不殺生法を讃歎し、諸の不殺者を歡喜し讃歎し、乃至自ら不邪見を行じ、亦人をして不邪見を行ぜしめ、不邪見法を讃歎し、不邪見者を歡喜し讃歎すべし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、當に是の如く行ずべし。（六一）復次に須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、應に自ら初禪を行じ、亦人をして初禪を行ぜしめ、初禪を行ずる法を讃歎し、初禪を行ずる者を歡喜し讃歎すべし、二禪三禪四禪も亦是の如し。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、應に自ら（六二）慈心を行じ、亦人をして慈心を行ぜしめ、慈心を行ず

ですと云ふ。

【五二】與に語り。その心界を攝め平等の交際をなすを云ふ。

【五三】大慈心。世間の愛憎を離れ、平等の上に一切に愍念を加へ慈愛心を行ず。等心は四無量に通じ、慈心はその一たる慈無量なり。

【五四】下意。無我の故に卑下自小し、侵害せらるゝも瞋恚なく、他を輕侮凌辱せず。

【五五】安隱心。今後世の究竟樂を與ふる心なり。

【五六】無礙心。不知恩者惡魔等の障礙も等心により通達して無礙なり。

【五七】無惱心。等慈無礙心を得るが故に、衆生過罪あるも惱害心を生ぜず。

【五八】愛敬心。孝子の父母を愛敬するが如く婬欲なき淨愛。

【五九】父等。世間所親を愛するのみなるも菩薩はこれを一切

る法を讚歎し、慈心を行ずる者を歡喜し讚歎すべし、悲喜捨心も亦是の如し。自ら虚空處を行じ、亦人をして虚空處を行ぜしめ、虚空處を行ずる法を讚歎し、虚空處を行ずる者を歡喜し讚歎す、識處無所有處非有想非無想處も亦是の如し。(六三)自ら檀那波羅蜜を具足し、亦人をして檀那波羅蜜を具足せしめ、檀那を具足する法を讚歎し、檀那波羅蜜を具足する者を歡喜し讚歎す、尸羅羼提毗梨耶禪那、般若波羅蜜も亦是の如し。復次に、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、自ら內空を行じ、亦人をして內空を行ぜしめ、內空を行ずる法を讚歎し、內空を行ずる者を歡喜し讚歎す、乃至無法有法空も亦是の如し。自ら四念處を行じ、亦人をして四念處を行ぜしめ、四念處を行ずる法を讚歎し、四念處を行ずる者を歡喜し讚歎す、乃至八聖道分も亦是の如し。自ら空三昧、無相、無作三昧を修し、亦人をして空、無相、無作三昧を修せしめ、空、無相、無作三昧を修する法を讚歎し、空、無相、無作三昧を修する者を歡喜し讚歎す。自ら八背捨を行じ、亦人をして八背捨を行ぜしめ、八背捨を行ずる法を讚歎し、八背捨を行ずる者を歡喜し讚歎す。自ら(六四)九次第定を行じ、亦人をして九次第定を行ぜしめ、

に普及す。

【六〇】等心乃至愛敬心を養へるを柔軟清淨好心を得たりとし、衆生忍と名け、法忍の初門とす。次に十善道を行ず。十善各々、不自行惡、不敎他行惡、讚不行惡法、讚不行惡者の四ありて四十種行とす。十善を行ずるは菩薩深く善法を念じ衆生を慈愍すればなり。

【六一】次に離欲凡夫法十二事を明す。四禪四無量四無色各々自行敎他讚歎歡喜ありて四十八種行となる。十善と離欲法とは無佛の時既に行はれたる舊法なり。

【六二】慈心等は離欲の四無量心として出す。先の大慈の法眼所得に同じからず。

【六三】以下六度十八空七科道品三三昧八背捨九次第定、佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲、十二因緣四諦三

九次第定を行ずる法を讚歎し、九次第定を行ずる者を歡喜し讚歎す。自ら佛十力を具足し、亦人をして佛十力を具足せしめ、佛十力を具足する法を讚歎し、佛十力を具足する者を歡喜し讚歎す。自ら四無所畏四無礙智、十八不共法大慈大悲を行じ、亦人をして四無所畏乃至大慈大悲を行ぜしめ、四無所畏乃至大慈大悲を行ずる法を讚歎し、四無所畏乃至大慈大悲を行ずる者を歡喜し讚歎す。自ら(六五)逆順に十二因縁を觀じ、亦人をして逆順に十二因縁を觀ぜしめ、逆順に十二因縁を觀ずる法を讚歎し、逆順に十二因縁を觀ずる者を歡喜し讚歎す。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、應に是の如く行ずべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、(六六)自ら應に苦を知り、集を斷じ、滅を證し、道を修し、亦人をして苦を知り、集を斷じ、滅を證し、道を修せしめ、苦を知り、集を斷じ、滅を證し、道を修する法を讚歎し、苦を知り、集を斷じ、滅を證し、道を修する者を歡喜し讚歎すべし。自ら須陀洹果(六七)證智を生じ、而も實際を證せず、亦人をして(六八)須陀洹果中に著せしめ、須陀洹果法を讚歎し、須陀洹果を得る者を歡喜し讚歎す、斯陀含

乘道果、淨佛國土成就衆生、神通智斷壽命成就法住を列ね、各各四種行を明す。これ客法なり、佛説による菩薩行なるが故に。

【六四】九次第定。離欲法の四禪四無色に同ずる點あるも、これは客法として陳ぬ。

【六五】逆順に十二因縁を觀じ。無明より行乃至老死と觀ずるは順觀、老死より生に、有に、乃至無明に遡るは逆觀なり、順逆に生觀と滅觀とあり。

【六六】四諦の知斷證修を明す。

【六七】證智を生じ而も實際を證せず。聖果の斷惑あり智見あるもその果地に住せず小果に入らざるをいふ。四果は第四地乃至第七地なり。

【六八】須陀洹果中に著せしめ。預流果を得るに至らしむ、著は到著なり、執著せしむるにあらず。

果、阿那含果、阿羅漢果も亦是の如し。自ら（六九）辟支佛道證智を生じ而も辟支佛道を證せず、亦人をして辟支佛道中に著せしめ、辟支佛道法を讚歎し、辟支佛道を得る者を歡喜し讚歎す。自ら（七〇）菩薩位に入り、亦人をして菩薩位に入らしめ、菩薩位に入る法を讚歎し、菩薩位に入る者を歡喜し讚歎す。自ら佛國土を淨め、衆生を成就し、亦人をして佛國土を淨め、衆生を成就せしめ、佛國土を淨め、衆生を成就する法を讚歎し、佛國土を淨め、衆生を成就する者を歡喜し讚歎す。自ら（七一）菩薩の神通を起し、亦人をして菩薩の神通を起さしめ、菩薩の神通を起す法を讚歎し、菩薩の神通を起す者を歡喜し讚歎す。自ら一切種智を生じ、亦人をして一切種智を生ぜしめ、一切種智を生ずる法を讚歎し、一切種智を生ずる者を歡喜し讚歎す。自ら一切結使習を斷じ、亦人をして一切（七二）結使習を斷ぜしめ、一切結使習を斷ずる法を讚歎し、一切結使習を斷ずる者を歡喜し讚歎す。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、應に是の如く行ずべし。復次に、須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、自ら（七三）壽命成就を取り、亦人をして壽命成就を取らしめ、壽命成就を取る法を讚歎し、壽命成就を取る者を歡喜し讚歎す。自ら（七四）法住を成就し、亦人をして法住を成就せしめ、法住を成就する法を讚歎し、法

【六九】辟支佛道證智は第八獨覺地の智なり。
【七〇】菩薩位。第九地を云ふ。
【七一】菩薩の神通。十方佛國に往來遊戲する六神通なり。
【七二】結使習。煩惱とその習氣餘毒となり。
【七三】壽命成就。菩薩の願成を壽命に就て示す、命は正報の主體なればなり、壽無量の願により無量壽を得たるなり。
【七四】法住。成佛說法度生の力の法として止住するを云ふ、法盡に至る。

住を成就する者を歡喜し讚歎す。須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を成就せんと欲せば、(七五)應に是の如く行ずべし、亦應に是の如く般若波羅蜜方便力を學すべし。是の菩薩は是の如く學し、是の如く行ずる時、當に(七六)無礙色を得、無礙受想行識を得、乃至無礙法住を得べし。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は本より已來色を受けず、受想行識を受けず、乃至一切種智を受けざればなり。何を以ての故に、色の受けざるは色に非らずと爲し、乃至一切種智の受けざるは一切種智に非らずと爲せばなり。是の(七七)菩薩行品を說く時、二千の菩薩、無生法忍を得。」

【七五】上來佛行を明し舊法客法本末具足す、今世に善法智慧無礙を得、身を捨てて法身無礙を得べし。

【七六】無礙色。色の實相は無礙なり、本來不受なれば色の色とすべきものなき、これ無礙の色なり。

【七七】菩薩行品。本品は後半に菩薩行を明す故に名づく、上半大如品は如の微妙深義を說く、智門行善門二行具足し、有無二法具足せるが故に、二千の菩薩得忍し法益大なり。

(一)阿毘跋致品第五十五

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等の(三)行、何等の(四)類、何等の(五)相貌を以て、是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と知るや。』佛須菩提に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩、能く凡夫地聲聞地辟支佛地佛地、是の諸地の(六)如相中二無く別無きを知り(七)亦念ぜず亦分別せざれば、是の如中に入り、是の事を聞き、(八)直に過ぎて疑無し。何を以ての故に、是の如中一無く二相無きが故に。(九)是の菩薩摩訶薩は亦(一〇)無益の語を作さず、但だ利益相應の語を說きて、他人の長短を視ず。須菩提、是の行類相貌を以て、是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と知る。』須菩提言さく、『世尊、復何の行類相貌を以て、是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と知るや。』佛須菩提に告げ給はく、『若し菩薩摩訶薩、能く一切法(一一)行無く、類無く、相貌無しと觀ば。當に知るべし、是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法、行無く、類無く、相貌無くんば、菩薩何等の法に於て(一二)轉ずるを不轉と名くるや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、色中に轉じ、受想行識中に轉せば、是を

【一】品目麗本不退品に作る。初に般若相、次に魔緣壞般若相として不退を認むべき行類相貌を廣說す。大論第七十三。
【二】主たる不退の行類相貌を說く。
【三】行。不退菩薩の身口業は他と異りて甚深智慧を表はすもの。
【四】類。分別して退不退を知るべきもの。
【五】相貌。行類に通ずるも、差別せば行類以外の不退を認むべき諸緣。
【六】如相中。前品如相を論じて三乘なきを論ず、參照。如は諸法實相なり。
【七】念ぜず亦分別せず。佛を貴とし二乘を賤とせず・如如

菩薩轉ぜずと名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜中に轉じ。乃至般若波羅蜜中に轉じ、內空中乃至無法有法空中に轉じ、四念處中乃至十八不共法中に轉じ、聲聞辟支佛地中に轉じ、乃至阿耨多羅三藐三菩提中に轉ぜば、當に知るべし是を菩薩摩訶薩轉ぜずと名く。何を以ての故に、須菩提、色性無なり、是の菩薩何の所にか住せん。乃至阿耨多羅三藐三菩提無なり、是の菩薩何の所にか住せん。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は外道沙門婆羅門の面貌、言語を觀ぜず、是の念を作さず、是の諸の外道、若は沙門、若は婆羅門、實に知り、實に見、若は正見を說くと。〔一三〕是の事有ること無し。復次に菩薩は疑を生ぜず、戒取に著せず、邪見に墮せず、亦世俗の〔一四〕吉事を求めて以て淸淨と爲さず、華香瓔珞旛蓋妓樂を以て餘天を禮拜供養せず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、阿毗跋致菩薩摩訶薩は常に〔一五〕下賤の家に生ぜず、乃至〔一六〕八難の處に生ぜず、常に〔一七〕女人の身を受けず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、是の菩薩摩訶薩は常に十善道を行じ、自ら殺生せず、人をして殺

平等とするなり。

【八】直ちに過ぎて疑無し。總相に如を觀、佛藏に入り疑心を生ぜず。

【九】以上不退の正體にして以下畢竟空の行果を別說す。

【一〇】無益の語等。如法に契ひ實語柔軟にして時に應じ俗に隨ひ口惡を離る。

【一一】行無く。行類相貌に執著するを以て一切無と觀るを不退の行類なりと說く。

【一二】轉不轉。普通に云はば凡夫地より轉じ、佛地に於て不轉なり。若し一切行類なければ轉不轉なき故に問ふ。今色等の空を觀て著心を轉する故に佛道に轉ぜずと云ふと答ふるなり。

【一三】是の事有ること無し。若し實智正見あらば外道にあらざるなり、外道には實智なし。

【一四】吉事を求めず。業因緣果

生せしめず、不殺生法を讃歎し、殺生せざる者を歡喜し讃歎す。乃至自ら邪見せず、人をして邪見せしめず、邪見法を讃歎せず、邪見を行ずる者を歡喜し讃歎せず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は乃至夢中にも亦十不善道を行ぜず、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は一切衆生を益するが爲の故に、檀那波羅蜜を行じ、乃至一切衆生を益するが爲の故に、般若波羅蜜を行ず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は有ゆる諸法を受け、讀誦し、說き正憶念す、謂ゆる修多羅乃至優波提舍なり。是の菩薩法施の時に是の念を作す、是の法施の因緣の故に一切衆生の願を滿じ、是の法施の功德を以て一切衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に迴向すと。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は甚深法中に於て、〔一八〕疑はず、悔いず。『世尊、菩薩は甚深法中に於て、何の因緣の故に疑はず、悔いざるや。』佛言はく、『是の阿毗跋致菩薩は都て法の疑悔を生ずべき處有るを見ず。若は色受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提、是の法疑悔を生ずべき處を見ざればなり。須菩提、是の行類相貌

報を信ずるが故に、虛しく吉を求めず。

【一五】下賤の家に生ぜざるは憍慢の根本を打破せるが爲なり。

【一六】八難處に生ぜざるは常に他の功德を勸助すればなり。

【一七】女人の身を受けざるは婬欲薄く諂媚を遠くればなり。

【一八】疑はず。前に疑を生ぜずとは初門四諦等の疑なきなり。今はこれ信等の五力強く空を觀て深法に疑なきなり。

を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩の（一九）身口意業柔輭なり。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は慈を以て身口意業成就す。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は（二〇）五蓋―婬欲瞋恚睡眠（二一）掉悔（二二）疑―と倶にせず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は一切處に愛著する所無し。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は出入去來坐臥行住、（二三）常に念ずること一心なり。出入去來、坐臥行住、擧足下足、安隱庠序たり、常に念ずること一心に、地を觀て行く。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩の著する所の衣服及び諸の臥具、（二四）人惡穢とせず、好みて淨潔を樂しみ、疾病少し。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、常人の身中には（二五）八萬の戸蟲有りて其の身を侵食す、是の阿毘跋致菩薩摩

【一九】身口意業柔軟。慈悲心の故に意柔和なり、意柔軟の故に身口意業成就す。

【二〇】五蓋。婬欲等の五なり、蓋とは蓋覆纒綿し心神昏く定慧發らざるを云ふ。五蓋と倶にせずとは五欲を呵して五蓋を棄除するなり。

【二一】掉悔は覺觀等起し、無益の戯笑を事としては憂悔す。

【二二】疑。自身と師と法とを疑ふを云ふ。

【二三】常に念ずること一心。正念に住す。定により衆生を守り常に一心に衆生を惱害せざるを念ず。

【二四】久しく無量善法を修集するが故に衣服臥具等淨潔にして汚れなく、人穢惡なりとせず愛好す。

【二五】八萬の戸蟲。體中に寄生

訶薩は身に是の蟲無し。何を以ての故に、是の菩薩の〔二六〕功德、世間に出過す。是を以ての故に、是の菩薩是の戶蟲無し。是の菩薩の功德增益し、其の功德に隨て身淸淨を得、心淸淨を得。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩、身淸淨を得、心淸淨を得るや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は其の所得に隨て善根を增益し、心の曲心の邪を滅除す。須菩提、是を菩薩摩訶薩の身淸淨心淸淨と名く。是の身心淸淨なるを以ての故に、能く聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位中に入る。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は〔二七〕利養を貴ばず、十二頭陀を行ずと雖も、〔二八〕阿練若法を貴ばず、乃至但受三衣法を貴ばず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は常に慳貪心を生せず、破戒心、瞋動心、懈怠心、散亂心を生せず、愚癡心を生せず、嫉妬心を生せず。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は心住して動せず、〔二九〕智慧深入して一心に聽受す、從て聞く所の法及び世間の事〔三〇〕皆般若波羅蜜と合す。是の菩薩摩訶薩は產業の事、法性に入らざる者を見ず、是の事一切皆般若波羅蜜

し疾病醜陋を來すものとす。

〔二六〕功德。諸法實相相應の善根力の故なり。

〔二七〕利養を貴ばず。佛道を貴ぶ故に利益供養を事とせず。

〔二八〕阿練若等。十二の頭陀法なり、この法究竟道の因緣たるも之を究竟とせざるなり。

〔二九〕智慧深入等。般若に積習するが故なり。

〔三〇〕皆…合す。自心妙なるが故に三乘外道世法も般若に歸せざるなし。

と合するを見る。是の因緣を以ての故に、須菩提、是を阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相と名く。

〔三一〕復次に須菩提、若は惡魔、阿毗跋致菩薩の前に於て、八大地獄、一一の地獄中に千億萬の菩薩有り、皆燒炙せられ、諸の辛酸苦毒を受くるを化作し、菩薩に語りて言く、「是の諸の菩薩は皆是れ阿毗跋致にして、佛〔三二〕大地獄中に墮すと授記する所なり。汝若し佛阿毗跋致の記を授くと爲さば、當に是の大地獄中に入るべし。佛、汝に地獄の記を授くることを爲せばなり。汝如かず還て菩薩心を捨て地獄に墮せざることを得、天上に生ずることを得てけんには」と。須菩提、若し是の菩薩、是の事を見、是の事を聞き、心動かず、疑はず、驚かず、是の念を作す、「阿毗跋致菩薩、若し地獄畜生餓鬼の中に墮せば、〔三三〕終に是の處無し」と。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、惡魔化して比丘と作り、服を被て來りて菩薩の所に至り、菩薩に語て言く、「汝先きに是の如く六波羅蜜を淨修し、乃至是の如く得阿耨多羅三藐三菩提を淨修すべしと聞けり、是の事を汝、疾に悔いて捨てよ。汝は先きに過去未來現在の諸佛の所に於て、初發心より乃至法住まで、其の中間に於て作す所の善根を隨喜して、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せり。是の一切の事、汝、亦疾に放捨せよ。若し汝、疾に捨てなば、我れ當に汝に眞の佛法を語るべし。汝の先きに聞く所は皆佛法に非らず、佛教に非らず、皆

〔三一〕惡魔に壞惑せられざる不退相を明す。

〔三二〕大地獄中に墮す、不退菩薩代受苦の願行ありと說くが故なり。

〔三三〕實相の故に小罪もなし、況んや三惡に墮することあらんや。

是れ（三四）文飾合集の作耳、我が說く所は是れ眞の佛法なり」と。若し是の菩薩是の說を作すを聞きて心驚き疑悔せば、當に知るべし是の菩薩は未だ諸佛の授記を得ず、未だ阿毗跋致性中に定住せずと。若し是の菩薩、心動かず驚かず、疑はず悔いずば、無作無生法に隨順し依止し、他語を信せず、他行に隨はず。六波羅蜜を行ずる時も他語に隨はず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を行ずる時も亦他語に隨はず。須菩提、譬へば漏盡きたる阿羅漢の他語を信せず、他行に隨はず、現に諸法實相を見、惡魔の轉ずること能はざるが如くならん。是の如く須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩も亦是の如し、聲聞道辟支佛道を求むる人破壞すること能はず、其の心を折伏すること能はず。須菩提、是の菩薩摩訶薩は必定して阿毗跋致地中に住し、他語に隨はず、乃至（三五）佛語すら直ちに信取せず、何に況んや聲聞辟支佛を求むる人、及び惡魔外道梵志の語をや。終に是の處無し。何を以ての故に、是の菩薩は法の隨ひ信ずべき者、謂ゆる若は色、若は受想行識、若は色如、乃至識如有るを見ず、乃至若は阿耨多羅三藐三菩提、阿耨多羅三藐三菩提如を見ざればなり。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、惡魔、比丘身と作て來りて菩薩の所に到り、菩薩に語りて言く、「汝の行ずる所の者は、之れ生死の法にして薩婆若道に非らず、汝今身に（三六）苦盡證を取れ」と。是の時惡魔は菩薩の

【三四】文飾合集。般若法門は外道の說を借りて合集し羅飾せるものなりとするなり。

【三五】佛語すら直ちに信取せず。佛語は信ずべきも、實相に反するもの若し佛說ならば對機の假說ならん、然らずば實に佛語にあらずとして、妄信せざるなり、佛語尙然り、況んや他說をや。

爲に世間行を用て（三七）似道法を說く、此の似道法は是れ三界の繫、（三八）謂ゆる骨想、若は初禪乃至非有想非無想なり。語るらく、「善男子、是の道を用ひ是の行を用て、當に須陀洹果を得べし、乃至當に阿羅漢果を得べし。汝是の道を用て今世に苦盡く、汝生死中種種の苦惱を受ることを用ふることを爲んや。今是の四大身すら尚受くるを用ひず、何に況んや更に來身を受くべけんや」と。須菩提、若し是の菩薩摩訶薩、心驚かず、疑はず、悔いず、是の念を作す、「是の比丘は我を益すること少からず、我の爲に似道法を說く。是の似道法を行じて須陀洹果證に至ることを得ず、阿羅漢辟支佛道證に至ることを得ず、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提に至ることを得んや。」是の菩薩摩訶薩は益復歡喜して是の念を作す、「是の比丘は我を益する少からず、我の爲に障道法を說く。我れ是れ障道法と知れば、三乘道を學ぶことを障せず」と。是の時惡魔は菩薩の歡喜するを知りて是の言を作す、「善男子、汝是の菩薩摩訶薩を見んと欲し、如恒河沙等の諸佛に衣被飮食、臥具醫藥、資生所須を供養し、亦如恒河沙等の諸佛の所に於て、檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜を行じ、亦如恒河沙等の諸佛に親近し、菩薩摩訶薩道を咨問す。世尊、菩薩摩訶薩は云何が菩薩摩訶薩乘に住し、云何が檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、四念處乃至大慈大悲を行ずるや。是の菩薩摩訶薩は佛

【三六】苦盡證。自己死生解脫を證するを云ふ。
【三七】似道法。聖道に似て非なるもの、三界を出離し難きものなり。
【三八】謂ゆる骨想。三十六種不淨觀、白骨觀又は數息觀を爲すなり。

の教ふる所の如く。是の如し住し、是の如く行じ、是の如く修す。是の菩薩摩訶薩は是の如く教へ、是の如く學ぶも尙阿耨多羅三藐三菩提を得ず。薩婆若を得ず、何に況んや汝阿耨多羅三藐三菩提を得べけんや」と。若し菩薩摩訶薩、是の事を聞き、心異ならず驚かず、益復歡喜して是の念を作す、「是の比丘は我を益すること少からず、我の爲に障道法を說く。是の障道法は須陀洹道を得ず、乃至阿羅漢辟支佛道を得ず、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提を得んや。」是の時惡魔は是の菩薩の心沒せず驚かざるを知り、卽ち是の處に於て化して多比丘と作り、菩薩に語りて言く、「此は皆是れ發意して佛道を求むる菩薩なり、今皆阿羅漢地に住す、是の輩も尙阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず、汝云何が能く得んや。」若し菩薩摩訶薩、卽ち是の念を作す、「此は是れ惡魔、相似道行を說く。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて阿耨多羅三藐三菩提心を轉ずべからず、亦聲聞辟支佛道中に墮すべからず。」復是の念を作す、「檀那波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜、乃至一切種智を行ずるも阿耨多羅三藐三菩提を得ずとは、是の處有ること無し」と。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は是の念を作す、「若し菩薩能く佛の所說の如く、般若波羅蜜心乃至一切種智を遠離せざれば、是の菩薩終に阿耨多羅三藐三菩提を退せず。若し菩薩魔事を覺知するも亦阿耨多羅三藐三菩提を失はず」と。是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩相と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の法に於て轉ず

るを名けて不轉と爲すや。』佛言はく、『色相に於て轉じ、受想行識相に於て轉じ、十二入相、十八界相、婬欲瞋恚愚癡相、邪見相、四念處相、乃至聲聞辟支佛相、乃至佛相に於て轉ず。是を以ての故に、名けて不退轉菩薩摩訶薩相と爲す。何を以ての故に、是の阿毗跋致菩薩摩訶薩は是の自相空法を以て菩薩位に入り。無生法忍を得ればなり。何を以ての故に、無生法忍と名くるや。是の中乃至少許法得べからず、得べからざるが故に作さず、作さざるが故に生せず。是を無生法忍と名く。菩薩摩訶薩、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致菩薩摩訶薩と名く。

(一)卷の第十七

(二)轉不轉品第五十六

(三)復次に須菩提、惡魔、菩薩の所に到り、其の心を壞せんとして是の言を爲す、「薩婆若は虛空と等しくして所有の相無く、(四)諸法も亦虛空と等しく空にして所有の相無し。是の虛空等の諸法、空にし所有の相無ければ、中に(五)阿耨多羅三藐三菩提を得る者有ること無く、(六)亦得ざる者有ること無し。是の諸法は皆虛空の所有の相無きが如し。汝唐に勤苦を受く。汝の聞く所の阿耨多羅三藐三菩提は(七)皆是れ魔事にして佛の所說に非ず。汝當に(八)是の願を放捨すべし。汝長夜に是の不安隱憂苦を受け、惡道中に墮すること莫れ」と。是の諸の善男子善女人は是の語を聞く時に應に是の如く念ずべし、「是の惡魔事は我が阿耨多羅三藐三菩提心を壞す。諸法は虛空の如く所有無く、自相空なりと雖も、而も(九)衆生は知らず、見ず解せず、我も亦虛空等の如く、所有無く、自相空なるを以て、大誓莊嚴して一切種

【一】宋元明本第十九に作る。
【二】品目麗本堅固品に作る。前品に續きて不退の行類相貌を說き、殊に菩薩心堅固にして魔障に障へられざるを明し、轉不轉の義を辨ず。大論第七十三の續き。
【三】主として菩薩の行事に就て不退の相を示す。
【四】諸法。六波羅蜜等薩婆若に趣く助道の法を云ふ。
【五】阿耨等。薩婆若、一切智、一切種智、無上道、無量諸佛法、菩提、阿耨多羅三藐三菩提皆同法の異名として說けるなり。

智を得、衆生の爲に法を說き、解脫を得て、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道、阿耨多羅三藐三菩提を得しむ」と。須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來、是の如きの法を聞き、其の心を堅固にして動せず轉せざるべし。菩薩摩訶薩は是の〔一〇〕堅固心〔一一〕不動不轉心を以て、六波羅蜜を行じ、當に〔一二〕菩薩位の中に入るべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、轉せざるが故に阿毗跋致と名くるや、〔一三〕轉ずるが故に阿毗跋致と名くるや。』佛言はく、〔一四〕『轉せざるが故に阿毗跋致と名け、轉ずるが故に亦阿毗跋致とも名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が轉せざるが故に阿毗跋致と名け、轉ずるが故に亦阿毗跋致とも名くるや。』佛須菩提に告げたまはく、『若は菩薩摩訶薩、聲聞地辟支佛地に於て轉せず、是の故に不轉と名け、若は菩薩摩訶薩、聲聞辟支佛地に於て轉ず、是の故に亦不轉とも名く。須菩提、是の行類相貌を以ての故に、當に知るべし是を阿毗跋致の菩薩摩訶薩相と名くと。是の行類相貌を以ての故に、惡魔は其の意を壞して阿耨多羅三藐三菩提を離れしむること能はず。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩、〔一五〕若し初禪第二第三第四禪、乃至滅受想定禪に入らんと

〔六〕亦得ざる者有ると無し。無所有に强ひて得る者ありと云はば誰もこれを得、得て價値なし、勤苦して成就すべき價あるものにあらずとす。

〔七〕是れ魔事。常に魔事を離るべきを說くも、薩婆若實に魔事なり、涅槃を捨て、生死を取るが故にと。

〔八〕是の願。生死に在りて薩婆若を得んとの願なり。

〔九〕衆生に知らず。若し衆生自相空を知らば實相に契ひ惡苦なきも顚倒して知見せず、故に說法度生あるべきなり。

〔一〇〕堅固。諸惑煩惱の毒箭入らざるを云ふ。

〔一一〕不動。諸魔外道轉する能はざるを云ふ。無上菩提退せざるを不轉と云ふ。

〔一二〕菩薩位の中に入る。阿毗跋致たるなり。

〔一三〕轉不轉。先きに轉ずるを

欲せば、卽ち入ることを得。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩、若し四念處乃至八聖道分、空無相無作三昧乃至五神通を修せんと欲せば、卽ち能く修す。(一六)是の菩薩は四念處乃至五神通を修すと雖も、是の人は四念處果を受けず、諸禪を修すと雖も諸禪の果を受けず、乃至滅受想定禪の果を受けず、須陀洹果を證せず、乃至辟支佛道を證せず。是の菩薩は衆生の爲の故に身を受け、其の所應に隨ひて、而して之を利益す。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致の菩薩摩訶薩と名くと。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は(一七)常に阿耨多羅三藐三菩提を憶念し、終に薩婆若心を遠離せず、薩婆若心を遠離せざるが故に、(一八)色を貴ばず、相を貴ばず、(一九)聲聞辟支佛を貴ばず、檀那波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を貴ばず、四禪四無量心四無色定を貴ばず、五神通を貴ばず、四念處乃至八聖道分を貴ばず、佛の十力乃至十八不共法を貴ばず、淨佛國土を貴ばず、成就衆生を貴ばず、見佛を貴ばず、種善根を貴ばず。何を以ての故に、一切法の自相空にして、貴ぶべきの法、能く貴心を生ずる者を見ざればなり。何を以ての故に、是の一切法は虛空と等しくして、

不轉とすとせるが故に、阿毗跋致は孰れに名を得るかを問ふ。

(一四) 佛は二種答をなす、二諦の爲なり、世諦には世間心二乘心を轉じて菩薩位に入る、是れ轉ずるが故なり、第一義諦には一乘の定相もなし、是れ不轉の故なり。

(一五) 欲界法を行じ衆生を度するも禪定に出入自在なるを云ふ。

(一六) 化他自在にして定道法を行ずるも、定果長壽天福、道果須陀洹乃至獨覺を證せず、これを目的とせざればなり。

(一七) 常に等。一心深念常恒不離にして只無上菩提を目的とし他を貴ばず。

(一八) 色、相。諸佛の金色身三十二相等。

(一九) 聲聞……を貴ばず、本願大悲を以て衆生を度せんとす

所有無く自相空なればなり。須菩提、是の阿毗跋致の菩薩摩訶薩は是の心を成就し、(二〇)四種の身威儀中に於て、出入し來去し、坐臥し行住するも、一心にして亂れず。須菩提、是の行類相貌を以て當に知るべし、是れ阿毗跋致の菩薩摩訶薩なりと。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩、若し家に在居せば、方便力を以て、衆生を利益せんが爲の故に、五欲を受け、衆生に布施す。食を須つに食を與へ、飲を須つに飲を與へ、衣服臥具、乃至資生の所須盡く之を給與す。是の菩薩は自ら檀那波羅蜜を行じ、人を敎へて檀那を行ぜしめ、檀那を行ずる法を讃歎し、檀那波羅蜜を行ずる者を歡喜し讃歎す。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜も亦是の如し。須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は、家に在る時に、能く閻浮提に滿つる珍寶を以て衆生に施與し、乃至三千大千世界の中に滿つる珍寶もて衆生に給與して、(二一)亦自ら爲にせず、(二二)常に梵行を修して、他人を凌易し虜掠し、其をして憂惱せしめず。須菩提、是の行類相貌を以て當に知るべし、是を阿毗跋致の菩薩摩訶薩と名くと。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は、(二三)執金剛神王常に隨逐して、是の願を作す、「是の菩薩摩訶薩は當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、我れ常に隨逐し、乃至(二四)五性執金剛神常に

ろが故に。

【二〇】四種身威儀。行住坐臥なり。

【二一】自ら爲にせず。珍寶皆衆生攝取の爲にして我欲を受くる爲にせず。

【二二】五欲を受くれば憍慢に陷り易し、常に梵行を修し、婬欲を斷するが故に煩惱薄く憍慢生ぜず、他を凌易輕侮せず。

【二三】執金剛神。跋闍羅波膩、譯して金剛手、金剛力士、金剛密迹、仁王とも云ふ、五百夜叉神を役して佛法を護る、寺門に安置する、密迹金剛・那羅延金剛これなり。

【二四】五性執金剛神。金剛神王に隨ふ眷屬神なり。

隨ひ守護せん」と。是を以ての故に、若は天、若は魔、若は梵、若は餘の世間の大力者も、是の菩薩摩訶薩の薩婆若心乃至阿耨多羅三藐三菩提を得ることを破壞すること能はず。須菩提、是を菩薩摩訶薩の阿毗跋致相と名く。

復次に須菩提、菩薩摩訶薩は常に〔二五〕菩薩の五根、信根精進根念根定根慧根を具足す、是を阿毗跋致相と名く。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は上人と爲り、下人と爲らず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が上人と爲すや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、〔二六〕一心に阿耨多羅三藐三菩提を行じて、心散亂せざる、是を上人と名く。是の行類相貌を以て當に知るべし、是を阿毗跋致相と爲すと。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩は一心に常に佛道を念じ〔二七〕淨命を爲すが故に、〔二八〕呪術を作し諸藥を合和せず、〔二九〕鬼神を呪し男女に著せしめ、其の吉凶、男女の祿相、壽命の長短を問はず。何を以ての故に、須菩提、是の菩薩摩訶薩は諸法の自相空なることを知り、諸法相を見ざるが故に、邪命を行せずして淨命を行ずればなり。須菩提、是の行類相貌を以て當に知るべし、是を阿毗跋致の菩薩摩訶薩相と名くと。〔三〇〕復次に須菩提、今當に更に阿毗跋致の菩

〔二五〕菩薩の五根。信等の五根凡夫にありて發さず用ひず無きが如し。これを發するものに二乘と菩薩と佛とあり、後者能く發し怨惡にも實相を觀るものなり。

〔二六〕一心等。これ上人相を略說す。他には上人は三業惡なく、知恩報恩、捨身度生不求果報等を說く。これ等も一心不亂に攝せらる。

〔二七〕淨命。淨戒を持ち邪命を行はず。

〔二八〕呪術等は邪命なり、陰身變化をなす類を呪術と云ふ。諸藥を合和して仙を求め名利を求むるは邪なり。

〔二九〕神おろし狐遣ひ等により人の吉凶をトし、生兒の男女、その福祿壽夭を判斷するなり、星宿方位等を觀るも此に攝す。

〔三〇〕更に不退菩薩の細相を說く。大論第七十四。

薩摩訶薩の行類相貌を説くべし、一心に諦聽せよ。」佛須菩提に告げたまはく、「菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、常に阿耨多羅三藐三菩提心を遠離せざるが故に、〔三一〕五陰事を説かず、十二入事を説かず、十八界事を説かず。何を以ての故に、常に五陰空相、十二入十八界空相を念觀するが故に。是の菩薩摩訶薩は〔三二〕官事を説くことを好まず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は諸法空相中に住して法の若は貴き若は賤しきを見ざればなり。賊事を説くことを好まず。何を以ての故に、諸法の自相空なるが故に、若は得若は失ふことを見ざればなり。軍事を説くことを好まず。何を以ての故に、諸法の自相空なるが故に、若は多き若は少きを見ざればなり。鬪事を説くことを好まず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は諸法如中に於て、法の若は憎し若は愛するを見ざればなり。婦女の事を説くを好まず。何を以ての故に、諸法空中に於て、好醜を見ざるが故に。聚落の事を説くを好まず。何を以ての故に、諸法の自相空なるが故に、法の若は合し若は散ずるを見ざればなり。城邑の事を説くを好まず。何を以ての故に、諸法の實際中に住し、勝つ有り負くる有ることを見ざればなり。國事を説くことを好まず。何を以ての故に、實際中に住して法の所屬有り不屬有ることを見ざればなり。我事を説くことを好まず。何を以ての故に、法性中に住して法の是れ我是れ無我なるを見ず、乃至知者見者を見ざればなり。是の如き等の種種世間の事を説かず、但だ好みて般若波羅蜜を説き、薩婆若心を遠

【三一】五陰事を説かず。喜で五陰決定相を分別し説明せず。
【三二】官事を説く等。外道出世を求めず、心懈怠し俗に阿り世事を言ふを好むに反す。

離せざるのみ。若し檀那波羅蜜を行ずる時に慳貪の事を爲さず、尸羅波羅蜜を行ずる時に破戒の事を爲さず、羼提波羅蜜を行ずる時に瞋諍の事を爲さず、毗棃耶波羅蜜を行ずる時に懈怠の事を爲さず、禪那波羅蜜を行ずる時に散亂の事を爲さず、般若波羅蜜を行ずる時に愚癡の事を爲さざれば、是の菩薩は一切法空を行ずと雖も、而も（三三）法を樂しみ法を愛す。是の菩薩は法性を行ずと雖も、（三四）常に不壞法を讃じて善知識、謂ゆる諸佛及び菩薩聲聞辟支佛、諸の能く敎化して阿耨多羅三藐三菩提に樂住せしむる者を愛樂す。是の人常に願ず、諸佛を見たてまつり、在所の處を聞き、佛國土中に現在佛有らば願に隨つて往生せんと欲す。是の如く心常に晝夜行ず、謂ゆる念佛心なり。是の如く須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は、初禪乃至非有想非無想處を行じ、方便力を以ての故に欲界心を起し、若し衆生能く十善道を行ずる者、及び現在有佛の處には（三五）中に在て生ず。是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毗跋致の菩薩摩訶薩と爲すと。

復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、內空外空乃至無法有法空に住し、四念處乃至空無相無作解脫門に住し、自地中に於て了了と知り、我は是れ阿毗跋致非阿毗跋致なるを疑はず。何を以ての故に、乃至少許も法の阿耨多羅三藐三菩提中に於て、若は轉じ若は轉せざるを見ざればなり。須菩提、譬へば人有り、須陀洹果を得て須陀洹地中に住し、自ら了了として知り、終に

【三三】「法空に著せざるが故に」の一句ある意にて見よ。
【三四】「衆生を憐愍するが故に」の句を加へよ。
【三五】中に在て生ず。菩薩の功德智慧に依て欲界にも淨土にも隨意に生するなり。

疑はず、悔いざるが如く、阿毗跋致の菩薩摩訶薩も亦是の如く、阿毗跋致地中に住して終に疑はず。是の地中に住して佛國土を淨め、衆生を成就し、種種の魔事起らば卽ち時に覺知して、亦魔事に隨はず、魔事を破壞す。須菩提、譬へば人有り、五逆罪を作り、五逆罪心乃至死する時まで常に逐ひて捨てず、異心有りと雖も障隔すること能はざるが如く、須菩提、阿毗跋致の菩薩も亦是の如く、自ら其の地に住し、心常に動せず、一切世間天人阿修羅動轉すること能はず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は一切世間天人阿修羅の上に出で、正法位中に入り(三六)自證地中に住し、諸の菩薩の神通を具足し、能く佛國土を淨め衆生を成就し、一佛土より一佛土に至り、十方佛の所に於て諸の善根を植ゑ、諸佛に親近し諮問す。是の菩薩は是の如く住し、種種の魔事起るも覺りて隨はず、方便力を以て(三七)魔事の著に處し、實際中、自證地中に疑はず悔いず。何を以ての故に、實際中に於て疑相無きが故に、是の實際一に非ず二に非ざるを知る。是の因緣を以ての故に、是の人は乃至身を轉じて遂に聲聞辟支佛地に向はず。是の菩薩摩訶薩は諸法の自相空中に、法の若は生じ若は滅し、若は垢なる若は淨なるを見ず。須菩提、是の菩薩摩訶薩は乃至(三八)身を轉ずるも亦疑はず、我れ當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきや、若は得ざるやと。何を以ての故に、須菩提、諸法の自相空、卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なればなり。須菩提、

【三六】自證地。自ら深智慧に入り不退を了知して著せず疑はざるを云ふ。
【三七】魔事の著。誘惑の來逼を云ふ。
【三八】身を轉ずるも亦疑はず。前云ふ身を轉ぜずと、若し身を轉ずるも心二乘に向はず、自ら成佛を疑はず。

是の菩薩摩訶薩は自證地中に住し、他語に隨はざれば能く壞する者無し。何を以ての故に、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩は不動の智慧を成就するが故に。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致の菩薩摩訶薩と名くと。復次に須菩提、是の菩薩摩訶薩、若し惡魔、佛身を作して來り、菩薩に語りて言く、「汝今是の間に於て阿羅漢道を取れ、汝亦阿耨多羅三藐三菩提の記無く、汝亦無生法忍を得ず、汝亦是の阿毘跋致の行類相貌無く、是の相阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得る無し」と。須菩提、若し菩薩摩訶薩是の語を聞きて心異ならず、沒せず驚かず怖かず畏れざれば、是の菩薩は應に自知すべし、我は必ず諸佛より阿耨多羅三藐三菩提の記を受けんと。何を以ての故に、諸の菩薩は是の法を以て記を受く、我も亦是の法有りて記を受くることを得んと。須菩提、若は惡魔、若は魔の所使と爲りて、佛の形像を作して來り、菩薩と與に聲聞辟支佛の記を受く。須菩提、是の菩薩は是の念を作す、「是れ惡魔若は魔の所使の佛の形像を作して來れるなり。諸佛は菩薩を教へて阿耨多羅三藐三菩提を遠離せしめ、教へて聲聞辟支佛道に住せしむべからず」と。須菩提、是の行類相貌を以て、當に知るべし是を阿毘跋致の相と名くと。復次に須菩提、惡魔は復佛身を作し、菩薩の所に來到して是の言を作す、「汝の學する所の經書は、佛の所説に非ず、亦聲聞の説にも非ず、是は魔の所説なり」と。須菩提、是の菩薩摩訶薩は當に是の知を作すべし、「是れ惡魔若は魔の所使の我をして阿耨多羅三藐三菩提を遠離せしむるなり」と。須菩提、當に知るべし。是の菩薩は已に過去佛の授記す

る所と爲りて阿毗跋致に住すと。何を以ての故に、諸の菩薩所有の阿毗跋致の行類相貌、是の菩薩も亦是の行類相貌を有すればなり、是を阿毗跋致の菩薩相と名く。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を行ずる時に、諸法を護持することを爲すが故に身命をも惜まず、何に況んや餘の物をや。是の菩薩は法を護持するが故に、是の念を作す、「我れ一佛法を護持することを爲さずして、我れ三世十方の諸佛法を護持することを爲すが故に」と。須菩提、云何が菩薩摩訶薩は法を護持するが故に身命を惜まざるや。須菩提、佛の所説の如く一切の諸法は眞空なり。是の時に愚癡人の(三九)破壞して受けざる有りて、是の言を作す、「是れ法に非ず、善に非ず、世尊の教に非ず」と。須菩提、菩薩は是の如きの法を護持するが故に(四〇)身命を惜まず、菩薩も亦是の念を作すべし、「未來世の諸佛、我も亦是の數中に在り、中に在りて記を受く、是の法も亦我が法なり、是の法を以ての故に、身命を惜まざるなり」と。須菩提、菩薩は是の利益を見るが故に法を護持して身命を惜まず。須菩提、是の行類相貌を以て是を阿毗跋致の相と知る。復次に須菩提、阿毗跋致の菩薩摩訶薩は佛の説法を聞きて疑はず悔いず、聞き已りて受持し、終に忘失せず。何を以ての故に、(四一)陀羅尼を得るが故に。」須菩提言さく、「世尊、何等の陀羅尼を得ば、佛所説の諸經を聞きて忘失せざるや。」佛須菩提に

【三九】**破壞して受けず**。若し諸法空ならば佛法罪福なく、修行得果なしとする類なり。

【四〇】**身命を惜まず**。過去無量世中煩惱邪見の爲に身命を失ふ無量なり、今法の爲に死するは幸なりとす。

【四一】**陀羅尼を得る** 信力の故に能く受け、聞持陀羅尼力の故に失はず、斷疑陀羅尼力の故に疑はず。

告げたまはく、『菩薩は聞持等の陀羅尼を得るが故に、佛說の諸經を聞きて忘れず失はず、疑はず悔いざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、但だ佛の說法を聞きて忘れず失はず、疑はず悔いざるのみならず、聲聞辟支佛の說、天龍鬼神阿修羅緊那羅摩睺羅伽の說を聞くも、亦復た忘れず失はず、疑はず悔いざるや。』佛須菩提に告げたまはく、『有らゆる言說衆事、陀羅尼を得て、菩薩は皆忘れず失はず、疑はず悔いざるなり。須菩提、是の如きの行類相貌を成就するが故に、當に知るべし、(四二)是れ阿毗跋致の菩薩摩訶薩なりと。』

【四二】上來不退相を廣說せるが肉身菩薩の不退に佛前得記と滅後未得とあり、若し無生法忍に順ずるも定なく疑あり著するものは不退を得ず、疑多信少の者は誦經に依て進み、信多疑少の者は禪定に依て柔順忍を得、この忍增長せば法愛を斷じ無生忍を得、これ不退なり。

(一)燈炷深奥品第五十七

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩は大功德を成就す。世尊、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩は無量功德を成就し、無邊功德を成就す。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩は大功德を成就す、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩は無量無邊の功德を成就す。何を以ての故に、是の阿毘跋致の菩薩摩訶薩の無量無邊の智慧を得ること、一切の聲聞辟支佛と共ならざるが故に、阿毘跋致の菩薩は是の智慧中に住して四無礙智を生ず、是の四無礙智を得るが故に、一切世間の天及び人、能く窮盡する無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、(三)佛は能く如恒河沙等の劫を以て、阿毘跋致の菩薩摩訶薩の行類相貌を歎說す。』須菩提言さく、『世尊、何等の深奥の處か、阿毘跋致の菩薩摩訶薩は是の中に住して、六波羅蜜を行ずる時に四念處を具足し、乃至一切種智を具足するや。』佛須菩提を讚じたまはく、『善い哉善い哉、須菩提、汝阿毘跋致の菩薩摩訶薩の爲に是の深奥の處を問ふ。須菩提、深奥の處とは空是れ其の義なり。無相、無作、無起、無生、無染、離、寂滅、如、法性、實際、涅槃。須菩提、是の如き等の法是を深奥の義と爲す。』須菩提佛に白して言

【一】品目丹本大論燈炷品に作り、麗本深奥品に作る。前二品阿毘跋致具足相を說く。この品四無礙門を開き阿毘跋致深奥相を說く、燈炷は後段に般若功德成就に就てその譬喩あれば取て名とす。

【二】不退菩薩の大功德を明す。

【三】樂說不可盡なるも阿毘跋致相も亦不可盡なるを云ふ。

さく、『世尊、但だ空乃至涅槃のみ是れ深奧にして、一切法深奧に非ざるや。』佛の言はく、『一切法も亦是れ深奧の義なり。須菩提、色も亦深奧、受想行識も亦深奧、眼も亦深奧、乃至意、色乃至法、眼界乃至意識界、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提も亦深奧なり。』『世尊、云何が色深奧乃至阿耨多羅三藐三菩提も亦深奧なるや。』佛言はく、『(四)色如深奧なるが故に色深奧なり、受想行識如乃至阿耨多羅三藐三菩提如深奧なるが故に、阿耨多羅三藐三菩提深奧なり。』『世尊、云何が色如深奧乃至阿耨多羅三藐三菩提如深奧なるや。』『須菩提、是の色如は是れ色に非ず、色を離るるに非ず、乃至識如は是れ識に非ず、識を離るるに非ず、乃至是の阿耨多羅三藐三菩提如は是れ阿耨多羅三藐三菩提に非ず、阿耨多羅三藐三菩提を離るるに非ざればなり。』須菩提佛に白して言さく、『希有なり、世尊、(五)微妙方便力の故に、阿毗跋致の菩薩をして色處涅槃を離れしめ、亦受想行識處涅槃を離れしめ、亦一切法、若は世間若は出世間、若は有諍若は無諍、若は有漏若は無漏法處涅槃を離れしむ。』佛言はく、『是の如し、是の如し、須菩提、佛は微妙方便力を以ての故に、阿毗跋致の菩薩をして色處涅槃を離れしめ、乃至有漏無漏法處涅槃を離れしむ。(六)復次に須菩提、若し菩薩摩訶薩、是の如き甚深の法と般若波羅蜜と相應し、觀察し籌量し思惟せば是の念を作さん、『我れ應に是の如く行じ、般若波羅蜜中

【四】色如は色の實相なり、正觀せば定實の別法あるにあらず、これを色に非ず色を離るるにあらずと説く。

【五】微妙方便力。法を離れて涅槃に處し、涅槃に著せず、世間に住せざるなり。

【六】菩薩の諸法實相を行ずる果報福德を讚歎す。

に教ふる如くすべし。我れ應に是の如く學し、般若波羅蜜中に説く如くすべし」と。須菩提、若し是の菩薩摩訶薩、能く説の如く行じ、説の如く學し、般若波羅蜜中に觀る如く、具足し勤精進せんと、(七)一念生ずる時、當に(八)無量無邊阿僧祇の福德を得べし。是の菩薩摩訶薩は無量劫を(九)超越して阿耨多羅三藐三菩提に近づく。何に況んや常に般若波羅蜜を行じ、阿耨多羅三藐三菩提に應ずる念あるをや。須菩提、譬へば婬欲多き人と端正淨潔の女人と共に期するが如し、此の女人限礙ありて時に往くことを得ずば、須菩提の意に於て云何、是の人の念ずる所は何處に在りと爲すや。』『世尊、是の人の念念常に彼の女人の所に在り、恒に是の(一〇)念憶想を作す、當に來りて與に坐臥歡樂を共にすべしと。』『須菩提、是の人一日一夜に幾く念有りて生ずと爲すや。』須菩提言さく、『世尊、是の人一日一夜に其の念甚だ多し、甚だ多し。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を念じ、般若波羅蜜中に説くが如く是の道を行じ、一念の頃に(一一)劫數を超越するも、亦彼の人の一日一夜の心念の數の如し。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて(一二)衆罪を遠離す、謂ゆる阿耨多羅三藐三菩提の罪を離る。是の菩

【七】一念。次の常行念と比説す。

【八】無量無邊阿僧祇の福德。正行實事の福は錯謬に優り、善生施百倍、惡人施千倍、善人施十萬倍、離欲人十億萬倍、聖人無量福なりとす、況んや深入實相の菩薩福をや。無量は三世不可得、無邊は十方不可得、無數は相性に墮せざるを示す。

【九】超越。五波羅蜜行者の久久成就すべき所を般若行者速疾成就するを云ふ。

【一〇】念憶想。憶念取相して不來の因緣を分別するを云ふ。

【一一】劫數無量なるを心念無量によりて內觀せしむ。

【一二】衆罪。罪は善惡の標準により大小あるも、事の無上菩提に反するもの眞の大罪なり般若無相によりてこの罪を離る。

薩摩訶薩の般若波羅蜜を行じて一日に得る所の善根功德は、(一三)假令如恒河沙等の三千大千世界の中に滿つるも、功德(一四)猶ほ亦滅せず、餘殘の功德に於て百分する一分にも及ばず、千分千億萬分乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。

(一五)復次に須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離して、恒河沙等の劫に、三寶、佛寶法寶比丘僧寶を布施せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は是の因緣を以ての故に福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し、無量無邊阿僧祇なり。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜中に一日、說の如く修行して福を得ることの多きには如かず。何を以ての故に、般若波羅蜜は是れ諸の菩薩摩訶薩の道なり、是の道に乘せば疾に阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離して、如恒河沙等の劫に須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛及び諸佛を供養せば、須菩提の意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は是の因緣を以ての故に、福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し甚だ多し。』佛言はく『是の菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜を說の如く修行する一日にして、福を得ることの多きには如かず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩是の般若波羅蜜を行ぜば、一切聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入り、(一六)漸漸に阿耨多羅三藐

【一三】假令は功德を有形と假定して譬說するを云ふ。
【一四】猶亦は猶故の如くの意なり。
【一五】更に離般若の功德と般若相應の功德とを比較し般若を遠離すべからざることを明す。
【一六】漸漸。初學は煩惱强く般若弱し。般若を得て煩惱戲論を斷ずるなり。

三菩提を得ればなり。須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離して、如恒河沙等の劫に布施持戒忍辱精進禪定智慧を行せば、汝の意に於て云何、是の人は是の因緣を以ての故に、福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜を行し、說の如く、一日布施持戒忍辱精進禪定智慧を修行して福を得るの多きには如かず。何を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜は是れ（二七）菩薩摩訶薩の母なるが故に、是の般若波羅蜜は能く諸の菩薩摩訶薩を生じ、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜中に住し、能く一切の佛法を具足するが故に。須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離して、如恒河沙等の劫壽に法施を行せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の人は福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人は深般若波羅蜜を說の如く修行し、乃至一日法施するの、福を得ることの多きには如かず。何を以ての故に、須菩提、是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜を遠離せざれば則ち一切種智を遠離せず、一切種智を遠離せざれば則ち般若波羅蜜を遠離せず。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を遠離すべからず。須菩提、若し菩薩摩訶薩、如恒河沙等の劫に般若波羅蜜を遠離して、四念處乃至八聖道分、內空乃至一切種智を修行せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の善男子善女人は福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し。

【二七】菩薩の母。般若は佛母なり、菩薩は佛子なるが故に般若は菩薩の大母なり。又佛子たるは般若に依るが故に般若は菩薩の母なり。

甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人は深般若波羅蜜を說の如くし、一日四念處乃至一切種智を修行して福を得るの多きには如かず。何を以ての故に、須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離せずして、薩婆若に於て轉ずるは、是の處有ること無し。須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離し、薩婆若に於て轉ずるは則ち是の處有ればなり。須菩提、是を以ての故に、菩薩摩訶薩は常に般若波羅蜜を遠離して行ずべからず。須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を遠離して、如恒河沙等の劫壽の財施法施及び禪定の福德を、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、汝の意に於て云何。是の人は福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人は深般若波羅蜜を說の如く修行し、乃至一日の財施法施禪定の福德を、阿耨多羅三藐三菩提に廻向して福を得ることの多きには如かず。何を以ての故に、是れ第一廻向、謂ゆる〔一八〕般若波羅蜜廻向なればなり。若し般若波羅蜜を遠離して廻向せば、是を廻向と名けず。須菩提、是を以ての故に、若し菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、應に方便もて般若波羅蜜廻向を學ぶべし。須菩提、若し善男子善女人、般若波羅蜜を遠離して、如恒河沙等の劫壽に、過去未來現在の諸佛及び弟子の善根を和合し隨喜して、阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の人は福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『世尊、甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人は深般若波羅蜜を說の如く修行

【一八】般若波羅蜜廻向は雜毒なき正廻向なるを以て第一廻向なり。

し、乃至一日善根を隨喜して阿耨多羅三藐三菩提に廻向して福を得るの多きには如かず。須菩提、是を以ての故に、菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、應に般若波羅蜜中に、方便もて阿耨多羅三藐三菩提に廻向することを學ぶべし。」

〔一九〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛の所說の如く、因緣起作の法は妄想より生じて實に非ず。云何が善男子善女人は〔二〇〕大福德を得るや。世尊、是の因緣起作の法を以ては正見を得、法位に入るべからず、須陀洹果を得べからず、乃至阿耨多羅三藐三菩提果を得べからず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、須菩提、是の因緣起作の法を以ては、正見を得、法位に入るべからず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得べからず。須菩提、般若波羅蜜を行ずる菩薩摩訶薩は、因緣起作の法も亦空にして堅固なる無く、虛誑にして不實なることを知る。何を以ての故に、須菩提、是の菩薩摩訶薩は善く內空を學び、乃至善く無法有法空を學ぶが故に、是の菩薩摩訶薩は是の十八空に住し、種種法空を觀作し、卽ち般若波羅蜜を遠離せず。若し菩薩摩訶薩、是の如く漸漸に般若波羅蜜を遠離せざれば、漸漸に無數無量無邊の福德を得。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、無數と無量と無邊と何等の異有りや。』『須菩提、無數とは數中若は有爲性中若は無爲性中に墮せざるに名く。無量とは量に若は過去若は未來若は現在を得べからざるなり。無邊

〔一九〕般若功德廣大に就ての疑難を辨す

〔二〇〕大福德を得るや。般若に相應せば因緣起作の妄法を脫し福德果報なかるべく、若しあらば解脫すべからざるべしと問ふ。

とは諸法の邊得べからざるなり。』須菩提言さく、『世尊、頗る色も亦無數無量無邊なる有り、頗る受想行識も亦無數無量無邊なる有りや。』『須菩提、因緣有れば色も亦無數無量無邊なり、受想行識も亦無數無量無邊なり。』『世尊、何等の因緣の故に色も亦無數無量無邊、受想行識も亦無數無量無邊なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『色空の故に無數無量無邊、受想行識空の故に無數無量無邊なり。』『世尊、但だ色のみ空、受想行識のみ空にして、一切法は空に非ざるや。』『須菩提、我れ常に一切法空なりと說かず耶。』『世尊、佛は一切法空なりと說き給ふ。世尊、諸法空なれば即ち是れ（一）盡すべからず、數有ること無く無量無邊なり。世尊、空の中に數得べからず、量得べからず、邊得べからず。是を以ての故に、世尊、是の不可盡、無數、無量、無邊の義は、異なること有ること無し。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、是の法の義は別異無し。須菩提、是の法は說くべからず、佛は方便力を以ての故に分別して說く、謂ゆる不可盡、無數、無量、無邊、（二）無著、空、無相、無作、無起、無生、無滅（三）無染、涅槃なりと。佛は種種因緣もて方便力を以て說く。』須菩提佛に白して言さく、『希有なり、世尊、諸法の實相は說くべからず、而も佛は方便力を以ての故に說く。世尊、我が解するが如くんば、佛の說く所の義、一切法も亦說くべからずと。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、一切法說くべからず、一切法不可說相即ち是れ空な

【一】不可盡。空中盡際得べからざるを云ふ、實相不生不作の故に不盡なり。

【二】無著。實相法寂滅の故なり。

【三】無染。能く三界の染愛を斷ずるが故なり。

り、是の空說くべからず。世尊、不可說の義は增有り減有りや不や。」佛言はく、『不とよ、須菩提、不可說の義は增無く減無し。』『世尊、不可說の義增無く減無ければ、檀那波羅蜜も亦當に增無く減無かるべし、乃至般若波羅蜜も亦當に增無く減無かるべし、四念處乃至八聖道分も亦當に增無く減無かるべし、四禪四無量心四無色定五神通八背捨八勝處九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法も亦當に增無く減無かるべし。世尊、若し菩薩摩訶薩の六波羅蜜增せず乃至十八不共法增せざれば、云何が菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提(一四)不可說の義增無く減無ければ、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を習行して、方便力有るが故に是の念を作さず、「我れ般若波羅蜜を增し乃至檀那波羅蜜を增す」と。當に是の念を作すべし、「但だ名字のみの故に檀那波羅蜜と名く」と。是の菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時、是の心及び善根を阿耨多羅三藐三菩提相の如く廻向し、乃至般若波羅蜜を行ずる時、是の心及び諸善根を阿耨多羅三藐三菩提相の如く廻向す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ阿耨多羅三藐三菩提となすや。』佛言はく、『一切法如相、是を阿耨多羅三藐三菩提と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ一切法如相、是を阿耨多羅三藐三菩提とするや。』佛須菩提に告げたまはく、『色如相、受想行識如相、乃至涅槃如相、是れ阿耨多羅三藐三菩提なり。是の如相も亦增せず減せず。須菩提、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を離れず、常に是の如法を觀て、增有り減あることを

【一四】法增減なきも無上道を得べきを明す。

見ず。是の因緣を以ての故に、須菩提、不可說の義は增無く減無く、檀那波羅蜜も亦增せず減せず、乃至十八不共法も亦增せず減せず。須菩提、菩薩摩訶薩は是の不增不滅の法を以ての故に、應に般若波羅蜜を行ずべし。』

〔二五〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は〔二六〕初心を用て阿耨多羅三藐三菩提を得るや、後心を用て阿耨多羅三藐三菩提を得るや。世尊、是の初心は後心に至らず、後心は初心に在らず。世尊、是の如く心心數法俱ならず。云何が善根增益し、若は善根增せざるや。云何が當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきや。』佛須菩提に告げたまはく、『我れ當に汝の爲に譬喩を說くべし。智者は譬喩を得れば則ち義に於て解し易し。須菩提、譬へば〔二七〕然燈の如し、初焰を用て炷を燋くと爲すや、後焰を用て炷を燋くと爲すや。』須菩提言さく、『世尊、初焰炷を燋くに非ず、亦初焰を離るるに非ず、世尊、後焰炷を燋くに非ず、亦後焰を離るるに非ず。』『須菩提、汝の意に於て云何、炷燋くるや不や。』『世尊、炷は實に燋く。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は是の如く初心を用て阿耨多羅三藐三菩提を得ず、亦初心を離れて阿耨多羅三藐三菩提を得ず、後心を用て阿耨多羅三藐三菩提を得ず、亦後心を離れて阿耨多羅三藐三菩提を得ず、而も阿耨多羅三藐三菩提を

【二五】續きて般若相應功德成就の疑難を辨ず。大論第七十五。

【二六】初心等。諸法如不增不滅に合するは佛のみなるべし、菩薩心煩惱あれば如實に行ぜず成佛し難かるべし。第一心より最後心まで相續和合せざれば善根積集せず成道なきを疑ふなり。

【二七】然燈。燈を燃す。燈は菩薩道に、炷は燈心にして無明煩惱に、焰は初地相應智慧乃至金剛三昧相應智慧に喩ふ。

得るなり。須菩提、是の中に菩薩摩訶薩は初發心より般若波羅蜜を行じ、(二八)十地を具足し、阿耨多羅三藐三菩提を得。」須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ十地、菩薩具足し已りて阿耨多羅三藐三菩提を得となすや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は(二九)乾慧地(三〇)性地(三一)八人地(三二)見地(三三)薄地(三四)離欲地(三五)已作地(三六)辟支佛地(三七)菩薩地(三八)佛地を(三九)具足し、是の地を具足して阿耨多羅三藐三菩提を得。須菩提、菩薩摩訶薩は是の十地を學び已り、初心もて阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ず、亦初心を離れて阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ず、後心もて阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ず、亦後心を離れて阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ず、而も阿耨多羅三藐三菩提を得。』須菩提言さく、『世尊、是の因緣法は甚深なり、謂ゆる初心に非ず、初心を離るるに非ず、後心に非ず、後心を離れて阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ずして、而も阿耨多羅三藐三菩提を得。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、若し心滅し已らば、是の心更に生ずるや不や。』(四〇)『不とよ、世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何、心生是れ滅相なりや不や。』『世尊、是れ(四一)滅相なり。』『須菩提、汝の意に於て云何、心滅相是れ滅な

【二八】十地。十地具足するは菩薩道なるも、聲聞は七地に、獨覺は八地に至るを以て三乘共通の十地と云ひ、十地經等の初歡喜地乃至法雲の十地と區別するを常とす。

【二九】乾慧地。智慧あるも未だ定水を得ざるが故に得道せざる外凡なり。聲聞の涅槃の爲に精進持戒修善し、五停心觀を習ひ、菩薩の初發心より順忍を得ざる間を云ふ。

【三〇】性地。邪見を生ぜず定水を得、聲聞の煖法より世第一法の内凡四善根、菩薩の順忍、

【三一】八人地。聲聞の十五心、菩薩の無生法忍菩薩位に入るもの。

【三二】見地。初果須陀洹、菩薩の阿鞞跋致地。

【三三】薄地。須陀洹或は斯陀含の欲界九種煩惱分斷、菩薩の

りや不や。』(四二)『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、亦是の如く住するや不や。』須菩提言さく、『世尊、亦是の如く住し、如如に住す。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、若し是の心如如に住せば、當に(四三)實際に證を作すべきや不や。』『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、是の如は甚深なりや不や。』『世尊、甚深なり甚深なり。』『須菩提、汝の意に於て云何、但だ如のみ是れ心なりや不や。』『不とよ、世尊。』(四四)『如を離るる是れ心なりや不や。』『不とよ、世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何、如は(四五)如を見るや不や。』『不とよ、世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何、若し菩薩摩訶薩、能く是の如く行ずれば、深般若波羅蜜を行ずと爲すや不や。』須菩提言さく、(四六)『世尊、若し菩薩摩訶薩、能く是の如く行ずれば、深般若波羅蜜を行ずと爲す。』(四七)『須菩提、汝の意に於て云何、若し菩薩摩訶薩、是の如く行ぜば、是れ何處に行ずるや。』須菩提言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、是の如きの行を作さば、無處所にして行ずと爲す。何を以ての故に、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて諸法如中に住せば、是の如きの念無く、念處無く、亦念者

不退より成佛を得ざる間の斷惑、習氣薄きもの。

【三四】離欲地。欲界惑を離れたる阿那含、菩薩五神通を得るもの。

【三五】已作地。聲聞盡智無生智を得て阿羅漢となる。菩薩は佛地を成就するもの。

【三六】辟支佛地。因緣法を觀じ解脱に急なる獨覺。

【三七】菩薩地。前の乾慧乃至離欲初發心より金剛三昧に至る又は歡喜乃至法雲地。

【三八】佛地。一切種智等の佛法究竟。

【三九】具足。自地の行・他地の觀、二事具するを云ふ。

【四〇】不とよ。實に諸法空なるも情見を以て生滅あるのみ。心滅已りて更に生ぜば、滅は滅にあらず、常見に墮す。

【四一】滅相。生滅は相待なるが

も無ければなり。』佛須菩提に告げたまはく、（四八）『若し菩薩摩訶薩、是の如く行ぜば、何處の行と爲すや。』須菩提言さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩は是の如きの行を（四九）第一義中の行と爲す。二行得べからざるが故に。』『須菩提、汝の意に於て云何、若し菩薩第一義無念中に行ぜば、（五〇）行相と爲すや不や。』『不とよ、世尊。』『汝の意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は（五一）相を壞するや不や。』『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『云何が不壞相と名くるや。』須菩提言さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて是の念を作さず、我れ當に諸法相を壞すべしと。世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずるも、未だ佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法を具足せざれば、阿耨多羅三藐三菩提を得ず。世尊、菩薩摩訶薩は方便力を以ての故に、諸法に於て（五二）亦相を取らず、亦相を壞せず。何を以ての故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は一切諸法の自相空なることを知るが故に。菩薩摩訶薩は是の自相空中に住し、衆生の爲の故に三三昧に入り、是の三三昧を用て衆生を成就す。』須菩提言さく、『世尊、云何か菩薩摩訶薩は三三昧に入て衆生を成就するや。』佛言はく、『菩薩は是の三三昧に住し、

故に生相これ滅相なり。

【四二】滅相滅ならば一心に生滅兩時あることとなる、又不滅これ滅相にあらず、故に不とす。

【四三】心如如に住せば心即涅槃なりやに就て須菩提否定するを以て更に重重に往復す。

【四四】如を離る等。如は不二、心は二相とせば如を離る。而も一切法如ならざるなし。心何ぞ如を離れん。

【四五】如を見るや。如は無二無分別無所知なり、何ぞ見ると云はん。

【四六】明かに小乘の淺薄、大乘の深法を觀るを白す。

【四七】大乘未得忍菩薩の大乘觀に於て高心を發するを破して無處所行なりとす。

【四八】無處所行とするが故に斷滅に墮するを救はんとして何處の行たるかを明にす。

〔五三〕衆生の作法中の行を見、菩薩は方便力を以て教へて無作を得しめ、衆生の〔五四〕我相中の行を見、方便力を以て教へて空を行ぜしめ、衆生の〔五五〕一切相中の行を見、方便力を以ての故に教へて無相を行ぜしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて三三昧に入り、三三昧を以て衆生を成就す。』

【四九】第一義中。何處を明す、第一義は無二無分別なり。

【五〇】行相。行に取相分別するなり。

【五一】相を壞す。無相は別相を壞去して達すとするも實は然らず、相本來無なり、顚倒を除くのみ、相宛然たり、壞するにあらず。

【五二】有無二邊を離れて中道を行ずるなり。

【五三】作法中の行。衆生の作願皆邪行なるを云ふ。或は放逸、或は戒善人天を求むる等なり。

【五四】我相中の行。人我我所を以てする邪行。

【五五】一切相。男女色聲香味好醜長短の諸相。

(一)夢行品第五十八

(二)爾の時、舍利弗、須菩提に問へらく、『若し菩薩摩訶薩、(三)夢中に三三昧空無相無作三昧に入れば、寧ろ般若波羅蜜を益すること有りや不や。』須菩提、舍利弗に報ふ、『若し菩薩晝日に三三昧に入らば、般若波羅蜜を益すること有り、夜、夢中も亦當に益有るべし。何を以ての故に、晝夜夢中等しくして異有ること無ければなり。舍利弗、若し菩薩摩訶薩、晝日に般若波羅蜜を行じて般若波羅蜜を益すること有らば、是の菩薩夢中に般若波羅蜜を行ずるも亦(四)益有るべし。』舍利弗、須菩提に問へらく、『菩薩摩訶薩若し夢中に作す所の業、是の(五)業集成有りや不や。佛の所說の如くんば、一切法夢の如し、是を以ての故に集成すべからず。何を以ての故に、夢中に法の集成するもの有ること無ければなり。若し覺むる時憶想分別せば、應に集成有るべし。』須菩提、舍利弗に語らく、(六)『若し人夢中に衆生を殺さば、覺め已りて憶念し相を取りて(七)我殺是快を分別せんや。舍利弗、是の事云何。』舍利弗言く、『無緣の(八)業生せず、無緣の思生せず。有緣の業生

【一】品目丹本夢入三昧品、大論夢中入三昧品に作る。今品初段に前品の三三昧に就て夢中所行の益あるを論ずるを以て名とす。後段には成就衆生の願行を叙す。

【二】夢中三三昧の利益を辨す。

【三】夢中等 夢不實なるが故に、又夢に三性の別あるが故に問ふなり。舍利弗は覺と夢との別を主とす。

【四】益有るべし。晝行に益あらば夢中にも益あり、實相無分別に依らば晝日の行をも毀す、況んや夢中の益をや。

【五】業集成。業實に集りて因となり果報を成するを云ふ。

【六】覺時集成すべしと云ふ故

じ、有緣の思生ず。」『舍利弗、是の如し是の如し、無緣の業生せず、無緣の思生せず、有緣の業生じ、有緣の思生ず、(九)見聞覺知法中に於て心生じ、不見聞覺知法中より心生せず、是の中の心淨なる有り垢なる有り。是を以ての故に、舍利弗、有緣の故に業生じ、無緣より生せず、有緣の故に思生じ、無緣より生せず。』舍利弗、須菩提に語るらく(一〇)『佛說の如くんば、一切の諸業諸思自相離る、(一一)云何が有緣の故に業生じ無緣より生せず、有緣の故に思生じ無緣より生せずと言ふや。』須菩提、舍利弗に語るらく、『(一二)相を取るが故に有緣の業生じ無緣より生せず。相を取るが故に有緣の思生じ無緣より生せず。』舍利弗、須菩提に語るらく、『若し菩薩摩訶薩、夢中に布施持戒忍辱精進禪定智慧有りて、是の善根福德を阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、是れ(一三)實の廻向なりや不や。』須菩提、舍利弗に語るらく、(一四)『彌勒菩薩今現に前に在ます、佛不退轉の記を授け當に作佛すべしと、當に彌勒に問ふべし、彌勒當に答ふべし。』舍利弗、彌勒菩薩に白さく、『須菩提の言く、彌勒菩薩今現に前に在まし、佛不退轉の記を授け當に作佛すべし、彌勒當に答ふべしと。』彌勒菩薩、舍利弗に語るらく、(一五)『當に彌勒の名を以て答ふ

に、夢中殺人も覺めて後の憶想分別に依るか、殺業は殺事に成るかを問ふ。

【七】我殺是快。我れ彼を害して意に快なりとする如きも夢中既に成れり、覺後の憶想分別に成ると云ふべからず。

【八】業とは身口業、思とは意業にして、眞に業と名くべきもの、身口の業とせらるるも思に依る。

【九】見聞覺知の四種法により心生ず、皆是れ因緣なきはなし。

【一〇】舍利弗、佛說を引き論法を轉ず。

【一一】自相離ならば定說すべからず、何ぞ定說するや。

【一二】相を取るが故に。諸法空なるも凡夫取相の故に有緣業生ず、若し取相せずば生ぜず、この點に於て晝夜夢中異なきを示し、夢中三昧も益ありとす。

べきや、若は色受想行識もて答へんや、若は色空もて答へんや、若は受想行識空もて答へんや。是れ色もて答ふること能はず、受想行識もて答ふること能はず、色空もて答ふること能はず、受想行識空もて答ふること能はず。我れ是の法の答ふべきものを見ず、能く答ふる者を見ず、我れ是の人の受記を見ず、亦法の受記すべき者を見ず、亦受記の處を見ず、是の一切法は、皆二無く別無ければなり。」舎利弗、彌勒菩薩に語るらく、「仁者の所説の如くんば、是の如きは法の（一六）證を作すことを得と爲すや不や。」彌勒菩薩、舎利弗に答へらく、「我が所説の如くんば、法是の如きは（一七）證せず。」爾の時、舎利弗是の念を作す、「彌勒菩薩は智慧甚深にして、久しく檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、無所得を以ての故に、能く是の如く説く」と。爾の時、佛舎利弗に告げたまはく、（一八）『汝の意に於て云何、汝是の法を用て阿羅漢を得ば、是の法を見るや不や。』舎利弗言さく、『見ざるなり。』「舎利弗、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるも亦是の如く、是の念を作さず、「是の法當に受記を得べし、是の法已に受記し、是の法當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし」と。是の如く舎利弗、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、我れ若は得

【一三】 **實の廻向**。晝日の取相尚實の廻向とせず、況んや睡眠の覆心を廻向とせんやと難ずるなり。

【一四】 舎利弗の難深きが故に須菩提彌勒の決を求めしむ。

【一五】 彌勒は直接に問に答へずして空を説く、これ二人所執あるが爲なり。

【一六】 **證を作す**。彌勒直答せざるを以て反問す、證すとせば云何が證たるかを問ふべく、證せずば何を以てこれを説くかを難ぜんとす。

【一七】 **證せず**。涅槃も空にして證すべきなく證せりとせず。

【一八】 舎利弗、彌勒を讃するも尚通ぜざるあり、故に佛、阿羅漢に就て教ふ。

若は得ざるかと疑はず、自ら實に阿耨多羅三藐三菩提を得と知る。』

（一九）佛、須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩有りて檀那波羅蜜を行ずる時、若し衆生の飢寒凍餓し、衣服弊壞せるを見れば、菩薩摩訶薩は當に（二〇）是の願を作すべし。「我れ（二一）爾所の時に隨ひ（二二）檀那波羅蜜を行じ、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、我が國土の衆生をして是の如きの事無く、衣服飲食資生の具、當に四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天の如くならしめん」と。須菩提菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して能く檀那波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩の尸羅波羅蜜を行ずる時、衆生の殺生し乃至邪見、短壽、多病、顏色好からざる、威德有ること無き、貧にして財物に乏しき、下賤の家に生じて形殘醜陋なるを見れば、當に（二三）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、尸羅波羅蜜を行じ、我れ佛を得る時、我が國土の衆生をして是の如きの事無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して、能く尸羅波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜を行ずる時、諸の衆生互に相瞋恚し罵詈し、刀杖瓦石もて共に相殘害し奪命するを見て、當に（二四）是の願を作す

【一九】菩薩の六度修行に伴ふ選擇の願行を明す。菩薩の得忍受記は淨佛國土成就衆生を行ずるにあり。今淨土の因緣を說くに不淨を簡ぶなり。

【二〇】是の願。布施成就衣食資生充足の願。

【二一】爾所の時に隨ひ。今日より成佛に至るまで恒に遍く緣に應ずるなり。

【二二】檀を行じ。福慧を充足して財法無畏を施し、王天王神通聖人となりて衆生を導き俱に布施を行ずるなり。

【二三】持戒成就諸善善報具足の願。

【二四】忍辱成就慈悲具足の願。

べし。「我れ爾所の時に隨ひ、羼提波羅蜜を行じ、我が國土の衆生をして是の如きの事無く、相視ること父の如く母の如く、兄の如く弟の如く、姉の如く妹の如く善知識の如く、皆慈悲を行ぜしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く羼提波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は毗梨耶波羅蜜を行ずる時、衆生の懈怠して勤精進ならず、三乘聲聞辟支佛乘を棄捨するを見て、當に（二五）是の願を作すべし「我れ爾所の時に隨ひ、毗梨耶波羅蜜を行じ、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、我が國土の衆生をして是の如きの事無く、一切衆生勤修し精進し、三乘道に於て各度脱することを得しめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く毗梨耶波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜を行ずる時、衆生五蓋の覆ふ所と爲り、婬欲、瞋恚、睡眠、掉悔、疑のために初禪乃至第四禪を失ひ、慈悲喜捨、虚空處、識處、無所有處、非有想非無想處を失へるを見て、當に（二六）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ禪那波羅蜜を行じ、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、我が國土の衆生をして是の如きの事無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く禪那波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、衆生の愚癡にして世間出世間の正見を失ひ、或は（二七）業無く業因緣無きを說

【二五】精進成就解脱具足の願。
【二六】禪定成就の願。
【二七】業無く。業感流轉を否定するなり。
【二八】神常。人我若くは眞我の常住を說く、婆羅門數論の如し。
【二九】斷滅。順世の神無常を說

き、或は（二八）神常を說き、或は（二九）斷滅を說き、或は無所有を說くを見て、當に（三〇）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、般若波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、我が國土の衆生をして是の如きの事無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して能く般若波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生の三聚。一には（三一）必正聚、二には必邪聚、三には不定聚に住するを見て、當に（三二）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛を得る時、我が國土の衆生をして邪聚無く乃至其の名をも無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、地獄中の衆生、畜生餓鬼中の衆生を見て、當に（三三）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛を得るの時、我が國土中乃至三惡道の名も無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、是の大地の株杌荊棘山陵溝坑穢惡の處を見て、當に（三四）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土をして是の如きの惡地無く、平

き、諸法不實無所有を說く如し。

【三〇】正慧成就の願。

【三一】必正聚。正定聚。必邪聚、邪定聚と云へるに同じ。

【三二】必得正聚無邪聚名の願。

【三三】無三惡趣名の願。

【三四】國土平坦の願。

かなること掌の如くならしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づかば、復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、是の大地の純土にして金銀珍寶有ること無きを見て、當に（三五）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土をして黄金沙を以て地に布かしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生の戀著する所有るを見て、當に（三六）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして戀著する所無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足して、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、四姓の衆生、（三七）刹帝利、婆羅門、毗舍、首陀羅を見て、當に（三八）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして四姓の名も無からしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、阿耨多羅三藐三菩提に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に下中上（生）下中上家有るを見て、當に（三九）是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨

【三五】金沙布地の願。
【三六】無所戀著の願。
【三七】刹帝利(Ksatriya)。婆羅門(Brahmana)。毗舍(Vaisya)。首陀羅(Sudra)。印度の階級の主なるもの、首陀は賤民なり。
【三八】無四姓名の願。
【三九】無衆生優劣の願。

ひ六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして是の如きの優劣なからしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足して、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生の種種別異色なるを見て、當に〔四〇〕是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして種種別異色なること無からしめ、一切衆生をして皆端正淨潔妙色成就せしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足して、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に主有るを見て、當に〔四一〕是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして主の名も有ること無く、乃至其の形像も無からしめん、佛法王を除く」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に六道の別異あることを見て、當に〔四二〕是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして六道の名、是れ地獄・是れ畜生、是れ餓鬼、是れ神、是れ天、是れ人なりといふこと無く、一切衆生皆同一業もて四念處乃至八聖道分を修せしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行

〔四〇〕端正妙色の願。
〔四一〕無主名形像の願。主なきは平等なればなり。
〔四二〕無六道名の願。六趣なきが故に衆生同一聖業なり。

を作し、能く六波羅蜜を具足して、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に四生、卵生、胎生、濕生、化生有るを見て、當に〔四三〕是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして三種の生無く等しく一化生ならしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に五神通無きことを見て、當に〔四四〕是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして一切皆五神通を得しめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に大小便の患有るを見て、當に〔四五〕是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして皆〔四六〕歡喜を以て食と爲し、便利の患有ること無からしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に光明有ること無きを見て、當に〔四七〕是の願を作すべし「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして皆光明有らしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、日月時節歳數有るを見て、當に〔四八〕是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中日月時節歳數の名も有ること無からしめん」と。乃至一切種智に近づく。

【四三】同一化生の願。化生は姓別愛著なければなり。
【四四】五通具足の願。
【四五】無便利患の願。
【四六】歡喜。法味の喜悅なり。
【四七】光明具足の願。
【四八】無有時節の願。

復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生の短命を見て、當に（四九）是の願を作すべし。「我れ佛となる時、我が國土中の衆生をして壽命無量劫ならしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に相好有ること無きを見て、當に（五〇）是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして皆三十二相成就すること有らしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生の諸善根を離るるを見て、當に（五一）是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして諸善根成就し、是の福徳を以て能く諸佛を供養せしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に三毒四病有るを見て、當に（五二）是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土の衆生をして四種病、冷熱風病（五三）三種雜病及び（五四）三毒病無からしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に三乘有るを見て、當に（五五）是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして二乘の名も無く、純一大乘ならしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、衆生に增上慢有るを見て、當に（五六）是の願を作すべし。「我れ佛と作る時、我が國土中の衆生をして增上慢の名も

【四九】壽命無量の願。
【五〇】相好具足の願。
【五一】善根成就の願。
【五二】無病三毒の願。
【五三】三種雜病。冷熱風の雜れる病症。
【五四】三毒病。貪瞋癡の三毒を病とす。
【五五】純一大乘の願。
【五六】無增上慢名の願。增上慢は未得を得たりとし、未證を證せりとするの類なり。

無からしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、(五七)是の願を作すに應じ、若し我が光明壽命量有り、僧數限有らば、當に (五八)是の願を作すべし。「我れ六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が光明壽命量無く、僧數限無からしめん」と。乃至一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、(五九)是の願を作すに應じ、若し我が國土量有らば當に (六〇)是の願を作すべし。「我れ爾所の時に隨ひ、六波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、我れ佛と作る時、我が一國土をして恒河沙等の諸佛の國土の如くならしめん」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作して能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行ずる時、當に是の念を作すべし。「生死の道長く、衆生の性多しと雖も、爾の時是の如く (六一)正憶念すべし、生死の邊は虚空の如く、衆生性の邊も亦虚空の如し、是の中實に生死往來無く、亦解脫者も無し」と。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの行を作し、能く六波羅蜜を具足し、一切種智に近づく。』

【五七】本文諸本皆一致するも錯謬ならん。玄奘譯般若四百五十一には「如來應正等覺有り光明壽量弟子衆數皆分限有るを見」に作る。

【五八】光明壽命僧數無量の願。

【五九】前の五七の如く錯謬か。玄奘は「如來應正等覺有り、所居の土周圍量あるを見」に作る。

【六〇】國土廣大の願。

【六一】正憶念すべし。如上の願を無量劫に無量世界の無量衆生を度せんとするは疲厭退沒の邪憶念生ずべきを以て、かく厭退すべからざるを云ふ。

卷の第十八

(一)恒伽提婆品第五十九

(二)爾の時、一女人有り(三)恒伽提婆と字け、衆中に在りて坐す。是の女人座より起ち、(四)偏袒右肩し(五)右膝を地に著け、掌を合せて佛に白して言さく、世尊、我れ當に六波羅蜜を行じ、淨佛國土を取るべし、佛の般若波羅蜜中に說き給ふ所の如く、我れ盡く當に行ずべし』と。是の時女人は金銀華及び水陸の生華、種種莊嚴供養の具、金縷もて織成せる氎兩張を以て佛上に散ず。散じ已りて佛の頂上虛空中に於て、化して四柱寶臺と成る、端正嚴好なり。是の女人は是の功德を持て一切衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。爾の時、世尊は是の女人の(六)深心の因緣を知りたまひて卽時に微笑し、諸佛の法の如く種種の色光口の中より出で、青黃赤白紅縹徧く十方無量無邊の佛國を照し、還て佛を繞ること三帀して頂上より入る。爾の時、阿難座より起ちて右膝を地に著け、掌を合せ

【一】品目、麗本河天品に作る。

【二】前品の淨國土の行を聞き河天女の發願受記することを明す。

【三】恒伽提婆（Gaṅgādeva）。河天と譯す。一長者恒伽天に祈りてこの女を得たりとす。

【四】偏袒右肩。衣を左肩より纏ひ、右肩を露はす、直ちに長者の命を奉ぜんとする敬事の法なり。

【五】右膝著地。又恭敬奉事の相なり。

【六】深心の因緣。宿世福德の所行は今世富家に生れ、聞法信樂し、供養發願するに至るを云ふ。

て佛に白さく、『佛は何の因緣もて微笑したまふや、諸佛の法は因緣無くして笑ふことを以てせず。』佛阿難に告げ給はく、『是の恒伽提婆姉は未來世中に當に佛と作るべし、劫を星宿と名け、佛を金華と號す。阿難、是の女人は(七)女身を畢りて、男子の形を受け、當に阿閦佛の(八)阿毗羅提國土に生じ、彼に於て梵行を淨修すべし。阿難、是の菩薩は彼の國土に在りても亦金華と號す、是の金華菩薩は彼に於て壽終り復他方佛土に至り、一佛土より一佛土に至りて諸佛を離れず、譬へば轉輪聖王の一觀より一觀に至り、生より終に至るまで足地を蹈まざるが如し。阿難、是の金華菩薩摩訶薩も亦是の如く、一佛土より一佛土に至り、乃ち阿耨多羅三藐三菩提に至るまで、未だ嘗て佛を見ずんばあらず。』

時に阿難是の念を作して言さく、『是の金華菩薩摩訶薩の後に佛と作る時、諸の菩薩摩訶薩會す、當に知るべし、佛會の如く爲らんと。』佛阿難の意に念ずる所を知りて阿難に告げて言はく、『是の如し是の如し、金華佛たるの時に菩薩摩訶薩會す、當に知るべし、佛會の如く爲らん。阿難、是の金華佛の比丘僧は無量無邊不可數不可稱、若干百千萬億那由他なり。阿難、是の金華菩薩の佛と作る時、其の國土に是の諸の(九)衆惡有ること無きこと上に說く所の如し。』阿難佛に白して言さく、『世尊、是の女人は何處に從て德本を植ゑ、善根を種うるや。』佛阿難に告げ給はく、『是の女人は(一〇)然燈佛に從て善根を植ゑて、初

【七】後世轉女成男を明す。
【八】阿毗羅提（Abhirati）。妙樂と譯す。東方阿閦佛の淨土なり。
【九】衆惡。前品に云ふ穢土勝劣三惡飢饉等を云ふ。
【一〇】然燈佛等。釋尊定光佛に記を受くる時、この女人金華を散じて釋尊成佛の後受記せんとするを云ふ。

めて阿耨多羅三藐三菩提心を發す。是の功德を以て阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。亦金華を以て然燈佛の上に散じて、阿耨多羅三藐三菩提を求む。阿難、我の如くす。爾の時、五華を以て然燈佛の上に散じ、阿耨多羅三藐三菩提を求むるに、然燈佛我が善根の成就するを知りて、我に與へて阿耨多羅三藐三菩提の記を授く。是の女人我が受記するを聞きて發心して言く、「願くは、我も當來世に亦是の菩薩の如く、阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得ん」と。阿難、當に知るべし、是の女人は然燈佛に於て初めて發心すと。阿難佛に白して言さく、『世尊、是の女人は久しく阿耨多羅三藐三菩提を習行するや。』佛の言はく、『是の如し是の如し、是の女人は久しく阿耨多羅三藐三菩提を習行す。』

(一)學空不證品第六十

(二)須菩提佛に白して言さく、「世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ぜんと欲せば、云何が空三昧を(三)學し、云何が空三昧に入り、云何が無相無作三昧を學し、云何が無相無作三昧に入り、云何が四念處を學し、云何が四念處を修し、乃至云何が八聖道分を學し、云何が八聖道分を修するや。」佛須菩提に告げたまはく、「菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に色空、受想行識空、十二入十八界空を觀ずべし。乃至應に欲色無色界空を觀ずべし。是の觀を作す時に心をして亂れしめず、是の菩薩摩訶薩、若し心亂れざれば則ち是の法を見ず、若し是の法を見ざれば則ち證を作さず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は善く自相空を學するが故に(四)餘有らず分有らず證を作さず、證法證者皆見るべからざればなり。」須菩提佛に白して言さく、(五)「世尊、佛の說く所の如くば、菩薩摩訶薩は空法もて證を作すべからず。世尊、云何が菩薩は空法中に住して而して證を作さざるや。」佛須菩提に告げたまはく、「若し菩薩摩訶薩(六)觀空を具足せば、先づ是の願を作す、『我れ今空法もて證を作すべからず、

【一】品目、麗本單に不證品に作る。空等を學して證を作さざるを明す。大論第七十六。
【二】般若を行ぜんが爲に三三昧三十七道品等を學することを明す。
【三】學。初因方便を云ふ。入は後果を得るを云ふ。
【四】餘あらず分あらず。物の細分微塵も實有として遺らず無色中一念をも留めず。
【五】空の故に證せざるの義を知るも、空に入らば證すべしと思ふが故に、尙證せざる所以を問ふ。答に深入せんが爲に證せずとす。
【六】觀空を具足。深く空觀に證入し空も亦空なるを知る。

我れ今は學ぶ時にして是れ證する時に非ず」と。菩薩摩訶薩は專ら心を攝して(七)緣中に繫在せず。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提中に於て退せず、亦漏盡證を取らず。須菩提、若し菩薩摩訶薩、是の如きの大善妙法を成就せば、何を以ての故に、是の空中に住して是の念を作すや、「我れ今は是れ學ぶ時にして是れ證する時に非ず」と。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く念ずべし。「我は是れ檀那波羅蜜を學ぶ時にして是れ證する時に非ず。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜を學ぶ時、四念處を修する時、乃至八聖道分を修する時にして是れ證する時に非ず。空三昧無相三昧無作三昧を修する時にして是れ證する時に非ず。佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を修する時にして是れ證する時に非ず。我れ今は一切種智を學ぶ時にして是れ須陀洹果の證乃至阿羅漢果辟支佛道の證を得る時に非ず」と。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、空觀を學して空中に住し、無相無作觀を學して無相無作中に住し、四念處を修して四念處を證せず、乃至八聖道分を修して八聖道分を證せず。是の菩薩は三十七品を學すと雖も、三十七品を行ずと雖も、而も須陀洹果の證乃至辟支佛道を作さず。

(八)譬へば(九)壯夫は勁勇猛健にして兵法(一〇)六十四能を善くし、器仗を堅持し安立して動せず、諸の

【七】緣中に繫在。心空緣に繫在せば柔軟にして空より出づる能はず。

【八】住して證せざるを譬喩に依て說明す。

【九】壯夫は菩薩に、器仗は菩薩の五神通等方便力に、安立不動は菩薩畢竟空に住するに喩ふ。

【一〇】六十四能。六十四の數は漢に百と云ふが如し、六十四音六十四書の類なり。本行集經十一に騰象跨車等卅九種の兵法その他雜術を列ぬ。參照。

技術を巧にし、端正淨潔にして人に愛敬せられ、少しく事業を修して報利を得ること多きが如し。是の因緣を以ての故に、衆に恭敬し尊重し讚歎せられ、人の敬重するを見て、倍復歡喜す。少く因緣有りて當に他處に至るべきに、老弱を扶將し、諸の〔一二〕險難恐怖の處を過ぎ、父母を安慰し、妻子を曉喩し、〔一三〕「恐懼有ること莫かれ。我れ能く此を過ぎなば必ず苦む所無からん」と、險難道中に多く怨賊有りて潛伏し劫害するも、其の人智力具足するが故に、能く惡道を渡りて〔一三〕本處に還歸し賊害に遇はず、歡喜し安樂す。須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く一切衆生中に於て慈悲喜捨心徧く滿足す。爾の時、菩薩摩訶薩は四無量心に住し、六波羅蜜を具足して漏盡證を取らず、一切種智を學びて空無相無作解脫門に入る。是の時菩薩は一切諸相に隨はざるも亦無相三昧を證せず。無相三昧を證せざるを以ての故に聲聞辟支佛地に墮せず。須菩提、譬へば〔一四〕翼有りて鳥の虛空に飛騰して墮墜せず、空中に在りと雖も、亦空に住せざるが如し。須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く空解脫門を學び、無相無作解脫門を學ぶも亦證を作さず、證を作さざるを以ての故に聲聞辟支佛地に〔一五〕墮せず、未だ佛の十力大慈大悲無量諸佛法一切種智を具足せずば、亦空無相無作解脫門を證せず。須菩提、譬へば〔一六〕健人諸の射

【一二】險難處は三惡生死に、老弱父母妻子は度せらるべき衆生に、怨賊は魔煩惱に喩ふ。
【一三】恐懼、恐懼に同じ。
【一三】本處に還歸、菩薩所行の道に喩ふ。
【一四】空中云何が行ずべきかを疑ふを以て鳥喩を說く。
【一五】墮せず…證せず。鳥の到處に至らずば住せざるが如し。
【一六】中に證せず、證するも所到なきに喩ふ。弓は菩薩の定に、箭は智慧に、空は三解脫門に、地は涅槃に、箭箭相拄は方便に比す。

法を學びて射術を善くし、仰いで空中を射、復後箭を以て前箭を射、箭箭相拄へて地に墮せしめざること、隨意自在なり。若し墮せしめんと欲せば便ち後箭を止む、爾れば乃ち地に墮するが如し。須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提の爲に、諸善根未だ具足せざれば、實際に於て證を作さず、若し善根成就すれば是の時便ち實際に於て證を作す。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、應に是の如く諸法の法相を觀ずべし。』

(一七)須菩提佛に白して言さく『世尊、菩薩摩訶薩の爲す所は、甚だ難し。何を以ての故に、是れ諸法相を學し、實際を學し、如を學し、法性を學し、畢竟空を學し、乃至自相空及び三解脱門を學すと雖も、終に中道にして墮落せざればなり。世尊、是れ甚だ希有なり。』佛須菩提に告げたまはく、『是の菩薩摩訶薩は一切衆生を捨てざるが故に、是の如きの願を作す。須菩提、若は菩薩摩訶薩是の念を作す、「我れ一切衆生を捨つべからず、一切衆生は無所有法中に沒在す、我れ當に度すべし」と。爾の時、卽ち空解脱門無相解脱門無作解脱門に入る。須菩提、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は(一八)方便力を成就すれば、未だ一切種智を得ざるも、是の解脱門を行じ、亦中道にして實際の證を取らずと。(一九)復次に須菩提、菩薩摩訶薩は是の諸の甚深の法、謂ゆる內空乃至無法有

【一七】空に處して墮せず能く生を度す。菩薩の難行は大悲本願に依ることを明す。

【一八】豫め衆生の苦を觀て度せんとするが故に智足らざるも慈大なるを以て空涅槃に墮せざるを云ふ。

【一九】衆生の取相を斷ぜんが爲に證せす。善法を增益する觀智と利生と雙運すべきを明す。

法空、四念處乃至三解脫門を觀ぜんと欲す。爾の時、菩薩摩訶薩は應に是の如きの心を生ずべし、「是の諸の衆生は長夜に我相乃至知者見者相を行じ、得法に著す、衆生是の諸相を斷ぜんが爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提を得る時、當に說法すべし」と。爾の時、菩薩は空解脫門無相無作解脫門を行ずるも、亦實際の證を取るべからず。證せざるを以ての故に、須陀洹果乃至辟支佛道に墮せず。須菩提、是の菩薩摩訶薩は、是の心を以て善根を成就せんと欲するが故に、中道にして實際に證を作さず。四禪四無量心四無色定、四念處乃至八聖道分、空無相無作、佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法を失はず。是の時、菩薩摩訶薩は一切助道法乃至阿耨多羅三藐三菩提を成就し、終に耗減せず、是の菩薩は方便力有るが故に常に善法を增益し、諸根の通利、阿羅漢辟支佛の根に勝る。〔二〇〕復次に須菩提、若は菩薩摩訶薩是の念を作す、「衆生長夜に四顛倒、常相樂相淨相我相に著す。是の衆生の爲の故に薩婆若を求む。我れ阿耨多羅三藐三菩提を得たる時、爲に無常法、苦、不淨、無我法を說くことを爲さん」と。是の菩薩は是の心を成就し、方便力を以て般若波羅蜜を行ずれば、佛三昧を得ず、未だ佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法を具足せざるも、亦實際に證を作さず。爾の時、菩薩は無作解脫門を修し、未だ阿耨多羅三藐三菩提を得ずと雖も、亦實際に證を作さず。〔二一〕復次に須菩提、若は菩薩摩訶薩是の念を作す「衆生長夜に得法に著

〔二〇〕以下三解脫門に就て重說す、初に無作、衆生の顛倒を見てこれを說破せんとするが故に墮せず。

〔二一〕次に空、得法を破せんとするが故に空觀も墮落とならず。

す、謂ゆる我衆生乃至知者見者、是れ色、是れ受想行識、是れ入、是れ界、是れ四禪四無量心四無色定とし、我れ是の如く行ずとす。我が如きは阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生をして是の得法無からしめん」と。菩薩は是の心成就し、方便力を以て般若波羅蜜を行ずれば、未だ佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法を具足せざるも、實際に於て證を作さず。爾の時、菩薩は具足して空三昧を修す。〔二二〕復次に須菩提、若は菩薩摩訶薩是の念を作す、「衆生長夜に諸相を行じ、謂ゆる男相女相、色相無色相とし、我れ是の如く行ずとす。我が如きは阿耨多羅三藐三菩提を得る時、衆生をして是の諸相の過失無からしめん」と。是の心成就し、方便力を以て般若波羅蜜を行ずれば、未だ佛の十力乃至十八不共法を具足せざるも、實際に於て證を作さず。爾の時、菩薩摩訶薩は具足して無相三昧を修す。〔二三〕須菩提、若し菩薩摩訶薩、六波羅蜜を學し、內空乃至無法有法空を學し、四念處乃至空無相無作解脫門を學し、佛の十力四無所畏四無礙智大慈大悲を學し、十八不共法を學し、是の如くして智慧成就するも、若は作法に著し、若は三界に住するは、是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩の助道法を學し、助道法を行ずる時、當に試問すべし、「菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、云何が是の法を學し、空を觀じて空の實際を證せず、證せざるを以ての故に、須陀洹果乃至辟支佛道に墮せず。無相無作無起無生無所有を觀ずるも、亦實際を證せずして般若波羅蜜を修行するや」と。是の如く問ふべし。須菩提、若

【二二】三に無相に就て明す。
【二三】未得道の菩薩能く深空を行ずる疑難を解く。

し諸の菩薩摩訶薩若し試問する時に、是の菩薩若は是の如く答ふ、「菩薩摩訶薩は (二四)但だ空を觀ずべきのみ、但だ無相無作無起無生無所有を觀ずべきのみ、是の菩薩摩訶薩は空無相無作無起無生無所有を學すべからず、是の助道法を學すべからず」と。須菩提、當に知るべし、是の菩薩に諸佛未だ阿耨多羅三藐三菩提の記を授けずと。何を以ての故に、是の人は阿毗跋致菩薩の (二五)所學の相を說くこと能はず、示すこと能はず、答ふること能はざればなり。若は是の菩薩摩訶薩、阿毗跋致所學の相を能く說き能く示し能く答ふれば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は已に菩薩道を習學して (二六)薄地に入ること、餘の阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致地の如しと。」須菩提佛に白して言さく、「世尊、頗し阿毗跋致を得ざる菩薩、能く是の如く答ふるもの有りや不や。」佛言はく、『有り、須菩提、是の菩薩摩訶薩、六波羅蜜を (二七)若は聞くも (二八)若は聞かざるも、能く是の如く答ふること、阿毗跋致の菩薩摩訶薩の如し。』須菩提言さく、「世尊、多く菩薩の佛道を求むる有り、少く菩薩能く是の如く答ふる有ること、阿毗跋致菩薩摩訶薩の (二九)學道無學道中の如し。」佛須菩提に語りたまはく、『是の如し是の如し、是の菩薩は甚だ少し。何を以ての故に、菩薩摩訶薩少く、是の如く受記を得たる阿毗

【二四】但だ空を觀ず等。空を念じて一心に習行すべし、二乘の如きは學知するのみにて觀ぜずとす。

【二五】所學の相。受生の要を感する方便學知の相なり。

【二六】薄地。不退地に在りて煩惱薄きを云ふ。

【二七】若は聞く。但だ師より聞きて自ら未だ菩薩地に具足せず。

【二八】若は聞かざる。自ら思惟正念にして無生忍を得ざるも能く諸法相を求む。

【二九】學道は未だ無生法忍を得ざるを云ひ、無學道は已に得たるを云ふ。

是の人は能く是の如く答ふ、是の人は䟦致有るのみなればなり。乾慧地若し受記を得ること有れば、是の人は善根明了にして、諸天世人の壞すること能はざる所なり。』

(一)夢中不證品第六十一

(二)佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、乃至夢中にも(三)聲聞辟支佛地を貪らず、亦三界を貪らず、諸法を觀るに夢の如く幻の如く響の如く焰の如く化の如しとして、亦證を作さず。須菩提。當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、夢中に佛の無數百千萬億の比丘比丘尼優婆塞優婆夷天龍鬼神(四)緊那羅等の與に法を說くを見、佛に從ひて法を聞き、卽ち中義を解し法に隨て行ず。須菩提、當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、夢中に、佛三十二相八十隨形好より大光明を放ち、虛空に涌在し、大比丘僧中に於て法を說き、大神力を現して化人を化作し、他佛土に到りて佛事を施作するを見る。須菩提、當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。復次に須菩提、若は菩薩摩訶薩夢中に兵起り、若は聚落を破し、若は城邑を破し、若は火を失するを見る時、若は虎狼師子猛害の獸を見、若は來りて其の頭を截せんと欲する者を見、若は父母喪亡し、兄弟姉妹及び親友知識の死する者を見、是の如き等の種種愁

【一】品目、麗本夢誓品に作る。不現前夢中にも證せざる也。不現前授記の未具足因、授記因緣者の不退相貌を明し、魔事・遠離法・善知識・般若の相を說く。

【二】晝日常に空を行ずる者の夢中の相による阿毗跋致を明す。

【三】菩薩は二乘を取ると世間に著するとの二處に退す、故に今二處を貪らずとす。

【四】緊那羅(Kinnara)。人非人と譯す。或は那を陀に、緊那を甄陀に作るあり。

苦の事を見るも、而も驚かず怖れず、亦憂惱せず、夢より覺め已りて卽時に思惟す。「三界虛妄にして皆夢の如きのみ、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時に、當に衆生の爲に三界は夢の如しと說くべし」と。須菩提、當に知るべし。是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。復次に須菩提、云何が當に是の阿毗跋致菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得る時、國中に三惡道の無きことを知るや。須菩提、菩薩摩訶薩若し夢中に地獄畜生餓鬼を見ば是の念を作す「我れ當に勤精進して阿耨多羅三藐三菩提を得る時、我が國中一切三惡道無からしめん」と。何を以ての故に。是の夢と及び諸法とは二無く別無ければなり。須菩提、當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、夢中に地獄の火の衆生を燒くを見て是の誓を作す、「若し我れ實に是れ阿毗跋致ならば是の火當に滅すべし」と。是の火卽ち滅す。若し地獄の火卽ち滅せば是れ阿毗跋致相なり。復次に、若し菩薩晝日に城郭に火の起るを見ば是の念を作す、「我れ夢中に阿毗跋致の行類相貌を見るに、我れ（五）今實に是の者有り」と。自ら誓を立てて言く、「是の火は當に滅すべし」と。若し火滅せば當に知るべし、是の菩薩は阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得て、阿毗跋致地に住することを。若し火滅せずして（六）一家を燒きて一家を置き、一里を燒きて一里を置かば、須菩提、當に知るべし、燒かるる家は（七）破法業の因緣厚集

【五】今實に是の者有り。夢中能く獄火を滅して不退相たらば城火も滅すべし。夢覺異無きが故なり。
【六】一家を燒き。新念も鬼龍の助も滅し難きは、その家人の重罪に因る、これあるも菩薩の不退相たるを失はず。
【七】破法業。般若波羅蜜を破する重罪を云ふ。

せることを。是を以ての故に一家を燒きて一家を置く。是の諸の衆生は、今世に破法の餘殃を受くるが故に燒かる。須菩提、是の因緣を以ての故に當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致相なりと。』

〔八〕佛須菩提に告げたまはく、『今當に更に汝の爲に阿毗跋致の行類相貌を說くべし。須菩提、若は男子、若は女人、非人の持する所と爲る。是の時菩薩摩訶薩は是の念を作す、「若し我れ過去諸佛の授記する所と爲り、我が心淸淨にして阿耨多羅三藐三菩提を求め、淸淨正道を行じ、聲聞辟支佛心を遠離し、聲聞辟支佛念を遠離せば、當に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべし。我れ必ず阿耨多羅三藐三菩提を得、得ざるに非ず。十方國土中現在無量の諸佛は、知らざる所無く見ざる所無く、解せざる所無く、證せざる所無し。諸佛は我が〔九〕深心を知り、必ず當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきを審定し給はん」と。是の至誠の誓を以ての故に、是の男子女人は非人の持する所と爲り、非人の惱ます所と爲るも、是の非人當に遠く去るべし。須菩提、是の菩薩摩訶薩是の如く誓ふも、若し非人去らずんば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は未だ過去の諸佛より阿耨多羅三藐三菩提の記を受けずと。須菩提、若し菩薩摩訶薩是の如く誓ひて若し非人去らば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は已に過去の諸佛より阿耨多羅三藐三菩提の記を受けたりと。須菩提、是の行類相貌を以て當に知るべし、是れ阿毗跋致菩薩摩訶薩の阿毗跋致

【八】惡魔非人の嬈亂する不退相の魔事を細說す。
【九】深心　一心又は重心と云ふ。深く佛道を愛するなり。

相なりと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、六波羅蜜及び方便力を遠離して、久しく四念處を行ぜず、乃至久しく空無相無作三昧を行ぜず、未だ菩薩位に入らざれば、是の菩薩は惡魔の嬈す所と爲る。菩薩是の誓を爲す、「若し我れ實に諸佛より受記せば、是の非人當に去るべし」と。是の時に惡魔は卽ち方便を作して非人を勅めて去らしむ。惡魔は威力有りて諸の非人に勝るが故に非人卽ち去る。是の時に菩薩は是の念を作す、「我が誓力を以ての故に非人去れり」と。是れ惡魔の力たることを知らずして、是の證を恃むが故に、諸餘の菩薩を輕弄し毀懱して是の言を作す、「我れ已に諸佛より受記す、汝等は未だ得ず」と。是の空誓を用て方便力無きが故に增上慢を生ず。是の事を以ての故に薩婆若を遠離し、阿耨多羅三藐三菩提を遠離す。須菩提、當に知るべし、是の人は二地若は聲聞地若は辟支佛地に墮すと。是の誓の因緣を以ての故に魔事を起し、是の人善知識に親近し依止せず、阿毗跋致相を問はざるを以ての故に、魔の縛する所と爲ること益復堅固なり。所以は何かん、是の菩薩は久しく六波羅蜜を行ぜず、方便力無きが故なり。須菩提、當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。須菩提、云何が菩薩摩訶薩、久しく六波羅蜜を行ぜず、乃至未だ菩薩位に入らざれば、惡魔の嬈す所と爲るや。須菩提、惡魔變化して種種身と作り菩薩に語りて言く、「汝は諸佛の所に於て阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得、汝の字は某、汝の父の字は某、汝の母の字は某、汝の兄弟姉妹の字は某、汝の七世の父母の名字は是の如し、汝は某の方、某の國、某の城、某の聚落中に在りて生ず」と。若し菩薩の性行和柔なる

を見れば、菩薩に語りて言く、「汝は先世にも亦復和柔なり」と。若し急性卒暴なるを見れば、便ち語りて言く、「汝は先世にも亦爾り」と。若し菩薩の（一〇）阿蘭若行を修するを見れば、語りて言く、「汝は先世にも亦阿蘭若行を修す」と。若し菩薩の乞食し（一一）納衣し、中後に飲漿せず、一坐食し、一鉢にして食し、（一二）死尸の間に住し（一三）露地に住し、樹下に止り、常に坐して臥せず、（一四）加趺坐し、但だ三衣を受け、若は少欲、若は知足、若は遠離住、若は（一五）不塗脚、若は少言語なるを見れば、便ち菩薩に語りて言く、「汝は先世にも亦是の行有り。何を以ての故に、汝今此の頭陀の功德有るは先世にも亦是の功德有りたればなり」と。是の菩薩は是の先世の事及び名姓を聞き、今頭陀の功德を讃ずるを聞き、卽ち歡喜して憍慢心を生ず。是の時、惡魔、菩薩に語りて言く、「汝は是の如きの功德、是の如きの相有り、汝は實に諸佛より阿耨多羅三藐三菩提の記を受けたり」と。須菩提、惡魔は或は（一六）比丘の被服を作し、或は居士形と作り、或は父母身と作りて菩薩の所に來到し、是の如く言ふ、「汝は已に阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得たり。何を以ての故に、是の阿毗跋致の功德相をば、汝盡く具足して之を有すればなり」と。須菩提、我が說く所の實の阿毗跋致の行類相貌は是の人永く無し。須菩提、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は魔の持する

【一〇】阿蘭若行等以下十二頭陀行等の因緣を詐り說く。
【一一】納衣。著衲衣を云ふ。
【一二】死尸等。塚間住を云ふ。
【一三】露地。空閑の曠野なり。
【一四】加趺坐。結跏趺坐なり。麗に如敷坐に作る、隨處住の意。
【一五】不塗脚。馬油を塗布せざるなり。
【一六】比丘の被服。三衣被著の相なり。

所と爲ると。何を以ての故に、是の阿毗跋致の行類相貌は、是の人永く無くして、是の名字を聞くを以ての故に憍慢心を生じ、餘人を輕弄し毀懱すればなり。須菩提、是を菩薩摩訶薩、魔の持する所と爲ると名く。當に知るべし、是を菩薩の魔事と爲すと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、久しく六波羅蜜を行せず、名字相を知らず、色相を知らず、受想行識相を知らざれば。惡魔來り語て言く、「汝當來世に阿耨多羅三藐三菩提を得る時、是の如きの名字有り」と。其の(一七)本念に隨ひて其の名號を說く。是の無智無方便の菩薩は是の念を作す、我れ先にも亦是の成佛の名號有りと念ず、是の人も我が所念の如く說く、是の人の所說は我が本念に合す、我れ必ず諸佛の授記する所とならんと。須菩提、我が說く所の阿毗跋致の行類相貌は是の人永く無し、但だ空名字を以て餘人を輕弄し毀懱す。是の事を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提を遠離す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を遠離して方便力無く、善知識を遠離して惡知識と相得るが故に、二地聲聞辟支佛地に墮す。若し卽ち是の身に過を悔ゆる有れば、久久生死中に往來し、然る後還て般若波羅蜜に依止す。若し善知識に値へば、常に隨逐し親近するが故に、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是の人は(一八)是の身に於て若し卽ち悔いざれば、當に二地若は阿羅漢地若は辟支佛地に墮すべし。須菩提、譬へば比丘、(一九)四重禁法に於て若し一事をも犯さば、沙門に非ず釋子に非ずして、是の人現身に

【一七】本念。先時行者の所念を云ふ。

【一八】現身懺悔せざれば必ず二乘地に墮すべきを說く。

【一九】四重禁。殺盜婬妄の四は斷頭罪として比丘僧伽より斥けらる。魔事に從ふものも菩薩たるを失ふ。

四沙門果を得ざるが如し。須菩提、是の菩薩の空名字の菩薩心に著するも亦是の如く、餘人を輕弄し毀懱するが故に、當に知るべし、是の罪は比丘の四禁よりも重しと。須菩提、是の重罪を置け、其罪五逆よりも過ぎたり。是の名字を受くるを以ての故に高心を生じ、餘人を輕弄し毀懱す。若し是の心を生ぜば當に知るべし、其罪甚だ重しと。是の如きの名字等の微細の魔事、菩薩は皆當に覺知すべし。

(二〇)復次に須菩提、菩薩、空閑山澤曠遠の處に在れば、魔、菩薩の所に來到し、遠離の法を讃歎して是の言を作す「善男子、汝の行ずる所の者は是れ佛の稱譽する所の遠離の法なり」と。須菩提、我は是の遠離、謂ゆる但だ空閑山澤曠遠の處に在るのみを名けて遠離と爲して讃せず。』須菩提言さく、「世尊、若し空閑山澤曠遠の處、遠離の法に非ざれば、云何が更に異の遠離法有るや。」佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、聲聞辟支佛を遠離し、心空閑山澤曠遠の處に在れば、是れ佛の許す所の遠離法なり。須菩提、是の如きの遠離の法は、菩薩摩訶薩の應に修行すべき所なり。晝夜に是の遠離法を行ずる、是を遠離行の菩薩と名く。須菩提、若し惡魔の說く所の遠離法なれば、空閑山澤曠遠の處なるも、是の菩薩心憒閙に在り。謂ゆる聲聞辟支佛心を遠離せず、般若波羅蜜を勤修せざれば、是の菩薩摩訶薩は一切種智を具足すること能はず。是の菩薩は惡魔の說く所の遠離法を行じ心淸淨ならず、而して餘の菩薩(二一)城傍に心淨にして聲聞辟支佛憒閙心無く、亦諸餘の雜惡心も無くして、禪定解脫智慧神通を具足

【二〇】遠離法の眞不眞を明す。
【二一】城傍。都城の附近に親族同學と遠く離れざるを云ふ。

する者を輕ず。是の般若波羅蜜を離れて方便無き菩薩摩訶薩は、絕曠百由旬の外、禽獸鬼神羅刹所住の處に在りて、若は一歲百千萬億歲、若は萬億歲を過ぐると雖も、是の菩薩の遠離法、謂ゆる諸の菩薩是の遠離法を以て深心に阿耨多羅三藐三菩提を發し雜行せざるを知らず、是の菩薩は憒閙行を受くるに依て是の遠離法に著す、是の人の行ずる所は佛の許さざる所なり、須菩提、我が說く所の實の遠離法、是の菩薩は是の中に在らず、亦是の遠離相を見ず。何を以ての故に、但だ是れ空遠離のみを行ずるが故に。爾の時、惡魔來りて虛空中に在りて住し、讃じて言く、「善い哉善い哉、善男子、是は是れ佛の說く所の眞の遠離法なり。汝是の遠離を行ぜば疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ん」と。是の菩薩摩訶薩は是の遠離に念著して、諸餘の佛道を求むる清淨の比丘を輕易し、以て憒閙と爲す　憒閙を以て不憒閙と爲し、不憒閙を以て憒閙と爲し、恭敬すべきを而も恭敬せず、恭敬すべからざるを而も恭敬し、是の菩薩是の言を作す、「非人我を念じ、來りて我を稱讃す、我が所行は是れ眞の遠離なり。城傍に住する者誰れか當に稱美すべけんや」と。汝是の因緣を以ての故に餘の菩薩摩訶薩を輕ず。須菩提、當に知るべし、是を菩薩の(三)旃陀羅と名け、諸の菩薩を汙染す。是の人は似像の菩薩、實に是れ天上人中の大賊、亦是れ沙門被服中の賊なり。是の如きの人は、諸の佛道を求むる者の親近すべからず、供養し恭敬すべからざる所なり。何を以ての故に、須菩提、當に知るべし、是の人は增上慢に墮すればなりと。是を以

【三】旃陀羅(Caṇḍāla)。屠種と譯す。最も賤しき種姓なり。

ての故に、若し菩薩摩訶薩、一切智を捨てざらんと欲し、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲し、一心に阿耨多羅三藐三菩提を求めんと欲し、一切衆生を利益せんと欲せば、應に是の人に親近し恭敬し供養すべからず。菩薩摩訶薩の法は常に自利を勤求し、世間を厭患し、心に常に三界を遠離すべし。是の人に於て當に慈悲喜捨の心を起すべし。我れ菩薩道を行じ、應に是の如きの罪過を生ずべからず。若し生せば當に疾く滅すべし。須菩提、菩薩摩訶薩は當に善く是の事を覺り、是の事中より善く自ら勉て出づべし。

〔二三〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は深心もて阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すれば、當に善知識に親近し恭敬し供養すべし。」須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の善知識なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『諸佛は是れ菩薩摩訶薩の善知識なり、諸の菩薩摩訶薩も亦是れ菩薩の善知識なり。須菩提、阿羅漢も亦是れ菩薩の善知識なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の善知識と爲す。復次に須菩提、六波羅蜜も亦是れ菩薩の善知識なり、四念處乃至十八不共法も亦是れ菩薩の善知識なり。須菩提、如實際法性も亦是れ菩薩の善知識なり。須菩提、〔二四〕六波羅蜜は是れ世尊、六波羅蜜は是れ〔二五〕道、六波羅蜜は是れ大明、六波羅蜜は是れ炬、六波羅蜜は是れ智、六波羅蜜は是れ慧、六波羅蜜は是れ救、六波羅蜜は是れ歸、六波羅蜜は是れ洲、六波羅蜜は是れ究竟

【二三】善知識を明す。

【二四】六波羅蜜は是れ世尊。六度と佛と異ならず、能く人を度し、壞すべからざるを云ふ。

【二五】道。これを行きて無量佛法の中に入るが故に。六度を籌量思惟分別修行せば大智慧を得、冥闇を破す、故に大明、炬、智、慧等と云ふ。

道、六波羅蜜は（二六）是れ父、是れ母なり。四念處乃至一切種智も亦是の如し。何を以ての故に、六波羅蜜及び三十七道法も亦是れ過去諸佛の父母なり、六波羅蜜及び三十七道法も亦是れ未來現在十方の諸佛の父母なりや。何を以ての故に、須菩提、六波羅蜜三十七道法中に過去未來現在十方の諸佛を生ずるが故に。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提を得、佛國土を淨め衆生を成就せんと欲せば、當に六波羅蜜三十七道法及び四攝法を學して衆生を攝取すべし。何等をか四となす。布施、愛語、利益、同事なり。須菩提、是の利益を以ての故に、我れ六波羅蜜及び三十七道法は是れ諸の菩薩摩訶薩の世尊、是れ道、是れ大明、是れ炬、是れ智、是れ慧、是れ救、是れ歸、是れ洲、是れ究竟道、是れ父、是れ母なりと言ふ。須菩提、是を以ての故に、菩薩摩訶薩は他人の（二七）教に隨て任せざらんと欲し、一切衆生の疑を斷ぜんと欲し、佛國土を淨め衆生を成就せんと欲せば、當に是の般若波羅蜜を學ぶべし。所以は何かん、是の般若波羅蜜の中に廣く諸法を說く、是れ菩薩摩訶薩の（二八）所應學處なればなり。』

（二九）爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ般若波羅蜜相なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『如虛空相は、是れ般若波羅蜜相なり。須菩提、般若波羅蜜は無所有相なり。』須菩提佛に白

【二六】是れ父是れ母。五度は父、智度は母と云ふ、故に合して六度は父なり母なりとす。
【二七】教に隨て任せず。自ら諸法實相を知るべきを云ふ。
【二八】所應學處。法相の標準にしてこれに異えば信隨せず。
【二九】般若波羅蜜の理を說く。論七十七。

して言さく、『世尊、頗し因縁有り、般若波羅蜜相の如く、諸法の相も亦是の如くなりや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、般若波羅蜜相の如く、諸法の相も亦是の如し。何を以ての故に、須菩提、一切法は離相空相なり、是の因縁を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜相の如く、諸法の相も亦是の如し、謂ゆる離相空相の故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法一切法離、一切法一切法空ならば、云何が衆生の若は垢、若は淨なることを知るや。世尊、離相法は垢無く淨無く、空相法は垢無く淨無く、離相空相の法は阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず、離相空相は法として得べきもの無ければなり。世尊、離相中空相中に、菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る者、有ること無し。世尊、我れ云何が當に佛の説く所の義を知るべきや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、是の衆生は長夜に我我所心を行ずるや不や。』『是の如し、世尊、衆生長夜に我我所心を行ず。』『汝の意に於て云何、是の我我所心は、離相なりや不や、空相なりや不や。』須菩提言さく、『世尊、我我所心は離相空相なり。』『汝の意に於て云何、此の我我所心を以て衆生は生死中に往來するや不や。』『是の如し、世尊、此の我我所心を以て衆生は生死中に往來す。』『是の如く須菩提、衆生生死中に往來するが故に垢惱有ることを知る。須菩提、若し衆生、我我所心無く、著心無ければ、是の衆生は復生死の中に往來せず。若し生死の中に往來せざれば則ち垢惱無し。是の如く須菩提、衆生淨有り。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩の是の如く行ずるを、色を行ぜず、受想行識を行ぜずと爲

し、四念處乃至八聖道分を行ぜずと爲し、內空乃至無法有法空を行ぜずと爲し、佛の十力乃至一切種智を行ぜずと爲す。何を以ての故に、是れ法は得べからず、亦行ずる者無く、亦行ずる處無く、亦行ずる法も無ければなり。世尊、菩薩摩訶薩は是の如く行ずれば、一切世間の諸の天人阿修羅も、是の菩薩摩訶薩を降伏すること能はず。一切の聲聞辟支佛も及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、所住の處、能く及ぶもの無きが故に、謂ゆる菩薩の位なり。世尊、是の菩薩摩訶薩の行は、薩婆若心に應じ、能く及ぶ者無し。』『須菩提、菩薩摩訶薩は是の如く行じて疾に薩婆若に近づく。須菩提、汝の意に於て云何、若し閻浮提の衆生盡く人身を得、人身を得已りて皆阿耨多羅三藐三菩提を得、若し善男子善女人有りて、其の形壽を盡して、供養し恭敬し尊重し讃歎し、是の善根を持て阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、是の人は是の因緣を以て福を得ること多きや否や。』須菩提言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人、大衆中に於て是の般若波羅蜜を說き、顯示し分別し照明し開演し、亦般若波羅蜜に應じて行じ正憶念す、其の福の多からんには如かず。乃至三千大千世界の中の衆生も亦是の如し。須菩提、汝の意に於て云何、閻浮提中の衆生一時に皆人身を得、人身を得已りて、若し善男子善女人、敎へて十善道四禪四無量心四無色定を行ぜしめ、敎へて須陀洹道乃至阿羅漢辟支佛道を得しめ、敎へて阿耨多羅三藐三菩提を得しめ、是の善根を持て阿耨多羅三藐三菩提に廻向せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の善男子善女人は、福を得ること多きや否や。』須菩提言さく、

『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『是の善男子善女人、是の甚深の般若波羅蜜を以て衆生の爲に說き、出示し分別し照明し開演し、亦薩婆若を離れざることの福を得るの多きには如かず。乃至三千大千世界も亦是の如し。是の菩薩摩訶薩、薩婆若に應ずる心を遠離せざれば、則ち一切（三〇）福田の邊に到る。何を以ての故に、諸佛を除きて餘法の菩薩摩訶薩の勢力の如きもの有ること無ければなり。

（三一）何を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、一切衆生の中に於て大慈心を起し、諸の衆生の死地に趣くを見るが故に大悲を起し、是の道を行ずる時歡悅して大喜を生じ（三二）想と倶ならず、便ち大捨を得ればなり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の大智光明と爲す。大智明とは謂ゆる六波羅蜜なり。須菩提、是の諸の善男子善女人は、未だ作佛せずと雖も、能く一切衆生の爲に大福田と作り、阿耨多羅三藐三菩提に於ても亦轉せず、受くる所の供養の衣服飮食臥床疾藥、資生所須、（三三）般若波羅蜜に應ずる念を行じて、（三四）能く必ず施主の恩に報い、疾く薩婆若に近づく。是を以ての故に、須菩提、若し菩薩摩訶薩、（三五）虛しく國中の施を食はざらんと欲し、衆生に三乘道を示さんと欲し、衆生の爲に大明と作らんと欲し、三界の牢獄を拔出せんと欲し、一切衆

【三〇】福田の邊。福田とは須陀洹より佛に至る、今その究竟するを云ふ。

【三一】妙福田大勢力の因緣を明す、般若を行ずれば諸法平等忍を得るが故に、空を行ずるも亦能く四無量心を生ず、卽ち大慈大悲等なり。

【三二】想と倶ならず。分別取相を伴はざる平等心なり。

【三三】般若に應ずる念とは般若相應の念卽ち般若心なり、賢聖默然として無所得なるを云ふ。

【三四】能く施主に報ゆとは般若心に住して說法して淨福田となり、般若に住せしむるなり。

【三五】虛しく…食はざるは般若を學し施主道心を生ずる也。

生に眼を與へんと欲せば、應に常に般若波羅蜜を行ずべし。般若波羅蜜を行ずる時、若し說く所有らんことを欲せば、但だ般若波羅蜜のみを說く、般若波羅蜜を說き已りて常に般若波羅蜜を憶念す、常に般若波羅蜜を憶念し已りて常に般若波羅蜜を行じ、餘念を生ずることを得しめず、晝夜に勤めて般若波羅蜜を行じ、相應の念息まず休まず。須菩提、譬へば士夫の未だ曾て摩尼珠を得ざるが如し。後時に得、得已りて大に歡喜し踊躍す。後復之を失ひて復大に憂愁し、常に是の摩尼珠を憶念して是の念を作す、我れ奈何ぞ忽にして此の大寶を亡ふやと。須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、常に般若波羅蜜を憶念して薩婆若心を離れず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、一切念性自ら離れ、一切念性自ら空なり。云何ぞ菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、薩婆若に應ずる念を離れざるや。是れ遠離空法中には菩薩無く亦念も無く、薩婆若に應ずることも無ければなり。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、是の如く一切法性自ら離れ、一切法性自ら空なるを知らば、聲聞辟支佛の作に非ず、亦佛の作に非ず、諸法の相は常に法相法住法位如實際に住す、是を菩薩の般若波羅蜜を行じ薩婆若を離れざる念と名く。何を以ての故に、般若波羅蜜の性自離、性自空にして増せず減せざるが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し般若波羅蜜性自離性自空なれば、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜と等しく、阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜と等しく増せず減せず。何を以ての故に、如法性實際増せず減せざるが故に。所以は何かん、般

若波羅蜜は一に非ず異に非ざるが故に。若し菩薩是の如きの般若波羅蜜相を聞き、心驚かず沒せず畏れず怖れず疑はざれば、須菩提、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずと。當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は必ず阿毗跋致地中に住すと。』須菩提佛に白して言さく、世尊、般若波羅蜜は空にして所有無く堅固ならずと、是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、空を離れて更に法として行ずる般若波羅蜜有りや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、是の般若波羅蜜は般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、般若波羅蜜を離れて般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、色は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、受想行識は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』世尊、六波羅蜜は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、四念處乃至十八不共法は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、色空相虛誑にして實ならず、所有無く、堅固相ならず、色如相、法相、法住、法位、實際は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、受想行識乃至十八不共法空相虛誑にして實ならず、所有無く、堅固相ならず、如相、法相、法住、法位、實際は是れ般若波羅蜜を行ずるや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、若し是の諸法皆般若波羅蜜を行ぜざれば、云何なる行をか菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずと名くるや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、汝法として般若波羅蜜を行ずる者有るを見るや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、汝般若波羅蜜を菩薩摩訶薩の行ず可き處と見るや

不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、汝見ざる所の法、是の法得べきや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、若し法得べからざれば、是の法當に生ずべきや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、是を菩薩摩訶薩の無生法忍と名く。菩薩摩訶薩は是の忍を成就して阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得。須菩提、是を諸佛の無所畏無礙智と名く。菩薩摩訶薩は是の法を行じ、勤精進して、若し大智一切種智を得ずば、謂ゆる阿耨多羅三藐三菩提智、「若し得ずとは」是の處有ること無し。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は無生法忍を得るが故に 乃至阿耨多羅三藐三菩提は減せず退せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸法は生相無し、此の中に阿耨多羅三藐三菩提の記を得るや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、諸法の生相、此の中に阿耨多羅三藐三菩提の記を得るや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、諸法無生相を生ず、此の中に阿耨多羅三藐三菩提の記を得るや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、諸法は生に非ず不生相に非ず、此の中に阿耨多羅三藐三菩提の記を得るや不や。』『不とよ須菩提。』『世尊、諸の菩薩摩訶薩は云何が諸法の阿耨多羅三藐三菩提の記を得ることを知るや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝法の阿耨多羅三藐三菩提の記を得るもの有るを見るや不や。』『不とよ世尊、我れ法の阿耨多羅三藐三菩提の記を得るもの有るを見ず、我れ亦法を得る者、得る處も有るを見ず。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、若し菩薩摩訶薩、一切法に於て所得無ければ、時に是の念を作さず、我れ當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと。是の事を以て阿耨多羅三藐三菩提を得、是を阿耨多羅三藐三菩提處と名く。

何を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、諸の憶想分別無ければなり。所以は何かん、般若波羅蜜中には諸の分別憶想無きが故に。」

（一）卷の第十九

（二）魔愁品第六十二

（三）爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜甚深にして見難く、諸の憶想分別無し、畢竟離の故に。世尊、是の衆生是の般若波羅蜜を聞き、能く持し讀誦し説き正憶念し、親近し説の如く行じ、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで（四）餘心心數法を雜へざる者、小功德從り來らず。』佛言はく、『是の如し是の如し、是の深般若波羅蜜を聞き、乃至餘心心數法を雜へざる者、小功德從り來らず。憍尸迦、汝の意に於て云何、若し閻浮提の衆生、十善道四禪四無量心四無色定を成就するも、復善男子善女人有りて深般若波羅蜜を受持し、讀誦し親近し正憶念し、説の如く行ずれば、（五）閻浮提の衆生の十善道乃至四無色定を成就するに勝ること、百倍千倍千萬億倍、乃至算數譬喩の能く及ばざる所なり。』爾の時一比丘有り、釋提桓因に語りて言く、『憍尸迦、是の善男子善女人、般若波羅蜜を行ずれば、功

【一】宋元明本は卷第二十一とす。
【二】品目丹本及び大論同學品に作る。般若に諸佛の護念あるも亦魔緣あり、菩薩和合共住同學すべきを説く。大論第七十七の續き。
【三】帝釋は般若功德の己れに優り、又諸天に超え、諸佛の護念あるを説く。
【四】餘心心數法を雜ふ。慳貪等六度に反するもの、二乘心、無記散亂心を云ふ。
【五】十善等功德大なるも、實相を離れ、虛妄不牢固にして無常盡滅す。

徳仁者に勝る。』釋提桓因言く、『是の善男子善女人、一たび發心するだに尙我に勝る、何に況んや是の般若波羅蜜を聞き、書持し讀誦し正憶念し、說の如く行ぜんをや。是の善男子善女人、般若波羅蜜を行ずれば、〔六〕但に我に勝るのみに非ず、亦一切世間天及び人阿脩羅に勝る。但に一切世間天及び人阿脩羅に勝るのみに非ず、亦諸の須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛に勝る。但に是の須陀洹乃至辟支佛に勝るのみに非ず、亦菩薩の五波羅蜜を行じ般若波羅蜜を遠離する者に勝る。但に菩薩の五波羅蜜を行じ般若波羅蜜を遠離する者に勝るのみに非ず、亦菩薩の般若波羅蜜を行じ方便力無き者に勝る。是の菩薩摩訶薩、說の如く般若波羅蜜を行じ、佛種を斷せず、常に諸佛を見、疾く道場に近づく。菩薩〔七〕是の如く行ずるは、衆生の長流に沈沒する者を拔出せんと欲すと爲す。是の菩薩是の如く學ぶは、聲聞辟支佛の學を學ばずとなす。菩薩是の如く學すれば、四天王天來りて菩薩の所に至り是の如く言ふ、「善男子當に勤めて疾く學ぶべし、道場に坐し阿耨多羅三藐三菩提を成ずる時、過去の諸佛の受くる所の四鉢の如く、亦當に我當に持ち來りて菩薩に奉上すべきものを受く應し」と。及び諸の餘の天四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵天乃至首陀會天も亦當に供養すべし。十方の諸佛も亦常に是の菩薩摩訶薩の說の如く、是の深般若波羅蜜を行ずる者を念ずべし。是の菩薩諸の有らゆる世間危難勤苦の事、永く復有ること無し。一切世間に四百四病

【六】般若の帝釋に勝るは獨り帝釋の輕き爲ならざることを明す。

【七】是の如く等。餘心なく方便心を以て般若を行ずるを云ふ。

有り。是の菩薩の身中是の諸の病無し。深般若波羅蜜を行ずるを以ての故に、是の現世の功德を得。』爾の時、阿難是の念を作す、「釋提桓因自ら力を以て說く耶、佛の神力を以て說く乎」と。釋提桓因阿難の意に念ずる所を知り、阿難に語りて言く、『我の說く所皆(八)佛の威神なり。』

(九)佛阿難に告げたまはく、『是の如し是の如し、釋提桓因の說く所の如きは皆佛の威神なり。阿難、是の菩薩摩訶薩の是の深般若波羅蜜を習學する時、三千大千世界の中の諸の惡魔皆狐疑を生ず、今是の菩薩當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと爲んや、當に中道にして實際に於て證を作し、聲聞辟支佛地に墮すべきやと。復次に阿難、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を離れざる時、魔の大に愁毒すること箭の心に入るが如し。是の時魔復大火を放ち、風四方に倶に起り、菩薩の心をして沒し恐怖し、薩婆若の中に懈怠し、乃至一亂念を起さしめんと欲す。』阿難佛に白して言さく、(一〇)『世尊、魔都て諸の菩薩を嬈亂することを爲すや、嬈亂せざる者有りや。』佛阿難に告げたまはく、『嬈す者あり、嬈さざる者あり。』阿難佛に白して言さく、『世尊、何等の菩薩か惡魔の嬈す所となるや。』佛言はく『菩薩摩訶薩ありて先世に是の深般若波羅蜜を聞き、心に信解せ 。是の如きの菩薩、魔其の便を得。復次に阿難、菩薩是の深般若波羅蜜を說くを聞く時、意に是の般若波羅蜜を實有と爲んか實無と爲せんかを疑ふ。是の如き

【八】佛の威神。佛前に甚深般若を說くは佛の光明神力その身に入ればなり。

【九】帝釋の說明も佛力に依るを示し、更に菩薩の魔に嬈亂せらるべき便あることを明す。

【一〇】一切菩薩魔怨ありとするものあるを以て、嬈亂されざる菩薩あるかを明かにす。

の菩薩、魔其の便を得。復次に阿難、菩薩あり、善知識を遠離し、惡知識の攝する所と爲るが故に深般若波羅蜜を聞かず、聞かざるが故に、云何が應に般若波羅蜜を行ずべく、云何が應に般若波羅蜜を修すべきやを知らず、見ず問はず。是の菩薩、惡魔其の便を得。復次に阿難、若し菩薩、般若波羅蜜を遠離して惡法を受くれば、是の菩薩爲に惡魔其の便を得、魔是の念を作す、是の輩當に伴黨有るべし、當に我が願を滿すべしと。是の菩薩自ら（一）二地に墮し、亦他人をして二地に墮せしむ。復次に阿難、若し菩薩、深般若波羅蜜を說くを聞く時、他人に語りて言く、「是の般若波羅蜜は甚深にして我れ尙底を得ること能はず、汝復是の般若波羅蜜を聞くことを用ゐ、學ぶことを用ゐて爲んや」と。是の如きの菩薩、魔其の便を得。復次に阿難、若し菩薩餘の菩薩を輕じて言はく、「我れ般若波羅蜜を行じ、遠離空を行ず、汝是の功德無し」と。是の時惡魔大に歡喜し踊躍す。若し菩薩有りて自ら（二）名姓多人知識を恃むが故に、餘の善を行ずる菩薩を輕んず。是人實の阿鞞跋致の行類相貌の功德無し。是の功德無きが故に諸の煩惱を生じ、但に虛名に著するが故に餘人を輕賤して言く、「汝我が所得法の如き中に在らず」と。爾の時惡魔是の念を爲す、今我が境界（三）宮殿空ならず、三惡道を增益すと。惡魔其の威力を助け、餘人をして其の語を信受せしむ。其の語を信受するが故に其の經を受行し、說の如く修學し、說の如く修學する時諸の結使を增

【一】二地。聲聞辟支佛の二乘を云ふ。
【二】名姓多人知識。族姓の高貴、所緣眷屬の多きを云ふ。
【三】宮殿空ならず。般若を輕賤する菩薩は魔怨を受け、その伴黨となり魔宮を充たす。

益す。是の諸人心顚倒せるが故に、身口意業に作す所皆惡報を受く。是の因緣を以て三惡道を增益し、魔の眷族宮殿益多し。阿難、魔是の利を見るが故に、大に歡喜し踊躍す。阿難、若し菩薩道を行ずる者と聲聞道を求むる家と共に諍鬪すれば、魔是の念を作す、是れ薩婆若を遠離すと。阿難、若し菩薩と菩薩と共に諍鬪し瞋恚し罵詈すれば、是の時惡魔便ち大に歡喜し踊躍して言く、「兩ながら薩婆若を離るること遠し」と。復次に阿難、若し未受記の菩薩、記を得たる菩薩に向ひて、惡心を生じ諍鬪し罵詈せば、念を起す多少劫に隨ひて、若干劫數、若し一切種智を捨せずば、然る後乃ち（一四）爾所の劫を補ひ大莊嚴す。』阿難佛に白して言さく、『世尊、是の惡心乃ち爾所の劫數を經て、其の中間に於て寧ろ（一五）出除することを得るや不や。』佛阿難に告げたまはく、『我が菩薩道を求むるもの及び聲聞人出罪を得と說くと雖も、阿難、若し菩薩道を求むる人共に諍鬪し瞋恚し罵詈し恨を懷き、悔いず捨せざれば、我れ出づること有るを說かず、必ず當に更に爾所の劫數を受くべし。若し一切種智を捨せざれば、然る後乃ち大莊嚴す。阿難、若し是の菩薩鬪諍し瞋恚し罵詈せば、便ち自ら改悔して是の念を作す、我れ大失を爲す、我れ當に一切衆生の爲に下屈し、今世後世皆和解せしむべし、我れ當に一切衆生の（一六）履踐を忍受すること橋梁の如く、聾の如く瘂の如くなるべし、云何が惡語を以て人に報いんや。我れ應

【一四】爾所の劫。それに相當する若干劫の意。
【一五】出除。罪を除き脫出するを云ふ。
【一六】履踐。步道に臥して踐ましむる供養、若くは他の蹂躪するを云ふ。
【一七】菩薩の共住同學を明す。

に是の甚深阿耨多羅三藐三菩提心を壞すべからず、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、應に是の一切苦惱の衆生を度すべし、云何が當に瞋恚を起すべけんや。』阿難佛に白して言さく、(二七)『世尊、菩薩と菩薩と共に住するや云何。』佛阿難に告げたまはく、『菩薩と菩薩と共に住し、相視ること當に世尊の如くすべし。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩應に是の念を作すべし。是れ我の眞伴。共に一船に乘ず、彼の學し我が學するは謂ゆる檀那波羅蜜乃至一切種智なり。若し是の菩薩雜行して薩婆若心を離るれば、我れ是の如く學ぶべからず。若し是の菩薩雜行せず、薩婆若心を離れざれば、我も亦應に是の如く學ぶべしと。菩薩摩訶薩是の如く學ぶ者、是を同學と爲す。』

(一)等學品第六十三

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の等法、菩薩應に學すべき所なるや。』『須菩提、內空是れ菩薩の等法、外空乃至無法有法空是れ菩薩の等法なり。須菩提、色色相空、受想行識識相空、乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空、須菩提、是を菩薩摩訶薩の等法と名く。是の等法に住して阿耨多羅三藐三菩提を得。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、色(三)盡の爲の故に學するを薩婆若を學すと爲す。色離の爲の故に學し、色滅の爲の故に學するを薩婆若を學すと爲す。色不生の爲の故に學するを薩婆若を學すと爲す。受想行識も亦是の如し。四念處乃至十八不共法盡離滅不生を修行するが故に學するを薩婆若を學すと爲す。』佛須菩提に告げたまはく、『須菩提の所說の如く、色盡離滅不生の爲の故に學するを薩婆若を學すと爲す。受想行識乃至十八不共法、盡離滅不生の故に學するを薩婆若を學すと爲す。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、色如、受想行識如乃至阿耨多羅三藐三菩提如佛如、是の諸の如盡く滅斷するや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩、是の如く如を學するを薩婆若を學すと爲す。是の如、證を作さ

【一】菩薩の同學すべき眞實般若を明す。等法を學する故に等學と名く。

【二】菩薩の學すべき甚深同心の平等法を明す、前品に衆生平等を說く、今法等を說き、二種等忍を具せしむ。

【三】盡等。法本來不生なるを盡と云ひ、離と云ひ滅と云ふ。

ず滅せず斷せず。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く如を學するを薩婆若を學すと爲す。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く學するを六波羅蜜を學すと爲し、四念處乃至十八不共法を學すと爲す。若は六波羅蜜十八不共法を學するを薩婆若を學すと爲す。須菩提、是の如く學するを諸の學邊を盡すと爲す。是の如く學せば魔若は魔天の壞すること能はざる所なり。是の如く學せば直に阿鞞跋致地に到る。是の如く學するを佛の所行の道を學すと爲す。是の如く學するを【四】擁護の法を得と爲し、大慈大悲を學すと爲し、淨佛國土成就衆生を學すと爲す。須菩提、是の如く學するを三轉十二行を學すと爲す、法輪轉ずるが故に。是の如く學するを度衆生を學すと爲す。是の如く學するを不斷佛種を學すと爲す。是の如く學するを【五】開甘露門を學すと爲す。是の如く學するを欲示【六】無爲性を學すと爲す。須菩提、【七】下劣の人は是の學を作すこと能はず。是の如く學する者を生死に沈沒する衆生を拔かんと欲すと爲す。菩薩摩訶薩是の如く學せば、終に地獄餓鬼畜生に墮せず、終に邊地に生ぜず、終に旃陀羅の家に生ぜず、終に聾盲瘖瘂拘躄とならず、諸根缺けず、眷屬成就して終に孤窮ならず。菩薩是の如く學せば、終に殺生せず、乃至終に邪見ならず。是の如く學せば、【八】邪命活を作さず、【九】惡人及び破戒者を攝せず。是の如く學せば、方便力を以て

【四】擁護の法。福智慧成就して諸佛菩薩諸天人守護するを云ふ。
【五】開甘露門。甘露とは不死の無爲涅槃なり、門は三解脫門なり、これを說くを開とす。
【六】無爲性。無爲性とは如法性實際なり。
【七】下劣の人。懈怠放逸にして佛法を樂まざるもの。
【八】邪命活。俯仰方維の四邪生活、又は賣卜・賣毒・酤酒・離間便佞の生活。
【九】惡人。心惡なる者。破戒。身口非律にして惡なる者。

の故に長壽天に生ぜず。何等か是れ方便力なるや、般若波羅蜜品の中に說ける所の如し。菩薩摩訶薩、方便力を以ての故に、四禪四無量心四無色定に入り、禪無量無色定に隨ひて生ぜず。須菩提、菩薩是の如く學せば、一切法中清淨 謂ゆる〔一〇〕淨聲聞辟支佛心を得。

〔一一〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、一切法本性清淨なり。云何が菩薩一切法中清淨を得と言ふや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、一切諸法本性清淨なり。若し菩薩摩訶薩、是の法中に於て心通達して沒せざれば、卽ち是れ般若波羅蜜なり。是の如きの諸法一切凡夫人知らず見ず。菩薩摩訶薩は是の衆生の爲の故に檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を行じ、四念處乃至一切種智を行ず。須菩提、菩薩是の如く學せば、一切法中に於て智力を得、畏るる所無し。是の如く學するを一切衆生の心の趣向する所を了知すと爲す。譬へば大地少所の處金銀珍寶を出すが如し。須菩提、衆生も亦是の如く、少所の人能く般若波羅蜜を學し、多くは聲聞辟支佛地に墮す。須菩提、譬へば少所の人轉輪聖王の業を受行し、多くは小王の業を受行するが如し。是の如く須菩提、少所の衆生、般若波羅蜜を行じ一切智を求め、多くは聲聞辟支佛道を行ず。須菩提、諸の菩薩訶摩薩發心して阿耨多羅三藐三菩提を求むる中に、少く說の如く行ずるものあり、多くは聲聞辟支佛地に住す。多く菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるもの有るも、方便力無きが故に、少所の人阿鞞跋致地に住す。須菩提、是を

【一〇】淨聲聞。淨とは捨離無所有にして、二乘を過ぐるを云ふ。

【一一】般若の淸淨通達を得るものを明す。

以ての故に、菩薩摩訶薩、阿鞞跋致地に住せんと欲し、阿鞞跋致數中に住せんと欲せば、應に是の深般若波羅蜜を學すべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は是の般若波羅蜜を學する時慳貪心を生ぜず、破戒瞋恚懈怠散亂愚癡心を生ぜず、諸餘の過失心を生ぜず、取色相心、取受想行識相心を生ぜず、取四念處相心を生ぜず、乃至取阿耨多羅三藐三菩提相心を生ぜず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は是の深般若波羅蜜を行ずるも、法の得べきもの有ること無ければなり。不可得を以ての故に、諸法に於て心取相を生ぜず。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く深般若波羅蜜に學し、諸波羅蜜を總攝して、諸波羅蜜をして諸波羅蜜を增長し、悉く隨從せしむ。何を以ての故に、須菩提、是の深般若波羅蜜に諸波羅蜜悉く中に入ればなり。須菩提、譬へば我見中に悉く（三）六十二見を攝するが如し。是の如く須菩提、是の深般若波羅蜜悉く諸波羅蜜を攝す。須菩提、譬へば人死すれば命根滅するが故に、餘根悉く隨滅するが如し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜悉く隨從す。須菩提、菩薩摩訶薩、諸波羅蜜をして彼岸に度せしめんと欲せば、應に深般若波羅蜜を學すべし。

（三）須菩提、菩薩摩訶薩の是の深般若波羅蜜を學する者、一切衆生の上に出づ。須菩提、汝の意に於て云何、三千大千世界中の衆生多きや不や。』須菩提言さく、『一閻浮提中の衆生尙ほ多し、何に況ん

【三】六十二見。長阿含梵網經等に出づる本劫本見の十八と末劫末見の四十四となり。我見は斷常となり、五見となり、其世間常無常前後等にて諸見となる。

【三】希有最勝なる眞の般若行を說く。

や三千大千世界をや。』佛須菩提に告げ給はく、『若し三千大千世界中の衆生一時に皆人身を得、悉く阿耨多羅三藐三菩提を得たらんに、若し菩薩ありて形壽を盡し、爾の所の佛に衣服飲食臥具湯藥資生の所須を供養せば、須菩提、汝の意に於て云何、是の人是の因緣を以ての故に、福德を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『甚だ多し甚だ多し。』佛言はく、『是の善男子善女人、般若波羅蜜を學し、說の如く行じ、正憶念するの福を得ること多きには如かず。何を以ての故に、般若波羅蜜は勢力ありて、能く菩薩摩訶薩をして阿耨多羅三藐三菩提を得しむればなり。須菩提、是を以ての故に菩薩摩訶薩、一切衆生の上に出でんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。救護無き衆生の爲に救護を作さんと欲し、歸依無き衆生の與に歸依を作さんと欲し、究竟道無き衆生の與に究竟道を作さんと欲し、盲者の爲に目を作さんと欲し、佛の功德を得んと欲し、諸佛の自在遊戲を作さんと欲し、諸佛の師子吼を作さんと欲し、佛の鐘鼓を撞擊せんと欲し、佛の【一四】貝を吹かんと欲し、佛の高座に昇りて法を說かんと欲し、一切衆生の疑を斷せんと欲せば、當に深般若波羅蜜を學すべし。須菩提、菩薩摩訶薩若し深般若波羅蜜を學せば、諸の善功德事として得ざるもの無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、寧ろ復聲聞辟支佛の功德を得るや不や。』佛言はく、『聲聞辟支佛の功德も皆能く得、但中に於て住せざるのみ。智を以て觀じ已りて、直ちに過ぎて菩薩位中に入る。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く學せば、薩婆若に近づき、疾く阿耨多羅三藐三菩提を

【一四】貝。法螺なり。或は唄に作る。

得。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く學せば、一切世間の天及び人阿脩羅の爲に福田を作す。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く學せば、諸の聲聞辟支佛の福田の上を過ぎて、疾く薩婆若に近づく。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く學する、是を般若波羅蜜を捨せず離せず、常に般若波羅蜜を行ずと名く。須菩提、菩薩摩訶薩是の如く深般若波羅蜜を學せば、當に知るべし是れ不退轉の菩薩なり、疾く薩婆若に近づき、聲聞辟支佛を遠離して、阿耨多羅三藐三菩提に近づくと。須菩提、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、若し是の念をなす、是れ般若波羅蜜なり、我れ是の般若波羅蜜を以て一切種智を得と、若し是の如く念ずるを般若波羅蜜を行ずと名けず。須菩提、若し是の念を作さず、是れ般若波羅蜜なり、是の人般若波羅蜜有り、是れ般若波羅蜜法なり、是の人は是の般若波羅蜜を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得と。是を般若波羅蜜を行ずと名く。須菩提、若し菩薩是の念を作す、是の般若波羅蜜なく、人の是の般若波羅蜜有る無く、是の般若波羅蜜を行じて、阿耨多羅三藐三菩提を得るもの有ること無しと。何を以ての故に、一切法如法性實際常住の故に、是の如く行ずる、是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずと名く。』

(一)願樂隨喜品第六十四

(二)爾の時、釋提桓因是の念を作す、(三)「菩薩摩訶薩は般若波羅蜜、禪那波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜乃至十八不共法を行ずる時、一切衆生の上に出づ、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提を得る時をや。(四)是の諸の衆生にして、是の薩婆若を聞き信解する者は、人中の善利(五)壽命の最を得、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提の意を發すをや。是の衆生能く阿耨多羅三藐三菩提の意を發せば、其の餘の衆生應に當に願樂すべし」と。爾の時、釋提桓因は天の曼陀羅華を以て佛の上に散じ、是の言を發す、『是の福德を以て、若し阿耨多羅三藐三菩提を求むる者有れば、此の人をして佛法を具足し、一切智を具足し、自然法を具足せしむ。若し聲聞を求むる者には聲聞法を具足せしむ。世尊、若し菩薩有りて阿耨多羅三藐三菩提の意を發せば、我れ終に一念を生じて其をして轉還せしめず、我れ亦一念を生じて其をして轉還し、聲聞辟支佛地に墮せしめず。世尊、我れ願くは諸の菩薩、倍復阿耨多羅三藐三菩提に於て精進し、衆生生死の中の種種の苦惱を見、一切世間の天及び人阿脩羅を利益し安樂にせんと欲す、是の心を以て是の

【一】品目、丹本隨喜品、麗本淨願品、大論願樂品に作る。隨喜の德を明し如幻無分別の成佛あるを示す。大論第七十八。
【二】發心菩薩の勝德を隨喜することを明す。
【三】行菩薩道の但發心に勝ることを說く。
【四】未發心に比して發心の勝れたることを說く。
【五】壽命。命に命根と慧命とあり、慧命を得るを壽命の最とす。

願を作す。我れ既に自ら度す、亦當に未だ度せざる者を度すべし。我れ既に自ら脱す、當に未だ脱せざる者を脱すべし。我れ既に安隱なり、當に未だ安らかならざる者を安んずべし。我れ既に滅度す、當に未だ滅度に入らざる者をして滅度を得しむべしと。世尊、善男子善女人は、初發意菩薩の功德を隨喜する心に於て、幾許の福德を得るや。久發意菩薩の功德を隨喜する心に於て、幾許の福德を得るや。阿鞞跋致菩薩の功德を隨喜する心に於て、幾許の福德を得るや。一生補處の菩薩の功德を隨喜する心に於て、幾許の福德を得るや。」佛釋提桓因に告げて言はく、「憍尸迦、四天下の國土は斤兩を稱知すべきも、是の隨喜の福德は稱量すべからず。復次に憍尸迦、是の三千大千國土は皆斤兩を稱知すべきも、是の隨喜心の福德は稱量すべからず。復次に憍尸迦、三千大千國土の中に滿つる海水、一髮を取り破して百分と爲し、一分の髮を以て海水を渧取するに、(六)渧數を知るべきも、是の隨喜心の福德は數を知るべからず。」釋提桓因佛に白して言さく、「世尊、若し衆生にして心に阿耨多羅三藐三菩提を隨喜せざる者は、皆是れ魔の眷屬なり。(七)諸心にして隨喜せざる者は魔中より來り生ず。何を以ての故に、世尊、是の諸の隨喜心を發せる菩薩は、魔の境界を破せんが爲の故に生ずればなり。是の故に(八)三尊を愛敬せんと欲する者は、應に隨喜心を生ずべし、隨喜し已て應に阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし、(九)不一不二相なるを以て

【六】渧。或は滴に作る、同じ。
【七】諸心。隨喜せざる者の諸惡心積集するを云ふ。
【八】三尊。三世の諸尊、又は初發心、久發心、不退菩薩。
【九】不一不二。諸法定相を見ず、故に不一なり。隨喜心廻向心を分別せず、不二なり。

の故に。』佛言はく、『是の如し是の如し、憍尸迦、若し人有り、菩薩に於て、心に能く是の如く隨喜し廻向せば、常に諸佛に値ひ、終に惡色を見ず、終に惡聲を聞かず、終に惡香を嗅がず、終に惡味を食はず、終に惡觸に觸れず、終に惡念に隨はず、終に諸佛を遠離せず、一佛國より一佛國に至り、諸佛に親近して善根を種う。何を以ての故に、善男子善女人は、無量阿僧祇の初發意の菩薩の爲に諸善根を隨喜し廻向し、無量阿僧祇第二地第三地乃至第十地一生補處の諸の菩薩摩訶薩の善根を隨喜して阿耨多羅三藐三菩提に廻向すればなり。是の善根の因緣を以ての故に、疾く阿耨多羅三藐三菩提に近づく。是の諸の菩薩は、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、無量無邊阿僧祇の衆生を度す。憍尸迦、是の因緣を以ての故に、善男子善女人は、初發意菩薩の善根に於て應に隨喜して、阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべきも、心に非ず心を離るるに非ず。久發意阿惟越致一生補處の善根に於て隨喜して、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するも、心に非ず心を離るるに非ず。』

(10)須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の心は幻の如し。云何が能く阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛須菩提に告げ給はく、『汝の意に於て云何、汝是の心の幻の如くなるを見るや不や。』『不とよ世尊。我れ幻を見ず、亦心の幻の如くなるを見ず。』『須菩提、汝の意に於て云何、若し幻無く、亦心の幻の如くなる無くんば、汝是の心を見るや不や。』『不とよ、世尊。』『須菩提、汝の意に於て云何、幻を離れ、心の幻の如くなるを離れて、汝更に

【一〇】如幻の心成佛することを明す。

法の阿耨多羅三藐三菩提を得ること有るを見るや不や。』『不とよ、世尊。我れ幻を離れ、心の幻の如くなるを離れて、更に法の阿耨多羅三藐三菩提を得ること有るを見ず。世尊、我れ更に法有るを見ず。何等の法か若は有なり、若は無なりと說くべけんや。是の法相畢竟離なるが故に、有に墮せず、無に墮せず。若し法の亦畢竟離なる者、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はずんば、無所有の法も亦阿耨多羅三藐三菩提を得べからず。何を以ての故に。世尊、一切の法は無所有にして、是の中に垢者無く淨者無ければなり。世尊、是を以ての故に、般若波羅蜜は畢竟離なり、禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜も畢竟離なり、乃至阿耨多羅三藐三菩提も亦畢竟離なり。若法畢竟離なれば則ち修すべからず壞すべからず。般若波羅蜜を行ずるも亦法の得べきもの有ること無し、畢竟離なるが故に。世尊、般若波羅蜜畢竟離なれば、云何が般若波羅蜜に因て、阿耨多羅三藐三菩提を得るや。阿耨多羅三藐三菩提も亦畢竟離なり。〔二〕二離の中云何が能く所得有らん。』佛須菩提に告げたまはく、『善い哉、善い哉、是の般若波羅蜜は畢竟離なり、禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜も畢竟離なり、乃至一切種智も畢竟離なり。須菩提、若し般若波羅蜜畢竟離、乃至一切種智畢竟離なれば、是を以ての故に、能く阿耨多羅三藐三菩提を得。須菩提、若し般若波羅蜜畢竟離に非ず、乃至一切種智畢竟離に非ざれば、是を般若波羅蜜と名けず、禪那波羅蜜乃至一切種智と名けず。須菩提、若し般若波羅蜜畢竟離、乃至一切種智

【二】二離。能得も畢竟離、所得も畢竟離なるを云ふ。

畢竟離なれば、是を以ての故に、須菩提、般若波羅蜜に因て阿耨多羅三藐三菩提を得ざるに非ざるも、亦離を以て離を得ず、而も阿耨多羅三藐三菩提を得るは、般若波羅蜜に因らざるに非ず。』

(三)須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩の行ずる所の義は甚深なり。』佛言はく、『是の如し、須菩提、菩薩摩訶薩の行ずる所の義は甚深なり。須菩提、諸の菩薩摩訶薩は能く難事を爲す、謂ゆる是の深義を行じて、而して聲聞辟支佛地を證せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、我が佛に從ひて聞く義の如くんば、菩薩摩訶薩の行ずる所(三)難しと爲さず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は、是の義を得て證を作すべからず、亦般若波羅蜜を得て證を作さず、亦證を作す者も無ければなり。世尊、若し一切法得べからざれば、何等か是の義證を作す可く、何等か是の般若波羅蜜證を作し、何等か是れ證を作す者にして、證を作し已て阿耨多羅三藐三菩提を得んや。世尊、是を菩薩摩訶薩の無所得行と名く。菩薩は是を行じて、一切法に於て皆明了なることを得。世尊、若し菩薩摩訶薩、是の法を聞きて心驚かず沒せず、怖かず畏れざれば、是を名けて般若波羅蜜を行ずと爲す。是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、我れ般若波羅蜜を行ずるを見ず、亦是の般若波羅蜜を見ず、亦我れ當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきを見ず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、是の念を作さざればなり。聲聞辟支佛地は我を去ること遠く、薩婆若は我を去るこ

【三】畢竟離を行ずる甚深なるを明す。多喩を擧げて無分別を示す。

【三】難しと爲さず。これ第一義より云ふ。前に甚深難事とせるは俗諦なり。

と近しと。世尊、譬へば虚空の是の念を作さざる如し、法有り我を去ること遠く、我を去ること近しと。何を以ての故に、世尊、虚空は分別無きが故に。世尊、般若波羅蜜を行ずる菩薩も亦是の念を作さず、聲聞辟支佛地は我を去ること遠く、薩婆若は我を去ること近しと。何を以ての故に、般若波羅蜜の中には分別無きが故に。世尊、譬へば幻人の是の念を作さざるが如し、幻師は我を去ること近く、觀人は我を去ること遠しと。何を以ての故に、幻人は分別無きが故に。般若波羅蜜を行ずる菩薩も是の念を作さず、聲聞辟支佛地は我を去ること遠く、薩婆若は我を去ること近しと。世尊、譬へば鏡中の像の是の念を作さざるが如し、(四)所因の者は我を去ること近く、餘の者は我を去ること遠しと。何を以ての故に、像は分別無きが故に。般若波羅蜜を行ずる菩薩も亦是の念を作さず、聲聞辟支佛地は我を去ること遠く、薩婆若は我を去ること近しと。何を以ての故に、般若波羅蜜の中には分別無きが故に。世尊、般若波羅蜜を行ずる菩薩は、愛無く憎無し。何を以ての故に、般若波羅蜜の自性得べからざるが故に。世尊、譬へば佛の愛無く憎無きが如く、般若波羅蜜を行ずる菩薩の愛無く憎無きも、亦是の如し。何を以ての故に、般若波羅蜜の中には憎無く愛無きが故に。世尊、譬へば佛の一切の分別想斷ずるが如く、般若波羅蜜を行ずる菩薩も、亦是の如く一切分別想斷ず、畢竟空なるが故に。世尊、譬へば佛所化の人の是の念を作さざるが如し。聲聞辟支佛、我を去ること遠く、阿耨多羅三藐三菩提は我を去ること近しと。何を以ての故に、佛所

【四】所因の者。鏡前に在りて影を映ずるものを云ふ。

化の人は分別無きが故に。般若波羅蜜を行ずる菩薩も亦是の如く、是の念を作さず、聲聞辟支佛は我を去ること遠く、阿耨多羅三藐三菩提は我を去ること近しと。世尊、譬へば人の所爲有るが故に化を作すも、化の所作の事分別無きが如く、世尊、般若波羅蜜も亦是の如く、所爲の事有りて、而して是の事を修し成就す、而して般若波羅蜜も亦分別無し。世尊、譬へば工匠、若は工匠の弟子、所爲有るが故に、木人、若は男若は女、象馬牛羊を作る、是所作も亦能く所作有り、是の牛馬も亦分別無きが如く、世尊、般若波羅蜜も亦是の如く、所爲有るが故に、是事を説き成就す、而して般若波羅蜜も分別無きなり。』

〔二五〕舍利弗、須菩提に問へらく、『但だ般若波羅蜜のみ分別無きや、禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜も亦分別無きや。』須菩提、舍利弗に語る、『禪那波羅蜜分別無し、乃至檀那波羅蜜も亦分別無し。』舍利弗、須菩提に問へらく、『色分別無く、乃至識も亦分別無く、眼乃至意も分別無く、色乃至法も分別無く、眼識觸乃至意識觸も分別無く、眼觸因緣生の受、乃至意觸因緣生の受、四禪四無量心四無色定、四念處乃至八聖道分、空無相無作、佛の十力四無所畏四無礙智、大慈大悲十八不共法、阿耨多羅三藐三菩提、無爲性も亦分別無し。須菩提、若し色分別無く、乃至無爲性分別無く、若し一切法分別無ければ、云何が分別して六道生死有りや、是れ地獄、是れ餓鬼、是れ畜生、是れ天、是れ阿脩羅なりと。云何が是れ須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、諸佛と分別するや。』須菩提、舍利弗に報ふ、『衆生顚倒の因緣の故に、身口意業を造作し、〔二六〕本業報に隨

〔二五〕諸法無分別にして迷悟あるを明す。

ひて六道身―地獄餓鬼畜生人天阿脩羅の身―を受く。』「汝の言ふ如くんば、云何が分別して須陀洹乃至佛道有るや。』『舍利弗、須陀洹は卽ち是れ分別無きが故に有り、須陀洹果も亦是れ分別無きが故に有り、乃至阿羅漢阿羅漢果、辟支佛辟支佛道、佛佛道も亦是れ分別無きが故に有り。舍利弗、過去の諸佛も亦是れ分別無く、分別を斷ずるが故に有り。是を以ての故に、舍利弗、當に知るべし、一切法分別有ること無しと、不壞相諸法如法性實際の故に。舍利弗、是の如く菩薩摩訶薩は、應に無分別般若波羅蜜を行じ、無分別般若波羅蜜を行じ已りて、便ち無分別阿耨多羅三藐三菩提を得べし。』

【一六】欲本業報。貪欲を根本とせる業の果。

(一)度空品第六十五

(二)舍利弗、須菩提に語るらく、『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるを(三)眞實法を行ずと爲すや、無眞實法を行ずと爲すや。』須菩提、舍利弗に報ゆらく、『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる、無眞實法を行ずと爲す。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は(四)無眞實法、乃至一切種智は無眞實なるが故に。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずるも無眞實得べからず、何に況んや眞實をや。乃至一切種智を行ずるも無眞實法得べからず、何に況んや眞實法をや。』爾の時、欲色界の諸天子是の念を作す、「諸の善男子善女人有りて、阿耨多羅三藐三菩提の意を發し、深般若波羅蜜に說く所の義の如く行じ、等法に於て實際證を作さず、聲聞辟支佛地に墮せず、應に當に爲に禮を作すべし」と須菩提、諸天子に語るらく、『諸の菩薩摩訶薩は、等法に於て聲聞辟支佛地を證せざるを難しと爲さず。諸の菩薩摩訶薩は大莊嚴し、我れ當に無量無邊阿僧祇の衆生を度すべし、衆生の畢竟不可得なることを知て而も衆生を度す、是を則ち難しと爲す。諸天子、諸の菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三

【一】品目、宋本丹本大論稱揚品に作る。初に衆生なくして衆生を度すること虛空を度するが如しとする故に度空と云ひ、次に魔能く壞せざる因緣を明し、諸天諸佛菩薩の稱揚を說く、故に名とす。大論第七十八、七十九。

【二】眞不眞得べからずして等法なり、衆生得べからずして能く衆生を度するは菩薩の難行たるを明す。

【三】眞實法は決定不變にして取著すべきものあり、無眞實は虛誑妄語なり。眞不眞倶に過あるを以て問ふ。

【四】無眞實。空にして定相なく無分別なるを云ふ。

菩提心を發して是の願を作す、我れ當に一切の衆生を度すべしと。衆生實に得べからざれば、是の人の衆生を度せんと欲するは、虛空を度せんと欲するが如し。何を以ての故に、虛空離なるが故に、當に知るべし、衆生も亦離なりと。虛空空なるが故に、當に知るべし、衆生も亦空なりと。虛空堅固なる無し、當に知るべし、衆生も亦堅固なること無しと。虛空虛誑なり、當に知るべし、衆生も亦虛誑なりと。諸天子、是の因緣を以ての故に、當に知るべし、菩薩の作す所を難しと爲すと。無所有の衆生を利益せんが爲の故に而も大莊嚴すればなり。是の人は衆生の爲に誓を結び、虛空と共に鬪はんと欲することを爲す。是の菩薩は誓を結び已るも亦衆生を得ず、而も衆生の爲に誓を結ぶ。何を以ての故に、衆生離なるが故に、當に知るべし、大誓も亦離なりと。衆生虛誑なるが故に、當に知るべし、大誓も亦虛誑なりと。若し菩薩摩訶薩、是の法を聞きて心驚かず沒せざれば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずと。何を以ての故に、色の離なる卽ち是れ衆生の離なり、受想行識の離なる卽ち是れ衆生の離なり、色の離なる卽ち是れ六波羅蜜の離なり、受想行識の離なる卽ち是れ六波羅蜜の離なり、乃至一切種智の離なる卽ち是れ六波羅蜜の離なればなり。若し菩薩摩訶薩、是の一切諸法の離相を聞きて、心驚かず沒せず、怖かず畏れざれば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずと。』

（五）佛須菩提に告げたまはく、『何の因緣の故に、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜の中に於て、心沒せざるや。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、般若波

【五】般若を行じて心沒せざる者は、佛の如く敬禮せらるることを明す。

羅蜜無所有なるが故に沒せず、般若波羅蜜離なるが故に沒せず、般若波羅蜜寂滅なるが故に沒せず。世尊、是の因緣を以ての故に、菩薩は深般若波羅蜜の中に於て、心沒せざるなり。何を以ての故に、是の菩薩、沒者を得ず、沒事を得ず、沒處を得ず。是の一切法皆得べからざるが故に。世尊、若し菩薩摩訶薩、是の法を聞きて心驚かず沒せず、怖かず畏れざれば、當に知るべし、是の菩薩は般若波羅蜜を行ずと爲すと。何を以ての故に、沒者沒事沒處、是の法皆得べからざるが故に。菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行ずれば、諸天及び釋提桓因天、梵天王天及び〔六〕世界主天皆爲に禮を作す。』佛須菩提に告げたまはく、『但だ釋提桓因、諸天梵王及び諸天世界主、及び諸天の禮するのみならず、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずれば、是の上を過ぎたる光音天徧淨天廣果天淨居天、皆是の菩薩摩訶薩の爲に禮を作す。須菩提、今現に在ます十方無量の諸佛も亦是の般若波羅蜜を行ずる菩薩摩訶薩を念ず。當に知るべし、是の菩薩を佛の如しと爲すと。須菩提、若し如恒河沙等の世界の中の衆生をして悉く魔と爲らしめ、是の一一の魔、復魔を化作し、如恒河沙等の魔たるとも、是の一切の魔も菩薩の般若波羅蜜を行ずるを留難すること能はず。

〔七〕須菩提、菩薩摩訶薩は二法を成就し、魔壞すること能はず。何等をか二とす。〔八〕一切法空を觀ず

【六】世界主天。大梵天を娑婆世界主と云ふ。大論には欲界の餘天主、衆生多く此天ありと信ずとせり。

【七】魔の壞する能はざる因緣を明す。大論第七十九。

【八】一切法空等。空觀は慧眼により一切衆生を捨てざるは法眼による慈悲なり。これを悲空二道とも云ふ。

ると、一切衆生を捨てざるとなり。須菩提、菩薩此の二法を成就し、魔壞すること能はざるなり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は復二法有りて成就し、魔壞すること能はず。何等をか二とす、(九)所作言ふ所の如くなると、亦諸佛の念ずる所たるとなり。菩薩此の二法を成就し、魔壞すること能はず。須菩提、菩薩是の如く行ぜば、是の(一〇)諸天皆菩薩の所に來到して親近し、諮問し勸喩し、安慰して是の言を作す、(一一)善男子、汝疾に阿耨多羅三藐三菩提を得る久しからず。善男子、汝常に當に是の空無相無作の行を行ずべし。何を以ての故に、善男子、汝是の行を行ぜば、無護の衆生の爲に汝(一二)護と作り、無依の衆生の爲に依と作り、無救の衆生の爲に救と作り、無究竟道の衆生の爲に究竟道と作り、無歸の衆生の爲に歸と作り、無洲の衆生の爲に洲と作り、冥者の爲に明と作り、盲者の爲に眼と作ればなり。(一三)何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずるに、十方現在の無量阿僧祇の諸佛、大衆中に在まして法を説きたまふ時、自ら是の菩薩摩訶薩の名姓を讃歎し稱揚して言はく、「某甲菩薩は般若波羅蜜の功德を成就す」と。須菩提、我れ今法を説く時、自ら(一四)寶相菩薩(一五)尸棄菩薩を稱揚するが如く、復諸の菩薩摩訶薩有り、阿閦佛國中に在りて般若波羅蜜を行じ梵行を淨修せば、我も亦是の菩薩の名

【九】所作言ふ所の如く。言行實なり。妄語人は諸天輕賤し金剛神守護せず。

【一〇】二道雙修し言行眞實なるを諸天稱揚安慰するを明す。

【一一】諸天授記する力なきも長壽により、諸佛授記を知るを以てこの言をなす。

【一二】護救等。第五十二品に說く、參照。

【一三】諸佛念じて稱揚するを明す。

【一四】寶相等。大論には二菩薩稱揚の經說は譯傳はらず、これ未得忍にして能く得忍に似、大悲深くして速に作佛を期せざる大士なりとす。

【一五】尸棄(Sikhin)譯、持髻。

姓を稱揚す。須菩提、亦東方現在の諸佛の法を說く時、是の中に菩薩摩訶薩有りて梵行を淨修せば、佛も亦歡喜して自ら是の菩薩を稱揚し讚歎するが如く、南西北方四維上下も亦是の如し。復菩薩有りて初發意より佛道を具足し、乃至一切種智を得んと欲す。諸佛の法を說きたまふ時も亦歡喜し、自ら是の菩薩を稱揚し讚歎す。何を以ての故に、是の諸の菩薩摩訶薩の行ずる所甚だ難くして、佛種行を斷ぜざればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等の菩薩摩訶薩か、諸佛の法を說きたまふ時、自ら讚歎し稱揚するや。』佛須菩提に告げ給はく、『阿鞞跋致の菩薩、諸佛の法を說きたまふ時、自ら讚歎し稱揚す。』須菩提言さく、『何等の阿鞞跋致の菩薩か、佛の讚する所と爲るや。』佛言はく、『阿閦佛の菩薩たりし時、行ぜられ學せられしが如く、諸の菩薩も亦是の如く學す。是の諸の阿鞞跋致の菩薩、諸佛の法を說きたまふ時、歡喜して自ら讚歎す。復次に須菩提、菩薩有りて般若波羅蜜を行じ、一切の法の無生なることを信解するも、未だ無生忍法を得ず。一切の法の空なることを信解するも、未だ無生忍法を得ず。一切の法の虛誑不實無所有不堅固なることを信解するも、未だ無生忍法を得ず。須菩提、是の如き等の諸の菩薩摩訶薩、諸佛の法を說きたまふ時、歡喜して自ら讚歎せば、是の菩薩は聲聞辟支佛地を滅し、當に阿耨多羅三藐三菩提の記を得べし。須菩提、若し菩薩摩訶薩、諸佛の法を說きたまふ時、歡喜して自ら讚歎せば、是の菩薩は當に阿鞞跋致地に住すべし。是の地に住し已りて當に薩婆若を得べし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は是の深般若波羅蜜を聞く時、其の心明利にして疑は

ず悔いず、是の念を作す、是の事佛の說きたまふ所の如しと。是の菩薩も亦當に阿閦佛及び諸菩薩の所に於て、廣く是の深般若波羅蜜を聞きて、亦信解すべし。信解し已りて佛の說きたまふ所の如く當に阿鞞跋致地に住すべし。是の如く須菩提、但だ般若波羅蜜を聞くのみにして大利益を得。何に況んや信解し、信解し已りて說の如く住し、說の如く行じ、說の如く住し說の如く行じ已りて、一切種智の中に住するをや。』

〔二六〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し佛說の菩薩摩訶薩、所說の如く住し、所說の如く行じて薩婆若に住するも、若し菩薩摩訶薩、所得の法無ければ、云何が薩婆若に住するや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は諸法如の中に住して薩婆若に住す。』須菩提言さく、『世尊、如を除きて更に法の得べき無し、誰か如の中に住し、如の中に住し已りて當に阿耨多羅三藐三菩提を得べけんや、誰か如の中に住して當に說法すべけんや、如も尙得べからず、何に況んや如に住して阿耨多羅三藐三菩提を得るをや、誰か如の中に住して、而して法を說かん、是の處有ること無し。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の言ふ所の如く、如を除きて更に法の得べき無し、誰か如の中に住し、如の中に住し已りて當に阿耨多羅三藐三菩提を得べけんや、誰か如の中に住して當に法を說くべけんや、如も尙得べからず、何に況んや如に住して阿耨多羅三藐三菩提を得るをや、誰か如の中に住して而して法を說かんや、是の處有ること無しとは。』佛言はく、『是の

【二六】無所得にして一切智に住する義を明す。

如し是の如し、須菩提、如を除きて更に法の得るべきもの有ること無し、誰か如の中に住し、如の中に住し已りて當に阿耨多羅三藐三菩提を得べけんや、誰か如の中に住して當に法を說くべけんや、如も尙得べからず、何に況んや如に住して阿耨多羅三藐三菩提を得るをや、誰か如の中に住して而して法を說かんや。何を以ての故に、是の如の生得べからず、滅得べからず、住異得べからず。若し法、生滅住異得べからざれば、是の中誰か當に如に住すべき、誰か當に如に住し已りて阿耨多羅三藐三菩提を得、誰か當に如に住して而して法を說くべけんや。是の處有ること無ければなり。』釋提桓因佛に白して言さく『世尊、諸の菩薩摩訶薩の爲す所は甚だ難くして、深般若波羅蜜の中に阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲す。何を以ての故に、世尊、如の中に住する者有ること無く、亦當に阿耨多羅三藐三菩提を得べき者も無く、亦法を說く者無きも、菩薩摩訶薩は是の處に於て心驚かず沒せず、怖かず畏れず、疑はず悔いざればなり。』爾の時、須菩提、釋提桓因に語るらく、『汝憍尸迦、菩薩摩訶薩の爲す所は甚だ難く、是の甚深法中に心驚かず沒せず、怖かず畏れず、疑はず悔いずと說く」憍尸迦、諸法空の中、誰か驚き、誰か沒し、誰か怖き、誰か畏れ、誰か疑ひ、誰か悔ゆるや。』是の時、釋提桓因、須菩提に語るらく、『須菩提の說く所[二七]但だ空事のみと爲し、

【二七】 但だ空事。色等餘事を說くも義皆空に歸す。

【二八】 罣礙無し。如何なる難問を以ても妨破する能はず。

【二九】 箭。須菩提の智慧に喩ふ。矢勢盡きて墮つるも空は盡くるにあらず、說法因緣辨了するのみ、智塞ぎ法盡くるに非ず。

【三〇】 帝釋須菩提の無礙を讚ず。大論に依らば「法の無礙なることを說く」となすべし。

(一八)罣礙する所無し。譬へば仰いで空中に射るに、(一九)箭去て礙ぐる無きが如し。須菩提の(二〇)説法の無礙なることも亦是の如し。」

(一)卷の第二十

(二)囑累品第六十六

(三)爾の時、釋提桓因佛に白して言さく、『世尊、我れ是の如く說き是の如く答ふるを、法に隨順すと爲すや不や、正答と爲すや不や。』佛、釋提桓因に告げて言はく、『憍尸迦、汝の說く所も答ふる所も實に皆隨順す。』釋提桓因言さく、『希有なり、世尊、須菩提の樂說する所皆是を空と爲し、無相無作と爲し、(四)四念處と爲し、乃至阿耨多羅三藐三菩提と爲す。』佛、釋提桓因に告げて言はく、『須菩提比丘の空を行ずる時、檀那波羅蜜得べからず、何に況んや檀那波羅蜜を行ずる者をや。乃至般若波羅蜜得べからず、何に況んや般若波羅蜜を行ずる者をや。四念處得べからず、何に況んや四念處を修する者をや。乃至八聖道分得べからず、何に況んや八聖道分を修する者をや。禪解脫三昧定得べからず、何に況んや禪解脫三昧定を修する者をや。佛の十力得べからず、何に況んや佛の十力を修する者をや。四無所畏得べからず、何に況んや能く四無所畏を生

【一】宋元明本卷第二十二に作る。

【二】品目麗本宋本累教品に作る。前來般若の體用と機の障德とを三周廣說し、此に般若道を付囑するなり。

【三】帝釋前品に讃說する所正しきやを問ふ。佛これを印可し、須菩提の深空を示し、更に行般若菩薩の優れるを示す。

【四】四念處等。念處乃至菩提も空無相無作とするを云ふ。

ずる者をや。四無礙智得べからず、何に況んや四無礙智を生ずる者をや。大慈大悲得べからず、何に況んや大慈大悲を行ずる者をや。十八不共法得べからず、何に況んや十八不共法を生ずる者をや。阿耨多羅三藐三菩提得べからず、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提を得る者をや。一切智得べからず、何に況んや一切智を得る者をや。如來得べからず、何に況んや當に如來と作るべき者をや。無生法得べからず、何に況んや無生法を得て證を作す者をや。三十二相得べからず、何に況んや三十二相を得る者をや。八十隨形好得べからず、何に況んや八十隨形好を得る者をや。何を以ての故に、憍尸迦、(五)須菩提比丘の一切法(六)離行、一切法無所得行、一切法空行、一切法無相行、一切法無作行なればなり。憍尸迦、是を須菩提比丘の所行と爲す。菩薩摩訶薩の般若波羅蜜行に比せんと欲せば、百分して一にも及ばず、千分千萬億分乃至譬喩の及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に、佛行を除きて是の菩薩摩訶薩の行ずる般若波羅蜜は、(七)聲聞辟支佛の諸行中に於て最尊最妙最上なればなり。是を以ての故に、菩薩摩訶薩、一切衆生の中に於て最上を得んと欲せば、當に是の般若波羅蜜行を行ずべし。何を以ての故に、憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入り、能く佛法を具足し、一切種智を得、一切煩惱の習を斷じて作佛すべければな

【五】須菩提世世空を行じ、此を以て衆生を教化し、深空に入るが故に、法を得ず人を得ざるを説く。

【六】離行等、諸法實相に相應するなり。

【七】二乘所行は菩薩の如く慈悲心、度生心、淨佛土、無量佛法、轉法輪、無餘涅槃、遺法度生、三世度生等なきを以て劣る。

り。』

（八）是の會中、諸の三十三天、天の曼陀羅華を以て佛及び僧に散ず。是の時、八百の比丘、座より起て華を以て佛に散じ、偏袒右肩し、合掌して右膝を地に著け、佛に白して言さく、『世尊、我等は當に是の無上の行を行ずべし。聲聞辟支佛の行ずること能はざる所なればなり。』爾の時、佛は諸比丘の心行を知り、便ち（九）微笑したまふ、諸佛の法の如く種種の色光青黄赤白紅縹、口の中より出でて徧く三千大千世界を照し、佛を遶ること三帀にして還て頂より入る。爾の時阿難偏袒右肩して、右膝を地に著け、佛に白して言さく、『世尊、何の因縁もて微笑したまふや。諸佛は無因縁を以ては笑みたまはざればなり。』佛阿難に告げたまはく、『是の八百の比丘は、星宿劫中に於て、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、佛散華と名け皆同一の字なり。比丘僧の國土、壽命、皆等しくして各十萬歳を過ぎ、出家し、作佛す。是の時、諸の國土は常に（一〇）五色の天華を雨らす。是を以ての故に、阿難、菩薩摩訶薩、最上の行を行ぜんと欲せば、應に當に般若波羅蜜を行ずべし。』

（一一）佛阿難に告げたまはく、『若し善男子善女人有りて、能く是の深般若波羅蜜を行ぜば、當に知るべし、是の菩薩（一二）人中に死して此の間に生じ、

【八】諸天散華供養す、諸比丘は以て佛に供養し、最上行を行ぜんことを誓ひ、佛はその宿善と授記とを說く。

【九】微笑。笑義河天品を參照せよ。

【一〇】五色天華を以て佛を供養せるが故に世界常に五色天華を雨らす。

【一一】佛因みに般若行者の功德を讚歎す。今聞行するもの過去既に惡難に任せずして般若を得、後ち佛に面して無上果を得んと說き、阿難に付囑す。

若は（一三）兜率天上に死し來りて此の間に生ず、若は人中、若は兜率天上に廣く是の深般若波羅蜜を聞けばなりと。阿難、我れ是の諸の菩薩摩訶薩の能く是の深般若波羅蜜を行ずるを見る。阿難、若し善男子善女人有りて、是の深般若波羅蜜を聞き、受持し讀誦し、親近し正憶念し、轉た復般若波羅蜜を以て教化し菩薩道を行ずる者、當に知るべし、是の菩薩は面り佛に從ひて深般若波羅蜜を聞き、乃至親近し、亦諸佛に從て善根を種ゑたりと。善男子善女人當に是の念を作すべし、我等は聲聞に從ひて種うる所の善根に非ず、亦聲聞に從ひて聞く所の是の深般若波羅蜜ならずと。阿難、若し善男子善女人有りて、是の深般若波羅蜜を受持し、讀誦し親近し、義に隨ひ法に隨ひて行ぜば、當に知るべし、是の善男子善女人は則ち爲に面り佛を見たてまつると。阿難、若し善男子善女人有りて、是の深般若波羅蜜を聞き、信心清淨にして沮壞すべからざれば、當に知るべし、是の善男子善女人は曾て佛に供養し、善根を種ゑ、善知識と相得たりと。阿難、（一四）諸佛の福田に於て善根を種うれば、虛誑ならず、要ず聲聞辟支佛を得、而して解脫を得と雖も、應に當に深く了了六波羅蜜乃至一切種智を行ずべし。阿難、若し菩薩深く了了六波羅蜜乃至一切種智を行ずるも、是の人若し聲聞辟支佛道に住し、阿耨多羅三藐三菩提を得ずば、是の

【一三】人中等。三惡罪苦多く、欲天淨妙五欲に著し、色界定味に著し、無色界無形、鬼神利根にして惱覆多し、故に般若行じ難し。行じ得るは人中なり。

【一三】兜率は補處菩薩あるが故に般若を行じ得るなり。

【一四】諸佛福田供養は少なくも三乘道果を證するは法華等に說くも般若を要することを說示するなり。

【一五】以下慇懃に囑累を明す。阿難は聞持第一として遺敎受囑の人たり。

處有ること無し。是の故に阿難、(二五)我れ般若波羅蜜を以て汝に囑累す。阿難、汝若し一切法を受持するに、般若波羅蜜を除きては、若は忘れ若は失ふも、其の過小にして大罪有ること無し。阿難、汝深般若波羅蜜を受持して、若し一句を忘失せば、其の過甚だ大なり。阿難、汝若し深般若波羅蜜を受持し、還て忘失せば其の罪甚だ多し。是を以ての故に、阿難、汝に是の深般若波羅蜜を囑累す。汝當に善く受持し讀誦して利せしむべし。阿難、若し善男子善女人有りて、般若波羅蜜を受持すれば、則ち過去未來現在の諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を受持すと爲す。阿難、若し善男子善女人、現在我を供養し恭敬し、尊重し讚歎し、華香瓔珞擣香澤香、衣服幡蓋もてせんとせば、應に當に般若波羅蜜を受持し、讀誦し說き、親近し、供養し恭敬し、尊重し讚歎し、華香乃至幡蓋もてすべし。阿難、般若波羅蜜を供養すれば、則ち我を供養し、亦過去未來現在の佛を供養し已ると爲す。若し善男子善女人有りて、深般若波羅蜜を說くを聞き、信心清淨にして恭敬し愛樂すれば、則ち信心清淨にして過去未來現在の諸佛を恭敬し愛樂し已ると爲す。阿難、汝佛を愛樂して捨離せざれば、當に般若波羅蜜を愛樂して捨離すること莫るべし。阿難、深般若波羅蜜は乃至一句も失せしむべからず。阿難、我れ囑累の因緣を說くこと甚だ多し、今は但だ略して說くのみ。我の世尊たるが如く、般若波羅蜜も亦是れ世尊なり。是を以ての故に、阿難、種種の因緣もて汝に般若波羅蜜を囑累す。阿難、今我れ一切世間の天人阿脩羅中に於て汝に囑累す。諸の佛を捨てず、法を捨てず、僧を捨てず、過去未來現在の諸佛の

阿耨多羅三藐三菩提を捨てざらんと欲する者は、愼で般若波羅蜜を捨つること莫れ。阿難、是れ我が弟子を教化する所の法なり。阿難、若し善男子善女人、深般若波羅蜜を受持し讀誦し說き正憶念し、復他人の爲に種種其の義を廣說し開示し演暢し分明にし解し易からしめば、是の善男子善女人は疾く阿耨多羅三藐三菩提を得、疾く薩婆若に近づく。何を以ての故に、般若波羅蜜中に諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を生ずればなり。阿難、過去未來の諸佛の阿耨多羅三藐三菩提は皆般若波羅蜜の中より生じ、今現在東方南方西方北方四維上下の諸佛の阿耨多羅三藐三菩提も亦般若波羅蜜より生ず。是を以ての故に、阿難、諸の菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すれば、應に當に六波羅蜜を學すべし。何を以ての故に、阿難、六波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の母にして諸菩薩を生ずるが故に。阿難、若し菩薩摩訶薩有りて是の六波羅蜜を學せば、皆當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是を以ての故に、我れ六波羅蜜を以て倍復汝に囑累す。阿難、是の六波羅蜜は、是れ諸佛の無盡の法藏なり。阿難、十方諸佛の現在の說法は皆六波羅蜜法藏中より出で、過去の諸佛も亦六波羅蜜中より學して、阿耨多羅三藐三菩提を得たり、未來の諸佛も亦六波羅蜜中より學して、阿耨多羅三藐三菩提を得べし。過去未來現在の諸佛の弟子も皆六波羅蜜中より學して滅度を得る、已に得たり、今得、當に滅度を得べし。

(二六) 阿難、汝聲聞人の爲に法を說きて、三千大千世界の中の衆生をして

【六】 般若大乘の自度二乘法に優るを說き、付屬する所以を明す。

皆阿羅漢果の證を得しむるとも、猶未だ我が弟子の事と爲さず。汝若し般若波羅蜜相應の一句を以て菩薩摩訶薩に敎ふれば、則ち我が弟子の事と爲す。我も亦歡喜す。三千大千世界の中の衆生に敎へて阿羅漢を得しむるに勝る。復次に阿難、是の三千大千世界の中の衆生、前ならず後ならず、一時に皆阿羅漢果の證を得、是の諸の阿羅漢、布施の功德、持戒禪定の功德を行ぜば、是の功德多きや不や。』阿難言さく、『甚だ多し、世尊。』佛言はく、『弟子の般若波羅蜜相應の法を以て、菩薩摩訶薩の爲に說くこと乃至一日する、其の福の甚だ多きには如かず。一日を置きて但だ半日、半日を置きて但だ一食の頃、一食の頃を置きて但だ須臾の間說くとも、其の福甚だ多し。何を以ての故に、菩薩摩訶薩の善根は一切の聲聞辟支佛に勝るが故に。菩薩摩訶薩は自ら阿耨多羅三藐三菩提を得、亦他人に示敎し利喜して阿耨多羅三藐三菩提を得しめんと欲す。阿難、是の如く菩薩は六波羅蜜を行じ、四念處を行じ、乃至一切種智を行じ、善根を增益して、若し阿耨多羅三藐三菩提を得ざれば、是の處有ること無し。是の般若波羅蜜品を說く時、佛四衆の中に在り、天人龍鬼神緊那羅摩睺羅伽等、大衆の前に於て神足變化を現じ、一切の大衆皆阿閦佛の比丘僧に圍遶せられて大衆に說法したまふを見る。譬へば大海水の如し。皆是の阿羅漢、諸の漏盡きて煩惱無く、皆自在を得、好解脫心解脫慧解脫を得て、其の心の調柔なること譬へば大象の如し、所作已に辨じ、逮得已に利し、諸有結を盡して正智もて解脫を得、一切の心心數法の中に自在を得、及び諸の菩薩摩訶薩の無量の功德成就す。爾の時、佛神足を攝めたま

へば、一切大衆は復阿閦佛の聲聞人、菩薩摩訶薩及び其の國土を見ず、眼と對を作さず。何を以ての故に、佛神足を攝めたまへるが故に。爾の時、佛阿難に告げたまはく、「是の如く阿難、一切の法は眼と對を作さず、法法相見ず、法法相知らず。是の如く阿難、(一七)阿閦佛の弟子、菩薩國土の眼と對を作さざるが如く、是の如く阿難、一切の法は眼と對を作さず、法法相見ず、法法相知らず。何を以ての故に、一切の法は知る無く見る無く、作す無く動ずる無く、捉ふべからず、思議すべからず、幻人の如く受無く覺無く眞實無ければなり。菩薩摩訶薩の是の如く行ずるを般若波羅蜜を行じ、亦諸法に著せずと爲す。阿難、菩薩摩訶薩の是の如く學するを般若波羅蜜を學することを爲すと名く。諸波羅蜜を得んと欲せば當に般若波羅蜜を學すべし。何を以ての故に、是の如く學するを第一學、最上學、微妙學を爲すと名くればなり。是の如く學して一切世間の護無き者を安樂にし、利益するを護を作すと爲す。是の如く學するは、是れ諸佛の學する所なり。諸佛は是の學中に住して、能く右手を以て三千大千世界を擧げて還て本處に著け、是の中の衆生覺知する者無し。何を以ての故に、阿難、諸佛は是の般若波羅蜜を學して、過去未來現在の法中に無礙知見を得ればなり。阿難、般若波羅蜜は諸學中に於て最尊第一、最妙無上なり。

(一八)阿難、人有りて般若波羅蜜の邊際を得んと欲せば、虛空の邊際を得んと欲すと爲す。何を以ての

【一七】阿閦會の如幻なるが如く諸法も如幻なり、般若も囑累も所著なきを示す。

【一八】無量不可盡を以て般若を讃す。

故に、阿難、般若波羅蜜は量有ること無し。我れ初に般若波羅蜜の量を說かず、(一九)名衆、句衆、字衆、是れ量有るも、般若波羅蜜は量有ること無し。」阿難佛に白して言さく、『世尊、般若波羅蜜は何を以ての故に量有ること無きや。』佛阿難に告げたまはく、『般若波羅蜜は盡くる無きが故に量有ること無し。般若波羅蜜は(二〇)離なるが故に量有ること無し。阿難、過去の諸佛は皆是の般若波羅蜜を學して度を得。是の般若波羅蜜、故に盡きず。未來世の諸佛も、亦是の般若波羅蜜を學して度を得。是の般若波羅蜜、故に盡きず。現在十方の諸佛も、皆是の般若波羅蜜を學して度を得。是の般若波羅蜜、故に盡きず。已に盡きず、今盡きず、當に盡きざるべし。阿難、般若波羅蜜を盡さんと欲せば、虛空を盡さんと欲すと爲す。般若波羅蜜は盡すべからず、已に盡きず、今盡きず、當に盡きざるべし。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜は盡すべからず、已に盡きず、今盡きず、當に盡きざるべし。乃至一切種智も亦是の如し。何を以ての故に、是の一切の法は皆無生なればなり。若し法無生なれば云何が盡くること有らんや。』爾の時、佛(二一)覆面の舌相を出して阿難に告げたまはく、『今日より四衆の中に於て般若波羅蜜を廣演し、開示し、分別して、當に分明にして解し易からしむべし。何を以ての故に、是の深般若波羅蜜の中に廣く諸法の相を說き、是の中に聲聞辟支佛を求め、佛を求むる者は皆當に中に於て學し、學し已りて各成就することを得れ

【一九】名衆等。名身句身文身に同じ。般若無盡なるも言語章句卷數有量なるを以て囑累す。

【二〇】離。自ら離なれば本來生なく集なく盡滅なし。

【二一】覆面の舌相。舌を出して面を覆ふ、誠實を表す。

ばなり。阿難、是の深般若波羅蜜は則ち是れ一切の字門なり。是の深般若波羅蜜を行せば、能く〔二二〕陀隣尼門に入る。是の陀隣尼を學して諸の菩薩は一切の樂説辯才を得。阿難、般若波羅蜜は是れ三世諸佛の妙法なり。是を以ての故に、阿難、我れ汝の爲に了了と説く。「若し人有りて深般若波羅蜜を受持し、讀誦し親近せば、是の人は則ち能く三世諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を持するなり」と。阿難、我れ般若波羅蜜は是れ〔二三〕行者の足なりと説く。汝は是の般若波羅蜜を持し、陀隣尼を得るが故に、則ち能く一切の諸法を持す。』

【二二】陀隣尼。麗本陀羅尼に作る、同じ。
【二三】行者の足。この般若を得れば能く菩薩道を行ずるを喩説す。

(一)不可盡品第六十七

(二)爾の時、須菩提是の念を作す、「是れ諸佛の阿耨多羅三藐三菩提は甚深なり、我れ當に佛に問ふべし」と。是の念を作し已りて佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は盡くべからざるや。』佛言はく、『虛空盡くべからざるが故に、般若波羅蜜は盡くべからず。』『世尊、(三)云何が應に般若波羅蜜を生ずべきや。』佛言はく、(四)『色盡くべからざるが故に、般若波羅蜜應に生ずべし。受想行識盡くべからざるが故に、般若波羅蜜應に生ずべし。檀那波羅蜜盡くべからざるが故に、般若波羅蜜應に生ずべし。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜盡くべからざるが故に、般若波羅蜜應に生ずべし。乃至一切種智盡くべからざるが故に、般若波羅蜜應に生ずべし。復次に須菩提、(五)癡は空にして盡くべからざるが故に、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜應に生ずべし。行は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。識は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。名色は空にして盡くべからざ

【一】品目麗本無盡品、大論無盡方便品に作る。般若諸法無盡甚深を說く。以下を方便道を說くものとす。般若と方便と不離なるも以下佛化方便を主とすれば方便道とするなり。大論第八十卷。

【二】須菩提佛より般若諸相を聞き畢竟空囑累を聞くも、佛說更に空を說くもの盡きざるが如し、故に諸佛甚深を念じて無盡を問ふ。此に五蘊十二因緣等の無盡を明す。

【三】般若虛空の如く無所有にして無盡ならば、菩薩心中に能く生じ能く行じ能く果を得るや。

【四】色生じて色の初中後生不可得なる是れ般若の生にして

るが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。六處は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。六觸は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。受は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。愛は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。取は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。有は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。生は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。老死憂悲苦惱は空にして盡くべからざるが故に、菩薩の般若波羅蜜應に生ずべし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜應に生ずべし。須菩提、是の如きの十二因緣、是れ獨り菩薩の法にして能く(六)諸邊の顛倒を除く。(七)道場に坐する時、應に是の如く觀じ、當に一切種智を得べし。須菩提、若し菩薩摩訶薩有りて、虚空不可盡の法を以て、般若波羅蜜を行じ、十二因緣を觀せば、聲聞辟支佛地に(八)墮せずして、阿耨多羅三藐三菩提に住す。須菩提、若し菩薩道を求めて而して(九)轉還する者は、皆般若波羅蜜の念を離るるが故に、是の人は云何が般若波羅蜜を行じ、虚空不可盡

般若の初後生盡得べからざるなり。

【五】癡。無明なり。十二因緣法を說く。十二因緣三種あり、一は凡夫肉眼所見の生死往來相、二は賢聖法眼分別して出世を求むる二乘及び未得無生法忍菩薩の所觀、三は菩薩大人十二因緣の根本を究盡せんとするもの、得忍乃至成佛までの菩薩の所觀なり。今此の深觀因緣を明す。

【六】諸邊。斷常生滅、有、無、實、空、世間有邊等一切の定相差別を執するを云ふ。

【七】道場。釋尊菩提樹下に觀じたるが如くなるを云ふ。

【八】墮せず。この深觀成ぜば退せず、若し深觀成ぜずば佛道を退し二乘となる。

【九】轉還。退墮するなり。

の法を以て十二因緣を觀ずべきかを知らず。須菩提、若し菩薩道を求めて而して轉還する者は、皆是の方便力を得ざるが故に、阿耨多羅三藐三菩提に於て轉還す。須菩提、若し菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提に於て轉還せざる者は、皆是の方便力を得るが故に、須菩提、菩薩摩訶薩は應に虛空不可盡の法を以て般若波羅蜜を觀じ、虛空不可盡の法を以て般若波羅蜜を生ずべし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の十二因緣を觀ずる時、〔一〇〕法の因緣無くして生ずるを見ず、〔一一〕法の常にして滅せざるを見ず、〔一二〕法の我、人、壽者、命者、衆生、乃至知者見者有るを見ず、〔一三〕法の無常なるを見ず、法の苦なるを見ず、法の無我なるを見ず、法の寂滅非寂滅なるを見ず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、應に是の如く十二因緣を觀ずべし。須菩提、若し菩薩摩訶薩能く是の如く般若波羅蜜を行ぜば、是の時、色の若は常若は無常、若は苦若は樂、若は我若は無我、若は寂滅若は非寂滅なるを見ず、受想行識も亦是の如し。須菩提、菩薩摩訶薩は是の時亦般若波羅蜜をも見ず、亦是の法を以て般若波羅蜜を見ることを見ず。禪那波羅蜜乃至阿耨多羅三藐三菩提にも、亦阿耨多羅三藐三菩提をも見ず、亦是の法を以て阿耨多羅三藐三菩提を見ることをも見ず。是の如く須菩提、一切法得べからざるが故に、是を般若波羅蜜に應ずる行と爲す。

【一〇】法の因緣等。一法の決定自在なるを說くものなり。
【一一】法の常等。邪因論にして常因微塵世性等を說くことを云ふ。
【一二】法の我等。緣生不自在なれば、我人命等の自在獨立主一なるものなし。
【一三】法の無常等。定相なく無所得なれば、無常無我の取るべきものなきを云ふ。

【一四】若し菩薩、無所得の般若波羅蜜を行ずる時、惡魔の愁毒すること箭の心に入るが如し、譬へば人新に父母を喪ふが如し。是の如く須菩提、是の惡魔、菩薩の無所得般若波羅蜜を行ずるを見る時、便ち大に愁毒すること箭の心に入るが如し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、但だ一魔のみ愁毒するや、三千大千世界の中の魔も亦復愁毒するや。』佛須菩提に告げたまはく、『三千大千世界の中の諸の惡魔、皆愁毒すること箭の心に入るが如く、各其の座に於て自ら安んずること能はず。須菩提、菩薩摩訶薩能く是の如く般若波羅蜜を行ぜば、是の時、一切世間の天及び人阿脩羅其の便を得て、其をして憂惱せしむること能はず。須菩提、是を以ての故に、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、當に是の般若波羅蜜を行ずべし。菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足し修す。須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、諸波羅蜜を具足す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、云何が檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足するや。』佛須菩提に告げたまはく、【一五】『菩薩摩訶薩は有らゆる布施を皆薩婆若に廻向す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、檀那波羅蜜を具足す。須菩提、菩薩摩訶薩は有らゆる持戒を皆薩婆若に廻向す、是を尸羅波羅蜜を具足すと爲す。菩薩摩訶薩は有らゆる忍

【一四】菩薩五根を得る時諸魔愁憂することを明す。
【一五】信慧平等具足するが故に六度を具するを明す。鈍根は信多く慧少く取相廻向す。利根は慧多く信少くして破相戯論を事とす。此二人は六度を具足せず。

辱を皆薩婆若に廻向す、是を羼提波羅蜜を具足すと爲す。菩薩摩訶薩は有らゆる精進を皆薩婆若に廻向す、是を毗棃耶波羅蜜を具足すと爲す。菩薩摩訶薩は有らゆる禪定を皆薩婆若に廻向す、是を禪那波羅蜜を具足すと爲す。菩薩摩訶薩は有らゆる智慧を皆薩婆若に廻向す、是を般若波羅蜜を具足すと爲す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、六波羅蜜を具足す。』

(一)六度相攝品第六十八

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩の布施する時、是の布施を持て薩婆若に迴向し、衆生の中に於て(三)慈の身口意業に住す。是を菩薩の檀那波羅蜜に住して尸羅波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩は檀那波羅蜜に住して羼提波羅蜜を取るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩の布施する時、受者(四)瞋恚罵辱惡言もて之に加ふるも、此の時、菩薩は忍辱して瞋恚の心を生ぜず。是を菩薩の檀那波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩は檀那波羅蜜に住して、毘梨耶波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩の布施する時、受者瞋恚罵辱惡言もて之に加ふるも、菩薩は布施の心を增益して是の念を爲す、我れ應に當に施して惜む所有るべからざるべしと。即時に身精進心精進を生ず。是を菩薩の檀那波羅蜜に住して、毘梨耶波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩の布施する時、薩婆若に迴向して聲聞辟支佛地に趣かず、但だ(五)一

【一】品目麗本には攝五品に作る、菩薩一波羅蜜を行ずれば五波羅蜜を攝することを明す。
【二】布施に他の五波羅蜜を攝するを說く。在家を主とす。
【三】慈。善の利益衆生業を云ふ。三慈業は不貪不瞋正見を云ひ、能く三種身善業四種口善業を生ず。
【四】瞋。上瞋は殺害、中瞋は罵詈惡言、下瞋は心瞋り恚ふ。
【五】一心。世間禪定樂を求めず、涅槃樂を求めず、意を攝して一切種智中に在り。

心に薩婆若を念ずるのみ。是を菩薩の檀那波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜に住して般若波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩の布施する時、(六)布施の空にして幻の如くなることを知り、衆生の爲に布施して(七)益有り益無きことを(八)見ず。是を菩薩の檀那波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取ると爲す。』(九)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して、檀那波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜を取るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は(一〇)尸羅波羅蜜の中に住し、身口意に布施の福徳を生じて、阿耨多羅三藐三菩提を助く是の功德を以て(一一)聲聞辟支佛地を取らず、尸羅波羅蜜の中に住して他の命を奪はず、他の物を劫奪せず、邪婬を行ぜず、妄語せず、兩舌せず、惡口せず、綺語せず、貪嫉せず、瞋恚せず、邪見ならずして有らゆる布施す。饑うる者には食を與へ、渇する者には飮を與へ、乘を須むるには乘を與へ、衣を須むるには衣を與へ、香を須むるには香を與へ、瓔珞を須むるには瓔珞を與へ、塗香、臥具、房舍、燈燭、資生に須ふる所、盡く之を給與す。是の布施を持て衆

【六】布施も有爲なれば虛誑不堅固にして幻夢の如し。

【七】益有り益無し。時に藥因緣たるも、時に施食腹脹れ、施財賊害慳貪諸苦を生ずる等なり。

【八】見ず。實相中には有利無利を分別せず、受者恩分を求めず、施者果報を望まざるを云ふ。

【九】玆に他の五波羅蜜を攝するを說く。

【一〇】尸羅卽ち戒を主とするは出家に就て云ふ、而して欲界には持戒力最も強く、能く布施思惟多聞等を成就すればなり。

【一一】聲聞等。菩薩に二種破戒あり、十不善と向二乘となり、これに反して二乘を取らざると他の命を奪はざる等の十善道戒とを二種持戒とす。

生と共に之を阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の如く廻向せば聲聞辟支佛地に墮せず。須菩提、是を菩薩摩訶薩の尸羅波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩の尸羅波羅蜜の中に住するや、若は衆生有り、來りて〔二二〕節節支解するも、菩薩は是の中に於て瞋恚の心、乃至一念をも生ぜずして、是の言を作す。我れ大利を得。衆生來りて我が支節を取るも、我れ一念の瞋恚も無しと。是を菩薩の尸羅波羅蜜の中に住して、羼提波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して、毗梨耶波羅蜜を取るや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、〔二三〕身精進心精進にして常に捨てざれば、是の念を作す。「一切の衆生は生死の中に在り、我れ當に拔きて〔二四〕甘露地に著かしむべし」と。是を菩薩の尸羅波羅蜜の中に住して、毗梨耶波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は、尸羅波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は〔二五〕初禪第二第三第四禪に入りて、聲聞辟支佛地を貪らず、是の念を作す、我れ當に禪那波羅蜜の中に住して、一切の衆生を生死より度すべしと。是を菩薩の尸羅波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は尸羅波

〔二二〕節節支解。肉身を割截す、人の自ら愛惜最も大なるものを擧げて、他の財産眷屬等を攝す。

〔二三〕身精進。財物努力を供して厭はず。心精進は慳貪等の惡心に妨げられざるなり。

〔二四〕甘露地。不滅の解脱涅槃なり。

〔二五〕煩惱動亂して戒を破らんとす定業を以て五欲を制し而も定に著せず無上道に進むを以て聲聞等を貪らざるなり。

羅蜜の中に住して、法の若は作法若は無作法、若は(一六)數法若は相法、若は有若は無として見るべきもの有ること無く、但だ諸法の如相に過ぎざるを見るのみ、般若波羅蜜(一七)方便力を以ての故に、聲聞辟支佛地に墮せず。是を菩薩の尸羅波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取ると為す。』

(一八)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩初發心より乃至道場まで、其の中間に於て、若は一切衆生來りて瞋恚し罵詈し、若は節節支解するも、菩薩は忍辱に住して是の念を作す。我れ應に一切の衆生に布施すべし、是の衆生に與へざるべからずと。食を須むるには食を與へ、飲を須むるには飲を與へ、乃至資生に須ふる所盡く皆之を與ふ。是の功德を持て、一切の衆生と之を共にし阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の菩薩、廻向する時に(一九)二心を生ぜず、誰か廻向する者ぞ、何處に廻向すると。是を菩薩の羼提波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取ると為す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩初發心より乃至道場まで其の中間に於て、終に他の命を奪はず、與へざるを取らず、乃至邪見ならず、聲聞辟支佛地を貪らず、是の功德を持て、一切の衆生と之を共にし阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是の菩薩、廻向する時に(二〇)三種の心

【一六】數法は數量差別せるを云ひ、相法は相貌形狀差別なり、耳目等を基として起る別のみ。

【一七】方便力。麗本に漚和拘舍羅力とす、梵漢の異に過ぎず。

【一八】忍に他の五波羅蜜を攝することを明す。菩薩は忍を第一とす。大論第八十一卷。

【一九】二心。廻向者と廻向處を分別するを云ふ。

【二〇】三種の心。無人、無法、無廻向處なり。

生せず、誰か阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、何法を以て廻向し、何處に廻向すると。是を菩薩の羼提波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜に住して、毗梨耶波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は羼提波羅蜜に住して精進を生じ、是の念を作す。我れ當に一由旬、若は十由旬、百千萬億由旬を往き、一世界を過ぎ、乃至百千萬億の世界を過ぎ (二一)乃至一人に敎へて五戒をも持せしむべし、何に況んや須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道、阿耨多羅三藐三菩提を得しむるをやと。是の功徳を持て一切の衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是を菩薩の羼提波羅蜜に住して、毗梨耶波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は羼提波羅蜜に住して欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀 (二二)離生喜樂初禪に入り、乃至第四禪に入る。是の諸禪の中の (二三)淨心心數法もて皆薩婆若に廻向す。廻向する時、是の菩薩、諸禪及び (二四)禪支皆得べからず。是を菩薩の羼提波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は羼提波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は羼提波羅蜜に (二五)住して、諸法の若は離相、若くは寂滅相、若は無盡相を觀じ、

【二一】乃至一人等。一世界を過ぐるも一人を解脱せしめず、僅かに五戒を持せしむるのみなるも愁憂せず、一人相一切人相なればなり。

【二二】離生喜樂。欲界を離れ色界に生ずるに依りて得たる調柔の定樂なり。

【二三】淨心心數法。定中所得の慈悲等の諸淸淨心。

【二四】禪支。禪の支分。

【二五】住し。忍なれば惡を加へらるるも慈悲を行じ、福德を得るが故に、心柔軟にして法忍を得易きを云ふ。

【二六】謹を作す。空寂滅に安住して解脱を作さず。

寂滅相を以て　(二六)證を作さず、乃至道場に坐し、一切種智を得、道場より起て便ち法輪を轉ず。是を菩薩の羼提波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取ると爲す、取らず捨てざるが故に。』

(二七)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は毗梨耶波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩は毗梨耶波羅蜜に住し、身心精進して懈らず息まず、是の念を作す、我れ必ず應に當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし得ざるべからずと。是の菩薩は衆生を利益することを爲すが故に、一由旬若は百千萬億由旬を往き、若は一世界を過ぎ、若は百千萬億の世界を過ぎて、毗梨耶波羅蜜の中に住し、若し一人に教へて佛道中、若は聲聞道中、若は辟支佛道中に入らしむることを得ざるも、或は一人に教へて十善道を行ぜしむることを得ば、精進して懈らず、是の法施を作し及び財施を以て具足せしむ。是の功德を持て衆生と之を共にし阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、聲聞辟支佛地に廻向せず。是を菩薩の毗梨耶波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は毗梨耶波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は毗梨耶波羅蜜に住し、初發意より乃至道場に坐するまで、(二八)自ら殺生せず、他を教へて殺さしめず、不殺生の法を讃じ、不殺生の者を歡喜し讃歎す、乃至自ら邪見を遠離し、他を教へて邪見を遠離せしめ、不邪見の法を讃じ、不邪見の者を歡喜し讃歎す。是の菩薩は尸羅波羅蜜に住す

【二七】精進に住して他の五を攝することを明す。精進には別の體なし、五波羅蜜を勤めて休息せざるなり。

【二八】自ら殺生せず等。十善各各四ありて四十種善道と云ふ。

る因縁もて、欲界色界無色界の福を求めず、聲聞辟支佛地を求めず。是の功德を持て、衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。菩薩は三種の心を生ぜず、廻向の者を見ず、廻向の法を見ず、廻向の處を見ずと。是を菩薩の毗梨耶波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は毗梨耶波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は毗梨耶波羅蜜に住し、初發意より乃至道場に坐するまで、其の中間に於て、若は人、若は非人來りて節節支解するも、菩薩は是の念を作す、〔二九〕我を割く者は誰ぞ、我を截る者は誰ぞ、我を奪ふ者は誰ぞと。復是の念を作す、我れ大に善利を得、我れ衆生の爲の故に身を受く、衆生還て自ら來り取ると。是の時、菩薩は正しく諸法の實相を憶念す。是の功德を持て衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、聲聞辟支佛地に廻向せず。是を菩薩の毗梨耶波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は毗梨耶波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は毗梨耶波羅蜜に住して欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪第二第三第四禪に入り、慈悲喜捨に入り、乃至非有想非無想處に入り、是の禪無量無色定を持て果報を受けずして、衆生を利益するの處に生じ、六波羅蜜を以て衆生を成就す、謂ゆる檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜なり。一佛土より一佛土に至りて、諸佛に親近し供養し、善根を種うるが故に、是を菩薩の毗梨耶波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶

〔二九〕我を割く者は誰ぞ。割者なく、割かるる者なしと念ずるなり。

薩は毗梨耶波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は毗梨耶波羅蜜に住して、檀那波羅蜜の法を見ず、檀那波羅蜜の相を見ず、乃至禪那波羅蜜の法を見ず、禪那波羅蜜の相を見ず、四念處乃至一切種智も亦法を見ず、亦相を見ず、一切法の非法非非法を〔三〇〕見て、法の中に於て著する所無し。是の菩薩の所作、所言の如し。是を菩薩の毗梨耶波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取ると爲す。』

〔三一〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住して諸欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪第二第三第四禪に入り、慈悲喜捨乃至非有想非無想處に入り、禪那波羅蜜の中に住して心亂れず二施を行じ、以て衆生に法施財施を施す、自ら二施を行じ、他を敎へて二施を行ぜしめ、二施の法を讃歎し、二施を行ずる者を歡喜し讃歎す。是の功德を持て衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、聲聞辟支佛地に向はず。是を菩薩の禪那波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は禪那波羅蜜に住して、〔三二〕婬欲瞋恚愚癡の心を生ぜず、他を惱ます心を生ぜず、但だ一切智相應の心を修行するのみ。是の功德を以て衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向し、聲聞辟支佛地に向はず。是を菩薩の禪那波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住

〔三〇〕見て法の中。大論には「見ず、一切法の中」に作る。

〔三一〕禪に五波羅蜜を攝するを明す。

して、羼提波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は禪那波羅蜜に住し、色を觀ること〔三二〕聚沫の如く、受を觀ること泡の如く、想を觀ること野馬の如く、行を觀ること芭蕉の如く、識を觀ること幻の如し。是の觀を作す時、五陰の堅固相無きことを見て、是の念を作す、我を割く者は誰ぞ、我を截る者は誰ぞ、誰か受し、誰か想し、誰か行じ、誰か識し、誰か罵る者ぞ、誰か罵を受くる者ぞ、誰か瞋恚を生ずると。是を菩薩の禪那波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住して、毗梨耶波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は禪那波羅蜜に住して欲を離れ惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪第二第三第四禪に入る。是の諸の禪及び支、相を取り、種種の神通を生じ、水を履むこと地の如く、地に入ること水の如し、先に說けるが如し。天耳は二種の聲、若は天若は人を聞き、他心の若は攝心、若は亂心乃至有上心無上心なるを知り、種種の宿命を憶すること先に說けるが如し。天眼淨を以て人眼を過ぎて衆生の乃至業の如く報を受くるを見ること先に說くが如し。菩薩は是の五神通に住して一佛土より一佛土に至り、諸佛に親近し供養して善根を種ゑ、衆生を成就して佛國土を淨む。是の功德を持て衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。是を菩薩の禪那波羅蜜に住して、毗梨耶波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は禪那波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は禪那波羅蜜に住して、色を得ず、受想行識を得ず、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜

【三二】聚沫等。不堅固を喩顯す。

禪那波羅蜜を得ず、般若波羅蜜を得ず、四念處を得ず、乃至一切種智を得ず、有爲性を得ず、無爲性を得ず、得ざるが故に作さず、作さざるが故に生ぜず、生ぜざるが故に滅せざるなり。何を以ての故に、(三三)有佛無佛、是の如、法相、法性常住にして不生不滅、常に一心に薩婆若に應じて行ず。是を菩薩の禪那波羅蜜に住して、般若波羅蜜を取ると爲す。』

(三四)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜に住し、內空の內空得べからず、外空の外空得べからず、內外空の內外空得べからず、空空の空空得べからず、乃至一切法空の一切法空得べからず。菩薩は是の(三五)十四空の中に住して、色相の若は空若は不空なるを得ず、受想行識相の若は空若は不空なるを得ず、四念處の若は空若は不空なるを得ず、乃至阿耨多羅三藐三菩提の若は空若は不空なるを得ず、有爲性無爲性の若は空若は不空なるを得ず。是の菩薩摩訶薩は是の如く般若波羅蜜の中に住し、有らゆる布施をなす、若は飲食衣服、種種資生の具もてし、是の布施の空なることを觀ず。何等か空なる、施者、受者、及び財物空にして慳著の心をして生ぜしめず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、初發意より乃至道場に坐するまで、妄想分別すること有ること無く、諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を得たまふ時に慳著の心無きが如く、菩

【三三】有佛無佛等。法相は佛の出沒に依りて增減せず。

【三四】慧に他の五波羅蜜を攝することを明す。

【三五】十四空。空を說く、六空、十二空、十四、十六、十八等所執の多少に隨ふのみ。

薩摩訶薩も亦是の如く〔三六〕般若波羅蜜を行ずる時に、慳著の心無し。是の菩薩の尊ぶべき所の者は般若波羅蜜是なり。是を菩薩の般若波羅蜜に住して、檀那波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜に住して、聲聞辟支佛の心を生せず。何を以ての故に。是の菩薩、聲聞辟支佛地得べからず、聲聞辟支佛に趣向する心も亦得べからざればなり。是の菩薩摩訶薩は初發意より乃至道場に坐するまで、其の中間に於て、自ら殺生せず、他を教へて殺さしめず、不殺の法を讃じ、不殺生の者を歡喜し讃歎す。乃至自ら邪見ならず、他を教へて邪見ならしめず、不邪見の法を讃じ、不邪見の者を歡喜し讃歎す。是の持戒の因縁を以て、法の若は聲聞、若は辟支佛地として取るべき無し。何に況んや餘法をや。是を菩薩の般若波羅蜜に住して、尸羅波羅蜜を取ると爲す。』

『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取るや。』

佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜に住し〔三七〕隨順法忍を生じ、是の念を作す、此法の中に法の若は起り若は滅し、若は生じ若は死し、若は罵詈を受け若は惡口を受け、若は割かれ若は截られ、若は破られ若は縛られ、若は打たれ若は殺さるるもの有ること無しと。是の菩薩は初發意より乃至道場に坐するまで、若し一切衆生來りて罵詈し惡口し、刀杖瓦石もて割截し傷害するも、心動かされずして是の念を作す、

【三六】諸佛は惑習斷盡する故に貪著なし、菩薩は般若力を以て、制して貪著起らざらしむ。

【三七】隨順法忍。法空を觀じて法愛尚存するを柔順忍とす。隨順は義同じ。柔順忍中衆生不可得なるを衆生忍と云ひ、法不可得なるを法忍と云ふ。

甚だ怪むべし、此の法の中に法の罵詈惡口割截傷害を受くる者有ること無し、而も衆生は是の苦惱を受くと。是を菩薩の般若波羅蜜に住して、羼提波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に住して、毘梨耶波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜に住して、衆生の爲に法を說き、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行ぜしめ、敎へて四念處乃至八聖道分を行ぜしめ、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得しめ、阿耨多羅三藐三菩提を得しめ、有爲性の中に住せず、無爲性の中に住せざる、是を菩薩の般若波羅蜜に住して、毘梨耶波羅蜜を取ると爲す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取るや。』佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜に住し、諸佛の三昧を除きて餘の一切の三昧、若は聲聞の三昧、若は辟支佛の三昧、若は菩薩の三昧に入り、皆行じ皆入る。是の菩薩は諸三昧に住して八背捨に(三八)逆順出入す。何等をか八とす、內色相有りて外色を觀ずる是れ初背捨なり、內色相無く外色を觀ずる二背捨なり、(三九)淨背捨身に證を作す三背捨なり、一切の色相を過ぎ有對相を滅し種種相を念ぜざるが故に(四〇)無量虛空處に入る四背捨なり、一切の虛空處を過ぎて無邊識處に入る五背捨なり、一切の識處を過ぎて無所有處に入る六背捨なり、一切の無所有處を過ぎて非有

【三八】逆順出入。一背捨を出でて二背捨に入り、乃至滅受想定に入るは順なり、滅受想定を出でて非有想非無想定に入り初背捨に至るは逆なり。逆順出入するは定自在なり。

【三九】淨背捨身等。內外清淨の色解脫を身に成就するなり。

【四〇】無量虛空處以下四背捨乃至七背捨は四無色處なり。

【四一】滅受想定。心心所都滅の定境。

想非無想處に入る七背捨なり、一切の非有想非無想處を過ぎて（四一）滅受想定に入る八背捨なり。是の八背捨に於て九次第定に逆順出入す。何等をか九とす、諸欲を離れ、諸惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪に入り、乃至非有想非無想處を過ぎて滅受想定に入る、是を九次第定逆順出入と名く。是の菩薩は八背捨九次第定に依りて、（四二）師子奮迅三昧に入る。云何が師子奮迅三昧と名くるや。須菩提、菩薩は欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪に入り、乃至滅受想定に入り、滅受想定より起ちて還て非有想非無想處に入り、非有想非無想處より起ち、乃至還て初禪に入る。是の菩薩は師子奮迅三昧に依て（四三）超越三昧に入る。云何が超越三昧と爲す。須菩提、菩薩は欲を離れ、諸惡不善法を離れ、有覺有觀、離生喜樂、初禪に入り、初禪より起ちて乃至非有想非無想處に入り、非有想非無想處より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて還て初禪に入る。初禪より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて二禪に入る。二禪より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて三禪に入る。三禪より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて四禪に入る。四禪より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて空處に入る。空處より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて識處に入る。識處より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて無所有處に入る。無所有處より起ちて滅受想定に入り、

【四二】師子奮迅三昧。師子の奮躍して自在なるが如く、智慧力の故に諸法に自在を得るなり。

【四三】超越三昧。本文前に云ふ九次第定ならず、後に云ふ中間隨意に超越す。小乘には二を超ゆるを得ず、散心より滅盡定に入るを得ずとす。

滅受想定より起ちて非有想非無想處に入る。非有想非無想處より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて散心の中に入る。散心の中より起ちて滅受想定に入り、滅受想定より起ちて還て散心の中に入る。散心の中より起ちて非有想非無想處に入り、非有想非無想處より起ちて還て散心の中に住す。散心の中より起ちて無所有處に入り、無所有處より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて識處に入り、識處より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて空處に入り、空處より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて第四禪の中に入り、第四禪の中より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて第三禪の中に入り、第三禪の中より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて第二禪の中に入り、第二禪の中より起ちて散心の中に住す。散心の中より起ちて初禪の中に入り、初禪の中より起ちて散心の中に住す。是の菩薩摩訶薩は超越三昧に住して、諸法の等相を得。是を菩薩の般若波羅蜜に住して、禪那波羅蜜を取ると爲す。』

(一)巻の第二十一

(二)大方便品第六十九

(三)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩、是の如きの方便力成就する者、發意して已來幾の時なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の菩薩摩訶薩、能く方便力を成就する者、發意して已來無量億阿僧祇劫なり。』須菩提言さく、『世尊是の菩薩摩訶薩、是の如く方便力を成就する者、幾の佛にか供養することを爲す。』佛言はく、『是の菩薩、方便力を成就する者、如恆河沙等の諸佛を供養す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩是の如きの方便力を得る者、何等の(四)善根を種うるや。』佛言はく、『菩薩是の如きの方便力を成就する者、初發意從り已來、檀那波羅蜜に於て具足せずと云ふこと無く、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪那波羅蜜、般若波羅蜜に於て具足せずと云ふこと無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩是の如きの方便力を成就する者は甚だ希有なり。』佛言はく、『是の如し是の如し。須菩提、菩薩摩訶薩是の如き方便力を成就する者は甚だ希有なり。須

【一】宋元明本、第二十三に作る。
【二】品目宋元等に依る麗本大論に大字なく方便品に作る。大論第八十二。
【三】菩薩利根にして一波羅蜜に五度を具する方便力の成就せる過去前緣を明し、般若の導護たるを說く。
【四】善根。深心無上菩提の爲に六度を具足するなり。

菩提、譬へば日月周行して四天下を照し、(五)益する所有ること多きが如し。般若波羅蜜も亦是の如く、五波羅蜜を照して益する所有ること多し。須菩提、譬へば轉輪聖王の如し、若し(六)輪寶無ければ名けて轉輪聖王と爲すことを得ず、輪寶成就するが故に名けて轉輪聖王と爲すことを得。五波羅蜜も亦是の如く、若し般若波羅蜜を離るれば波羅蜜の名字を得ず、般若波羅蜜を離れざるが故に波羅蜜の名字を得。須菩提、譬へば無夫の婦は人侵凌す可きこと易きが如し。五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜を遠離せば、魔若くは魔天之を壞すること則ち易し。譬へば有夫の婦は人侵凌すべきこと難きが如し。五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜を得れば、魔若くは魔天沮壞すること能はず。須菩提、譬へば軍將の鎧仗具足せば、隣國强敵壞する能はざる所の如し。五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜を遠離せざれば、魔若くは魔天、若は增上慢人乃至(七)菩薩旃陀羅の壞する能はざる所なり。須菩提、譬へば諸の小國王の隨時に轉輪聖王に朝侍するが如し。五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜に隨順す。譬へば衆川萬流皆恆河に入り大海に隨入するが如く、五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜の守護する所となる、故に薩婆若に隨到す。譬へば人の右手作す所、事便なるが如く、般若波羅蜜も亦是の如し。人の左手事を造るに不便なるが如く、五波羅蜜も亦是の如し。譬へば衆流の若は大若は小、倶に大海に入り合して一味となるが如し、五波羅蜜

【五】益す。百穀萬物の成長するを云ふ。

【六】輪寶等。諸王六寶あるも金輪寶なければ轉輪聖王とせず。

【七】菩薩旃陀羅。魔品に說ける如く魔來りて名字を稱し授記するに依り慢心を生ずる者をいふ。

も亦是の如く、般若波羅蜜の護る所と爲り、般若波羅蜜に隨ひて、薩婆若に入り、波羅蜜の名字を得。譬へば轉輪聖王の四種兵の輪寶前に在りて導き、王意に住らんと欲せば、輪則ち住ることを爲し、四種兵をして其の所願を滿さしめ、輪も亦其の處を離れざるが如く、般若波羅蜜も亦是の如く、五波羅蜜を導きて薩婆若に到り、常に是の中に住し、其の處を過ぎず。譬へば轉輪聖王の四種兵の輪寶前に在りて導くが如く、般若波羅蜜も亦是の如く、五波羅蜜を導き、薩婆若に到り、般若波羅蜜に住し、亦分別せず、檀波羅蜜我に隨從し、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、我に隨從せず、檀波羅蜜も亦分別せず、我れ般若波羅蜜に隨從す、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜に隨從せず。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪波羅蜜も亦是の如し。何を以ての故に。諸波羅蜜性能く作す所無く、自性空、虛誑野馬の如くなればなり。』

〔八〕爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法、自性空なれば、云何が菩薩摩訶薩、六波羅蜜を行じ、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩、六波羅蜜を行ずる時、是の念を作す、是の世間心皆顚倒す、我れ若し〔九〕方便力を行ぜざれば、衆生を生死より度脱すること能はず、我れ當に衆生の爲の故に、檀波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜を行ずべしと。是の菩薩は衆生の爲の故に內外物を捨て、捨つる時是の念

【八】諸法空にして方便力の故に六度を行ずることを明す。

【九】方便力。相好金色身、無量光明神通梵音十力十八不共法大慈悲等なり。

を作す、我れ捨つる所無しと。何を以ての故に、是の物、必ず當に壞敗すべし。菩薩は是の如きの思惟を作し、能く檀波羅蜜を具し、衆生の爲の故に終に破戒せず。何を以ての故に。菩薩是の念を作す、我れ衆生の爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提を發す、若し殺生せば是れ應せざる所なり、乃至我れ衆生の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を發す、若し邪見を作し、若し聲聞辟支佛地に貪著せば、是れ應せざる所なりと。菩薩摩訶薩は是の如く思惟して、能く尸羅波羅蜜を具足す。菩薩は衆生の爲の故に瞋心せず、乃至一念を生ぜず。

菩薩是の如く思惟す、我れ應に衆生を利益すべし、云何が而も瞋心を起すやと。菩薩は是の如く〔一〇〕（思惟して）能く羼提波羅蜜を具足す。菩薩は衆生の爲の故に、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、常に懈怠心を生ぜず、菩薩は是の如く行じて能く毘梨耶波羅蜜を具足す。菩薩は衆生の爲の故に、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得るまで、散亂心を生ぜず。菩薩は是の如く行じて能く禪波羅蜜を具足す。菩薩は衆生の爲の故に、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、終に智慧を離れず。何を以ての故に、智慧を除きて、餘法を以て衆生を度脱すべからざるが故に、菩薩は是の如く行じて能く般若波羅蜜を具足す。』

〔一一〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸波羅蜜、差別相無ければ、云何が般若波羅蜜、五波羅蜜中に於て、第一最上微妙なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸波羅蜜、差別無

【一〇】思惟等。大論に依りて補ふ。
【一一】諸波羅蜜差別なくして般若第一最妙なる所以を說く。

しと雖も、若し般若波羅蜜無ければ、五波羅蜜は波羅蜜の名字を得ず。般若波羅蜜に因て、五波羅蜜は波羅蜜の名字を得。須菩提、譬へば、種種の色の（二）鳥、須彌山王の邊に到れば、皆同一色なるが如し。五波羅蜜も亦是の如く、般若波羅蜜に因て、薩婆若中に到れば、一種にして異ること無く、是は檀波羅蜜、是は尸羅波羅蜜、是は羼提波羅蜜、是は毘梨耶波羅蜜、是は禪波羅蜜、是は般若波羅蜜なりと分別せず。何を以ての故に、是の諸波羅蜜は自性無きが故に。是の因緣を以ての故に、諸波羅蜜、差別無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し實義に隨へば、分別無し。云何が般若波羅蜜、五波羅蜜の中に於て、最上微妙なるや。』佛言はく、『是の如し、是の如し、須菩提、實義の中、分別有ること無しと雖も、但だ世俗の法のみを以ての故に、假に檀波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜を說き、衆生を生死より度せんと欲する事を爲す。是れ衆生實には生ぜず、死せず、起らず、退せず。須菩提、衆生所有無きが故に、當に知るべし、一切法所有無し。是の因緣を以ての故に、般若波羅蜜は五波羅蜜の中に於て、最上最妙なりと。須菩提、譬へば閻浮提の衆女人中、（三）玉女寶の第一最上最妙なるが如く、般若波羅蜜も亦是の如く、五波羅蜜の中に於て、第一最上最妙なり。』

（四）須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛何の意を以ての故に、般若波羅蜜は最上微妙なりと說く

【二】鳥。麗本大論身に作る。
【三】玉女寶。七寶の一、第一美人なり。
【四】俗諦に差別して般若を第一とする意故を明し、不取不念の般若行を說く。

や。』佛須菩提に告げたまはく、『是の般若波羅蜜は、一切の善法を取て(一五)薩婆若の中に到りて、不住に住するが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、般若波羅蜜は、法の取るべく捨つべき有りや不や。』佛言はく、『不とよ、須菩提、般若波羅蜜は法の取るべき無く、法の捨つ可き無し。何を以ての故に、一切の法、(一六)不取不捨の故に。』『世尊、般若波羅蜜は何等の法に於て、不取不捨なるや、』佛言はく、『般若波羅蜜は色に於て不取不捨、受想行識、乃至、阿耨多羅三藐三菩提に於て、不取不捨なり。』『世尊、云何が色を取らず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を取らざるや。』佛言はく、『若し菩薩、色を念ぜず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を念ぜざれば、是れ色を取らず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を取らずと名く。』須菩提言さく、『世尊、若し色を念ぜず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を念ぜざれば、云何が善根を増益することを得るや。善根増せざれば、云何が諸波羅蜜を具足するや。若し諸波羅蜜を具足せざれば、云何が阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩、色を念ぜず。乃至、阿耨多羅三藐三菩提を念ぜざれば、是の時善根増益す。善根増益するが故に、諸波羅蜜を具足す。諸波羅蜜具足するが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得。何を以ての故に、色を念ぜず、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を念ぜざる時、便ち阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。『世尊、何の因縁の故に、色を念ぜざる時、乃至、阿耨多羅三藐三菩提を念ぜ

【一五】薩婆若等。一切空なりと雖も、若し般若なくば一切善も一切智に達せざるなり。
【一六】不取不捨。自性無なるが故に不取、不取なるが故に不捨なり。憶念取相すべきなきを云ふ。

ざる時、便ち阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛言はく、『念を以ての故に、欲界、色界、無色界に著す。念せざるが故に、所著無し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、應に所著有るべからず。』『世尊、菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜を行ずれば、當に何處に住すべきや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩、是の如く行ずれば、色に住せず、乃至、一切種智に住せず。』『世尊、何の因緣の故に、色中に住せず、乃至、一切種智中に住せざるや。』佛言はく、『不著の故に住せず。何を以ての故に、是の菩薩は、法の著すべく住す可き有るを見ざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は、不著不住法を以て、般若波羅蜜を行ず。須菩提、若し菩薩摩訶薩、是の念を作す、若し能く是の如く行じ、是の如く修する、是れ般若波羅蜜を行ずるなり。我れ今般若波羅蜜を行じ、般若波羅蜜を修すと。若し是の如く相を取れば、則ち般若波羅蜜を遠離す。若し般若波羅蜜を遠離せば、則ち檀那波羅蜜を遠離し、乃至一切種智を遠離す。何を以ての故に、般若波羅蜜は著する處有ること無く、亦著する者無く、自性無きが故に。菩薩摩訶薩、若し復是の如く相を取れば、則ち般若波羅蜜に於て退し、若し般若波羅蜜を退すれば、則ち是れ阿耨多羅三藐三菩提を退するなり、受記を得ず。菩薩摩訶薩、復是の念を作す、此の般若波羅蜜に住し、能く檀那波羅蜜を生じ、乃至、能く大悲を生ずと。若し是の念を作さば、則ち般若波羅蜜を失ふことを爲す。般若波羅蜜を失ふ者は、則ち檀波羅蜜を生ずること能はず、乃至、大悲を生ずること能はず。菩薩若し復是の念を作す。諸佛は諸法の受相無きを知るが故に、阿耨多羅三

藐三菩提を得たりと。菩薩若し是の如きの演說、開示、敎詔を作せば、則ち般若波羅蜜を失ふ。何を以ての故に。諸佛は諸法に於て、知る所無く、得る所無く、亦法の說く可き無ければなり。何に況んや、所得有るべけんや、是の處有ること無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩の般若波羅蜜を行ずる、云何が是の過失無きや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、是の念を作す、諸法所有無く、取るべからず。若し法所有無く取るべからざれば、則ち所得無しと。若し是の如く行ずれば、般若波羅蜜を行ずと爲す。若し菩薩摩訶薩、無所有法に著すれば、則ち般若波羅蜜を遠離す。何を以ての故に、般若波羅蜜中、著法有ること無きが故に。』

〔一七〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、般若波羅蜜は般若波羅蜜を遠離するや、檀波羅蜜は檀波羅蜜を遠離するや、乃至、一切種智は一切種智を遠離するや。世尊、若し般若波羅蜜は般若波羅蜜を遠離し、乃至、一切種智は一切種智を遠離すれば、菩薩は云何が般若波羅蜜を得、乃至、一切種智を得るや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、色を生ぜず、〔一八〕是れ色誰の色なりと。乃至、一切種智を生ぜず、是れ一切種智、誰の一切種智なりと。是の如きの菩薩、能く般若波羅蜜を生じ、乃至能く一切種智を生ず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、色若は常、若は無常、若は苦、若は樂、若は我、若は非我、若は空、若

〔一七〕自相を離れて行成ずべきやを辨じて、諸法不生これ能く般若を行ずることを說く。

〔一八〕是れ色等。是れ色は色を破し、誰の色は人を破するなり。

は不空、若は離、若は非離を觀ぜず。何を以ての故に、自性自性を生ずる能はざればなり。乃至、一切種智も亦是の如し。若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、是の如く色を觀じ、乃至、一切種智を觀じて、能く般若波羅蜜を生じ、乃至、能く一切種智を生ず。譬へば轉輪聖王所至の處、四種の兵有りて、皆隨從するが如く、般若波羅蜜も亦是の如く、所至の處、五波羅蜜ありて、皆悉く隨從し、薩婆若中に到て住す。譬へば善く〔一九〕駕駟を御し、平道を失せざれば、意の至る所に隨ふが如く、般若波羅蜜も亦是の如く、五波羅蜜を御し、正道を失せざれば、薩婆若に至る。』須菩提言さく、『世尊、何等か是れ菩薩摩訶薩の道、何等か是れ道に非ざるや。』佛言はく、『聲聞道は〔二〇〕菩薩道に非ず、辟支佛道は菩薩道に非ず、一切智道、是れ菩薩摩訶薩の道なり。須菩提、是を菩薩摩訶薩の道非道と名く。』須菩提言さく、『世尊、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜は、大事の爲の故に起る、謂ゆる是れ道、是れ非道なりと示す。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、般若波羅蜜は大事の爲の故に起る、謂ゆる是れ道、是れ非道なりと示す。須菩提、是の般若波羅蜜は無量の衆生を度せんが爲の故に起り、阿僧祇の衆生を利益せんが爲の故に起る。般若波羅蜜は是の利益を作すと雖も、亦色を受けず、亦受想行識を受けず、亦聲聞辟支佛地を受けず。須菩提、般若波羅蜜は是れ諸菩薩摩訶薩に阿耨多羅三藐三菩提を導示し、能く聲聞辟支佛地を離れ、薩婆

【一九】駕駟等。馬は車を運ぶ力あるも、御者なければ所至なし、布施等般若に御せられて所至あり。

【二〇】菩薩道に非ず。本文二乘を擧ぐ、凡夫諸惑も非道なるも麁の故に說かざるのみ。

若に住せしむ。般若波羅蜜は所生無く、所滅無し。諸法常住の故に。』

（二）須菩提言さく、『世尊、若し般若波羅蜜、所生無く所滅無ければ、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、云何が應に布施すべき、云何が應に持戒すべき、云何が應に修忍すべき、云何が應に勤精進すべき、云何が應に禪定に入るべき、云何が應に智慧を修すべき。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は薩婆若を念じて應に布施すべし、薩婆若を念じて應に持戒忍辱精進禪定智慧すべし。是の菩薩摩訶薩は是の功德を持して衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向すべし。若し是の如く廻向すれば、則ち具足して六波羅蜜及び慈悲心諸功德を修す。須菩提、若し菩薩摩訶薩、六波羅蜜を遠離せざれば、則ち薩婆若を遠離せず。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すれば、六波羅蜜を應に學すべし應に行ずべし。菩薩摩訶薩、六波羅蜜を行ずれば、一切善根を具足し、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は應に六波羅蜜を習行すべし。』須菩提言さく、（三）『世尊、云何が菩薩摩訶薩、應に六波羅蜜を習行すべき。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は應に是の如く觀ずべし、色（三）合せず散せず、受想行識合せず散せず、乃至、一切種智合せず散せず。是を菩薩摩訶薩、六波羅蜜を習行すと名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の念を作すべし、我れ當に色中に住せず、

【二】般若所生なく空なるは六度を行ずるに妨なきを明す。

【三】六度の習行を明す。

【三】合せず散ぜず。色等顚倒煩惱和合の故に合し、正慧を以て觀ずるが故に散ず、菩薩利智深く觀ずれば合なく散なし。

受想行識中に住せず、乃至、一切種智中に住せざるべし、是の如く應に六波羅蜜を習行すべし。何を以ての故に。此の色所住無く、乃至、薩婆若所住無ければなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は無所住法を以て六波羅蜜を習行し、應に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。須菩提、譬へば士夫、(二四)菴羅果若は(二五)波那娑果を食はんと欲せば、當に其の子を種ゑ、隨時に漑灌し守護し、漸漸に生長し、時節和合すれば、便ち果實ありて之を食ふことを得るが如し。須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲せば、當に六波羅蜜を學し、布施を以て衆生を攝取し、持戒忍辱精進禪定智慧もて衆生を攝取し、衆生を生死より度すべし。是の如く行ずれば、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩、他人の語に隨はざらんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。佛國土を淨め衆生を成就せんと欲し、道場に坐せんと欲し、法輪を轉ぜんと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。」須菩提佛に白して言さく、「世尊、(二六)應に是の如く般若波羅蜜を學すべきや。」佛言はく、「菩薩は應に是の如く般若波羅蜜を學すべし。諸法に於て自在を得んと欲せば、當に般若波羅蜜を學すべし。何を以ての故に、是の般若波羅蜜を學すれば、一切諸法中に於て自在を得るが故に。復次に須菩提、般若波羅蜜は一切諸法中に於て最大なり。譬へば大海の萬川中に

【二四】菴羅果（Āmra）。具さに菴沒羅果と云ふ。山柰と譯す。

【二五】波那娑果。大般若四百六十には半娜娑果に作る。梵にPanasa (bread fruit) 波羅蜜と云ふ。樹は般若、果は無上菩提、士夫は行者、水は五波羅蜜に喩ふ。

【二六】應に等。佛の教會をする所の如くの意。

於て最大なるが如し。般若波羅蜜も亦是の如く一切諸法中に於て最大なり。是を以ての故に、諸の聲聞辟支佛及び菩薩道を求めんと欲するものは、應に當に般若波羅蜜乃至一切種智を學すべし。須菩提、譬へば射師意の如きの弓箭を執り、怨敵を畏れざるが如く、菩薩摩訶薩も亦是の如く般若波羅蜜乃至一切種智を行ずれば、魔若は魔天の壞すること能はざる所なり。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すれば、應に般若波羅蜜を學すべし。是の般若波羅蜜を行ずる菩薩は、十方諸佛の念ずる所と爲る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が十方諸佛、是の菩薩摩訶薩を念ずるや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩の檀波羅蜜を行ずる時、十方諸佛皆念ず。尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘棃耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜を行ずる時、十方諸佛皆悉く念ず。』『云何が念ずるや。』『布施得可からず、持戒忍辱精進禪定智慧得べからず、乃至、一切種智得べからず、菩薩能く是の如く諸法を得ざるが故に、諸佛は是の菩薩摩訶薩を念ず。復次に須菩提、諸佛は色を以てせざるが故に念ず、受想行識を以てせざるが故に念ず、乃至、一切種智を以てせざるが故に念ず。』

〔二七〕須菩提言さく、『世尊、菩薩摩訶薩〔二八〕多く學する所有れども、實には學する所無し。』佛言はく、『是の如し是の如し。須菩提、菩薩は多く學する所有れども、實には學する所無し。何を以ての故に。

【二七】正學正觀を明す。

【二八】多く學す。俗法道法を學し、諸波羅蜜、畢竟空を學し、起滅如幻を學するを云ふ。凡夫は起を學して滅を學せず、聲聞は滅を學して起を學せざるなり。

是の菩薩の學する所の諸法、皆得べからざればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、〔二九〕佛の說き給ふ所の法、〔三〇〕若は略、〔三一〕若は廣、此の法の中に於て、諸の菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を求めんと欲せば、六波羅蜜の若は略若は廣、應に受持し親近し讀誦し、讀誦し已りて思惟し正觀すべし。〔三二〕心心數法行ぜざるが故に。』佛須菩提に告げ給はく、『是の如し是の如し、菩薩摩訶薩、略廣六波羅蜜を學すれば、當に一切法の略廣の相を知るべし。』須菩提言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は一切法の略廣の相を知るや。』佛言はく、『色〔三三〕如相を知り、受想行識を知り、乃至一切種智如相を知る。是の如く能く一切法の略廣の相を知る。』須菩提言さく、『世尊、云何が色如相、云何が受想行識、乃至一切種智如相なるや。』佛須菩提に告げ給はく、『是の色、如無生無滅無住異、是を色如相と名け、乃至一切種智、如相無生無滅無住異、是を一切種智如相と名く。是中菩薩摩訶薩應に學すべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は諸法の實際を知る時、一切法の略廣の相を知る。』『世尊、何等か是れ諸法の實際なるや。』佛言はく、『無際是を實際と名く。菩薩は是の實際を學し、一切諸法の略廣の相を知る。須菩提、若し菩薩摩訶薩、諸法の法性を知れば、是の菩薩は能く一切法の略廣の相を知る。』『世尊、何等か是れ諸法の法性なるや。』佛

【二九】佛の說き給ふ所の法。八萬四千法蘊十二部經なり。

【三〇】若は略。小品一品一段又は諸法空無相無作無生無滅等。

【三一】若は廣。八萬四千法聚乃至無量佛法、又は諸法の種種別相

【三二】心心數法行ぜず。無相三昧に入る。

【三三】如相。諸法如如の相卽ち不生滅不住異なり、一相無生相なり、略廣相を知るに如、法性、實際、不合不散の四門を以てす、今は初門なり。

言はく、『色性是を法性と名け、是の性〔三三〕無分無非分なり。須菩提、菩薩摩訶薩は法性を知るが故に、一切法の略廣の相を知る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、復云何が應に一切法の略廣の相を知るべき。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、一切法の合せず散せざるを知るなり。』須菩提言さく『世尊何等の法か合せず散せざるや。』佛言はく、『色合せず散せず、受想行識合せず散せず、乃至一切種智合せず散せず、有爲性無爲性合せず散せず。何を以ての故に。是諸法自性無なり、云何が合有り散有らんや。若し法自性無ければ、是を非法と爲す。法と非法とは合せず散せざるなり。是の如く應に一切法の略廣の相を知るべし。』須菩提言さく、『世尊、是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を略攝すと名く。世尊、是の〔三五〕略攝般若波羅蜜中、初發意の菩薩摩訶薩は應に學すべし、乃至十地の菩薩摩訶薩も亦應に學すべし。是の菩薩摩訶薩、是の略攝般若波羅蜜を學すれば、則ち一切法の略廣の相を知る。

〔三六〕世尊、是の門には利根の菩薩摩訶薩のみ能く入る。』佛言はく『鈍根の菩薩も亦是の門に入るべし。中根の菩薩、散心の菩薩も亦是の門に入るべし。是の門無礙なればなり。若し菩薩摩訶薩の一心に學する者は皆是の門に入り、懈怠少精進妄憶念亂心の者は入ること能はざる所なり。精進不懈怠正憶念攝心の者は能く入る。阿鞞跋致地に住せんと欲し、一切種智を逮せんと欲する者能く入る。是の

〔三三〕無分。無分別無相にして彼此を示すべからず。無非分は無相無量等に著せざるなり。

〔三五〕略攝。般若は是れ安穩道にして一切菩薩の學すべき所なり。

〔三六〕略攝門甚深なるも、鈍根散心の菩薩も亦入るべきことを明す。大論第八十三。

菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を所說の如く當に學すべし、乃至檀波羅蜜を所說の如く當に學すべし。是の菩薩摩訶薩、當に一切智を得べし。是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずれば、所有の魔事起らんと欲するも卽ち滅す。是を以ての故に、菩薩摩訶薩、方便力を得んと欲すれば、當に般若波羅蜜を行ずべし。若し菩薩摩訶薩是の如く行じ、是の如く習し、是の如く般若波羅蜜を修すれば、是の時無量阿僧祇國土中、現在の諸佛、是の般若波羅蜜を行ずる菩薩を念ず。何を以ての故に、是の般若波羅蜜中、過去未來現在の諸佛を生ずるが故に、是を以ての故に、菩薩摩訶薩は應に是の如く思惟すべし、過去未來現在の諸佛の得る所の法、我も亦當に得べしと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜を習すべし。若し是の如く般若波羅蜜を習すれば、疾に阿耨多羅三藐三菩提を得。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は常に應に薩婆若の念を遠離せざるべし。若し菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜を行ずること、乃至彈指の頃なるも是の菩薩の福德甚だ多し。若し人有りて三千大千國土中の衆生をして自ら恣に布施せしめ、敎へて持戒禪定智慧せしめ、敎へて解脫解脫智見を得しめ、敎へて須陀洹果、乃至阿羅漢果辟支佛道を得しむるも、是の菩薩摩訶薩是の如く般若波羅蜜を行ずること、乃至彈指の頃なるには如かず。何を以ての故に。是の般若波羅蜜中、布施持戒禪定智慧、須陀洹果乃至辟支佛道を生ずればなり。十方現在の諸佛も亦般若波羅蜜中從り生じ、過去未來の諸佛も亦般若波羅蜜中從り生ずるが故に。

復次に須菩提、菩薩摩訶薩は應に薩婆若を念ずべし。般若波羅蜜を行ずること、若は須臾の時、若は半

日、若は一日、若は一月、若は百日、若は一歳、若は百歳、若は一劫、若は百劫、乃至無量無邊阿僧祇劫ならば、是の菩薩は是の般若波羅蜜を修し、福德甚だ多く、十方恒河沙等の世界中の衆生に、布施、持戒、禪定、智慧、解脱、解脱知見を敎へ、敎へて須陀洹果乃至辟支佛道を得しむるに勝る。何を以ての故に。諸佛は般若波羅蜜中從り生じ、是の布施持戒禪定智慧、解脱解脱智見、須陀洹果乃至辟支佛道果を説けばなり。若し菩薩摩訶薩有りて、般若波羅蜜に所説の如く住せば、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は是れ阿鞞跋致なり、諸佛の念ずる所と爲り、是の如きの方便力成就すと。當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は無量百千萬億の諸佛に親近し供養し、善根を種ゑ、善知識と相隨ひ、久しく六波羅蜜を行じ、久しく十八空四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智を修すと。當に知るべし、是の菩薩(三七)法王子地に住し、諸願を滿足し、常に諸佛を離れず、諸善根を離れず、一佛國從り一佛國に至ると。當に知るべし、是の菩薩は辯才無盡にして陀羅尼身を具足す、色具足し、受記具足するが故に、衆生の爲に身を受くと。當に知るべし、是の菩薩は善く字門を知り、善く(三八)非字門を知り、(三九)言を善くし、不言を善くし。(四〇)一言を善くし、二言を善くし、多言を善くし、善く女語を知り、善く男語を知り、善く色乃至識を知り、善く世間性を知り、善く涅槃性を知り、善く法相を知り、善く有爲相を知り、善く無爲相を知り、善く有法を知り、善く

【三七】法王子地。補處の菩薩たるを云ふ。

【三八】非字門。如法性實際を云ふ、此の中文字なければなり。

【三九】言不言は字門非字門の如し。

【四〇】一言等。言不言淨不淨を了知し、能く邪道を伏す。

無法を知り、善く自性を知り、善く他性を知り、善く合法を知り、善く散法を知り、善く相應法を知り、善く不相應法を知り、善く相應不相應法を知り、善く如を知り、善く不如を知り、善く法性を知り、善く法位を知り、善く緣を知り、能く無緣を知り、善く陰を知り、善く界を知り、善く入を知り、善く四諦を知り、能く十二因緣を知り、善く四禪を知り、善く四無量心を知り、善く無色定を知り、善く六波羅蜜を知り、善く四念處を知り、乃至、善く一切種智を知り、善く有爲性を知り、善く無爲性を知り、善く有性を知り、善く無性を知り、善く色觀を知り、善く受想行識觀を知り、乃至善く一切種智觀を知り、善く色色相空を知り、善く受想行識識相空を知り、乃至、善く菩提菩提相空を知り、善く【四一】捨道を知り、善く【四二】不捨道を知り、善く生を知り、善く滅を知り、善く住異を知り、善く欲を知り、善く瞋を知り、善く癡を知り、善く不欲を知り、善く不瞋を知り、善く不癡を知り、善く見を知り、善く不見を知り、善く邪見を知り、善く正見を知り、善く一切見を知り、善く名を知り、善く色を知り、善く名色を知り、善く因緣を知り、善く次第緣を知り、善く緣緣を知り、善く增上緣を知り、善く行相を知り　善く苦を知り、善く集を知り、善く滅を知り、善く道を知り、善く地獄を知り、善く餓鬼を知り、善く畜生を知り、善く人を知り、善く天を知り、善く地獄趣を知り、善く餓鬼趣を知り、善

【四一】捨道。一地より一地に至り、下地を捨つるを云ふ。
【四二】不捨道を知る。地中に住するは邪見なるを知り、貪著せず。
【四三】種智。麗本種字なし。
【四四】諸根　二十二根、又は度すべきと、度すべからざるとの諸機根。
【四五】諸根具足。度すべきもの、、

く畜生趣を知り。善く人趣を知り、善く天趣を知り、善く須陀洹を知り。善く須陀洹果を知り。善く須陀洹道を知り。善く斯陀含を知り。善く斯陀含果を知り、善く斯陀含道を知り、善く阿那含を知り。善く阿那含果を知り、善く阿那含道を知り、善く阿羅漢を知り・善く阿羅漢果を知り、善く阿羅漢道を知り、善く辟支佛を知り、善く辟支佛果を知り、善く辟支佛道を知り、善く佛を知り、善く一切（四三）種智を知り、善く一切種智道を知り、善く（四四）諸根を知り、善く（四五）諸根具足を知り、善く（四六）慧を知り、善く疾慧を知り、善く有力慧を知り、善く利慧を知り、善く出慧を知り、善く達慧を知り、善く廣慧を知り、善く深慧を知り、善く大慧を知り、善く無等慧を知り、善く實慧を知り、善く過去世を知り、善く未來世を知り、善く現在世を知り。善く方便を知り。善く（四七）待衆生を知り、善く（四八）心を知り、善く深心を知り。善く義を知り、善く語を知り、善く分別三乘を知る。須菩提、菩薩摩訶薩。般若波羅蜜を行じ、般若波羅蜜を生じ、般若波羅蜜を修すれば、是の如き等の利益を得。』

又は諸善根具足なり。

【四六】慧等。慧は總じて一切の智。疾慧は速疾に知る。出慧は諸難煩惱を脫出す。達慧は佛法に究竟通達す。廣慧は眞俗に通ず。深慧は諸法無量無相に達す。大慧は達廣深慧を云ひ、又佛般若を信ずるを云ふ、佛は生中の最大、般若は法中の最大なればなり。無等慧は般若に在りて般若に著せざるなり。實慧は無相眞實に契ふ、大論には實慧とし如意寶の自ら定色なく前物に隨つて變ずるが如く、意願皆得らるるが如く、般若の無相隨願を云ふとせり。

【四七】待衆生。衆を待ち合はせて獨り涅槃に入らざるを云ふ。

【四八】心。心は衆生善惡心、深心は清淨の本心實善なるもの。信進等皆この深心より來る。

(一)三慧品第七十

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を行じ、云何が般若波羅蜜を生じ、云何が般若波羅蜜を修するや。』佛言はく、『(三)色寂滅の故に。色虛誑の故に。色不堅實の故に。應に般若波羅蜜を行ずべし。受想行識も亦是の如し。汝の問ふ所の如く、云何が般若波羅蜜を生ずるやとは、(四)如虛空生の故に。應に般若波羅蜜を生ずべし。汝の問ふ所の如く、云何が般若波羅蜜を修するやとは、諸法(五)破壞を修するが故に、應に般若波羅蜜を修すべし。』須菩提言さく、(六)『世尊、般若波羅蜜を行じ、般若波羅蜜を生じ、般若波羅蜜を修するは、應に幾時なるべきや。』佛言はく、『初發意より、乃至(七)道場に坐するまで、應に般若波羅蜜を行ずべし、生ずべし修すべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、(八)次第心もて應に般若波羅蜜を行ずべきや。』佛言はく、『常に薩婆若心を捨てず、(九)餘念をして入ることを得しめざるを、般若波羅蜜を行ずと爲し、般若波羅蜜を生ずと爲し、般若波羅蜜を修すと爲す。若し(一〇)心心數法行ぜざるが故

【一】品目大論には三惠品とし義疏に三德品に作る。般若行を明す、中に三智を辨ずるを以て品目とせるなり。

【二】旣に般若の功德を知り、これを得んとす、今行と生と修とを明す。行とは乾慧地に在り、生とは無生忍法を得るを云ひ、修とは得忍後禪を以て熏增するを云ふ。

【三】色寂滅とは現象是れ涅槃なるを云ふ、般若を行ずるは無定相にして有無說くべからざるなり。

【四】如虛空生。言語道斷不可說なるを云ひ、空中法の生所生なきを云ふ、世間虛空の如く染著なきなり。

【五】破壞を修す。般若を以て

に般若波羅蜜を行ずと爲し、般若波羅蜜を生ずと爲し、般若波羅蜜を修すと爲す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を（二）修すれば、當に薩婆若を得べきや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、般若波羅蜜を修せざれば薩婆若を得るや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、修するも修せざるも薩婆若を得るや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、非修も非不修も薩婆若を得るや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、若し爾らざれば、云何が當に薩婆若を得べき。』佛言はく（三）『菩薩摩訶薩の薩婆若を得ること如相の如し。』『世尊、云何が如相の如き。』『實際の如し。』『云何が實際の如くなる。』『法性の如し。』『云何が法性の如くなる。』『我性衆生壽命性の如し。』『世尊、云何が我性衆生壽命性なるや。』佛須菩提に告げ給はく、『汝が意に於て云何、我衆生壽命法得べきや不や。』須菩提言さく、『得べからず。』佛言はく、『若し我衆生壽命得べからざれば、云何が當に我性衆生性壽命性有ることを說くべき、若し般若波羅蜜中、一切法有ることを說かざれば、當に一切種智を得べし。』須菩提言さく、『世尊、但だ般若波羅蜜のみ是れ不可說なるや、禪波羅蜜乃至檀波羅蜜も亦不可說な

深定に入るに、一切法著相なければ定も定緣も皆破するを云ふ。

【六】般若の行修は初發心乃至成佛に通ずることを明す。

【七】道場に坐するまで。成佛すれば般若轉じて薩婆若と名づく、理一なるも名變するを以て道場を限となす。

【八】次第心。相續次第して生ずる心を云ふ、總じて一心とし、又常念と云ふ。

【九】餘念。貪瞋等の心なり、此心久しくして般若を害するを入ると云ふ。

【一〇】心心數法行ぜず。小乘には無想滅盡餘涅槃なるを云ふも、今は無相三昧なるを云ふ。

【一一】修。常行積集に名づく、これ心心所力なるを以て修も不得なりとす。次に修尚得ず修せざる者何ぞ得ん。修不修は能觀實相と無爲般若と也。

るや。』佛須菩提に告げ給はく、『般若波羅蜜は不可說なり、檀波羅蜜乃至一切法、若は有爲、若は無爲、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は菩薩法、若は佛法も亦不可說なり。』『世尊、若し一切法不可說ならば、云何が是れ地獄、是れ畜生、是れ餓鬼、是れ人、是れ天、是れ須陀洹、是れ斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支佛、是れ諸佛なりと說くや。』佛須菩提に告げ給はく、『汝の意に於て云何、是の衆生の名字、實に得可きや不や。』須菩提言さく、『世尊、得べからず。』佛言はく、『若し衆生得べからざれば、云何が當に地獄、餓鬼、畜生、人天、須陀洹、乃至佛有ることを說くべき。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に一切法不可說を學すべし。』須菩提言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に色受想行識を學すべきや、乃至一切種智を學すべきや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を學する時、應に色不增不減を學すべし、乃至應に一切種智不增不減を學すべし。』須菩提言さく、『世尊、云何が色不增不減を學し、乃至一切種智不增不減を學するや。』佛言はく、『不生不滅の故に學す。』『世尊、云何が不生不滅の學と名くるや。』佛言はく、『諸の行業、若は〔三〕有若は無を起さず、作さざるが故に。』『世尊、云何が諸の行業、若は有若は無を起さず、作さずと名くるや。』佛言はく、『諸法自相空と觀ずるが故に。』『世尊、云何が應に諸法自相空と觀ずべ

二法の過ありて得ず。第四の非修非不修も著相の故に得ざるなり。

〔二〕四句不可得なる如く不可得の得なるを明し、以下般若の行學を示す。

〔三〕有は欲色無色の三有。無は斷滅の邊見。作さずは善惡三業なきを云ひ、起さずは業相應の諸法なきを云ふ。

き。』佛言はく、『應に色色相空を觀ずべし、應に受想行識識相空を觀ずべし、應に眼眼相空乃至意、色乃至法、眼識界乃至意識界、意識界相空を觀ずべし、應に內空內空相空を觀ずべし、乃至應に自相空自相空相空を觀ずべし、應に四禪四禪相空乃至滅受想定滅受想定相空を觀ずべし、應に四念處四念處相空、乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空を觀ずべし。是の如く須菩提、菩薩は般若波羅蜜を行じ、應に諸法自相空を行ずべし。』『世尊、若し色色相空、乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空ならば、云何が菩薩摩訶薩應に般若波羅蜜を行ずべきや。』佛言はく、『行ぜざる、是を般若波羅蜜を行ずと名く。』『世尊、云何が、行ぜざる是を般若波羅蜜を行ずとするや。』佛言はく、『般若波羅蜜不可得の故に。菩薩も不可得。行も亦不可得、行者、行法、行處、不可得の故に。是を菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ぜざるを行ずと名く、一切の諸戲論不可得の故に。』『世尊、若し、行ぜざる是を般若波羅蜜を行ずとせば、(一四)初發意の菩薩、云何が般若波羅蜜を行ずるや。』『須菩提、菩薩は初發意從り已來、應に空無所得法を學すべし。是の菩薩、無所得法を用ての故に布施・持戒、忍辱、精進、禪定(を修し)、無所得法を用ての故に智慧を修す、乃至一切種智も亦是の如し。』

(一五)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が有所得と名け、云何が無所得と名くるや。』佛須菩提

【一四】初發意等。行ぜざるを行とするは初心の迷悶する所、又若し行を行とせば顚倒たり。初心に般若行じ難きを問ふなり。故に無所得法を漸學すべきことを答ふ。

【一五】有所得無所得を明す。

【一六】二有る者。眼色を見る如く眼と色と相待なるを云ふ。

に告げ給はく、『諸の（一六）二有る者、是れ有所得なり。二有ること無き者、是れ無所得なり。』『世尊、何等か是れ二有所得、何等か是れ不二無所得なるや。』佛言はく、『眼色を二と爲す、乃至意法を二と爲す。乃至阿耨多羅三藐三菩提佛を二と爲す、是を名けて二と爲す。』『世尊、（一七）有所得中從り無所得ありや、（一八）無所得中より無所得ありや。』佛言はく、『有所得中從り無所得あるにもあらず、無所得中從り無所得あるにもあらず。須菩提、有所得、無所得、（一九）平等なる、是を無所得と名く。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は有所得無所得平等法中に於て應に學すべし。須菩提、菩薩摩訶薩の是の如く般若波羅蜜を學する、是を無所得と名づくれば（二〇）過失あること無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩、般若波羅蜜を行じ、有所得を行ぜず、無所得を行ぜざれば、云何が一地より一地に至り、一切種智を得るや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、有所得中に住せず、一地從り一地に至る。何を以ての故に、有所得中に住すれば、一地より一地に至ること能はざればなり。何を以ての故に。須菩提、無所得は是れ般若波羅蜜相、無所得は是れ阿耨多羅三藐三菩提相、無所得は亦是の般若波羅蜜を行ずる者の相なればなり。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く般若波羅蜜を行ずべし。』須菩提佛に白して

【一七】有所得中等。諸法を緣じ、取相行道するにより、無所得畢竟空を得ば、顛倒を行じて眞實を得る過あり。

【一八】無所得中等。緣ぜず取らず行ぜず無所得なるは無なり。是に依て無所得を得ば無が有を生ずる過あり。

【一九】平等。無所得に因て有所得を破し、無所得も亦捨し、畢竟空なり。

【二〇】過失。聞の如くならば孰れも過失あり、平等觀學には兩過倶に無し。

言さく、『世尊、若し般若波羅蜜得べからず、阿耨多羅三藐三菩提も亦得べからず、般若波羅蜜を行ずる者も亦得べからざれば、云何が菩薩摩訶薩、諸法相を分別して、〔二〕是れ色、是れ受想行識、乃至是れ阿耨多羅三藐三菩提とするや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、色を得ず、受想行識を得ず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得ず。』『世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、色得べからず、乃至阿耨多羅三藐三菩提得べからざれば、云何が檀波羅蜜を具足し、乃至般若波羅蜜を具足し、菩薩法位中に入り、入り已りて佛國土を淨め、衆生を成就し、一切種智を得、一切種智を得已りて、法輪を轉じ、佛事を作して、衆生を生死より度するや。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩、色を爲さざるが故に、般若波羅蜜を行ず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を爲さざるが故に、般若波羅蜜を行ず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩は何事を爲すが故に、般若波羅蜜を行ずるや。』佛言はく、『所爲無きが故に般若波羅蜜を行ず。何を以ての故に。一切諸法は所爲無く所作無し、般若波羅蜜も亦所爲無く所作無し、阿耨多羅三藐三菩提も亦所爲無く所作無し。菩薩も亦所爲無く所作無し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜を行じて、所爲無く所作無かるべし。』

〔三〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法、所爲無く所作無ければ、三乘、聲聞、辟支佛佛乘

【二】是れ色等。惱壞相是れ色、苦樂相是れ受とする類の分別を云ふ。以下重ねて無相無作を明かにす。

【三】俗諦より三乘三聚等の分別あるを明す。大論第八十四。

有ること分別すべからず。』佛須菩提に告げ給はく、『諸法の所爲無く所作無き中に、分別有ること無く、(三三)所爲有り所作有る中に、分別有り。何を以ての故に。凡夫愚人は聖法を聞かず、五受陰、謂ゆる色受想行識に著し、檀波羅蜜に著し、乃至阿耨多羅三藐三菩提に著すればなり。是の人、是の色有ることを念じて、是の色を得、乃至是の阿耨多羅三藐三菩提有ることを念じ、是の阿耨多羅三藐三菩提を得。是の菩薩、是の念を作す、我當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、我れ當に衆生を生死より度すべしと。須菩提、我れ五眼を以て觀るも、尚ほ色、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得ず、何に況んや、是の狂愚人は(三四)目無くして、阿耨多羅三藐三菩提を得、衆生を生死より、(三五)度脱せんと欲するをや。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し佛五眼を以て觀るも衆生の生死中より、度す可き者を見ざれば、今世尊、云何が阿耨多羅三藐三菩提を得、衆生に三聚、正定、邪定、不定有りと分別するや。』『須菩提、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得、初に衆生の(三六)三聚、若は正定、若は邪定、若は不定を得ず。須菩提、衆生無法に法想有るを以て、我れ其の妄著を除くを以て、世俗法の故に、得ること有るを說く、第一義には非ず。』『世尊、第一義に住して、阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ずや。』佛言はく

【三三】所爲有り所作有る中に分別有り　所得所爲所作ある凡俗に於て分別あるのみ。

【三四】目無く。慧眼乃至佛眼なきなり。

【三五】度脱せんと欲するは所得分別あり、實に自ら觀ず、他を導く能はざるなり。得たるもの實に得たるに非ず。

【三六】三聚等。一聚尚得ず、況んや三聚を得んや。顚倒を破せんが爲に三を分つ。能く顚倒を破するを正定、必ず顚倒を破せざるを邪定、緣を得れば破し然らざれば破する能はざるを不定とす。

く、〔二七〕『不とよ。』『世尊、顚倒に住して、阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、若し第一義中に住して得ず、亦顚倒中に住しても得ずば、將に世尊、阿耨多羅三藐三菩提を得ざる無きか。』佛言はく、『不とよ、我れ實に阿耨多羅三藐三菩提を得たるも、所住の若は有爲相、若は無爲相なる無きのみ。須菩提、譬へば佛の所化人は有爲相に住せず、無爲相に住せざるも、化人亦來有り去有り、亦は坐し亦は立するが如し。須菩提、是の化人、若し檀波羅蜜を行じ、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禪波羅蜜、般若波羅蜜を行じ、四禪、四無量心、四無色定、五神通を行じ、四念處を行じ、乃至八聖道分、入空三昧、無相三昧、無作三昧を行じ、內空乃至無法有法空を行じ、八背捨、九次第定、佛の十力、四無所畏、四無礙智、大慈大悲を行じ、阿耨多羅三藐三菩提を得て法輪を轉ず。是の化人　無量の衆生三聚有るを化作す。須菩提、汝が意に於て云何。是の化人、檀波羅蜜を行ずる有り、乃至八聚衆生有りや不や。』須菩提言さく、『不とよ。』『須菩提、佛も亦是の如く、諸法は化の如く、化人の化の衆生を度するが如くにして、實の衆生の度すべきもの有ること無きを知る。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、佛の所化人の如く行ず。』

〔二八〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法、化の如くならば、佛と化人と、何等の差別有り

〔二七〕否定するは初心菩薩の執著あるに依る。有法倚住すべからず、第一義無相に住すべけんやとなり。得道を第一義ならずとするに非ず。

〔二八〕一切法化の如くなるを以て眞化の別なきを明す。

や。』佛須菩提に告げ給はく、『佛と化人とは、差別有ること無し。何を以ての故に。佛能く作す所有り、化人も亦能く作す所有ればなり。』『世尊、若し佛無ければ、化のみ獨り能く作す所有りや不や。』佛言はく、『能く作す所有り。』須菩提言さく、『世尊、云何が佛無く化能く作す所有りや。』『須菩提、譬へば過去に佛有り、〔元〕須扇多と名く、菩薩を化せんと欲するが爲の故に、佛を化作して、自ら滅度せるが如し。此の化佛は住すること半劫、佛事を作し、菩薩行者に應ずる記を授け已りて滅度す。一切世間の衆生は、佛實に滅度すと謂ふ。須菩提、化人實には無生無滅なり。是の如く須菩提、菩薩は般若波羅蜜を行じ、當に諸法化の如きを信知すべし。』『世尊、若し佛と佛の所化人と差別無くば、云何が布施をして清淨ならしむる。人佛を供養せば、是の衆生、乃至無餘涅槃まで福德盡きざるが如く、若し化佛を供養せば、是の人、乃至無餘涅槃まで福德も亦盡きざるべきや。』佛須菩提に語り給はく、『佛諸法實相を以ての故に、一切衆生、天及び人の與めに福田と作る。化佛も亦諸法實相を以ての故に、一切衆生、天、及び人の與めに福田と作る。』佛須菩提に告げ給はく、『是の化佛及び佛に於て種うる所の福德を置き、若し善男子善女人有りて、但だ敬心を以て佛を念ずるに、是の善根の因緣は、乃至苦を畢るまで其の福盡きず。須菩提是の敬心もて佛を念ずるを置き、若し善男子善女人有りて、但だ一華を以て虛空中に散じ、佛を念ずるも、乃至苦を畢るまで、其の福盡きず。須菩提、是の敬心念佛、散華念佛を置き、若し人有りて南

【元】須扇多(Susimatha)。善寂慧と譯す。

無佛を一稱するも、乃至苦を畢るまで其の福盡きず。是の如く須菩提、佛の福田中に種うる其の福無量なり。是を以ての故に、須菩提、當に知るべし、佛と化佛と差別有ること無しと、諸法法相異ること無きが故に。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く般若波羅蜜を行じ、諸法の實相中に入るべし。是の諸法の實相は應に壞すべからず。謂ゆる般若波羅蜜相、乃至阿耨多羅三藐三菩提相は應に壞すべからず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法の實相應に壞すべからざれば、佛何を以て〔三〇〕諸法相を壞し、是れ色、是れ受想行識、是れ內法、是れ外法、是れ善法、是れ不善法、是れ有漏、是れ無漏、是れ世間、是れ出世間、是れ有諍法、是れ無諍法、是れ有爲法、是れ無爲法等と言ふ。世尊、將に諸法相を壞すること無しとするか。』佛須菩提に告げ給はく、『不とよ、名字の相を以ての故に、諸法を示し、衆生をして解せしめんと欲す、佛は諸法の法相を壞せざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し名字の相を以ての故に諸法を說き、衆生をして解せしめんとするも、世尊、若し一切法名無く相無くんば、云何が名相を以て衆生に示し解せしめんと欲するや。』佛須菩提に告げ給はく、〔三一〕『世俗の法に隨ひ名相有りとするも、實には著處無し。須菩提、凡人の如きは、苦を說くを聞きて、名に著し相に隨ふ。須菩提、諸佛及び弟子は、名に著せず、相に隨はず。須菩提、若し名名に著し相相に著せば、空も

〔三〇〕諸法相を壞し。諸法を分別するは諸法實相を壞するとせば佛の五蘊內外等を說くは諸法を壞することとなる。

〔三一〕答意は實に名相なきも世間有とするが故に名相を說くは妄說に非ず。これを說くも實有なりと著せざれば實相を壞せずとなり。

亦應に空に著すべし、無相も亦應に無相に著すべし、無作も亦應に無作に著すべし、實際も亦應に實際に著すべし、法性も亦應に法性に著すべし、無爲性も亦應に無爲性に著すべし。須菩提、是の一切法但だ名相有るのみ、是の法名相中に住せず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、但だ名相中に住するのみ、應に般若波羅蜜を行ずべし、是の名相中にも亦著すべからず。』『世尊、若し一切有爲法但だ名相のみなれば、菩薩摩訶薩、誰の爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發し、種種の勤苦を受くる。菩薩は行道の時、布施し、持戒し、忍辱勤精進を行し、禪定に入り、智慧を修し、四禪、四無量心、四無色定、四念處、乃至八聖道分を行じ、空を行じ、無相を行じ、無作を行じ、佛の十力を行じ、乃至大慈大悲を具足するや。』佛言はく、『須菩提の所說の如く、若し一切有爲法但だ名相のみ有れば、菩薩摩訶薩、誰の爲の故に、菩薩道を行ずるやとは、須菩提、若し有爲法但だ名相有るのみならば、等しく是の【三二】名相の名相も亦空なり。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は菩薩道を行じ、一切種智を得、一切種智を得已りて法輪を轉じ、法輪を轉じ已りて三乘法を以て衆生を度脫す、是の名相も亦生無く滅無く住異無し』。

【三三】爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊は一切種智を說き給ふや。』佛須菩提に告げ給はく、『我れ一切種智を說く。』須菩提言さく、『佛は一切智を說き、道種智を說き、一切種智を說く、是

【三二】名相の名相等。名相中名相も空にして、一切法も名相も等しく空なれば、實法と名相とを離れ、有無の邊を離れ、中道一切智に住して衆生を度す。

【三三】三智を說く。

の三種の智に何の差別有りや。』佛須菩提に告げ給はく、『薩婆若は是れ一切聲聞辟支佛の智、道種智は是れ菩薩摩訶薩の智、一切種智は是れ諸佛の智なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に、薩婆若は是れ聲聞辟支佛の智なるや。』佛須菩提に告げ給はく、(三四)『一切名謂ゆる內外法は、是れ聲聞辟支佛能く知る、一切道一切種智を用ふる能はず。』須菩提言さく、『世尊、何の因緣の故に、道種智は是れ諸菩薩摩訶薩の智なるや。』佛須菩提に告げ給はく、(三五)『一切道は菩薩摩訶薩應に知るべし。若は聲聞道辟支佛道、菩薩道、應に具足して知るべし。亦應に是の道を用て衆生を度するも、亦實際證を作さざるべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛說の如く、菩薩摩訶薩、應に諸道を具足すべし、應に是の道を以て實際證を作すべからざるや。』佛須菩提に告げ給はく、『是の菩薩未だ佛土を淨めず、未だ衆生を成就せずば、是の時應に實際證を作すべからず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩道中に住し、應に實際證を作すべきや不や。』佛言はく、(三六)『不とよ。』『世尊、非道の中に住して、實際證を作すや。』佛言はく、(三七)『不とよ。』『世尊、道非道に住し、實際證を作すや。』佛言はく(三八)『不とよ。』『世尊、非道亦非非道に住し、實際證

【三四】二乘は一切內外法の無常苦空無我等の總相のみを知る後二智を完うせず。

【三五】一切道。四あり、一人天受樂の道十善布施諸德、二聲聞道、三辟支佛道、この二は三十七道品を以て涅槃に入る、四菩薩道、道品六度を用ひて二利を事とす。

【三六】道中作證に二過あるが故に否定す、一に結使ありて正智なきと、二に一切有爲虛誑なるとなり。

【三七】道中尙得ず、況んや非道をや、故に否定す。

【三八】道非道も二過あり。非道非非道も著相を脫せず、故に否定す。

を作すや。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、菩薩摩訶薩は何處に住して、實際證を作すべきや。』佛須菩提に告げ給はく、〔三九〕『汝が意に於て云何。汝道中に住して、諸法を受けざるが故に、漏盡き、心解脱を得たりや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊。』『汝非道に住して、漏盡き心解脱を得たりや不や。』『不とよ。世尊。』『汝道非道に住して、漏盡き心解脱を得たりや不や。』『不とよ、世尊。』『汝非道亦非非道に住して、漏盡き心解脱を得たりや不や。』『不とよ、世尊。我れ所住無く、諸法を受けずして、漏盡き心解脱を得たり。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩も亦是の如く、所住無くして應に實際證を作すべし。』須菩提言さく、『世尊、云何が一切種智の相と爲すや。』佛言はく、〔四〇〕『一相の故に一切種智と名く、謂ゆる一切法寂滅相なり。復次に諸法の行類、相貌。名字を顯示して說く、佛實の如く知る、是を以ての故に、一切種智と名く。』

〔四一〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、一切智。道種智。一切種智、是の三種の智ならば、〔四二〕結斷差別有り、盡有り、餘有るや不や。』佛言はく、〔四三〕『煩惱斷すれば差別無し。諸佛は煩惱習一切悉く斷ず、聲聞辟支佛は煩惱習悉く斷せず。』『世尊、是の諸人、無爲法を得ずして、煩惱を斷ずることを得るや。』佛言はく、〔四四〕

〔三九〕直答せず反問するは己證の了了たるものを反省せしむるなり。

〔四〇〕佛智を明すに二相を以てす、一は一相即ち諸法實相に通達す。二は名字言說無礙なり。

〔四一〕斷盡差別を辨ず。

〔四二〕結斷　煩惱を斷ずるなり。

〔四三〕煩惱斷等　斷ずる時に差別あるも、斷じ終れば差別なきなり。

〔四四〕悉く無爲にして有爲斷なきを答ふ。

『不とよ。』『世尊、無爲法中差別することを得べきや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、若し無爲法中差別を得可からずんば、何を以ての故に、是の人煩惱習斷じ、是の人煩惱習斷せずと說くや。』佛須菩提に告げ給はく、『習は煩惱に非ず、是れ聲聞辟支佛の身口、婬欲、瞋恚、愚癡の相に似たるもの有り、凡夫愚人は之れが爲に罪を得、是の三毒習は諸佛有ること無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し道法無く、涅槃も亦法無ければ、何を以ての故に、分別して、是れ須陀洹、是れ斯陀含、是れ阿那含、是れ阿羅漢、是れ辟支佛、是れ菩薩、是れ佛なりと說くや。』佛須菩提に告げ給はく、『是れ皆無爲法にして、而も分別有るを以て、是れ須陀洹、是れ斯陀含、是れ阿那含、是れ阿羅漢、是れ辟支佛、是れ菩薩、是れ佛なりとす。』(四五)『世尊、實に無爲法なるを以ての故に、分別して須陀洹、乃至佛有りや。』佛須菩提に告げ給はく、『世間の言說の故に差別有り、第一義には非ず、第一義中分別說有ること無し。何を以ての故に。第一義中には言說の道無し、(四六)斷結するが故に、後際を說く。』須菩提言さく、『世尊、諸法の自相空中に、前際得べからず、何に況んや後際有るを說かんや。』佛須菩提に告げ給はく、『是の如し、是の如し、諸法の自相空中に、前際有ること無し、何に況んや後際有らんや、是の處り有ること無し。須菩提、衆生は諸法の自相空なるを知らざるを以ての故に、是れ前際、是れ後際なりと說くことを爲すのみ。諸法の自相空中、前際後際得べからず。是の如く須菩提、

【四五】須菩提再問して定說を求むるなり。

【四六】斷結等。結使斷ずるが故に後際無餘涅槃を說くのみ。

菩薩摩訶薩は應に自相空法を以て、般若波羅蜜を行ずべし。須菩提、若し菩薩、自相空法を行ずれば、則ち所著の若は內法、若は外法、若は有爲法、若は無爲法、若は聲聞法、若は辟支佛法、若は佛法無し。』〔四七〕須菩提佛に白して言さく、『常に般若波羅蜜を說く、般若波羅蜜は何の義を以ての故に般若波羅蜜と名くるや。』佛言はく、〔四八〕『第一義を得て一切法を度し、彼岸に到る、是の義を以ての故に、般若波羅蜜と名く。復次に須菩提、諸佛菩薩辟支佛阿羅漢は、是の般若波羅蜜を用て、彼岸に度ることを得。是の義を以ての故に、般若波羅蜜と名く。復次に須菩提、分別し籌量し、一切法を破壞し、乃至微塵にも、是の中堅實を得ず。是の義を以ての故に、般若波羅蜜と名く。復次に須菩提、諸法如法性實際、皆般若波羅蜜中に入る、是の義を以ての故に、般若波羅蜜と名く。復次に須菩提、是の般若波羅蜜、法の若は合、若は散、若は有色、若は無色、若は可見、若は不可見、若は有對、若は無對、若は有漏、若は無漏、若は有爲、若は無爲なるもの有ること無し。何を以ての故に、是の般若波羅蜜は色無く、形無く對無く、一相謂ゆる無相なればなり。復次に須菩提、是の般若波羅蜜は、能く一切法一切樂說辯一切照明を生ず。須菩提、是の般若波羅蜜は、魔、若は魔天、聲聞辟支佛を求むる人、及び餘の異道梵志、怨讎惡人も、菩薩の般若波羅蜜を行ずるを壞すること能はず。何を以ての故に。是の人輩、般若波羅蜜中、皆得可からざるが故に。須菩提、菩薩摩訶薩は

【四七】般若波羅蜜の名義を釋して行般若を說く。

【四八】大論には「義」字なく、「第一度を得て一切法彼岸に到る」とし、第一度に就て種種に釋せり。

應に是の如く般若波羅蜜の義を行ずべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜の義を行ぜんと欲せば、應に（四九）無常義、苦義、空義、無我の義を行ずべし。亦應に（五〇）苦智義、集智義、滅智義、道智義、法智義、比智義、世智義、他心智義、盡智義、無生智義、如實智義を行ずべし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜義の爲の故に、應に般若波羅蜜を行ずべし。』

須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の深般若波羅蜜中、義と非義と皆得べからざれば、云何が菩薩深般若波羅蜜義の爲の故に、應に般若波羅蜜を行ずべき。』佛須菩提に告げ給はく、『菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜義の爲の故に、應に是の如く念ずべし、貪欲は義に非ず、是の如きの義、應に行ずべからず。瞋恚、愚癡は義に非ず、是の如きの義、應に行ずべからず。一切邪見は義に非ず、是の如きの義、應に行ずべからず。何を以ての故に。三毒如相は義有ること無く非義有ること無く、一切邪見如相は義有ることなく、非義有ること無ければなりと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の念を作すべし、色は義に非ず非義に非ず、乃至識は義に非ず非義に非ず、檀波羅蜜、乃至阿耨多羅三藐三菩提は義に非ず非義に非ず。何を以ての故に。須菩提、佛の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、法の若は義、若は非義を得可きもの有ること無ければなり。須菩提、有佛無佛に諸法法相常住にして義有ること無く非義有ること無し。是の如く須菩提、

【四九】無常義等。四聖行なり、常無常孰れも取著せば般若に應ぜず、今の無常等は無著不戲の義なり。

【五〇】苦智等。十一智を擧ぐ、前十智常に說く、如實智は諸法の實相に契へる佛智なり。

菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、應に義及び非義を離るべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何を以ての故に般若波羅蜜は義に非ず非義に非ざるや。』佛須菩提に告げ給はく、『一切有爲法は無作相なり。是を以ての故に般若波羅蜜は義に非ず非義に非ず。』『世尊、一切賢聖、若は佛、若は佛弟子、皆無爲を以て義と爲す。云何が佛、般若波羅蜜は義非義有ること無しと云ふや。』佛言はく、『一切賢聖、若は佛、若は佛弟子、皆無爲を以て義と爲すと雖も、亦以て增せず、亦以て損せず。須菩提、譬へば（五一）虛空如、衆生を益すること能はず、衆生を損する能はざるが如し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜は增有ること無く、損有ること無し。』『世尊、菩薩摩訶薩は（五二）無爲般若波羅蜜を學せずして、一切種智を得んや。』佛言はく、『是の如し是の如し。須菩提、菩薩摩訶薩は是の無爲般若波羅蜜を學して當に一切種智を得べし、二法を以てせざるが故に。』『世尊、不二法能く不二法を得るや。』佛言はく、『不とよ。』須菩提言さく、『二法能く不二法を得るや。』佛言はく、『不とよ。』須菩提言さく、『世尊、菩薩摩訶薩、若し二法を以てせず、不二法を以てせざれば、云何が當に一切種智を得べき。』『須菩提、無所得は卽ち（五三）是れ得なり、是を以て得るも得る所無きなり。』

【五一】虛空如。虛空眞如法界なり。

【五二】無爲般若。般若に二あり有爲般若を學して六度を具して十地中に住す、無爲般若を學して一切惑習を滅して佛道を成す。

【五三】是れ得。二不二無分別皆無所得にして、有爲法を行ずるも心取相せざるが故に一切種智を得。

〔一〕卷の第二十二

〔二〕道樹品第七十一

〔三〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の般若波羅蜜は〔四〕甚深なり。世尊、諸の菩薩摩訶薩は、衆生を得ずして、而も衆生の爲に阿耨多羅三藐三菩提を求む、是を甚難と爲す。世尊、譬へば人の虚空中に於て樹を種ゑんと欲する如く、是を甚難と爲す。世尊、菩薩摩訶薩も亦是の如く衆生の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求め、衆生も亦得べからず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸の菩薩摩訶薩は甚だ難しと爲す所、衆生の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求めて、吾我に著する顚倒の衆生を度す。譬へば人の樹を種うるに樹の根莖枝葉華果を識らずして而して愛護し漑灌し、漸漸長大にし、華葉果實を成就し、皆之を用ふることを得るが如し。是の如く須菩提、諸の菩薩摩訶薩は衆生の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求め、漸漸に六波羅蜜を行じて一切種智を得、佛樹を成就し、華葉果實を以て衆生を益す。須菩提、何等をか〔五〕葉の衆生を

【一】宋元明本卷第二十四に作る。
【二】品目。丹本種樹品に作る、種樹を以て喩說し如相を明し、菩薩の功德方便を述ぶ。
【三】樹喩を明す。大論第八十五。
【四】甚深。前に無所得の行般若を聞き讃歎す。
【五】葉等。樹葉蔭涼を與ふることを三惡の熱苦を離るるに喩ふ。

益すると爲す。菩薩摩訶薩に因て三惡道を離るることを得る、是を葉の衆生を益すると爲す。何等をか㈥華の衆生を益すると爲す。菩薩摩訶薩に因て刹利大姓婆羅門大姓居士大家、四天王天處乃至非有想非無想天處に生ずることを得る、是を華の衆生を益すると爲す。何等をか㈦果の衆生を益すると爲す。是の菩薩摩訶薩は一切種智を得、衆生をして須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果・辟支佛道、佛道を得しむ、是の衆生は漸漸に三乘法を以て無餘涅槃に於て而して般涅槃す、是を果の衆生を益すると爲す。是の菩薩摩訶薩は衆生の實法を得ずして而も衆生を度して、我顚倒の著を離れしめ、是の念を作す、一切の諸法中に衆生の我所無く・衆生の爲に一切種智を求むるも、是の衆生實に得べからずと。』

㈧須菩提佛に白して言さく、『世尊、當に知るべし、是の菩薩は㈨佛の如しと爲す。所以は何ん。是の菩薩の因縁の故に、一切地獄種一切畜生種一切餓鬼種を斷じ、一切諸難を斷じ、一切貧窮下賤道を斷じ、一切欲界色界無色界を斷ずればなり。』

佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は佛の如し。須菩提、若し菩薩摩訶薩發心して阿耨多羅三藐三菩提を求めざれば、世間則ち過去未來現在の諸佛無く、世間亦辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹も無く、三惡趣及び三界も亦斷ずる時無し。須菩提、汝の說く所の如

【六】華等。華色好香淨柔なるを施戒等の人天福樂を與ふるに喩ふ。

【七】果等。果の色香味力を聖道果に喩ふ。

【八】菩薩は佛の如く如相を學成することを明す。

【九】佛の如し。第二十發趣品第十地の相として說く、參照せよ。

く、是の菩薩摩訶薩は、當に知るべし、佛の如しと。是の如し是の如し。須菩提、當に知るべし、是の菩薩は實に佛の如しと。何を以ての故に。(一〇)如を以ての故に如來と說き。如を以ての故に辟支佛阿羅漢一切賢聖と說き、如を以ての故に色乃至識と說き、如を以ての故に一切法乃至有爲性無爲性と說く、是の諸の如は、如實にして無異なり、是を以ての故に說て名けて如と爲す。諸の菩薩摩訶薩は是の如を學し、一切種智を得て如來と名くるを得たり。是の因緣を以ての故に、菩薩摩訶薩は、當に知るべし、佛の如し。(一一)如相を以ての故にと說く。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に如般若波羅蜜を學すべし。菩薩(一二)如般若波羅蜜を學すれば則ち能く一切法如を學す。一切法如を學すれば則ち一切法如を具足することを得。一切法如を具足し已りて一切法如に住し、自在を得。一切法如に住し、自在を得已りて、善く一切衆生の根を知る。善く一切衆生の根を知り已りて、一切衆生の(一三)根具足することを知り、亦一切衆生の業因緣をも知る。一切衆生の業因緣を知り已りて、願智具足することを得。願智具足することを得已りて三世の慧を淨む。三世の慧を淨め已りて一切衆生を饒益す。一切衆生を饒益し已りて佛國土を淨む。佛國土を淨め已りて一切種智を得。一切種智を得已りて法輪を轉ず。法輪を轉じ已

【一〇】如等。諸法如を得るが故に名けて如來と爲す。

【一一】如相を得る同じきを以て佛の如しとす、菩薩を偏愛貪貴して佛の如しと云ふにあらず。畜生も亦この如あるも未發未利益の故に畜生佛の如しと名づけざるのみ。

【一二】如般若。如相般若、一切法如なり。

【一三】根具足。信進等五善根三乘差別あるも、具足せば度すべし、若し根ありて度すべからざるは、先世の惡業重罪に依る故に、次に業因緣をも知るとす。

りて衆生を三乘に於て安立し、無餘涅槃に入らしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は一切の功德、自ら利し人を利することを得んと欲し、應に阿耨多羅三藐三菩提心を發すべし。』

（二四）須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の諸の菩薩摩訶薩は能く說の如く深般若波羅蜜を行ず。一切世間の天及び人阿脩羅は當に爲に禮を作す應し。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、是の菩薩摩訶薩は、能く說の如く深般若波羅蜜を行ず。一切世間の天及び人阿脩羅は當に爲に禮を作す應し。』『世尊、是の初發意の菩薩摩訶薩は衆生の爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提を求めて、幾所の福德を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し千國土中の衆生、皆聲聞辟支佛の意を發せば、汝の意に於て云何、其の福多きや不や。』須菩提言さく、『甚だ多く無量なり。』佛須菩提に告げたまはく、『其の福の初發意の菩薩摩訶薩に如かざること、百倍千倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。何を以ての故に。聲聞辟支佛の意を發す者は、皆菩薩に因て出るが故に、菩薩は終に聲聞辟支佛に因て出でず。二千國土、三千大千國土中も亦是の如し。是の三千大千國土中の衆生、意を發して聲聞辟支佛を求むる者を置き、若し三千大千國土中の衆生皆乾慧地に住すれば、其の福多きや不や。』須菩提の言さく、『甚だ多く無量なり。』佛言はく、『初發意の菩薩に如かざること、百倍千倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。是の乾慧地に住する衆生を置き、若し三千大千國土中の衆生、皆性地八人地見地薄地離欲地已辦地辟支佛地に

【二四】菩薩の禮すべく功德多きを說く。

住すれば、是の一切の福德を初發意の菩薩に比せんと欲するに、百倍千倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。須菩提、若し三千大千國土中の初發意の菩薩の（一五）入法位の菩薩に如かざること、百千萬倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。若し三千大千國土中の入法位の菩薩の（一六）向佛道の菩薩に如かざること、百千萬倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。若し三千大千國土中の向佛道の菩薩の佛の功德に如かざること、百千萬倍巨億萬倍乃至算數譬喩の及ぶこと能はざる所なり。』

（一七）須菩提佛に白して言さく、『世尊、初發心の菩薩摩訶薩は、當に何等の法を念ずべきや。』佛言はく、『應に（一八）一切種智を念ずべし。』須菩提言さく、『何等をか是れ一切種智とする。一切種智は何等の緣、何等の增上、何等の行、何等の相ぞや。』佛須菩提に告げたまはく、『一切種智は所有無く（一九）念無く生無く示無し、須菩提の所問の如き、一切種智は何等の緣何等の增上何等の行何等の相とは、須菩提、一切種智は無法を緣とし（二〇）念を增上と爲し、寂滅を行と爲し、無相を相と爲す。須菩提、是を一切種智の緣

【一五】入法位。發心正性離生の菩薩進みて無生法忍に入れるなり。發趣相の第七地參照。

【一六】向佛道。第八地乃至十地、不退に成佛に向ふ菩薩なり。

【一七】甚深般若無想得難きを以て初學の念ずべき一切種智を明す。

【一八】一切種智を念ずべし。小離樂を捨て大淨樂を得、顚倒虛誑樂を捨て眞實樂を得、繫縛樂を捨て解脫樂を得、獨善樂を捨て衆生善樂を得るを念じて一切種智に專らなるべし。

【一九】念無くは、度不度等の分別なきを云ひ、生無くは別法の生起なく、示無くは數へて示すべき所も無く、畢竟無所有にして空なり。

【二〇】念を增上。佛一切種智を得て復思惟せず、難易なく唯

遠近所念皆得べきを以て念を増上とすと云ふ。

増上行相と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、但だ一切種智のみ無法なりや 色受想行識も亦無法なり、內外の法も亦無法なり、四禪四無量心四無色定四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分空三昧無相三昧無作三昧八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲大喜大捨、初神通第二第三第四第五第六神通、有爲相無爲相も亦無法なりや。』佛須菩提に告げたまはく、『色も亦無法なり、乃至有爲相無爲相も亦無法なり。』須菩提言さく、『世尊、何の因縁の故に一切種智は無法、色も無法、乃至有爲(相)無爲相も亦無法なりや。』佛言はく、『一切種智は自性無きが故に。若し法自性無くば是を無法と名く。色乃至有爲無爲相も亦是の如し。』『世尊、何の因縁の故に諸法は自性無きや。』佛言はく、『諸法は和合因緣生の(故に)法中自性無し。若し自性無くば是を無法と名く。是を以ての故に。須菩提、菩薩摩訶薩は當に一切法無性なりと知るべし。何を以ての故に、一切法性空なるが故に、是を以ての故に、當に知るべし一切法無性なりと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法無性なれば、初發意の菩薩は何等の方便力を以てか、能く檀那波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就する。能く尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、初禪乃至第四禪を行じ、慈心乃至捨心を行じ、空處乃至非有想非無想處、內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、空三昧無相三昧無作三昧八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を行じ、能く一切種智を行じて佛國土を淨め衆生を成就する

や。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は能く諸法の〔一〕無性を學し、亦能く佛國土を淨め衆生を成就して、國土も衆生も亦無性なりと知る、即ち是れ方便力なり。須菩提、是の菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行じて〔二〕佛道を修學し、尸羅波羅蜜を行じて佛道を修學し、羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じて佛道を修學し、乃至一切種智を行じて佛道を修學し、亦佛道無性なることを知る。是の菩薩摩訶薩は六波羅蜜を行じて佛道を修學し、乃至未だ佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲、一切種智を成就せざる、是を爲に佛道を修學すと爲す。能く是の佛道の因緣を具足し已りて、〔三〕一念相應の慧を用て一切種智を得。爾の時、一切の煩惱の習永く盡きて生ぜざるを以ての故に、是の時に佛眼を以て三千大千世界を觀ずるに無法も尙ほ得べからず、何に況んや有法をや。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は、應に無性の般若波羅蜜を行ずべし。須菩提、是を菩薩摩訶薩の方便力と名く。無法尙ほ得べからず、何に況んや有法をや。須菩提、是の菩薩摩訶薩の若は布施する時、布施無法にして尙ほ知るべからず、何に況んや有法をや。受者及び菩薩心無法にして尙ほ知るべからず 何に況んや有法をや。乃至一切種智の得者、得法、得處無法にして尙ほ知るべからず、何に況んや有法をや。何を以ての故に。一切法の本性爾ればなり。佛作に非ず、聲聞辟支佛の作に非ず、亦餘人の作にも非ず。

〔一〕無性を學し亦能く佛國土を淨め衆生を成就す。畢竟空を觀じて諸功德を集め、有無二法一時に行ずるは、是れ方便力なり。
〔二〕佛道を修學。先に云ふ向佛道の行なり。
〔三〕一念相應の慧。最後心斷結の智慧。

一切の法は作者無きが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸法と諸法の性とは離るるや。』佛言はく、『是の如し是の如し、諸法と諸法の性とは離る。』『世尊、若し諸法と諸法の性と離るれば、云何が離法能く離法の若は有、若は無なるを知る。何を以ての故に。無法は無法を知る能はず、有法は有法を知る能はず、無法は有法を知る能はず、有法は無法を知る能はざればなり。世尊、是の如きの一切の法は所有相無し。云何が菩薩摩訶薩は是の分別を作す、是の法若は有なり、若は無なりと。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は世諦を以ての故に衆生に示す、若は有なり、若は無なりと、第一義を以てするには非ず。』『世尊、世諦と第一義諦とは異有りや。』『須菩提、世諦と第一義諦とは異無きなり。何を以ての故に。世諦の如は卽ち是れ第一義諦の如なればなり。衆生は是の如を知らず、見ざるを以ての故に、菩薩摩訶薩は世諦を以て衆生に示す、若は有なり、若は無なりと。復次に須菩提、衆生は五受陰中に於て著相有るが故に、無所有なることを知らず。是の衆生の爲の故に、若は有なり、若は無なりと示し、淸淨無所有なることを知らしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は當に是の行般若波羅蜜を作す應し。』

(一)菩薩行品第七十二

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊は菩薩行を說きたまふ、何等か是れ菩薩行なる。』佛言はく、『菩薩行とは、(三)阿耨多羅三藐三菩提の爲に行ず、是を菩薩行と名く。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提の爲に行ずる、是を菩薩行なりとするや。』佛言はく、『若し菩薩摩訶薩、色空を行じ、受想行識空を行じ、眼空乃至意を行じ、色空乃至法を行じ、眼界空乃至意識界を行じ、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、內空を行じ、外空を行じ、空空を行じ、大空を行じ、第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空諸法空性空自相空無法空有法空無法有法空を行じ、初禪第二第三第四禪を行じ、慈悲喜捨を行じ、無量虛空處を行じ、無量識處無所有處非有想非無想處を行じ、四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を行じ、空三昧を行じ、無相無作三昧を行じ、八背捨九次第定を行じ、佛の十力を行じ、四無所畏を行じ、四無礙智を行じ、十八不共法を行じ、大慈大悲を行じ、淨佛國土を行じ、成就衆生を行じ、諸の辯才を行じ、(四)文字入無文字を行じ、諸陀羅尼門を行じ、

【一】品目。義疏に道行品ともせり。經に常に般若と菩薩行とを說く、前品般若因緣を問答す、今菩薩行佛陀菩提を問答分別す。

【二】般若卽菩薩行なるを說く、菩薩の三業所作多し、今正行を決す。

【三】阿耨等。慈悲心及空智慧を以て無上菩提に向ふ諸善これ正行なり、これ菩薩の惡無記及著心の善を簡捨す。

【四】文字入無文字。文字門も不生空に入るを云ふ。

有爲性を行じ、無爲性を行じ、如と阿耨多羅三藐三菩提との二を（五）行ぜず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるを阿耨多羅三藐三菩提の爲に行ずと名く、是を菩薩行と爲す。』

（六）須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊、説きて佛と言ふ、何の義の故に佛と名くるか。』佛須菩提に告げたまはく、『諸法の（七）實義を知るが故に名けて佛と爲す。復次に諸法の實相を得るが故に名けて佛と爲す。復次に實義に通達するが故に名けて佛と爲す。復次に實の如く一切法を知るが故に名けて佛と爲す。』須菩提言さく、『何の義の故に（八）菩提と名くるや。』『須菩提、空義は是れ菩提の義なり。如義法性義實際義は是れ菩提の義なり。復次に須菩提、名相言説は是れ菩提の義なり。須菩提、菩提の實義は壞すべからず、分別すべからざる、是れ菩提の實義なり。復次に須菩提、諸法實相の不誑不異なる、是れ菩提の義なり。是を以ての故に菩提と名く。復次に須菩提、是の菩提は是れ諸佛所有の故に菩提と名く。復次に須菩提、諸佛正徧智の故に菩提と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、是の菩提の爲に六波羅蜜を行じ、乃至一切種智を行ぜば、諸法に於て何をか得し何をか失し、何をか增し何をか減じ、何をか生じ何をか滅し、何をか垢とし何をか淨とする。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、

【五】行ぜず。大論「作さず」とす。

【六】菩薩行の果報は佛なり。經に常に佛と說く義を問答す。

【七】實義實相等。四畢竟名の異のみなるも、差別せば實義は諸法實相の不生不滅なるを云ひ、煩惱已に盡き一切智を得、法義無礙なるを通達と云ひ、一切法の有無了了たるを實の如く知ると云ふ。

【八】菩提（Bodhi）智と譯す、佛陀卽ち智者所成の實智慧なり。

菩提の爲に六波羅蜜を行じ、乃至一切種智を行せば、諸法に於て得する無く失する無く、增する無く減ずる無く、生ずる無く滅する無く、垢とする無く淨とする無し。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて。得失增減生滅垢淨を爲さざる故に出づ。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて得失を爲さず、乃至垢淨を爲さざる故に出づれば、菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を行じて、能く檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を取り、云何が內空乃至無法有法空を行じ、云何が禪無量心無色定を行じ、云何が四念處乃至八聖道分を行じ、云何が空無相無作解脫門を行じ、云何が佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を行じ、云何が菩薩の十地を行じ、云何が聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位中に入るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、二法を以てせざるが故に、檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、二法を以てせざるが故に、乃至一切種智を行ず。』須菩提言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、二法を以てせざるが故に檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を行じ、二法を以てせざるが故に乃至一切種智を行せば、菩薩初發意より乃至（九）後意まで、云何が善根を增益するや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し二法を行ずれば善根增益することを得ず。何を以ての故に。一切の凡夫人は皆二法に依て（一〇）善根を增益することを得ざれ

【九】後意。菩薩の最後心なり。

【一〇】善根を增益せず。顚倒の故に善根を增長する能はざること、夢中財を得たりとするも、實に得る能はざるが如し。

ばなり。菩薩摩訶薩は不二法を行じ、初發意より乃至後意まで、其の中間に於て善根を増益す。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は一切世間の天及び人阿修羅の能く伏する無く、能く其の善根を壞して聲聞辟支佛地に墮せしむる無し。及び諸惡不善法も菩薩を制して能く檀那波羅蜜を行じて善根を増益せざらしむること能はず。乃至般若波羅蜜も亦是の如し。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く般若波羅蜜を行ずべし。』『世尊、菩薩摩訶薩は善根の爲の故に般若波羅蜜を行ずるや不や。』佛言はく、『不とよ須菩提、菩薩は亦(一一)善根の爲の故に般若波羅蜜を行ずるにもあらず、亦非善根の爲の故に般若波羅蜜を行ずるにもあらず。何を以ての故に。須菩提、菩薩摩訶薩の法は、未だ(一二)諸佛を供養せず、未だ善根を具足せず、未だ眞の知識を得ざれば、一切種智を得ること能はざればなり。』『須菩提言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は諸佛を供養し、善根を具足し、眞の知識を得、能く一切種智を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は、初發意より諸佛を供養し、諸佛所說の十二部經修多羅乃至優婆提舍をば、是の菩薩は(一三)聞持し諷利し、(一四)心觀了達す。了達するが故に(一五)陀羅尼を得。陀羅尼を得るが故に能く無礙智を起す。無礙智を起すが故に所生の處乃至

【一一】善根の爲等。善を貴ぶが爲に供養等をなすにあらず、只無上菩提の爲のみ。
【一二】諸佛等。病人の良醫藥を求むるが如く、佛は良醫、善根は藥草、善知識は看病者なり。
【一三】聞持等、聞きて當に受持すべく、忘ぜざるが爲に誦讀して利せしむ。
【一四】心觀了達。常に心を經卷に繫け次第憶念し、先づ義を宣說し、後了達するを云ふ。
【一五】陀羅尼。二種あり、聞持と實相となり。讀誦憶念して聞持を得、義理に通達して實相を得。
【一六】深心清淨。衆生を慈愛して慈悲心不捨心救度心を得。諸法に無我畢竟空心を得、佛

薩婆若まで終に忘失せず。亦諸佛に於て種うる所の善根、是の善根の爲に護られて、終に惡道諸難に墮せず。是の善根の因緣を以ての故に、(二六)深心淸淨を得。深心淸淨を得るが故に、能く佛國土を淨め衆生を成就す。是の善根の所護を以ての故に、常に眞の知識、謂ゆる諸佛諸菩薩及び諸聲聞能く(二七)佛法衆を讚歎する者を離れず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に諸佛を供養し、善根を種ゑ、善知識に親近すべし。」

に佛想涅槃想を生ぜず、怨賊も亦害を加へざるなり。

【二七】佛法衆。三寶なり。

(一)種善根品第七十三

須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩若し(二)諸佛を供養せず、善根を具足せず、眞の知識を得ざれば、當に薩婆若を得べきや不や。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は諸佛を供養し、善根を種ゑ、眞の知識を得るも、一切種智は尚得難し。何に況んや諸佛を供養せず、善根を種ゑず、眞の智識を得ざるをや。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は諸佛を供養し、善根を種ゑ、眞の知識を得るも、何を以ての故に一切種智を得ること難きや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の菩薩摩訶薩は(三)方便力を遠離し、諸佛に從て方便力を聞かず、種うる所の善根具足せず、常に善知識の教に隨はざればなり。』『世尊、何等をか是れ方便力とし、菩薩摩訶薩は是の方便力を行じて一切種智を得るや。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は初發意より檀那波羅蜜を行じ、薩婆若に應ずる念もて、佛若は辟支佛若は聲聞、若は人若は非人に布施し、是の時に布施想受者想を生ぜず。何を以ての故に。一切法の自相空無生無定相無所轉なることを觀じて、諸法の實相、謂ゆる一切法の無作無起相に入ればなり。菩薩は是の方便力を以ての故に善根を増益し、善根を増益するが故に檀那波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を

【一】品目。麗本三善品とし義疏には三善提品とす。一切智を成就するに修する六度善根を明す。諸佛善根知識を明すが故に三善とも名くるなり。

【二】諸法空ならば修善不修善異ならず、修善を要せざるべしとして問ふ。

【三】方便力。般若波羅蜜を云ふ。

成就し、布施して世間の果報を受けず、但だ一切衆生を救度せんと欲するが故に檀那波羅蜜を行ず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より尸羅波羅蜜を行じ、薩婆若に應ずる念もて持戒する時、婬怒癡の中に墮せず、亦諸の煩惱纏縛及び諸の不善破道法、若は(四)慳貪破戒瞋恚懈怠亂意愚癡慢大慢慢慢我慢增上慢不如慢邪慢、若は聲聞心、若は辟支佛心にも墮せず。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は一切法の自相空無生無定相無所轉なることを觀じて、諸法の實相、謂ゆる一切法の無作無起相に入ればなり。菩薩は是の方便力を成就するが故に善根を增益し、善根を增益するが故に尸羅波羅蜜を行じ、佛國土を淨め衆生を成就し、持戒して世間の果報を受けず、但だ一切の衆生を救度せんと欲するが故に尸羅波羅蜜を行ず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より羼提波羅蜜を行じ、薩婆若に應ずる念もて方便力成就するが故に、(五)見諦道思惟道を行ずるも、亦須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢果を取らず。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は諸法の自相空無生無定相無所轉なることを知り、是の助道法を行ずと雖も而も聲聞辟支佛地を過ぐ。須菩提、是を菩薩の無生法忍と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より毘梨耶波羅蜜を行じて初禪に入り、乃至第四禪に入り、四無量心四無色定に入り、諸禪に

【四】慳貪乃至愚癡は六度に反する六蔽なり。慢乃至邪慢は七慢なり、慢は等を等とし劣を劣とする正しきに似たるも自高の第一歩なり。大慢は劣を等とし等を優とす。慢慢又は慢過慢と云ふ、我れ劣りて却つて優れりとす。我慢又は自慢、我見所取なりとす。增上慢は自計により自高卑他をなす。不如慢又卑慢とす、恭謙を誇る。邪慢は邪見所取なり。

【五】見諦道思惟道。見道初果、斯陀含向後を思惟道卽ち修道とす。又入法位向佛道と云へるもの是なり。

出入すと雖も而も果報を受けず。何を故ての故に。是の菩薩は是の方便力を成就するが故に、諸の禪定の自相空無生無定相無所轉なることを知り、佛國土を淨め衆生を成就し、精進して世間の果報を受けず、但だ一切の衆生を救度せんと欲するが故に毗梨耶波羅蜜を行ずればなり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より禪那波羅蜜を行じ、應に薩婆若に應ずる念もて八背捨九次第定に入るも、亦須陀洹果を證せず、乃至阿羅漢果を證せず。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は諸法の自相空無生無定相無所轉なることを知ればなり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より般若波羅蜜を行じ、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を學し、乃至未だ一切種智を得ず、未だ佛國土を淨めず、未だ衆生を成就せず、其の中間に於て是の如く學すべし。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は諸法の自相空無生無定相無所轉なることを知ればなり。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く般若波羅蜜を行じ、果報を受けざるべし。」

(一)徧學品第七十四

(二)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、(三)是の菩薩摩訶薩は大智慧成就し、是の深法を行ずるも亦果報を受けず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、菩薩摩訶薩は大智慧成就し、是の深般若波羅蜜を行ずるも亦果報を受けず。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は諸法性中に動ぜざるが故に。』『世尊、何等をか諸法性中に動ぜずとなす。』佛言はく、『無所有性中に於て動ぜざるなり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は色性中に動ぜず、受想行識性中に動ぜず、檀那波羅蜜性中に動ぜず、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜性中に動ぜず、四禪性中に動ぜず、四無量心性中に動ぜず、四無色定性中に動ぜず、四念處性中に動ぜず、乃至八聖道分性中に動ぜず、空三昧無相無作三昧乃至大慈大悲性中に動ぜず。何を以ての故に。須菩提、是の諸法性は即ち是れ(四)無所有なればなり。須菩提、無所有法なるを以て能く所有法を得ず。』須菩提言さく、『世尊、所有法は能く所有法を得るや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、所有法は能く無所有法を得るや不や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、無所有法は能く無所有法を得るや不

【一】品目。徧學又遍學とす、同じ。菩薩諸道を徧學して菩薩位に入ることを明す。大論八十六。
【二】諸法性無所有の故に動ぜざることを明す。
【三】前品に云ふ如く、菩薩六度を行じ、世間果報を受けざるを讃歎するなり。
【四】無所有。諸法性緣生にして自在ならず、定相なきが故に所有なし。

や。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、若し無所有能く所有を得ず、所有能く所有を得ず、所有能く無所有を得ず、無所有能く無所有を得ずば、將に、世尊、道を得ざる無きか。』佛言はく、『得ること有るも此の四句を以てせず。』『世尊、云何が得ること有りや。』佛言はく、『所有に非ず、無所有に非ず、諸の戲論無き、是を得道と名く。』

【五】菩薩戲論不戲論の相を說く。

(五)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ菩薩摩訶薩の戲論とする。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、色を觀じて若は常若は無常なりとせば、是を戲論と爲す。受想行識を觀じて若は常若は無常なりとせば、是を戲論と爲す。色を觀じて若は苦若は樂とし、受想行識を若は苦若は樂とす、是を戲論と爲す。色を觀じて若は我若は非我とし、受想行識を若は我若は非我とし、色を若は寂滅若は不寂滅とし、受想行識を若は寂滅若は不寂滅とす、是を戲論と爲す。苦聖諦見るべく、集聖諦斷ずべく、滅聖諦證すべく、道聖諦修すべしと、是を戲論と爲す。四禪四無量心四無色定を修すべしと、是を戲論と爲す。四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を修すべしと、是を戲論と爲す。空解脫門無相解脫門無作解脫門を修すべしと、是を戲論と爲す。八背捨九次第定を修すべしと、是を戲論と爲す。我れ當に須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を過ぐべしと、是を戲論と爲す。我れ當に菩薩の十地を具足すべしと、是を戲論と爲す。我れ當に菩薩位に入るべしと、是を戲論と爲す。我れ當に佛國土を淨むべしと、是を戲論と爲

す。我れ當に衆生を成就すべしと、是を戲論と爲す。我れ當に佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を生ずべしと、是を戲論と爲す。我れ當に一切種智を得べしと、是を戲論と爲す。我れ當に一切煩惱習を斷ずべしと、是を戲論と爲す。須菩提、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、色をば若は常若は無常なりとし、(六)戲論すべからざるが故に戲論せず。受想行識をば若は常若は無常なりとし、戲論すべからざるが故に戲論せず。乃至一切種智戲論すべからざるが故に戲論せず。何を以ての故に。性は戲論ならざるの性、無性も戲論ならざるの無性なり、性と無性とを離れて更に法の得べき無し。謂ゆる戲論とは戲論の法、戲論の處なり。是を以ての故に、須菩提、色は戲論無く、受想行識乃至一切種智も戲論無し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は戲論無き般若波羅蜜を行ずべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が色は戲論すべからざる、乃至一切種智は戲論すべからざるや。』佛須菩提に告げたまはく、『色性無く、乃至一切種智性無し。須菩提、若し法性無ければ、即ち是れ戲論無し。是を以ての故に色は戲論すべからず、乃至一切種智は戲論すべからず。須菩提、若し菩薩摩訶薩、能く是の如く戲論無き般若波羅蜜を行ずれば、是の時に菩薩位に入ることを得。』

(七)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法性有ること無くば、菩薩は何等の道を行じてか菩薩位に入る、聲聞道を用ふるとや爲ん、辟支佛道を用ふるとや爲ん、佛道を用ふるとや爲ん。』佛須

【六】底本は不可戲論故不戲論とするも、大論には不可戲論故不應戲論とせり。下同じ。

【七】菩薩入位の道を明す。意に戲論を離るる、是れ三乘道なり。故に四句を離れて偏學す。

菩提に告げたまはく、『聲聞道を以てせず、辟支佛道を以てせず、佛道を以てせずして菩薩位に入ることを得。菩薩摩訶薩は徧く諸道を學して菩薩位に入ることを得。須菩提、譬へば〔八〕八人の先づ諸道を學し、然して後に正位に入り、未だ得果せずして、而して先づ果道を生ずるが如し。菩薩も亦是の如く、先づ徧く諸道を學し、然して後に菩薩位に入り、亦未だ一切種智を得ずして、而して先づ金剛三昧を生ず。〔九〕爾の時、一念相應の慧を以て一切種智を得。』須菩提佛に白して言さく、〔一〇〕『世尊、若し菩薩摩訶薩、徧く諸道を學して菩薩位に入らば、八人は須陀洹に向ひて須陀洹を得、斯陀含に向ひて斯陀含を得、阿那含に向ひて阿那含を得、阿羅漢に向ひて阿羅漢辟支佛道佛道を得。是の諸道は各各異る。世尊、若し菩薩摩訶薩、徧く諸道を學して、然して後に菩薩位に入る者、是の菩薩若し〔一一〕八道を生せば、應に八人と作るべし、見道を生せば應に須陀洹と作るべし、思惟道を生せば應に斯陀含と作り阿那含と作り阿羅漢と作るべし、若し辟支佛道を生せば辟支佛と作る。世尊、若し菩薩摩訶薩八人と作り、然して後に菩薩位に入るとせば是の處有ること無し。菩薩位に入らずして一切種智を得るといふも亦是の處無し。須陀洹と作り乃至辟支佛と作り、然して後菩薩位に入るといふも亦是の處有ること無し。菩薩位に入らずして一切種智を得るといふも亦是の處無し。世尊、我れ云何が當に知るべきや、

〔八〕八人等。聲聞の見諦道中八忍十立心徧學して、この正位に入るも未だ初果を得ず。
〔九〕爾の時。若し菩薩金剛三昧に住し、最後心に在る時なり。
〔一〇〕徧學諸道入菩薩位に就て疑ふ。
〔一一〕八道。四諦の法と類とを觀るなり。

菩薩摩訶薩の徧く諸道を學して菩薩位に入るを得るといふことを。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し。若し菩薩摩訶薩、八人と作り須陀洹果を得、乃至阿羅漢果を得、辟支佛道を得て、然して後に菩薩位に入るといはば、是の處有ること無し。菩薩位に入らずして當に一切種智を得べしといふも、是の處有ること無し。須菩提、(二)若し菩薩摩訶薩ありて初發意より六波羅蜜を行ずる時、智觀を以て八地を過ぐ。何等をか八地となす、乾慧地、性地、八人地、見地、薄地、離欲地、已辦地、辟支佛地なり。道種智を以て菩薩位に入り、菩薩位に入り已りて、一切種智を以て一切の煩惱習を斷ず。須菩提、(三)是の八人の若は智若は斷、是れ菩薩の無生法忍なり。(四)須陀洹の若は智若は斷、斯陀含の若は智若は斷、阿那含の若は智若は斷、阿羅漢の若は智若は斷、辟支佛の若は智若は斷、皆是れ菩薩の無生法忍なり。菩薩は是の如く聲聞辟支佛道を學し、道種智を以て菩薩位に入り、菩薩位に入り已りて一切種智を以て一切の煩惱習を斷じて佛道を得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は徧く諸道を學すること具足して應に阿耨多羅三藐三菩提を得べし、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、是を以て衆生を饒益す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊の說きたまふ所の道は聲聞道、辟支佛

【二】今徧學入位の義を明すに三智に依るとす。智觀卽ち一切智を以て觀じて諸地を超過し、道種智に依て入位し、一切種智に依て斷惑究竟す。

【三】是の八人の智斷等。二乘は諸佛菩薩の智慧の少分を得るのみ、故に學人の八智無學の十斷皆無生法忍中に攝す。

【四】須陀洹、斯陀含は略して三結廣くは八十八結を斷じ、阿那含は略して五下分結廣くは九十二結を斷じ、阿羅漢は上下分十結を斷じ、略しては三漏盡き廣くは一切煩惱を斷ず。是を各々若は智若は斷と云ふ。

道、佛道なり。何等をか是れ菩薩の道種智となす。」佛須菩提に告げたまはく、「菩薩摩訶薩は應に一切の道種淨智を生ずべし。須菩提、何等をか是れ道種淨智となす。若し(二五)諸法の相貌、顯示す可き所の法、菩薩正に知るべきは正に知り已りて、他の爲に演說し開示し、諸の衆生をして解することを得しむ。是の菩薩摩訶薩は應に一切の音聲語言を解すべく、是の音聲を以て說法し、(二六)徧く三千大千世界に滿つること響相の如し。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は應に先づ一切道を具足し學すべし、道智具足し已れば應に衆生の深心を分別し知るべし。謂ゆる地獄の衆生、(二七)地獄の道、(二八)地獄の因、(二九)地獄の果、(三〇)應に障ふべきを知るべし。(三一)畜生餓鬼の道、畜生餓鬼の因、畜生餓鬼の果、應に障ふべきを知るべし。諸の龍鬼神乾闥婆緊那羅摩睺羅伽阿脩羅の道と因と果と、(三二)應に障ふべきを知るべし。人の道と因と果と、(三三)應に知るべし、諸天の道と因と果と、應に知るべし。四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵天光音天徧淨天廣果天無想天阿婆羅訶天無熱天易見天喜見天阿迦尼吒天の道と因と果と、應に知るべし。無邊虛空處無邊識處無所有處非有想非無想處の道

【二五】諸法の相貌等。無生法忍に住して諸法の實相を得、實相に從て諸法の名相を取り自ら解し他を悟らしむるなり。
【二六】徧く等。梵音說法の相なり。
【二七】地獄の道。十不善道なり。
【二八】地獄の因。三毒なり、三毒増長して貪嫉瞋恚邪見の三不善道を生じ、三不善道は七不善道の因なり。
【二九】地獄の果。彼因を以て地獄身を受け、身心苦惱するを云ふ。
【三〇】應に障ふべきを知るべし。或は應知應遮に作る。三惡道は常に苦を受け、出離得道の因緣たるなきことを明かにするを云ふ。
【三一】畜生餓鬼等。十不善に上中下あり、上は地獄たり、中は畜生、下は餓鬼たり。

と因と果と、應に知るべし。四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分の因と果と、應に知るべし。空解脱門無相解脱門無作解脱門、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲の因と果と、應に知るべし。菩薩は是の道を以て、衆生をして須陀洹道乃至阿羅漢辟支佛道、乃至阿耨多羅三藐三菩提道に入らしむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩の淨道種智と名く。菩薩は是の道種智を學し已りて衆生の深心相に入り、入り已りて衆生の心に隨ひて(二四)如應に說法し、言ふ所虛からず。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は善く衆生の根相を知り、一切衆生の心心數法生死所趣を知ればなり。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如く般若波羅蜜を行ずべし。何を以ての故に。一切の諸善法助道法は、皆般若波羅蜜中に入り、諸の菩薩摩訶薩聲聞辟支佛の行ずべき所なればなり。』

(二五)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提、是の一切の法は皆合せず散せず、色無く形無く、對無く、一相謂ゆる無相なり。世尊、云何が是の助道法能く阿耨多羅三藐三菩提を取らん。世尊、是は合せず散せず、色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相の法にして、取る所無く捨つる所無し。譬へば虛空の取る無く捨つ

【二二】 十善道も上中下あり、下は鬼神、中は人、上は天にして能く欲を離れて色に、色を離れて無色に生ずべきも、下善鬼神趣障たるを免かれず。

【二三】 應に知るべし。人天に得道の因緣ありて障不障不定なれば應障と云はず、只分別乘知すべしとするのみ。

【二四】 如應。小乘を以てすべき者には小法を以て度し、大乘を以てすべき者には大法を以て度す、教益機緣時處に相應するを云ふ。

【二五】 諸法無相にして取なく捨なければ、道法の菩提を取るべきものなき眞實無著を述べて聖法の學を明かにす。

る無きが如くなればなり。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、諸法の自相は空にして取る所無く捨つる所無し。須菩提、衆生有りて諸法の自相空なることを知らざれば、是の衆生の爲の故に助道法を顯示して阿耨多羅三藐三菩提に至らしむ。復次に須菩提、有ゆる色受想行識、有ゆる檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜、有ゆる內空外空乃至無法有法空、初禪乃至非有想非無想處、四念處乃至八聖道分、三解脫門八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲一切種智等の諸法、是の聖法中に於て皆合せず散せず、色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相なり。世俗法を以ての故に衆生の爲に說きて解せしむ、第一義を以てするに非ず。須菩提、是の一切法中に於て、菩薩摩訶薩は(二六)智見を以て如法に學すべし、學し已りて諸法の用ふべきと用ふべからざるとを分別す。』須菩提言さく、『世尊、何等の法をか菩薩、分別し已て用ふべしとし、用ふべからずとするや。』佛言はく、『聲聞辟支佛の法は分別して用ふべからずと知り、一切種智は分別して用ふべしと知る。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は是の聖法中に於て、應に般若波羅蜜を學すべし。』

(二七)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何を以ての故に名けて聖法と說き、何等をか是れ聖法となす。』

【二六】智見。初知を知、深入を見とし、又未了を知、已了を見とし、定散に通ずるを知、定心なるを見とし、或は四句分別を加ふるあり。

【二七】聖法を說き、相を學せず、無相を修することを明す。聖法は般若の異名なり。

【二八】欲等。顚倒の故に無所有なれば合せず、合なければ散なし、合散なければ卑他自高なし。

佛須菩提に告げたまはく、『諸の聲聞辟支佛、諸の菩薩摩訶薩及び諸佛は（二八）欲瞋癡に於て合せず散せず、身見戒取疑と合せず散せず、欲染瞋恚と合せず散せず、色染無色染掉慢無明と合せず散せず、初禪乃至第四禪と合せず散せず、慈悲喜捨虛空處乃至非有想非無想處と合せず散せず、四念處乃至八聖道分と合せず散せず、內空乃至大悲、有爲性無爲性と合せず散せざるなり。何を以ての故に、是の一切の法は皆色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相なればなり。無色法は無色法と合せず散せず、無形法は無形法と合せず散せず、無對法は無對法と合せず散せず、一相法は一相法と合せず散せず、無相法は無相法と合せず散せず。須菩提、是の無色無形無對一相謂ゆる無相の般若波羅蜜を、諸の菩薩摩訶薩は應に學すべし、學し已りて諸法の相を得ず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は色相を學せざるや、受想行識相を學せざるや。眼相乃至意相を學せず、色相乃至法相を學せず、地種相乃至識種相を學せず、檀那波羅蜜相尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜相を學せず、內空相乃至無法有法空相を學せず、初禪相乃至第四禪相を學せず、慈相乃至捨相を學せず、無邊空相乃至非有想非無想相を學せず、四念處相乃至八聖道分相を學せず、空三昧相無相無作三昧相を學せず、八背捨九次第定相を學せず、佛の十力相四無所畏相四無礙智相十八不共法相大慈大悲相を學せず、苦聖諦相集滅道聖諦相を學せず、逆順十二因緣相を學せず、有爲性相無爲性相を學せざるや。世尊、若し諸法の相を學せざれば、菩薩摩訶薩は云何が諸法の相若は有爲若は無爲を學し、學し已り

て聲聞辟支佛地を過ぎん。若し聲聞辟支佛地を過ぎざれば、云何が菩薩位に入らん。若し菩薩位に入らざれば、云何が當に一切種智を得べけん。若し一切種智を得ざれば、云何が當に法輪を轉ずべけん。若し法輪を轉ぜざれば、云何が三乘を以て衆生の生死を度せん。」佛須菩提に告げたまはく、『若し諸法實に有相ならば、菩薩は應に是の相を學すべし。須菩提、一切法は實に相無く色無く形無く對無く、一相謂ゆる無相なるを以て、是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は相を學せず無相を學せず。何を以ての故に。有佛無佛諸法一相の性常住なればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法有相に非ず無相に非ざれば、菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を修せん。若し般若波羅蜜を修せざれば聲聞辟支佛地を過ぐること能はず。若し聲聞辟支佛地を過ぎざれば菩薩位に入ること能はず。若し菩薩位に入らざれば無生法忍を得ず。若し無生法忍を得ざれば諸の菩薩神通を得ること能はず。若し菩薩神通を得ざれば佛國土を淨め衆生を成就すること能はず。若し佛國土を淨め衆生を成就せざれば一切種智を得ること能はず。若し一切種智を得ざれば法輪を轉ずること能はず。若し法輪を轉せざれば衆生をして須陀洹果斯陀含果阿那含阿羅漢果辟支佛道を得しむること能はず、阿耨多羅三藐三菩提を得しむること能はず、亦衆生をして布施福をも得しむること能はず、亦持戒修定福をも得しむること能はず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸法は無相にして一相に非ず異相に非ず。若し無相を修すれば、是れ般若波羅蜜を修するなり。』須菩提言さく、『世尊、云何が無相を修する、

是れ般若波羅蜜を修するとなす。』佛言はく、『諸法の〔二九〕壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。』『世尊、云何が諸法の壞を修する、是れ般若波羅蜜を修するとなす。』佛言はく、『色の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。受想行識の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。眼の壞、耳鼻舌身意法の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。色法の壞、聲香味觸法の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。不淨觀の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。初禪の壞、第二第三第四禪の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。慈悲喜捨の壞を修する、是れ般若波羅蜜を修するなり。無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。念佛念法念僧念戒念捨念天念滅念阿那般那の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。〔三〇〕無常相苦相無我相空相集相因相生相緣相閉相滅相妙相出相道相正相迹相離相の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。十二因緣の壞を修する、我相衆生(相)壽命相の壞を修する、乃至知者見者相の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。常相樂相淨相我相の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。四念處(の壞)を修する乃至八聖道分の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。空三昧無相三昧無作三昧の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。八背捨九次第定の壞を修する是れ般若

【二九】壞。諸法の相も相なく、無相の相も亦壞して法の取るべきなし。

【三〇】無常相等。四相觀の十六行相なり。普通空苦無常無我(苦相)、因集生緣(集相)、滅靜妙離(滅相)、道如行出(道相)と云ふ。本文閉相これ靜なり盡なり。出相、離なり、實出現なり。正相、如なり、正量とす。迹相、行なり入道なり。離相、出なり乘とし現前とす。

波羅蜜を修するなり。有覺有觀三昧無覺有觀三昧無覺無觀三昧の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。苦聖諦集聖諦滅聖諦道聖諦の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。苦智集智滅智道智の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。盡智無生智の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。法智比智世智他心智の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。檀那波羅蜜の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空不可得空無法空有法空無法有法空の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。一切智の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。斷一切煩惱習の壞を修する是れ般若波羅蜜を修するなり。」須菩提佛に白して言さく、「世尊、云何が色の壞を修し、乃至斷一切煩惱習の壞を修する、是を般若波羅蜜を修すると名くるや。」佛須菩提に告げたまはく、「菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、色法有りと念せざる是れ般若波羅蜜を修するなり。受想行識有りと念せざる、乃至斷一切煩惱習法有りと念せざる是れ般若波羅蜜を修するなり。何を以ての故に。〔三〕有法の念は般若波羅蜜を修せざればなり。須菩提、有法の念は檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅

【三】有法の念。般若に無法尚無なり、況んや法ありと念ぜば般若に應ぜんや。

蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を修せず。何を以ての故に。須菩提、是の人は法に著して檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜を行ぜざればなり。是の如く著する者は、解脱有ること無く、道有ること無く、涅槃有ること無し。有法の念は四念處四正勤四如意足、五根五力七覺分八聖道分を修せず、空三昧を修せず、乃至一切種智を修せず。何を以ての故に。是の人は法に著するが故に。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ有法とし、何等をか是れ無法となす。』佛須菩提に告げたまはく、『二は是れ有法、不二は是れ無法なり。』『世尊、何等をか是れ二となす。』佛言はく、『色相は是れ二なり、受想行識相は是れ二なり、眼相乃至意相は是れ二なり、色相乃至法相は是れ二なり、檀那波羅蜜乃至佛相、阿耨多羅三藐三菩提相、有爲無爲性相は是れ二なり。須菩提、一切の相は皆是れ二なり、一切の二は皆是れ有法なり。適有法有れば便ち生死有り、適生死有れば生老病死の憂悲苦惱を離るることを得ず、是の因縁を以ての故に、須菩提、當に知るべし、二相とは檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜有ること無く、道有ること無く、果有ること無く、乃至〔三〕順忍有ること無し。何に況んや色の相を見、乃至一切種智の相を見るをや。若し修道無ければ、云何が須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道、阿耨多羅三藐三菩提及び斷一切煩惱習を得んや。』

〔三〕順忍。文明かに分別せざるも、大論には小乘の順忍とす、小の順忍尚無なり、況んや大乘の順忍有ならんや。

〔一〕巻の第二十三

〔二〕三次第行品第七十五

〔三〕爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し法相有れば、尚頓忍を得ず、何に況んや得道をや。世尊、若し法相無ければ當に頓忍を得べきや不や。若は乾慧地、若は性地、若は八人地、若は見地、若は薄地、若は離欲地、若は已辦地、若は辟支佛地、若は菩薩地、若は佛地、若は修道、是の修道に因て當に煩惱を斷ずべきや不や。是の煩惱を以ての故に、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入ることを得ず。若し菩薩位に入らざれば則ち一切種智を得ず。一切種智を得ざれば則ち能く一切煩惱習を斷ずることを得ず。世尊、若し法相有ること無ければ、是れ諸法は則ち不生なり。若し是の諸法を生ぜざれば、則ち一切種智を得ること能はず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、若し法有ること無ければ、則ち頓忍乃至斷一切煩惱習有り。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、法相有りや不や。謂ゆる色相乃至識相、眼相乃至意相、色相乃至法相、眼界相乃至意識

〔一〕宋元明本第廿五に作る。
〔二〕品目、麗本三次品、大論次第學品、丹本次第行品とし、他に次第品に作る。法相なく頓忍成佛を得るを明し、菩薩の次第行次第學次第道を細說す。
〔三〕如何に頓忍成佛等を得るかを明す。この頓忍は大乘の順忍なり。

界相・四念處相乃至一切種智相、若は色相色斷相乃至識相識斷相、十二入十八界も亦是の如く、若は無明相若は無明斷相、乃至憂悲愁惱相憂悲愁惱斷相、若は欲相若は欲斷相、若は瞋相若は瞋斷相、若は癡相若は癡斷相、若は苦相若は苦斷相、若は集相若は集斷相、若は滅相若は滅斷相、若は道相若は道斷相乃至一切種智相、斷一切煩惱習相(有りや不や)と。』佛言はく、『不とよ、須菩提、菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時、法相非法相有ること無し、卽ち是れ菩薩の順忍なり。若し法相有ること無く、非法相有ること無ければ、卽ち是れ修道、亦是れ道果なり。須菩提、菩薩摩訶薩の(四)有法は是れ菩薩道なり、無法は是れ菩薩果なり。是の因緣を以ての故に、當に知るべし、一切法は無所有性なりと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法無所有性なれば、佛は云何が一切法無所有性なるを知るが故に成佛することを得、一切法に於て自在力を得たまへる。』佛須菩提に告げたまはく、(五)『是の如し是の如し、一切法は無所有性なり。我れ本菩薩道を行ずる時、六波羅蜜を修して諸欲を離れ、惡不善法を離れ、有覺有觀(六)離生喜樂、初禪に入り、乃至第四禪に入る。是の諸禪及び支に於て相を取らず、是の禪有ることを念せず、禪味を受けず。是の禪を得ず、無染淸淨にして四禪を行じ、我れ是の諸禪に於て果報を受けず、四禪に依て住して五神通、身

【四】有法は有爲法・無法は無爲法なり。有爲八聖道を行じ諸煩惱を斷じ無爲果を得。或は云ふ、五度は有法、般若は無法。或は般若智慧有爲の道、如法性實際常有の故に無法たり果たりと。

【五】佛須菩提の問言を印可し、自證を擧げて無所有なるを以て智斷證成を明す。

【六】離生喜樂。五欲を離れて生じたる喜樂。初二禪は有喜樂、三禪は無喜樂なり。

通天耳知他人心宿命通天眼通を起し、諸神通に於て相を取らず、是の神通有ることを念せず、神通味を受けず、是の神通を得ず、我れ是の五神通に於て分別して行せず。須菩提、我れ爾の時に一念相應の慧を用て、阿耨多羅三藐三菩提を得、謂ゆる是れ苦聖諦、是れ集、是れ滅、是れ道聖諦なり。十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を成就し、作佛することを得て三聚衆生、正定聚邪定不定を分別す。須菩提佛に白して言さく、『云何が世尊、諸法の無所有性中に於て四禪六神通を起し、亦衆生無きを而も分別して三聚と作すや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し諸欲惡不善法の若(七)性の若は自性、若は他性有らば、我れ本菩薩の行を爲せし時、欲惡不善法の無所有性なることを觀じて初禪に入ること能はず、諸の欲惡不善法性の若は自性、若は他性有ること無く、皆是れ無所有性なるを以ての故に、我れ本菩薩道を行せし時、諸の欲惡不善法を離れて初禪に入り、乃至第四禪に入れり。須菩提、若し諸神通の性の若は自性、若は他性あらば、我れ是の神通の無所有性なることを知り、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず、神通性の若は自性、若は他性有ること無く、皆是れ無所有性なるを以て、是を以ての故に、諸佛は神通に於て無所有性なることを知り、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。』

(八)須菩提言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、諸法の無所有性なることを知れば、四禪五神通に因て阿

【七】性に二あり、自性他性なり、自性は自身不淨性、他性は衣服莊嚴身具の無常なるが如きを云ふ。

【八】新學菩薩如何に行ずべきかを明らかにす。大論第八十七。

耨多羅三藐三菩提を得。世尊、(九)新學の菩薩摩訶薩は(一〇)云何が諸法の無所有性中に於て(一一)次第行、次第學、次第道あり、是の次第行次第學次第道を以て、阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩、若は初め諸佛より聞き、若は(一二)多く諸佛を供養せる菩薩より聞き、若は諸の阿羅漢、若は諸の阿那含、若は諸の斯陀含、若は諸の須陀洹に聞く所、無所有を得るが故に是れ佛なり、無所有を得るが故に是れ阿羅漢、阿那含、斯陀含、須陀洹なり、一切の賢聖皆無所有を得るを以ての故に(一三)名有り、一切有爲の作法は所有の性無く、乃至毫末許の如きも所有有ること無し。是の菩薩摩訶薩は、是を聞き已りて(一四)是の念を作す、若し一切の法、性有ること無ければ、無所有性を得るが故に是れ佛なり、乃至無所有性を得るが故に是れ須陀洹なり。(一五)我れ若し當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきも、若は得ざるも、一切法常に無有性なれば、我れ何を以てか發心して阿耨多羅三藐三菩提を得ざらんや。阿耨多羅三藐三菩提を得已りて一切衆生の有相を行ずるに、當に無所有中に住することを得しむべきなりと。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如く思惟し已りて阿耨多羅三藐三菩提心を

【九】新學。無量劫來發心するも、未だ諸法實相を得ざるを新學と名く。

【一〇】云何等。新學には單に布施持戒等を行ぜしむべきに、實相を得ざるに無所有を行ぜしむるを問ふ。

【一一】次第行等。行と學と道とは語異るも義一なり。區別せば初中後の別、又は施戒慧、若くは戒定慧の別とすることを得。又六度に就て云へば布施精進を行とし、戒定を學とし、忍辱智慧を道に配することを得。次第とは麁より細に、易より難に進むなり。

【一二】多く諸佛を供養せる菩薩とは觀音勢至文殊彌勒等。

【一三】名有り。賢聖學無學の名稱分別あるを云ふ。

【一四】是の念等。法を聞き次第に學して分別するに、諸法空

發す、一切衆生を度せんが爲の故に。（一六）菩薩摩訶薩の行ずる所の次第行次第學次第道とは、過去の諸の菩薩摩訶薩の道を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得る所の如く、是の新發意の菩薩は應に六波羅蜜、謂ゆる檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を學すべし。（一七）是の菩薩摩訶薩、若し檀那波羅蜜を行ずる時に、自ら布施を行じ、亦人を教へて布施せしめ、布施の功德を讃歎し、布施を行ずる者を歡喜し讃歎す、是の布施の因緣を以ての故に大財富を得。是の菩薩は慳心を遠離して衆生に布施し、飮食衣服香華瓔珞房舍臥具燈燭、種種資生に須ふる所盡く之を給與す。菩薩摩訶薩は是の布施及び持戒を行じて天人中に生じて大尊貴なることを得、是の（一八）持戒布施を以ての故に禪定衆を得、是の布施持戒禪定を以ての故に（一九）智慧衆解脫衆解脫知見衆を得。是の菩薩は是の布施持戒禪定衆智慧衆解脫衆解脫知見衆に因るが故に、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入り、菩薩位に入り已りて佛國土を淨むることを得、佛國土を淨め已りて衆生を成就し、衆生を成就し已りて一切種智を得、一切種智を得已りて法輪を轉じ、法輪を轉じ已りて三乘の法を以て衆生をして生死を度脫せしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は是の

なるを念じ發心す。

【一五】實相寂滅なければ、作佛するもせざるも等一なるも、發心して作佛せざらんやとなり。

【一六】菩薩の次第行學を六度に就て明す。前の第六十八攝五品の六度相攝を參照せよ。

【一七】一に布施に。

【一八】持戒布施等。單なる財施は戒に依て廣く無惱無畏を施すに如かず、故に施より持戒となり、戒を護るが故に定心を得。

【一九】智慧衆等。定心清淨にして無著無戲論の聖慧分成じ、慧を以て斷惑解脫を得、了了見證を得。此に五分を說くも六度と相通す。

布施を以て次第行、次第學、次第道するも是れ皆得べからず。何を以ての故に。自性所有無きが故に。

〔二〇〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來自ら持戒を行じ、人を敎へて持戒せしめ、持戒の功德を讃歎し、持戒を行ずる者を歡喜し讃歎す、持戒の因緣の故に天人中に生じて大尊貴なることを得。貧窮の者を見ては施すに財物を以てし、持戒せざる者には敎へて持戒せしめ、亂意の者には敎へて禪定あらしめ、愚癡の者には敎へて智慧あらしめ、解脱無き者には敎へて解脱あらしめ、解脱知見無き者には敎へて解脱知見あらしめ、是の持戒禪定智慧解脱解脱知見を以ての故に、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入り、菩薩位に入り已りて佛國土を淨むること得、佛國土を淨め已りて衆生を成就し、衆生を成就し已りて一切種智を得・一切種智を得已りて法輪を轉じ、法輪を轉じ已りて三乘法を以て衆生を度脱す。是の如く須菩提、菩薩は是の持戒を以て次第行し、次第學、次第道するも、是の事皆得べからず。何を以ての故に。一切法の自性所有無きが故に。〔二一〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初より已來、自ら羼提波羅蜜を行じ、人を敎へて羼提を行ぜしめ、羼提の功德を讃歎し、羼提を行ずる者を歡喜し讃歎す。羼提波羅蜜を行ずる時に布施の衆生をして各滿足せしめ、敎へて持戒せしめ、敎へて禪定乃至解脱知見せしめ、是の布施持戒禪定智慧の因緣を以ての故に、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位中に入り、菩薩位中に入り已りて佛國土を淨むることを得・佛國土を淨むることを得已りて衆生を成就し・衆生を成就し已りて一切種智を得・一切

〔二〇〕二に持戒。
〔二一〕三に忍辱。

種智を得已りて法輪を轉じ、法輪を轉じ已りて三乘法を以て衆生の生死を度脱す。是の如く須菩提、菩薩は羼提波羅蜜を以て次第行、次第學、次第道するも、是の事皆得べからず。何を以ての故に。一切法の自性所有無きが故に。〔二二〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初より已來、自ら毗梨耶波羅蜜を行じ、人を教へて毗梨耶を行せしめ、毗梨耶を行ずる功德を讃歎し、毗梨耶を行ずる者を歡喜し讃歎す。乃至是の事皆得べからず、自性所有無きが故に。〔二三〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初より已來、自ら禪に入り無量心に入り無色定に入り、亦人をも教へて禪に入り無量心に入り無色定に入らしめ、禪に入り無量心に入り無色定に入る功德を讃歎し、禪無量心無色定を行ずる者を歡喜し讃歎す。是の菩薩は諸の禪定無量心に住して、布施の衆生をして各滿足せしめ、教へて持戒せしめ、教へて禪定智慧あらしめ、此の布施禪定智慧解脱解脱知見の因緣を以ての故に、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入る、菩薩位に入り已りて佛國土を淨め、佛國土を淨め已りて衆生を成就し、衆生を成就し已りて一切種智を得、一切種智を得已りて法輪を轉じ、法輪を轉じ已りて三乘法を以て一切の衆生を度脱す。乃至是の事皆得べからず。自性所有無きが故に。〔二四〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は初より已來、般若波羅蜜を行じ、布施の衆生をして各滿足せしめ、教へて持戒禪定智慧解脱解脱知見せしむ。是の菩薩は般若波羅蜜を行ずる時に、自ら六波羅蜜を行じ、亦他人をも教へて六波羅蜜を行せしめ、六波羅蜜の功德を讃歎し、六波羅蜜を

【二二】四に精進。
【二三】五に禪定。
【二四】六に般若。

行ずる者を歡喜し讚歎す。是の菩薩は是の檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜の因緣及び方便力を以て、聲聞辟支佛地を過ぎて菩薩位に入る。乃至是の事得べからず。自性所有無きが故に。須菩提、是を初發意菩薩摩訶薩の次第行次第學次第道と名く。

（三五）復次に須菩提、菩薩摩訶薩の次第行次第學次第道とは、菩薩摩訶薩初より已來、一切種智相應の心を以て諸法の無所有性を信解して、六念、謂ゆる念佛念法念僧念戒念捨念天を修するなり。（三六）須菩提、云何が菩薩摩訶薩は念佛を修する。菩薩摩訶薩の念佛は色を以て念ぜず、受想行識を以て念ぜず。何を以ての故に。是れ色は自性無く、受想行識も自性無ければなり。若し法自性無ければ是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念佛と爲す。復次に須菩提、菩薩摩訶薩の念佛は三十二相を以て念ぜず、亦金色身を念ぜず、丈光を念ぜず、八十隨形好を念ぜず。何を以ての故に。是れ佛身は自性無きが故に。若し法無性なれば是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念佛と爲す。復次に須菩提、戒衆を以て佛を念ずべからず、定衆智慧衆解脫衆解脫知見衆を以て佛を念ずべからず。何を以ての故に。是の衆自性有ること無ければなり。若

【三五】菩薩の次第行學を六念に就て明す。六念義初品參照。

【三六】一に念佛。五蘊色身五分佛力十二因緣等を以て念ぜざるは、無性に相應する念佛なるを明す。これを初次第行とするは、行じ易く得易き爲なりとは、大論の說なり。然れども是れ菩薩はかかる眞實の念佛より進むべしとするもの經意に近し。必ずしも易難次第にあらざるべし。易難次第ならば六念を逆に修すべければなり。

し法自性無ければ是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念佛と爲す。復次に須菩提、十力念佛を以て佛を念ずべからず、四無所畏四無礙智十八不共法を以て佛を念ずべからず、大慈大悲を以て佛を念ずべからず。何を以ての故に。是の諸法自性無ければなり、若し法自性無ければ〔二七〕是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念佛と爲す。復次に須菩提、十二因緣法を以て佛を念ずべからず。何を以ての故に。是の因緣法は自性無ければなり。若し法自性無ければ是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念佛と爲す。

是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、應に念佛すべし、是を菩薩初發意の次第行次第學次第道と爲す。是の菩薩摩訶薩は次第行次第學次第道中に住して、能く四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を具足し、空三昧無相無作三昧乃至一切種智を修行す。諸法の性所有無きが故に、是の菩薩は諸法性所有無く、是の中有性無く、無性無きことを知る。〔二八〕須菩提、云何が菩薩摩訶薩は應に念法を修すべき。須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、善法を念ぜず不善法を念ぜず、記法を念ぜず無記法を念ぜず、世間法を念ぜず出世間法を念ぜず、淨法を念ぜず不淨法を念ぜず、聖法を念ぜず凡夫法を念ぜず、有漏法を念ぜず無漏法を念ぜず、欲界繋法色界繋法無色界繋法を念ぜず。有爲法無爲法を念ぜず。何を以ての故に。是の諸法は自性無ければ

【二七】「是を無所有と爲す、何を以ての故に、憶する無きが故に」を麗本及び大論は、「是を法に非ずと爲す、念ずる所無き、」に作る。

【二八】二に念法。善法不善法等句義品一一八頁以下參照。

なり。若し法自性無ければ是を無所有と爲す。何を以ての故に。憶する無きが故に。是を念法と爲す。念法中に無所有性を學するが故に、乃至當に一切種智を得べし。是の菩薩は阿耨多羅三藐三菩提を得る時、諸法の無所有性を得。是の無所有性中非有相非無相なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に念法を修すべし、是の法中に於て乃至少許の念も無し、何に況んや念法をや。

(二九) 須菩提、菩薩摩訶薩は云何が應に念僧を修すべき。須菩提、菩薩摩訶薩の念僧は、無爲法なるが故に、佛の弟子衆有ることを分別するも、是の中乃至少許の念無し、何に況んや念僧をや。是の如く菩薩摩訶薩は應に念僧すべし。(三〇) 須菩提、菩薩摩訶薩は云何が應に念戒を修すべき。須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來、應に(三一)聖戒、無缺戒、無隙戒、無瑕戒、無濁戒、無著戒、自在戒、智者所讚の戒、具足戒、隨定戒を念ずべし。應に是の戒は無所有性なりと念ずべし、乃至少許の念も無し、何に況んや念戒をや。(三二) 須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來應に念捨すべし、若は(三三)自念捨若は他念捨、若は捨財若は捨法、若は捨煩惱、是の捨得べからずと觀ずるが故に、乃至少許の念も無し、何に況んや念捨をや。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に念捨すべし。(三四) 須菩提、云何が菩薩摩訶薩は應に念天すべき。須菩提、菩薩摩訶薩は是の念を作す、四天王諸天は信戒施聞慧有る所

【二九】三に念僧。
【三〇】四に念戒。
【三一】聖戒乃至知者所讚の戒は道共戒。具足戒は廣略の律儀戒。卽ち戒戒。隨定戒は定共戒なりと分つことを得。總じては無所得の無盡清淨の戒なり。
【三二】五に念捨。
【三三】自念捨他念捨。施捨の能所自他を分別するなり。
【三四】六に念天。

のもの、此の間に命終して彼の天處に生ぜり、我も亦是の信戒施聞慧有りと。乃至他化自在天は信戒施聞慧有る所のもの、此の間に命終して彼の天處に生ぜり、我も亦是の信戒施聞慧有りと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の天を念ずべし、無所有性中尙少許の念も無し、何に況んや念天をや。須菩提、菩薩摩訶薩は是の六念を行ず。是を次第行次第學次第道と名く。』

(三五)爾の時、須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法無所有性なれば、謂ゆる色乃至識、眼乃至意、色乃至法は是れ無所有性なり、眼界乃至意識界も是れ無所有性なり、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、內空乃至無法有法空、四念處乃至八聖道分、佛の十力乃至一切種智も是れ無所有性なりと念ず。世尊、若し一切法無所有性なれば、是れ則ち道無く智無く果無からんか。』佛須菩提に告げたまはく、(三六)『汝是の色性實有なりと見るや不や、乃至一切種智の性實有なりと見るや不や。』須菩提言さく、『見ざるなり、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『汝若し諸法實有なりと見ざれば、云何が是の問を作すや。』須菩提言さく、『世尊、我れ是の法に於て敢て疑有らず、但だ當來世の諸比丘にして聲聞辟支佛道菩薩道を求むる者の爲にす。是の人當に是の如く言ふべし、若し一切の法無所有性なれば、誰か垢、誰か淨、誰か縛、誰か解なると。是を知らず解せざるが故に、而して戒を(三七)破し正見を破し威儀を破し(三八)淨命を破す。是の人は是の事

【三五】諸法非有にして道智果ありとする所以を問答す。
【三六】聲聞の見證する所實有等とすべきかを反問す。
【三七】破し。干犯し誹毀す。
【三八】淨命。清淨の活命卽ち正命なり。

を破するが故に、當に三惡道に墮すべし。世尊、我れ當來世に是の如きの事有らんことを畏る。是を以ての故に、佛に問ひたてまつる。世尊、我是の法中に於て信じて疑はず悔いざるなり。』

〔一〕一念品第七十六

〔二〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法の性無所有なれば、菩薩何等の利益を見るが故に、衆生の爲に阿耨多羅三藐三菩提を發すや。』佛須菩提に告げたまはく、『一切法の性無所有なるが故に、菩薩是を以ての故に、衆生の爲に阿耨多羅三藐三菩提を求む。何を以ての故に。須菩提、諸の得有り著有る者は、解脱すべきこと難ければなり。須菩提、諸の相を得る者は道有る無く果有る無く、阿耨多羅三藐三菩提有ること無し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、相を得ること無き者は、道有り果有り阿耨多羅三藐三菩提有りや不や。』『須菩提、所得無きは卽ち是れ道、卽ち是れ果、卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なり。法性壞せざるが故に。若し無所得法に道を得んと欲し、果を得んと欲し、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すれば、法性を壞せんと欲すと爲す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し無所得法卽ち是れ道、卽ち是れ果、卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なれば、云何が菩薩の初地乃至十地有り、云何が無生法忍有り、云何が〔三〕報得の神通有り、云何が報得の布施持戒忍辱精進禪定智慧有り、是の果報法中に住して能く衆生を成就し、能く佛國土を淨め、及び諸佛に衣服飲食、

【一】品目、丹本無漏行六度品、大論一心具萬行とし、他に萬具足品に作る。無所得卽ち道果とし、一念に萬行を具し、無相の六度圓修を說く。
【二】無所得是れ道果なることを明す。
【三】報得。果報として得たる所なり。此には修行せずして自然に得る報得の神通能く見るが如くなるを云ふ。

香華瓔珞、房舍臥具燈燭、種種資生所須の具を供養し、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得て是の福德を斷せず、乃至般涅槃の後、舍利及び弟子供養を得。爾乃ち滅盡する(有り)や。』佛須菩提に告げたまはく、『諸法無所得相なるを以ての故に、菩薩の初地乃至十地を得、報得の五神通布施持戒忍辱精進禪定智慧有り、衆生を成就し佛國土を淨む。亦善根の因緣を以ての故に能く衆生を利益し、乃至般涅槃の後舍利及び弟子供養を得。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法無所得相なれば、布施持戒忍辱精進禪定智慧、諸の神通、何の差別か有らん。』佛須菩提に告げたまはく、『無所得法の布施持戒忍辱精進禪定智慧神通差別有ること無し。衆生布施乃至神通に著するを以ての故に分別して說くのみ。』『世尊、云何が無所得法の布施乃至神通差別有ること無き。』『須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、布施を得ず、施者受者、皆得べからずして而も布施を行じ、戒を得ずして而も戒を持し、忍を得ずして而も忍辱を行じ、精進を得ずして而も精進を行じ、禪を得ずして而も禪を行じ、智慧を得ずして而も智慧を行じ、神通を得ずして而も神通を行じ、四念處を得ずして而も四念處を行じ、乃至八聖道分を得ずして而も八聖道分を行じ、空三昧無相無作三昧を得ずして而も空無相無作三昧を行じ、衆生を得ずして而も衆生を成就し、淨佛國土を得ずして而も佛國土を淨め、諸佛法を得ずして而も阿耨多羅三藐三菩提を得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の無所得の般若波羅蜜を行ずべし。菩薩摩訶薩は是の無所得の般若波羅蜜を行ずる時、魔若は魔天破壞すること能はず。』

〔四〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、〔五〕一念中に六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處四正勤四如意足、五根五力七覺分八聖道分三解脫門、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好を具足し行ずる。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩の行ずる所の布施は般若波羅蜜を〔六〕遠離せず、修する所の持戒忍辱精進禪定は、般若波羅蜜を遠離せず、四禪四無量心四無色定修四念處乃至八十隨形好は般若波羅蜜を遠離せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を遠離せざるが故に、一念中に六波羅蜜乃至八十隨形好を具足し行ずる。』佛言はく、『菩薩の般若波羅蜜を行ずる時に有する所の布施は、般若波羅蜜を遠離せず、不二相なるを以てなり。持戒の時も亦不二相なり、忍辱を修し精進を勤め禪定に入るも亦不二相なり、乃至八十隨形好も亦不二相なるを以てなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩の布施する時に不二相たる、乃至八十隨形好を修するに不二相なるや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、檀那波羅蜜を具足せんと欲して、檀那波羅蜜中に諸波羅蜜及び四念處乃至八十隨形好を攝す。』『世尊、云何が菩薩布施する時、諸の無漏法を攝するや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、無漏心に住して布施すれば、無漏心中に於て相を見ず、

【四】一念に六度萬行を具する義を問答す。

【五】一念。菩薩の無生法忍に一切煩惱を斷じ、諸の憶想分別を除き、無漏心中に安住するを云ふ。

【六】遠離せず。若し般若を離るれば次第漸行なるも、般若を離れざれば諸法無礙にして一念中に萬德を行ず。

謂ゆる誰か施し誰か受け、施す所何物なると。是の〔七〕無相心無漏心、斷愛斷慳貪心を以て而して布施を行じ、是の時に布施を見ず、乃至阿耨多羅三藐三菩提の法を見ず。是の菩薩は無相心無漏心を以て持戒して、是の戒を見ず、乃至一切の佛法を見ず。無相心無漏心を以て忍辱して、是の忍辱を見ず、乃至一切の佛法を見ず。無相心無漏心を以て精進して、是の精進を見ず、乃至一切の佛法を見ず。無相心無漏心を以て禪定に入り、是の禪定を見ず、乃至一切の佛法を見ず。無相心無漏心を以て智慧を修して、是の智慧を見ず、乃至一切の佛法を見ず。無相心無漏心を以て四念處を修して、是の四念處を見ず、乃至八十隨形好を見ず。』

〔八〕『世尊、若し諸法無相無作なれば、云何が檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足し、云何が四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を具足し、云何が空三昧無相無作三昧佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を具足し、云何が三十二相八十隨形好を具足する。』佛須菩提に告げたまはく、〔九〕『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずるや、無相心無漏心を以て布施し、食を須むるに食を與へ、乃至種種の所須盡く之を給與し、若は內若は外、若は其の身を支解し、若は國城妻子を衆生に布施す。若し人有り、來りて菩薩に語りて言く、何ぞ是の布施を用て是の益する所無きの行般若波羅蜜を爲すと。菩薩是の念を爲す、是の人我が布施を來り呵すと雖も我れ終に悔いず、我れ當に勤

〔七〕無相心等。憶想分別を除ける一念なり。得忍菩薩の所行と未得忍菩薩所行と二種なり、今は前者なり。

〔八〕無相無作にして六度諸法を具足することを明す。

〔九〕一に布施。

て布施を行じて與へざるべからず、施し已りて一切衆生と之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向するも、亦是の相を見ず、誰か施し、誰か受け、施す所何物なる、廻向者は誰なる、何等か是れ廻向法なる、何等か是れ廻向處謂ゆる阿耨多羅三藐三菩提なる、是の相皆見るべからず、何を以ての故に、一切法は內空を以ての故に空なり、外空の故に空なり、內外空の故に空なり、空空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空一切法空自相空の故に空なりと。是の如く觀じて是の念を作す、廻向者は誰れなる、何處に廻向する、何法を用て廻向すると。是を正廻向と名く。爾の時に菩薩は能く衆生を成就し佛國土を淨め、能く檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至三十七助道法、空無相無作三昧乃至十八不共法を具足す。是の菩薩、是の如く檀那波羅蜜を具足して、而も世間の果報を受けざること、譬へば他化自在諸天の意の所須に隨ひて卽ち皆之を得るが如く、菩薩も亦是の如く心に所願を生じ、意に隨ひて卽ち得、是の菩薩摩訶薩は、是の布施の果報を以ての故に能く諸佛を供養し、亦能く一切衆生天人及び阿脩羅を滿足す。是の菩薩は檀那波羅蜜を以て衆生を攝取し、方便力を以て三乘法を以て衆生の生死を度脫す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は無相無得無作の諸法中に於て檀那波羅蜜を具足す。

(10) 須菩提、菩薩摩訶薩は云何が無相無得無作法中に於て尸羅波羅蜜を具足する。須菩提、是の菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜を行ずる時、種種の戒、謂は

【10】二に持戒。

ゆる(一)聖無漏入八聖道分戒。(二)自然戒、(三)報得戒、(四)受得戒、(五)心生戒を持す。是の如き等の不缺不破不雜不濁不著自在戒、智所讃戒。是の戒は所取、若は色若は受想行識、若は二十二相八十隨形好、若は刹利大姓婆羅門大姓居士大家、若は四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵衆天光音天徧淨天廣果天(六)無相天無煩天無熱天妙見天喜見天阿迦尼吒天虛空處天識處天無所有處天非有想非無想處天、若は須陀洹果、若は斯陀含果、若は阿那含果、若は阿羅漢果、若は辟支佛道、若は轉輪聖王、若は天王無きを用て、但だ一切衆生の爲に之を共にし、阿耨多羅三藐三菩提に廻向す。無相無得無二を以て廻向す。世俗法の爲の故に第一實義には非ず。此の菩薩は尸羅波羅蜜を具足し、方便力を以て四禪を起し、味著せざるが故に五神通を得、四禪に因て天眼を得。是の菩薩は二種の天眼、(七)修得と報得とに住す。天眼を得已りて東方現在の諸佛を見、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得るまで、所見の事の如く失せず、南西北方四維上下の現在の諸佛(を見)、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得るまで、所見の如く失せず。是の菩薩は天耳淨を用て人耳に過ぎて十方諸佛の說法を聞き、所聞の如く失せず、能く自ら饒益し亦他人をも益す。是の菩薩は知他心智を以て、十方諸佛の心を知り、及び一切衆生の心を知り、亦能く一切衆生を饒益す。是

【一】聖無漏入八聖道分戒は道共戒にして無漏道に於て自ら成就する戒行なり。
【二】自然戒。性相應法爾具足の戒。
【三】報得戒。定報により生ずる戒、定共戒なり。
【四】受得戒。羯磨作法によりて受得せる戒なり。
【五】心生戒。自誓受得の戒。
【六】無相天無煩天を宋元明は無煩天少廣天に作る。
【七】修得。上界定修行の力に依て得るを云ふ。

の菩薩は宿命智を用て過去の諸業因縁を知り、是の業因緣を失せざるが故に、是の衆生の在在處處生ずる所悉く知る。是の菩薩は是の漏盡智を用て、衆生をして須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道を得しめ、在在處處能く衆生をして善法の中に入らしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は諸法の無相無得無作の中に於て尸羅波羅蜜を具足す。」

【一八】三に忍辱。

〔一八〕『世尊、云何が諸法無相無作無得なるに、菩薩摩訶薩能く羼提波羅蜜を具足するや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來乃至道場に坐するまで、其の中間に於て、若し一切衆生來り、瓦石刀杖を以て是の菩薩に加へんに、菩薩は是の時に瞋心を起さず、乃至一念をも生ぜず。爾の時に菩薩は二種の忍を修すべし、一には一切衆生の惡口罵詈若は刀杖瓦石を加へんに瞋心起らず、二には一切法無生無生法忍なり。菩薩若し人來りて惡口罵詈し、或は瓦石刀杖を以て之を加へんに、爾の時、菩薩は是の如く思惟すべし、我を罵る者は誰か、譏り訶する者は誰か、誰か打擲する者なる、誰か有受者なると。是の時に菩薩は應に諸法の實性を思惟すべし、謂ゆる畢竟空にして法無く、衆生無く、諸法尚得べからず、何に況んや衆生有らんやと。是の如く諸法の相を觀ずる時に罵者を見ず、割截者を見ず。是の菩薩、是の如く諸法の相を觀ずる時に卽ち無生法忍を得。云何が無生法忍と名くる。諸法の相常に不生なれば、諸の煩惱も本より已來亦常に不生なることを知ればなり。是の菩薩摩訶薩は是の二忍に住して、能く四禪四無量心四無色定四

念處乃至八聖道分三解脱門、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を具足す。是の菩薩は、是の聖無漏出世間法に住し、一切聲聞辟支佛に共ならずして聖神通を具足す。聖神通に住し已りて天眼を以て東方の諸佛を見、是の人は念佛三昧を得、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで終に斷絶せず。南西北方四維上下も亦復た是の如し。是の菩薩は天耳を用て十方諸佛の所説の法を聞き、所聞の如く衆生の爲に説く。是の菩薩は亦十方諸佛の心を知り、及び一切衆生の念を知り、知り已りて其の心に隨ひて而して説法す。是の菩薩は宿命智を以て一切衆生の宿世の善根を知り、衆生の爲に説法し、其をして歡喜せしむ。是の菩薩は漏盡神通を以て衆生を敎化して三乘を得しむ。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以て衆生を成就し、一切種智を具足し、阿耨多羅三藐三菩提を得て法輪を轉ず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は無相無得無作の法中に羼提波羅蜜を具足す。』

〔九〕須菩提言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は云何が諸法の無相無作無得法中に於て、能く毘梨耶波羅蜜を具足するや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、身精進心精進を成就して初禪に入り、乃至第四禪に入りて種種の神通力を受け、能く一身を分ちて多身と爲し、乃至手に日月を捫摸す、身精進を成就するが故に飛で東方に到り、無量百千萬の諸佛世界を過ぎて諸佛に飲食衣服醫藥臥具、香花瓔珞種種所須を供養し、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、福德果報終に滅盡せず。是の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時に、

【九】 四に精進。

一切世間の天及び人は勤め設けて衣服飲食を供養し、乃至無餘涅槃に入りし後、舍利及び弟子供養を得。亦是の神通力を以ての故に諸佛の所に至りて法敎を聽受し、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、終に違失せず。是の菩薩は一切種智を修する時、佛國土を淨め衆生を成就す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて身精進を成就し、能く毘梨耶波羅蜜を具足す。須菩提、云何が菩薩は心精進を成就して能く毘梨耶波羅蜜を具足する。須菩提、菩薩摩訶薩の心精進とは、是の心精進聖無漏入八聖道分を以て、精進して身口の不善業をして入ることを得しめず。亦諸法の相を取らず、若は常若は無常、若は苦若は、樂若は我若は無我、若は有爲若は無爲、若は欲界若は色界若は無色界、若は有漏性若は無漏性、若は初禪乃至第四禪、若は慈悲喜捨、若は無邊虛空處乃至非有想非無想處、若は四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分、若は空無相無作、若は佛の十力乃至十八不共法なりと相を取らず。若は常若は無常、若は苦若は樂、若は我若は無我、若は須陀洹果若は斯陀含果若は阿那含果若は阿羅漢果、若は辟支佛道、若は菩薩道、若は阿耨多羅三藐三菩提、若は是れ須陀洹斯陀洹阿那含阿羅漢、若は是れ辟支佛是れ菩薩是れ佛なりと相を取らず。是の衆生は三結を斷ずるが故に須陀洹を得、是の衆生は三毒薄きが故に斯陀含を得、是の衆生は下分結を斷ずるが故に阿那含を得、是の衆生は上分結を斷ずるが故に阿羅漢を得、是の衆生は辟支佛道を以ての故に辟支佛を得、是の衆生は道種智を行ずるが故に菩薩と名くるも、亦是の諸法の相を取らず。何を以ての故に。性を以て相を取るべからず、

是の性無きが故に。是の菩薩は是の心精進を以ての故に廣く衆生を利益するも、亦是の衆生を得ず。是を菩薩の毗梨耶波羅蜜を具足し、諸佛法を具足し、佛國土を淨め衆生を成就すと爲す。不可得の故に。是の菩薩は身精進心精進成ずるが故に、一切諸善法を攝取す、是の法も亦著せざるが故に、一佛國より一佛國に至りて、衆生を利益せんが爲に作す所の神通意に隨ひて無礙なり。若は諸華を雨し、若は諸香を散じ、若は妓樂を作し、若は大地を動し、若は光明を放ち、若は七寶莊嚴の世界を示し、若は種種身を現じ、若は大智光明を放ちて聖道を知らしめ、殺生乃至邪見を遠離せしめ、或は布施を以て衆生を利益し、或は持戒を以て、或は身體を支解し、或は妻子を以て、或は國城を以て、或は己身を以て給施し、所に隨ひて方便して衆生を利益す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、無相無作無得の諸法中に、身心精進を用て能く毗梨耶波羅蜜を具足す。』

〔一〇〕『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、無相無作無得の法中に住して能く禪那波羅蜜を具足するや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は佛の諸禪定を除き、餘の一切の諸禪三昧皆能く具足す。是の菩薩は諸欲諸惡不善法を離れ、離生喜樂有覺有觀にして初禪に入り乃至第四禪に入る、是の慈悲喜捨の心を以て一方に徧滿し、乃至十方一切世間に徧滿す。是の菩薩は一切の色相を過ぎ、有對相を滅し、別異相を念せざるが故に、無邊虛空處に入り、乃至非有想非無想處に入る。是の菩薩は禪那波羅蜜中に於て住し、逆順に八背捨九次第定に入り、空三

【一〇】五に禪定。

昧無相無作三昧に入り、或る時は無相三昧に入り、或る時は如電光三昧に入り、或る時は聖正三昧に入り、或る時は如金剛三昧に入る。是の菩薩は禪那波羅蜜中に住し、三十七助道法を修し、道種智を用て一切禪定に住し、乾慧地性地八人地見地薄地離欲地已辦地辟支佛地を過ぎて菩薩位に入り已りて佛地を具足す、是の諸地中に乃至阿耨多羅三藐三菩提を行じて中道に道果を取らず。是の菩薩は是の禪那波羅蜜中に住して、一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養し、諸佛の植うる所の諸善根に從ひて佛國土を淨め、一土より一土に至りて衆生を利益す。或は布施を以て衆生を攝取し、或は持戒を以てし、或は三昧を以てし、或は智慧を以てし、或は解脱を以てし、或は解脱知見を以て衆生を攝取し、衆生を教へて須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得しめ、諸有の善法、能く衆生をして得道せしむるもの皆教へて得しむ。是の菩薩は此の禪那波羅蜜中に住して、能く一切陀羅尼門を生じ、四無礙智を得、報得諸神通を得。是の菩薩は終に母人の胞胎に入らず、終に五欲を受けず、生不生無し、生ずと雖も亦生法の汙す所と爲らず。何を以ての故に。是の菩薩は一切の作法を見ること幻の如くして、而も衆生を利益し、亦衆生及び一切の法を得ずして衆生を教へて無所得處を得しむればなり。是は世俗法なるが故に第一實義には非ず。是の禪那波羅蜜に住して一切禪定解脱三昧を行じて、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、終に禪那波羅蜜を離れず。是の菩薩は是の如く道種智を行ずる時に、一切種智を得て一切の煩惱習を斷じ、斷じ已りて自ら其の身を益し亦他人をも益す、自

ら益し他を益し已りて一切世間の天及び人阿脩羅の爲に福田を作す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、能く無相禪那波羅蜜を具足す。』

（二）『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、無相無作無得法中に住し、般若波羅蜜を修し具足するや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、諸法に於て定實の相を見ず。是の菩薩は色不定にして實相に非ずと見、乃至識不定にして實相に非ずと見る、色生を見ず乃至識生を見ず。若し色生を見ず乃至識生を見ざれば、一切法若は有漏若は無漏、來處を見ず去處を見ず、亦集處をも見ず。是の如く觀ずる時、色性乃至識性を得ず、亦有漏無漏法性をも見ず。是の菩薩は般若波羅蜜を行ずる時に、一切諸法の無所有相を信解す。是の如く信解し已りて內空乃至無法有法空を行じ、諸法に於て所著無し、若は色若は受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提なりと。是の菩薩は無所有の般若波羅蜜を行じて能く菩薩道、謂ゆる六波羅蜜乃至三十七助道法、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法三十二相八十隨形好を具足す。是の菩薩は（三）空淨佛道中、謂ゆる六波羅蜜三十七助道法報得の神通に住し、是の法を以て衆生を饒益し、宜しく施を以て攝すべきは、敎へて布施せしめ、戒を以て攝すべきは、敎へて持戒せしめ、宜しく禪定智慧解脫解脫知見を以て攝すべきは、敎へて禪定智慧解脫解脫知見を修せしめ、宜しく諸道法を以て敎ふべき者は、敎へて須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得しめ、宜しく佛道

【二】　六に般若。
【三】　空淨佛道。空無相淸淨なる無上菩提の行法なり。

を以て化すべき者は、敎へて菩薩道を得、佛道を具足せしむ。是の如き等、其の所應の道地に隨ひて而して之を敎化し、各をして所を得しむ。是の菩薩は種種の神通力を現ずる時、無量如恒河沙の國土を過ぎて衆生の生死を度脱し、其の所須に隨ひて皆之を供給し各をして滿足せしめ、一國土より一國土に至りて淨妙國土を見、以て自ら己の佛國土を莊嚴す。譬へば他化自在天中に資生の所須、意に隨ひて自ら至るが如く、亦諸淨佛國の求欲を離るるが如し。是の人は是の報得の檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜報得の五神通を以て菩薩道を行じ、道種智一切功德を成就して、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是の菩薩は爾の時に色法乃至識を受けず、一切法若は善若は不善、若は世間若は出世間、若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲を受けず。是の如く一切法皆受けず。是の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、國土一切所有資生の物皆主有ること無し。何を以ての故に。是の菩薩は一切の法を行じて受けず、得べからざるを以ての故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は〔三〕無相法中に能く般若波羅蜜を具足す。」

【三】無相法中。具足して大恩分大功德成就す。

(一)六喩品第七十七

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が無相、(三)不可分別、自相空なる諸法中に六波羅蜜、謂ゆる檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を具足し修する。世尊、云何が無異法中に而も分別して異相を說く。世尊、云何が般若波羅蜜は(四)檀尸羼提精進禪を攝する。世尊、(五)云何が異相法を行じ、一相道を以て得果するや。』佛須菩提に告げたまはく、(六)『菩薩摩訶薩は五陰の夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなるに住す。是の中に住して布施を行じ、戒を持し、忍辱を修し、精進を勤め、禪定に入り、智慧を修す。是の五陰は實に夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如し、五陰は夢の如く無相なり、乃至化の如く無相なりと知る。何を以ての故に。夢は自性無く、響影焰幻化皆自性無し、若し法自性無ければ、是の法は無相なり、若し法無相なれば、是の法は一相、謂ゆる無相なればなり。是の因緣を以ての故に、(七)須菩提當に知るべし、菩薩の布施無相なり、施者無相なり、受者無相なりと。

【一】宋元明本以下第二十六卷とす。品目、丹本夢化六度品とし、他に夢幻品にも作る。前品一念中諸波羅蜜を具することを明し、此品諸法空無相なるも能く諸波羅蜜を具することを明す。大論第八十八。

【二】無相中六度を差別し修行することを問答す。

【三】不可分別は純一無雜、卽ち一相なり無相なり。

【四】檀尸。檀那尸羅の略、布施持戒なり。

【五】大般若に依れば差別法中一相を施設し。無相法中一切差別法相を施設するやとす。

【六】問は空法差別に著すればなり、五陰夢幻の如く空有執せずば、六度を行じて空を妨

能く是の如く布施を知るは、是れ能く檀那波羅蜜を具足す。乃至能く般若波羅蜜を具足し、能く四念處乃至八聖道分を具足し、能く內空乃至無法有法空を具足し、能く空三昧無相無作三昧を具足し、能く八背捨九次第定五神通五百陀羅尼門を具足し、能く佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を具足す。是の菩薩は是の〔八〕報得の無漏法中に住し、飛で東方無量國土に到り、諸佛に衣服飲食を供養し、乃至其の所須に隨ひて而して之を供養し、亦衆生を利益するに、布施を以て攝すべき者は、而して布施もて之を攝し、持戒を以て攝すべき者は、教へて持戒せしめ、忍辱精進禪定智慧を以て攝すべき者は、教へて忍辱精進禪定智慧あらしめて而して之を攝取し、乃至種種の善法を以て攝すべき者は、種種善法を以て而して之を攝取す。是の菩薩は、是の一切の善法を成就して世間身を受くるも、世間生死の汙す所と爲らず、衆生の爲の故に、天上人中に於て尊貴富樂を受け、是の尊貴富樂を以て衆生を攝取す。是の菩薩は一切法の無相なることを知るが故に、須陀洹果を知るも亦中に住せず、斯陀含果阿那含果阿羅漢果を知るも亦中に住せず、辟支佛道を知るも亦中に住せず。何を以ての故に。是の菩薩は一切種智を用て一切法を知り已りて、當に一切種智を得べく、聲聞辟支佛と共ならざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は一切法の無相なることを知り已りて、六波羅蜜の無相なることを知り、乃至一切佛法の無相なることを知る。

けすと答ふ。

【七】六度圓具を明す、一に布施如幻無相。

【八】報得の無漏。常に無漏清淨波羅蜜を修する故に、自から得るヿなば報得無漏とし、能く變身神兆等をなす。

【九】二に持戒如幻無相。

(九)復次に須菩提、菩薩摩訶薩は五陰の夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなるに住し、能く無相尸羅波羅蜜を具足す。是の戒は不缺不破不雜不著にして(一〇)聖人の讃ずる所の無漏戒なり、(一一)八聖道分に入る。是の戒中に住して一切戒、謂ゆる(一二)名字戒自然戒律儀戒、作戒無作戒、威儀戒非威儀戒を持す。是の菩薩摩訶薩は、諸戒を成就して(一三)是の願を作さず、我れ是の戒の因緣を以ての故に、刹利大姓婆羅門大姓居士大家、若は小王家、若は轉輪聖王家、若は四天王天處に生じ、若は三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天に生ぜんと。是の願を作さず、我れ持戒の因緣の故に、當に須陀洹果斯陀含果阿羅漢果辟支佛道を得べしと。何を以ての故に。一切の法無相謂ゆる(一四)一相、無相の法は能く無相の法を得ず、有相の法は能く有相の法を得ず、無相の法は能く有相の法を得ず、有相の法は能く無相の法を得ざればなり。是の如く須菩提、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、能く無相尸羅波羅蜜を具足して、而して菩薩位に入り、(一五)菩薩位に入り已りて無生法忍を得。道種智を行じて報得の五神通を得、五百陀羅尼門に住して四無礙智を得、一佛國より一佛國に至りて諸

【一〇】聖人。應供の智者なり。

【一一】八聖道分等。無相相は正見、その力を得るは正行にして、衆生を惱害せず諸惡を作さざるは正語正業正命なり、發心所作精進なり、繫念は正念、攝心は正定なり。

【一二】名字戒。名字施設の五八十具等の七衆差別の制戒なり。自然戒。法爾具足の戒。律儀戒。止惡防非の法門、或は云ふ律藏所明の比丘比丘尼大戒なりと。作戒。作法受得身口業別戒。無作戒。本有無作の無量戒若くは無表業の戒。威儀戒。四威儀の三千八萬乃至無量の戒。非威儀戒。威儀に異る性戒なり。

【一三】是の願等。戒善を小果に廻向せざるなり。無上菩提尙所得なし、況んや小果をや。

【一四】一相。無相無住無得なり。

佛を供養し、衆生を成就し、佛國土を淨む。五道の中に入ると雖も、生死の業報、染汚すること能はず。須菩提、譬へば轉輪聖王の化するに坐臥行住すと雖も來處を見ず、去處を見ず、住處坐處臥處を見ずして、而して能く衆生を利益するも、亦衆生を得ざるが如し。菩薩も亦是の如し。須菩提、譬へば（一六）須扇多佛の阿耨多羅三藐三菩提を得、三乘の爲に法輪を轉じて菩薩の記を得ること有ること無き者を化し。作佛し已りて身壽命を捨てて無餘涅槃に入るが如く、須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如く、般若波羅蜜を行ずる時に、能く尸羅波羅蜜を具足す、尸羅波羅蜜を具足し已りて一切の善法を攝す。

（一七）復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、五陰の夢の如く響の如く影の如く焔の如く幻の如く化の如くなるに住し、無相羼提波羅蜜を具足す。』『世尊、云何が菩薩摩訶薩は無相羼提波羅蜜を具足するや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は二忍中に住して能く羼提波羅蜜を具足す。何等をか二忍とする。（一八）生忍と法忍となり。初發意より乃至道場に坐するまで、其の中間に於て、若し一切の衆生來りて、罵詈麤惡語、或は瓦石刀杖を以て是の菩薩に加へんに、是の菩薩は羼提波羅蜜を具足せんと欲するが故に、乃至一念の惡をも生ぜずして、是の菩薩は是の如く思惟す、我を罵る者は誰か、我

何ぞ彼此の果を得んとせんや。

【一五】菩薩位に入り等。入位は正性離生に入り、進みて無生法忍を得。

【一六】須扇多。善寂慧佛・第七十・三慧品參照。

【一七】三に忍辱。

【一八】生忍と法忍。衆生の無生空と、諸法の無生空とを證するなり。

を割く者は誰か、惡言を以て我に加ふる者は誰か、瓦石刀杖を以て我を害する者は誰かと。何を以ての故に。是の菩薩は一切法に於て〔二九〕無相忍を得たるが故に、云何が是の念を作さん、是の人我を罵り我を害すと。若し菩薩摩訶薩、是の如く行ずれば、能く羼提波羅蜜を具足し、是の羼提波羅蜜を具足するを以ての故に無生法忍を得。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が無生法忍と爲し、是の忍何をか斷ずる所とし、何をか知る所とする。』佛須菩提に告げたまはく、『法忍を得て乃至少許の不善法を生ぜず、是の故に無生忍と名く。一切の菩薩の斷ずる所の煩惱の盡くる、是を斷と名け、知慧を用て一切法の不生なることを知る、是を智と名く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸の聲聞辟支佛の無生法忍と、菩薩摩訶薩の無生法忍とは何等の異か有る。』佛須菩提に告げたまはく、『諸の〔三〇〕須陀洹の若は智若は斷、是を菩薩の忍と名け、斯陀含の若は智若は斷、是を菩薩の忍と名け、阿那含の若は智若は斷、是を菩薩の忍と名け、阿羅漢の若は智若は斷、是を菩薩の忍と名け、辟支佛の若は智若は斷、是を菩薩の忍と名く。是を〔三一〕異と爲す。須菩提、菩薩摩訶薩は、是の忍を成就して一切の聲聞辟支佛に勝れ、是の報得の無生忍中に住して菩薩道を行じ、能く道種智を具足す。道種智を具足するが故に、常に三十七助道法乃至空無相無作三昧を離れず、五神通を離れず、五

〔二九〕無相忍。無生忍に同じ、無生の故に能所我他瞋害等の相あることなし。

〔三〇〕須陀洹の若は智若は斷等。菩薩の無生法忍智斷を說くを以て須陀洹等の智斷と同異を明す。徧學品參照。

〔三一〕異と爲す。總ての智斷を成就して別法を得たりとせずこれ二乘に優る異點なり。

神通を離れざるが故に、能く衆生を成就し佛國土を淨む。衆生を成就し佛國土を淨め已りて、當に一切種智を得べし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は無相羼提波羅蜜を具足す。

〔三〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は無相の五陰の夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなるに住して、身精進心精進を行ず。身精進を以ての故に神通を起し、神通を起すが故に十方世界に到りて、諸佛を供養し衆生を饒益す。身精進力を以て衆生を敎化して三乘に住せしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、能く無相毘梨耶波羅蜜を具足す。是の菩薩は心精進、聖無漏精進を以て八聖道分中に入り、能く毘梨耶波羅蜜を具足す。是の毘梨耶波羅蜜は皆一切の善法、謂ゆる四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道四禪四無量心四無色定八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を攝す。是の中に菩薩は、是の法を行じて應に一切種智を具足すべし、一切種智を具足し已りて一切煩惱の習を斷じ、三十二相身を具足滿じ、無等無量の光明を放つ、光明を放ち已りて〔三〕三び十二行法輪を轉ず、法輪を轉ずるが故に、三千大千世界は〔四〕六種に震動し、光明偏く三千大千世界を照し、三千大千世界中の衆生は說法の聲を聞き、皆三乘法を以て、而して度脫することを得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は毘梨耶波羅蜜中に住して、能く大饒益し、及び能く一切種智を具足す。

【三】四に精進。

【三】三び十二行法輪を轉ず。轉法輪經には、四諦の知斷證修の應正已三行に說くを云ふ。今は般若無生四諦法輪を轉ずるを云ふなり。

【四】六種震動。說法の時土地震動の瑞相なり、動、起、踊、震、吼、擊なり。

【二五】復次に須菩提、菩薩は無相の五陰の夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなるに住して、能く禪那波羅蜜を具足す。』『世尊、云何が菩薩は五陰の夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなるに住して、能く禪那波羅蜜を具足するや。』『須菩提、菩薩摩訶薩は初禪に入り、乃至第四禪に入り、慈悲喜捨に入り、無量心に入り、無邊虛空處に入り、乃至非有想非無想處に入り、【二六】空三昧無相無作三昧に入り、如電光三昧に入り、如金剛三昧に入り、【二七】聖正三昧に入り、諸佛三昧を除いて、諸餘の三昧、若は聲聞辟支佛と共に三昧に入り、皆證し皆入るも亦三昧味を受けず、亦三昧果を受けず。何を以ての故に。是の菩薩は是の三昧の無相無所有性なることを知ればなり。云何が無相法に無相法味を受け、無所有法に無所有法味を受けん。若し味を受けざれば、則ち禪定力に隨ひて、若は【二八】色界若は無色界を生ぜず。何を以ての故に。是の菩薩は是の二界を見ず、亦是の禪をも見ず、亦入禪の者をも見ず、亦是の法を用て入禪するものをも見ず、入禪の處をも見ざればなり。若し是の法を得ざれば、爾の時に菩薩は卽ち能く無相禪那波羅蜜を具足す。菩薩は是の禪那波羅蜜を用て、能く聲聞辟支佛地を過ぐ。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩は無相禪那波羅蜜を具足するが故に、能く聲聞辟支佛地を過ぐるや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の菩薩は善く內空を學し、善く外空を學し、乃至善く無

【二五】五に禪定。
【二六】空三昧等。前卷一五五頁以下問乘品諸三昧を說く、參照。
【二七】聖正。無漏聖道に安立するなり。
【二八】色界等。定味の報境なればなり。

法有法空を學し、是の諸空に於て法の住すべき處無し。若は須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果乃至一切種智、是の諸法の空も亦空なり。菩薩摩訶薩は是の如く諸法空を行じて、能く菩薩位中に入る。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩の位なる。云何が位に非ざるや。』『須菩提、一切の有所得は是れ菩薩の位に非ず。一切の無所得は是れ菩薩の位なり。』『世尊、何等をか是れ有所得とし、何等をか是れ無所得とする。』『須菩提、色是れ有所得、受想行識是れ有所得、眼耳鼻舌身意乃至一切種智有所得なるは、是れ菩薩の位に非ず。須菩提、菩薩の位とは、是れ諸法の示すべからず、說くべからざるなり。何等の法をか示すべからず說くべからずとする。若は色乃至一切種智なり。何を以ての故に。須菩提、色の性は是れ示すべからず、說くべからず、乃至一切種智の性は是れ示すべからず、說くべからざればなり。須菩提、是の如きを菩薩の位と名く。是の菩薩は入位中に一切禪定三昧具足するも、尙ほ禪定三昧力に隨ひて生ぜず、何に況んや婬怒癡に住し、中に於て罪業を起して生ぜんや。菩薩は但だ幻の如く法中に住して衆生を饒益するも、亦衆生を得ず、亦幻を得ず。若し得る所無ければ、是の時に能く衆生を成就し、佛國土を淨む。是の如く須菩提、是を菩薩の無相禪那波羅蜜を具足し、乃至能く法輪を轉ずと名く、謂ゆる不可得の法輪なり。

[二九]復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、一切法を夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如しと知る。』須菩提佛に白し

【二九】六に般若。

て言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は云何が一切法を夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如しと知る。』『須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、夢を見ず、夢を見る者を見ず、響を見ず、響を聞く者を見ず、影を見ず、影を見る者を見ず、焰を見ず、焰を見る者を見ず、幻を見ず、幻を見る者を見ず、化を見ず、化を見る者を見ず。何を以ての故に。是の夢響影焰幻化は皆是れ凡夫愚人の顚倒の法なるが故に。阿羅漢は夢を見ず、夢を見る者を見ず、乃至化を見ず、化を見る者を見ず。辟支佛菩薩摩訶薩諸佛も亦夢を見ず、亦夢を見る者を見ず、乃至化を見ず、亦化を見る者を見ず。何を以ての故に。一切法は無所有性不生不定なればなり。若し法にして無所有性不生不定なれば、菩薩摩訶薩は當に云何が般若波羅蜜を行じ、是の中に生相定相を取らん。是の處然らず。何を以ての故に。若し諸法にして少多も性有り生有り定有らば、般若波羅蜜と名けざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、色に著せず、乃至識に著せず、欲色無色界に著せず、諸禪解脫三昧に著せず、四念處乃至八聖道分に著せず、空三昧無相無作三昧に著せず。檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜に著せず。著せざるが故に能く菩薩の初地を具足し、初地中に於ても亦著を生ぜず。何を以ての故に。是の菩薩は是の地を得ず。云何が著を生ぜん。乃至十地も亦是の如し。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずるも亦般若波羅蜜を得ず。若し般若波羅蜜を行ずる時に、般若波羅蜜を得ざれば、是の時に一切法を見ず、皆般若波羅蜜中に入るも亦是の法を得ず。

何を以ての故に。是の諸法と般若波羅蜜とは無二無別なればなり。何を以ての故に。諸法は如法性實際に入るが故に、分別すること無ければなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法相無く分別無ければ、云何が是れ善、是れ不善、是れ有漏、是れ無漏、是れ世間、是れ出世間、是れ有爲、是れ無爲なりと說かん。』『須菩提、汝の意に於て云何、諸法實相の中に法有りて、是れ善、是れ不善、乃至是れ有爲、是れ無爲、是れ須陀洹果乃至阿羅漢果、是れ辟支佛、是れ菩薩、是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと說くべきや不や。』『世尊、說くべからざるなり。』『須菩提、是の因緣を以ての故に、當に知るべし、一切法は無相無分別無生無定にして示すべからずと。須菩提、我れ本菩薩道を行ぜし時も亦法の性として若は色、若は受想行識、乃至若は有爲、若は無爲、須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提なりと得べきもの有ること無し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、初發意より乃至阿耨多羅三藐三菩提まで、應に善く諸の法性を學すべし。善く諸の法性を學するが故に、是を阿耨多羅三藐三菩提道と名く。是の道を行じて能く六波羅蜜を具足し、衆生を成就し佛國土を淨め、是の法中に住して阿耨多羅三藐三菩提を得、三乘法を以て衆生を度脫するも亦三乘に著せず。是の如く須菩提菩薩摩訶薩は無相の法を以て應に般若波羅蜜を學すべし。』

(一)卷の第二十四

(二)四攝品第七十八

(三)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法、夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くにして實事有ること無く、無所有性自相空なれば、云何が是れ善法、是れ不善法、是れ世間法、是れ出世間法、是れ有漏法、是れ無漏法、是れ有爲法、是れ無爲法なりと分別し、是の法能く須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得、能く辟支佛道を得、能く阿耨多羅三藐三菩提を得るや。』佛須菩提に告げたまはく、『凡夫愚人は夢を得、夢を見る者を得、乃至化を得、化を見る者を得て、身口意に(四)善業不善業無記業を起し、福業若は罪業を起し、不動業を作す。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、(五)二空中に住し、畢竟空無始空もて衆生の爲に說法して、是の言を作す。諸衆生、是れ色は空にして所有無し、受想行識は空にして所有無し、十二入十八界は空にして所有無し、色は是れ夢なり、受想行識

【一】宋元明本は此に卷を分たず、廿六の續きとなす。

【二】品目。奇特品に作るあり、空にして善を修するを明す。

【三】二空にして而も諸法を分別するの甚深希有なることを明す。

【四】善業等。罪福を信じて三業善あり、これを信ぜずして三業不善あり、善福は欲界中の善喜樂果報あるに名け、不善は憂悲苦惱の果報あるに名け、不動は色無色界を生ずる因緣業を云ふ。或は十善十惡と無記別業等なり。

【五】二空。人法二空なり、畢

は是れ夢なり、十二入十八界は是れ夢なり、色は是れ響なり、是れ影なり是れ焰なり、是れ幻なり、是れ化なり。受想行識も亦是の如し。十二入十八界も是れ夢なり、是れ響なり、是れ影なり、是れ焰なり、是れ幻なり、是れ化なり。是の中に陰入界無く、夢無く、亦夢を見る者も無く、響無く、亦響を聞く者も無く、影無く、亦影を見る者も無く、焰無く、亦焰を見る者も無く、幻無く、亦幻を見る者も無く、化無く、亦化を見る者も無く、一切法は根本實性無く所有無し。汝等無陰中に陰有るを見、無入に入有るを見、無界に界有るを見る。是の一切の法は皆因緣和合從り生じ、顚倒心を以て起り、(六)業の果報に屬す。汝等何を以ての故に諸法空、無根本中に於て、而も根本相を取るや。是の時、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、慳法中に於て衆生を拔出して、敎へて檀波羅蜜を行ぜしむ、是の布施の功德を以て大福報を得。(七)大福報從り拔出して敎へて持戒せしむ、持戒の功德もて天上尊貴の處に生ず。復拔出して初禪に住せしむ、初禪の功德もて梵天處に生ず。二禪三禪四禪、無邊空處識處無所有處、非有想非無想處も亦是の如し。衆生の行ずる是の布施及び布施の果報、持戒及び持戒の果報、禪定及び禪定の果報より、(八)種種の因緣もて、拔出して無餘涅槃及び涅槃道中に安置す。謂ゆる四念處四正勤四如意足、五根五力七覺分八聖道分、空解脫門無相無作解脫門、八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十

竟空は諸法を破し、無始空は衆生相を破す。

【六】前註(四)を見よ。

【七】大福報より拔出。布施果報も無常にして實空なるを說き衆生をして持戒せしむ。

【八】種種の因緣、施戒定の顚倒無常の過失を示す。

八不共法なり。衆生を安隱にして聖無漏法、無色無形無對法中に住せしめ、須陀洹果を得べき者有らば、安隱教化して須陀洹果に住せしめ、斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道を得べき者有らば、斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道に住せしめ、阿耨多羅三藐三菩提を得べき者有らば、安隱教化して阿耨多羅三藐三菩提中に住せしむ。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸の菩薩摩訶薩は、甚だ希有にして及び難し。能く是の深般若波羅蜜を行じ、諸法は無所有性畢竟空無始空にして、而も諸法を是れ善、是れ不善、是れ有漏、是れ無漏、乃至是れ有爲、是れ無爲なりと分別す。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸の菩薩摩訶薩は、甚だ希有にして及び難し。能く是の深般若波羅蜜を行じ、諸法は無所有性畢竟空無始空にして、而も諸法を分別す。

(九)須菩提、汝等若し是の菩薩摩訶薩の希有にして及び難き法を知らば、則ち(一〇)一切の聲聞辟支佛も報ゆる能はざるを知る、何に況んや餘人をや。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ菩薩摩訶薩の希有にして及び難き法にして、諸の聲聞辟支佛の有ること無き所となすや。』佛須菩提に告げたまはく、(一一)『一心に諦聽せよ、菩薩摩訶薩有りて般若波羅蜜を行じ、報得の六波羅蜜中に住し、及び報得の五神通三十七助道法に住し、諸の陀羅尼諸の無礙智に住して十方の國土に到り、布施を以て度すべき者は布施を以て之を攝し、持戒

【九】前の空中分別も一希有なるが又更に般若を行じて諸道を教化する希有なるを明す。

【一〇】第二の希有法は二乘の知らざる所なるを云ふ。

【一一】布施持戒等前既に説く、今は前は生身一國土に在り、今は變化身十方無量世界に就て云ふを異とす。

を以て度すべき者は持戒を以て之を攝し、忍辱精進禪定智慧を以て度すべき者は其の所應に隨ひて而して之を攝取し、初禪を以て度すべき者は初禪を以て之を攝し、二禪三禪四禪、無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處を以て度すべき者は其の所應に隨ひて而して之を攝取し、慈悲喜捨心を以て度すべき者は慈悲喜捨心を以て而して之を攝取し、四念處四正勤四如意足、五根五力七覺分八聖道分、空三昧無相無作三昧を以て度すべき者は其の所應に隨ひて而して之を攝取す。』『世尊、菩薩摩訶薩は云何が布施を以て衆生を饒益するや。』〔二二〕須菩提、菩薩は般若波羅蜜を行ずる時、其の所須に隨ひて布施し、飲食衣服車馬香華瓔珞種種の所須盡く之を給與す。若は供養するに佛辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹等しくして異ること無く、若は施すに、正道中に入れる人及び凡人、下禽獸に至るまで皆分別すること無く等一に布施す。何を以ての故に。一切法は不異不分別なるが故に、是の菩薩は異ること無く分別すること無く布施し已りて、當に無分別法の報謂ゆる一切種智を得べし。須菩提、若し菩薩摩訶薩、乞丐する者を見れば、若は是の心を生ず、

〔二三〕佛は是れ福田なり、我れ應に供養すべし、禽獸は福田に非ざれば供養すべからずと、是れ菩薩の法に非ず。何を以ての故に、菩薩摩訶薩は、阿耨多羅三藐三菩提心を發して是の念を作さず、是の衆

【二二】布施、行平等は諸衆生を利益することを明す。此に四道を略說し人道を廣說す。三惡苦多く疑少く、諸天天眼ありて罪福因緣を見るを以て略說して能く信ず、人道肉眼に局り罪福因果を見ず、邪道多きを以て廣說して漸く信ず。

【二三】佛等。分別門には獨覺尙佛に及ばず、況や畜生を以て比すべからざるも、空門には佛も畜生も等し、畜生を輕んぜず著心を以て佛を貴ばず。

生は應に布施を以て饒益すべく、是は是の衆生に布施すべからず。布施の因緣の故に、刹利大姓婆羅門大姓居士大家に生じ、乃至是の布施の因緣を以て三乘法を以て之を度して無餘涅槃に入らしむべしと。若し衆生來りて菩薩に從て乞はんに、亦異心を生じて、是に與ふべし、是に與ふべからずと分別せず。何を以ての故に。是の菩薩は〔四〕是の衆生の爲の故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發せばなり。若し分別し簡擇せば、便ち諸佛菩薩辟支佛、學無學人、一切世間の天及び人の呵責する處に墮す。誰か請はん、汝一切衆生を救ひ、汝一切衆生の舍、一切衆生の護、一切衆生の依と爲りて而も與ふべきと與ふべからざるとを分別し簡擇せよと。復次に菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、若は人、若は非人來りて菩薩の身體肢節を求乞せんと欲するに、是の時に二心を生ずべからず、若は與へん、若は與へずと。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は衆生の爲の故に身を受く、衆生來りて取る、何ぞ與へざるべけんや。我れ衆生を饒益するを以ての故に是の身を受く、衆生乞はざるも自ら之を與ふべし、何に況んや乞はれて而も與へざらんや。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、應に是の如く學すべし。復次に須菩提、若し菩薩摩訶薩、乞ふ者有るを見れば、應に是の念を生ずべし、是の中に誰か與へ、誰か受け、施す所何物なるか、是れ一切法の自性は皆得べからず、畢竟空なるを以ての故に。空相法與ふる無く奪ふ無し。何を以ての故に。畢竟空の故に、內空の故に、外空內外空大空第一義空自相空の故に。是の諸空に住して布施せば、是の時に檀波羅蜜を

【四】是の衆生。一切衆生を度せんとす、豈に是を漏さんや。

具足す。檀波羅蜜を具足するが故に、若は内外法を斷ずる時に是の念を作す、我を截る者は誰か、我を割く者は誰かと。(一五)復次に須菩提、我れ佛眼を以て東方如恒河沙等の諸の菩薩摩訶薩を見るに、大地獄に入りて火を滅し、湯を冷かならしめ、(一六)三事を以て敎化す、一には神通力、二には知他心、三には說法なり。是の菩薩は神通力を以て大地獄の火を滅し、湯を冷かならしめ、知他心を以て慈悲喜捨し、意に隨ひて說法す。(一七)是の衆生は菩薩に於て淸淨心を生じ、地獄より脫することを得て、漸く三乘法を以て苦際を盡すことを得。南西北方四維上下も亦是の如し。復次に須菩提、我れ佛眼を以て十方世界を觀じ、如恒河沙等の國土の中の諸菩薩を見るに、諸佛の爲に給使し、諸佛に供給し、隨意に愛樂し尊敬し、若は諸佛の所說盡く能く受持し、乃至阿耨多羅三藐三菩提終に忘失せず。(一八)復次に須菩提、我れ佛眼を以て十方如恒河沙等の國土の中の諸の菩薩摩訶薩を觀ずるに、畜生の爲の故に其の壽命を捨て、身體を割截して諸方に分散す。諸の衆生有て、是の諸の菩薩摩訶薩の(一九)肉を食ふ者は、皆菩薩を愛敬す、愛敬するを以ての故に、卽ち畜生道を離るることを得て諸佛に値遇し、佛の說法を聞きて說の如く修行し、漸く三乘 聲聞辟支佛佛法を以て、無餘涅槃に於て而して般涅槃す。是の如く須菩提、諸の菩薩摩訶薩の益する所甚だ多く、

【一五】以下三惡道の敎化法施を明す。一に地獄。
【一六】三事 三示導、三種示現と云ひ、又は三輪と云ふ。神通、憶念、敎說の三業なり。
【一七】是の衆生は三惡に在るも功德ありて菩薩の緣によりて度せらる。若し重罪にして菩薩を見ざるものは度せず。
【一八】二に畜生。
【一九】菩薩の肉を食ふ者は慈心柔軟となり愛敬を生じ惡道を脫するなり。

衆生を敎化して阿耨多羅三藐三菩提心を發さしめ、說の如く修行し、乃至無餘涅槃に於て而して般涅槃す。(二〇)復次に須菩提、我れ佛眼を以て十方如恒河沙等の國土の中の諸の菩薩摩訶薩を見るに、諸の餓鬼の飢渇の苦を除く。是の諸の餓鬼は皆菩薩を愛敬す、愛敬するを以ての故に、餓鬼道を離るることを得て諸佛に値遇し、諸佛の說法を聞きて說の如く修行し、漸く三乘聲聞辟支佛佛法を以て而して般涅槃し、乃至無餘涅槃す。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は衆生を度せんが爲の故に大悲心を行ず。(二一)復次に須菩提、我れ佛眼を以て見るに、諸の菩薩摩訶薩は四天王天上に在りて說法し、三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天上に在りて說法す。諸天は菩薩の說法を聞きて、漸く三乘を以て而して滅度することを得。須菩提、是の諸天衆中に五欲に耽著する者有れば、是の菩薩は火起り其の宮殿を燒くことを示現し、而して爲に說法して是の言を作す、諸天、一切有爲の法は、悉く皆無常なり、誰れか安らかなる者を得んと。(二二)復次に須菩提、我れ佛眼を以て十方世界を觀じ、如恒河沙等の國土の中を見るに、諸の(二三)梵天は邪見に著す、諸の菩薩摩訶薩は敎へて邪見を遠離せしめて是の言を爲す、汝等云何が空相虛妄の諸法中に於て而も邪見を生ずると。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は大慈心に住して衆生の爲に說法す。須菩提、是を諸菩薩の希有に

【二〇】三に餓鬼。

【二一】以下諸天の敎化法施を明す。一に欲界天。

【二二】二に色界天。

【二三】梵天は邪見に著す。梵天は、衆生の父、一切を造り、自ら常住なりとする邪見殊に强しといふ、婆羅門所尊の梵天を云ふなり。

【二四】四攝法を說く。四事中布施を廣說す、餘三事も布施に攝せらるるが故に略說するなり。

して及び難きの法と爲す。(二四)復次に須菩提、我れ佛眼を以て十方世界如恒河沙等の國土の中の諸の菩薩摩訶薩を觀ずるに、四事を以て衆生を攝取す。何等をか四となす。布施と愛語と利益と同事となり。云何が菩薩は布施を以て衆生を攝する。須菩提、菩薩は二種の施を以て衆生を攝取す、財施と法施となり。(二五)何等の財施か衆生を攝する。須菩提、菩薩摩訶薩は金銀瑠璃玻瓈眞珠(二六)珂貝珊瑚等の諸の寶物を以てし、或は飲食衣服臥具房舍燈燭華香瓔珞、若は男若は女、若は牛羊象馬車乘を以てし、若は己身を以て衆生を給施し、衆生に語りて言く、汝等若し所須有らば各來りて之を取れ、己の物を取るが如くして疑難を得ること莫れと。是の菩薩は施し已りて教へて三歸依、歸依佛歸依法歸依僧せしめ、或は教へて(二七)五戒を受けしめ、或は教へて(二八)一日戒(を受け)せしめ、或は教へて初禪あらしめ、乃至教へて非有想非無想定あらしめ、或は教へて慈悲喜捨あらしめ、或は教へて念佛念法念僧念戒念捨念天あらしめ、或は教へて不淨觀あらしめ、或は教へて安那般那觀、(二九)或は相或は觸あらしめ、或は教へて四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分、空三昧無相無作三昧、八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好あらしめ、或は教へて須陀洹果斯

【二五】二施中・財施は狹く有量にして欲界繫なるが故に略說し、法施は廣く無量果報あり三界繫と出界とに通じ、法施に依て財施を生ずるが故に廣說す。

【二六】珂貝。海螺の類を云ふ。

【二七】五戒。不殺不盜不邪婬不妄語不飲酒の在家受持の戒。

【二八】一日戒。在家が布薩等の日に限りて八戒齋を受くるなり。

【二九】或は相或は觸。數息觀を行じて外相內觀を調御するなり。

陀含果阿那含果阿羅漢果あらしめ、或は敎へて辟支佛道あらしめ、或は敎へて阿耨多羅三藐三菩提あらしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以て衆生に敎へ、財施し已りて復敎へて無上安穩涅槃を得しむ。須菩提、是を菩薩摩訶薩の希有にして及び難きの法と名く。

〔三〇〕須菩提、菩薩は云何が法施を以て衆生を攝取する。須菩提、法施に二種有り、一には世間、二には出世間なり。何等をか世間の法施と爲す。世間法を敷演し顯示する謂ゆる不淨觀、安那般那念、四禪四無量心四無色定、是の如き等の世間法及び諸餘の凡夫と共に行ずる所の法、是を世間の法施と名く。是の菩薩は是の如きの世間法を施し已りて、種種の因緣もて敎化して世間法を遠離せしむ、世間法を遠離し已りて方便力を以て聖無漏法及び聖無漏法果を得しむ。何等をか是れ聖無漏法とし、何等をか是れ聖無漏法果なりとする。聖無漏法とは三十七助道法三解脫門なり、聖無漏法果とは須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提なり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩の聖無漏法は須陀洹果中の智慧、乃至阿羅漢果中の智慧、辟支佛道中の智慧、三十七助道法中の智慧、六波羅蜜中の智慧、乃至大慈大悲中の智慧、是の如き等の一切の法、若は世間若は出世間の智慧、若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲、是の法中の一切種智、是を菩薩摩訶薩の聖無漏法と名く。何等をか聖無漏法果と爲す。一切煩惱の習を斷ずる是を聖無漏法果と名く。』須菩提佛に白して言さく。〔三一〕『世尊、菩薩摩訶薩

【三〇】別して法施を廣說す。法は世間法出世間法なり。

【三一】一切種智を得れば佛にして菩薩に非ず、佛ならずば一切種智なし。故に問ふなり。

は一切種智を得るや不や。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、菩薩摩訶薩は一切種智を得。』須菩提言さく、『菩薩と佛とは何等の異有りや。』佛言はく、『異有り。菩薩摩訶薩の一切種智を得たる、是を名けて佛と爲す。所以は何ん、菩薩心と佛心とは異有ること無ければなり。菩薩は是の一切種智の中に住して、一切法に於て照明せざる無し、是を菩薩摩訶薩の世間の法施と名く。須菩提、菩薩摩訶薩は衆生を教へて世間法を得しめ、方便力を以て教へて出世間法を得しむ。須菩提、何等をか是れ菩薩の出世間法となす。凡夫法と共に同ぜざる謂ゆる四念處四正勤四如意足、五根五力七覺分八聖道分、三解脱門八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法三十二相八十隨形好、五百陀羅尼門、是を出世間法と名く。

〔三二〕須菩提、云何が四念處と爲す。菩薩摩訶薩は〔三三〕内身循身觀を觀じ、外身循身觀を觀じ、内外循身觀を觀じ、勤めて精進し一心に智慧觀を以てし、身の集因縁生なることを觀じ、身滅を觀じ、身の集生滅を觀じて、是の道を行ずるに所依無く、世間に於て所受無し、受心法念處も亦是の如し。〔三四〕須菩提、云何が四正勤と爲す。未だ生ぜざる惡不善法は不生の爲の故に勤て生欲精進す、已に生じたる惡不善法は斷の爲の故に勤て生欲精進す、未だ生ぜざる善法は、生の爲の故に勤て生欲精進す、已に生じたる諸の善法は增長し修し具足せん

〔三二〕出世間法を別説す。初に三十七道品なり。一に四念處前卷一六七頁以下、第十九廣乘品參照。

〔三三〕内身等。身の現相より四諦觀を行ふ。

〔三四〕二に四正勤。前卷一七一頁第十九廣乘品參照。

が爲の故に勤て生欲精進す、是を四正勤と爲す。(三五)須菩提、云何が四如意足と爲す。欲三昧をもて斷行して初如意足を成就し、精進三昧心三昧思惟三昧をもて斷行して如意足を成就す。(三六)云何が五根と爲す。信根精進根念根定根慧根なり。(三七)云何が五力と爲す。信力精進力念力定力慧力なり。(三八)云何が七覺分と爲す。念覺分擇法覺分精進覺分喜覺分除息覺分定覺分捨覺分なり。(三九)云何が八聖道分と爲す。正見正思惟正語正業正命正精進正念正定なり。

(四〇)云何が三三昧と爲す。空三昧門無相無作三昧門なり。云何が空三昧と爲す。空行無我行を以て心を攝す、是を空三昧と名く。云何が無相三昧と爲す。寂滅行離行を以て心を攝す、是を無相三昧と名く。云何が無作三昧と爲す。無常行苦行もて心を攝す、是を無作三昧と名く。(四一)云何が八背捨と爲す。内色相有りて外色を觀ず、是れ初背捨なり、内色相無く外色を觀ず、是れ二背捨なり、淨背捨是れ三背捨なり、一切の色相を過ぎ有對相を滅し一切の異相を念ぜざるが故に、無邊虛空を觀じて無邊虛空處に入り、乃至一切の非有想非無想處を過ぎて滅受想背捨に入る、是を八背捨と名く。

(四二)云何が九次第定とする。行者欲惡不善法を離れ有覺有觀にして、離生喜樂ありて初禪に入り第二

【三五】三に四如意足。同前、四如意分に作る同じ。
【三六】四に五根。同前脚註二三以下を見よ。
【三七】五に五力。前卷一七二頁脚註參照。
【三八】六に七覺分。同前。
【三九】七に八聖道分。同前。
【四〇】次に三昧を明す。一に三三昧。前卷一七四頁參照。
【四一】二に八背捨。前卷一一九頁第十二句義品參照。
【四二】三に九次第定。前卷一二〇頁參照。

第三第四禪、乃至非有想非無想處を過ぎて滅受想定に入る、是を九次第定と名く。

(四三)云何が佛の十力と爲す。(一)是處不是處を如實に知り、(二)衆生の過去未來現在の諸業諸受法を知り、造業處を知り、因緣を知り報を知る、(三)諸禪定解脫三昧定の垢淨分別相を如實に知り、(四)他の衆生の諸根上下の相を知り、(五)他の衆生の種種の欲解を知り、(六)世間種種無數の性を知り、(七)一切到道相を知り、(八)種種の宿命を知り、一世乃至無量劫を如實に知り、(九)天眼もて衆生乃至善惡道に生ずるを見、(十)漏盡するが故に無漏心解脫を如實に知る、是を佛の十力と爲す。

(四四)云何が四無所畏と爲す。佛誠言を作すらく、我は是れ一切正智人なり。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて實の如く是の法を知らずと言ふも、乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に我れ安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼を作し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆は實に轉ずること能はずと。一の無畏なり。佛誠言を作すらく、我れ一切漏盡す。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて實の如く是の漏盡きずと言ふも、乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に、我れ安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼を作し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆は實に轉ずること能はずと。

【四三】第三に佛力を明す。一に十力。十力總じては一切種智力別しては千萬億力なり。前卷一七五頁以下、第十九廣乘品參照。

【四四】二に四無所畏、前卷一七六頁第十九廣乘品參照。

二の無畏なり。佛誠言を作すらく、我は障法を說く。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて實の如く是の法を受くるも道を障へずと言ふも、乃至此の微畏相を見ず。是を以ての故に、我れ安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆の中に在りて師子吼を作し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は復餘衆は實に轉ずること能はずと。三の無畏なり。佛誠言を作すらく、我が說く所の聖道は能く世間を出で、是の行に隨て能く苦を盡す。若は沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆有りて、實の如く是の道を行ずるも世間を出づること能はず、苦を盡すこと能はずと言ふも、乃至是の微畏相を見ず。是を以ての故に、我れ安穩を得、無所畏を得、聖主の處に安住し、大衆中に在りて師子吼を作し、能く梵輪を轉ず。諸の沙門婆羅門、若は天、若は魔、若は梵、若は復餘衆は實に轉ずること能はずと、四の無畏なり。(四五)云何が四無礙智と爲す。一には義無礙智、二には法無礙智、三には辭無礙智、四には樂說無礙智なり。云何が義無礙智と爲す、(四六)義に緣る智慧是を義無礙智と爲す。云何が法無礙智と爲す、法に緣る智慧是を法無礙智と爲す。云何が辭無礙智と爲す、辭に緣る智慧是を辭無礙智と爲す。云何が樂說無礙智と爲す、樂說に緣る智慧是を樂說無礙智と爲す。(四七)云何が十八不共法と爲す。一には諸佛身に失無く、二には口に失無く、三には念に失無く、四には異想無く、五

【四五】三に四無礙智。前卷一七七頁第十九廣乘品參照。

【四六】義は相用內容、法は體性、辭は名詞概念、樂說は文章說明。

【四七】四に十八不共法、前卷一七七頁以下、第十九廣乘品參照。

には不定の心無く、六には不知已捨の心無く、七には欲減する無く、八には精進減する無く、九には念減ずる無く、十には慧減ずる無く、十一には解脱減ずる無く、十二には解脱知見減ずる無く、十三には一切の身業智慧に隨て行じ、十四には一切の口業智慧に隨て行じ、十五には一切の意業智慧に隨て行じ、十六には智慧過去世を知ること無礙、十七には智慧未來世を知ること無礙、十八には智慧現在世を知ること無礙なり。〔四八〕云何が三十二相となす。〔四九〕一には足下安平立、平にして奩底の如し、二には足下に千輻輞輪輪相を具足す、三には手足の指長くして餘人に勝る、四には手足柔軟にして餘身の分に勝る、五には足跟廣くして具足滿好なり、六には手足の指合し縵網妙好にして餘人に勝る、七には足趺高平にして好く跟と相稱ふ、八には〔五〇〕伊泥延鹿腨臑纖好、伊泥延鹿王の如し、九には〔五一〕平住して兩手膝を摩す、十には陰藏の相馬王象王の如し、十一には身は縱廣等にして〔五二〕尼俱盧樹の如し、十二には一一の孔より一毛生じ、色青く柔軟にして右旋す、十三には毛上向し青色柔軟にして右旋す、十四には金色相其の色微妙にして閻浮檀金に勝る、十五には身光の面一丈なり、十六には皮薄く細く滑かにして塵垢を受けず蚊蚋を停めず、十七には七處滿ず、兩足の下兩手の中兩肩の上、頂中、皆滿

【四八】第四に生身の相好の勝德を明す、初に三十二相、世間三十相あるも三十二相威德具足するは佛菩薩の法とす。

【四九】三十二相の序次名目等不同なり。大般若(日四、四十一)十住毘婆沙(暑八、三十九)婆沙(收、八五)瑜伽(來三、四十一)中阿含(昃五、六十三)等を觀よ。奩は鏡筥なり。

【五〇】伊泥延(Aineya)鹿羊なり。腨臑は蹲踵とも作る。

【五一】平住、正立して俯屈せず。

【五二】尼俱盧樹(Nyagrodha)。榕樹なり。

じ字相分明なり、十八には（五三）兩腋の下滿ず、十九には上身師子の如し、二十には身廣く端直なり、二十一には肩圓好なり、二十二には四十齒あり、（五四）二十三には齒白く齊密にして根深し、二十四には四牙最も白くして大なり、二十五には方頰車師子の如し、二十六には味中に上味を得、咽中の二處津液流出す、二十七には舌大きく輭薄にして能く覆面して耳の髮際に至る、二十八には梵音深遠にして（五五）迦蘭頻伽の聲の如し、二十九には眼色金精の如し、三十には眼睫牛王の如し、三十一には眉間の白毫相輭白にして（五六）兜羅綿の如し、三十二には頂髻肉骨より成る、是の三十二相は佛身に成就し、光明徧く三千大千世界を照す、若し廣く照さんと欲すれば則ち徧く十方無量阿僧祇の世界に滿つ、衆生の爲の故に丈光を受く、若し無量光を放てば則ち日月時節歲數無し。佛の音聲は徧く三千大千世界に滿ち、若し大聲を欲すれば則ち十方無量阿僧祇の世界に滿つ、衆生の多少に隨て音聲徧く至る。

（五七）云何が八十隨形好と爲す。一には（五八）無見頂、二には鼻直高好にして孔現れず、三には眉初生の月の如くにして紺瑠璃色なり、四には（五九）耳輪埵成し、五には身堅實にして（六〇）那羅延の如し、六には骨際鈎鎖の如し、

【五三】兩腋等。兩腋滿相にして蹲間充實せるなり。
【五四】諸文多く此相を三相とす。齒白淨相、齒齊密相、齒根深相なり。
【五五】迦蘭頻伽(Kalaviṅka)。黃鶯。
【五六】兜羅(Tūla)。綿なり。
【五七】二に八十隨形好を明す。大般若（日四、四二）瑜伽（來三、四一）大莊嚴經（宙四、一五）等を見よ。八十種の好相生身を莊嚴し映發す。大論第八十九卷。
【五八】無見頂。頂上肉髻なり。
【五九】耳輪埵成。耳根具足し厚廣修長なり。
【六〇】那羅延(Nārāyana)。第一人天なり。强壯威勢あるを云ふ。

七には身一時に廻すること象王の如し、八には行く時に足の地を去ること四寸にして印文現ず九には爪赤銅色の如く薄くして潤澤あり、十には膝骨堅著にして圓好なり、十一には身淨潔なり、十二には身柔輭なり、十三には身曲らず、十四には指長く纖圓かなり、十五には指文莊嚴なり、十六には脈深し、十七には踝見えず、十八には身潤澤なり、十九には身自ら持して（六一）透迤せず、二十には身滿足す、二十一には（六二）識滿足す、二十二には容儀備足す、二十三には住處安らかにして能く動かす者無し、二十四には（六三）威一切に震ふ、二十五には（六四）一切樂觀す、二十六には面大長ならず、二十七には容貌を正しくして色を撓さず、二十八には面具足滿ず、二十九には脣赤くして（六五）頻婆果の色の如し、三十には音響深し、三十一には臍深く圓好なり、三十二には毛右旋す、三十三には手足滿ず、三十四には手足意の如し、三十五には手文明直なり、三十六には手文長し、三十七には手文斷せず、三十八には一切惡心の衆生も見れば和悅す、三十九には面廣く姝好なり、四十には面淨滿して月の如し、四十一には（六六）衆生の意に隨て和悅して與に語る、四十二には毛孔より香氣を出す、四十三には口より無上香を出す、四十四には儀容師子の如し、四十五には進止象王の如し、四十六には行法鵝王の如し、四十七には頭（六七）摩陀那果の

【六一】透迤、曲折正しからざるなり。
【六二】識滿足。果報生識にして身圓滿なれば識も具足すと云ふなり。
【六三】威等。威勢儀相具足するなり。
【六四】一切樂觀。見者皆喜びて厭ふことなし。
【六五】頻婆果（Bimba）。熟する時眞紅となる果なり。
【六六】和顏愛語を具するなり。
【六七】摩陀那果（Madana）。頭頂圓滿に喩ふ。

如し、四十八には一切の聲分具足す、四十九には牙利なり、五十には舌の色赤し、五十一には舌薄し、五十二には毛紅色なり、五十三には毛潔淨なり、五十四には廣長の眼なり、五十五には孔門相具す、五十六には手足赤白にして蓮華の色の如し、五十七には臍出でず、五十八には腹現れず、五十九には細腹なり、六十には身傾動せず、六十一には身を持すること重し、六十二には其の身分大なり、六十三には身長し、六十四には手足潔淨にして輭澤なり、六十五には（六八）邊光各一丈なり、六十六には光身を照して而して行く、六十七には等しく衆生を視る、六十八には衆生を輕せず、六十九には衆生に隨って音聲過ぎず減せず、七十には說法して著せず、七十一には衆生の語言に隨って而して說法を爲す、七十二には一發音もて衆聲に報ゆ、七十三には次第有て因緣說法す、七十四には一切衆生觀相を盡すこと能はず、七十五には觀ずる者厭足すること無し、七十六には髮長好なり、七十七には髮亂れず、七十八には髮旋好なり、七十九には髮の色靑珠の如し、八十には手足に德相あり。須菩提、是を八十隨形好と爲し、佛身に成就す。

（六九）復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、衆生を教化す、善男子當に善く學して諸字を分別すべし、亦當に善く一字乃至四十二字を知るべし、一切の言語は皆初字門に入り、一切の言語は亦第二字門乃至第四十二字門に入り、一切の言語は皆其の中に入り、一字皆四十二字に入り、四

【六八】邊光各一丈。丈光とも云ふ、身の周邊廣さ一丈を照らすを云ふ。

【六九】字法を說き四攝法中の布施を結ぶ字門。前卷一八七頁第十九廣乘品參照。

十二字も亦一字に入る。是の衆生應に是の如く善く四十二字を學し、善く四十二字を學し已りて能善く字法を説き、善く字法を説き已りて善く無字法を説く、須菩提、佛の善く法を知り善く字を知り善く（七〇）無字を知り、無字法の爲の故に字法を説くが如くすべし。何を以ての故に、須菩提、一切の名字法を過ぐるが故に名けて佛法と爲す。（七一）是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は二施を以て衆生を攝取す、謂ゆる財施と法施となり、是を菩薩の希有にして及び難き事と爲す。

（七二）云何が菩薩摩訶薩は愛語もて衆生を攝取すと爲す。菩薩摩訶薩は六波羅蜜を以て衆生の爲に説法し、是の言を作すらく、汝六波羅蜜を行じて一切善法を攝すべしと。云何が菩薩摩訶薩は利行もて衆生を攝取すと爲す。菩薩摩訶薩は長夜に衆生を教化して六波羅蜜を行ぜしむ。云何が菩薩摩訶薩は同事もて衆生を攝取すと爲す。菩薩摩訶薩は六神通力を以ての故に、種種變化して六道中に入り、衆生と與に（七三）同事す。此の四事を以て而して之を攝取す。

（七四）須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し衆生畢竟して得べからずば、法も亦た得べからず、法性も亦た得べからず、畢竟空無始空なるが故に。世尊、菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を行じ、禪波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜を行ずる時に、四禪四無量心四無色定三

（七〇）無字。字の實とすべきなく名字を超越するなり。
（七一）以下次段の末「之を攝取す」まで大論（往五、四九）これを缺く。
（七二）四攝法中の後三事を略説して四法を結ぶ。
（七三）同事。所作行事を同じくして相從ふなり。
（七四）法空にして諸法を行ずるを明す。

十七助道法、十八空を行じ、空無相無作三昧、八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法、三十二相八十隨形好を行ぜん。云何が報得五神通に住して衆生の爲に說法する。衆生は實に得べからず、衆生得べからざるが故に色得べからず、乃至識も亦得べからず、五陰得べからざるが故に六波羅蜜乃至八十隨形好も皆得べからず、是の不可得中に衆生無く、色無く乃至八十隨形好無ければなり。世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、衆生の爲に說法する。世尊、菩薩の般若波羅蜜を行ずる時、菩薩も尙得べからず、何に況んや當に菩薩法有るべけんや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、衆生得べからざるが故に當に知るべし、是れ內空外空內外空、空空大空第一義空、有爲空無爲空畢竟空、無始空散空諸法空、自相空性空不可得空、有法空無法空無法有法空なりと。衆生得べからざるが故に、當に知るべし、五陰空十二入空十八界空十二因緣空四諦空、我空、壽者命者生者、養者育者、衆數者人者、作者使作者、起者使起者、受者使受者、知者見者皆空なりと。衆生得べからざるが故に、當に知るべし、四禪空四無量心空四無色定空なりと。當に知るべし、四念處空乃至八聖道分空、空空無相空無作空、八背捨空九次第定空なりと。衆生得べからざるが故に、當に知るべし、佛の十力空四無所畏空四無礙智空十八不共法空なりと。當に知るべし、須陀洹果空斯陀含果空阿那含果空阿羅漢果空辟支佛道空なりと。當に知るべし、菩薩地空阿耨多羅三藐三菩提空なりと。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如く一切法の空なることを見、衆生の爲に說法して諸空の相を失

せず、是の菩薩は是の如く觀ずる時に一切法無礙を知る、一切法無礙を知り已りて諸法相の不二不分別なることを壞せず、但だ衆生の爲に實の如く說法す。譬へば佛の所化人は化人復無量千萬億人を化作して、敎へて布施せしむる者有り、敎へて持戒せしむる有り、敎へて忍辱せしむる有り、敎へて精進せしむる有り、敎へて禪定せしむる有り、敎へて智慧せしむる有り、敎へて四禪四無量心四無色定せしむる者有るが如し。汝の意に於て云何、佛の所化人、諸法を分別し破壞すること有りや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊。』『是の化人は心無く心數法無し、云何が諸法を分別し破壞せん。是を以ての故に須菩提、當に知るべし、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、衆生の爲に應の如く說法し、衆生を顚倒地より拔出し、衆生をして各所應の如く住地を得しむ、(七五)不縛不脫法を以ての故に。何を以ての故に。須菩提、色は不縛不脫なり、受想行識は不縛不脫なり、色の無縛無脫なる是れ色ならず、受想行識の無縛無脫なる是れ識ならず。何を以ての故に。色は畢竟清淨なるが故に、受想行識乃至一切法、若は有爲若は無爲も亦畢竟清淨なるが故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は衆生の爲に說法するも亦衆生及び一切法を得ず、一切法得べからざるが故に。菩薩は法に住せざるを以ての故に、諸法の相中、謂ゆる色空乃至有爲無爲法空に住す。何を以ての故に。色乃至有爲無爲法の自性得べからざるが故に、住處有ること無し。無所有法は無所有法に住せず、自性法は自性法に住せず、他性法は他性法に住せず。何を以ての故に、是の一切法は

【七五】不縛不脫　前卷一四七頁以下、第十七莊嚴品參照。

皆得べからざるが故に、不可得の法當に何處にか住すべけん。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、是の諸空を以て能く是の如く說法し、是の如く般若波羅蜜を行じ、諸佛及び聲聞辟支佛に於て過有ること無し。何を以ての故に。諸佛及び菩薩辟支佛阿羅漢は是の法を得已りて、(七六)衆生の爲に說法するも亦諸法の相を轉せず。何を以ての故に。如法性の實際轉ずべからざるが故に。所以は何ん。諸法性無きが故に。』

(七七)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し法性如の實際轉せざれば色と法性とは異なるや不や、色と如實際とは異なるや不や、受想行識乃至有爲無爲法、世間出世間、有漏無漏異なるや不や。』佛言はく、『不とよ、色は法性と異ならず、如と異ならず、實際と異ならず、受想行識乃至有漏無漏も亦異ならず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し色は法性と異ならず、如と異ならず、實際と異ならず、受想行識乃至有漏無漏異ならずんば、云何が(七八)黑法を分別し、黑報謂ゆる地獄餓鬼畜生有らん、白法の白報謂ゆる諸天及び人有らん、黑白法の黑白報有らん、不黑不白法の不黑不白報謂ゆる須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提有らん。』佛須菩提に告げたまはく、『世諦の故に分別して果報有りと說く、第一義には非ず、第一義の中には因緣果報を說くべからざればなり。何を以ての故に。是の第一義は實に相有ること無く分別有ること

【七六】法輪を轉じて說法するも一法一相の轉ずるなきを明す。

【七七】法性轉ぜざれば諸法平等なるも、俗諦に善惡あるを明す。

【七八】黑法。惡不善法なり。

無く、亦言說も無し。謂ゆる色乃至有漏無漏法は不生不滅相、不垢不淨にして、畢竟空無始空なるが故に。』

(七九)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し世諦を以ての故に分別して果報有りと說き、第一義に非ずんば、一切凡夫人は應に須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道、阿耨多羅三藐三菩提を有つべし。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、凡夫人は是れ世諦なり、是れ第一義諦なりと知ることを爲すや不や。若し是を知れば、凡夫人は應に是れ須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提を有つべし。須菩提、凡夫人は實に世諦を知らず、第一義諦を知らず、道を知らず、道果を知らず、分別道果を知らざるを以て、云何が當に諸果有らん。須菩提、聖人は世諦を知り、第一義諦を知り、道有り修道有り、是の故を以て聖人は差別して諸果有り。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、修道せば果を得るや不や。』佛の言はく、『不とよ、須菩提、修道するも果を得ず、修道せざるも亦果を得ず、亦道を離れざるも果を得、亦道中に住せざるも果を得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、衆生の爲の故に諸果を分別するも、亦是の有爲性と無爲性とを分別せず。』『世尊、若し有爲性と無爲性とを分別せずして諸果を得れば、云何が世尊、自ら(八〇)三結を說き盡すが故に須陀洹と名け、婬怒癡薄きが故に斯陀含果と名け、五此間結の盡くるを阿那含と名け、五彼間結の

【七九】凡夫無知の故に第一義を以て論ずべからず道果ありとすべからざるを明す。

【八〇】三結等。前卷五一頁第四往生品を見よ。五此間結は五下分結なり。

盡くるを阿羅漢と名け、所有の集法皆滅散する相を辟支佛道と名け、一切煩惱の習を斷ずるが故に阿耨多羅三藐三菩提と名けん。世尊、我れ當に云何が有爲性と無爲性とを分別せずして諸果を得ることを知るべけんや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提を以て、是の諸果は是れ有爲なり、是れ無爲なりとせんや。』須菩提言さく、『世尊、皆是れ無爲なり。』『須菩提、無爲法中に分別有りや不や。』『不とよ、世尊、若し善男子善女人、一切法若は有爲、若は無爲一相謂ゆる無相なりと通達せば、是の時に若は有爲若は無爲なりと分別すること有りや不や。』『不とよ、世尊。』『是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の衆生の爲に說法して諸法を分別せず、謂ゆる內空の故に、乃至無法有法空の故に、是の菩薩は自ら無所著の法を得、亦人に敎へて無所著の法、若は檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜、初禪乃至第四禪、慈悲喜捨、無邊空處乃至非有想非無想處、若は四念處乃至一切種智を得しむ。是の菩薩は自ら著せざるが故に、亦他を敎へて無所著を得しむ。著する所無きが故に礙ふる所無し。譬へば佛の所化人の布施するも亦布施を受けず、但だ衆生を度せんが爲の故に、乃至一切種智を行じて一切種智の報を受けざるが如し。菩薩摩訶薩も亦是の如く六波羅蜜乃至一切法有漏無漏有爲無爲を行じて住せず、亦報をも受けず、但だ衆生を度せんが爲の故なり。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は善く一切諸法の相に達するが故に。』

〔一〕善達品第七十九

〔二〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩は善く諸法の相に達するや。』佛須菩提に告げたまはく、『譬へば化人の婬怒癡を行せず、色乃至識を行せず、內外法を行せず、諸の煩惱結使を行せず、有漏法無漏法、世間法出世間法、有爲法無爲法を行せず〔三〕亦聖果も無きが如く、菩薩も亦是の如く、〔四〕是の事有ること無く、亦〔五〕是の法を分別せざる、是を善く諸法の相に達すと名く。』須菩提言さく、〔六〕『世尊、化人云何が修道有らん。』佛言はく、『化人の修道は垢ならず淨ならず亦五道生死にも在らず。須菩提、汝の意に於て云何、佛の所化人は根本實事有りて垢有り淨有りや不や。』須菩提言さく『不とよ、佛の所化人は根本實事有ること無く、亦垢無く亦淨無く、亦五道生死にも在らず。』『是の如く須菩提、〔八〕菩薩摩訶薩の善く諸法の相に達するも亦是の如し。』須菩提言さく、『世尊、一切の色は化の如くなりや不や、一切の受想行識は化の如くなりや不や。』佛言はく、『一切の色は化の如く、一切の受想行識は化の如し。』『世尊、若し一切の

【一】前品の終に善達一切諸法相と云ふを承けて、本品その義を分別するが故に品目とす。大論第八十九の續き。

【二】善達の相を明す　善達とは法の性相を取らず、法性中に住せず疑はず、說法罣礙なきなり、菩薩にして善達あるかの疑あるを以て問說す。

【三】亦聖果等　內外漏無漏に攝せず、凡夫法に墮せず亦聖果中にも墮せず、須陀洹等とも云ふべからざるなり。

【四】是の事　善達の菩薩所達の法。

【五】是の法　內外漏無漏色心善惡等。

【六】問意は化人は化事成就するも自ら修道解脫なし、菩薩

色化の如く、一切の受想行識化の如く、一切法化の如くなれば、化人色無く受想行識無く、垢無く淨無く、五道生死も無く、亦解脱處も無し、〔九〕菩薩何等の功用か有らん。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、菩薩摩訶薩の本菩薩道を行ずる時に、頗し衆生有て地獄餓鬼畜生人天中より解脱を得ることを見るや不や。』須菩提言さく、『不とよ。世尊。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、菩薩摩訶薩は衆生の三界より解脱を得るを見ず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は〔一〇〕一切法幻の如く化の如しと見知すればなり。』『世尊、若し菩薩摩訶薩、一切諸法幻の如く化の如しと見知せば、何事の爲の故に六波羅蜜四禪四無量心四無色定三十七助道法を行じ、乃至大慈大悲淨佛國土成就衆生を行ずるや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し衆生自ら諸法幻の如く化の如しと知らば、菩薩摩訶薩は終に阿僧祇劫に於て衆生の爲に菩薩道を行ぜず。須菩提、衆生自ら諸法の幻の如く化の如くなることを知らざるを以て、〔一一〕是の故を以て、菩薩摩訶薩は無量阿僧祇劫に於て六波羅蜜を行じ、衆生を成就し、佛國土を淨め、阿耨多羅三藐三菩提を得るなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法夢の如く響の如く影の如く焰の如く幻の如く化の如くなれば、衆生何處に在りてか住し、菩薩六波羅蜜を行じて而して之を拔出せ

は然らざるべしとす。

【七】所化人は彼の變化と異る實事ありとするかを反問す。

【八】煩惱六道皆前世虚誑顚倒の因縁に生ずとして空なり如化なりとして隨逐せざるを云ふ。

【九】佛菩薩の功德を讚じて能く三惡道を斷じ衆生を拔濟するとするを疑ふなり。

【一〇】「無生法忍を得る時」の句を入れて見よ。

【一一】是の故。法の幻化を知らざるが爲に起惡造罪受苦するを云ふ。

んや。』『須菩提・衆生は但だ名相虚妄憶想分別中に住す、是の故に菩薩は般若波羅蜜を行じ、名相虚妄中に於て衆生を抜出す。』

(二二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ(二三)名とし、何等をか是れ相とする。』佛言はく、『此の名は强て(二四)假の施設を作す、謂ゆる此れ色此れ受想行識、此れ男此れ女、此れ大此れ小、此れ地獄此れ畜生此れ餓鬼、此れ人、此れ天、此れ有爲此れ無爲なり、此は是れ須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道なり、此れ佛道なりと。須菩提、(二五)一切の和合法は皆是れ假名なり、名を以て諸法を取る、是の故に名と爲す。一切の有爲法は但だ名相有るのみ、凡夫愚人は中に於て著を生ず、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に名字中に於て敎へて遠離せしめ、是の言を作す、諸の衆生、是の名は但だ空名有るのみ、虚妄憶想分別中に生ず、汝等虚妄憶想に著すること莫れ、此の事(二六)本來皆無自性空なるが故に、智者の著せざる所なりと、是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、衆生の爲に說法す。須菩提、是を名と爲す。何等をか相と爲す。須菩提、二種の相有り、凡夫人所著の處なり。何等をか二と爲す。一には色相、二には無色相なり、須菩提、何等をか色相と名くる。諸の所有の色若は(二七)麤若

【二二】名、相を辨じて假設とし無相を明す。
【二三】名は熱を火と名くる類、相は煙を見て火ありとするが如し。
【二四】假の施設。第七三假品前巻六八頁三種假設を說く、参照。
【二五】一切の和合。一微塵も實なくして名字和合を見るのみ和合は假なり、假の法に假に名字を設けて諸法として認むる故に、この法を名とす。
【二六】本來。相を本とし名を末とす。男女の相貌を男女と名くる類なり。

は細、若は好若は醜、皆是れ空なり。是の空法中に憶想分別し著心取相す、是を名けて色相と爲す。何等をか是れ無色相とする。諸の〔二八〕無色法を憶想分別し著心取相するが故に煩惱を生ず、是を無色相と名く。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、衆生を敎へて是の相著を遠離せしめ、無相法中に二法、謂ゆる是れ相、是れ無相なりと墮せざらしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、衆生を敎へて相を遠離し、無相性中に住せしむ。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法但だ名相有るのみなれば、云何が菩薩は般若波羅蜜を行じて能く自ら饒益し、亦他人を敎へて善利を得しむる、云何が菩薩は諸地を具足し、一地より一地に至りて衆生を敎化して三乘を得しむるや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し諸法の根本定んで有にして但だ名相のみに非ざれば、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に自ら益すること能はず、亦他人をも利益すること能はざらん。須菩提、諸法は根本の實事有ること無く、但だ名相有るのみ。是の故に菩薩は般若波羅蜜を行ずる時に能く禪那波羅蜜を具足す、無相なるが故に、毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀波羅蜜を（具足）す、無相なるが故に。四禪波羅蜜四無量心波羅蜜四無色定波羅蜜を具足す、無相なるが故に。四念處波羅蜜を具足す、無相なるが故に。乃至八聖道分波羅蜜を具足す、無相なるが故に。內空波羅蜜を具足す、無相なるが故に。乃至無法有法空波羅蜜を具足す、無

〔二七〕麤若は細。肉眼所見を麁色とし、微塵を細とす。麁の和合は空なるのみならず、細色も定實の性なし。

〔二八〕無色法。受想行識の法なり。

相なるが故に。〔一九〕八背捨波羅蜜を具足す、無相なるが故に。九次第定波羅蜜を具足す、無相なるが故に。佛十力波羅蜜を具足し、乃至十八不共法波羅蜜を具足す。無相なるが故に。是の菩薩は無相なるが故に自ら是の諸の善法を具足し、亦他人を教化して善法を具足せしむ、無相なるが故に。須菩提、若し諸法の相當に實有なる毫釐許の如くなる者あるべくば、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、諸法の無相無憶念なることを知りて阿耨多羅三藐三菩提を得、亦衆生を教へて無漏法を得しむること能はず。何を以ての故に。一切無漏法は無相無憶念なるが故に。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、無漏法を以て衆生を利益す。』

〔二〇〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法無相無憶念なれば、云何なる數か是れ聲聞法、是れ辟支佛法、是れ菩薩法、是れ佛法なるや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、無相法と聲聞法とは異なれるや不や。』『不とよ、世尊。』『無相法と辟支佛法菩薩法佛法とは異なれるや不や。』『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、〔二一〕『無相の法は卽ち是れ須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛法菩薩法佛法なり。』須菩提言さく、『是の如し、世尊。』『須菩提、是の因緣を以ての故に、當に一切法は皆是れ無相なりと知るべし。須菩提、菩薩摩訶薩は是の一切法の無相を學し、善法謂ゆる六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處乃至十八不共法を增益することを得。何を以ての故

〔一九〕八背捨。諸本解脫に作るも今大論により八背捨とす。

〔二〇〕三乘差別を說くも實に一切法無相なるを明す。

〔二一〕無相の故に三乘諸道あるを以て三乘と說くを難ずべからず。

に。菩薩は〔三二〕餘法を以て要と爲すこと三解脫門謂ゆる空無相無作の如くならず。所以は何ん。一切善法皆三解脫門に入ればなり。何を以ての故に。一切法の自相空是を空解脫門と名け、一切法の無相是を無相解脫門と名け、一切法の無作無起相是を無作解脫門と名くればなり。若し菩薩摩訶薩、三解脫門を學せば、是の時に能く五陰相を學し、能く十二入相を學し、能く十八界相を學し。能く四聖諦十二因緣法を學し、能く內空外空乃至無法有法空を學し、能く六波羅蜜四念處乃至八聖道分を學し、能く佛の十力四無所畏、四無礙智十八不共法を學す。』

〔三三〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、能く五受陰相を學するや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、色の相を知り、色の生滅を知り、色の如を知る。云何が色の相を知る。色の畢竟空なる、內分分異虛にして實無きこと、譬へば水沫の堅固なること無きが如くなるを知る、是を色の相を知ると爲す。云何が色の生滅を知る。色の生ずる時從て來る所無く、去て至る所無し、若し不來不去なれば是を色の生滅相を知ると爲す。云何が色の如を知る。是の色の如は生せず滅せず來らず去らず增せず減せず垢ならず淨ならず、是を色の如を知ると名く。須菩提、如の名如の實虛しからず、如の前後中も亦た爾く、常にして異ならず、是を色の如を知ると爲す。云何が受の相を知り、云何が受の生滅を知り、云何が受の如を知る、菩薩・

〔三二〕唯三解脫門を要す。三解脫は實法、餘の四念處等は方便なり。

〔三三〕三解脫門を學して諸善法に通達するを廣說す。一に五陰に就て說く。

諸受の相、水中の泡の一起一滅するが如くなるを知る、是を受の相を知ると爲す。受の生滅を知るとは、是の受は從て來る所無く、去て至る所無き、是を受の生滅を知ると爲す。受の如を知るとは、是の如は生せず滅せず來らず去らず增せず減せず垢ならず淨ならず、是を受の如を知ると爲す。云何が想の相を知り、云何が想の生滅を知り、云何が想の如を知る。想の相を知るとは、是の相は焰水の得べからずして、而も妄に水想を生ずるが如し。是を想の相を知ると爲す。想の生滅を知るとは、是の想は從て來る所無く、去て至る所無し、是を想の生滅を知ると爲す。想の如を知るとは、諸の想の如は生せず滅せず來らず去らず增せず減せず垢ならず淨ならず、實相に於て轉せず、是を想の如を知ると爲す。云何が行の相を知り、云何が行の生滅を知り、云何が行の如を知る。行の相を知るとは、行は芭蕉の葉葉除却するが如く堅實なることを得ず、是を行の相を知ると爲す。行の生滅を知るとは、諸行の生ずる從て來る所無く、去て至る所無き、是を行の生滅を知ると爲す。行の如を知るとは、諸行は生せず滅せず來らず去らず增せず減せず垢ならず淨ならず、是を行の如を知ると爲す。云何が識の相を知り、云何が識の生滅を知り、云何が識の如を知る。識の相を知るとは、幻師の四種兵を幻作するが如く、實の識有ること無きも亦是の如し、是を識の相を知ると爲す。識の生滅を知るとは、是の識の生ずる時に從て來る所無く、滅する時に去る所無し、是を識の生滅を知ると爲す。識の如を知るとは、識は生せず滅せず來らず去らず垢ならず淨ならず增せず減せずと知る、是を識の如を知ると

爲す。〔二四〕云何が諸の入、眼の眼性空乃至意の意性空、色の色性空乃至法の法性空を知り、〔二五〕云何が眼界の眼界空、色の色界空、眼識の眼識界空、乃至意識界も亦是の如しと知る。〔二六〕云何が四聖諦を知る。苦聖諦を知る時に〔二七〕二法を遠離して苦諦の不二不別なることを知る、是を苦聖諦と名く。集盡も亦是の如し。云何が苦の如を知る。苦聖諦即ち是れ如なり、如は即ち是れ苦聖諦なりと知る。集盡道も亦是の如し。〔二八〕云何が十二因緣を知る。十二因緣の不生の相を知る、是を十二因緣を知ると名く。

〔二九〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時に各各分別して諸法を知れば、將に色性を以て法性を壞し、乃至一切種智性もて法性を壞する無きや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し法性の外に更に法有れば應に法性を壞すべし。法性の外に法得べからず、是の故に壞せず。何を以ての故に。須菩提、佛及び佛弟子は法性の外に法の得べからざることを知る、法得べからざるが故に法性の外に法有りと說くべからず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて、應に法性を學すべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩若し法性を學すれば學する所無しと爲るか。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩、法性を學すれば則ち一切法を學す。何を以ての故に。一

〔二四〕二に十二入。
〔二五〕三に十八界。
〔二六〕四に四聖諦。小乘には三諦有相滅諦無相と云ふも大乘には四諦皆無相とす。
〔二七〕二法。苦樂等の差別を云ふ。
〔二八〕五に十二因緣に就て說く。
〔二九〕諸法分別に就て法性を壞せざるを明して法性を辨ず。

切法は卽ち是れ法性なればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に一切法卽ち是れ法性なりや。』佛言はく、『一切法皆無相無爲性中に入る、是の因緣を以ての故に、法性を學すれば則ち一切法を學するなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法卽ち是れ法性なれば、菩薩摩訶薩は何を以ての故に般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀波羅蜜を學し　菩薩摩訶薩は何を以ての故に初禪第二第三第四禪を學し、菩薩摩訶薩は何を以てか慈悲喜捨を學し、何を以てか無邊虛空處無邊識處無所有處非有想非無想處を學し、何を以てか四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を學し、何を以てか空無相無作解脫門を學し、何を以てか八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を學し、何を以てか六神通を學し、何を以てか三十二相八十隨形好を學し、何を以てか學して刹利大姓婆羅門大姓居士大家に生じ、何を以てか學して四天王天處三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天に生じ、何を以てか學して梵天王住處光音天徧淨天廣果天無想天淨居天に生じ、何を以てか學して無邊空處に生じ無邊識處に生じ無所有處に生じ非有想非無想處に生ぜん、何を以てか初發意地第二第三第四第五第六第七第八第九第十地を學し、何を以てか聲聞地辟支佛地菩薩摩訶薩法位を學し、何を以てか成就衆生淨佛國土を學し、何を以てか諸の陀羅尼を學し、何を以てか樂說法を學し、何を以てか阿耨多羅三藐三菩提を學し、學し已りて一切種智を得、一切法を知るや。世尊、諸法の法性中に是の分別無し。世尊、將に菩薩は非道中に墮すること無からんか。何を以ての故

に。世尊、法性中に是の如きの分別無く、法性中に色無く受想行識無く、諸法性も亦色受想行識を遠離せず、色は卽ち是れ法性、法性は卽ち是れ色なり、受想行識も亦爾り、一切法も亦是の如くなればなり。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、色は卽ち是れ法性、受想行識は卽ち是れ法性なり。須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時に、若し法性の外に法有ることを見ば、阿耨多羅三藐三菩提を求めずと爲す。菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、一切の法性は卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと知る、是を以ての故に、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、一切法は卽ち是れ法性なりと知り已つて、無名相の法を以て、名相を以て說く、謂ゆる是れ色なり、是れ受想行識なり、乃至是れ阿耨多羅三藐三菩提なりと。須菩提、譬へば工なる幻師若は幻師の弟子の多人の處に立ちて、種種の形色男女象馬端嚴園林及び諸の廬館流泉浴池、衣服臥具香華瓔珞餚膳飲食を幻作し、衆の妓樂を作つて以て衆人を樂ましむるが如し。又復た人を幻作して布施、若は持戒忍辱精進禪定智慧を修せしめ、是の幻師は復た刹利大姓婆羅門居士大家、四天王天處、須彌山三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天を幻作して以て衆人に示す。復梵衆天乃至非有想非無想天を幻作し、又須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩の初發意より檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜を行じ初地を行じ乃至十地を行じて菩薩位に入り神通に遊戲して衆生を成就し佛國土を淨め、諸禪解脫三昧に遊戲し、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲を行じて、佛身

の三十二相八十隨形好を具足するを幻作して、以て衆人に示す。是の中無智の人は歎ず、未曾有なり、是の人は多能にして巧に衆事を爲して衆人を娛樂せしむ、種種の形色乃至三十二相八十隨形好もて佛身を莊嚴すと。其の中の有智の士は思惟して言く、未曾有なり、是の中に實事有ること無し、而も無所有法を以て衆人を娛樂せしめ、形相有らしむ、事の事相無く有の有相無しと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は法性を離れて法有るを見ず、般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に、衆生を得ずと雖も而も自ら布施し、亦人を敎へて施さしめ、施法を讃歎し、布施を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら持戒し、亦人を敎へて持戒せしめ、自ら忍辱し、亦人を敎へて忍辱せしめ、自ら精進し、亦人を敎へて精進せしめ、自ら禪を行じ、亦人を敎へて禪を行ぜしめ、自ら智慧を修し、亦人を敎へて智慧を修せしめ、智慧を修する法を讃歎し、智慧を修する者を歡喜し讃歎す。自ら十善を行じ、亦他を敎へて十善を行ぜしめ、十善を行ずる法を讃歎し、十善を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら五戒を受行し、亦他人を敎へて五戒を受行せしめ、五戒の法を讃歎し、五戒を受行する者を歡喜し讃歎す。自ら八戒齋を受け、亦他人を敎へて、八戒齋を受けしめ、八戒齋の法を讃歎し、八戒齋を行ずる者を歡喜し讃歎す。自ら初禪を行じ乃至自ら第四禪を行じ、自ら慈悲喜捨を行じ、自ら無邊空處乃至非有想非無想處を行じ、亦他人を敎へて行ぜしむ。自ら四念處乃至八聖道分を行じ、自ら三解脫門佛の十力を行じ、乃至自ら十八不共法を行じ、亦他人を敎へて十八不共法を行ぜしめ、十八不共法を讃歎し、十八不共法を行ず

る者を歡喜し讃歎す。須菩提、若し法性前後中に異有らば、是の菩薩摩訶薩は方便力を以ての故に法性を示し、衆生を成就すること能はず。須菩提、法性前後中に異無きを以て、是の故に菩薩は般若波羅蜜を行じ、衆生を利益せんが爲の故に菩薩道を行ず。』

〔一〕巻の第二十五

〔二〕實際品第八十

〔三〕須菩提佛に白して言さく、「世尊、若し衆生畢竟じて得べからざれば、菩薩は誰れの爲の故に般若波羅蜜を行ずるや。」佛須菩提に告げたまはく、「菩薩は實際の爲めの故に般若波羅蜜を行ず。須菩提、實際と衆生際と異なれば、菩薩は般若波羅蜜を行ぜず。須菩提、實際と衆生際とは異ならず、是を以ての故に、菩薩摩訶薩は衆生を利益せんが爲の故に般若波羅蜜を行ず。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、實際の法を壞せざるを以て、衆生を實際の中に立つ。」須菩提佛に白して言さく、「世尊、若し實際卽ち是れ衆生際なれば、菩薩は則ち實際を實際に於て建立すと爲す。世尊、若し實際を實際に於て建立せば、則ち自性を自性に於て建立すと爲す。世尊、自性は自性に於て建立することを得ず。世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、衆生を實際に於て建立するや。」佛須菩提に告げたまはく、「實際は實際に於て建立すべからず、自性は自性に於て建立すべからず。須菩提、今

【一】宋元明本、第二十八に作る。

【二】品目或は建立品に作る。前品の法性卽ち實際の故に般若を行ずるを明す。大論第九十

【三】衆生不可得にして能く衆生の爲めに般若を行ずるを明す。

菩薩摩訶薩般若波羅蜜を行ずる時に、方便力を以ての故に、衆生を實際に於て建立す。實際も亦衆生際と異ならず。實際と衆生際とは二無く別無きなり。』須菩提佛に白して言さく、世尊何等をか是れ諸の菩薩摩訶薩の方便力となし、是の方便力を用て、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時に、衆生を實際に於て建立するも、亦實際の相を壞せざるや。』

(四)佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に、衆生を布施に於て建立し、建立し已れば、布施の先後際相の空なることを說きて是の言を作す、是の如きの布施は前際空なり、後際空なり、中際も亦空なり、施者も亦空なり、施報も亦空なり、受者も亦空なり。諸の善男子善女人、是の一切法は、實際の中に得べからず。汝等(五)布施異、施者異、施報異、受者異を念ずること莫れ。若し汝等、布施異、施者異、施報異、受者異を念ぜざれば、是の時に布施は能く(六)甘露味に趣き、甘露味の果を得。汝善男子是の布施を以ての故に、色に著すること莫れ、受想行識に著すること莫れ。何を以ての故に。是れ布施は布施相空　施者は施者空、施報は施報空、受者は受者空なればなり。空中に布施得べからず、施者得べからず、施報得べからず、受者得べからざればなり。何を以ての故に。是れ諸法は畢竟じて自性空なるが故にと。(七)復次に須菩提、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に、

【四】方便般若に於て一に布施空を明す。
【五】布施異。布施に布施の別法ありとするを云ふ。
【六】甘露味。不滅卽ち涅槃なり。
【七】二に持戒空を明す。

衆生を教へて持戒せしめ、衆生に語つて言く、汝善男子、殺生法を除捨し乃至邪見法を除捨せよ。何を以ての故に。善男子、汝の分別する所の如く是の諸法は是の如きの性無ければなり。汝善男子、當に諦に思惟すべし。何等か是れ衆生にして命を奪はんと欲し、何等の物を用てか命を奪はん。乃至邪見も亦是の如しと。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如きの方便力もて衆生を成就し、是の菩薩摩訶薩は即ち衆生の爲に布施持戒の果報を說く、是の布施持戒の果報の自性空なり、布施持戒の果報の自性空なることを知り已つて、是の中に著せず、著せざるが故に、心散らずして能く智慧を生ず、是の智慧を以て一切結使の煩惱を斷じて無餘涅槃に入る、是れ世俗の法にして、第一實義に非ず。何を以ての故に。空中に滅すること有る無く、亦滅せしむるものも無ければ、諸法は畢竟じて空なり、即ち是れ涅槃たればなり。

【八】三に忍辱空を明す。

(八)復次に須菩提、菩薩摩訶薩は衆生の瞋恚惱心を見て、敎へて言く、汝善男子、來りて忍辱を修行せよ、忍辱を作す人は當に忍辱を樂むべし、汝の瞋る所の者は自性空なり。汝來れ、善男子、是の如く思惟せよ、我れ何所の法中に於て瞋る、誰か瞋者爲る、瞋る所の者は誰か、是の法は皆空なり、是の性空なり、法として空ならざる無し、時に是の空は諸佛の作に非ず、辟支佛聲聞の作に非ず、菩薩摩訶薩の作に非ず、諸天鬼神、龍王、阿修羅、緊那羅、摩睺羅伽に非ず、四天王天に非ず、乃至他化自在天に非ず、梵衆天に非ず、乃至淨居天に非ず、無邊空處乃至非有想非無想處諸天の所作に非ずと。汝當に是の如く思惟すべし、誰を

か瞋り、誰か是れ瞋者なる。何等か是れ瞋事なる、(九)是の一切法は性空なり、性空法中に瞋る所有ること無しと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、是の因緣法を以て、衆生を性空に於て建立し、次第し漸漸に示教利喜して阿耨多羅三藐三菩提を得しむ。是れ世俗の法にして第一實義には非ず。何を以ての故に。是の性空の中に得者有ること無く、得法有ること無く、得處有ること無ければなり。須菩提、是を實際性空の法と名く　菩薩摩訶薩は衆生の爲の故に是の法を行じ、衆生も亦得べからず。何を以ての故に。一切の法は衆生の相を離るればなり。

(一〇)復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、方便力の故に、衆生の懈怠なるを見て、教へて身精進心精進ならしめて是の言を作す、諸の善男子、諸法性空の中に懈怠の法無く、懈怠の者無く、懈怠の事無し。是の一切の法性皆空にして性空に過ぎたる無ければ、汝等身精進心精進を生じ、善法を生ずる爲の故に懈怠すること莫れ。(一一)善男子、若は布施、若は持戒、若は忍辱、若は精進、若は禪定、若は智慧、若は諸の禪定解脫三昧、若は四念處乃至八聖道分、若は空解脫門無相無作解脫門乃至十八不共法中に懈怠すること莫れ。諸の善男子、是の一切法性空の中に當に相を礙ふる無きを知るべし。無礙法の中には懈怠者無く、懈怠法無し。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、衆生を教へて性空に住し、二法に墮せざらしむ。何を以ての故に。是の性空の中、二

【九】是の一切法等の文大論に依る、諸本は是一切法相空性空法、無有所瞋に作る。
【一〇】四に精進空を明す。
【一一】善男子。諸本善法者に作る、今大論に依る。

無く別無きが故に。是れ無二法なれば則ち著すべき處無し。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は性空般若波羅蜜を行ずる時、衆生を教へて精進せしめ、是の言を作す、諸の善男子、勤めて精進せよ、若は布施、若は持戒、若は忍辱、若は精進、若は禪定、若は智慧、若は禪定解脱三昧、若は四念處乃至八聖道分、若は空解脱門無相無作解脱門、若は佛の十力、若は四無礙智、若は十八不共法、若は大慈大悲と。是の諸法において、汝等二相を念ずると莫れ、不二相を念ずると莫れ。何を以ての故に。是の法性皆空なり、是の性空法は二相の念を用ふべからず、不二相の念を用ふべからざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に衆生を成就し、衆生を成就し已て次第に教へて須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道を得しめ菩薩位に入りて阿耨多羅三藐三菩提を得しむ。

【三】五に禪定空を明す。

【三】復次に須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時衆生の亂心せるを見て、方便力を以て衆生を利益せんが爲の故に是の言を作す、諸の善男子當に禪定を修すべし、汝亂想を生ずると莫く當に一心を生ずべし、何を以ての故に、是の法性皆空なり、性空の中に法の若は亂若は一心として得べきもの有ると無ければなりと。汝等是の三昧に住して有らゆる作業、若は身、若は口、若は意に、若は布施し、若は持戒し、若は忍辱を行じ、若は勤めて精進し、若は禪定を行じ、若は智慧を修し、若は四念處を行じ、乃至若は八聖道分を行じ、若は諸解脱次第定を行じ、若は佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好を行じ、若は聲聞道若は辟支佛道、若は菩薩道、若

は佛道、若は須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道、若は一切種智、若は成就衆生、若は淨佛國土、汝等皆當に所願に隨つて得べし、性空に住するが故に。是の如く須菩提、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、方便力もて衆生を利益せんが爲の故に、初發意より終に懈廢せず、常に善法を求めて衆生を利益し、一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養し、諸佛に從つて法を聞き、捨身し受身し、乃至阿耨多羅三藐三菩提まで終に忘失せざれば、是の菩薩は常に諸の陀羅尼を得て諸根具足す、謂ゆる身根語根意根なり。何を以ての故に。是の菩薩摩訶薩は常に一切種智を修し、一切種智を修するが故に一切の諸道皆修す、若は聲聞道、若は辟支佛道、若は菩薩道、若は菩薩の神通道なり。神通道を行じて菩薩は常に衆生を利益し、終に忘失せず、是の菩薩は報得神通に住して衆生を利益し、生死五道に入るも終に耗減せざればなり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて性空に住し、禪定を以て衆生を利益す。〔三〕復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて性空に住し、方便力を以ての故に衆生を利益して是の言を作す、汝等諸の善男子、一切法の性空を觀せよ、善男子、汝等當に諸業の、若は身業、若は口業、若は意業を作して甘露味に趣き、甘露果を得べし、性空の中には法として退する有ること無し、何を以ての故に、性空は退せず、亦退する者無ければなり、性空は法に非ず、亦非法にも非ざるを以て無所有法の中に於て云何が當に退すること有るべけんと。須菩提、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、是の如く衆生を敎へて

【三】 六に般若空を明す。

常に懈廢せざらしむ。是の菩薩は自ら十善を行じ、亦他人をも敎へて十善を行ぜしむ、五戒八戒成就齋も亦是の如くす。自ら初禪を行じ、亦他人をも敎へて初禪を行ぜしむ、乃至第四禪も亦是の如くす。常に自ら慈心を行じ、亦他人をも敎へて慈心を行ぜしむ、乃至捨心も亦是の如くす。自ら無邊空處を行じ、亦他人をも敎へて無邊空處を行ぜしむ、乃至非有想非無想處も亦是の如くす。自ら四念處を行じ、亦他人をも敎へて四念處を行ぜしむ、乃至八聖道分、佛の十力乃至八十隨形好も亦是の如くす。自ら須陀洹果の中に於て智慧を生ずるも亦是の中に住せず、亦他人をも敎へて須陀洹果を得しむ、乃至阿羅漢も亦是の如くす。自ら辟支佛道の中に於て智慧を生ずるも亦是の中に住せず、亦他人をも敎へて辟支佛道を得しむ。自ら阿耨多羅三藐三菩提道に至り、亦他人をも敎へて阿耨多羅三藐三菩提道に至らしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力の故に終に懈廢せざるなり。』

【四】須菩提佛に白して言さく、「世尊、若し諸法の性常に空なれば、常空中に衆生得べからず、法非法も亦得べからざるなり。菩薩は云何が一切種智を求むるや。」佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、諸法の性皆空なれば、空中に衆生得べからず、法非法も亦得べからざるなり。須菩提、若し一切法の性空ならずば、菩薩摩訶薩は性空に依りて阿耨多羅三藐三菩提を成じ、衆生の爲に性空の法を說かざらん。須菩提、色の性空、受想行識の性空なれば、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、五陰性空の法を說き十二入十

【四】性空不可得にして衆生を成就するを說く。

八界性空の法を說き、四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分の性空の法を說き、三解脫門八背捨九次第定、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好性空の法を說き、須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道、一切種智斷煩惱習性空の法を說く。須菩提、若し內空の性空ならず、外空乃至無法有法空の性空ならずば、則ち空性を壞す。是の性空なれば不常不斷なり。何を以ての故に、是の性空なれば住處無く、亦從て來る所無く、亦從て去る所も無ければなり。須菩提、是を法の住相と名く。是の中に法無く、聚無く散無く、增無く減無く、生無く滅無く、垢無く淨無し、是を諸法の相と爲す。菩薩摩訶薩は是の中に住して阿耨多羅三藐三菩提心を發し、法として發す所有るを見ず、無發無住なり、是を法の住相と名く。是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、一切法の性空なるを見、阿耨多羅三藐三菩提を轉ぜず。何を以ての故に。是の菩薩は法の能く障礙するもの有ることを見ず、當に何處にか疑を生ずべけん、是を阿耨多羅三藐三菩提と名く。性空なれば衆生を得ず、我を得ず、人を得ず、壽を得ず、命を得ず、乃至知者見者を得ざるなり。性空の中に色得べからず、受想行識得べからず、乃至八十隨形好得べからざるなり。須菩提、譬へば佛の四衆・比丘比丘尼、優婆塞優婆夷を化作して、常に是の諸衆の爲に法を說きて千萬億劫斷せざるが如し。』

佛須菩提に告げたまはく、『是の諸の化衆は當に須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得・阿耨多羅三藐三菩提の記を得べきや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊。何を以ての故に。是の諸の化衆

は根本實事有ること無きが故に、一切諸法性空にして、亦根本實事無ければ、何等か是の衆生、須陀洹果乃至阿羅漢果を得、阿耨多羅三藐三菩提の記を得ん。』『須菩提、菩薩摩訶薩も亦是の如し、衆生の爲に性空の法を説くも、是の衆生實に得べからず。衆生の顚倒に墮するを以ての故に、衆生を拔て不顚倒に住せしむ。顚倒は卽ち是れ無顚倒なり、顚倒不顚倒一相なりと雖も、而も多く顚倒し、少く顚倒せず、無顚倒處の中には卽ち我無く衆生無く、乃至知者見者無し　無顚倒處の中には亦色無く受想行識無く、十二入無く、乃至阿耨多羅三藐三菩提も無し、是を諸法の性空と名く。菩薩摩訶薩は是の中に住して般若波羅蜜を行ずる時、衆生の相顚倒中に於て衆生を拔出す、謂ゆる無衆生を有衆生相中より拔出し、乃至智者見者相中より拔出す。無色色相中、無受想行識、受想行識相中に於て衆生を拔出す。十二入十八界乃至一切の有漏法も亦是の如し。須菩提、亦諸の無漏法、謂ゆる四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分有り、是の如き等の法、無漏法なりと雖も亦第一義相に如かず。第一義相とは無作無爲無生無相無說なり、是を第一義と名け、亦性空と名け、亦諸佛の道とも名く。是の中に衆生を得ず、乃至知者見者を得ず、色受想行識を得ず、乃至八十隨形好を得ず。何を以ての故に。菩薩摩訶薩は道法の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求むるに非ず、諸法實相性空の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求む。是の性空の前際も亦是れ性空なり、後際も亦是れ性空なり、中際も亦是れ性空なり、常に性空にして性空ならざる時無ければなり　菩薩摩訶薩は是の性空般若波羅蜜を行じて、衆生

の衆生相に著するを拔出せんと欲するが爲の故に道種智を求む。道種智を求むる時は、徧く一切道、若は聲聞道、若は辟支佛道、若は菩薩道を行ず。是の菩薩は一切道を具足し、衆生を邪想著より拔出し、佛國土を淨め已りて其の壽命に隨て阿耨多羅三藐三菩提を得。須菩提、過去十方の諸佛の道は謂ゆる性空なり、未來現在十方の諸物の道も謂ゆる性空なり、性空を離れては世間に道無く道果無し、要ず親近の諸佛に從て是の諸法の性空なるを聞き、是の法を行じて薩婆若を失せざれ。』

（一五）須菩提佛に白して言さく、『世尊、甚だ希有なり、諸の菩薩摩訶薩有て是の性空の法を行ずるも、亦性空の相を壞せず、謂ゆる色と性空と異り、受想行識と性空と異り、乃至阿耨多羅三藐三菩提と性空と異るとは。』『須菩提、色は卽ち是れ性空なり、性空は卽ち是れ色なり、乃至阿耨多羅三藐三菩提は卽ち是れ性空なり、性空は卽ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なり。』佛須菩提に告げたまはく、『若し色と性空と異り、若し受想行識と性空と異り、乃至阿耨多羅三藐三菩提と性空と異らば、菩薩摩訶薩は一切種智を得ること能はず。須菩提、今色は性空に異らず、乃至阿耨多羅三藐三菩提は性空に異らず。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は一切法の性空なることを知り、發意して阿耨多羅三藐三菩提を求む。何を以ての故に。是の中に法の若は實、若は常なる有ること無ければなり。但だ凡夫は色受想行識に著し、凡夫は色相を取り、受想行識相を取り、我心有て内外の法に著するが故に、後身の色受想行識を受く　是の因緣を以ての故に、生老病死の愁

【一五】性空に住して諸法を壞せざるを明す。

憂苦惱を脱することを得ずして五道に往來す。是事を以ての故に、菩薩摩訶薩は性空波羅蜜を行じて色等の諸法相を壞せず、若は空若は不空なりとせんや。何を以ての故に。是の色性空相は色を壞せず、謂る是の色是れ空なり。是の受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提も亦是の如くなればなり。譬へば虚空の虚空を壞せず、內虚空の外虚空を壞せず、外虚空の內虚空を壞せざるが如し。是の如く、須菩提、色は色の空相を壞せず、色の空相は色を壞せざるなり。何を以ての故に。是の二法は性有ること無ければ能く壞する所有らんや、謂る是れ空なり、是れ非空なりと。乃至阿耨多羅三藐三菩提も亦是の如し。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切の法空にして分別する無ければ、云何が菩薩摩訶薩は初發意より已來是の願を作す、我當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと。世尊、若し一切の法分別する無ければ、云何が菩薩は發心して我當に阿耨多羅三藐三菩提を得べしと言ふや。世尊、若し諸法を分別せば、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はざらん。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、若し菩薩摩訶薩、二相を行ずれば阿耨多羅三藐三菩提無し。若し分別して二分と作せば阿耨多羅三藐三菩提無し。若し諸法を二とせず分別せざれば則ち是れ阿耨多羅三藐三菩提なり。菩提は是れ不二相不壞相なり。須菩提、是の菩提は色の中に行せず、受想行識の中に行せず、乃至菩提は亦菩提の中にも行せざるなり。何を以ての故に。色は卽ち是れ菩提なり、菩提は卽ち是れ色にして二ならず、分別すべからざればなり、乃至十八不共法も亦是の如し。是れ菩提は非取の故に行じ、非捨の故に行ず。』須菩提佛に白して言

さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、菩提を非取の故に行じ、非捨の故に行ぜば、菩薩摩訶薩は菩提を何處に行ずるや。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、佛の所化人の如き何處に在て行ず、若は取中に行じ、若は捨中に行ずるや。』須菩提言さく『世尊、非取中に行じ、非捨中に行ずるなり。』佛言はく『菩薩摩訶薩の菩提も亦是の如く、非取中に行じ、非捨中に行ず。須菩提、汝の意に於て云何、阿羅漢の夢中の菩提、何處にか行ず、若は取中に行じ、若は捨中に行ずるや不や。』『不とよ、世尊、非取中に行じ、非捨中に行ずるなり。何を以ての故に。阿羅漢は畢竟不眠なり、云何が夢中に菩提を若は取中に行じ、若は捨中に行ぜんや。』『須菩提、菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提も亦是の如く、非取中に行じ、非捨中に行ず。謂ゆる色の中に行じ、乃至一切種智の中に行ずるなり。』『世尊、將に菩薩摩訶薩は十地を行ぜず、六波羅蜜を行ぜず、三十七助道法を行ぜず、十四空を行ぜず、諸禪定解脱三昧を行ぜず、佛の十力乃至八十隨形好を行ぜずんば、五神通に住し、佛國土を淨め、衆生を成就し、阿耨多羅三藐三菩提を得ること無けん。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、今菩薩たとひ菩提處行無しと雖も、若し十地六波羅蜜四禪四無量心、四無色定四念處乃至八聖道分、空無相無作解脱、佛の十力乃至八十隨形好を具足せず、常捨行、不誑法、不錯謬法是の諸の法を具足せざれば、終に阿耨多羅三藐三菩提を得ず。是の菩薩摩訶薩は色相中に住し、受想行識相中に住し、乃至阿耨多羅三藐三菩提相中に住して、能く十地を具足し、乃至阿耨多羅三藐三菩

提を得。是の相、常に寂滅し、法として能く增じ、能く減じ、能く生じ、能く滅し、能く垢れ、能く淨め、能く得道し、能く得果すること有ること無し。世諦の法なるが故に、菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る、第一實義に非ず。何を以ての故に。第一義中に色有ること無く、乃至阿耨多羅三藐三菩提無く、亦阿耨多羅三藐三菩提を行ずる者も無ければなり。是の一切の法は皆世諦なるを以ての故に、第一義には非ずと説く。須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來、阿耨多羅三藐三菩提を行ずるも、菩提も亦增せず、衆生も亦減せず、菩薩も亦增減無し。須菩提、汝の意に於て云何、若し人初めて得道する時、無間三昧に住し、無漏根成就し、若は須陀洹果、若は斯陀含果、若は阿那含果、若は阿羅漢果を得れば、汝爾の時に若は夢、若は心、若は道、若は道果を所得する有りや不や。』須菩提言さく、『世尊、得ざるなり。』佛、須菩提に告げたまはく、『云何が當に阿羅漢道を得たる者と知るべきや。』『世尊、世諦の法なるが故に分別して阿羅漢道と名く。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、世諦の故に説きて菩薩と名け、説きて色受想行識乃至一切種智と名く。是の菩提の中、法の若は增、若は減なりとして得べき無し、諸法の性空なるを以ての故に。諸法性空尚ほ得べからず、何に況んや初發心乃至十地心、六波羅蜜、三十七助道法、空三昧無相無作三昧乃至一切の佛法を得んや。當に所得有らば、是の處有ること無かるべし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を行じ、阿耨多羅三藐三菩提の法を得て、衆生を利益す。』

(一)具足品第八十一

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩薩摩訶薩、六波羅蜜十八空三十七助道法、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を行じて、菩薩道を具足せず、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はずんば、世尊、菩薩摩訶薩は當に云何が菩薩道を具足し、能く阿耨多羅三藐三菩提を得べきや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずる時、(三)方便力を以ての故に、檀那波羅蜜を行ずるに施を得ず、施者を得ず、受者を得ず、亦是の法をも遠離せず、檀那波羅蜜を行ずるは、是れ則ち菩薩道を(四)照明するなり。是の如く須菩提、菩薩は方便力を以ての故に菩薩道を具足す、具足し已りて能く阿耨多羅三藐三菩提を得、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧、乃至十八不共法も亦是の如し。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を(五)習するや』佛舍利弗に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行ずるに、方便力を以ての故に、(六)色を壞せず、(七)色に隨はず。何を以ての故に。是の色(八)性無きが故に、壞せず、

【一】品目、丹本大論照明品、他に成就辨生品に作る。この品菩薩道を具足する義を明す。大論第九十一。

【二】云何に菩薩道を具足するに依りて成佛すべきかを説く。

【三】方便力。施の施法施者受者三事の定相を得ず、又三事を離れざる類なり、これなくば斷常二邊に陷る。

【四】照明。具足と同義なり。

【五】習するや。般若利益あるも定性なくば習行し難かるべしと疑ふなり。

【六】色を壞せず。色無常空無なりとせざるなり。

【七】色に隨はず。眼見の如く取著せず、世性、極微、自在

隨はず。乃至受想行識も亦是の如し。舍利弗、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずるに、方便力を以ての故に、檀那波羅蜜を壞せず、隨はず。何を以ての故に。檀那波羅蜜の〔八〕性無きが故に。乃至十八不共法も亦是の如し。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、若し諸法、自性の壞すべく隨ふべき者無くんば、云何が菩薩摩訶薩は能く般若波羅蜜、諸の菩薩摩訶薩の所學の處を習するや。何を以ての故に。若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を學せざれば、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はざればなり。』佛舍利弗に告げたまはく、『汝の言ふ所の如く、菩薩は般若波羅蜜を學せざれば、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。方便力を離れざるが故に得べし。舍利弗、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じ、若し一法性の得べき有らば、當に取るべし。若し得べからざれば、何の取る所ありて、謂ゆる此は是れ般若波羅蜜なり、是れ禪那波羅蜜なり、是れ毗梨耶波羅蜜なり、是れ羼提波羅蜜、尸羅波羅蜜、檀那波羅蜜なり、是れ色受想行識なり、乃至是れ阿耨多羅三藐三菩提なりとせんや。舍利弗、是の般若波羅蜜は相を取るべからず、乃至一切諸佛の法は相を取るべからず。舍利弗、是を不取般若波羅蜜乃至佛法と名く、是れ菩薩摩訶薩の學すべき所にして菩薩摩訶薩は是の中に於て學する時、〔九〕學する相も亦得べからず、何に況んや般若波羅蜜、佛法、菩薩法、辟支佛法、聲聞法、凡夫人法をや。何を以ての故に。舍利弗、諸法は一法として性有ること無

天、時、自然等より生ずとせず。

【八】性無きが故に。四大和合假りに色とし、定一實法の色なるものなし。

【九】學する相。般若の無取なりとする所を云ふ。

ければなり。是の如きの無性の諸法、何等をか是れ凡夫人、須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢、辟支佛、菩薩、佛とせんや。若し是の諸の賢聖無くんば、云何が法有らん。是の法を知るが故に、分別して是れ凡夫人なり、須陀洹なり、斯陀含なり、阿那含なり、阿羅漢なり、辟支佛なり、菩薩なり、佛なりと說く。』

〔一〇〕舍利弗佛に白して言さく、『世尊、若し諸法性無く實無く根本無ければ、云何が是れ凡夫人なり、乃至是れ佛なりと知らん。』佛舍利弗に告げたまはく、『凡夫人所著の處、色性有り、實有りや不や。』『不とよ、世尊、但だ顚倒心を以ての故に。受想行識乃至十八不共法も亦是の如し。』『舍利弗、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に、諸法の性無く根本無きことを見るが故に、能く阿耨多羅三藐三菩提心を發す。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に、諸法の性無く根本無きことを見るが故に、阿耨多羅三藐三菩提心を發すや。』佛舍利弗に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、〔一一〕諸法の根本あるを見、中に住して退沒し、懈怠の心を生ぜず。舍利弗、諸法の根本は、實に我無く所有無く性常に空なり。但だ顚倒愚癡の故に、衆生は陰入界に著す。是の菩薩摩訶薩は、諸法の所有無く性常に空にして自相空なることを

〔一〇〕諸法實性なくして凡聖あるは無性に相應すると否とに由るも、實は人法倶に空なる空に同じきことを明す。

〔一一〕諸法の根本あるを見ざるが故に住せず退せず怠らず。

〔一二〕種種神變度生すること幻師所作の如くにして憎愛なく等心を以て說法するを云ふ。

見る時、般若波羅蜜を行じ・〔三〕自ら立て幻師の如く、衆生の爲に說法す。慳者には爲に布施の法を說き、破戒者には爲に持戒の法を說き、瞋る者には爲に忍辱の法を說き、懈怠の者には爲に精進の法を說き、亂者には爲に禪定の法を說き、愚癡の者には爲に智慧の法を說き、衆生をして布施乃至智慧に住せしめ、然して後に爲に〔三〕聖法を說き、能く苦を出す。是の法を以ての故に、須陀洹果を得、乃至阿羅漢果辟支佛道、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得。』舍利弗佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は是の衆生の無所有を得て、敎へて布施持戒乃至智慧あらしめ、然して後爲に聖法を說き、能く苦を出す。是の法を以ての故に、須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提を得。』佛舍利弗に告げたまはく、『菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、有所得の過罪有ること無し。何を以ての故に。舍利弗、是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時に、衆生を得ず、但だ空法相續の故に衆生と爲すのみなればなり。舍利弗、菩薩摩訶薩は〔四〕二諦の中に住して、衆生の爲に世諦と第一義諦とを說法す。舍利弗、二諦の中に衆生得べからずと雖も、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずるに方便力を以ての故に、衆生の爲に說法し、衆生是の法を聞く。今世に吾我尙は得べからず、何に況んや當に阿耨多羅三藐三菩提者及び所用の法を得べけんや。是の如く舍利弗、菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以ての故に、衆生の爲に說法す。』舍利弗佛に白して言

〔三〕聖法。聖人所行の法なり、前述の六法を以て人より天に進むも、更に波羅蜜となり出世の勝果を得るを云ふ。
〔四〕二諦の中。但有但空ならざるを云ふ。
〔五〕心曠大。無依無所得なるを云ふ。

さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩の（一五）心曠大にして、法の若は一相、若は異相、若は別相として得べきもの有ること無し、而も能く是の如く大莊嚴す。是の莊嚴を用ての故に欲界に生ぜず、色界に生ぜず、無色界に生ぜず、有爲性を見ず、無爲性を見ず、而も三界の中に於て衆生を度脱するも、亦衆生を得ず。何を以ての故に。衆生は不縛不解なればなり。衆生不縛不解なるが故に、垢無く淨無し、垢無く淨無きが故に（一六）五道を分別する無し、五道の分別する無きが故に業無く煩惱無し、業無く煩惱無きが故に亦果報も有るべからず、是の果報を以ての故に三界の中に生ずるなり。』佛舍利弗に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、若し衆生（一七）先有後無なれば、諸佛菩薩は則ち過罪有り。諸法五道生死も亦是の如し。若し先有後無なれば、諸佛菩薩は則ち過罪有り。舍利弗、今（一八）有佛にも無佛にも諸法の相は常住にして異らず、是の法相の中、尙ほ我無く衆生無く壽命無く乃至知者無く見者無し、何に況んや當に色受想行識有るべけんや。若し是の法無ければ、云何が當に五道を往來して衆生を拔出する處有るべけんや。舍利弗、是の諸法の性は常に空なり。是を以ての故に、諸の菩薩摩訶薩は過去の佛に從て是の法相を聞き、阿耨多羅三藐三菩提の意を發す。是の中に法の我として當に得べき有ること無く、亦衆生の定んで著する處の法有ること無く、出すべからず、但だ衆生の顚倒を以ての故

【一六】生空なれば惑業苦の業道も空なるを明す。

【一七】先有後無等。先きに迷へる間は有なるも佛教により悟るを以て無となるとせば尙正しからず。

【一八】有佛等。覺者の敎有ると無きとによりて法相有無の別あるにあらず。

に著するのみ。是を以ての故に菩薩摩訶薩は大莊嚴を發し、常に阿耨多羅三藐三菩提を退せざるなり。是の菩薩は、我れ當に阿耨多羅三藐三菩提を得ざるべきや、我れ必ず當に阿耨多羅三藐三菩提を得べきやを疑はず、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、實法を用て衆生を利益し、顚倒を出でしむ。舍利弗、譬へば幻師の百千萬億人を幻作して種種の飮食を與へ、飽滿し歡喜し、唱へて我れ大福を得たり、我れ大福を得たりと言はしむる如し。汝の意に於て云何、是の中に人有り、食飮飽滿するや不や。』『不とよ、世尊。』佛言はく、『是の如く、舍利弗、菩薩摩訶薩は、初發意より已來、六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分、十四空三解脫門八背捨九次第定、佛の十力乃至十八不共法を行じ、菩薩道を具足し、衆生を成就して佛國土を淨むるも、衆生の法として度すべき無し。』

〔一九〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ菩薩摩訶薩の道とし、菩薩は是の道を行じて、能く衆生を成就し、佛國土を淨むるや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は、初發意より已來、檀那波羅蜜を行じ、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜を行じ、乃至十八不共法を行じて、衆生を成就し、佛國土を淨む。』〔二〇〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行じ、衆生を成就するや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩有りて檀那波羅蜜を行ずる時、自ら布施し、亦衆生を教へて布施せしめて、是の言を作す、

【一九】須菩提の問に依り行菩薩道の相を示す。
【二〇】菩薩行の第一に無所得の布施を明す。

諸の善男子、汝等布施に著すること莫れ、汝布施に著するが故に當に更に身を受くべし、更に身を受くるが故に多く衆の苦を受くるなり。諸の善男子、諸法相の中に施す所無く、施者無く、受者無し、是の三法は皆性空なり、是の性空の法は取るべからず、取るべからざるの相は是れ性空なりと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時、衆生に布施するも、是の中に布施を得ず、施者を得ず、受者を得ず。何を以ての故に。無所得の波羅蜜、是を名けて檀那波羅蜜と爲せばなり。是の菩薩は是の三法を得ざるが故に能く衆生を教へて須陀洹果を得しめ、乃至阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提を得しむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時に衆生を成就す。是の菩薩自ら布施を行じ、亦他人を教へて布施を行ぜしめ、布施の法を讃歎し、布施を行ずる者を歡喜し讃歎す。是の菩薩は是の如く布施し已りて、刹利大姓、婆羅門大姓、居士大家に生じ、若は小王、若は轉輪聖王と作る。是の時に〔三〕四事を以て衆生を攝取す。何等をか四となす、布施と愛語と利行と同事となり。是の四事もて衆生を攝取し已りて、衆生漸漸に戒四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分、空無相無作三昧に住し、正位の中に入ることを得、須陀洹果を得、乃至阿羅漢果を得、若は辟支佛道を得、若は教へて阿耨多羅三藐三菩提を得しめて、是の言を作す、諸の善男子、汝等當に阿耨多羅三藐三菩提心を發すべし、是の阿耨多羅三藐三菩提は得易きのみ、何を以ての故に、定法として衆生所著の處有ること無く、但だ顚倒の故に衆生著するのみなればなり。是の故に汝

【三】四事。前第七十八の四攝品に廣說す、參照せよ。

等自ら生死を離れ、亦當に他を教へて生死を離れしむべし。汝等當に發心して能く自ら利益し、亦當に他人をも利益すべしと。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く檀那波羅蜜を行ずべし。是の檀那波羅蜜を行ずる因緣の故に、初發意より已來、終に惡道に墮せず、常に轉輪聖王と作る。何を以ての故に。其の種うる所に隨て大果報を得ればなり。是の菩薩、轉輪聖王と作る時、乞ふ者有るを見て是の念を作さく、我れ餘事の爲の故に轉輪聖王の果を受けず、但一切の衆生を利益せんが爲の故のみと。是の時に是の言を作す、此は是れ汝の物なり、汝自ら之を取れ、難ずる所有ること莫かれ。我れ惜む所無し、我　衆生の爲の故に生死を受く、汝等を憐愍するが故に大悲を具足すと　是の大悲を行じて衆生を饒益するも、亦實に定んで衆生相を得ず、但だ假名有るが故に是の衆生を說くべきも、是の名字も亦空にして響聲の如く實に相を說くべからず。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く檀那波羅蜜を行じ、衆生の中に於て惜む所無く、乃至自身の肌肉をも惜まず、何に況んや外物をや。是の法を以ての故に能く衆生をして生死を出しむ。何等をか是の法となす。謂る檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜、乃至十八不共法もて衆生をして生死の中より脫することを得しむるなり。

(三)復次に須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜の中に住し、布施し已りて是の言を作す、諸の善男子、汝等來りて持戒すべし、我れ當に汝等に供給して乏短する所無からしむべし。衣服臥具乃至資生に須ふる所　盡く當に汝に給すべし、汝等乏少の

【三】二に無所得の布施中に他の五法を行ずるを明す。

故に戒を破る、我れ當に汝の須ふる所を給し、若は飲食乃至七寶を乏ずる所無からしむべし。汝等是の戒律儀の中に住し、漸漸に當に苦を盡すことを得、三乘に乘じて而して度脱することを得べし、若は聲聞乘、若は辟支佛乘、若は佛乘なり。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜の中に住し、若し衆生の瞋惱するを見ば、是の言を作す、諸の善男子、汝等何の因緣を以ての故に瞋惱する。我れ當に汝の所須を與ふべし、汝等の欲する所、我れより之を取れ、悉く當に給し、汝をして若は飲食衣服乃至資生に須ふる所を乏ずる所無からしむべしと。是の菩薩は檀那波羅蜜の中に住し、衆生を敎へて忍辱せしめ、是の言を作す、一切の法の中に堅實なること有ること無し、汝等の瞋る所、是の因緣空にして、堅實なる無く、皆虛妄憶想より生ず。汝等根本有ること無きを以て瞋恚し壞心し、惡口罵詈し、刀杖もて相加へて以て命を害ふに至る。汝等是の虛妄の法を以て瞋を起すが故に、地獄畜生餓鬼の中及び餘の惡道に墮し、無量の苦を受くること莫れ。汝等是の虛妄無實の諸法たるを以ての故に而も罪業を作ること莫れ。是の罪業を以ての故に、尚ほ人身すら得ず、何に況んや佛世に生ずることを得んや。諸人佛世に値ひ難く人身は得難し、汝等好時を失すること莫れ、若し好時を失すれば、則ち救ふべからずと。是の菩薩摩訶薩は是の如く衆生を敎化して自ら忍辱を行じ、亦他人をも敎へて忍辱を行ぜしめ、忍辱の法を讚歎し、忍辱を行ずる者を歡喜し讚歎す。是の菩薩は衆生をして忍辱の中に住せしめ、漸く三乘を以て衆苦を盡すことを得しむ。是の如く菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜に住し、衆生をして

忍辱に住せしむ。須菩提、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜に住し、衆生をして精進ならしむるや。須菩提、菩薩は衆生の懈怠なるを見て是の如く言ふ、汝等何を以て懈怠するや。衆生言く、因縁少きが故にと。是の菩薩、檀那波羅蜜を行ずる時に、諸人に語りて言く、我れ當に汝の因縁をして具足せしむべし、若は布施、若は持戒、若は忍辱、是の如き等の因縁の故に汝をして具足せしむと。是の衆生は菩薩の利益因縁を得るが故に、身精進し、口精進し、心精進す　身精進口精進心精進するが故に一切の善法具足し聖無漏法を修す、聖無漏法を修するが故に當に須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道を得、若は阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時精進波羅蜜に住して、衆生を攝取す。須菩提、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時に、衆生を教化し、禪那波羅蜜を修せしむるや。」佛須菩提に告げて言はく、『菩薩、衆生の亂心するを見て是の言を作す、汝等禪定を修すべしと。衆生の言く、我等の因縁具足せざるが故にと。菩薩言く、我れ當に汝等の與めに因縁と作るべし、是の因縁を以ての故に、汝の心をして(三)覺觀に隨はざらしめ、心をして馳散せざらしめんと。衆生は是の因縁を以ての故に覺觀を斷じ、初禪二禪三禪四禪に入り、慈悲喜捨心を行ず。衆生是の禪無量心の因縁を以ての故に、能く四念處乃至八聖道分を修し、三十七助道法を修する時、漸く三乘に入りて而して涅槃を得、終に道を失はず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時に、禪那波羅蜜を以て衆生を攝取し、禪那

【三】覺觀。尋伺分別なり、思覺推理觀念なり。

波羅蜜を行ぜしむ。須菩提、何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行じ、般若波羅蜜を以て衆生を攝取するや。須菩提、菩薩は衆生の愚癡にして智慧有ること無きを見て是の言を作す、汝等何を以ての故に智慧を修せざるやと。衆生の言く、因緣未だ具足せざるが故にと。菩薩は檀那波羅蜜の中に住して是の言を作す、汝等の須ふる所の智慧を具足すること得んとせば、我れより之を取れ、謂ゆる布施持戒忍辱精進禪定。是の因緣具足し已りて、汝等是の如く思惟すべし、般若波羅蜜を思惟する時、法の得べきもの有りや不や、若は我、若は衆生、若は壽命乃至知者見者、得べきや不や。若は色受想行識、若は欲界色界無色界、若は六波羅蜜、若は三十七助道法、若は須陀洹果、若は斯陀含、若は阿那含阿羅漢果辟支佛道、若は阿耨多羅三藐三菩提、得べきや不やと、是の衆生是の如く思惟する時に般若波羅蜜の中に於て法の得べく著すべき處有ること無し。若し諸法に著せざれば、是の時、法の生有り滅有り、垢有り淨有るを見ず。是れ地獄なり、是れ畜生なり、是れ阿脩羅なり、是れ天なり、是れ人なり、是れ持戒なり、是れ破戒なり、是れ須陀洹なり、是れ斯陀含なり、是れ阿那含なり、是れ阿羅漢なり、是れ辟支佛なり、是れ佛なりと分別せず。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時に般若波羅蜜を以て衆生を攝取す。

（二四）須菩提、云何が菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜の中に住し、尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至三十七助道法を以て衆生

【二四】重ねて布施中、諸菩薩行によりて衆生を攝取することを明す。

を攝取するや。須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜の中に住し、供養の具を以て衆生を利益す、是の利益の因緣を以ての故に、衆生は能く四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分を修し、衆生は是の三十七助道法を行じ、生死の中に於て解脫することを得。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は無漏の聖法を以て衆生を攝取す。復次に須菩提。菩薩摩訶薩は衆生を教化する時に是の如く言ふ、諸の善男子、汝等我より須ふる所の物を取れ、若は飲食衣服臥具、香華乃至七寶等の種種資生に須ふる所の物、汝等是を以て衆生を攝取し、汝等長夜に利益し安樂にして、是の念を作すこと莫れ、是の物は我が所有に非ず、我れ長夜に衆生の爲の故に此の諸の物を集む、汝等當に是の物を己の物と異ること無きが如く取り、衆生を教化して布施持戒忍辱精進禪定智慧を行ぜしめ、乃至三十七助道法、佛の十力乃至十八不共法を得しめ、亦諸の無漏法、謂ゆる須陀洹乃至阿羅漢果、辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提を得しむべしと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は檀那波羅蜜を行ずる時、應に是の如く衆生を教化して三惡道及び一切生死往來の苦を離るることを得しむべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して衆生を教化し、是の言を作す、衆生汝等何の因緣を少くの故に破戒するや、我れ當に汝のために因緣、若は布施乃至智慧及び種種資生に須ふる所を具足することを作すべしと。是の菩薩摩訶薩は尸羅波羅蜜に住して衆生を利益し、十善道を行じ十不善道を遠離せしむ。是の諸の衆生は諸の戒を持して、破戒せず、缺戒せず、濁戒せず、(三五)雜戒せず、

【三五】雜戒。世間外道の戒行を混ず。

(三六)取戒せず、漸く三乘を以て而して苦を盡すことを得。尸羅波羅蜜を首と爲し、檀那波羅蜜に說くが如く、餘の四波羅蜜も亦た是の如し。』

【三六】取戒。戒禁取にして持戒取著の見をなす。

卷の第二十六

(一)淨佛國品第八十二

(二)爾の時、須菩提是の念を作す、「何等をか是れ菩薩摩訶薩の道とし、菩薩は是の道に住して能く是の如きの大誓莊嚴を作す」と。佛須菩提の心に念ずる所を知り、須菩提に告げたまはく、『(三)六波羅蜜は是れ菩薩摩訶薩の道、三十七助道法は是れ菩薩摩訶薩の道、十八空は是れ菩薩摩訶薩の道、八背捨九次第定は是れ菩薩摩訶薩の道、佛の十力乃至十八不共法は是れ菩薩摩訶薩の道なり、一切の法も亦是れ菩薩摩訶薩の道なり。須菩提、汝の意に於て云何、頗し法として菩薩の學せざる所有らば、能く阿耨多羅三藐三菩提を得るや不や。須菩提、法として菩薩の學すべからざる所の者有ること無し。何を以ての故に。若し菩薩、一切の法を學せざれば、一切種智を得ること能はざればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切の法空なれば、云何が菩薩は一切の法を學すと言ふや。(四)將た世尊無戲論中

【一】品目。麗本宋本淨土品、大論淨佛國土品に作る、前品に續き菩薩道を行じ佛國土を淨むるを明す。大論第九十二。

【二】須菩提の所念に對し更に菩薩道を辨じて大誓莊嚴たることを明す。

【三】六波羅蜜、菩薩の初發心道にして衆生の爲にす。四禪八背捨九次第定三十七道品は求涅槃の菩薩道なり。十八空佛十力等は求佛の菩薩道にして二乘を出過す。

【四】將た等、法空にして法を分別し、法を學すとするの戲論に墮するなきかを問答す。

に戲論を作す無きや、謂ゆ（五）是れ此、是れ彼、是れ世間法、是れ出世間法、是れ有漏法、是れ無漏法、是れ有爲法、是れ無爲法、是れ凡夫人法、是れ阿羅漢法、是れ辟支佛法、是れ佛法なりと。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、一切の法は實に空なり。須菩提、若し一切の法（六）空ならざれば、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得ず。須菩提、今一切の法、實に空なるが故に、菩薩摩訶薩は能く阿耨多羅三藐三菩提を得。須菩提、汝の言ふ所の如く、（七）若し一切の法空なれば、將た佛無戲論中に於て戲論を作す無きや、此彼を分別して、是れ世間法、是れ出世間法、乃至是れ佛法なりとは、須菩提、若し世間の衆生、一切法の空なることを知らば、菩薩摩訶薩は一切の法を學ばずして一切種智を得ん。須菩提、今衆生は實に一切法の空なることを知らず。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、諸法を分別して衆生の爲に說く。須菩提、是の菩薩道に於て初より已來、應に是の如く思惟すべし、一切諸法の中に定性得べからず、但和合の因緣に從て法を起すが故に名字の諸法有るのみと。我れ當に思惟すべし、諸法の實性として著する所、若は六波羅蜜性、若は三十七助道法、若は須陀洹果乃至阿羅漢果、若は辟支佛道、若は阿耨多羅三藐三菩提無しと。何を以ての故に、一切の法、一切法性空なり、空は空に著せず、空

【五】是れ此、是れ彼。此彼は東西上下虛實の類なり。麗本には「是れ法是れ非法」に作る。

【六】空ならざれば等。不空にして實有ならば生滅なく四諦なく三寶なく成佛なし。

【七】略して前の問を牒擧し、衆生無知の爲に分別するを以て戲論ならざるを辨ず。

も亦得べからず、何に況んや空の中に著する有らん。須菩提、菩薩摩訶薩は是の如く思惟し、一切法に著せずして（八）一切法を學し、是の學中に住して衆生の心行を觀ず。是の衆生の心、何處に在りてか行ずる。衆生の虛妄不實の中に行ずるを知る。是の時菩薩は是の念を作す、是の衆生は不實虛妄法に著す、（九）度し易きのみと。是の時菩薩摩訶薩は般若波羅蜜の中に住し、方便力を以ての故に、是の如く衆生を敎化して言ふ、汝諸衆生、當に布施を行じ、饒財を得べくも、亦布施の果を恃みて、自ら（一〇）貢高する莫かるべし何を以ての故に。是の中に堅實の法無ければなり。持戒忍辱精進禪定智慧も亦是の如し。諸衆生、是の法を行じて、須陀洹果乃至阿羅漢果、辟支佛道佛道を得べくも、是の法有りと念ずることを莫るべしと。是の如く敎化し、菩薩道を行じて、而も所著無し。是の中に堅實有ること無きが故に、若し是の如く敎化せば、是を菩薩道を行ずと名く。諸法に於て所著無きが故に。何を以ての故に。一切の法所著相無ければなり。（一一）性無きを以ての故に、性空なるが故に。

（一二）須菩提、是の菩薩摩訶薩は是の如く菩薩道を行ずる時、住する所無し。是の菩薩は不住法を用ての故に、檀那波羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、尸羅波羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、羼提波

【八】一切法等。無分別中に諸法を分別して、衆生の妄分別して趣好志願するに應ずるなり。

【九】度し易きのみ。虛妄法に著するを以て虛妄なるを明せば足る。故にその易を喜ぶ。

【一〇】貢高。自高憍慢なるを云ふ。

【一一】性無等。所著相なき理由として性無性空を擧ぐ。

【一二】菩薩の行を明し、住の住するなきを明す、不住は取著なきなり。

羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、毘梨耶波羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、禪那波羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、般若波羅蜜を行ずるも亦是の中に住せず、初禪を行ずるも亦是の中に住せず。何を以ての故に。是の初禪の初禪相空、行禪者も亦空、所用の法も亦空なればなり。第二第三第四禪も亦是の如く、慈悲喜捨四無色定八背捨九次第定も亦是の如し。須陀洹果を得るも亦是の中に住せず、斯陀含果阿那含果阿羅漢果を得るも亦是の中に住せず、辟支佛道を得るも亦是の中に住せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何の因緣の故に是の中に住せざるや。』佛言はく、(三)『二の因緣の故に、是の中に住せず。何等をか二となす。一には諸道果の性空にして住處無く、所用の法も無く、住者も無きなり、二には少事を以て足れりと爲さずして是の念を作す、我れ須陀洹果を得ざるべからず、我れ必ず當に須陀洹果を得べきも、我れ但だ是の中に住すべからず、乃至辟支佛道、我れ得ざるべからず、我れ必ず當に辟支佛道を得べきも、但だ是の中に住すべからず、乃至阿耨多羅三藐三菩提を得るも住すべからず、何を以ての故に、我れ初發意より已來、更に餘心無く一心に阿耨多羅三藐三菩提に向へばなりと。須菩提、菩薩は一心に阿耨多羅三藐三菩提の中に向ひて餘心を遠離し、作す所の身口意業皆阿耨多羅三藐三菩提に應ず。須菩提、是の菩薩摩訶薩は、是の一心に住して、能く菩提道を生ず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切の諸法生ぜざれば、云何か菩薩摩訶薩は能く菩提道を生ずるや。』佛須菩提に告げた

【三】 二の因緣。深空觀により法性を見ざると、小事を以て足れりとせざるとなり。

まはく、『是の如し是の如し、一切の法生ずること無し。云何が生ずること無きや。(一四)所作無く所起無き者には一切の法生ぜざるなり。』須菩提佛に白して言さく、(一五)『世尊、有佛にも無佛にも、諸法の法相は常住ならずや。』佛言はく、『是の如し是の如し。有佛無佛、是の諸法の法相は常住なり。衆生は是の法の法相に住することを知らざるを以て、是の爲の故に、菩薩摩訶薩は衆生の爲の故に菩提道を生じて、是の道を用て衆生を生死より拔出す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、(一六)生道を用て菩提を得るや。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、(一七)不生道を用て菩提を得るや。』佛言はく、『不とよ。』『世尊、不生非不生道を用て菩提を得るや。』佛言はく、『不とよ。』須菩提言さく、『世尊、云何が當に菩提を得べきや。』佛言はく、(一八)『道を用て菩提を得るに非ず。亦非道を用て菩提を得るに非ず。須菩提、菩提は卽ち是れ道、道は卽ち是れ菩提なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し菩提卽ち是れ道、道卽ち是れ菩提なれば、(一九)若し爾れば、今菩薩未だ佛と作らざる時、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。云何が諸佛の多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀、三十二相八十種隨形好、十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲有りやと說く。』佛須菩提に告げたまはく、『汝

【一四】所作無く等。無作解脫を得三業を起さざる者の爲に一切法不生なりと說く。

【一五】無生は解脫人の爲に說くとするを以て、諸法實相無生なるに有佛無佛常住同一なるべきを問ふ。

【一六】生道。有爲法生滅相を觀じて實とするなり。

【一七】不生道。無爲無作を實とするなり。無爲ならば得不なく、實ありとせば取著なり。

【一八】道…菩提　一如にして諸法實相に名くるなり。

【一九】道卽菩提ならば菩薩と佛と異なく、菩薩も佛と云ふべく、佛も菩薩と云ふべしと難ずるなり。

の意に於て云何、佛は菩提を得るや不や。』『不とよ、世尊。』『佛は菩提を得ず。何を以ての故に。佛は卽ち是れ菩提、菩提は卽ち是れ佛なればなり。須菩提の問ふ所の如くんば、菩薩の時も、亦應に菩提を得べし。須菩提、是の菩薩摩訶薩は、六波羅蜜三十七助道法を具足し、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法を具足し、如金剛三昧を具足し、住し、一念相應の慧を用て阿耨多羅三藐三菩提を得。是の時に名けて〔二〇〕佛と爲し、一切法の中に於て自在を得。』

〔二一〕須菩提佛に白して言さく『世尊、云何が菩薩摩訶薩は佛國土を淨むるや。』佛言はく、〔二二〕『菩薩有りて初發意より已來、自ら身の麤業を除き、口の麤業を除き、意の麤業を除き、亦他人の身口意の麤業を淨む。』『世尊、何等をか是の菩薩摩訶薩の身麤業口麤業意麤業となす。』佛須菩提に告げたまはく、『不善業、若は殺生乃至邪見、是を菩薩摩訶薩の身口意の麤業と名く。復次に須菩提、慳貪心破戒心瞋心懈怠心亂心愚癡心、是を菩薩の意の麤業と名く。復次に戒の淨らかならざる、是を菩薩の身口の麤業と名く。復次に須菩提、若し菩薩、四念處行を遠離すれば、是を菩薩の麤業と名く。四正勤四如意足五根五力七覺八聖道分空三昧無相無作三昧を遠離するも、亦菩薩の麤業と名く。復次に須菩提、菩薩摩訶薩、須陀洹果を貪り乃至阿羅漢果を貪り、辟支佛道を證する、是を菩薩摩訶薩の麤業と名く。〔二三〕復

〔二〇〕佛と爲す。三十二相身諸功德心を以て佛と名けず、菩提を得るを佛と名く、故に菩薩と佛と雜亂せず。

〔二一〕淨佛國土を明す。一佛國土は無量無邊の三千大千世界なり。

〔二二〕菩薩の除くべき麁惡業を明す。

〔二三〕以下大論第九十三卷。

次に須菩提、菩薩の【二四】色相受想行識相、眼相耳鼻舌身意相、色聲香味觸法相、男相女相、欲界相色界相無色界相、善法相不善法相、有爲法相無爲法相、是を菩薩の麤業と名く。【二五】菩薩摩訶薩は皆是の如きの麤業相を遠離し、自ら布施し、亦他人を教へて布施せしめ、食を須つには食を與へ、衣を須つには衣を與へ、乃至種種資生に須つ所盡く之を給與し、亦他人を教へて種種布施せしめ、是の福德を持て一切衆生と之を共にし、淨佛國土に廻向するが故に、持戒忍辱精進禪定智慧も亦是の如くす。是の菩薩摩訶薩は、或は三千大千國土の中に滿つる珍寶を以て【二六】三尊に施與し、是の願を作して言く、我れ善根の因緣を以ての故に我が國土をして皆七寶を以て成せしめんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩天の妓樂を以て佛及び塔に樂しめ、是の願を作して言く、是の善根の因緣を以ての故に、我が國土中に常に天樂を聞かしめんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は三千大千國土の中に滿つる天香を以て、諸佛及び諸佛の塔を供養し、是の願を作して言く、是の善根の因緣を以ての故に、我が國土中に常に天香有らしめんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は【二七】百味の食を以て佛及び僧に施し、是の願を作して言く、是の善根の因緣を以ての故に、我が國土中の衆生をして皆百味の食を得しめんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は【二八】天香細滑を以て佛及び僧に施し、是の願を作して言く、是の善根の因緣を以ての故に、

【二四】色相等。畢竟空中取相執著するを麤業と爲す

【二五】進修すべき淨善業を明す

【二六】三尊。佛と賢聖僧と凡夫僧と也。又本尊と脇侍と也。

【二七】百味。種種の妙味なり。大論異說を列ぬ、參照。

【二八】天香細滑。細香料を以て身に塗るなり

我が國土中の一切の衆生をして天香細滑を受けしめんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は隨意の五欲を以て、佛及び僧幷に一切の衆生に施し、是の願を作して言く、是の善根の因緣を以ての故に、我が國土中の弟子及び一切の衆生をして皆隨意の五欲を得しめんと。是の菩薩は隨意の五欲を以て一切の衆生と共に淨佛國土に廻向し、是の願を作して言く、我れ佛を得る時、是の國土中、天の五欲の心に應じて至るが如くせんと。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、是の願を作して言く、我れ當に自ら初禪に入り、亦一切の衆生を敎へて初禪に入らしめ、第二第三第四禪、慈悲喜捨心乃至三十七助道法も亦是の如くし、我れ阿耨多羅三藐三菩提を得る時、一切の衆生をして四禪を遠離せず、乃至三十七助道法を遠離せざらしめんと。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は能く佛國土を淨む。是の菩薩は、爾所の時に隨て菩薩道を行じ、諸願を滿足す。是の菩薩は自ら一切の善法を成就し、亦一切衆生の善法をも成就せしむ。是の菩薩は身を受くること端正にして、所化の衆生も亦端正なることを得。所以は何かん。福德の因緣厚きが故に。須菩提、菩薩摩訶薩は應に是の如く佛國土を淨め、是の國土の中、乃至三惡道の名も無く、亦邪見三毒二乘聲聞辟支佛の名も無く、耳に無常苦空の聲有ることを聞かず、亦我所有無く、乃至諸の結使煩惱の名も無く、亦諸果を分別するの名も無く、風は七寶の樹を吹き、度すべき所に隨て音聲を出す。謂ゆる空無相無作、如諸法實相の音、有佛無佛、一切法一切法相空、空の中に相有ること無く、無相の中には則ち作出無し、是の如きの法音あり。若は

晝、若は夜、若は坐、若は臥、若は立、若は行、常に此の法を聞く。是の菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、十方國土の中の諸佛は讚歎し給ふ。衆生是の佛名を聞きて必ず阿耨多羅三藐三菩提に至る。是の菩薩は阿耨多羅三藐三菩提を得る時に說法す。衆生聞く者信ぜずして疑を生じ法を是れ非法なりと言ふもの有ること無し。是れ何を以ての故に。諸法實相の中、皆是れ法にして非法有ること無ければなり。諸有薄福の人は諸佛及び弟子の中に於て善根を種ゑず、善知識に隨はず、我見の中に沒在し、乃至一切種種見の中に沒在し、邊見に墮在して、若は斷、若は常なりとす。是の如きの人は邪見を以ての故に、非佛を佛と言ひ、佛を非佛と言ふ。是の如きの人は非法を法と言ひ、法を非法と言ふ。是の如きの人は破法の故に身壞し命終て惡道地獄中に墮す。諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を得る時、此の衆生の五道を往來するを見て、邪聚を離れ正定聚の中に立たしめて、更に惡道に墮せざらしむ。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の淨佛國土の中の衆生は、雜穢心、若は世間法、若は出世間法、若は有漏、若は無漏、若は有爲、若は無爲なる無く、乃至是の國土の中の衆生は、必ず阿耨多羅三藐三菩提に至る。須菩提、是を菩薩摩訶薩の佛國土を淨むると爲す。』

(一)畢定品第八十三

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の菩薩摩訶薩は、畢定すと爲すや、畢定せずと爲すや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は畢定にして不畢定に非ず。』『世尊、何處にか畢定する、聲聞道中とや爲ん、辟支佛道中とや爲ん、佛道中とや爲ん。』佛言はく、『菩薩摩訶薩は聲聞辟支佛道中に畢定するに非ず、是れ佛道中に畢定す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、初發意の菩薩の畢定と爲んや、最後身の菩薩の畢定と爲んや。』佛言はく、『初發意の菩薩も亦畢定し、阿毘跋致の菩薩も亦畢定し、後身の菩薩も亦畢定す。』『世尊、畢定の菩薩は墮して惡道中に生ずるや不や。』『不とよ、須菩提。汝の意に於て云何、若は八人、若は須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛は、惡道中に生ずるや不や。』『不とよ、世尊。』『是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は初發意より已來、布施持戒忍辱精進し、禪定を行じ、智慧を修し、一切の不善業を斷ずるに、(三)若は惡道に墮し、若は長壽天、若は(四)善法を修することを得ざる處に生じ、若は(五)邊國に生じ、若は(六)惡邪見家(七)無作見家に生じ、(八)是の中佛名無く、法名無く、僧名無き、是の處有ること無し。須菩提、初發意の菩薩は、阿耨多羅三藐三菩提に於て、(九)深心を以て十不善道を

【一】品目或は必定品に作る。菩薩は必定究竟すべきを明す。
【二】前品に必ず無上菩提に至ると云へるに關聯して、佛道の必定を明す。
【三】六度善業を修するもの惡道難處に墮することなし。
【四】善法等。邊國障難多き處なり。

行せば、是の處有ること無し。』『世尊、若し菩薩摩訶薩、是の如きの善根功德の成就する有りて、佛の如く自ら本生を說き、不善の果報を受けば、是の時、善根何れの所にか在ると爲す。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は衆生を利益せんが爲の故に、隨て身を受け、是の身を以て衆生を利益す。須菩提、菩薩摩訶薩は畜生と作る時、大方便力有り、若し怨賊來りて殺害せんと欲すれば、是の無上の忍辱、無上の慈悲心を以て、身を捨てて怨賊を惱まさず。汝諸の聲聞辟支佛は、[一〇]是の力を有する無けん。是を以ての故に、須菩提、當に知るべし、菩薩摩訶薩は大慈心を具足せんと欲し、衆生を憐愍し利益せんが爲の故に、畜生身を受く。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩は何等の善根の中に住してか是の如きの諸身を受くるや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は初發意より乃至道場まで、其の中間に於て善根の具足せざる者有ること無し。具足し已りて當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。是を以ての故に、菩薩摩訶薩は初發意より當に學して一切の善根を具足すべし。善根を學し已りて當に一切種智を得、當に一切煩惱の習を斷ずべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は是の如きの白淨無漏法を成就して、而して惡道畜生の中に生ずるや。』佛須菩提に告

【五】邊國は三寶の名なく七衆行道者なく世事に急なり。

【六】惡邪見家。世世惡見なり。世世正見なるもの、かかる家に生ぜず。

【七】無作見家。六十二種皆邪見なるも、無作最も重し、天作若くは自然と云ひ、涅槃を求めず功德を作さざるなり。

【八】是の中。前出の難處に三寶の名も無きを云ふ。

【九】深心。深惡心なり。

【一〇】是の力を有する無けんは宋元明本には『是の力を有するや不や。』『須菩提言さく、「無きなり。」』とす。

げたまはく、『汝の意に於て云何、佛は(二)白淨無漏法を成就するや不や。』須菩提言さく、『佛は一切の白淨無漏法を成就す。』『須菩提、若し佛自ら畜生身を化作して佛事を作し、衆生を度せば、實に是れ畜生なりや不や。』須菩提言さく、『不とよ。』佛言はく、『菩薩摩訶薩も亦是の如く白淨無漏法を成就し、衆生を度せんが爲の故に畜生の身を受け、是の身を用て衆生を教化す。』佛須菩提に告げたまはく、『阿羅漢の如きは變化身を作して、能く衆生をして歡喜せしむるや不や。』須菩提言さく、『能くす。』佛言はく、『是の如し是の如し、須菩提、菩薩摩訶薩は是の白淨無漏法を用て、度すべき衆生に隨て身を受け、是の身を以て衆生を利益するも亦苦痛を受けず。須菩提、汝の意に於て云何、幻師の種種の形、若は象馬牛羊男女等を幻作し、以て衆人に示す、須菩提、是の象馬牛羊男女等は實に有りや不や。』須菩提言さく、『實ならざるなり、世尊。』佛言はく、『是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は白淨無漏法を成就し、種種の身を現作し、以て衆生に示すが故に、是の身を以て一切を饒益するも亦衆苦を受けず。』

(三)須菩提佛に白して言さく、『世尊、菩薩摩訶薩の大方便力は聖無漏智慧を得て、而して度すべき所の衆生の身に隨て、種種の形を作し、以て衆生を度す。(三)世尊、菩薩摩訶薩は何等の白淨法に住してか、能く是の如きの方便力を作し、而も染汙を受けざるや。』佛言はく、『菩薩は般若波羅蜜を用

【二】白淨無漏法。性空に依て善法を行ずるを云ふ。
【三】白淨に住する相を明す。
【三】以下。大論第九十四卷。

て是の如きの方便力を作し、十方如恒河沙等の國土の中に於て、衆生を饒益するも亦是の身を貪著せず。何を以ての故に。著者著法著處、是の三法は皆得べからずして、自性空なるが故に、空は空に著せず、空中に著者無く、亦著處も無ければなり。何を以ての故に。空中に空相得べからざるが故に。須菩提、是を不可得空と名く。菩薩は是の中に住して、能く阿耨多羅三藐三菩提を得。』『世尊、菩薩は但だ般若波羅蜜の中に住して、阿耨多羅三藐三菩提を得、餘法の中に住せざるや。』『須菩提、頗し法として般若波羅蜜に入らざる者有りや不や。』『世尊、若し般若波羅蜜の自性空なれば、云何が一切法皆般若波羅蜜の中に入るや。』『世尊、空中に法の若は入、若は不入なる有ること無し。』『須菩提、一切法の一切法相空なりや不や。』『世尊、空なり。』『須菩提、若し一切法の一切法相空なれば、云何が一切法空中に入らずと言ふや。』須菩提、佛に白して言さく、(三)『世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、一切法空中に住して能く神通波羅蜜を起し、是の神通波羅蜜の中に住して、十方如恒河沙等の國土に到り、現在の諸佛を供養し、諸佛の説法を聞き、諸佛の所に於て善根を種うるや。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、是の十方如恒河沙等の國土を觀ずるに皆空なり、是の國土の中の諸佛も亦性空なり、但だ名字を假るの故に諸佛身を現はすのみ、假る所の名字も亦空なり。若し十方の國土及び諸佛の性空ならざれば、空は偏と爲る。空は不偏なるを以ての故に、一切法の一切法相空なり。是を以て

【三】神通波羅蜜に住する相を明す。

の故に一切法の一切法相空なり。是の故に菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を用て神通波羅蜜を生じ、是の神通波羅蜜の中に住して、（二五）天眼天耳如意足、知他心、宿命智を起し、衆生の生死を知る。若し菩薩、神通波羅蜜を遠離せば、轉じて衆生を饒益すること能はず、亦阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。是の菩薩摩訶薩の神通波羅蜜は是れ阿耨多羅三藐三菩提の利益道なり。何を以ての故に。是の天眼を用て自ら諸の善法を見、亦人を教へて諸の善法を得しめ、善法に於ても亦著せず、諸の善法の自性空なるが故に、空は著する所無ければなり。若し著すれば則ち味を受く、是の空の中に味有ること無し。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、能く是の如きの天眼を生じ、是の天眼を用て一切法空を觀じ、是の法空を見て相を取らず、業を作らず、亦人の爲に是の法を説くも亦衆生の相を得ず、衆生の名をも得ず、是の菩薩摩訶薩は無所得の法を用ての故に、神通波羅蜜を起し、是の神通波羅蜜を用て、神通の作すべき所の者を能く作す。是の菩薩は天眼を用て人眼に過ぎ、十方の國土を見る、見已りて飛で十方に到り、衆生を饒益す、或は布施を以てし、或は持戒を以てし、或は忍辱を以てし、或は精進を以てし、或は禪定を以てし、或は智慧を以て衆生を饒益し、或は三十七助道法を以てし、或は諸禪解脱三昧を以てし、或は聲聞法を以てし、或は辟支佛法を以てし、或は菩薩法を以てし、或は佛法を以て衆生を饒益す。慳者の爲には是の如きの法を説く、諸の衆生當に布施を行ずべし、貧窮は是れ苦惱の法なり、貧窮の人

【二五】六通に就て細説す。

は自ら益すること能はず、何ぞ能く他を益せん、是を以ての故に、汝等當に勤めて布施し、自身にも樂を得、亦能く他をして樂を得しめ、貧窮の故を以て共に相ひ食噉すること莫らしむべし、三惡道を離るることを得ざればなり。破戒の者の爲には說法すらく、諸の衆生破戒の法は大苦惱なり、破戒の人は自ら益すること能はず、何ぞ能く他を益せん、破戒の法は苦の果報を受け、若は地獄に在り、若は餓鬼に在り、若は畜生に在らん、汝等三惡道の中に墮せば自ら救ふこと能はず、何ぞ能く人を救はん。是を以ての故に、汝等破戒の心に隨ひ死する時に悔ゆること有るべからず。若し共に相瞋諍する者有らば、是の如きの法を說け、諸の衆生、共に相瞋ること莫れ、瞋つて人心を亂せば善法に順ぜず、汝等今共に相瞋りて心を亂せば、或は地獄若は餓鬼畜生の中に墮せん。是を以ての故に、汝等一念の瞋恚心をも生ずべからず、何に況んや多きをや。懈怠の衆生の爲には、說法して精進を得しめ、散亂の衆生をして禪定を得しめ、愚癡の衆生をして智慧を得しむるも亦是の如し。婬欲を行ずる者には不淨を觀ぜしめ、瞋恚の者には慈心を觀ぜしめ、愚癡の衆生には十二因緣を觀ぜしめ、非道を行ずる衆生には正道謂ゆる聲聞道辟支佛道に入らしめ、是の衆生の爲に是の如く說法す。汝等の著する所の如き是の法は性空なり、性空の法の中には著することを得べからず、不著相は是れ空相なり。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、神通波羅蜜の中に住して衆生の爲に利益を作す。須菩提、菩薩若し神通を遠離せば、衆生の意に隨つて善く法を說くこと能はず。是を以ての故に、須菩提・

菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に神通を起すべし。須菩提、譬へば鳥の翅無ければ高く翔ること能はざるが如く、菩薩は神通無ければ、意に隨つて衆生を敎化すること能はず。是を以ての故に、須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じて、應に諸の神通を起すべし。諸の神通を起し已りて、若し衆生を饒益せんと欲せば、意に隨つて能く益す。是の菩薩は天眼を用て如恒河沙等の諸の國土を見、及び是の國土の中の衆生を見、見已りて神通力を用て往きて其の所に到り、衆生の心を知り、其の所應に隨つて爲に法を説く、或は布施を説き、或は持戒を説き、或は禪定を説き、乃至或は涅槃法を説く。是の菩薩は天耳を用て二種の音聲、若は人、若は非人を聞き、天耳を用て十方の諸佛の説きたまふ所の法を聞き、皆能く受持し、聞く所の如く法を衆生の爲に説き、或は布施を説き乃至或は涅槃を説く。是の菩薩は他心智を淨め、他心智を用て衆生の心を知り、其の所應に隨て爲に法を説く・或は布施を説き、乃至或は涅槃を説く。是の菩薩の宿命智は種種の本生の處を憶念し、亦自ら憶し、亦他人を憶し、是の宿命智を用て過去在在處處の諸佛の名字、及び弟子衆を憶念し、衆生有て宿命を信樂せば、爲に宿命の事を現じて、而して説法を爲し、或は布施を説き、乃至或は涅槃を説く。如意神通力を用て種種無量の諸佛の國土に到り、諸佛を供養し、諸佛に從つて善根を種ゑ、本國に還り來り、是の菩薩は漏盡神通智を證し、是の漏盡神通智の證を用ての故に、衆生の爲の故に、應に隨つて法を説き、或は布施を説き、乃至或は涅槃を説く。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に是

の如きの諸の神通を起すべし。菩薩は是の神通を修するを用ての故に、意に隨つて身を受くるも苦樂に染まざるなり。譬へば佛の所化人の一切の事を作すも苦樂に染まざるが如し。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、應に是の如く神通に遊戲し、能く佛國土を淨め、衆生を成就すべし。復次に須菩提、菩薩摩訶薩は佛國土を淨めず、衆生を成就せざれば、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。何を以ての故に。因緣具足せざるが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はざるなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ菩薩摩訶薩の因緣具足し已りて、阿耨多羅三藐三菩提を得るとなす。』佛須菩提に告げたまはく、『一切の善法は、是れ菩薩の阿耨多羅三藐三菩提の因緣なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ善法とし、是の善法を以ての故に阿耨多羅三藐三菩提を得るとなす。』佛須菩提に告げたまはく、『菩薩は初發意より已來、檀那波羅蜜是れ善法の因緣なり、是の中に是れ施者なり、是れ受者なりと分別する無し、性空なるが故に。是の檀那波羅蜜を用て能く自ら利益し、亦能く衆生を利益して、生死より拔出し、涅槃を得しむ。是の諸の善法は皆是れ菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提の因緣なり、是の道を行じ、過去未來現在の諸の菩薩摩訶薩は生死を得度す。已に度し、今度し、當に度すべし。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜、四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分、十八空八背捨九次第定陀羅尼門、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法、是の如き等の功德、皆是れ阿耨多羅三藐三菩提道なり。須菩提、是を善法と名く。菩薩摩訶

薩は是の善法を具足し已りて當に一切種智を得べし、一切種智を得已りて當に法輪を轉ずべし、法輪を轉じ已りて當に衆生を度すべし。』

(一)四諦品第八十四

(二)須菩提佛に白して言さく『世尊、(三)若し是の諸法、是れ菩薩法ならば、何等をか是佛法となす。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の問ふ所の如く、是の諸法是れ菩薩法ならば、何等をか是れ佛法となすとは、須菩提、菩薩法も亦是れ佛法なり。若し一切種を知れば是れ一切種智を得、一切煩惱の習を斷ず。菩薩は當に是の法を得べく、佛は一念相應の慧を以て一切の法を知り已りて、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。須菩提、是を菩薩と佛との差別と爲す。譬へば向道と得果と異るが如し、是の二人は倶に聖人爲るも而も得向の異有り。是の如く須菩提、菩薩摩訶薩の(四)無礙道中に行ずる、是を菩薩摩訶薩と名く。解脱道中に(五)一切の暗蔽無き、是を名けて佛と爲す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法自相空なれば、自相空法中に、云何が差別の異有らん、是れ地獄、是れ餓鬼、是れ畜生、是れ天、是れ人、是れ性地人、是れ八人地人、是れ須陀洹人・是れ斯陀含阿那含阿羅漢人、是れ辟支佛、是れ菩薩、是れ多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀なりと。世尊、諸人の得べからざるが如く、業因緣も亦得べからず、果報も亦得べからず。』佛言はく『是の如

【一】品目、麗本差別品に作る。初段差別を明し、次に四諦に就て辨ず。大論第九十四の續き。

【二】佛菩薩の差別并に諸法の差別を明す。

【三】菩薩佛の所行の如くせば別なかるべき疑あるが故に辨じて得向の異とす。

【四】無礙道等。初後心乃至金剛三昧の行を云ふ。

【五】一切の暗蔽無き。一切法の疑を斷じ了了通達なり。

し是の如し、汝の言ふ所の如く、自相空法中には衆生無く、業因緣無く、果報無し。須菩提、衆生是の諸法の自相空なることを知らざれば、是の衆生は業因緣、（六）若は善、若は惡、若は無動を作り、罪業の因緣の故に三惡道の中に墮し、福業の因緣の故に人天の中に在りて生じ、無動業の因緣の故に色無色の中に生ず、是の菩薩摩訶薩は檀波羅蜜乃至十八不共法を行ずる時、盡く是の助道法を受行し、如金剛三昧に入り、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて衆生を饒益す。是の利常に失せざるが故に、（七）五道生死の中に墮せず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛は阿耨多羅三藐三菩提を得已りて五道生死を得るや不や。』佛言はく、（八）『得ざるなり。』須菩提言さく、『世尊、業の（九）若は黑、（一〇）若は白、（一一）若は黑白、若は（一二）不黑不白なるを得るや不や。』佛言はく『不とよ。』『世尊、若し得ざれば、云何が是れ地獄餓鬼畜生人天、須陀洹乃至阿羅漢、辟支佛菩薩諸佛なりと說かん。』『須菩提、若し衆生、諸法の自相空なることを知れば、菩薩摩訶薩は阿耨多羅三藐三菩提を求めず、亦衆生を三惡趣乃至往來五道生死の中より拔かず。須菩提、衆生實に諸法の自性空なることを知らざるを以ての故に、五道生死を脫することを得ず。是の菩薩は（一三）諸佛の所に

【六】若は善若は惡。宋元明本「若は罪、若は福」に作る、意同じ。

【七】五道。宋元明本は六道に作る、次も同じ、麗本は時に六道とす。

【八】佛は邪見五道に墮せず、如幻假名のみなるを示す。

【九】若は黑。黑業は不善業果報にして、地獄等の受苦の處なり。

【一〇】若は白。三界の諸天受樂自在處を云ふ。

【一一】若は黑白。苦樂混ずる人阿修羅等八部處なり。

【一二】不黑不白。善惡果報を離れたる無漏清淨なるを云ふ。

【一三】諸佛の所等。諸佛及び弟子より諸法空を聞くを云ふ。

従つて諸法の自相空を聞き、發意して阿耨多羅三藐三菩提を求む。須菩提、諸法は爾かく凡人の著する所の如くならず。是の衆生は無所有法の中に於て顚倒妄想分別して、法を得、(一四)無衆生に衆生相有り、無色に色相有り、無受想行識に受想行識相有り、乃至一切有爲法無所有なるに、顚倒妄想の心を用て身口意業の因縁をなし、五道生死の中に往來し、脱することを得ず。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、(一五)一切善法、般若波羅蜜の中に內り、菩薩道を行じて、阿耨多羅三藐三菩提を得、阿耨多羅三藐三菩提を得已りて、衆生の爲に四聖諦、苦、苦集、苦滅、苦滅道を說き、開示し分別す。(一六)一切助道善法は皆四聖諦中に入り、是の助道善法を用ての故に分別するに三寶有り。何等をか三となす、佛寶法寶僧寶なり。是の三寶を拒逆し信せざるが故に、五道生死を離るることを得ず。』

(一七)須菩提佛に白して言さく、『世尊、苦聖諦を用て得度するや、苦智を用て得度するや、集聖諦を用て得度し、集智を用て得度し、滅聖諦を用て得度し、滅智を用て得度し、道聖諦を用て得度するや、道智を用て得度するや。』佛須菩提に告げたまはく、(一八)『苦聖諦もて得度するに非ず、亦苦智もて得度するに非ず、乃至道

【一四】無衆生等。無所有中に有所得觀を作して衆生なきに衆生ありとの憶想を作す、衆生相等の相は无明本想に作る。

【一五】般若の一切の善法を攝するを云ふ。

【一六】一切助道善法多きも四諦を說くは皆此に攝すればなり。苦は解脱を要求する第一事にして、進でその因を滅するが四諦なればなり。

【一七】前段に別說する四聖諦を詳說す。

【一八】苦聖諦等。但苦の得道するに非ず、必ず苦智を待つ、智も苦を離れて存せず、故に「亦苦智もて得度するに非ず」と云ふ。

聖諦もて得度するに非ず、亦道智もて得度するに非ず。須菩提、是の四聖諦は平等なるが故に、我れ說く、卽ち是れ涅槃なりと。苦聖諦を以てせず、集滅道聖諦を以てせず、亦苦智を以てせず、集滅道智を以てせずして涅槃を得。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、何等をか是れ四聖諦の平等相となす。』『須菩提、若し苦無く苦智無く、集無く集智無く、滅無く滅智無く、道無く道智無ければ、是を四聖諦の平等相と名く。復次に須菩提、是の〔一九〕四聖諦如不異、法相法性法住法位實際は、有佛にも無佛にも法相常住なり。〔二〇〕不誑不失の爲の故に、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、實諦に通達せんが爲の故に般若波羅蜜を行ず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が菩薩摩訶薩は實諦に通達せんが爲めの故に般若波羅蜜如を行じ、實諦に通達するが故に聲聞辟支佛地に墮せずして、直に菩薩位の中に入るや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し菩薩摩訶薩、實の如く諸法を見、見已りて無所有法を得、無所有法を得已りて一切法空、四聖諦の所攝、〔二一〕四聖諦の所不攝法皆空なりと見る。若し是の如く觀ずれば、是の時便ち〔二二〕菩薩位中に入る。是を菩薩の性地中に住し〔二三〕頂墮に從はずと爲す。是の頂墮を用ての故に聲聞辟支

【一九】四聖諦等。四諦平等にして眞實不變實相諸法常住なるを云ふ。
【二〇】不誑不失。實相不誑なるを以て常住不滅なり衆生を誑さず。
【二一】四聖諦の所不攝法とは虛空非擇滅無爲を云ふ。
【二二】菩薩位は性地なり、小乘の煖等四善根位の如く、菩薩此に住して作佛を求む。
【二三】頂墮。法相を取り作佛を求めずば頂より墮すとす。
【二四】苦不生緣苦心。菩薩四諦に通達せば苦も苦相を取らず苦諦を緣ぜざるを云ふ。
【二五】自相空。總じては十八空なるも、理破確立して能く畢竟空無所得空等の深空に入るが故に擧ぐ。

佛地に墮す。是の菩薩は性地中に住して、能く四禪四無量心四無色定を生ず。是の菩薩は是の初定地中に住して、一切の諸法を分別し、四聖諦に通達し、(二四)苦不生緣苦心を知り、乃至道不生緣道心を知り、但だ阿耨多羅三藐三菩提心に順じて諸法の如實相を觀ず。世尊、云何が諸法の如實相を觀ずる。』佛言はく、『諸法空を觀ず。』『世尊、何等をか空觀となす。』佛言はく、(二五)『自相空なり。是の菩薩は是の如きの智慧を用て一切法空を觀じ、法性として見るべき無く、是の法性中に住して阿耨多羅三藐三菩提を得。何を以ての故に。性相無ければなり。是の阿耨多羅三藐三菩提は、諸佛の所作に非ず、辟支佛の所作に非ず、亦阿羅漢の所作にも非ず、亦向道人の所作にも非ず、亦得果人の所作にも非ず、亦菩薩の所作にも非ず。但だ衆生は諸法の如實相を知らず見ず。是の事を以ての故に、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、方便力を以ての故に衆生の爲に說法す。』

(一)七喩品第八十五

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法性無所有にして佛の所作に非ず、辟支佛の所作に非ず、阿羅漢の所作に非ず、阿那含の所作に非ず、斯陀含須陀洹の所作に非ず、向道人に非ず、得果人に非ず、菩薩の所作に非ずんば、云何が分別して諸法の異有り、是れ地獄、是れ畜生、是れ餓鬼・是れ人、是れ天、乃至非有想非無想天なりとせん。是の業因縁を以ての故に地獄に生ずる者有りと知り、是の業因縁の故に畜生餓鬼に生ずる者有りと知り、是の業因縁の故に人中に生じ、四天王天に生じ・乃至非有想非無想天に生ずる者有りと知り、是の業因縁の故に、須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛を得る者有りと知り・是の業因縁の故に是れ諸の菩薩摩訶薩なりと知り、是の業因縁の故に是れ多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀なりと知らんや。世尊、無性法の中には業用有ること無ければ、作業の因縁の故に若は地獄餓鬼畜生に墮し、若は人天に生じ、乃至非有想非無想天に生じ、是の業因縁を以ての故に須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩を得、菩薩道を行じて當に一切種智を得べく、一切種智を得るが故に能く衆生を生死中より拔出すとせんや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し、是の如し、無性法中に業

【一】品目、麗本七譬品他に性空品、譬喩品にも作る。前品所説の性空にして差別するを譬喩を以て示す。大論第九十五。
【二】前品を承けて性空によらば差別の差別とすべきなきも衆生顚倒の故に差別す。今妄見を破し拔濟の爲に差別を説くを明らかにす。

無く果報無し。須菩提、凡夫人は聖法に入らず、諸法の無性相を知らずして、顚倒愚癡の故に種種の業因緣を起す。是の諸の衆生、業に隨て身、若は地獄身、若は畜生身、若は餓鬼身、若は人身、若は天身四天王天身、乃至若は非有想非無想天身を得。是の無性法は業無く果報無く、無性は常に是れ無性なり。須菩提の言ふ所の如く、若し一切法無性なれば、云何が是れ須陀洹乃至諸佛一切種智を得んやとは、須菩提、汝の意に於て云何、道は是れ無性なりや不や、須陀洹果乃至諸佛の一切種智は、是れ無性なりや不や。』須菩提言さく、『世尊、道は無性なり、須陀洹果も亦無性なり、乃至諸佛の一切種智も亦無性なり。』『須菩提、無性の法は能く無性の法を得るや不や。』『不とよ、世尊。』佛須菩提に告げたまはく、『有性の法は能く有性の法を得るや不や。』『不とよ世尊。』『須菩提、無性の法及び道、是の一切の法は皆合せず散せず、色無く形無く、對する無く一相謂ゆる無相なり。須菩提、是の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜を行ずる時、方便力を以て衆生を見るに、顚倒を以ての故に五陰に著し、無常中に常相、苦中に樂相、不淨中に淨相、無我中に我相ありとし、無所有處に著す。是の菩薩は方便力を以ての故に、無所有中に於て衆生を拔出す。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、凡夫人の著する所、頗し實有り、不異不著の故に業を起し、業因緣の故に五道生死の中より脫することを得ざるありや。』佛須菩提に告げたまはく、『凡夫人の著する所、業を起す處、毛髮許の如きの實事も無し。但だ顚倒の故なり。

(三)須菩提、今汝の爲に譬喩を說かん。智者は譬喩を以て解することを得。須菩提、汝の意に於て云何、夢中に見る所の人の五欲の樂を受くる如き、實の住處有りや不や。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、夢尙虛妄にして得べからず、何に況んや夢中に住して五欲の樂を受くるをや。』『汝の意に於て云何、諸法の若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲、頗し夢の如くならざる者有りや不や。』『世尊、諸法の若は有漏若は無漏、若は有爲若は無爲、夢の如くならざる者無し。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、夢中に五道生死の往來有りや不や。』『世尊、無きなり。』『汝の意に於て云何、夢中に修道有り、是の修道を用て若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』『不とよ世尊。何を以ての故に。是の夢法は實事有ること無く、垢淨を說く可からざればなり。』(四)『汝の意に於て云何。鏡中の像は實事有りや不や。能く業因緣を起し、是の業因緣を用て、地獄餓鬼畜生の中に墮し、若は人、若は天四天王天處、乃至非有想非無想天處に生ずるや不や。』須菩提言さく『不とよ、世尊、是の像は實事有ること無く、但だ小兒を誑かすのみ。是の事、云何が當に業因緣有るべき、是の業因緣を用て、當に地獄に墮し乃至非有想非無想處に生ずべけんや。』『汝の意に於て云何、是の鏡中の像、修道有り、是の修道を用て、若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』須菩提言さく、『不とよ世尊。何を以ての故に。是の像は空にして實事無く、垢淨を說くべからざればなり。』(五)『汝の意に於て云何、深澗中に響有るが如く、是の響に業因緣

【三】正しく譬喩を明す。一に夢喩。
【四】二に鏡中像喩。
【五】三に響喩。

有り、是の業因縁を用て、若は地獄に墮し乃至若は非有想非無想處に生ずるや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊、是の事空にして實の音聲有ること無し、云何が當に業因縁有り、是の業因縁を用て地獄に墮し、乃至非有想非無想處に至るべけんや。』『汝の意に於て云何、是の響頗し修道有りて、是の修道を用て、若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』『不とよ、世尊、是の事實無く、是れ垢なり、是れ淨なりと說くべからざればなり。』(六)『汝の意に於て云何、焔の非水に水相、非河に河相を見る如き、是の焔頗し業因縁有り、是の業因縁を用て地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずるや不や。』『不とよ、世尊、焔の中に水は畢竟得べからず、但だ無智人の眼を誑かすのみ。云何が當に業因縁有り、是の業因縁を用て地獄に墮し乃至非有想非無想處に生ずべけんや。』『汝の意に於て云何、是の焔修道有りて、是の修道を用て、若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』『不とよ、世尊、是の焔は實事有ること無く、垢淨を說くべからず。』(七)『汝の意に於て云何、揵闥婆城日の出づる時、揵闥婆城を見るが如き、無智人は城無きに城有りと想ひ、廬觀無きに廬觀有りと想ひ、園無きに園有りと想ふ。是の揵闥婆城頗し業因縁有り、是の業因縁を用て地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずるや不や。』『不とよ、世尊、是の揵闥婆城は畢竟得べからず、但だ愚夫の眼を誑はすのみ。云何が當に業因縁有り、是の業因縁を用て地獄に墮し 乃至非有想非無想處に生ずべけんや。』『汝の意に於て云何、是の揵闥婆城修道有りて、是の修道を用て若は垢に著し、若は

【六】四に焔喩。
【七】五に揵闥婆城喩。

淨を得るや不や。』『不とよ、世尊、是の犍闥婆城は實事有ること無く、垢淨を說くべからず。』

〔八〕『須菩提、汝の意に於て云何、幻師の種種の物、若は象若は馬、若は牛若は羊、若は男若は女を幻作す。汝の意に於て云何、是の幻に業因緣有り、是の業因緣を用て地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずるや不や。』『不とよ、世尊、是の幻法空にして實事無し。云何が當に業因緣有り、是の業因緣を用て地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずべけんや。』『汝の意に於て云何、是の幻修道有りて、是の修道を用て、若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』『不とよ、世尊、是の法實事有ること無く、垢淨を說くべからず。』〔九〕『須菩提、汝の意に於て云何、佛の所化人の如き、是の化人業因緣有り、是の業因緣を用て、地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずるや不や。』『不とよ、世尊、是の化人は實事有ること無し。云何が當に業因緣有り、是の業因緣を用て、地獄に墮し、乃至非有想非無想處に生ずべけんや。』『汝の意に於て云何、是の化人修道有りて、是の修道を用て、若は垢に著し、若は淨を得るや不や。』『不とよ、世尊、是の事實有ること無く、垢淨を說くべからず。』〔一〇〕佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、是の空相中に於て垢者有り、淨者有りや不や。』『不とよ、世尊、是の中無所有にして垢に著する者有ること無く、淨を得る者有ること無し。』『須菩提、垢に著する者有ること無く、淨を得る者有ること無きが如く、是の因緣を以ての故に亦垢淨無し。何を以ての故に。

【八】六に幻師喩。
【九】七に化人喩。
【一〇】前の譬說に對して法空を說く。

我我所に住する衆生は垢有り淨有り。〔二〕實見の者は垢ならず淨ならず、實見の者の垢ならず淨ならざるが如く、是の如く垢淨無し。』

【二】實見の者。空の如く實相を見る者。

(一)平等品第八十六

(二)須菩提佛に白して言さく、『世尊、見實の者は垢ならず淨ならざれば、見不實の者も亦垢ならず淨ならず。何を以ての故に。一切法性無所有なるが故に。世尊、無所有中に垢無く淨無ければ、所有中にも亦垢無く淨無し。世尊、無所有中有所有中にも亦垢無く淨無し。世尊、云何が實語の者の垢ならず淨ならざるが如く、不實語の者も亦垢ならず淨ならざるや。』佛、須菩提に告げたまはく、『是の(三)諸法平等の相、我れ說く是れ淨なりと。須菩提、何等をか(四)是れ諸法平等となす。謂ゆる如不異不誑法相法性法住法位實際は有佛にも無佛にも法性常住なり。是を淨と名く。世諦の故に說く、(五)最第一義に非ず。最第一義は一切の語言論議音聲を過ぎたり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し一切法空說くべからずして夢の如く響の如く焰の如く影の如く幻の如く化の如くなれば、(六)云何が菩薩摩訶薩、是の如夢如響如焰如幻如影如化の法を用て、根本定實有ること無しとし、云何が能く阿耨多羅三藐三菩提心を發し、是の願を作すや。我れ當に檀波羅蜜

【一】品目。他に無垢無淨品に作る。前品に續きて諸法平等にして成佛すべき義を明す。

【二】諸法平等を辨ず。單に不垢不淨なるは實見に於ても不實見に於ても同じく、實語不實語も亦同じ。實見實語とする必要孰れにあるかを問ふ。

【三】諸法平等。實不實なしと雖も、垢淨なく平等とするを淨とし實とす。

【四】麗本大論此に「是れ淨」の句あり。

【五】最第一義より云へば語論を超越するが故に、垢淨なく實不實なくして、無とも云ふべからず。

【六】如化無根本法中に生心作願する所以を問ふ。

を具足し、乃至般若波羅蜜を具足すべし、我れ當に神通波羅蜜を具足し、智波羅蜜を具足し、四禪四無量心四無色定四念處を具足し、乃至八聖道分を具足すべし、我れ當に三解脱門八背捨九次第定を具足すべし、我れ當に佛の十力を具足し、乃至十八不共法を具足すべし、我れ當に三十二相八十隨形好を具足すべし、我れ當に諸陀羅尼門諸三昧門を具足すべし、我れ當に大光明を放ち徧く十方を照し、諸の衆生の心を知り、應の如く說法すべしと。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の意に於て云何、汝の說く所の諸法は、夢の如く響の如く焔の如く影の如く幻の如く化の如くなりや不や。』須菩提言さく、『爾り世尊、』『(七)若し一切法、夢の如く乃至化の如くなれば、菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を行ぜん。世尊、是の夢乃至化は虛妄不實なり。世尊、不實虛妄の法を用て、能く檀波羅蜜乃至十八不共法を具足すべからず。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、不實虛妄の法は檀波羅蜜乃至十八不共法を具足すること能はず、是の不實虛妄の法を行じて阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず。須菩提、是の一切の法は皆是れ憶想思惟の作法なり、是の思惟憶想の作法を用ては一切種智を得ること能はず。須菩提、是の一切の法は能く道法を助け、其の果を益すること能はず。謂ゆる是の諸法は(八)無生無出無相なり。菩薩初發意より已來、作す所の善業、若は檀波羅蜜乃至一切種智、何を以ての故に諸法皆夢の如く乃至化の如しと知る。是の如き等の法は檀波羅蜜

【七】菩薩は實法を求めて般若佛道を行ずべし、何ぞ不實法を行ずるか、不實は六度等を行ずべからざるべしとす。
【八】無生等　諸法實に出生なく、一切寂滅なるを云ふ。

乃至一切種智を具足せず、衆生を成就し、佛國土を淨むることを得、阿耨多羅三藐三菩提を得ること能はず、是の菩薩摩訶薩の作す所の善業、檀波羅蜜乃至一切種智、夢の如く乃至化の如しと知り、亦一切衆生も夢中に行ずる如しと知り、乃至化中に行ずる如しと知る。是の菩薩摩訶薩は、般若波羅蜜を是有法なりとして取らず。〔九〕是の不取を用ての故に一切種智を得、是の諸法は夢の如く取る所無し、乃至諸法は化の如く取る所無しと知る。何を以ての故に。般若波羅蜜は是れ取るべからざるの相、禪波羅蜜乃至十八不共法は是れ取るべからざるの相なればなり。是の菩薩摩訶薩は、一切法は是れ取るべからざるの相なりと知り已りて、發心して阿耨多羅三藐三菩提を求む。何を以ての故に。一切法は取るべからざるの相にして根本定實無く、夢の如く乃至化の如く、不可取相法を以て不可取相法を得ること能はず、但だ衆生是の如きの諸の法相を知らず見ざるを以て、是の菩薩摩訶薩は是の衆生の爲の故に阿耨多羅三藐三菩提を求ればなり。是の菩薩は初發意より已來有ゆる布施は一切衆生の爲の故に、乃至有らゆる所修の智慧は皆一切衆生の爲にして己身の爲にせず。菩薩摩訶薩は餘事の爲にせざるが故に阿耨多羅三藐三菩提を求む、但だ一切衆生の爲にするが故に。是の菩薩は般若波羅蜜を行ずる時、衆生を見るも衆生無く、但だ衆生相の中に住し、乃至知者無く見者無きも知見相の中に住し衆生をして顚倒を遠離せしむ。遠離し已りて〔一〇〕甘露性中に置て住す、是の中に住するも妄

【九】一切法は不可取相とせば助道因緣ならざるなく、邪取邪行せば不實とす。
【一〇】甘露性中等、涅槃性に相應して妄想生ぜざるを云ふ。

相、謂ゆる衆生相乃至知者見者相有ること無し。是の時に菩薩は（二）動心念心戲論心皆捨て、常に不動心不念心不戲論心を行ず。須菩提、是の方便力を以ての故に、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、自ら著する所無く、亦敎へて一切衆生をして著する所無きことを得しむ。世諦の故に第一義に非ず。』

（三）須菩提佛に白して言さく、『世尊、世尊の阿耨多羅三藐三菩提を得たまへる時に、諸佛の法を得るは、世諦を以ての故に得るか、第一義するを以て得るか。』佛言はく、『世諦を以ての故に、佛是の法を得たりと說く。是の法の中に法を得て是の人是の法を得たりとすべきもの有ること無し。何を用ての故に。是の人の是の法を得るは、是を大有所得と爲す、二法を以てするは無道無果なればなり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し二法を行じて無道無果なれば、不二法を行ずるは有道有果なりや不や。』佛言はく、『二法を行じて無道無果なれば、不二法を行ずるも亦無道無果なり。若し二法無ければ不二法無し、卽ち是れ道、卽ち是れ果なりとせんや。何を以ての故に。是の如きの法を用て道を得、果を得、是の法を用て道を得ず、果を得ずとするは、是を戲論と爲せばなり。諸の平等法の中に戲論有ること無し。無戲論相は是の諸法平等なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、諸法無所有性なれば、是の中何等をか是れ平等となす。』佛言はく、『若し法あることなく、無法あるこ

【二】動心念心。思惟憶想分別なり。

【三】佛の實成せる所の法は世諦なるを明し、無性平等の義を詳にす。

となく、亦諸法、平等相をも說かず、平等を除きて更に餘法無く、一切の法を離るるは平等相なり。平等相とは若は凡夫、若は聖人、行ずること能はず、到ること能はず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、乃至佛も亦行ずること能はず、亦到ること能はざるや。』佛言はく、『是の諸法の平等は一切の聖人皆行ずること能はず、亦到ること能はず、謂ゆる諸の須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛諸の菩薩摩訶薩及び諸佛なりとも。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛は一切諸法の中に行力自在なり、云何が佛も亦行ずること能はず、亦到ること能はずと說きたまふや。』佛須菩提に告げたまはく、『若し諸法の平等と佛と異有れば、當に是の如く問ふべし。須菩提、今諸の凡夫人は平等なり、諸の須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛、諸の菩薩摩訶薩、諸佛及び聖法皆平等なり。是れ一平等にして二無し。謂ゆる是れ凡夫人、是れ須陀洹乃至佛あらんや。是一切法平等の中に皆得べからず。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法平等の中に皆得べからず、是れ凡夫人、乃至是れ佛なるなくば、世尊、凡夫人と須陀洹乃至佛と分別有ること無しとや爲る。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し、是の如し、諸法平等の中には、是れ凡夫人、是れ須陀洹、乃至是れ佛なりと分別すること有ること無し。』『世尊、若し諸の凡夫人須陀洹乃至佛を分別すること無くんば、〔三〕云何が分別して三寶有らん。現に世間に於て佛寶法寶僧寶あり。』佛言はく、『汝の意に於て云何、佛寶法寶僧寶と諸法等と異るや

【三】凡聖なくば三寶なく、佛教の現實に三寶ありて世間衆生を利益するに反すとするを辨ず。

不や。』須菩提佛に白して言さく、『我れ佛より聞く所の義の如くば、佛寶法寶僧寶と諸法等と異ること無し、世尊、是の佛寶法寶僧寶は卽ち是れ平等なり、是の法は皆合せず散せず、色無く形無く、對する無く、一相謂ゆる無相なり、佛は是の力有つて能く無相諸法處の所を分別す。是れ凡夫人、是れ須陀洹、是れ斯陀含、是れ阿那含、是れ阿羅漢、是れ辟支佛、是れ菩薩摩訶薩、是れ諸佛なりと。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、若し諸佛、阿耨多羅三藐三菩提を得て、諸法を分別せざれば、當に是れ地獄、是れ餓鬼、是れ畜生、是れ人、是れ天、是れ四天王天、乃至是れ他化自在天、是れ梵天、乃至是れ非有想非無想處天、是れ四念處乃至八聖道分、是れ内空乃至是れ無法有法空、是れ佛の十力乃至十八不共法なりと知るべきや不や。』須菩提言さく、『知らざるなり、世尊。』『是を以ての故に、須菩提、當に知るべし、佛は〔一四〕大恩力有りて、諸法平等の中に於て動ぜずして、而も諸法を分別すと。』

〔一五〕須菩提佛に白して言さく、『世尊、佛の諸法平等の中に於て動ぜざるが如く、凡夫人も亦、諸法平等の中に於て動ぜず、須陀洹乃至辟支佛も亦諸法平等の中に於て動ぜず。世尊、若し諸法等相なれば、卽ち是れ凡夫人相、卽ち是れ須陀洹相、乃至諸佛卽ち是れ平等相なり。世尊、今諸法の各各の相謂ゆる色相の異、受想行識相の異、眼相の異、耳鼻舌身意相の異、地相の異、水火風空識相の異、欲

【一四】大恩力。如實智による正教の慈恩を云ふ。佛は日諸山を照すが如し高を下に下を高とするに非す。如實に照明するのみ。

【一五】諸法平等ならば如何が差別を分別すべきかを明す。

相の異、瞋癡相の異、邪見相の異、禪相の異、無量心相の異、無色定相の異、四念處相の異、乃至八聖道分相の異、檀波羅蜜相の異、乃如般若波羅蜜相の異、三解脱門相の異、十八空相の異、佛の十力相の異、四無所畏相の異、四無礙智相の異、十八不共法相の異、有爲法性の異、無爲法性の異、是の凡夫人相の異、乃至佛相の異ありて、諸法各各相異る。云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、諸法の異相の中に分別を作さざらん。若し分別を作さざれば般若波羅蜜を行ずること能はず。若し般若波羅蜜を行ずること能はざれば一地より一地に至ること能はず。若し一地より一地に至らざれば菩薩位に入ること能はず。菩薩位に入ること能はざるが故に聲聞辟支佛地を過ぐること能はず。聲聞辟支佛地を過ぐること能はざるが故に神通波羅蜜を具足すること能はず。神通波羅蜜を具足せざるが故に檀波羅蜜を具足すること能はず。乃至般若波羅蜜を具足し、一佛國より一佛國に至りて諸佛を供養し、諸佛の所に於て善根を種ゑ、是の善根を用て能く衆生を成就し、佛國土を淨むること能はず。』佛須菩提に告げたまはく、『汝の問ふ所の如く、是の諸法相も亦是れ凡夫人なり、亦是れ須陀洹乃至佛なり。』『世尊、是の諸法各各の相あり、謂ゆる色相の異乃至有爲無爲相の異あるに、云何が菩薩摩訶薩は一相を觀じて、分別を作さざるとは。』『須菩提、汝の意に於て云何、是の色相空なりや不や、乃至諸佛の相空なりや不や。』『世尊、實に空なり。』『須菩提、空の中に各各の相法は得べきや不や、謂ゆる色相乃至諸佛相なり。』須菩提言さく、『得べからず。』佛言はく、『是の因縁を以ての故に當に知るべ

し、諸法平等の中には凡夫人に非ず亦凡夫人をも離れず、乃至佛に非ず亦佛をも離れずと。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の平等は是れ有爲法とや爲ん、是れ無爲法とや爲ん。』佛言はく、『有爲法に非ず無爲法に非ず。何を以ての故に。有爲法を離れて無爲法は得べからず、無爲法を離れて有爲法は得べからざればなり。須菩提、是の有爲性無爲性、是の二法は合せず散せず、色無く形無く、對する無く、一相謂ゆる無相なり。佛も亦世諦を以ての故に說く、第一義を以てするに非ず。何を以ての故に。第一義の中には身行無く、口行無く、意行無く、亦身口意の行を離れずして第一義を得ればなり。是の諸の有爲法無爲法の平等相、卽ち是れ第一義なり。菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行ずる時、第一義の中に動せずして而も菩薩事を行じ、衆生を饒益す。』

(一)如化品第八十七

須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し諸法平等にして爲作する所無ければ、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を行じ、平等法の中に於て動ぜずして而も菩薩事を行じ、布施愛語利益同事を以てせん。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、汝の言ふ所の如く、是の諸法は平等にして所作無し。若し是の衆生自ら諸法の平等なることを知れば、佛は(二)神力を用ひず、諸法平等の中に於て動ぜずして而も衆生の(三)吾我の相を拔出す。空を以て五道生死乃至知者見者相を度し、色相乃至識相、眼相乃至意相、地種相乃至識種相を度し、有爲性相を遠離して無爲性相を得しむ。無爲性相は卽ち是れ空なり。』須菩提言さく、『世尊、何等か空なるを用ての故に一切の法空なる。』佛言はく、『菩薩は(四)一切の法相を遠離す、是の空を用ての故に一切の法空なり。須菩提、汝の意に於て云何、若し化人有りて化人を作らば、是の化は頗し實事有りて空ならざる者ありや不や。』須菩提言さく、『不とよ、世尊、是の化人は實事にして而も空ならざるもの有ること無し、是の空及び化人の二

【一】大論涅槃如化品、他又た單に化品に作る、前品の諸法平等に就て化の如しとして說明す。大論第九十六。

【二】神力を用ひず。衆生實相を知れば能化の用なし、知らざるを以て對治の說法あるのみ、實相に說くべきものなく、利益すべきものなく、用ふる神力もなし。

【三】吾我の相。麗本大論には吾我の想に作る。一切無吾我の法を以て衆生を敎化し、見愛を斷じて生死を脫せしむ。

【四】空に種種あるも無所得畢竟空にして、人法一切の相を遠離するを云ふ。

事は合せず散せず、[五]空も空なるを以ての故に空なり、是れ空なり是れ化なりと分別すべからず。何を以ての故に。是の二事は等しく空中に得べからざればなり、謂ゆる是れ空なり、是れ化なりと。所以は何かん、須菩提、色は卽ち是れ化なり、受想行識は卽ち是れ化なり、乃至一切種智は卽ち是れ化なればなり。」須菩提佛に白して言さく、『世尊、若し世間法、是れ化なれば、出世間法も亦復た是れ化なりや不や。謂ゆる四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分三解脫門、佛の十力四無所畏四無礙智十八不共法、幷に諸の法果及び賢聖人、謂ゆる須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩諸佛、世尊、是の法も亦是れ化なりや不や。」佛須菩提に告げたまはく、『一切の法は皆是れ化なり、是の法の中に於て聲聞法の變化有り、辟支佛法の變化有り、菩薩摩訶薩法の變化有り、諸佛法の變化有り、煩惱法の變化有り、業因緣法の變化有り。是の因緣を以ての故に、須菩提、一切の法は皆是れ變化なり。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、是の諸の煩惱を斷ずる、謂ゆる須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道の諸の煩惱習を斷ずる、皆是れ變化なりや不や。』佛須菩提に告げたまはく、『若し法に生滅の相有れば皆是れ變化なり。』須菩提言さく、『世尊、何等の法をか變化に非ずとなす。』佛言はく、『若し法、無生無滅なれば、是れ變化に非ず。』須菩提言さく、『何等をか是れ不生不滅とし、變化に非ずとなす。』佛言はく、『誑相無き涅槃、是の法は變化に非ず。』『世尊、佛の自ら說

【五】空も空なるを以ての故に　空も十八事實なりとするを破するに十八空あり、心中變化の空なるを示すに空空を以てす。

きたまふ如き諸法平等は、聲聞の作に非ず、辟支佛の作に非ず、諸の菩薩摩訶薩の作に非ず、諸佛の作に非ず、有佛にも無佛にも諸法の性、常に空にして、性空卽ち是れ涅槃なり、云何が涅槃の一法を化の如きに非ずと言ふや。』佛須菩提に告げたまはく、『是の如し是の如し、諸法の平等は聲聞の所作に非ず、乃至性空は卽ち是れ涅槃なり。若し新發意の菩薩、是の一切法皆畢竟じて性空なり。乃至涅槃も亦皆化の如しと聞かば、心則ち驚怖す。是の新發意の菩薩の爲の故に、分別して生滅は化の如しとし、不生不滅は化の如くならずとす。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、云何が新發意の菩薩を敎へて性空なることを知らしめん。』佛須菩提に告げたまはく、(六)『諸法本有りて今無きや。』

【六】佛意は新發意の畏るゝは後無なるに在り。諸法本來自無にして現在も亦無なるを了知せば顚倒なく恐怖なし、畢竟緣生諸法性空の義、これ般若なり。廣說を此一問に結ぶ。

卷の第二十七

(一)薩陀波崙品第八十八

(二)佛須菩提に告げたまはく、『菩薩摩訶薩は般若波羅蜜を求め、當に(三)薩陀波崙菩薩摩訶薩、是の菩薩の今大雷音佛の所に在りて、菩薩道を行ずるが如くすべし。』須菩提佛に白して言さく、『世尊、薩陀波崙菩薩摩訶薩は云何が般若波羅蜜を求むるや。』『佛言はく、『薩陀波崙菩薩摩訶薩は本般若波羅蜜を求むる時、身命を惜まず、名利を求めず、空閑林中に於て空中に聲を聞く。言く、「汝善男子、是より東に行き疲極を念ずること莫れ、睡眠を念ずること莫れ、飲食を念ずること莫れ、晝夜を念ずること莫れ、寒熱を念ずること莫れ、內外を念ずること莫れ。善男子、行く時に左右を觀ること莫れ、汝行く時に身相を壞すること莫れ、色相を壞すること莫れ、受想行識相を壞すること莫れ。何を以ての故に。若し是の諸相を壞すれば、佛法中に於て則ち爲に礙有り、若し佛法に於て礙有れば、便ち五道生死の中に往來し、亦般若波羅蜜を得ること能はざればなり。」爾の時に薩陀波崙菩薩、空中の聲に報へて言く、

【一】品目、又常啼品に作る、前品の終に明せる先無今性空の得し難き爲に、常啼菩薩の本緣を述べて證とし、般若求行の義を明す。

【二】常啼般若を求むるは空中の教に依ることを明す。

【三】薩陀波崙（Sadāprarudita）。常啼と譯す。今經に本生因緣を詳說す。

「我れ當に教に從ふべし。何を以ての故に。我れ一切の衆生の爲に大明と作らんと欲し、一切諸佛の法を集めんと欲し、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲するが故に。」薩陀波崙菩薩は復空中の聲を聞く。言く、「善い哉善い哉、善男子、汝空無相無作の法に於て、應に信心を生じ、離相を以て心に般若波羅蜜を求め、我相を離れ乃至知者見者相を離るべし、當に惡知識を遠離すべし。當に善知識に親近し供養すべし。何等をか是れ善知識となす。能く空無相無作無生無滅の法及び一切種智を說きて、人の心をして歡喜信樂に入らしむる、是を善知識と爲す。善男子、汝若し是の如く行ずれば、久しからずして當に般若波羅蜜を聞くべし、若は經卷の中より聞き、若は菩薩の說く所に從ひて聞く。善男子、汝の從ひて聞く所の是れ般若波羅蜜の處に應に心に如佛の想を生ずべし。善男子、汝當に恩を知つて是の念を作すべし、從ひて聞く所の是の般若波羅蜜は卽ち是れ我が善知識なり、我れ是の法を聞くを用ての故に、疾く不退轉を得、阿耨多羅三藐三菩提に於て諸佛に親近し、常に有佛の國中に生じて衆難を遠離し、無難處を具足することを得と。善男子、當に是の功德を思惟し籌量し、從つて聞く所の法處に於て、心に如佛の想を生ずべし。汝善男子、(四)世利心を以ての故に、法師に隨逐する莫れ、但だ法を愛し、法を恭敬する爲の故に、說法の菩薩に隨逐せよ。爾の時に當に魔事を覺知すべし。若し惡魔、說法の菩薩のために(五)五欲の因緣を作し、假爲法の故に受けしむるも、若し說法の菩薩

【四】世利心。世間的名譽利欲の念

【五】五欲等。外法なり。性空の假法を欲樂として受けしむるを云ふ。

（六）實法明に入らば、功德力を以ての故に、受けて而も染する所無し。又（七）三事を以ての故に、是の五欲を受く、方便力を以ての故に、衆生をして善根を種ゑしめんと欲するが故に、衆生と其の事を同せんと欲するが故に受く、汝是の中に於て汙心を生ずること莫く、當に淨想を起し、自ら念ずべし。我れ未だ漚和拘舍羅を得ず。（八）大師方便法を以て衆生を度し、福德を獲しめんが爲の故に是の諸欲を受け、菩薩智慧に於て著する無く、礙ふる無く、欲染を爲さずと。善男子、卽ち當に諸法の實相を觀ずべし。諸法の實相とは謂ゆる一切法垢ならず淨ならず。何を以ての故に。一切法の自性空にして衆生無く、人無く我無く、一切法は幻の如く夢の如く、響の如く影の如く、焰の如く化の如くなればなり。善男子、是の諸法の實相を觀じ已りて、當に法師に隨ふべし。汝久しからずして當に般若波羅蜜を成就すべし。復次に善男子、汝當に復魔事を覺知すべし。若し說法の菩薩、般若波羅蜜を受けんと欲する人を見て、意に存念せざるも、汝心に怨恨を起すべからず。汝但だ當に法を以ての故に恭敬心を生じ、厭懈の意を起す莫く、常に應に法師を隨逐すべし。」

（九）爾の時に薩陀波崙菩薩、是の空中の敎を受け已りて、是れ從り東に行くこと久からずして復是の念を作す、我れ云何が空中の聲に問はざりし、我れ當に何處に去るべき、去ること當に遠近なるべき、

【六】實法明。諸法實相の般若に通ずるを云ふ。
【七】三事。次に擧ぐる方便力と種善根と同事となり。
【八】大師。佛なり。
【九】中途の思惟を擧げて求法の強きを明す。大論第九十七卷。

當に誰れに從つて般若波羅蜜を聞くべきと。是の時即ち啼哭憂愁に住して是の念を作す、我れ是の中に住して一日一夜若は二三四五六七日七夜を過ぎ、此の中に住して疲極を念はず、乃至饑渇寒熱を念はず、般若波羅蜜を聽受するの因縁を聞かずば、終に起たざるなりと。須菩提、譬へば人の一子の卒に死する有て憂愁し苦毒し、唯だ懊惱を懷きて餘念を生ぜざるが如し。是の如く須菩提、薩陀波崙菩薩は爾の時に異心有ること無く、但だ念ず、我れ何時當に般若波羅蜜を聞くことを得べき、我れ云何が空中の聲に問はざりし、我れ應に何處に去るべき、去ること當に遠近なるべき、當に誰れに從つて般若波羅蜜を聞くべきと。須菩提、薩陀波崙菩薩の是の如く愁念せる時、空中に佛有りて薩陀波崙菩薩に語りて言く、「善い哉善い哉、善男子、過去の諸佛の菩薩道を行ずる時に　般若波羅蜜を求めしも亦汝の今日の如し。善男子、汝は是れ勤て精進し、法を愛樂するを以ての故に、是れより東に行き、此を去ること五百由旬にして城有り。〔一〇〕衆香と名く、其の城七重にして七寶もて莊嚴し、臺觀欄楯皆七寶を以て校飾し、七寶の塹、七寶の行樹周市して七重なり。其の城縱廣十二由旬にして豐樂安靜人民熾盛なり。五百市里街巷相當して端嚴なること畫の如く、橋津地の如く寛博淸淨なり、七重の城上皆七寶の樓櫓有り、寶樹行列し、黄金白銀硨磲碼碯珊瑚瑠璃玻瓈紅色眞珠を以て、以て枝葉と爲し、寶繩連綿して、金もて鈴と爲し、網を以て城上を覆ひ、風鈴を吹きて聲す、其の音和雅にして衆生を娛樂せしむ。譬へば

【一〇】衆香、犍陀羅越なり。國土富樂七寶を出すこと多しとす。

巧作の五樂の甚だ喜樂すべきが如く、金網寶鈴、其の音是の如きを以て衆生を樂ます。其の城の四邊の流池清淨にして冷暖調適なり、中に諸の船有て七寶もて嚴飾す、是れ諸の衆生の宿業の致す所にして、此の寶船に乘じて娛樂遊戲す。諸池の水中に種種の蓮華ありて、青黃赤白衆の雜好華徧く水上に覆ふ、是の三千大千世界の有らゆる衆華皆其の中に在り、其の城の四邊に五百の園觀有りて、七寶もて莊嚴し、甚だ愛樂すべきなり。一一の園中に各五百の池有り、池の各縱廣十里にして、皆七寶を以て校成し、雜色莊嚴す。諸池の水の中に亦青黃赤白の蓮華有りて水上に彌覆す。是の諸蓮華の大さ車輪の如くにして、青色には青光あり、黃色には黃光あり、赤色には赤光あり、白色には白光あり、諸池の水の中に鳧鴈鴛鴦異類の衆鳥の音聲相和す。是の諸の園觀の〔二〕適として所屬無きは、是れ諸の衆生の宿業の致す所なり、長夜に深法を信樂し、般若波羅蜜を行ずる因緣の故に、是の果報を受く。善男子、是の衆香城の中に大高臺有りて。〔三〕曇無竭菩薩摩訶薩の宮舍上に在り、其の宮の縱廣一由旬にして、皆七寶を以て校成し、雜色もて莊嚴し、甚だ喜樂すべきなり。垣墻七重にして皆亦七寶なり、七寶の欄楯、七寶の樓閣、寶塹七重し、皆七寶を以て周帀し、深塹七寶もて果成し、七重の行樹、七重の枝葉、七重に圍遶す、其の宮舍の中に四種の娛樂園有り、一を常喜と名け、二を離憂と名け、三を華飾と名け、四を香飾と名く。一一の園中に各八池有り、一は賢と名け、二は賢上と名け、

【二】適として等。不取著なるを云ふ。
【三】曇無竭(Dharmodgata)、法盛、法涌、法尙等と譯す。

三は歡喜と名け。四は喜上と名け、五は安隱と名け、六は多安隱と名け、七は遠離と名け、八は阿鞞跋致と名く、諸池の四邊の面、各一寶にして黄金白銀瑠璃玻瓈玫瑰もて池の底と爲し、其の上に金沙を布く、一一の池側には八梯陛有りて、種種の妙寶以て嚴飾を爲す、諸梯陛の間に閻浮檀金の芭蕉行樹有り、一切の池中に種種の蓮華の青黄赤白なる、水上に彌覆す、諸池の四邊に好華樹を生じ、風諸華を吹きて池の水の中に墮す。其の池は〔三〕八功德水香を成就し、若は栴檀色味具足し、輕くして且つ柔輭なり。曇無竭菩薩は六萬八千の婇女と與に五欲を具足し、共に相娛樂す。善男子、曇無竭菩薩は諸の婇女と與に遊戲娛樂し已りて、日に三時、般若波羅蜜を說く、衆香城の內の男女大小、其の城中に於て多く人の聚る處に大法座を敷く。其の座の四足は或は黄金を以てし、或は白銀を以てし、或は瑠璃を以てし、或は玻瓈を以てし、敷くに綩綖雜色茵褥を以てし、諸の幃帶を垂れ、妙白氎を以て、而して其の上を覆ひ、散ずるに種種の雜妙華香を以てす、座の高さ五里にして白珠帳を張り、其の地の四邊に五色の華を散じ、衆の名香を燒き、澤香を地に塗る、般若波羅蜜を供養し恭敬するが故に。曇無竭菩薩は、此の座上に於て般若波羅蜜を說く、彼の諸の人衆は是の如く曇無竭を恭敬し供養す、般若波羅蜜を聞かんが爲の故に。是の大會に於て、百千萬衆の諸天世人、一處に和集す。中には聽く者有り、中には受くる者有り、中には持する者有り、中には誦する者有り、中には書する者有り、中には正觀する者有り、中には說の如く行ずる

〔三〕八功德水香。麗本には八種功德香に作る。

者有り、是の時に衆生は是の因緣を以ての故に皆惡道に墮せず、阿耨多羅三藐三菩提に於て退轉せず。汝善男子、曇無竭菩薩の所に往詣して、當に般若波羅蜜を聞くべし。善男子、曇無竭菩薩は世世に是れ汝の善知識にして、能く汝に阿耨多羅三藐三菩提を敎へて、示敎利喜す。是の曇無竭菩薩も本般若波羅蜜を求めし時、亦汝の今の如くせり、汝去て晝夜を計ること莫れ、障礙の心を生ずること莫れ、汝久しからずして、當に般若波羅蜜を聞くことを得べし。」

（四）爾の時、薩陀波崙菩薩摩訶薩は、歡喜心悅して是の念を作す。我れ當に何時是の善知識を見ることを得て、般若波羅蜜を聞くことを得べきやと。須菩提、譬へば人の毒箭の爲に中てらるる有りて、更に餘念無く、唯だ何時當に良醫を得て毒箭を拔出し、我れ此の苦を除くべきやと念ずるが如し。是の如く須菩提、薩陀波崙菩薩摩訶薩は更に餘念無く、但だ是の願を作す、我れ何時當に曇無竭菩薩を見ることを得て、我をして般若波羅蜜を聞くことを得しむべけん、我れ是の般若波羅蜜を聞き、諸の有心を斷ぜんと。是の時に薩陀波崙菩薩は是處に於て住し、曇無竭菩薩を念じて一切法の中に無礙の智見を得、卽ち無量三昧門現に前に在るを得たり。（五）謂る諸法性觀三昧、諸法性不可得三昧、破諸法無明三昧、諸法不異三昧、諸法不壞自在三昧、諸法能照明三昧、諸法離闇三昧、諸法無異相續三昧、諸法不可得三昧、散華三昧、諸法無我三昧、如幻威勢三昧、得如鏡像三昧、得一切衆生語言三

【四】法涌菩薩に聞くべきを知りて常啼歡喜し往求す。

【五】前卷七六、九七、一五五頁百八三昧等廣說參照。

昧、一切衆生歡喜三昧、入分別音聲三昧、得種種語言字句莊嚴三昧、無畏三昧、性常默然三昧、得無礙解脫三昧、離塵垢三昧、名字語句莊嚴三昧、見諸法三昧、諸法無礙頂三昧、如虛空三昧、如金剛三昧、不畏著色三昧、得勝三昧、轉眼三昧、畢法性三昧、能與安隱三昧、師子吼三昧、勝一切衆生三昧、華莊嚴三昧、斷疑三昧、隨一切堅固三昧、出諸法得神通力無畏三昧、能達諸法三昧、諸法財印三昧、諸法無分別見三昧、離諸見三昧、離一切闇三昧、離一切相三昧、解脫一切著三昧、除一切懈怠三昧、得深法明三昧、不可奪三昧、破魔三昧、不著三界三昧、起光明三昧、見諸佛三昧なり。是の如く薩陀波崙菩薩は是の諸三昧の中に住し、卽ち十方無量阿僧祇の諸佛を見て、諸の菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜を說く。

【六】是の時に十方の諸佛は薩陀波崙菩薩を安慰して言はく、「善い哉善い哉、善男子、我等の本菩薩道を行ぜし時も、般若波羅蜜を求めて是の諸三昧を得たり。亦汝の今得る所の如く我等も是の諸三昧を得、善く般若波羅蜜に入り、方便力を成就して阿惟越致地に住せり。我等是の諸三昧を觀ずるに、法の三昧を出で三昧に入る者有るを見ず、亦佛道を行ずる者を見ず。亦阿耨多羅三藐三菩提を得る者を見ず。善男子、是を般若波羅蜜と名く。謂ゆる是の諸法有りと念はざるなり。善男子、我等は無所念法の中に於て住して、是の金色身丈大光明三十二相八十隨形好不可思議智慧、無上戒無上三昧佛無上智慧を得、一切の功德皆悉く具足す。一切の功德具足するが故に、佛も尙相を取て說き盡すこと能はず、何に況んや聲聞辟支佛及び諸餘の人を

【六】諸佛常啼を慰安し信受せしむ。大論第九十八卷。

や。是を以ての故に、善男子、是の佛法の中に於て、倍恭敬し愛念し清淨心を生ずべし、善知識の中に於て如佛の想を生ずべし。何を以ての故に、善知識の守護する爲の故に、菩薩は疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ればなり。」是の時に薩陀波崙菩薩、十方の諸佛に白して言さく、「何等をか是れ我が善知識として、親近し供養すべき所の者となす。」十方の諸佛、薩陀波崙菩薩に告げて言はく、「汝善男子、曇無竭菩薩は世世に教化して汝をして阿耨多羅三藐三菩提を成就せしむ。曇無竭菩薩は汝を守護し、汝に般若波羅蜜方便力を教ふ、是れ汝の善知識なり。汝曇無竭菩薩を供養すること、若は一劫若は二劫若は三劫、乃至百劫を過ぎて頂戴し恭敬し、一切の樂具、三千世界の中の有らゆる妙色聲香味觸を以て、盡く以て供養するも、未だ須臾の恩に報ゆること能はず。何を以ての故に。曇無竭菩薩摩訶薩の因緣の故に、汝をして是の如き等の諸三昧を得、般若波羅蜜方便力を得しむればなり。」諸佛は是の如く教化し安慰し、薩陀波崙菩薩をして歡喜せしめ已りて忽然として現せず。

【二七】常啼は三昧より出でて恭敬心增長するを明す。

(二七)是の時に薩陀波崙菩薩は三昧より起ちて、復佛を見ず、是の念を作す、是の諸佛は何所より來り、去つて何處に至るゝと。諸佛を見ざるが故に、復惆悵して樂まず、誰か我が疑を斷たんと。復是の念を作す、「曇無竭菩薩は久遠より已來、常に般若波羅蜜を行じて、方便力及び諸陀羅尼を得、菩薩法中に於て自在を得、多く過去の諸佛を供養し、世世に我が師と爲りて常に我を利益す、我れ當に

曇無竭菩薩に問ふべし、諸佛は何所より來り、去つて何處に至ると。」爾の時、薩陀波崙菩薩は曇無竭菩薩に於て恭敬愛樂尊重の心を生じ、是の念を作す、「我れ當に何を以てか曇無竭菩薩を供養すべき。今我れ貧窮にして華香瓔珞燒香澤香衣服旛蓋、金銀眞珠瑠璃玻瓈珊瑚琥珀無く、是の如き等を以て般若波羅蜜及び說法師曇無竭菩薩を供養すべき物有ること無し、我れ法として空しく曇無竭菩薩の所に往くべからず、我れ若し空しく往けば喜悅心生ぜず、我れ當に身を賣て財を得、般若波羅蜜の爲の故に法師曇無竭菩薩を供養せん。何を以ての故に。我れ世世に身を喪ふこと無數なり、無始の生死の中に、或は死し、或は賣り、或は欲の因緣の爲の故に、世世に地獄の中に在りて無量の苦惱を受け、未だ曾て淸淨法の爲にせざるが故に、說法師を供養せんが爲の故に身を喪はん」と。是の時、薩陀波崙菩薩（一八）中道に一大城に入り、市肆上に至り、高聲に唱へて言く、「誰か人を須ひんと欲する、誰か人を須ひんと欲する、誰か人を買はんと欲する」と。爾の時に惡魔是の念を作す、是の薩陀波崙は法を愛するが故に、自ら身を賣りて、般若波羅蜜の爲の故に、曇無竭菩薩を供養せんと欲す、當に般若波羅蜜及び方便力を正問することを得べし、云何が菩薩摩訶薩、般若波羅蜜を行じて疾く阿耨多羅三藐三菩提を得、當に多聞具足すること大海の水の如くなることを得べき、是の時沮壞すべからず、一切の功德を具足することを得て、諸の菩薩摩訶薩を饒益し、阿耨多羅三藐三菩提の爲の故に我が境界を過ぎ、亦餘人を敎へて我が境界を出で、阿

【一八】中道。東行法涌菩薩に謁せんとする途中なり。

耨多羅三藐三菩提を得しめん。我れ今當に其の事を壞すべしと。爾の時、惡魔は隱蔽して諸の婆羅門居士をして、其の自ら賣るの聲を聞かざらしむるも、〔一九〕一長者女を除いて魔蔽ふ能はず、其の宿因緣を以ての故に。爾の時、薩陀波崙は身を賣るに售れず、憂愁啼哭し、一面に在りて立て涕泣して言く、「我大罪の爲に身を賣るに售れず、我自ら身を賣て、般若波羅蜜の爲の故に、曇無竭菩薩を供養せん」と。爾の時、釋提桓因是の念を作す、是の薩陀波崙菩薩は法を愛し、自ら其の身を賣て般若波羅蜜の爲の故に曇無竭菩薩を供養せんと欲す。我れ當に之を試みて、是の善男子、實に深心愛法の故を以て是の身を捨つるや不やを知らんと。

〔二〇〕是の時に釋提桓因は婆羅門の身を化作し、薩陀波崙菩薩の邊に在りて行きて問うて言く、「汝善男子、何を以てか憂愁啼哭し、顏色憔悴するや」と。一面に在りて立て答へて言く、「婆羅門、我れ法を愛敬す、自ら身を賣て般若波羅蜜の爲の故に、曇無竭菩薩を供養せんと欲し、今我れ身を賣るに買ふ者有ること無し。自ら念ずらく、福薄くして財寶有ること無ければ、自ら身を賣て般若波羅蜜及び曇無竭菩薩を供養せんと欲するも、而も買ふ者無し」と。爾の時に婆羅門は薩陀波崙菩薩に語て言く、「善男子、我れ人を須ひず、我れ今天を祠らんと欲して、當に人心人血人髓を須ふべし。汝能く賣て我に與ふるや不や」爾の時に薩陀波崙菩薩是の念を作す、「我れ大利を得たり、第一の利を得たり、我れ今便ち般若波羅蜜方

【一九】一長者女。因緣後に詳なり。

【二〇】常釋、常啼を試みて隨喜するを明し、長者女も亦感動して事を倶にす。

便力を具足せんが爲に、是の心血髓を買ふ者を得たり」と。是の時心大に歡喜し悅樂し憂無く、柔和心を以て婆羅門に語りて言く、「汝の須ふる所の者我れ盡く汝に與へん」と。婆羅門言く、「善男子、汝何の價を須ふる。」答へて言く、「汝の意に隨て我に與へよ」と。卽時に薩陀波崙は右手に利刀を執て左臂を刺して血を出し、右の髀肉を割き、復骨を破て髓を出さんと欲する時に、一長者女の閣上に在る有りて、遙に薩陀波崙菩薩の自ら身體を割きて壽命を惜まざるを見て、是の念を作す、是の善男子、何の因緣の故に其の身を困苦する、我れ當に往きて問ふべしと。長者女卽ち閣を下りて、薩陀波崙の所に到りて問ひて言く、「善男子、何の因緣をもて其身を困苦し、是の心血髓を用て、何等をか作す」と。薩陀波崙答へて言く、「婆羅門に賣與し、般若波羅蜜の爲の故に曇無竭菩薩を供養せん」と。長者女言く、「善男子、是の賣身を作し、欲して自ら心血髓を出し、曇無竭菩薩を供養して、何等の功德利益を得んと欲するや。」薩陀波崙答へて言く、「善女人、是の人は善く般若波羅蜜及び方便力を學す。是の人は當に我が爲に菩薩の作すべき所、菩薩所行の道を說くべし。我れ是の法を學し、是の道を學して阿耨多羅三藐三菩提を得る時に、衆生の爲に依止と作り、當に金色身三十二相八十隨形好、丈光無量明、大慈大悲大喜大捨、四無所畏、佛の十力四無礙智十八不共法、六神通不可思議淸淨戒禪定智慧を得、阿耨多羅三藐三菩提を得て、諸法の中に於て一切無礙智見を得、無上法寶を以て一切の衆生に分布し與へん。是の如き等の諸の功德利、我れ當に彼に從て之を得べし」と。是の時に長者女は

是の上妙の佛法を聞きて大に歡喜し、心驚き毛竪ち、薩陀波崙菩薩に語りて言く、「善男子、甚だ希有なり、汝の説く所は微妙にして値ひ難し。是の一一の功德法の爲の故に、應に如恒河沙等の身を捨つべし。何を以ての故に。汝の說く所は甚大微妙なればなり。汝善男子、汝の今須ふる所、悉く當に相與ふべし、金銀眞珠瑠璃玻瓈琥珀珊瑚等の諸の珍寶物、及び華香瓔珞塗香燒香旛蓋衣服妓樂等の物、供養の具もて般若波羅蜜及び曇無竭菩薩を供養すべし。汝善男子、自ら其の身を困苦すること莫れ。我も亦曇無竭菩薩の所に往き、汝と共に諸の善根を植ゑんと欲す。是の如きの微妙の法を、汝の說く所の如く得んが爲の故に。」爾の時、釋提桓因は卽ち本身に復て薩陀波崙菩薩を讃じて言く、「善い哉善い哉、善男子、汝堅く是の事を受け、其の心動ぜず、諸の過去の佛の菩薩道を行ずる時も亦是の如くして、般若波羅蜜及び方便力を求め、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。善男子、我れ實には人の心血髓を用ひず、但だ來りて相試む。汝何等をか願ふ、我れ當に相與ふべし。」薩陀波崙言く、「我に阿耨多羅三藐三菩提を與へよ。」釋提桓因言く、「此は我が力の辦ずる所に非ず、是れ諸佛の境界なり。必ず相供養せん、更に餘願を索めよ。」薩陀波崙言く、「汝若し此に於て力無く、汝必ず供養を見んとせば、我是の身をして平復して故の如くならしめよ。」是時に薩陀波崙の身、卽平復して瘡瘢有ること無く、本の如くして異ならず。釋提桓因は其の願を與へ已りて忽然として現せず。爾の時、長者女、薩陀波崙菩薩に語りて言く、「善男子、來りて我が舍に到り、須ふる所有らば我が父母に從て之を索めよ、盡く

當に相與ふべし。我れ亦當に我が父母を辭し、諸の侍女と與に汝と共に往て曇無竭菩薩を供養せん、求法の爲の故に。」即時に薩陀波崙菩薩は長者女と與に俱に其の舍に到り。門外に在りて住す。長者女入りて父母に白さく、「我に衆の妙華香及び諸の瓔珞塗香燒香旛蓋衣服、金銀瑠璃玻瓈眞珠琥珀珊瑚、及び諸の妓樂供養の具を與へ。亦我が身と及び先に給使する所の五百の侍女と、薩陀波崙菩薩と共に曇無竭菩薩の所に到らんことを聽したまへ、般若波羅蜜を供養せんが爲の故に。曇無竭菩薩は當に我等の爲に說法すべし。我れ當に說の如く行じ、當に諸佛の法を得べし」と。女の父母は女に語りて言く、「薩陀波崙菩薩は是れ何等の人なるや。」女言く、「是の人は今門外に在り。是の善男子は深心を以て阿耨多羅三藐三菩提を求め、一切衆生の無量生死の苦を度せんと欲す。是の善男子は法の爲の故に、自ら其の身を賣りて般若波羅蜜を供養す。般若波羅蜜は菩薩所學の道と名く。般若波羅蜜を供養し、及び曇無竭菩薩を供養せんが爲の故に、市肆上に在りて高聲に唱へて言く、誰か人を須ひんと欲する、誰か人を須ひんと欲する、誰か買はんと欲すると。身を賣るに售れず、一面に在りて立て憂愁啼哭す。是の時に釋提桓因化して婆羅門と作り、來りて之を試みんと欲し、問ひて言く、善男子、何を以て憂愁啼哭し一面に在りて立つと。答へて言く、婆羅門、我れ身を賣らんと欲す。般若波羅蜜及び曇無竭菩薩摩訶薩を供養せんが爲の故に。而も我れ福薄くして身を賣るに售れずと。婆羅門是の善男子に語るらく、我れ人を須ひざるも、我れ天を祠らんと欲す、當に人心人血人髓を用ふべし、汝能

く賣るや不やと。是の時に是の善男子、復憂愁せず、其の心和悦して是の婆羅門に語るらく、汝の須ふる所、我れ盡く相與へんと。婆羅門言く、汝何の價を須ふると。答へて言く、汝の意に隨て我に與へよと。卽時に是の善男子は右手に利刀を執り左臂を刺して血を出し、右髀の肉を割き、復骨を破て髓を出さんと欲す。我れ閣上に在りて遙に是の事を見、我れ爾の時に是の念を作す、是の人何の故に其の身を困苦する、我れ當に往きて問ふべしと。卽ち閣を下り往きて善男子に問ふ、汝何の因緣の故に自ら其の身を困苦すると。是の善男子我に答へて言く、姉、我れ法の爲の故に般若波羅蜜及び曇無竭菩薩說法者を供養せんと欲す、我れ貧窮にして所有無く、金銀瑠璃硨磲碼碯珊瑚琥珀玻瓈眞珠華香妓樂無し、姉、我れ法を供養せんが爲の故に自ら其の身を賣るに、今買ふ者を得たり、人心人血人髓を須ふと、我れ是の價を用て、般若波羅蜜及び曇無竭菩薩說法者を供養せんとすと。我是善男子に問ふ、汝今自ら身より心血髓を出して曇無竭菩薩を供養し、何の功德を得んと欲すると。是の善男子の言く、曇無竭菩薩は當に我が爲に般若波羅蜜及び方便力を說くべし、此は是れ菩薩の學すべき所、菩薩の作すべき所、菩薩の行ずべき所の道なり、我れ當に是の道を學し、阿耨多羅三藐三菩提を得、一切衆生の爲に依止と作るべし、我れ當に金色身三十二相八十隨形好丈光明無量明、大慈大悲大喜大捨四無所畏四無礙智、佛の十力十八不共法、六神通不可思議淸淨戒禪定智慧を得、阿耨多羅三藐三菩提を得、諸法の中に於て一切無礙の智見を得、無上法寶を以て一切衆生に分布し與ふべし。是の如き

等の微妙の大法なれば、我れ當に彼に從て之を得べしと。我れ是の微妙不可思議の法、諸佛の功德を聞き、其の大願を聞きて、我れ心に歡喜し、是の念を作す、是の清淨微妙の大願甚だ希有なり、乃ち是の如く是の一一の法の爲の故に、如恒河沙等の身命を捨つべし。善男子は法の爲に能く苦行難事を受け、謂ゆる身命を惜まず、我れ多く妙寶有り、云何が願を生せざらん、勤めて是の如きの法を求め、般若波羅蜜及び曇無竭菩薩を供養せんと。我れ是の如く思惟し已りて薩陀波崙菩薩に語る、汝善男子、其の身を困苦すること莫れ、我れ當に我が父母に白して、多く汝に金銀瑠璃硨磲碼碯、珊瑚琥珀玻瓈眞珠、華香瓔珞塗香末香、衣服旛蓋及び諸の妓樂を與へ、般若波羅蜜及び曇無竭菩薩說法者を供養すべし。我れ亦父母に諸の侍女と共に汝と倶に去て曇無竭菩薩說法者を供養せんことを求め、汝と共に諸の善根を植ゑ、是の如き等の微妙清淨の法を得んが爲に、汝の說く所の如くせんと。父母、今我れ幷に五百の侍女、先に給ふ所の者を聽したまへ、亦我に衆の妙華香瓔珞塗香末香、衣服旛蓋妓樂、金銀瑠璃供養の具を持て、薩陀波崙菩薩と共に去て、般若波羅蜜及び曇無竭菩薩說法者を供養せんことを聽したまへ、是の如き等の清淨微妙の諸佛の法を得んが爲の故に。爾の時に父母、女に報へて言く、「汝の讃ずる所の者は希有にして及び難き說なり。是の善男子は法の爲に精進して大に法相を樂む、及び是れ諸佛法不可思議なり、一切世間の最第一たり、一切衆生の歡樂の因緣なり、是の善男子は是の法の爲の故に大誓莊嚴す。我等聽さん、汝往きて曇無竭菩薩を見て親近し供養せよ、汝

大心を發し、佛法を得んが爲の故に是の如く精進す。我等云何が當に隨喜せざるべけんや」と。是の女は曇無竭菩薩を供養せんが爲の故に、聽許を蒙むることを得て、父母に報へて言く、「我等も亦是に隨つて心歡喜す、我れ終に人の善法の因緣を斷たず」と。

(三)是の時に長者女は七寶車五百を莊嚴し、身及び侍女種種の寶物莊嚴供養の具を乘せ、種種水陸の生華及び金銀寶華衆色寶衣、好香澤香瓔珞及び衆味飲食を持ちて、薩陀波崙菩薩五百侍女と共に各一車に載せ、恭敬し圍遶し、漸漸に東に去り、衆香城を見るに七寶の莊嚴、七重圍遶し、七寶の塹、七寶行樹、皆亦七重なり、其の城の縱廣十二由旬なり、豐樂安靜にして甚だ喜樂すべく、人民熾盛なり。五百市里街巷相當り、端嚴なること畫の如く、橋津は地の如く、寬博清淨にして遙に衆香城を見る。既に城中に入りて曇無竭菩薩の坐を見るに、高臺法座上、無量百千萬億の衆に恭敬圍遶せられて說法す。薩陀波崙菩薩は曇無竭菩薩を見る時、心卽ち歡喜し、譬へば比丘の第三禪攝心安隱に入るが如し。見已りて是の念を作す。我等儀應に車に載りて曇無竭菩薩に趣くべからずと。是の念を作し已りて下車し歩して進む。長者女并に五百侍女も皆亦下車す。薩陀波崙菩薩は長者女及び五百の侍女と與に衆寶莊嚴し、圍遶恭敬し、倶に曇無竭菩薩の所に到る。爾の時、曇無竭菩薩摩訶薩は七寶臺有つて赤牛頭栴檀以て莊嚴と爲し、眞珠羅網以て臺上を覆ひ、四角に摩尼珠寶を懸け、以て燈明と爲し、及び四寶の

【三】長者女父母の許諾を得て常啼と倶に法涌菩薩般若を供養するを明す。

香爐には常に名香を燒く、般若波羅蜜を供養せんが爲の故に。其の臺の中に七寶の大牀有りて、四寶の小牀を重ねて其の上に敷き、黃金を以て般若波羅蜜を牒書して小牀の上に置き、種種の旛蓋莊嚴もて其の上に垂覆す。薩陀波崙菩薩及び諸の女人は是の妙臺の衆寶嚴飾を見、及び釋提桓因の無量百千萬の諸天と與に。天の曼陀羅華、碎末栴檀磨衆寶屑を以て、以て臺上に散じ、天の妓樂を虛空中に於て鼓し、此の臺を娛樂するを見る。爾の時、薩陀波崙菩薩、釋提桓因に問ひて言く、「憍尸迦、何の因緣の故に無量百千萬の諸天と與に、天の曼陀羅華、碎末栴檀磨衆寶屑を以て、以て臺上に散じ、天の妓樂を虛空中に於て鼓し、此の臺を娛樂するや。」釋提桓因答へて言く、「汝善男子、知らずや、此は是れ摩訶般若波羅蜜なり。是れ諸の菩薩摩訶薩の母にして能く諸佛を生じ、菩薩を攝持す、菩薩は是の般若波羅蜜を學して一切諸功德を成就し、諸佛法一切種智を得」と。是の時に薩陀波崙卽ち歡喜悅樂して釋提桓因に問ひて言く、「憍尸迦、是の般若波羅蜜は諸の菩薩摩訶薩の母にして、能く諸佛を生じ、菩薩を攝持す。菩薩は是の般若波羅蜜を學して一切の功德を成就し、諸佛法一切種智を得て、今何處に在りや。」釋提桓因言く、「善男子、是の臺の中に七寶の大牀有り、四寶の小牀重ねて其の上に敷く、黃金牒を以て般若波羅蜜を書し、小牀の上に置き、曇無竭菩薩、七寶の印を以て之に印す、我等は能く開いて以て汝に示すこと能はず」と。是の時、薩陀波崙は長者女及び五百の侍女と與に供養具を取り、華香瓔珞旛蓋を分て二分と作し、一分もて般若波羅蜜に供養し、一分もて法座上の曇無竭菩薩に供養

す。爾の時、薩陀波崙菩薩は五百の女人と與に華香瓔珞旛蓋妓樂及び諸の珍寶を持て、般若波羅蜜を供養し已り、然して後曇無竭菩薩の所に向ひ、到り已りて、曇無竭菩薩の法座上に在りて坐するを見、諸の華香瓔珞擣香澤香、金銀寶華旛蓋寶衣を以て、曇無竭菩薩の上に散じ、法の爲の故に供養す。是の時に諸の華香寶衣、曇無竭菩薩の上に、虛空中に於て、化して華臺と成り、碎末栴檀寶屑、金銀寶華、化して寶帳と成り、寶帳の上に散ずる所の種種の寶衣化して寶蓋と爲り、寶蓋の四邊に諸の寶旛を垂る。薩陀波崙及び諸女人は是の曇無竭菩薩の作す所の變化を見て大に歡喜し、是の念を作す、未曾有なり、曇無竭大師の神德乃ち爾るなり。菩薩道を行ずる時の神通力なほ能く是の如し、何に況んや阿耨多羅三藐三菩提を得る時をやと。是の時に長者女及び五百の女人は淸淨信心し、曇無竭菩薩を敬重し、皆阿耨多羅三藐三菩提の心を發し、是の願を作して言く、「曇無竭菩薩の如く菩薩の諸の深法を得、曇無竭菩薩の如く般若波羅蜜を供養し、曇無竭菩薩の如く大衆の中に於て般若波羅蜜の義を演說し顯示し、曇無竭菩薩の如く般若波羅蜜方便力を得、神通を成就し、菩薩事の中に於て自在を得ること、我も亦當に是の如くすべし」と。是の時に薩陀波崙菩薩及び五百の女人は、華香寶物もて般若波羅蜜及び曇無竭菩薩を供養し已りて、頭面して曇無竭菩薩を禮し、合掌恭敬して、一面に立ち、一面に立ち已りて、曇無竭菩薩に白して言さく、「我れ本般若波羅蜜を求むる時に、空閑林中に於て空中の聲を聞けり、言く、善男子、是れより東に行け、當に般若波羅蜜を聞くことを得べしと。我れ是の語

を受けて東に行く、東に行くこと久しからずして是の念を作す、我れ何ぞ空中の聲に問はざりし。我れ當に何處に去り、是を去ること遠近なるべき、當に誰に從ひて聞くべきと。我れ是の時に大に憂愁啼哭す。是の處に於て住すること七日七夜、憂愁するが故に乃至飮食を念はず、但だ我れ何時當に般若波羅蜜を聞くことを得べきかを念ず。我れ是の如く憂愁して一心に般若波羅蜜を念じ、佛身の虛空中に在るを見る。我に語て言く、善男子、汝の大欲大精進の心を放捨すること莫れ、是の大欲大精進の心を以て是れより東に行け。此を去ること五百由旬にして城有り、衆香と名く。是の中に菩薩摩訶薩有りて曇無竭と名く。是の人の所に從ひて當に般若波羅蜜を聞くことを得べし。是の曇無竭菩薩は世世に是れ汝の善知識にして、常に汝を守護すと。我れ佛より敎誨を受け已りて便ち東に行き、更に餘念無く、但だ我れ何時當に曇無竭菩薩の我が爲に般若波羅蜜を說くを見るべきやと念ずるのみ。我れ爾の時、中道に住して一切法の中に於て無礙の智見を得、觀諸法性等諸三昧の現に前に在ることを得。是の三昧に住し已りて、十方無量阿僧祇の諸佛の是の般若波羅蜜を說けるを見る。諸佛は我を讃じて言く、善い哉善い哉、善男子、我れ本般若波羅蜜を求むる時に諸三昧を得たること、亦汝の今日の如し、是の諸三昧を得已りて徧く諸佛法を得たりと。諸佛は我が爲に廣く法を說き、我を安慰し已りて忽然として現せず。我れ三昧より起ちて是の念を作す、諸佛は何處より來り、去て何所に至ると。我れ諸佛を見ざるが故に大に愁憂す。復是の念を作す、曇無竭菩薩は、先佛を供養して衆の善根を植

ゐ、久しく般若波羅蜜を行じ、及び方便力を以て、菩薩道の中に於て自在を得たり。是れ我が善知識にして我を守護す。我れ當に曇無竭菩薩に是の事を問ふべし、諸佛は何所より來り、去て何所に至ると。我れ今大師に問ふ、是の諸佛は何處より來り、去て何處に至る。大師、我が爲に諸佛の從て來る所と去て之く處とを說き、我れをして知ることを得、知り已りて亦常に諸佛を見ることを離れざらしめよ。」

(一)曇無竭品第八十九

(二)爾の時、曇無竭菩薩摩訶薩は薩陀波崙菩薩に語て言く、「善男子、諸佛は從て來る所無く、去て亦至る所無し。何を以ての故に。(三)諸法如は不動相なり、諸法如は卽ち是れ佛なればなり。善男子、無生の法は來る無く去る無し、無生の法は卽ち是れ佛なればなり。無滅の法は來る無く去る無し、無滅の法は卽ち是れ佛なればなり。實際の法は來る無く去る無し、實際の法は卽ち是れ佛なればなり。空は來る無く去る無し、空は卽ち是れ佛なればなり。善男子、無染は來る無く去る無し、無染は卽ち是れ佛なればなり。寂滅は來る無く去る無し、寂滅は卽ち是れ佛なればなり。虛空性は來る無く去る無し、虛空性は卽ち是れ佛なればなり。善男子、是の諸法を離れては更に佛無し。諸佛如と諸法如とは一如にして分別無し。善男子、是の如は常一にして無二無三なり、(四)諸數法を出で、所有無きが故に。譬へば春末月の日中熱時に、人有り焰の動ずるを見て之を逐ひ、水を求めて得んと望むが如し。汝の意に於て云何、是の水は何の池何の山何の泉より來り、今何所にか去る、若は東海西海南海北海に入らんや。」薩陀波崙言さく、「大師、焰の中尙ほ水無し、云何

【一】品目、又法尙品に作る。前品に續き曇無竭常啼に說法の物語りなり。大論第九十九。

【二】諸佛諸法一如にして來去なきを明す。常啼諸法空を知るも佛身を尊重するが故に空を觀ずる能はざればなり。

【三】諸法如。諸法實相卽ち性空の法門なり。

【四】諸數法等。無二無三にして無差別なる所以を明す。憶想分別取相名字中に數あり、如實にこれあることなし。

が當に來る處去る處有るべき。」曇無竭菩薩は薩陀波崙菩薩に語りて言く、「善男子・愚夫無智は熱渇の爲に逼められ、焰の動ずるを見て水無きに水想を生ず。善男子、若し人有りて、諸佛來る有り、去る有りと分別せば、當に知るべし、是の人は皆是れ愚夫なりと。何を以ての故に。善男子、諸佛は(五)色身を以て見るべからず、諸佛の法身は來る無く去る無く、諸佛の來る處去る處も亦是の如し。善男子、譬へば幻師の種種の、若は象、若は馬、若は牛、若は羊、若は男、若は女を幻作するが如し。是の如き等の種種の諸物、汝の意に於て云何、是の幻事何處より來り、去て何所にか至る」。薩陀波崙菩薩言さく、「大師、幻事は實無し、云何が當に來る處去る處有るべき。」「善男子、是の人の佛來る有り去る有りと分別するも亦是の如し。善男子、譬へば、夢中に若は象、若は馬、若は牛、若は羊、若は男、若は女を見るが如し。汝の意に於て云何、夢中に見る所、來る處有り、去る處有りや不や。」薩陀波崙言さく、「大師、是の夢中に見る所は虛妄なり、云何が當に來去有るべき。」「善男子、是の人の佛來る有り去る有りと分別するも亦是の如し。善男子、諸法は夢の如しと佛は說きたまふ。若し衆生有りて、(六)是の法義を知らざれば、名字色身を以て是れ佛なりとし、是の人は諸佛來る有り去る有りと分別す。諸法の實際相を知らざるが故に皆是れ愚夫無智の數なり。是の諸人は數數五道を往來して般若波羅蜜を遠離し、諸佛法を遠離す。善男子、佛は諸法は幻の如く

【五】色身法身は佛身の二種なり、法身眞佛にして色身相好を佛とするは世諦の爲のみなるを說く。

【六】是の法義を 麗本「諸法は夢の如しと」に作る。

夢の如しと說きたまふ。若し衆生有りて如實に知れば、是人は諸法を分別して若は來り若は去り、若は生じ若は滅すとせず。若し諸法を分別して若は來り若は去り、若は生じ若は滅すとせざれば、則ち能く佛の說きたまふ所の諸法の實相を知るなり。是の人は般若波羅蜜を行じて、阿耨多羅三藐三菩提に近づく、名けて眞の佛弟子と爲す。(七)虛妄にして人の信施を食せず、是の人は應に供養を受けて、世間の福田と爲るべし。善男子、譬へば大海水の中の諸寶の東方より來らず、南方西方北方四維上下より來らず。(八)衆生の善根の因緣の故に、海此の寶を生じ、此の寶も亦因緣無くして生ぜず、是の寶は皆因緣和合によりて生じ、是の寶若し滅するも亦去て十方に至らず、諸緣合するが故に有り、諸緣離るるが故に滅するが如し。善男子、諸佛身も亦是の如く、本業の因緣によりて果報生じ、生ずる時十方より來らず、滅する時も亦去て十方に至らず、但だ諸緣合するが故に有り、諸緣離るるが故に滅す。善男子、譬へば(九)箜篌の聲を出す時來る處無く、滅する時去る處無く、衆緣和合するが故に生ず。槽有り頸有り、皮有り絃有り、柱有り棍有り、人の手を以て之を鼓する有り、衆緣和合して而して是の聲有り。是の聲も亦槽より出でず、頸より出でず、皮より出でず、絃より出でず、棍より出でず、亦人の手より出でず、衆緣和合して爾して乃ち聲有り。是の因緣離るる時も亦去る處無きが如し。善男子、諸佛身も

【七】虛妄……食。畜生等の布施功德あるも有邊にして生死を度せざるを虛食とし、賢聖の信施を受くるを不虛食と云ひ、聖者を應供と云ふ。

【八】衆生の善根等。器世界も業報所招とすれば海に寶あるは天下の衆生の福德に因る。

【九】箜篌　くだらごと。

亦是の如く無量功德の因緣によりて生じ、一因一緣一功德によりて生ぜず、亦因緣無くして有らず、衆緣和合するが故に有り。諸佛身獨り一事によりて成ぜず、來りて從る所無く、去て至る所無し。善男子、當に是の如く諸佛の來相去相を知るべし。善男子、亦當に一切法の來去無きの相を知るべし。汝若し諸佛及び諸法の來る無く去る無く、生ずる無く滅する無きの相を知らば、必ず阿耨多羅三藐三菩提を得、亦能く般若波羅蜜及び方便力を行ぜん。」

(一〇)爾の時、釋提桓因は天の曼陀羅華を以て薩陀波崙菩薩摩訶薩に與へ、是の言を作す、「善男子、是の華を以て曇無竭菩薩摩訶薩を供養せよ、我れ當に汝を守護し供養すべし。所以は何ん、汝の因緣力の故に、今日百千萬億の衆生を饒益し、阿耨多羅三藐三菩提を得しむればなり。善男子、是の如きの善人甚だ遇ひ難しと爲す。一切の衆生を饒益せんが爲の故に、無量阿僧祇劫に諸の勤苦を受く。」薩陀波崙菩薩摩訶薩は釋提桓因の曼陀羅華を受け、曇無竭菩薩の上に散じて白して言さく、「大師、我れ今日より身を以て師に屬し供給し供養せん。」是の如く白し已りて合掌して師の前に立つ。

(一一)是の時に長者女及び五百の侍女は薩陀波崙菩薩に白して言さく、「我等も今日より亦身を以て師に屬し、我等是の善根の因緣を以ての故に、當に是の如きの法を得、亦師の得たる所の如く、師と共に世世に諸佛を供養し、世世に常に師を供養せん」と。是の時、薩陀波崙菩薩、長者女及び五百の女人に語

【一〇】帝釋、常啼を讃歎して天華を捧ぐるを以て、受けて曇無竭に供養す。

【一一】長者女及び五百侍女身を以て供養す。

るらく、「若し汝等、至誠心を以て我に屬すれば、我れ當に汝を受くべし」と。諸女言さく、「我等至誠心を以て師に屬し、當に師の敎に隨はん」と。是の時、薩陀波崙菩薩は、長者女及び五百の女人と、并に諸の莊飾する寶物、上妙の供具及び五百乘の七寶車をもて曇無竭菩薩に奉上し、白して言さく、「大師、我れ是の五百女人を持て大師に奉給せしめ、是の五百乘車もて師の所用に隨へん」と。爾の時、釋提桓因は薩陀波崙菩薩を讃じて言く、「善い哉善い哉、善男子、菩薩摩訶薩は一切の所有を捨つること應に是の如くすべし。是の如く布施せば、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得、是の如く說法人を供養することを作さば、必ず能く般若波羅蜜及び方便力を聞くことを得ん。過去の諸佛の本菩薩道を行ずる時も亦是の如く布施中に住し般若波羅蜜及び方便力を聞くことを得て、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。」

（一）爾の時、曇無竭菩薩は薩陀波崙菩薩をして、善根を具足せしめんと欲するが故に、五百乘車及び長者女及び五百侍女を受け、受け已りて還て薩陀波崙菩薩に與ふ。是の時、曇無竭菩薩は說法し、日沒に起ちて宮中に入る。薩陀波崙菩薩摩訶薩是の念を作す、我れ法の爲の故に來る、坐臥すべからず、當に（二）二儀を以てすべし、若は行き若は立て、以て法師の宮中より出でて說法するを待たんと。爾の時、曇無竭菩薩は七歲一心に無量阿僧祇菩薩三昧の中に入り、及び般若波羅蜜方便力を行ず、薩陀波崙菩薩は七歲經行し住立して坐せず臥せず、睡眠有ること無く、欲恚惱

【一】曇無竭七歲入定中の事件を述ぶ。

【二】二儀。行と立とを指す、後文の經行と住立となり。

心無く、味に著せず、但だ曇無竭菩薩摩訶薩の何時當に三昧より起ち、出でて說法すべきかを念ずるのみ。薩陀波崙菩薩は七歲を過ぎ已りて、是の念を作す、我れ當に曇無竭菩薩摩訶薩の爲に說法の座を敷くべし、曇無竭菩薩摩訶薩當に上に坐して說法せん、我れ當に灑掃清淨にし、種種の華を散じて是の處を莊嚴せん、曇無竭菩薩摩訶薩の當に般若波羅蜜及び方便力を說くべきが爲の故にと。是の時に薩陀波崙菩薩は長者女及び五百の侍女と與に、曇無竭菩薩摩訶薩の爲に七寶牀を敷き、五百女人は各上衣を脫ぎ以て座上に敷き、是の念を作す、曇無竭菩薩摩訶薩は當に此の座上に坐し、般若波羅蜜及び方便力を說くべしと。薩陀波崙菩薩は座を敷き已り、地に灑ぐ水を求めて而も得ること能はず。所以は何かん、惡魔隱蔽して水をして現ぜざらしむればなり。魔是の念を作す、薩陀波崙菩薩は水を求めて得ず、阿耨多羅三藐三菩提に於て、乃至一念劣心異心を生ずれば、則ち智慧照さず、善根增さず、一切智に於て稽留する有らんと。爾の時、薩陀波崙菩薩是の念を作す、我れ當に自ら其の身を刺して血を以て地に灑ぎ、塵土の來りて大師を坌す無からしむべし。我れ何ぞ是の身を用ひん、此の身は必ず當に破壞すべし、我れ無始生死より以來、數數身を喪ふも未だ曾て法の爲にせずと。卽ち利刀を以て自ら刺し、血を出して地に灑ぐ。薩陀波崙菩薩及び長者女幷に五百侍女は皆異心無ければ、惡魔も亦便を得ること能はず。是の時に釋提桓因は是の念を作す、未曾有なり、薩陀波崙菩薩は法を愛し、乃爾刀を以て自ら刺し、血を出して地に灑ぐ、薩陀波崙及び衆の女人の心動轉せざれば、惡魔破

旬其の善根を壞すること能はず、其の心堅固にして大莊嚴を發し、身命を惜まず、深心を以て阿耨多羅三藐三菩提を求め、當に一切衆生の無量生死の苦を度せんと欲すと。釋提桓因は薩陀波崙菩薩を讚じて言く、「善い哉善い哉、善男子。汝の精進力大堅固にして動じ難く不可思議なり。汝の法を愛し法を求むる最も無上なりと爲す。善男子、過去の諸佛も亦是の如く深心を以て法を愛し、法を惜み、法を重じ、諸の功德を集めて阿耨多羅三藐三菩提を得たり」と。薩陀波崙菩薩是の念を作す、我れ曇無竭菩薩摩訶薩の爲に法座を敷き、掃灑淸淨已に訖る、當に何處に於て好名華を得、此の地を莊嚴すべき、若し曇無竭菩薩摩訶薩、法座上に坐して說法する時も、亦當に散華もて供養すべしと。釋提桓因薩陀波崙菩薩の心に念ずる所を知り、卽ち三千石の天の曼陀羅華を以て薩陀波崙に與ふ。薩陀波崙は華を受け已りて、半を以て地に散じ、半を留めて曇無竭菩薩摩訶薩の法座上に坐して說法したまふ時を待て、當に供養すべしとす。爾の時曇無竭菩薩摩訶薩は七歲を過ぎ已りて諸三昧より起ち、般若波羅蜜を說かんが爲の故に、無量百千萬の衆の與に恭敬し、圍遶せられて、法座上に往きて坐す、薩陀波崙菩薩の曇無竭菩薩摩訶薩を見る時、心に悅樂を得ること、譬へば比丘の第三禪に入るが如し。

【四】曇無竭重れて般若の相を說く。大論第一百卷。

（四）爾の時、薩陀波崙菩薩及び長者女幷に五百の侍女は、曇無竭菩薩摩訶薩の所に到りて、天の曼陀羅華を散じ、頭面を禮し畢り、退いて一面に坐す。曇無竭菩薩は其の坐するを見已りて薩陀波崙菩薩

に告げて云く、「善男子、諦に聽き、諦に受けよ、今當に汝が爲に般若波羅蜜相を說くべし。善男子、諸法等しきが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦等しと。諸法離るるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦離ると。諸法不動なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦不動なりと。諸法無念なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無念なりと。諸法無畏なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無畏なりと。諸法一味なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦一味なりと、諸法無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。諸法無生なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無生なりと。諸法無滅なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無滅なりと。虛空無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。大海水無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。須彌山莊嚴なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦莊嚴なりと。虛空無分別なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無分別なりと。色無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。受想行識無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。地種無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。水種火種風種無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。空種無邊なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無邊なりと。如金剛等しきが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦等しと。諸法無分別なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無分別なりと。諸法性不可得なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜性も亦不可得なりと。諸法無所有等なるが故に當に知る

べし、般若波羅蜜も亦無所有等なりと。諸法無作なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦無作なりと。諸法不可思議なるが故に當に知るべし、般若波羅蜜も亦不可思議なりと。」是の時、薩陀波崙菩薩摩訶薩は卽ち坐處に於て諸三昧を得たり。謂ゆる（一五）諸法等三昧、諸法離三昧、諸法無畏三昧、諸法一味三昧、諸法無邊三昧、諸法無生三昧・諸法無滅三昧、虛空無邊三昧、大海水無邊三昧、須彌山莊嚴三昧、虛空無分別三昧。色無邊三昧、受想行識無邊三昧、地種無邊三昧、水種火種風種空種無邊三昧、如金剛等三昧、諸法無分別三昧、諸法不可思議三昧、是の如き等の六百萬の諸三昧門を得たり。

（一六）爾の時、佛須菩提に告げたまはく、『我れ今三千大千世界の中に於て、諸の比丘僧の與めに圍遶せられ、是の相を以て、是の像貌を以て、是の名字を以て般若波羅蜜を說き、薩陀波崙は是の六百萬の三昧門を得たるが如く、東方南方西方北方四維上下を見るに、如恒河沙等の三千大千世界の中の諸佛、諸比丘の與めに恭敬し圍遶せられ、是の如きの相を以て、是の像貌を以て、是の名字を以て、是の摩訶般若波羅蜜を說くも亦是の如し。薩陀波崙菩薩は是れより已後、多聞知慧不可思議にして大海水の如く、常に諸佛を離れず、有佛の國中に生じ、乃至夢中にも未だ曾て佛を見ざる時あらず、一切の衆難皆悉く已に斷ちて、在所の佛國に願に隨て往生す。須菩提當に知るべし、是の般若波

【一五】諸法等三昧等。前述の諸法等しきが故に般若も亦平等なり等の義に安住するを云ふなり。

【一六】前來二品に涉りて廣說せる常啼の因緣の如く、今佛にも諸佛にも同じきを明す。正に是れ斯法の奇特にして尊重すべきを敍說し終るものと云ふべし。

羅蜜の因縁は、能く菩薩摩訶薩の一切の功德を成就し、一切種智を得と。是を以ての故に、須菩提、諸の菩薩摩訶薩にして、若し六波羅蜜を學せんと欲し、深く諸佛の智慧に入らんと欲し、一切種智を得んと欲すれば、應に是の般若波羅蜜を受持し讀誦し正憶念し、廣く他人の爲に說き、亦經卷を書寫し供養し尊重し讚歎し、香華乃至妓樂もてすべし。何を以ての故に。般若波羅蜜は、是れ過去未來現在十方諸佛の母にして、十方諸佛の尊重する所なるが故に。」

(一)囑累品第九十

(二)爾の時、佛阿難に告げたまはく、『汝の意に於て云何、佛は是れ汝の大師なりや不や、汝は是れ佛の弟子なりや不や。』阿難言さく、『世尊、佛は是れ我が大師なり、(三)修伽陀は是れ我が大師なり、我は是れ佛の弟子なり。』佛言はく、『是の如し是の如し、我は是れ汝の大師なり、汝は是れ我が弟子なり。若し弟子の(四)作すべき所の者の如く、汝已に作し竟る。阿難、汝の身口意慈業を用て我に供養し供給し、亦常に我が意の如くして、違失有ること無し。阿難、我が身現在せば、汝の愛敬し供養し供給する心常に清淨なり。(五)我れ滅度して後、是の一切の愛敬供養供給の事、當に般若波羅蜜を愛敬し供養すべし、乃至第二(六)第三、般若波羅蜜を以て汝に囑累す。阿難、汝忘るること莫れ、失ふこと莫れ、(七)最後斷種人と作ること莫れ。阿難、爾所の時に隨て般若波羅蜜は世に在り。當に知るべし、爾所の時に佛の世に在して說法する有りと。阿難、若し般若波羅蜜を書し受持し讀誦し正憶念し、人の爲に廣說し恭敬し尊重し讚歎し、華香旛蓋寶衣燈燭種種もて供養する有らば、當に知るべし、是の人は

【一】本品は名の如く般若を付囑して佛子は斯法を尊重護持すべきを說く、一經の結說にして流通分なり。龍樹は此に滅後の結集弘通を述べて經意輕からざるを明す。

【二】正しく阿難に付囑す、阿難は今佛の常侍にして記憶第一とせらるればなり。

【三】修伽陀 (Sugata)。善逝と譯す、佛の尊稱の一。

【四】作すべき所。善の三業を以て師に供給す。

【五】滅後は在世に師に事ふる所を以て法に事へよ。

【六】第三。三反囑累慇懃を表

見佛を離れず、聞法を離れず、爲に常に佛に親近すと。』

〔八〕佛般若波羅蜜を說き已りたまふや、彌勒等の諸の菩薩摩訶薩、慧命須菩提、慧命舍利弗、大目犍連、摩訶迦葉、富樓那彌多羅尼子、摩訶拘絺羅、摩訶迦旃延、阿難等、并に一切の大衆、及び一切世間の諸天人、乾闥婆、阿修羅等佛の說きたまふ所を聞きて、皆大に歡喜せり。

國譯摩訶般若波羅蜜經 終

囑累品第九十

す。

【七】最後斷種人。子孫相續せざるを云ふ。

【八】在會大衆の歡喜を明す。人天の妙法般若の廣說此に終る。

大般若波羅蜜多經第十般若理趣分解題

大唐三藏法師玄奘譯

此に譯する所は玄奘三藏の翻譯せる大般若經第十會般若理趣分卽ち第五百七十八卷（縮刷藏經日帙九、七七―八一）にして、附載する原文卽ち是なり。譯體凡そ前出諸本に倣ふを以て敢て贅せず。

譯者玄奘三藏に關しても、大慈恩寺三藏法師傳、唐續高僧傳等に詳なれば敢て辨せず。大般若譯出に際し唐龍朔三年（西紀六六三）玉華宮に於て譯出せる所、西明寺玄則は序一章を作る、曰く般若理趣分は蓋し諸會の旨歸を覈し、積篇の宗緒を綰ぬく一軸單譯なりと雖も、而も諸分を具該す、若し此旨に留連し、斯文を咀詠せずば、何ぞ能く唔を遙津に指し奇を密藏に搜らんやと。譯出の當時大般若の經要として重んぜられたるを察すべきなり。此を以て般若を尊重するもの日夕持誦する所となり、法相天台禪家の間に行はる。類本あり、密部に於ける要籍となる。今此に類本と梵本と經意等とを略說して解題と爲す。

【本經の類本】 大品般若の解題中に第十會の別譯として略表せる如く本經の類本五種あり。

一　實相般若波羅蜜經一卷、唐長壽二年（西紀六九三）東都大周東寺に於て、達磨流支三藏（菩提流志）譯す（成三、四六）。

二　金剛頂瑜伽理趣般若經一卷、唐金剛智三藏中天に於て譯す（閏八、一四）。

三　大樂金剛不空眞實三摩耶經般若波羅蜜多理趣品一卷、唐不空三藏大興善寺に於て譯す（閏八、一）。

四　徧照般若波羅蜜多經一卷、宋（西紀九八〇―一〇〇〇）施護譯す（成三、四九）。

五　佛說最上根本大樂金剛不空三昧大敎王經七卷、宋法賢譯す（成三、一三）。

この諸本中一と本經とは同本異譯と稱せらるるも原本幾分か同じからざるが如し。二は特に梵本に依て中天に於て翻譯せりと稱するも、本經に參照して一に模したる翻案の觀あり、全く獨立せる別譯とは認め難し。三は一と二との別譯と云はば云ふべし。四は原本別異なるが如し。五は三と同本異譯にして廣略の差なりと云ふも、其差頗る大なるは單に同本異譯と云ふもの不當なるが如し。然れども諸本大都同一にして、金剛手菩薩に對して般若を辨ずるものなるが、密敎敎意幾分濃淡の別あると經文の具略とは諸本差別する點なるも類本たるは明かなり。濃淡具略異同の精査は、聖經變遷の迹を察せしむるものあるも、今略して論せず。

諸類本中密敎家の重んずる所となり、單に理趣經として行はるるは第三なり。大本金剛頂經第六會の要略なりと稱す。不空の理趣釋二卷（閏八、四―十三）あり、解釋の指南となる。叉十七聖大曼荼

羅義述一卷（閏八、十三）あり。我國には傳教弘法慈覺智證等將來弘通せり。而して傳教は此の理趣經と今の理趣分と同本異譯とし、安然は同聽異聞とす、弘法に四種の理趣經開題、眞實經文句、實相般若經答釋あるも、諸本同異を論せず、顯密發別すとするものならんか。

【本經の原本】 同類の異本多樣なるは原本種種變化せるを證するも、理趣分の梵本今傳はらず。曩に獨逸のロイマン氏は露英兩國に分藏せられたる理趣般若の梵文寫本を公刊し、大正六年に梵藏漢對照般若理趣經として智山勸學院の編定開版せるものあるのみ。即ち Prajñā-pāramitā-naya-śatapañcaśatikā 是なり。大體理趣分の更に略なるものと見て大過なし。本經末章の三咒等存せず。但原寫本散在せしものなれば將來完全なる原本發見せられなば、或は初中後具足するに至る時あらん。

【本經の經意】 顯密の所論を離れて本經を約說せば即空の妙有を示し、即事而眞を明すものと云ふべし。取著を離れんが爲に般若を學して、偏空に墮し方便を失ふは、般若を學する所以に非ず。大覺を證せんが爲に正觀を行じて、現實を離れ神怪に陷るは、大行を修する所以に非ず。私利我執を沒し、大樂眞實に動くこと清淨ならば、念念の所作皆是れ無作の大行なり、貪欲たり瞋恚たり愚癡たるもの、大恩たり斷捨たり勝慧たるもの、豈他あらんや。經意の綱格は顯密異るなきも、理觀を愛する者は般若を論ずると即空を觀ずると、敎禪俱に理趣分に傾き、事相を好む者は理趣會十七尊の曼荼羅となり、五部俱會の圓壇となり、滅罪、敬愛、息災の修法となり、死人加持の儀軌となる、修相等く眞實經に基く。

理事顯密の別あるも、一法として眞佛ならざるなく、一行として佛行ならざるなきを得て經意に契ふと云ふべし。理趣分を以て般若諸會の旨歸積篇の宗緒とするも、理趣經を以て卽身成佛を闡明し、生佛一如を成就すとするも、事理幽玄に流るるものあり、立川の淫蕩、野干の放縱も此間に發す。仰ぎて聖教を熟讀し、俯して自行を審判し、外先哲の指南に斟酌し、内清淨の大貪を成就すべきなり。

【末釋】理趣經は我國禪密通じて依用するを以て古來の註疏多く、四十餘家に上る。今二三を擧げて入門と爲す。道範の祕傳鈔、道寶の祕決鈔、杲寶の要鈔、近くは權田僧正の理趣經略詮等なり。般若の無相不可得を見るは國譯載する所の註解にて明らかならんも、密教よりすべき建壇表相に關しては混雜を恐れて說明を避けたれば、上述の諸書に求むべし。又呪文の梵音も集經等不同ありて煩雜となれるを以て省略せり。讀者これを諒せよ。

譯者　椎尾辨匡識

國譯大般若波羅蜜多經第十般若理趣分

(一)是の如く我れ聞きき。(二)一時(三)薄伽梵(四)妙に善く一切の如來の(五)金剛住持と(六)平等性智と種種希有の殊勝の功德とを成就し、已に能善く一切の如來(七)灌頂の寶冠を獲て三界を超過し、已に能善く一切の如來(八)徧金剛智大觀自在を得、已に一切の如來諸法を決定したまへる(九)大妙智印を圓滿することを得、已に善く一切の如來畢竟空寂(一〇)平等性印を圓證して、諸の能作所作の事業に於て、皆(一一)善巧に成辦して(一二)餘なきことを得たまへり。一切の有情種種の希願、其の罪なきに隨ひて、皆能く滿足して、(一三)已に善く三世平等にして、常に

【一】この一段序分なり。初句證信序、持經者この理分を正しく傳承するを示す。
【二】以下化序。一時は理趣分說法の時なり。
【三】薄伽梵（Bhagavān）世尊と譯す、教主釋尊を云ふ。
【四】妙に善く。以下如來成就の勝德を讚ず。五眼開發して五智圓滿せる五佛を出す。
【五】金剛住持。眞如法界に安住して一切の德を流出して自在なるを云ふ。
【六】平等性智。凡我破れ慧眼開きて平等を知る。
【七】灌頂の寶冠。法王位に登るを表す。
【八】徧金剛智大觀自在。佛智大圓鏡智。
【九】大妙智印。四智印別しては妙觀察智なり。
【一〇】平等性印。平等性智を表す。
【一一】善巧等。成所作智を表す。
【一二】餘なき。完全無盡なり。
【一三】已に善く等。密家はこれを法界體性智に配す。佛眼圓發して三世自他圓滿なり。
【一四】說經の處を明して第六天王宮とす。
【一五】無價末尼。最勝の如意寶珠。末尼は常途摩尼に作る。
【一六】寶鐸等。主として外部の裝飾なり。
【一七】綺蓋。きぬがさ。
【一八】繒旛。きぬばた。此等は

斷盡することなく、廣大徧照せる身語心性に安住すること猶金剛の若し。諸の如來に等しく無動無壞なり。(二四)是の薄伽梵、欲界の頂、他化自在天王宮の中に住せり。一切の如來常に所遊の處、咸な共に稱美したまへる大寶藏殿なり。其の殿は(二五)無價末尼の所成にして、種種の珍奇間雜して嚴飾せり。衆色交映して大光明を放つ。(二六)寶鐸金鈴處處に懸列し、微風吹き動かして和雅の音を出す。(二七)綺蓋、(二八)繒幡、華幢、綵拂、寶珠、瓔珞、半滿月等種種に雜飾し、用つて莊嚴せり。(二九)賢聖天仙の愛樂せる所、八十億の大菩薩と倶なりき。(三〇)一切皆(三一)陀羅尼門、(三二)三摩地門、(三三)無礙の妙辯を具せり。是くの如き等の類無量の功德あり。設ひ多劫を經て讃ずとも盡すこと能はざらん。(三四)其の名を金剛手菩薩摩訶薩、觀自在菩薩摩訶薩、虚空藏菩薩摩訶薩、金剛拳菩薩摩訶薩、妙吉祥菩薩摩訶薩、大空藏菩薩摩訶薩、發心卽轉法輪菩薩摩訶薩、摧伏一切魔怨菩薩摩訶薩と曰ふ。是の如きを上首として八百萬の大菩薩衆あり。前後に圍繞せられて正法を宣說したまふに、(三五)初も中も後も善く、文義巧妙(三六)純一圓滿にして淸白梵行なり。

主として室内の裝飾なり。

【一九】賢聖等。在會同聞の大衆を明す。

【三〇】一切等。賢聖の德を讃す。

【三一】陀羅尼門。種種の總持力なり。

【三二】三摩地門。種種の禪定力なり。

【三三】無礙等。法義詞辯四種の無礙自在辯なり。

【三四】別して八大菩薩を列ぬ。大日の八方侍衞の上首菩薩なり。

【三五】以下所說を讃す。初中後善は、首尾一味正法なるを云ふ。

【三六】純一圓滿は、純一乘を表す。諸經に散見する法句なり。

【三七】以下正宗分、十六章あり、今第一に理趣法門章菩薩句義を明す。密に大樂不空初集會品と云ふ。二あり、一は理趣

(二七)爾の時、世尊は諸の菩薩の爲に一切の法・甚深微妙(二八)般若の理趣、淸淨の法門を說きたまふ。此の門は卽ち是れ(二九)菩薩の句義なり。云何なるをか名けて菩薩の句義と爲す。謂ゆる(三〇)極妙樂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三一)諸見永寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。微妙適悅淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。渴愛永息淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三二)胎藏超越淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。衆德莊嚴淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三三)意極猗適淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。得大光明淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三四)身善安樂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。語善安樂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。意善安樂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三五)色蘊空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。受想行識蘊、空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三六)眼處空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。耳鼻舌身意處、空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。色處空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。聲香味觸法處、空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三七)眼界空寂淸淨の句義、是れ菩薩の句義なり。耳鼻舌身意界、空寂淸淨の句義、

の體相を明し、二は理趣鬪諍の功能を歎ず。

【二八】般若の理趣。諸法實相を云ふ。

【二九】菩薩の句義。前卷一一四頁大品般若第十二句義品は無所有を以て菩薩の要件とせり。今は積極的に句義を示す、文段六十九句義を擧ぐるも意一切法を示すに在り。

【三〇】極妙樂。一切の苦永く無し。淸淨は所有なく取著なく不可得なるなり。

【三一】諸見永寂。一切の邪見謬論盡く息む。渴愛永息は諸煩惱息みて惑とすべき者なし。

【三二】胎藏。母胎の子を藏むる如く因中果あり、因果不二を云ふ。衆德は果地の德を云ふ。

【三三】意極猗適。內取著なき故に意安適なり。得大光明は外大光明無量なるを云ふ。

是れ菩薩の句義なり。色界空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。聲香味觸法界・空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。眼識界空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。耳鼻舌身意識界、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三八)眼觸空寂清淨の句義　是れ菩薩の句義なり。耳鼻舌身意觸、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(三九)眼觸を緣と爲して生ずる所の諸受、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。耳鼻舌身意觸を緣と爲して生ずる所の諸受、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四〇)地界空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。水火風空識界、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四一)苦聖諦空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。集滅道聖諦空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四二)因緣空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。等無間緣、所緣緣、增上緣、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四三)無明空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。行識名色、六處觸受、愛取有生老死、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四四)布施波羅蜜多、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。淨戒、安忍、精進、靜慮、般若波羅蜜多、空寂清淨の句義、是れ菩

【三四】身善等。三業善清淨を擧ぐ。
【三五】色蘊等。色受想行識の五蘊空不可得を明す。
【三六】眼處等。十二處不可得を明す。
【三七】眼界等。十八界不可得を明す。
【三八】眼觸等。六觸不可得を明す。
【三九】六受身不可得を明す。
【四〇】六界空不可得を明す。
【四一】四聖諦不可得を明す。
【四二】四緣不可得を明す。因緣は親生果の法を云ひ、等無間は前後相續を云ひ、所緣は對境、增上は與力と不障との緣なり。
【四三】十二緣起法不可得を明す。
【四四】六度不可得を明す。
【四五】實法不可得を明す。
【四六】諸禪不可得を明す。

薩の句義なり。(四五)眞如空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。法界、法性、不虚妄性、不變異性、平等性、離生性、法定、法住、實際、虚空界、不思議界、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四六)四靜慮空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。四無量、四無色定、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四七)四念住空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。四正斷、四神足、五根五力、七等覺支、八聖道支、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四八)空解脱門空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。無相無願解脱門、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(四九)八解脱空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。八勝處、九次第定、十徧處空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(五〇)極喜地空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。離垢地、發光地、焰慧地、極難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(五一)淨觀地空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。種性地、第八地、具見地、薄地、離欲地、已辦地、獨覺地、菩薩地、如來地、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の陀羅尼門空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の三摩地門空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(五二)五眼空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(五三)六神通空寂清淨の句義、是

【四七】三十七道品不可得を明す。

【四八】三解脱門不可得を明す。

【四九】八解脱乃至十一切處不可得を明す。

【五〇】菩薩十地不可得を明す。

【五一】菩薩の通の十地不可得を明す。前巻一八二頁發趣品を見よ。

【五二】五眼。肉、天、慧、法、佛眼の空を明す。

【五三】六神通。天眼、天耳、神足、他心、宿命、漏盡の空を明す。

れ菩薩の句義なり。(五四)如來の十力空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。四無所畏、四無礙解、大慈大悲大喜大捨、十八佛不共法、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。三十二相空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。八十隨好空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。無忘失法空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。恒住捨性空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切智空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。道相智、一切相智、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の菩薩摩訶薩の行空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。諸佛無上正等菩提空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切(五五)異生の法空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の(五六)預流、一來、不還、阿羅漢、獨覺、菩薩、如來の法空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の善非善の法空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。一切の有記無記の法、有漏無漏の法、有爲無爲の法、世間出世間の法、空寂清淨の句義、是れ菩薩の句義なり。(五七)所以は何ん。一切の法は自性空なるを以ての故に、(五八)自性遠離なり。遠離に由るが故に、自性寂靜なり。寂靜に由るが故に、自性清淨なり。清淨に由るが故に、甚深の般若波羅蜜多最勝清淨なり。是の如きの般若波羅蜜多は、當に知るべし、即ち是れ菩薩の句義なり、諸の菩薩衆皆應に修學すべしと。(五九)佛是の如きの菩薩の句義、般若の理趣、清淨の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し此の一

【五四】以下佛力諸法の空を明す。
【五五】異生。迷界の衆生なり。
【五六】預流は須陀洹、一來は斯陀含、不還は阿那含、此の三、阿羅漢と合して聲聞の四果なり。

切の法、甚深微妙の般若の理趣・清淨の法門を聞くことを得て深く信受する者有らば、乃至當に（六〇）妙菩提の座に坐すべし。一切の障蓋皆染すること能はず。謂ゆる（六一）煩惱障、業障、報障多く積集すと雖も、而も染すること能はず。種種の極重惡業を造ると雖も、而も消滅し易くして惡趣に墮せず。若し能く受持して日日に讀誦し、精勤無間に理の如く思惟せば、彼れ此の生に於て定んで一切の法平等性、金剛等持を得、一切の法に於て皆自在を得て、恒に一切勝妙の喜樂を受けん。當に（六二）十六大菩薩の生を經て、定んで如來の執金剛の性を得、疾く無上正等菩提を證すべし。」

（六三）爾の時世尊は復偏照如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、一切の如來の寂靜法性、甚深の理趣、（六四）現等覺門を宣說したまふ。謂ゆる（六五）金剛平等性現等覺門とは、大菩提の堅實にして壞し難きこと金剛の如くなるを以ての故に。（六六）義平等性現等覺門とは、大菩提其の義一なるを以ての故に。（六七）法平等性現等覺門とは、大菩提の自性淨なるを以ての故に。一切法平等性現等覺門とは、大菩提の一切の法に於て分別無きを以ての故に。（六八）佛是の如く寂靜法性、般若の理趣、現等覺を說き已

【五七】上述諸法空寂清淨不可得を以て菩薩の句義とする理由を明す。

【五八】自性遠離。性空なれば定實の自性を離る。

【五九】二に理趣の聞持の功德を明す。

【六〇】妙菩提の座。道場卽ち成佛たり。

【六一】煩惱障は無明惑なり。業障は有漏業なり。報障は業果としての果報を云ふ。

【六二】十六大菩薩　金剛界の慧十六尊とす。

【六三】正宗分第二偏照理趣章。密に毘盧遮那理趣會品と云へり。毘盧遮那身を以て般若の理趣現等覺門を說く。二あり、一は理等覺門の證相、二は聞持の功德。

【六四】現等覺門。正等覺を現成する義にして大菩提を明す。金剛、義、法、一切法の四あり

りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの四種の般若の理趣現等覺門を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、乃至當に妙菩提の座に坐すべし。一切の極重惡業を造ると雖も、而も能く一切の惡趣を超越して、疾く無上正等菩提を證せん。」

(六九)爾の時、世尊は復調伏一切惡法釋迦牟尼如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、一切の法平等性を攝受せる甚深の理趣、(七〇)普勝の法門を宣說したまふ。謂ゆる貪欲の性戲論無きが故に、瞋恚の性も亦戲論無し。瞋恚の性戲論無きが故に、愚癡の性も亦戲論無し。愚癡の性戲論無きが故に、(七一)猶預の性も亦戲論無し。猶預の性戲論無きが故に、(七二)諸見の性も亦戲論無し。諸見の性戲論無きが故に、憍慢の性も亦戲論無し。憍慢の性戲論無きが故に、(七三)諸纏の性も亦戲論無し 諸纏の性戲論無きが故に、煩惱垢の性も亦戲論無し。煩惱垢の性戲論無きが故に、諸惡業の性も亦戲論無し。諸惡業の性戲論無きが故に、諸果報の性も亦戲論無し 諸果報の性戲論無きが故に、雜染法の性も亦戲論無し。雜染法の性戲論無きが故に、清淨法の性も亦戲論無し。清淨法の性戲論無きが故に、一切法の性

〔六五〕金剛は喩にして不壞を表す、空不可得なればなり。

〔六六〕義は差別を要するも今は平等一如を義とす、等しく空不可得なるが故に。

〔六七〕法は軌持別體を常とするも、今は無自性の性平等にして取著なきを云ふ。

〔六八〕二に聞持の功德を明す。

〔六九〕正宗分第三釋迦調伏章密に降三世品と云ふ。釋迦身を以て般若の理趣普勝法門を說く、文二、一に體相二に功德。

〔七〇〕普勝の法門。一切の惡法を調伏し勝たざるなし。取相計著せざれば貪事なく欲性なし、諸惡皆空なり、力を以て有を空ならしむるにあらず。

〔七一〕猶預は疑惑不信なり。

〔七二〕諸見。無量の邪見、略して六十二、更に攝して斷常二見とし、我見とす。我見に依る故に憍慢あり。

も亦戯論無し。一切法の性戯論無きが故に、當に知るべし、般若波羅蜜多も亦戯論無しと。(七四)佛是の如く衆惡を調伏する般若の理趣普勝の法を説き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの般若波羅蜜多甚深の理趣を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、(七五)假使三界所攝の一切の有情を殺害すとも、而も斯に由りて復地獄傍生鬼界に墮せず、能く一切の煩惱及び隨煩惱惡業等を調伏するを以ての故に、常に善趣に生じて、勝妙の樂を受けて、諸の菩薩摩訶薩の行を修し、疾く無上正等菩提を證せん。」

(七六)爾の時、世尊は復(七七)性淨如來の相に(七八)依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、一切の法平等の性、觀自在妙智印甚深の理趣、清淨の法門を宣說したまふ。謂ゆる一切の(七九)貪欲、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の瞋恚をして清淨ならしむ。一切の瞋恚、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の愚癡をして清淨ならしむ。一切の愚癡、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の疑惑をして清淨ならしむ。一切の疑惑、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の見趣をして清淨ならしむ。一切の見趣、本性清淨にして極めて照明な

【七三】諸纏。纏縛結使等皆煩惱なり。

【七四】二に聞持功德。

【七五】假使等。殺人殺事共に空にして罪報得可らざる義を論するのみ、實に殺害を行ぜず私を空じて公に殉ずべし。

【七六】正宗分第四性淨法門章。密に觀自在菩薩理趣會品と云ふ。文二段同前。

【七七】性淨如來。清淨法身なりその相は妙觀察智として現はる、これを觀自在菩薩とするなり。

【七八】麗本には「依」を「以」に作る

【七九】貪欲等。調伏に依て善化するに非ず、本性淨明なり。

るが故に、能く世間の憍慢をして清淨ならしむ。一切の憍慢、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の纏結をして清淨ならしむ。一切の纏結、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の垢穢をして清淨ならしむ。一切の垢穢、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の惡法をして清淨ならしむ。一切の惡法、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の生死をして清淨ならしむ。一切の生死、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間の諸法をして清淨ならしむ。一切の法、本性清淨にして極めて照明なるを以ての故に、能く世間の有情をして清淨ならしむ。一切の有情、本性清淨にして極めて照明なるが故に、能く世間一切の智をして清淨ならしむ。一切の智、本性清淨にして極めて照明なるを以ての故に、能く世間甚深の般若波羅蜜多をして最勝清淨ならしむと。佛是の如く平等智印般若の理趣、清淨の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの般若波羅蜜多清淨の理趣を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、一切の貪瞋癡等、(八〇)客塵煩惱垢穢聚の中に住すと雖も、而も蓮華の猶く一切の客塵垢穢の過失の爲に染せられず、常に能く菩薩の勝行を修習して、疾く無上正等菩提を證せん。」

(八一)爾の時、世尊は復一切三界勝王如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、一切の如來の(八二)和合灌頂甚深の理趣、(八三)智藏の法門を宣

【八〇】客塵。性淨の貪法をなして他が塵埃あらしむるを云ふが如きも、塵煩惱實に存せず、汚すべきものなし、客は無主を表し實を遮するなり。但此前後の二意は後人各各依て宗をなす所の差なり。

【八一】正宗第五分勝王如來智藏

說したまふ。謂ゆる（八四）世間灌頂の位を以て施して、當に三界法王の位果を得べし。出世間無上の義を以て施して、當に一切の希願を滿足することを得べし。出世間無上の法を以て施して、一切の法に於て當に自在なることを得べし。若は世間の財食等を以て施して、當に一切の（八五）身語心の樂を得べし。若は種種の財法等を以て施して、能く布施波羅蜜多をして速に圓滿することを得しめ、種種の清淨の禁戒を受持して、能く淨戒波羅蜜多をして速に圓滿することを得しめ、一切の事に於て安忍を修學して、能く安忍波羅蜜多をして速に圓滿することを得しめ、一切の時に於て精進を修習して、能く精進波羅蜜多をして速に圓滿することを得しめ、一切の境に於て靜慮を修行して、能く靜慮波羅蜜多をして速に圓滿することを得しめ、一切の法に於て常に妙慧を修して、能く般若波羅蜜多をして速に圓滿することを得しむと。佛是の如く灌頂の法門、般若の理趣、智藏の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの灌頂甚深の理趣、智藏の法門を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、速に能く諸の菩薩の行を滿足して、疾く無上正等菩提を證せん」と。

（八六）爾の時、世尊は復一切の如來智印持一切佛祕密法門如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅

章」密に虛空藏品と云ふ。文段同前。

【八二】和合灌頂」能所和合の灌頂なり。

【八三】智藏。甚深般若なり。

【八四】世間等。世出世小因大果融即を明す、法空無自性なればなり。

【八五】身語心。身口意に同じ。

【八六】正宗分第六智印金剛章。密に金剛拳理趣品と云ふ。

【八七】住持智印。此に云ふ金剛法門にして、正慧により身語心智印を具足するものなり。

蜜多、一切の如來の（八七）住持智印、甚深の理趣、金剛の法門を宣說したまふ。謂ゆる具に一切の如來の金剛身印を攝受せば、當に一切の如來の法身を證すべし。若し具に一切の如來の金剛語印を攝受せば、一切の法に於て當に自在を得べし。若し具に一切の如來の金剛心印を攝受せば、一切の定に於て當に自在を得べし。若し具に一切の如來の金剛智印を攝受せば、能く最上の妙身語心を得ること、猶金剛の動無く壞無きが若しと。佛是の如く如來の智印、般若の理趣、金剛の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの智印甚深の理趣、金剛の法門を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、一切の事業皆能く成辦せん。常に一切の勝事と和合して、修行せんと欲する所の一切の勝智、諸の勝福業、皆速に圓滿して、當に最勝の淨身語心を獲べく、猶金剛の破壞す可からざるが如く、疾く無上正等菩提を證せん。」

（八八）爾の時、世尊は復一切無戲諸法如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多甚深の理趣、（八九）輪字の法門を宣說したまふ。謂ゆる一切の法は空なり、自性無きが故に。一切の法は無相なり、衆相を離れたるが故に。一切の法は無願なり、所願無きが故に。一切の法は遠離なり、所著無きが故に。一切の法は寂靜なり、永寂滅の故に。一切の法は無常なり、性常無きが故に。一切の法は無樂なり、樂しむ可きに非ざるが故に。一切の法は無我なり、自在ならざるが故に。一切の法は無淨なり、淨相を離るるが故に。

【八八】正宗分第七無戲論輪字章。密に文殊師利理趣品。
【八九】輪字の法門。般若法輪の轉ぜらるるを云ふ。

一切の法は不可得なり、其の性を推尋するに不可得なるが故に。一切の法は不思議なり、其の性を思議するに所有無きが故に。一切の法は所有無し、衆縁和合にして假の施設なるが故に。一切の法は戲論無し、本性空寂にして言説を離るるが故に。一切の法は本性淨なり、甚深の般若波羅蜜多本性淨なるが故にと。佛是の如く諸の戲論を離れたる般若の理趣、輪字の法を説き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し此の無戲論般若の理趣、輪字の法門を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するものの有らば、一切の法に於て無礙智を得、疾く無上正等菩提を證せん。」

(九〇)爾の時、世尊は復一切如來輪攝如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多(九一)廣大輪に入る甚深の理趣、平等性の門を宣説したまふ。謂ゆる(九二)金剛平等性に入らば、能く一切如來の性輪に入るが故に。義平等性に入らば、能く一切菩薩の性輪に入るが故に。法平等性に入らば、能く一切の法性輪に入るが故に。蘊平等性に入らば、能く一切の蘊性輪に入るが故に。處平等性に入らば、能く一切の處性輪に入るが故に、界平等性に入らば、能く一切の界性輪に入るが故に。諦平等性に入らば、能く一切の諦性輪に入るが故に。縁起平等性に入らば、能く一切の縁起性輪に入るが故に。寶平等性に入らば、能く一切の寶性輪に入るが故に。食平等性に入らば、能く一切の食性輪に入るが故に。善法平等性に入らば、能く一切の善

【九〇】正宗分第八輪攝如來章。密に纔發意菩薩理趣品。

【九一】廣大輪。勝法、大乘と云ふに同じ。

【九二】第二章參照、今は第四の一切法平等性を廣く分別し列擧せるなり。

法性輪に入るが故に。非善法平等性に入らば、能く一切の非善法性輪に入るが故に。有記の法平等性に入らば、能く一切の有記の法性輪に入るが故に。無記の法平等性に入らば、能く一切の無記の法性輪に入るが故に。有漏の法平等性に入らば、能く一切の有漏の法性輪に入るが故に。無漏の法平等性に入らば、能く一切の無漏の法性輪に入るが故に。有爲の法平等性に入らば、能く一切の有爲の法性輪に入るが故に。無爲の法平等性に入らば、能く一切の無爲の法性輪に入るが故に。世間の法平等性に入らば、能く一切世間の法性輪に入るが故に。出世間の法平等性に入らば、能く一切出世間の法性輪に入るが故に。異生の法平等性に入らば、能く一切の異生の法性輪に入るが故に。聲聞の法平等性に入らば、能く一切の聲聞の法性輪に入るが故に。獨覺の法平等性に入らば、能く一切の獨覺の法性輪に入るが故に。菩薩の法平等性に入らば、能く一切の菩薩の法性輪に入るが故に。如來の法平等性に入らば、能く一切の如來の法性輪に入るが故に。有情の平等性に入らば、能く一切の有情の性輪に入るが故に、一切の平等性に入らば、能く一切の性輪に入るが故にと。佛是の如く廣大輪に入る般若の理趣平等の性を説き已りて、金剛手菩薩等に告げて言く、「若し是の如きの輪性甚深の理趣、平等性の門を聞くことを得て、信解受持し、讀誦修習するもの有らば、能く諸の平等性に悟入して、疾く無上正等菩提を證せん。」

〔九三〕爾の時、世尊は復一切廣受供養眞淨器田如來の相に依りて、諸の菩

【九三】正宗分第九供養眞淨章。密に虚空庫菩薩理趣品。

薩の爲に般若波羅蜜多一切（九四）供養甚深の理趣、無上の法門を宣説したまふ。謂ゆる無上正等覺の心を發すは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。正法を攝護するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の波羅蜜多を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の菩提分法を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の總持等持を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の五眼六通を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の靜慮解脱を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の慈悲喜捨を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の佛不共法を修行するは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は常、若は無常、皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は樂、若は苦皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は我、若は無我皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は淨、若は不淨皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は空、若は不空皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は有相、若は無相皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は有願、若は無願皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は遠離、若は不遠離皆不

【九四】供養甚深。衣よの供養よりも發心修行皆大供養たるを云ふ。

可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。一切の法、若は寂靜、若は不寂靜皆不可得なりと觀ずるは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなり。甚深般若波羅蜜多に於て書寫し、聽聞し、受持し、讀誦し、思惟し修習し、廣く有情の爲に宣說流布し、或は自ら供養し、或は轉じて他に施すは、諸の如來に於て廣く供養を設くるなりと。佛是の如く眞淨供養、甚深の理趣、無上の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言く、「若し是の如きの供養、般若の理趣、無上の法門を聞くことを得て、信解し受持し、讀誦し修習するもの有らば、速に能く諸の菩薩の行を圓滿して、疾く無上正等菩提を證せん。」

(九五)爾の時、世尊は復一切能善調伏如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、(九六)智密を攝受し、有情を調伏する甚深の理趣、智藏の法門を宣說したまふ。謂ゆる一切の有情平等の性、即ち(九七)忿平等の性なり。一切の有情調伏の性、即ち忿調伏の性なり。一切の有情眞法性、即ち忿眞法性なり。一切の有情眞如の性、即ち忿眞如の性なり。一切の有情法界の性、即ち忿法界性なり。一切の有情離生の性即ち忿離生の性なり。一切の有情實際の性、即ち忿實際の性なり。一切の有情本空の性、即ち忿本空の性なり。一切の有情無相の性、即ち忿無相の性なり。一切の有情無願の性、即ち忿無願の性なり。一切の有情遠離の性、即ち忿遠離の性なり。一切の有情寂

【九五】正宗分第十調伏章。密に摧一切魔菩薩理趣品に作ろ。
【九六】明本には「密」の字を蜜に作る。
【九七】忿平等。忿怒身を以てせば此に一切法を攝受し調伏するを云ふ。人空ならば忿も空なり。

靜の性、卽ち忿寂靜の性なり。一切の有情不可得の性、卽ち忿不可得の性なり。一切の有情無所有の性、卽ち忿無所有の性なり。一切の有情難思議の性、卽ち忿難思議の性なり。一切の有情無戲論の性、卽ち忿無戲論の性なり。一切の有情如金剛の性、卽ち忿如金剛の性なり。所以は何ん。一切の有情眞調伏の性は、卽ち是れ無上正等菩提なり。亦是れ般若波羅蜜多なり。亦是れ諸佛の一切智智なりと。

佛是の如く能善く調伏する甚深の理趣、智藏の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの調伏般若の理趣、智藏の法門を聞くことを得て、信解し受持し、讀誦し修習するもの有らば、能く自ら忿恚等の過を調伏し、亦能く一切の有情を調伏して、常に善趣に生じて諸の妙樂を受け、現世の怨敵皆慈心を起して、能善く諸の菩薩の行を修行し、疾く無上正等菩提を證せん。」

（九八）爾の時、世尊は復一切能善建立性平等法如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多一切の法性、甚深の理趣、最勝の法門を宣說したまふ。謂ゆる（九九）一切の有情、性平等なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦性平等なり。一切の法、性平等なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦性平等なり。一切の有情、性調伏なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦性調伏なり。一切の法、性調伏なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦性調伏なり。一切の有情實義有るが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦實義有り。一切の法實義有るが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦實義有り。

【九八】正宗分第十一性平等建立章。密に降三世教令輪品と云ふ。

【九九】前章は有情のみに就て云ふ。今は人法に就て平等の義を明し、般若を說明す。

一切の有情卽ち眞如なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち眞如なり。一切の法卽ち眞如なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち眞如なり。一切の有情卽ち法界なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち法界なり。一切の法卽ち法界なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち法界なり。一切の有情卽ち法性なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち法性なり。一切の法卽ち法性なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち法性なり。一切の有情卽ち實際なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち實際なり。一切の法卽ち實際なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち實際なり。一切の有情卽ち本空なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち本空なり。一切の法卽ち本空なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち本空なり。一切の有情卽ち無相なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち無相なり。一切の法卽ち無相なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち無相なり。一切の有情卽ち無願なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち無願なり。一切の法卽ち無願なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち無願なり。一切の有情卽ち遠離なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち遠離なり。一切の法卽ち遠離なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち遠離なり。一切の有情卽ち寂靜なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち寂靜なり。一切の法卽ち寂靜なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦卽ち寂靜なり。一切の有情不可得なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦不可得なり。一切の法不可得なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦不可得なり。一切の有情無所有なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦

無所有なり。一切の法無所有なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦無所有なり。一切の有情不思議なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦不思議なり。一切の法不思議なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦不思議なり。一切の有情無戲論なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦無戲論なり。一切の法無戲論なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦無戲論なり。一切の有情無邊際なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦無邊際なり。一切の法無邊際なるが故に、甚深の般若波羅蜜多も亦無邊際なり。一切の有情業用有るが故に、當に知るべし、般若波羅蜜多も亦業用有りと。一切の法業用有るが故に、當に知るべし、般若波羅蜜多も亦業用有りと。佛是の如く性平等性甚深の理趣最勝の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの平等の般若の理趣最勝の法門を聞くことを得て、信解し受持し、讀誦し修習するもの有らば、則ち能く平等の法性、甚深の般若波羅蜜多に通達して、(一〇〇)法と有情とに於て心(一〇一)罣礙する無くして、疾く無上正等菩提を證せん。」

(一〇二)爾の時、世尊は復一切住持藏法如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、一切の有情、住持徧滿甚深の理趣、(一〇三)勝藏の法門を宣說したまふ。謂ゆる一切の有情皆(一〇四)如來藏なり、普賢菩薩の自體徧ずるが故に。一切の有情皆(一〇五)金剛藏なり、金剛藏の灌灑する所なるを以ての故

【一〇〇】明本には「法」の字を「諸」に作る。
【一〇一】罣礙。拘束せられ取著するなり
【一〇二】正宗分第十二住持藏法章。密に外金剛會品と云ふ。
【一〇三】勝藏。如來藏、金剛藏、正法藏、妙業藏を包括して云ふ。卽ち一切の有情を指す。
【一〇四】如來藏。衆生佛性を有

に。一切の有情皆正法藏なり、一切皆正語に隨ひて（一〇六）轉ずるが故に。一切の有情皆妙業藏なり、一切の業事の（一〇七）加行依なるが故に。佛是の如く有情住持甚深の理趣、勝藏の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの徧滿般若の理趣、勝藏の法門を聞くことを得て、信解し受持し、讀誦し修習するもの有らば、則ち能く勝藏の法性に通達して、疾く無上正等菩提を證せん。」

（一〇八）爾の時、世尊は復究竟無邊際法如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多究竟住持法義平等金剛の法門を宣說したまふ。謂ゆる甚深の般若波羅蜜多無邊なるが故に、一切の如來も亦無邊なり。甚深の般若波羅蜜多無際なるが故に、一切の如來も亦無際なり。甚深の般若波羅蜜多一味なるが故に、一切の法も亦一味なり。甚深の般若波羅蜜多究竟なるが故に、一切の法も亦究竟なりと。佛是の如く無邊無際究竟の理趣、金剛の法を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し是の如きの究竟般若の理趣、金剛の法門を聞くことを得て、信解し受持し、讀誦し修習するもの有らば、一切の障法皆悉く消除し、定んで如來の執金剛の性を得、疾く無上正等菩

し普賢の妙德を具足す。これ胎藏の法を擧ぐ。

【一〇五】金剛藏。佛智を云ふ。

【一〇六】轉ず。人若し正法藏ならずば佛化に浴するも隨順して迷を去る能はず。

【一〇七】加行依。加力成業の所依處なり、有情ありて業事成るを云ふ。

【一〇八】正宗分、第十三無邊際法章。密に第十六四波羅蜜部中大曼荼羅章とす。彼の十三七女天集會品、十四三兄弟集會品、十五四姉妹集會品は本經に無し。

【一〇九】正宗分、第十四如來祕密章。密に第十七五種祕密三摩地章とす。前來中間十二章に對する結論なり。

【一一〇】大樂金剛不空は金剛薩埵の別名なり、又これ般若の不壞、眞實なるを云ふ。

【一一一】三本には「性」の字を

提を證せん。」

〔一〇九〕爾の時、世尊は復徧照如來の相に依りて、諸の菩薩の爲に般若波羅蜜多、諸の如來の祕密法性及び一切法の無戲論性〔一一〇〕大樂金剛、不空神咒、金剛の〔一一一〕法性、〔一一二〕初中後位最勝第一なることを得る甚深の理趣・無上の法門を宣說したまふ。謂ゆる〔一一三〕大貪等の最勝成就すれば、大菩薩をして〔一一四〕大樂の最勝成就せしむ。大樂の最勝成就すれば、大菩薩をして一切如來の〔一一五〕大覺の最勝成就せしむ。一切如來の大覺の最勝成就すれば、大菩薩をして一切の大魔を降伏する最勝成就せしむ。一切の大魔を降伏する最勝成就すれば、大菩薩をして〔一一六〕普大三界自在の最勝成就せしむ。普大三界自在の最勝成就すれば、大菩薩をして能く遺餘無く有情界を拔きて一切の有情を利益し安樂ならしめ、畢竟大樂の最勝成就せしむ。所以は何ん。乃ち生死〔一一七〕流轉の住處に至り、〔一一八〕勝智有る者は〔一一九〕此に齊りて、常に能く〔一二〇〕無等の法を以て有情を饒益して〔一二一〕寂滅に入らず。又般若波羅蜜多方便善巧成立の勝智を以て、善く一切清淨の事業を辦じて、能く諸有をして皆清淨なることを得しむ。又貪等を以て世間を調伏すること普徧

「門」に作る。

【一一二】初中後位。一切圓滿なるを云ふ。

【一一三】大貪等。貪欲等惡として斷捨すべきものなし。小我の小貪を非とするのみ、一切衆生を愛貪するを大貪の最勝成就とす。瞋念も亦然り。

【一一四】大樂の最勝。勝妙の喜樂なり。金剛薩埵の大樂なり。

【一一五】大覺。自證化他圓極するなり。

【一一六】普大三界自在。三界に周遍して主となるを云ふ。

【一一七】流轉の住處。生死の盡くる際を云ふ、即ち苦報滅する自利行なり

【一一八】勝智有る者。般若無相を學ぶ菩薩なり。

【一一九】此に齊り。生死界のみにあるを云ふ。

【一二〇】無等の法。無相般若なり。

く恒時にす、乃至諸有をして皆清淨ならしめ自然に調伏す。又蓮華の形色光淨にして一切の穢物の染する所と爲らざるが如く、（二二）是の如く貪等世間を饒益し、（二三）過有過に住して常に染すること能はず。又大貪等能く淸淨を得て大樂大財三界に自在なり。常に能く堅固にして有情を饒益す。

（二四）爾の時、如來は卽ち（二五）神咒を說きたまはく。

（二六）納幕薄伽筏帝一　鉢刺壤波羅弭多曳二　薄底丁履反筏擦七葛反羅曳三　罨跛履弭多窶拏曳四　薩縛咀他揭多、　跛履布視多曳五　薩縛咀他揭多。　奴壤多奴壤多、鄔壞多曳六　咀姪他七　鉢刺吟一弟反　鉢刺吟八　莫訶鉢刺吟九　鉢刺壤婆娑羯囇十　鉢刺壤路迦羯囇十一　案馱迦囉。　毗談末遲十二　悉遞十三　蘇悉遞十四　悉殿都漫、薄伽筏底十五　薩防伽孫達囇十六　薄底筏擦囇十七　鉢刺娑履多喝悉帝十八　參磨涇嚩娑羯囇十九　勃陀勃陀二十　悉陀悉陀二十一　劒波劒波二十二　浙羅浙羅二十三　曷邏嚩曷邏嚩二十四　阿揭車阿揭車二十五　薄伽筏底二十六　麼毗濫婆二十七　莎訶二十八

是の如きの神咒は三世の諸佛皆共に宣說し、同じく護念したまふ所なり。能く受持する者は一切の障滅して、心の所欲に隨ひて成辦せざること無く、疾く無上正等菩提を證せん。

【二一】寂滅に入らず。自度を求め解脫涅槃に安住せず。

【二二】往過不染と利樂自在と饒益堅固とを明す。

【二三】過有過。過法罪惡と、有過の人法となり。元明には過有過に作る。これ一切の有過の意なり。

【二四】正宗分第十五神咒章。以下三咒を擧ぐ、陀羅尼集經第三及び法苑珠林第七十五にも出す。今第一の神咒及び受持の功德を明す。

【二五】集經には此咒を大般若咒と名く。

【二六】集經の音字多く異るを以て全文を揭ぐ。那上謨上婆伽婆去帝一　摩訶波囉上二　若若治反下同　波囉彌多去曳二　薄訖底合二　伐蹉囉合二　曳三　阿波唎合二　彌多瞿拏曳四　薩婆怛他揭多五　波唎布自他去音曳六　薩婆怛他揭多七　努若多努若多八　毗若多上　曳九　哆姪他十　波囉上二

(二二七)爾の時、如來は復(二二八)神咒を說きたまはく。

(二二九)納慕薄伽筏帝一 鉢剌壞波囉弭多曳二 呾姪他三 牟尼達謎四 僧揭洛訶達謎五 過奴揭洛訶達謎六 毗目底達謎七 薩駄奴揭洛訶達謎八 吠室洛末拏達謎九 參漫多奴跛履筏剌呾那達謎十 蹇拏僧揭洛訶達謎十一 薩縛迦羅跛履、波剌那達謎十二 莎訶十三

是の如きの神咒は是れ諸佛の母なり。能く誦持する者は一切の罪滅して常に諸佛を見、宿住智を得て、疾く無上正等菩提を證せん。

(二三〇)爾の時、如來は復(二三一)神咒を說きたまはく。

(二三二)納慕薄伽筏帝一 鉢剌壞波囉弭多曳二 呾姪他三 室囇曳四 室囇曳五 室囇曳六 室囇曳細七 莎訶八

是の如きの神咒は大威力を具ふ。能く受持する者は業障消除し、聞く所の正法を總持して忘れず、疾く無上正等菩提を證せん。

(二三三)爾の時、世尊は是の呪を說き已りて、金剛手菩薩等に告げて言はく、「若し諸の有情にして每日の旦に於て、至心に是の如きの般若波羅蜜多甚深の理趣、最勝の法門を聽誦すること間斷無き者は、諸の惡業障皆消滅す

若波囉上二合若二十一摩訶波囉上二合若二十二波囉上二合若娑娑揭唎上三十波囉上二合若嚧迦揭唎上四十安駄迦去囉五十毗談麽泥六十徙提蘇徙提七十徙殿覩縵八十娑伽娑去底九十薩防去伽孫怛唎二十娑枳底二合伐蹉哩二合二十一波囉二合娑哩黟訶上悉羝二合二十二三摩莎娑羯哩二合二十三勃地勃地冒駄耶二十四悉地悉地地野反上同二十五劍娑劍娑二十六迦羅迦羅二十七者羅者羅二十八頞娑頞娑二十九阿揭車阿揭車三十娑伽婆去帝三十一摩毗嚧去婆三十二莎訶三十三

【二二七】第二の神呪及び受持功德を明す。

【二二八】集經には此呪を般若波羅蜜多聽明陀羅尼と云ひ、又小般若波羅蜜多神呪とも、十方一切諸佛母呪とも名く。

【二二九】集經には下の如くせり。

那上謨婆伽嚩帝一那上謨摩訶波羅上合若若音而反波囉弭多去曳二黟姪他三摩儞逄迷四僧伽囉二合上下同訶上

ることを得、諸の喜樂常に現在前して、大樂金剛不空神咒、現身に必ず得し、一切の如來金剛祕密最勝成就を究竟し成滿して、久しからざるに當に大執金剛及び如來の性を得べし。若し有情の類、未だ多佛の所にて衆の善根を植ゑ久しく大願を發さざれば、此の般若波羅蜜多甚深の理趣、最勝の法門に於て聽聞し、書寫し、讀誦し、供養し、恭敬し、思惟し、修習すること能はず。要ず多佛の所にて衆の善根を植ゑ、久しく大願を發して、乃ち能く此の甚深の理趣、最勝の法門に於て、下至一句一字をも聽聞す、況や能く具足して讀誦し受持せんをや。若し諸の有情、八十殑伽沙等(二三四)倶胝(二三五)那庾多の佛を供養恭敬し、尊重讃歎せば、乃ち能く具足して此の般若波羅蜜多甚深の理趣を聞かん。若し(二三六)地方に流行する所の此經をば一切の天人、(二三七)阿素洛等皆供養すること佛の(二三八)制多の如くす應し。此の經を置きて身或は手に在くこと有らんに、諸天人等皆應に禮敬すべし。若し有情の類此の經を受持せば、多倶胝劫宿住智を得、常に勤めて精進して諸の善法を修するに、惡魔外道も稽留すること能はず、四大天王及び餘の天衆、常に隨ひて擁衛して未だ曾て暫くも捨てず、終に横死し、枉て衰

達迷五阿上弩伽囉訶達迷六毗目去底合二達迷七娑上陀弩伽囉訶達迷八娑舍囉合上二 麼拏達迷九 娑上曼多拏跛唎皤囉上跢那合上二 達迷十瞿上拏上伽囉訶僧伽囉訶達迷十一薩婆跢囉上弩伽上跢達迷十二薩婆伽囉上跛利婆囉合上二 拏達迷十三徙弭唎合上二 底阿上娑上波囉合上二 慕娑上那上達迷十四 莎訶十五 この第二句の那謨摩訶と第十一句の上の伽囉訶と第十二句と第十四句とは本文の呪に缺けたり。

【二三〇】 第三の神呪及び受持功德を明す。

【二三一】 集經には般若聞持不忘陀羅尼と云ふ。

【二三二】 集經には、那上謨婆伽婆去帝一 波囉上若若治反 波羅彌多曳二 跢姪他三 室哩合二曳四 室哩合二曳五 室哩合二 曳六 室哩合二 曳細七 莎訶八

【二三三】 正宗分第十六、結勸。

【二三四】 倶胝 (Koti)。十萬、或

患に遭はず、諸佛菩薩常に共に護持して一切の時に善増し、惡(一三九)減じ、諸の佛土に於て願に隨ひて往生して、乃至菩提まで惡趣に墮せざらしめん。諸の有情の類此の經を受持せば、定んで無邊勝利の功德を獲ん。我れ今略して是の如く少分を說けり

(一四〇)時に薄伽梵是の經を說き已るに、金剛手等の諸の大菩薩及び餘の天衆、佛の所說を聞きて、皆大に歡喜し信受して奉行したりき。

國譯大般若波羅蜜多經第十般若理趣分　終

は京とす。

【一三五】那庾多(Nayuta)。一萬倶胝卽ち溝とす。

【一三六】明本等に依らば「他の方處に流行する此經なば」とすべし。

【一三七】阿素洛(Asura)。通途阿修羅に作る、非天と譯す。

【一三八】制多又は支提(Caitya)。供養すべき塔祠なり。

【一三九】麗本には「滅」の字を「減」に作る。

【一四〇】結說流通。在會の得益歡喜を明す。

金剛般若波羅蜜經解題

姚秦天竺沙門鳩摩羅什譯

【經名の意義】 金剛（Vajra）とは寶石の名で、堅・利・明の三義を含んで居る。即ち金剛石は其體が大變に堅いので、何物も能く之を壞ることは能きない。又金剛石は非常に鋭利であるから、何な物でも截ることが能きる。又金剛石は寶珠の王と稱せられる丈あつて、闇黑を照す作用を有つて居る。般若とは、梵語Prajñāの音寫で、譯すれば智慧となる。而して此般若も亦、實相と觀照と文字との三義を含んで居る。實相とは、佛に在つても增さず、衆生に在つても減らざる底の一心の智慧を意味し、觀照とは、宇宙の萬象を有の儘に照らし顯はすの意で、文字とは、此の實相と觀照の道理を表現するの義である。

斯くて、金剛の三義は般若の三義を道破する爲の喩で、實相の般若は、多劫を經て六道生死の巷に流曳すと雖も、未だ嘗て生滅せず未だ嘗て虧缺せざること、金剛石の堅固にして、何物も之を破壞することを能はざるが如くである。故に般若心經には「是の諸法は空相にして、生せず滅せず、垢れず淨

からず、増さず減らず」と云つてある。觀照の般若は、縱橫無盡に世の迷妄を切り開きて、森羅萬象の正體正味を照破し、雜然紛然たる諸法の本體本性を顯破すること、恰かも金剛石の、如何なる堅い物でも能く之を截斷し得るが如くである。若し夫れ文字の般若に到りては、實相と觀照の理義を縱橫に表現して顯然彰然たらしむること、恰も金剛石の、能く闇夜に光を投ぐるが如くである。故に金剛は喩で、般若は主である。

此の金剛の如き般若は、諸佛にありても増さず、衆生にありても減らざる底の那一寶であるが、諸佛にありては、其の効用が現はれ、衆生にありては隱れて居るから、聖人だの、凡夫だのと云ふ區別が生ずる。若し能く敎を聞いて解悟し、內外の敎化薰陶によりて煩惱の雲を掃へば、則ち能く生死を出離し、理智冥合して自由無礙に般若の大用を起すことが能きるのである。是を物に譬ふれば猶は黃金の鑛中に在る間は、其の用を現はさないが、一たび鑛を出づれば、能く其の用を現はして、種種の器となり寶となるが如くである。

波羅蜜は梵語 Paramitā の音譯で、「彼岸に到達する」と云ふ意味である。故に古來、「到彼岸」、或は「度」、又は「彼岸到」と譯してある。則ち般若なる智慧の鐵船に乘りて、迷の世界たる生死の此の岸より、悟りの世界たる涅槃の彼の岸に到ると云ふ意味である。

【六種の漢譯】　金剛經の漢譯は左記の如く六部ある、以て此の經が如何に支那の社會に持囃されたか

を察せねばならぬ。

金剛般若波羅蜜經……………（姚秦）……天竺三藏鳩摩羅什譯
金剛般若波羅蜜經……………（元魏）……天竺三藏菩提流支譯
金剛般若波羅蜜經……………（陳）……天竺三藏眞諦譯
金剛能斷般若波羅蜜經…………（隋）……三藏達磨笈多譯
能斷金剛般若波羅蜜多經…………（唐）……三藏法師玄奘譯
佛說能斷金剛般若波羅蜜多經………（唐）……三藏沙門義淨譯

此等の六譯中、最も弘く世に讀誦せらるゝは、第一の鳩摩羅什の舊譯で、他の五部は、唯學者の參考に資するのみである。故に曹洞宗や臨濟宗の如く、常に此の經を讀誦する宗派の僧徒の間にすら、金剛經の異譯に幾種あるかを知らない人があるのも決して無理ではない。又此六譯中、菩提流支の一譯は、全くの直譯であるから、梵語の知識のない人には仲々意味が分りにくい。

【原本の出版】 金剛經の梵本は、今を去る三十七年前、則ち明治十四年に、英國牛津大學の印書局から、Āryan Series の第一篇として出版された。其校訂者は英國の碩學、故マックス・ミューラー博士であるが、氏は、日本・支那・西藏の三國から原本を得て、校訂出版されたさうだ。又同博士は明治二十七年刊行の東方聖書第四十九冊の中に、此金剛經の英譯をも出版して居られる。其の英譯は今

日から見れば、批議すべき點があらうけれども、兎に角吾人は、大乘佛教聖典を歐洲に紹介された恩人として感謝せねばならぬ。

また我が南條老博士は、初學者の爲め、「梵文金剛經講義」を、神田駿河臺の光融館から出版して居られる、此の書は極めて親切懇篤なる書き振りで、羅馬字の讀める人は云ふも更なり、少し熱心でありさへすれば横文字の讀めない人にでも、原文の妙味の味はれるやうに出來て居る。世の學佛の徒が、一人でも多く斯る良書を讀まんことを希望する。

【本經の註書】前記の如く、金剛經の漢譯は六種あるが、其の註書及び、講義等に到りては、和漢を通じて、實に汗牛充棟も啻ならぬ程である。今その重なるもののみを列擧せんに、先づ最も古い處では、印度無著及び世親二菩薩の「能斷金剛經論釋」と、功德施菩薩の「金剛經破取著不壞假名論」とがある。其の外支那では、「金剛經略疏」(釋元賢)、「金剛經疏論纂要」(宗密)、「金剛經纂要刊定記」(子璿)、「金剛經註解」(宗泐と如玘)、「金剛破空論」(智旭)等である。

譯者　山上曹源　識

國譯[一]金剛般若波羅蜜經

【法會因由分第一】是の如く我聞けり。一時、佛、千二百五十人の大比丘衆と倶に、[二]舍衞國の[三]祇樹[四]給孤獨園に在せり。

爾の時に世尊は、食時に衣を著け、鉢を持して、舍衞大城に入りて食を乞ひ、其の城中に於いて次第に乞ひ已つて、本處に還り飯を食し訖つて、衣鉢を收め、足を洗ひ、座を敷いて坐したまひき。

【善現起請分第二】時に長老[五]須菩提は、大衆の中に在り、卽ち座より起ちて、偏に右の肩を袒ぎ、右の膝を地に著け、合掌恭敬して、佛に白して言さく、「[六]希有なり、世尊よ、如來は善

【一】金剛とは寶石の名にして其體は諸の物質中最も堅く、何物と雖も之を壞すること能はず。而して其用は極めて銳利にして、能く一切の物を壞る。今は之を般若に譬へたるなり。般若とは梵語、此に智慧と譯す。智慧の體を實相と云ひ、六道に流轉すと雖も、毫も損傷せざること、猶ほ金剛の如し。智慧の用を觀照と云ひ、能く一切を照破すると猶ほ金剛の利きが如し。然り而して今その功能に約して波羅蜜多と云ふ。此語また梵語、此に到彼岸と譯す。蓋し生死を以て此岸となし、煩惱を中流とし、涅槃を彼岸とせんに、般若は能く生死の此岸を離れ煩惱の流を渡つて涅槃の彼岸に到る船筏なるを以てなり。

【二】舍衞國 Śrāvastī.

【三】祇樹 Jetavana.

【四】給孤獨園 Anāthapiṇḍadasyārāma.

【五】Subhūti. 空生又は善現と譯す。佛の十大弟子中の解空第一の尊者と稱せらる。

【六】問ふ、未だ發心せざる時は、塵境に在つて住せり。今已に發心す、當に何の境界にか住すべき。

【七】問ふ、心既に住せずんば又當に何の法に依つてか之を降伏すべきか。

く諸の菩薩を護念し、善く諸の菩薩に付囑したまふ。世尊よ、（六）善男子、善女人の阿耨多羅三藐三菩提心を發さんには、云何んが應に住すべき。（七）云何んが其心を降伏せんや』と。佛の言はく、『善い哉、善い哉、須菩提よ、汝が所說の如く、如來は善く諸の菩薩を護念し、善く諸の菩薩に付囑したまふ。汝今諦かに聽け、當に汝が爲に說くべし。善男子善女人にして阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんには、應に（八）是の如く住し、是の如く、其の心を降伏すべし』。〔須菩提言さく〕『唯然り、世尊よ。願樂くば聽かんと欲す。』

【大乘正宗分第三】　（九）佛、須菩提に告げたまはく、『諸の菩薩摩訶薩は、應に是の如く其の心を降伏すべし。有ゆる一切衆生の類、若しくは卵生、若しくは胎生、若しくは濕生、若しくは化生、若しくは（一〇）有色、若しくは無色、若しくは（一一）有想、若しくは無想、若しくは非有想、若しくは非無想なるもの、我みな無餘涅槃に入れて之を（一二）滅度せしむ。是の如く無量無數無邊の衆生を滅度すれども、實には衆生の滅度を得るものなし。何を以ての故に。須菩提よ、若し菩薩にして（一三）我相・人相・衆生相・壽者相あ

【八】是の如くとは、玆に般若を指せるなり。如是の法にして住し、如是の法にして其心を降伏すと云ふ。此の如是の二字に甚深の意味あり、看過すべからず。

【九】以下前問に對する解答。

【一〇】有色とは、欲界と色界の衆生を云ひ、無色とは、三界の最上に位する無色界、卽ち其心が禪定と相應する衆生を云ふ。

【一一】有想とは、思惟し想念する心的作用の有るをにして、無想とは、生死の巷に流轉するは、思惟想念の存するが爲めなりと觀じ、之を滅無するを云ふ。

【一二】滅度とは、一切の煩惱を滅して、生死の苦海を度るを云ふ。

【一三】五蘊卽ち身心の假和合なるものを認めて我となし、我

らば、即ち「これ」菩薩にあらざればなり。

【妙行無住分第四】 (一四)復た次に、須菩提よ、菩薩は法に於いて應に住する所なうして(一五)布施を行ずべし。謂ゆる色に住せずして布施し、聲香味觸法に住せずして布施するなり。須菩提よ、菩薩は應に是の如く布施して相に住せざるべし。何を以ての故に。若し菩薩にして相に住せずして布施せば、其福德「の廣大なること」思量すべからざればなり。須菩提よ、「汝が」意に於て云何。東方の虚空は思量すべきや不や。」須菩提言さく、「不なり、世尊よ。」佛の言はく、「南西北方四維上下の虚空は思量すべきや不や。」須菩提言さく、「不なり、世尊よ。」佛の言はく、「須菩提よ、菩薩の相に住せざる布施の福德も、亦復是の如く思量すべからず。須菩提よ、菩薩は(一六)但應に敎ふる所の如く住すべし。

【如理實見分第五】 (一七)須菩提よ、汝が意に於て云何。身相を以て如來を見上つるべきや不や。」須菩提白さく、「不なり、世尊よ、身相を以て如來を見上つるべからず。何を以ての故に。如來の說きたまへる身相は、即ち身相に非ざればなり。」佛、須菩提に告げたまはく、「凡そ有ゆる相は、皆これ虚妄

か所有するものとなすを我相と云ひ、我は人間に生れて、地獄、餓鬼、畜生等の諸趣に異なると妄想するを人相と云ひ、我は身心の諸現象ともに聚るに由つて生ずと計するを衆生相と名づけ、我は一期の命を受けて斷ぜずと計するを壽者相と名づく。

【一四】 上に相ある可らずと言へるは、これ相を滅して無ならしむるにあらず、但これ住著せざるのみなり。本章は此の不住著の狀態を說く。

【一五】 布施に二種あり、財施と法施となり。故に布施とは僧侶の讀經等に對する謝禮の金品のみならず、大にしては國政の料理より、小にしては一錢一錢の惠與に至るまで、皆悉く布施ならざるはなし。故に布施の二字中には諸善萬行を該攝して漏さず、これ今不

なり。(一八)若し諸相は相に非ずと見ば、卽ち如來を見たてまつらん。』

【正信希有分第六】 須菩提、佛に白して言さく、『世尊よ、衆生は是の如くの言說章句を聞いて、(一九)實信を生ずることを得るや不や。』佛、須菩提に告げたまはく、『是の說を作すこと勿れ。如來の滅後、後の五百歲に[當り]持戒修福の者あり、此章句に於て能く信心を生じ、此を以て實と爲さん。當に知るべし、是の人は一佛二佛三四五佛に於て、善根を種ゑしのみならず、已に無量千萬億の佛の所に於て、諸の善根を種ゑしものなることを。[須菩提よ、]是章句を聞いて乃至一念も淨信を生ずるものは如來の悉く知り悉く見たまふ所なり。是の諸の衆生は、是の如き無量の福德を得ん。何を以ての故に。是の諸の衆生は、復我相・人相・衆生相・壽者相無く、法相も無く亦た非法相もなければなり。何を以ての故に。是の諸の衆生にして、若し心に相を取らば、則ち我・人・衆生・壽者に著し、若し(二〇)法相を取るも、卽ち我・人・衆生・壽者に著すればなり。何を以ての故に。若し(二一)非法相を取るも、卽ち我・人・衆生・壽者に著すればなり。是の故に、法をも取るべからず、非法をも取るべからず。是の義を以ての故に、如來は常に、

住著の行を明すに當り第一に布施を擧ぐる所以なり。

【一六】 此の句は前の二問に對する答案の歸結なり。蓋し相に住著せざれば則ち是れ妄心の降伏なればなり。

【一七】 上に相に住著すべからずと云ふ。佛は今また人あり、既に相に住せずんば、何んぞ成佛して乃ち相あらんやと疑はんことを恐れて下の說をなし給ふ。

【一八】 色身の相は是れ影、無相の法身は是れ體、有相の色身を得んと欲せば、須らく無相の法體を見るべし。未だ法體を見ずんば、相を見ること能はず。是の故に先づ相を見て無相ならしめて、色相の身を了得せしめ給ふ。

【一九】 實信とは、染著する所なきの信をいふ。

【二〇】 法相とは、五蘊・十二處、

「汝等比丘よ、我が說法は筏の喩の如し、法すら尙應に捨つべし、何に況んや非法をや」と說きたまふ。

【無得無說分第七】 (三二)須菩提よ、意に於て云何、如來は阿耨多羅三藐三菩提を得たまふや。如來に所說の法ありや。須菩提言さく、「我が佛の所說の義を解するが如くんば、(三三)定法の阿耨多羅三藐三菩提と名くるものあることなし。亦如來の說きたまふべき定法あることなし。如來の說きたまふ所の法は、皆取るべからず、說くべからず、法にもあらず、非法にもあらず。何を以ての故に。一切の賢聖は皆(三四)無爲の法を以て而も差別あればなり」

【依法出生分第八】「須菩提よ、(三五)意に於て云何。若し人、三千大千世界に滿つる七寶を以て用て布施せんに、是の人の得る所の福德は、寧ろ多しと爲んや不や。」須菩提言さく、「甚だ多し、世尊よ。何を以ての故に。是福德は卽ち福德の性にあらざればなり。是故に如來は福德多しと說きたまふ。」『若し復人あり、此の經中に於て、乃至四句の偈等を受持して、他人の爲めに說かば、其の福は彼よりも勝れたり。何を以ての故に。須菩提よ、一切の諸佛及び諸佛の阿耨多羅三藐三菩提の法は皆この經より出づればなり。

十八界より菩提涅槃に至るまで、名あり相あるものを云ふ。

【三一】 非法相とは、蘊・界・入より菩提涅槃に至るまで皆不可得のものを云ふ。

【三二】 上に法もなく非法もなしと言ふ。人あり、佛は嘗て菩提を得、亦た嘗て法を說き給へり、豈に法の取るべく說くべきものあるに非ずやと疑はん。佛いまや之を恐れて、須菩提に問ひ給ふに、彼は深く佛意に達せるが故に下の如き答をなせるなり。

【三三】 定法とは、一定の法といふ意味なり。

【三四】 無爲法とは、妙體湛寂もとより名相なく、言語に涉らずして一切分別の有爲の法を離れ、一切の賢聖の同じく證する所なり。此の經は初に人の相に執著せんことを恐るるが故に相を破し、次に人の空

須菩提よ、謂ゆる〔二六〕佛法とは即ち佛法にあらず。

【一相無相分第九】〔二七〕須菩提よ、意に於て云何。〔二八〕須陀洹は、能く是れ我須陀洹の果を得たりとの念を作さんや不や。』須菩提言さく、『不なり、世尊よ。何を以ての故に。須陀洹を名けて入流と爲す。而も入る所なく、色聲香味觸法に入らざる、是を須陀洹と名くればなり。』『須菩提よ、意に於て云何。〔二九〕斯陀含は能く是れ我斯陀含の果を得たりとの念を作さんや不や。』須菩提言さく、『不なり、世尊よ。何を以ての故に。斯陀含を一往來と名くれども、而も實には往來なし、是を斯陀含と名くればなり。』須菩提よ、意に於て云何。〔三〇〕阿那含は、能く是れ我阿那含の果を得たりとの念を作さんや不や。』須菩提言さ

に執著せんことを恐るるが故に空を破す。有空ともに空じて始めて實相に契ふ。是れ謂ゆる無爲の法にして、般若の義なり。

【二五】上に般若の妙慧は、直に三空に徹すと言ふ。頓に無爲を證るときは、則ち其の福德窮りなし。故に世尊は此の經の一句一偈を受持し說與するは、三千大千世界中の七寶を布施するよりも勝ると說き給ふなり。

【二六】佛は人の佛法の上に住著せんことを恐れ、其の跡を拂はんが爲に此の語をなし給ふ。學問や悟りを鼻先にぶら下げて居る間は、眞個の學者にもあらず、又本當に悟れるにもあらざるなり。佛法とても、佛法のクサ味のある間は眞の佛法にあらず。

【二七】上に法は取る可らず、說く可らずと說く。故に佛は、人あり、聲聞は各自果を取る、豈に取る可く說く可きの法あるにあらずやと疑はんことを恐れて、此の問題を提起し給へるなり。

【二八】Srotāpanna. は小乘聲聞の初果にして、八十一種の見惑、即ち智識上の迷を斷じて聖者の流に入れる者の義。

【二九】Sakṛdāgāmin. とは、聲聞の第二果にして、欲界に於ける六品の思惑、即ち麤大なる感情の迷を斷ぜる聖者の義。

【三〇】Anāgāmin. とは聲聞の第三果にして、欲界に於ける九品の思惑、即ち微細なる感情上の惑を斷ぜる聖者の義。

【三一】Arhan. とは、聲聞の第四果にして、色界と無色界とに於ける七十二品の思惑、即ち最も極微なる感情上の迷を斷ぜる聖者、換言せば一切の

く、『不なり、世尊よ。何を以ての故に。阿那含を名けて不來と爲す、而も實には不來なし、是を阿那含と名くればなり。』『須菩提よ、意に於て云何、(三一)阿羅漢は、能く是れ我阿羅漢の道を得たりとの念を作さんや不や。』須菩提言さく、『不なり、世尊よ。何を以ての故に、實に「一」法の阿羅漢と名くるものあることなければなり。世尊よ。若し阿羅漢にして、我は是れ阿羅漢の道を得たりとの念を作さば、「彼は」我・人・衆生・壽者に著するものなり。世尊よ、佛は、我(三二)無諍三昧を得て人中に於て最第一たり、是れ第一の離欲の阿羅漢なりと說き給へども、我は是れ離欲の阿羅漢なりとの念を作さず。世尊よ、我もし、我は阿羅漢の道を得たりとの念を作さば、世尊は則ち須菩提は(三三)阿蘭那の行を樂ふ者と說きたまはざらん。須菩提は實に所行無きを以て、須菩提は是れ阿蘭那の行を樂ふと名くればなり。』

【莊嚴淨土分第十】

(三四)佛、須菩提に告げたまはく、『意に於て云何、如來は、昔(三五)然燈佛の所にありて、法に於て所得ありしや不や。』須菩提言さく、『不なり、世尊よ。如來は然燈佛の所にありて、法に於て實に所得なかりき。』『須菩提よ、意に於て如何、菩薩は佛土を莊嚴するや不や。』『不な

煩惱を斷じ盡せる人を云ふ。

【三二】無諍三昧とは、能く空の深意を解するが故に、彼我ともに忘れて、衆生を惱まさず、亦た衆生をして煩惱を起さざらしむる底の禪定的狀態を云ふ。

【三三】阿蘭那 Araṇā は無諍と譯す。

【三四】前に四果ともに無所得なる旨を說く、而も人あり、佛は然燈佛の所に於いて法を受く、豈に取るべく說くべきの法あるにあらずやとの疑を起さん。佛これを恐れ給ふが故に此の問題を提起し給ふ。

【三五】然燈佛 Dīpaṅkara は、釋尊の宿世の師なり。

【三六】菩薩は六度萬行の諸善を具して、佛土を莊嚴し、而も心に著する所なく、行じて行の跡を絕す。是の故に能嚴も所嚴も俱に不可得なり。卽ち莊嚴にして莊嚴に非ず、是な

り、世尊よ。何を以ての故に。（三六）佛土を莊嚴すと言ふは、卽ち非莊嚴を以て莊嚴と名くればなり。』『是故に須菩提よ、諸の菩薩摩訶薩は、應に是の如く淸淨の心を生ずべし。色に住して心を生ずべからず、聲香味觸法に住して心を生ずべからず。（三七）應に住する所無うして而も其心を生ずべし。須菩提よ、譬へば如し人あり、身須彌山王の如くならば、意に於て云何、是身は大と爲んや不や。』須菩提言さく、『甚だ大なり、世尊よ。何を以ての故に、佛は非身を是れ大身と名づくと說きたまへばなり。』

【無爲福勝分第十一】『須菩提よ、（三八）恒河の中の有ゆる沙の數と等しき恒河ありとせば、意に於て云何、是の諸の恒河の沙數は寧ろ多しとせんや不や。』須菩提言さく、『甚だ多し、世尊よ。但だ諸の恒河すら尚無數なり、何に況んや其沙をや。』『須菩提よ、我れ今實語もて汝に告ぐ。若し善男子善女人あり、七寶を以て、爾所の恒河の沙の數なる三千大千世界に滿てて、以用て布施せんに、福を得ること多きや不や。』須菩提言さく、『甚だ多し、世尊よ。』佛、須菩提に告げたまはく、『若し善男子善女人ありて、此の經の中に於ける乃至四句の偈等を受持し、他人の爲めに說かば、此の福德は前の福德に勝れり。

【尊重正敎分第十二】復た次に、須菩提よ、是の經の乃至四句の偈等を說かば、當に知るべし、此

名けて佛土を莊嚴すと爲す。

【三七】此の句は金剛經中最も深義ある金言なり。禪家の公案にも採用せらる。讀者は自ら沈思默會するを宜しとす。

【三八】前には三千大千世界の寶施を言ひ、此には無量の三千大千世界の寶施を說き、以て持經の功德と比較して、寶施の功德の持經のそれに及ばざることを數す。

の處は一切世間の天・人・阿修羅の、皆まさに供養すること、佛の塔廟の如くなるべきを。何に況んや、人あり、盡く能く此經を受持し、讀誦せんをや。須菩提よ、當に知るべし、是の人は最上第一の(三九)希有の法を成就し、若し(四〇)是の經典所在の處には、則ち佛、若び尊重の弟子いますとなすことを』。

【如法受持分第十三】爾の時に須菩提、佛に白して言さく、『世尊よ、(四一)當に何んが此經を名け、我等は云何が「此の經を」奉持すべき』。佛、須菩提に告げたまはく、『是の經を名けて金剛般若波羅蜜と爲す。是の名字を以て、汝當に奉持すべし。所以は何となれば、須菩提よ、佛の般若波羅蜜と說きたまへるは、即ち般若波羅蜜に非ず、是を般若波羅蜜と名づくればなり。(四二)須菩提よ、意に於て云何、如來に所說の法ありや不や』。須菩提、佛に白して言さく、『世尊よ、(四三)如來に所說なし』。『須菩提よ意に於て云何、(四四)三千大千世界の有ゆる微塵の數は、是を多しとせんや不や』。須菩提言さく、『甚だ多し、世尊よ』。『須菩提よ。如來は、諸の微塵は微塵に非ず、是を微塵と名くと說きたまふ。又如來は、世界は世界に非ず、是を世界と名く

【三九】希有とは、世間に比すべきものなきを云ふ。

【四〇】是の經典の在る處には、三寶恒に存することを明す。

【四一】須菩提は已に此經を受持する功德の廣大なるを聞く、故に今その名を得て之を受持せんことを請へるなり。

【四二】佛既に此經の名を立つ。人あり佛果には法の說くべきものあるかと疑はん。佛これを恐れて此の問題を提起し給ふ。

【四三】眞如は對待を絕し、至理は言詮を超ゆるが故に無所說といふ。

【四四】世間の事物中、微塵より多きはなく、世界より大なるはなし。而も微塵に實性なく、世界にも亦た實性なし。故に微塵は微塵に非ず、世界は世界に非ずと說くなり。

と說きたまふ。須菩提よ。意に於て云何。(四五)三十二相を以て如來を見上まつるべきや不や。』『不なり、世尊よ。三十二相を以て、如來を見たてまつることを得べからず。何を以ての故に。如來は、三十二相は卽ち是れ相に非ず、是を三十二相と名くと說きたまへばなり。』『須菩提よ、若し善男子善女人あり、恒河の沙に等しき身命を以て布施せんに、若し復人あり、此の經中に於いて、乃至四句の偈等を受持して、他人の爲に說かんに、其の福甚だ多し。』

【離相寂滅分第十四】爾の時に須菩提は、佛の是の經を說きたまふを聞き、深く義趣を解して、涕淚悲泣し、佛に白して言さく、『希有なり、世尊よ、佛は是の如き甚深の經典を說きたまふ。我昔より以來、得る所の慧眼もて、未だ曾て是

【四五】 三十二相の名目は左の如し。

1 頂上肉髻(Uṣṇīṣaśiraskatā)
2 頭髮右旋(Pradakṣiṇāvarta-keśa)
3 額廣平(Samalalāṭa)
4 眉間白毫(Ūrṇākeśa)
5 眼色紺青而眼睫如牛王 (Abhinīlanetragopakṣmā)
6 四十齒具足 (Catvāriṃśad-danta)
7 齒齊密(Samadanta)
8 齒根深(Aviraladanta)
9 齒白淨(Śukladanta)
10 咽中津液得上味 (Rasarasāgratā)
11 頷如獅子(Siṃhahanu)
12 舌廣博(Prabhūtatanujihva)
13 聲如梵王(Brahmasvara)
14 臂頭圓相 (Susaṃvṛttaskandha)
15 七處平滿(Saptotsada)
16 兩腋滿相(Citāntarāṃsa)
17 皮膚細滑 (Sūkṣmasvarṇac-chavi)
18 正立不屈二手過膝 (Sthitā-navanatapralambabāhutā)
19 上身如獅子 (Siṃhapūrvār-dhakāya)
20 身縱廣等如聶卓答樹 (Nya-grodhaparimaṇḍala)
21 身毛上生青色柔軟 (Ekaika-romapradakṣiṇāvarta)
22 毛上靡(Ūrdhvaṃgaroma)
23 陰藏如馬王 (Kośagatavasti-guhya)
24 足跟圓好 (Suvartitoru)
25 足不露踝 (Ucchaṅkapāda)
26 手足柔軟 (Mṛdutaruṇahas-tapādatala)
27 手足縵網 (Jālāvanaddhaha-stapāda)
28 指纖長(Dīrghāṅguli)

の如きの經を聞くことを得ざりき。

世尊よ、若し復た人あり、是の經を聞くことを得て、(四六)信心清淨ならば即ち(四七)實相を生ぜん、當に知るべし、是の人は第一希有の功德を成就せんことを。世尊よ、是の實相とは即ち是れ相にあらず、是の故に如來は說いて實相と名けたまふ。世尊よ、我いま是の如きの經典を聞くことを得て、信解し受持することは難しと爲すに足らず。若し當來世の後の五百歲に、衆生ありて、是の經を聞くことを得て、信解し受持せば、是の人は即ち第一希有と爲す。何を以ての故に、此の人は我相もなく、人相もなく、衆生相もなく、壽者相もなければなり。所以は何ん、我相は即ち是れ相にあらず、人相・衆生相・壽者相も即ち是れ相にあらざればなり。何を以ての故に。一切の諸相を離るるを、則ち諸佛と名くればなり。」佛、須菩提に告げたまはく、「是の如し、是の如し。若し復た人あり、是の經を聞くことを得て、(四八)驚かず(四九)怖れず、(五〇)畏れずんば、當に知るべし、是人は甚だ希有なりとなす。何を以ての故に、須菩提よ、如來は(五一)第一波羅蜜は即ち第一波羅蜜に非ず、是を第一波羅蜜と名くと說きたまへばなり。須菩提よ、

---

29 手足具千輻輪 (Cakrāṅkita-hastapādatala)

30 足下平安 (Supratiṣṭhitapāda)

31 足跟廣長 (Āyatapādapārṣṇi)

32 腨如鹿王 (Aiṇeyajaṅgha)

【四六】信心清淨とは、諸の染著を離れたるをいふ。

【四七】實相とは眞空の體なり。

然なる實相生ずといふは、二執既に空すれば、則ち中道顯發す。故に權に名けて生ずといふなり。

【四八】驚とは、愕然として驚怪するを云ふ。

【四九】怖とは、違迷悼惶するをいふ。

【五〇】畏とは、一向に恐懼するをいふ。

【五一】第一波羅蜜とは、般若を指すなり。蓋し六種の波羅蜜中、前の五波羅蜜のみにて、

如來は、忍辱波羅蜜は忍辱波羅蜜に非ず、是を忍辱波羅蜜と名くと說きたまふ。何を以ての故に。須菩提よ、我昔、(五二)歌利王に身體を割截せられたるが如きは、我爾の時に、我相もなく、人相もなく、衆生相もなく、壽者相もなかりき。何を以ての故に。我往昔、節節に支解せられし時に於いて、若し我相・人相・衆生相・壽者相あらんには、應に瞋恨を生ずべければなり。須菩提よ、又過去を念ふに、五百世に於て忍辱仙人となり、爾所の世に於て我相も無く、人相もなく、衆生相もなく、壽者相もなかりき。是故に須菩提よ、菩薩は應に一切の相を離れて、阿耨多羅三藐三菩提の心を發すべきなり。彼は色に住して心を生ずべからず、聲香味觸法に住して心を生ずべからず、應に住する所なきの心を生ずべし。若し心に住あらば即ち住に非ずと爲す。是故に佛は說きたまふ、菩薩は心、色に住して布施すべからずと。須菩提よ、菩薩は一切衆生を利益せんが爲の故に、應に是の如く布施すべし。如來は說きたまふ、一切の諸相は即ち是れ相に非ずと。又說きたまふ、一切衆生は即ち衆生に非ずと。須菩提よ、如來は是れ(五三)眞語の者なり、(五四)實語の者なり、(五五)如語の者なり、(五六)不誑語の者なり、(五七)不異語

若し般若を缺かば、即ち是れ有爲にして、彼岸に到ること能はず、般若ありて、初めて能く妙行を成じて、彼岸に到ることを得べければなり。

【五二】Kaliṅga-rāja.（カリンガ ラージヤ）

【五三】眞語とは、其の理、眞にして妄ならざるをいふ。

【五四】實語とは其の事、實にして虛にあらざるをいふ。

【五五】如語とは、其の事と理と倶に如實にして、實相を顯はすをいふ。

【五六】不誑語とは、佛の說法は常に上の三語を用ひ、決して欺誑なきを云ふ。

【五七】不異語とは、前後の所說に變異矛盾なきをいふ。

【五八】如來所得の法とは。菩提を指せるなり。菩提は性もと空寂　體もと如如にして、虛實等の對待を絕す。故に實もなく虛もなしといふなり。

の者なり。須菩提よ。(五八)如來の得たまふ所の法、此の法は實もなく、虚もなし。須菩提よ。若し菩薩にして心を法に住せしめて布施を行せば、人の闇に入るが如く、卽ち所見なけん。若し菩薩にして心を法に住せしめずして布施を行せば、人の目ありて、日光明かに照して、種種の色を見るが如し。須菩提よ、當來の世に、若し善男子善女人ありて、能く此の經を受持し讀誦せば、則ち爲めに如來は佛智慧を以て悉く是の人を見、皆無量無邊の功德を成就することを得ん。

【持經功德分第十五】

(五九)須菩提よ、若し善男子善女人あり、初日分に、恒河の沙に等しき身を以て布施し、中日分にも、復た恒河の沙に等しき身を以て布施し、後日分にも、亦恒河の沙に等しき身を以て布施し、是の如く無量百千萬億劫、身を以て布施せんに、若し復た人あり、是の經典を聞いて、信心にして逆はずんば、其の福は彼に勝れたり。何に況んや、此の經を書寫し、受持し、讀誦し、人の爲に解說せんをや。須菩提よ、要を以て之を言へば、此の經は不可思議不可稱量の無邊の功德あり。

(六〇)如來は大乘の心を發す者の爲に、此の經を說き、最上乘の智慧を發すものの爲に[此の經を]說きたまふ。若し人ありて能く受持し、讀誦して、廣く人の爲に說かば、如來は悉く是の人を知り、悉く是の人を見そなはし、皆な不可量不可稱にして、有邊なき不可思議の功德を成就することを得ん。是

【五九】持經の功德を讃するに、凡そ五重あり。初に捨命の功德は高大なりと雖も、持經の功德に及ばざることを明す。

【六〇】二には大機の勝れたることを明す。

の如きの人等は、即ち如來の阿耨多羅三藐三菩提を荷擔すと爲す。何を以ての故に、須菩提よ、若し小法を樂ふものは、我見と人見と、衆生見と壽者見とに著し、此の經を聽受し、讀誦し、人の爲に解說すること能はざればなり。須菩提よ。(六一)在在處處に、若し此經あらば、一切世間の天人阿修羅の供養すべき所なり。當に知るべし。此處は即ち是れ塔と爲して、皆な應に恭敬し、作禮し、圍繞して、諸の華香を以て其の處に散せんことを。

【能淨業障分第十六】復た次に、須菩提よ、(六二)善男子善女人あり、此の經を受持し、讀誦して、若し人の爲に輕賤せられんに、是の人は先世の罪業もて、應に惡道に墮すべきも、今世の人に輕賤せらるるを以ての故に、先世の罪業則ち爲めに消滅して、當に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。須菩提よ、(六三)われ過去無量阿僧祇劫を念ふに、然燈佛の前に於て、八百四千萬億那由他の諸佛に値ひたてまつることを得て、悉く皆供養し承事して、空しく過すことなかりき。若し復た人あり、後の末世に於て、能く此の經を受持し讀誦して得る所の功德と、我が諸佛を供養する功德と「を比するに、此は彼の」百分の一にも及ばず、千萬億分、乃至算數譬喩も及ぶ能はざる所なり。須菩提よ、若し善男子善女人あり、後の末世に於て、此の經を受持し讀誦して得る所の功德を我もし具說せば、或は人あり、聞いて心即ち狂亂し、狐疑して信ぜざらん。須菩提よ、當に知るべし、

【六一】三には此の經の在る所は佛塔に同じきことを明す。

【六二】四には罪を轉じて成佛せしむる法力あることを明す。

【六三】五には此の經を受持し讀誦する功德は多佛に奉事し供養するの功德に勝ることを明す。

此の經の義は思議すべからず、果報も亦た思議す可らざることを。」

【究竟無我分第十七】 爾の時に須菩提、佛に白して言さく、「世尊よ、善男子善女人あり、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんには、云何が應に住すべき、云何が其の心を降伏すべき。」 佛、須菩提に告げたまはく、「善男子善女人にして、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんものは、當に是の如く心を生ずべし。我應に一切衆生を滅度すべし、一切衆生を滅度し已つて、而も一衆生の滅度すべきものあることなしと。何を以ての故に。須菩提よ、若し菩薩に我相と人相と衆生相と壽者相とあらば、則ち菩薩にあらず。所以は云何となれば、須菩提よ、實に法ありて阿耨多羅三藐三菩提の心を發す者なければなり。須菩提よ、意に於て云何。如來は然燈佛の所に於て、法ありて阿耨多羅三藐三菩提を得たまひしや不や。」「不なり、世尊よ、我が佛の所說の義を解するが如くんば、佛は然燈佛の所に於て、法ありて阿耨多羅三藐三菩提を得給へることなし」 佛の言はく、「【六四】是の如し、是の如し。須菩提よ、實に法ありて如來は阿耨多羅三藐三菩提を得たまへることなし。須菩提よ、若し法ありて如來は阿耨多羅三藐三菩提を得給ふことあらば、然燈佛は、我に授記を與へて、汝は來世に於いて、當に佛と作ることを得て、釋迦牟尼と號すべしと言ふ可からず、「而も實に法ありて阿耨多羅三藐三菩提を得ることなし。是の故に、然燈佛は、我に授記

【六四】 如是如是とは、世尊が須菩提の爲に法あるなしの言を印可し給ふなり。若し法の得べきあれば是れ有相の心にして、菩提に順ぜず、法の得べきなければ、是れ無相の心にして、菩提に順ず。

を與へて是の言を作したまふ。「汝は來世に於いて當に佛となることを得て、釋迦牟尼と號すべし」と。何を以ての故に。如來とは卽ち（六五）諸法如の義なればなり。

若し人ありて、如來は阿耨多羅三藐三菩提を得たまふと言はんも、須菩提よ、實に法ありて佛の阿耨多羅三藐三菩提を得たまふことなし。須菩提よ、如來の得たまふ所の阿耨多羅三藐三菩提は、是の中に於て、實もなく虛もなし。是の故に如來は、一切の法は皆なこれ佛法なりと說きたまふ。須菩提よ、言ふ所の一切の法とは、卽ち一切の法にあらず、是の故に一切の法と名づく。須菩提よ、譬へば人身の長大なるが如し。』須菩提言さく、『世尊よ、如來の人身長大なりと說きたまへるは、則ち大身にあらず、是を大身と名く。』『須菩提よ、菩薩も亦是の如し。若し是の言を作して、我當に無量の衆生を滅度すべしといはば、則ち菩薩と名けざるなり。何を以ての故に。須菩提よ、實に法として名けて菩薩と爲すものあることなければなり。是の故に佛は、一切の法は我もなく、人もなく、衆生も無く、壽者も無しと說きたまふ。須菩提よ、若し菩薩にして、我當に佛土を莊嚴すべしとの念を作さば、是れ菩薩と名けず。何を以ての故に。如來の佛土を莊嚴すと說きたまへるは卽ち莊嚴に非ず、是を莊嚴と名くればなり。須菩提よ、若し菩薩にして、（六六）無我の法に通達する者を、如來は說い

【六五】諸法如。如とは諸法の性は空にして、全く是れ眞如なり、往古來今毫も變異あることなく、脫體現成し、聖凡・染淨、生滅、去來等の相なき有樣を云ふ。如來も亦た是の如く、天眞にして妙に、迷悟に屬せず、毫も欺く所なく、法爾として現前せるなり。

【六六】無我。無我に二あり、一には人無我、二には法無我なり。人

て眞に是れ菩薩と名けたまふ。

【一體同觀分第十八】須菩提よ、意に於て云何、如來に（六七）肉眼ありや不や。』『是の如し、世尊よ。如來に肉眼あり。』『須菩提よ、意に於て云何、如來に（六八）天眼ありや不や。』『是の如し、世尊よ。如來に天眼有り。』『須菩提よ、意に於て云何、如來に（六九）慧眼ありや不や。』『是の如し、世尊よ、如來に慧眼あり。』『須菩提よ、意に於て云何、如來に（七〇）法眼ありや不や。』『是の如し、世尊よ、如來に法眼あり。』『須菩提よ、意に於て云何、如來に佛眼ありや不や。』『是の如し、世尊よ、如來に（七一）佛眼あり。』『須菩提よ、意に於て云何、恒河の中の有ゆる沙の如き、佛は是の沙を說きたまふや不や。』『是の如し、世尊よ、如來は是の沙を說きたまふ。』『須菩提よ、意に於て云何、一の恒河の有ゆる沙の如き、是の如きの沙に等しき恒河あり、是の諸の恒河の有らゆる沙に等しき佛の世界あらば、是の如きは寧ろ多しと爲んや不や。』『甚だ多し、世尊よ。』佛、須菩提に告げたまはく、『如來は爾所の國土中のあらゆる衆生の若干種の心を悉く知りたまふ。何を以ての故に。如來は諸心を皆非心と爲す、是を名けて心と爲すと說きたま

無我とは、個人的小我を無みし、法無我とは、物の個性を無みす。卽ち一は小我の暫有的にして永久不滅にあらざる旨を主張し、他は物の個性の無常變遷して須臾も停らざるを說ける教義なり。

【六七】肉眼。凡夫の肉眼は、唯障內のみを見、佛の肉眼は、人中の無數の世界を見る。

【六八】天眼。凡夫の天眼は、唯障外のみを見、二乘の天眼は、唯三千界を見、佛の天眼は、能く諸天の細色及び無數の世界を見る。

【六九】慧眼とは、根本智卽ち先天的の智を以て、眞空の理を照すをいふ。而して二乘は唯人空を照し、菩薩は法空を照し、佛は圓かに二空を照して盡さざるなし。

【七〇】法眼とは、後得智卽ち後天的の智を以て說法度生する

へばなり。所以は何、須菩提よ、(七二)過去心も不可得なり、現在心も不可得なり、未來心も不可得なればなり。

【法界通化分第十九】須菩提よ、意に於て云何。若し人あり、三千大千世界に滿てる七寶を以用て布施せんに、是の人は是の因緣を以て、福を得ること多きや不や。』『是の如し、世尊よ、此人は是の因緣を以て、福を得ること甚だ多し。』『須菩提よ、(七三)若し福德實に有らば、如來は福德を得ること多しと說きたまはず。福德無きを以ての故に、如來は福德を得ること多しと說きたまふ。

【離色離相分第二十】須菩提よ、意に於て云何。佛は、具足の色身を以て見たてまつるべきや不や。』『不なり、世尊よ。如來は具足の色身を以て見たてまつるべからず。何を以ての故に。如來は(七四)具足の色身は、卽ち具足の色身に非ずと說きたまふ、是を具足の色身と名くればなり。』『須菩提よ、意に於て云何。如來は(七五)具足の諸相を以て見たてまつるべきや不や。』『不なり、世尊よ。如來は具足の諸相を以て見たてまつるべからず。何を以ての故に。如來は具足の諸相は卽ち具足に非ずと說きたまふ。是を諸相具足

をいふ。

【七一】佛眼とは、前の四眼、佛に在つて皆勝るが故に、佛眼といふ。

【七二】此の句も金剛經中に於ける、最も名高き金言なり。蓋し過去の心は已に代謝し、未來の心は未だ生ぜず、現在の心は瞬時も止住せざるが故に不可得といふなり。されど斯く言ふも只一應の文字上の解釋のみ。其の深意は人人各自に沈思默會すべし。

【七三】人若し性空の理に達せず執して以て福德實に存すとなさば、則ち心住著するが故に、得る所の福は有漏となる、多しと言ふ可らず。されど若し性空の理に達し、執して實となさずんば、則ち心住著せざるが故に、得る所の福は無漏となる、乃ち多しと言ふべきなり。

と名くればなり。』

【非説所説分第二十一】「須菩提よ、(七六)如來は是の念を作したまふ、『我當に所説の法あるべし』と、是の念を作すこと莫れ。何を以ての故に。若し人、如來に所説の法ありと言はば、即ち佛を謗ることとなり、我が所説を解する能はざるが故に。須菩提よ、説法とは法の説くべき無き、是を説法と名くるなり。」爾の時に(七七)慧命須菩提、佛に白して言さく、「世尊よ、未來世に於ける衆生は是の法を説くを聞きて、頗だ信心を生ずることありや不や。」佛、(七八)須菩提に告げたまはく「彼は衆生に非ず、衆生に非ざるに非ず。何を以ての故に。須菩提よ、如來は衆生は衆生に非ず、是を衆生と名くと説きたまへばなり。」

【無法可得分第二十二】須菩提、佛に白して言さく「世尊よ、佛の阿耨多羅三藐三菩提を得たまふは、所得無しとせんや。」佛の言はく「是の如し、是の如し。須菩提よ、我阿耨多羅三藐三菩提に於いて、乃至(七九)少法も得べきものあること無し、是を阿耨多羅三藐三菩提と名くし

【淨心行善分第二十三】復た次に須菩提よ、(八〇)是の法は平等にして高下

【七四】具足の色身とは、八十種好をいふ。

【七五】具足の諸相とは、三十二相をいふ。

【七六】上に色身相好ともに見る可らずと言ふ。佛また人の色相を離れ佛に非ずんば、如何で能く説法し給ふかと疑はんことを恐れて、此の問題を提起し、須菩提に教導し給ふなり。

【七七】慧命　須菩提は解空第一にして、智慧圓通、慧を以て命と爲す、故に慧命と云ふ。

【七八】彼非衆生　信ずる者は、是れ凡夫の衆生に非ず、又聖性の衆生にあらざるに非ず。

【七九】少法の得べきもののあることなきを菩提と名づくる所以は、妄想の盡くる處、即ち是れ覺體の圓かに具はるを以てなり。

【八〇】是の法は凡夫に在つても減せず、聖人にあつても增さ

あることなし、是を阿耨多羅三藐三菩提と名く。我もなく、人もなく、衆生もなく、壽者もなくして、一切の善法を修するときは、則ち阿耨多羅三藐三菩提を得と名く。須菩提よ（八一）言ふ所の善法とは、如來は卽ち善法に非ずと說きたまふ、是を善法と名く。

【福智無比分第二十四】（八二）須菩提よ、若し人あり、三千大千世界の中の、有ゆる諸の須彌山王の如き、七寶の諸聚を持用して布施せんに、若し人あり、此の般若波羅蜜經の、乃至四句の偈だも受持し、讀誦し、他人の爲に說かば、前の「人の」福德は「此の經を持する者の福德の」百分の一にも及ばず、百千萬億分、乃至算數譬喩も、及ぶ能はざる所なり。

【化無所化分第二十五】（八三）須菩提よ、意に於て云何。汝等謂ふこと勿れ、如來は是の念を作したまふ、「我當に衆生を度すべし」と。須菩提よ、是の念を作すこと莫れ。何を以ての故に。實に衆生あつて如來の度したまふべき者無ければなり。若し如來の度したまふ衆生あらば、如來には卽ち我・人・衆生・壽者の相あらん。須菩提よ、如來の我ありと說きたまふは、卽ち我あるに非ず、而も凡夫の人は我ありと以爲へり。須菩提よ。如來は凡夫といふは、凡夫には非ずと說きたまふ、是を凡夫と名く。

す、智愚賢不肖の差別なく、平等絶對なるが故に、得不得などの言詮を容れざる也。

【八一】佛は人の善法を執して有爲に滯らんことを恐れ給ふが故に、善法に非ざるを善法と名くと說き給ふなり。

【八二】上に法の善法を修して菩提を得べしと言ふ。今それ諸の善法中に於ける、最上の善法は持經なることを宣說し給ふなり。

【八三】法もし平等にして高下なくんば、云何が如來は常に衆生を度し給はんと疑ふ。故に佛は之が斷ぜんが爲に此の敎誡をなし給ふ也。

【法身非相分第二十六】須菩提よ、意に於て云何。三十二相を以て如來を觀たてまつるべきや不や。』須菩提言さく『是の如し、是の如し、三十二相を以て如來を觀たてまつらん。』佛、須菩提に告げたまはく、『若し三十二相を以て、如來を觀たてまつらば、轉輪聖王は即ち是れ如來ならん。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊よ、我佛の說きたまへる義を解するが如くんば、三十二相を以て如來を觀たてまつるべからず。』爾の時に世尊は(八四)偈を說いて言はく、

『「若し色を以て我を見、或は音聲を以て我を求めば、是の人は邪道を行ずるもの、如來を見たてまつること能はざるなり。」

【無斷無滅分第二十七】(八五)須菩提よ、汝若し是の念を作さん、如來は具足相を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提を得るにあらずと。須菩提よ、是の念を作すこと莫れ、如來は具足相を以ての故に、阿耨多羅三藐三菩提を得るに非ずと。須菩提よ、汝若し此の念を作さん、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんものは諸法は斷滅すと說くと。是の念を作すこと莫れ。何を以ての故に。阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんものは、(八六)法に於て斷滅の相を說かざればなり。

【八四】眞如法身は、見聞の及ぶ所にあらず。乃ち眞智の境は、唯證と相應するのみ。故に此の偈を以て敎示し給ふ。

【八五】佛旣に聲色を以て如來を觀たてまつる可らずと說き給ふ。而も人の此の深旨に達せずして、一向に相を離れて佛を求めんことを恐れて之を遮す。蓋し色相は佛にあらずと雖も、佛は亦た色相を離れざれば也。

【八六】夫れ菩提を求むる者は、萬行門中に一法をも捨てず、豈に斷滅の法を說かんや。若し斷滅の法を說かば、則ち因中に於いて六度萬行を缺き、果中に於て福德莊嚴を損す。蓋し菩提と相去ること遠くして遠ければなり。

【不受不貪分第二十八】　(八七)須菩提よ、若し菩薩にして恆河の沙に等しき、世界に滿てる七寶を以て布施せんに。若し復た人あり。一切の法は無我なりと知りて、忍を成ずることを得ば、此の菩薩「の得る所の福德」は、前の菩薩の得る所の福德に勝れり。何を以ての故に。須菩提よ、諸の菩薩は福德を受けざればなり。』須菩提、佛に白して言さく、『世尊よ、云何が菩薩は福德を受けざる。』『須菩提よ、菩薩は作す所の福德に貪著すべからず、是の故に福德を受けずと說くなり。

【威儀寂靜分第二十九】　(八八)須菩提よ、若し人あり、如來は若しくは來り、若しくは去り、若しくは坐し。若しくは臥すと言はば。是の人は我が所說の義を解せざるものなり。何を以ての故に。如來といふは、(八九)從來する所も無く、亦た去る所も無きが故に、如來と名くればなり。

【一合離相分第三十】　須菩提よ、若し善男子善女人あり、三千大千世界を以て碎いて微塵と爲さば、意に於て云何、是微塵衆は寧ろ多しと爲んや不や。』『甚だ多し、世尊よ　何を以ての故に。若し此微塵衆實に有ならば、佛は卽ち是れ微塵衆と說きたまはず。所以は云何となれば、佛は微塵衆は

【八七】　既に斷滅を說かず、人は之を聞いて遂に有爲に著し、其の福德を貪らん。佛これを恐れて寶施の福德多しと雖も名けて勝れたりと爲さざる旨を說き給ふ。

【八八】　上に菩薩は無我なるが故に、福を獲ること寶施に勝れたりと說く。人は之を聞いて、菩薩は成佛す、實に出現受福の事あらんと謂ふ。故に如來には去來の相なき旨を說けるなり。

【八九】　水清ければ月現ず、月の來るにあらず、水濁れば月隱る、月の去るにあらず。但これ水に淸濁あり、月に昇沈あるに非ず。法も亦た然り、心淨ければ佛を見る、是れ佛の來るにあらず、心垢れば佛を見ず、是れ佛の去るにあらず。但是れ衆生の垢淨のみにして佛に隱顯あるに非ず。

微塵衆に非ず、是を微塵衆と名くと說きたまへばなり。世尊よ、如來は三千大千世界は卽ち世界に非ず 是を世界と名くと說きたまふ。何を以ての故に。若し世界は實に有たらば、卽ち是れ一合相。如來は一合相は卽ち一合相に非ず、是を一合相と名くと說きたまへばなり。須菩提よ、一合相と云ふは卽ち是れ說くべからず、但だ凡夫の人のみ其の事に貪著するなり。

【智見不生分第三十一】 (九〇)須菩提よ。若し人、佛は我見・人見・衆生見・壽者見を說きたまふと言はば、意に於て云何ん、是の人は我が所說の義を解するや不や。「不なり、世尊よ。是人は、如來の所說の義を解せざるなり。何を以ての故に。世尊は、我見・人見・衆生見・壽者見は、卽ち我見・人見・衆生見・壽者見に非ず、是を我見・人見・衆生見・壽者見と名くと說きたまへばなり。」(九一)須菩提よ 阿耨多羅三藐三菩提の心を發さんものは、一切の法に於て、應に是の如くに知り、是の如くに見、是の如くに信解して、法相を生ぜざるべし。須菩提よ、言ふ所の法相とは、如來は、卽ち法相に非ずと說きたまふ、是を法相と名く。

【應化非眞分第三十二】 (九二)須菩提よ、若し人あり、無量阿僧祇の世界に滿てる七寶を以て、持用して布施せんに、若し善男子善女人あり、菩提心を發し、此經を持ちて、乃至四句の偈だも受持し、讀誦し、人の爲に演說せば、其の福は彼に勝れり。云何が人の爲に演說せん。(九三)相を取らざれば如如にし

【九〇】 我執を除かんが爲に此の章あり。

【九一】 以下に法執を除かんが爲に說き給ふ。

【九二】 二執既に盡くれば自然に眞如と冥合する旨を明す。

【九三】 相を取らずとは、我相を取らず、法相を取らず、亦た非法相を取らず、此に於いて能く彼の眞如の如くにして永へに變動なき也。

て不動なり。何を以ての故に。

「一切の有爲法は、夢・幻・泡・影の如く、露の如く亦た電の如し。應に是の如きの觀を作すべし」。

(九四)佛、是の經を說き已りたまへば、長老須菩提、及び諸の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷、一切世間の天・人・阿修羅等、佛の所說を聞いて、皆な大いに歡喜し、信受し、奉行せり。

【九四】以下本經を結ぶの言なり　それ般若の深經は三世諸佛の母たり、經の四句一偈を聞くのみにして、已に惡趣の因を超ゆ、一念淨持すれば必ず菩提の記を獲ること疑なし。故に人天異類皆歡喜し信受し奉行する也。

國譯金剛般若波羅蜜經　終

仁王般若波羅蜜經解題

姚秦三藏鳩摩羅什譯

【序說】 それ眞理は湛寂にして、逈に有無の表に出で、智鏡は澄淨にして、洞に性相の源を照す。釋迦牟尼大聖の迹を王宮に現じ給ふや、無生にして生じ給ふ、故に生に所なく、無說の說を演べ給ふ、故に說に所說がないのである。動にして而も寂なることは、淸月の空を凌ぐが若く、語にして而も默なることは、摩尼の物を照すに等しいのである。これ蓋し如來が在昔居を鷲峰に占め、定に住して大悲心を興し、光明を大千世界に投げ給ふや、波斯匿王等が雲集煙凝して、天華を亂墜し、巖谷を坦夷ならしめ、淨土穢土、密に慈雲を布き、聖衆凡衆、皆法雨に霑ふことを得た所以であらう。若し夫の大明の照耀なかりせば、何を以てか昏衢を照破することが能きやう。若し又世尊の大法音を震ひ給はざりせば、何を以てか諸慾を塞ぐことが能きやう。

【內容概觀】 此の經も他の普通の經典と同じく、序・正・流通の三分より成り立つて居る。而して序分は證信及び發起の二序より成り、正宗分卽ち本論は、觀空、菩薩敎化、二諦、護國、散華、受持の六

品より成り。流通分即ち結論は囑累の一品より成り立つて居るのである。

先づ序品中の證信序には、聲聞衆、菩薩衆。在家衆、七賢衆、國王衆、及び五道の衆生等が、佛陀の說法を聽聞すべく、各自寶蓮華の上に坐せるを叙し、發起序には、十六大國王中の一人なる舍衞國の波斯匿王が、神力を以て八萬種の音樂を爲せば、東西南北の諸菩薩等は、各各無數の大衆と共に此の會に列り、六方の諸菩薩も亦各各音樂を作し、數多の大衆と共に會座に列り、正に說法の時至れる光景を叙してある。

次に正宗分中の初三品には內護の何なるかを辨じ、後三品には外護の何なるかを明してある。然り而して初三品中の第一觀空品には內護の果を說き、次の菩薩敎化品には內護の因を明し、第三の二諦品には內護の因と果とを雙べ說いてゐる。

又後三品中の護國品には正しく外護の何たるかを說き、次の散華品に於いては、般若波羅蜜多は諸佛の母たり、諸菩薩の母たり、神通の生處たる旨を述べ、且つ王のために五種の不思議神變を現じ給へる光景を叙し、受持品に至りて、前に說く所の內外の二護を雙べ說いてある。

而して最後の囑累品には、佛が滅後正法の衰ふべき前兆を豫言して、七種の敎勅を垂れ給へば、十六大國の國王等は、各各至心に佛語を受持し、出家者の行道を制止せずに、當に佛勅の如くせんと誓ひ、歡喜奉行せる旨を叙してある。

【漢譯】青龍寺良賁が詔を奉じて述べたる、仁王護國般若波羅蜜多經疏によれば、

仁王般若經一卷――月支國三藏法護譯――晉朝太始三年

仁王護國般若波羅蜜經二卷――三藏法師童壽譯――後秦弘始三年

仁王般若經一卷――西天竺三藏法師眞諦譯――梁朝承聖三年

護國仁王般若經二卷――南天竺執師子國三藏不空譯――唐永泰元年

の四譯ありと言つて居るが、現存せるは童壽卽ち鳩摩羅什譯と、不空譯との二經のみである。

【註疏】此の經は古來一部の學者間に、僞經の疑あるものとして、排斥せられて居る。予も亦た其の說に同ずる一人なるが、和漢兩朝に亙つて註疏書は可なり多い方である。今左に其の主要なるものを擧ぐれば、

仁王經疏　六卷　隋　吉藏撰

仁王經疏　三卷　唐　圓測撰

仁王經疏　三卷　隋　智顗說

仁王經科疏科文　一卷　明　眞貴述

仁王經科疏懸談　一卷　明　眞貴述

仁王經科疏　五卷　明　眞貴述

仁王護國般若波羅蜜多經疏　七卷　良賁勅撰
仁王護國般若經疏法衡抄　六卷　遇榮集
注仁王護國般若經疏　四卷　淨源撰
仁王經問答　一卷　撰者不詳
仁王護國經疏　三卷（内一卷缺）　行信撰
護國鈔　三卷　覺超撰
釋尊影響仁王經祕法　八卷　良助親王撰
仁王護國經疏　三卷　撰者不詳
仁王般若合疏講錄　三卷　光謙撰

等の十五種である。以て此の經が和漢兩朝の間に、如何に普く流布講傳せられしものなるかを察することが能きよう。

譯者　山上曹源　識

國譯仁王般若波羅蜜經

卷の上

序品第一

【序分】是の如く我聞けり。一時、佛八百萬億の「有」學無學の大比丘衆と與に、王舍城の(一)耆闍崛山の中に住し給ひき。「彼等は」皆阿羅漢にして、(二)有爲の功德と無爲の功德と、(三)無學の十智と有學の八智と、有學の六智、三根と、十六の心行と、(四)法假虛實觀と、受假虛實觀と、名假虛實觀と、(五)三空觀門と、四諦と十二因緣と及び無量の功德とを成就せり。

復た八百萬億の大僊の緣覺あり。「彼等は」(六)斷に非ず、常に非ず、四諦十二因緣を皆成就せり。復九百萬億の菩薩摩訶薩あり。「彼等は」皆阿羅漢にして、(七)實智の功德と方便智の功德とを「具足し、」獨り大乘を行じて、(八)四眼と(九)五通と(一〇)三達と(一一)十力と(一二)四無量心と(一三)四辯と(一四)四攝と

【一】耆闍崛山は譯して靈鷲山と云ふ。

【二】有爲とは梵語 Saṁskṛta(サンスクリタ) の譯語にして、正しく聚められたるもの、又は造作せられたるものの義なり。

【三】無學とは阿羅漢果を得たるもののこと、有學とは聖道に入りたれども未だ阿羅漢果を得ざるもののことなり。

【四】法假とは人間を構成する物質的要素を云ひ、受假とは其の精神的要素を云ふ。

(一五)金剛滅定と、〔是の如きの〕一切の功德みな成就せり。

復千萬億の五戒の賢者あり。皆阿羅漢の(一六)十地を行じ、(一七)五分法身に廻向し、具足して無量の功德皆成就せり。復た十千の五戒の淸信女あり。皆阿羅漢の十地を行じ成就し、始生の功德も住生の功德も終生の功德も三十生の功德も皆成就せり。復十億の(一八)七賢の居士あり。〔諸の〕德行〔卽ち〕(一九)二十二品、(二〇)十一切入、(二一)八除入、八解脫、三慧、十六諦、四諦(二二)四三二一品觀を具足し、九十忍を得て、一切の功德みな成就せり。

復萬萬億の九梵あり。〔彼等は〕皆(二三)三淨・三光・三梵と、五憙樂天と、天定と功德定と味と、常樂神通と十八生處の功德皆成就せり。復億億の六欲の諸の天子あり。〔彼等は〕十善の果報と神通の功德とを皆成就せり。復十六の大國王あり。〔彼等は〕各一萬二萬乃至十萬の眷屬を有し、五戒も十善も三歸の功德も淸信の行をも〔皆よく〕具足せり。

復五道の一切の衆生あり。復他方の不可量の衆あり。復十方の淨土を變じて、百億の高座を現じ、百億の須彌の寶華を化するあり。各の座の前の華の上に復無量の化佛あり。〔復〕無量の菩薩と比丘と八部の大衆とあり、

【五】三空觀門とは空・無相・無作の三昧の德を云ふ。卽ち三假の因緣を以ての故に三空を得るなり。詳言せば法假の故に空、受假の故に無相、名假の故に無作なり。

【六】無明によりて世を相續するが故に斷にあらず、自性なきが故に常にあらざるなり。

【七】實は則ち空を說き、方便は有を照す。實あるが故に生死に共住せず、方便あるが故に德に住せず、身を賤うして衆生を濟度するなり。

【八】四眼とは天眼と慧眼と法眼と佛眼となり。

【九】五通とは五神通の略、(一)天眼通、(二)天耳通、(三)宿命通、(四)他心通、(五)神足通又は神境通とも云ふ。

【一〇】三達とは過去の宿命明と現在の天眼明と未來の漏盡明とを云ふ。

各寶蓮華〔の上に〕坐せり。〔その〕華上に皆無量の國土あり、一一の國土に於ける佛及び大衆は、今の如くにして異なることなし。〔其等の〕一一の國土中の一一の佛及び大衆、各般若波羅蜜〔多〕を說き給へば、他の大衆及び化衆〔并びに〕此の三界の中の大衆〔卽ち〕十二大衆みな來つて集會し、九級の蓮華の座に坐せり。其の會は〔四〕方の廣さ九百五十里にして、大衆は〔皆〕僉然として坐せり

爾の時に十號と(二四)三明と大滅諦と金剛智とを具足し給へる釋迦牟尼佛は、初年の〔初〕月八日に、方に十地に坐し、(二五)大寂室三昧に入りて、思緣して大光明を放ち三界の中を照し給ふ。復〔その〕頂上より千の寶蓮華を出し給へば、華は上非想〔天〕非非想天に至る。〔その〕光も亦復爾り、乃ち他方の恒河沙の諸佛の國土に至る。時に無色界より無量に變せる大香華を雨ふらせば、香は車輪の如く、華は須彌山王の如く、雲の如くにして下れり。十八の梵天王〔も亦た〕百に變せる異色の華を雨ふらし、六欲の諸天も無量の色華を雨ふらし、其の佛座の前には、自然に、九百萬億級の華を生じ、上非想非非想天に至る。是の時に世界は其の地六種に震動せり。

【二一】十力とは(一)發心堅固力、(二)大慈力、(三)大悲力、(四)精進力、(五)禪定力、(六)智慧力、(七)身不厭生死力、(八)無生法忍力、(九)解脫力、(十)無礙事力なり。

【二二】四無量心とは慈心と悲心と喜心と捨心となり

【二三】四辨とは法と辭と義と樂說となり。

【二四】四攝とは布施と愛語と利行と同事となり。

【二五】金剛滅定。第十地の上忍の定は金剛の煩惱の山を碎くが如く、自ら傾動せざるが故に此の名あり。

【二六】十地とは(一)乾慧地、(二)性地、(三)八人地、(四)見地、(五)薄地、(六)離欲地、(七)已辨地、(八)辟支佛地、(九)菩薩地、(十)佛地なり

【二七】五分法身とは(一)戒、(二)定、(三)慧、(四)解脫、(五)解脫

爾の時に諸の大衆は倶に共に僉然として疑を生じ、各相謂つて言はく、『(二六)四無所畏と十八不共法と五眼とを具せる、法身の大覺世尊は、前に已に我等大衆の爲に、二十九年「の間」摩訶般若波羅蜜多、金剛般若波羅蜜多、天王問般若波羅蜜多、光讚般若波羅蜜多を說き給ふ。今日如來は大光明を放つて何事をか作し給ふ』と。時に十六大國王中の舍衛國の主、「その」名を月光と曰ひ、德行は十地と六度と三十七品と四の不壞の淨とを具足し、摩訶衍の化を行ぜる波斯匿王は、次第に居士、寶「積」、蓋「善」。法「賊」、淨名等の八百人に問ひ。復た須菩提、舍利弗等の五千人に問ひ、復彌勒、師子吼等の十千人に問へるに、「一人として」能く「之に」答ふるものなかりき。

時に波斯匿王は卽ち神力を以て、八萬種の音樂を作し、十八の梵「天」も、六欲の諸天も亦た八萬種の音樂を作せしかば、「其の」聲は三千乃至十方恒河沙の佛土を動かし、緣ありて斯に現ぜり。彼の他方の佛國中、南方の法才菩薩は、五百萬億の大衆と共に、倶に來つて此の大會に入り、東方の寶柱菩薩は、九百萬億の大衆と共に、倶に來つて此の大會に入り、北方

知見なり。

【一八】七賢に二類あり、小乘の七賢と大乘のそれとなり。小乘の七賢は五停心より世第一法までにて、大乘の七賢は(一)初發心の人、(二)有相行の人、(三)無相行の人、(四)方便行の人、(五)習種性の人、(六)性種性の人、(七)道種の人なり。

【一九】二十二品とは四念處と四正勤と四如意足と五根と五力とを云ふ。

【二〇】十一切入とは十偏處とも云ふ。入と處とは同語の異譯のみ。青黃赤白地水火風空處識處を十となす。

【二一】八除入とは(一)內有色相外觀色少、(二)內有色相外觀色多、(三)內無色相外觀色少、(四)內無色相外觀色多、(五)青、(六)黃、(七)赤、(八)白を云ふ。

【二二】四三二一觀。方便の內煖頂忍世第一法を四現忍と云

の虚空性菩薩は、百千萬億の大衆と共に、倶に此の大會に入り。西方の善住菩薩は、十恒河沙の大衆と共に、倶に來つて此の大會に入り。六方も亦復是の如くす。〔音〕樂を作すことも亦た然り。復た共に無量の音樂を作して、如來を覺悟し上れば、佛卽ち時を知ろしめし、衆生の根を得て、定より起ち、金剛山王の如く、方に蓮華の師子座の上に坐し給へば、大衆は歡喜して、各無量の神通を現じ、地〔上〕、及び虚空〔の中〕に住せり。

ふ。本文の四とは卽ち此の四現忍、三とは煗を除き、二とは煗と頂とを除き、一とは煗と頂と忍とを除けるなり。

【二三】三淨とは第三禪の三天卽ち少淨と無量淨と遍淨とを云ひ、三光とは第二禪の三天卽ち少光と無量光と光音とを云ふ。

【二四】三明とは三世を明鑒する德なり。

【二五】大寂室とは大涅槃と云ふに同じ、卽ち佛教に於ける最高最上の理想境なり。

【二六】四無所畏とは（一）一切智無所畏と（二）漏盡無畏と（三）盡苦道無畏と（四）說障道無畏となり。

觀空品第二

【正宗分】爾の時、佛、大衆に告げ給はく、『吾いま十六大國王の意に、國土を護るの因緣を問はんと欲するを知る〔が故に〕。先づ諸の菩薩の爲に、佛果を護るの因緣と、十地の行を護るの因緣とを說かん。諦聽せよ、諦聽せよ。〔而して〕善く之を思念して、如法に修行せよ。』

時に波斯匿王言はく、『善いかな。〔彼は〕大事因緣の故に卽ち百億種の色華を散じ、變じて百億の寶帳と成して、諸の大衆を蓋へり。』爾の時に大王は、復起ちて禮を作し、佛に白して言さく、『世尊よ、一切の菩薩の佛果を護り、〔または〕十地の行を護り給へる因緣は云何。』佛の言はく、『菩薩は(一)四生を化するに。色如と受想行識如と、衆生我人常樂我淨如と、知見壽者如と、菩薩如と、六度四攝一切行如と、二諦如とを觀ず。是故に一切の法性は眞實空にして、不來不去無生無滅なり。眞〔如實〕際に同じく法性に等しく、二もなく〔亦た〕別もなく、〔恰も〕虛空の如し　是の故に陰入界には、我もなく、〔亦た〕所有の相もなし。是を菩薩の十地を行化する般若波羅蜜多と爲す。』

〔大王〕佛に白して言さく、

『若し諸法爾ならば。菩薩の衆生を護化するは、〔何等の〕衆生をか化すとせむや』。〔佛言はく、〕

【一】四生とは胎生（人間等の如き）と、濕生（蟲の如き）と、卵生（鳥等の如き）と、化生（鬼等の如き）を云ふ。

『大王よ、法性は色受想行識なり。常樂我淨なり。色にも住せず、非色にも住せず、非非色にも住せず、乃至受想行識にも亦住せず、住せざるにもあらず。何となれば、色如にもあらず、色如ならざるにもあらず、世諦の故に、「又」三假の故に、衆生を見ると名くるを以てなり。「また」一切の生は性實なるが故に、乃至諸佛と三乘と七賢と八聖とを亦た見と名け、六十二見をば亦た見と名くるを以てなり。大王よ、若し名を以て一切の法乃至諸佛三乘四生を見ると名けなば、一切の法を見ることあらざるにあらず。』「大王」佛に白して言さく、

『般若波羅蜜「多」は有法なりや、非法なりや、摩訶衍は何んが照さむ』と「佛言はく」、

『大王よ、摩訶衍は非非法と見るなり。法若し非非法なれば是を非非法空と名く。「そは」法性も空なり、色受想行識も空なり、十二入も空なり、十八界も空なり、六大の法も空なり、四諦も十二因緣も空なるを以てなり。是の法は卽生、卽住、卽滅、卽有、卽空なり。剎那剎那にも亦た是の如く、法は生じ法は住し法は滅するなり。何となれば九十の剎那を一念となし、一念の中の一剎那に於て九百の生滅を經るを以てなり。乃至色「等」の一切の法も亦是の如し。般若波羅蜜「多」は空なるを以ての故に、緣をも見ず諦をも見ず、乃至一切の法は空なるなり。「卽ち」內も空なり外も空なり、內外も空なり、有爲も空なり、無爲も空なり、無始も空なり、性も空なり、第一義も空なり、般若波羅蜜「多」も空なり、因も空なり佛果も空なり、空空の故に空なり。但「其有なる所以のものは」、法集なるが故に有

なるなり、受集の故に有なるなり、名集の故に有なるなり、(二)因集の故に有なるなり、(三)果集の故に有なるなり、(四)十行の故に有なるなり、(五)佛果の故に有なるなり、乃至六道も一切有なるなり。』

『善男子よ、若し菩薩にして法と衆生と我人と知見とを見ば、斯の人は世間を行じて世間に異ならざるなり。諸法に於いて動ぜず、到らず滅せず、相もなく無相も無し。一切の法も亦如かなり。諸の佛法僧も亦如かなり。卽ち是れ初地の一念に八萬四千の般若波羅蜜〔多〕を具足するなり』

『卽ち載するを摩訶衍と名け、卽ち滅ぼすを(六)金剛と名け、亦た定と名け、亦た一切行と名く。光讃般若波羅蜜〔多經〕中に說くが如し。』

『大王よ、是の經の(七)名味句は百佛千佛百千萬佛の說き給へる名味句なり、恒河沙の三千大千國土の中に於いて無量の七寶を盛りて、三千大千國土の中の衆生に施し、皆七賢四果を得せしめんも、此の經の中に於いて(八)一念の信を起さんには如かず。何に況んや一句を解する者をや。句も句にあらず、句にあらざるに非ず、故に般若は句にあらず、句は般若にあらず、般若も亦た菩薩にあらざるなり。何となれば十地三十生も空なるを以てなり。始生と住生と終

【二】因集とは是れ生死の因にして集諦なり。

【三】果集とは是れ生死の果にして苦諦なり。

【四】十行とは道諦を指し、十信より十地に至るまで各十種の行門あるなり。

【五】佛果とは涅槃の異名にして滅諦のことなり。

【六】般若の能く煩惱を滅ぼすこと、恰も金剛の物を破するが如きを云ふ。

【七】名句味一字を字と名け二字を名と曰ひ、四字以上を名句と名け、句の所詮を味と云ふ。

【八】無漏の心より起る一念の信は、有漏の心を以てする財法二施の功德に勝るを云ふ。

生とは不可得にして、地地の中の三生も空なるを以てなり。亦（九）薩婆若にあらず、摩訶行に非ず、〔っては〕空なるを以てなり。』

『大王よ、若し菩薩の境を見　智を見、説を見、受を見るは、〔これ〕聖見にあらざるなり。倒想を以て法を見るは〔これ〕凡夫の人なり。三界を見ることは、〔これ〕衆生果報の名なり。六識の無量の欲を起すこと無窮なるを名けて、欲界藏の空となし、色に惑つて起す所の業果を名けて、色界藏の空となし、心に惑うて起す所の業果を名けて、無色界藏の空となす。三界も空なれば、三界の根本たる無明藏も亦た空なり。三地に九の生滅あり、前の三界の中の、餘の無明習〔氣〕の果報も空なり。金剛の菩薩は、理盡三昧を得るが故に、惑果の生滅も空なり。有果も空なり、因も空なるが故に空なり。薩婆若も亦た空なり　滅果も空なり。惑は前に已に空なるが故に、佛の得たまへる三無爲の果たる　（一〇）智緣滅と　（一一）非智緣滅と虚空と薩婆若の果も空なり。善男子よ、若し修習し聽説するあるも、聽くこともなく説くこともなく、虚空の如し、法は法性に同じく、聽も同じく説も同じ。一切の法も皆如かなり』

『大王よ、菩薩の佛果を修護すること此の若しと爲す。般若波羅蜜多を護るものは、薩婆若と十力と

【九】Sarvajña は一切智と翻す即ち佛果なり。

【一〇】智緣滅。智は觀心にして緣は煩惱なり。今それ佛は正しく心を觀じて煩惱を滅するが故に智緣滅と云ふなり。

【一一】非智緣滅とは正因佛性なり、性は本來自ら清淨にして煩惱の垢なく、觀行を勞せずして惑を滅するが故に、非智緣滅と云ふ。

十八不共法と五眼と五分法身と四無量心と一切功德の果を護ると爲す。』

佛の［是の］法を說き給ふ時、無量の人衆は皆法淨眼と性地と信地とを得、百千の人ありて皆大空菩薩の大行を得たり。

菩薩教化品第三

佛に白して言さく、

『世尊よ、十地の行を護る菩薩は、云何なる行をか行じ、云何なる行を以てか衆生を化し、何なる相を以てか衆生を化すべき』と。佛の言はく、

『大王よ、五忍は是れ菩薩の法なり。伏忍の上中下と、信忍の上中下と、順忍の上中下と、無生忍の上中下と、寂滅忍の上下と〔を五忍と云ひ、是を行ずるを〕名けて、諸佛菩薩の般若波羅蜜〔多〕を修すと爲す。』

『善男子よ、初めて相信を發する恒河沙の衆生は、伏忍を修行して、三寶の中に於いて習種性の十心を生ず。〔十心とは〕信心と精進心と念心と慧心と定心と施心と戒心と護心と願心と廻向心となり。是を菩薩の能く少分に衆生を化すと爲す。已に二乘の一切の善地を超過せり。一切の諸佛菩薩は十心を長養して聖胎と爲すなり。〔則ち〕次第に乾慧性の種を起し、性に十心あり。謂はゆる四の(一)意止たる身受心法は、不淨にして苦、無常にして無我なり。三の意止たる三善根は、慈と施と慧となり。三意止とは、謂はゆる三世の過去の因緣と現在の因果忍と未來の果忍となり。是の菩薩は亦能く一切

【一】意止とは智慧を以て心を止住せしむるを云ふ。意とは心王にして、身受心法は其の所觀の境なり。

衆生を化するなり。已に能く我人知見衆生等の想を過ぎ、また外道の倒想の壞する能はざる所なり。復た十の道種性の地あり、謂はゆる色受想行を觀じて、戒忍と知見忍と定忍と慧忍と解脱忍とを得るなり。三界の因果を觀ずるに、空忍と無願忍と無想忍とあり。二諦の虚實を觀ずるに、一切の法の無常なるを無常忍と名く　一切の法は空なるを以て無生忍を得るなり。是の菩薩は十堅心を以て轉輪王と作り、亦た能く四天下を化し、一切衆生の善根を生ぜしむ。また信忍の菩薩は、謂はゆる善達明中の行者にして、三界の色煩惱の縛を斷じ、能く百佛千佛萬佛の國中を化するに、百身千身萬身を現じて、神通無量の功德あり。常に十五心を以て首と爲す。〔十五心とは〕四攝法と四無量心と四弘願と三解脱門となり。是の菩薩は善覺地より薩婆若に至るまで、此の十五心を以て一切の行の根本種子と爲す。

また順忍の菩薩と云ふは、謂はゆる〔二〕見と勝と現法となり。能く三界の心等の煩惱の縛を斷ずるが故に、一身を十方の佛國の中に現じて、無量不可説の神通を以て衆生を化す。

また無生忍の菩薩と云ふは、謂はゆる〔三〕遠と不動と觀慧となり。亦三界の心色等の習煩惱を斷ずるが故に、不可説の功德神通を現ず。

復次に寂滅忍とは、佛と菩薩と同じく此の忍を用ひて金剛三昧に入るを云ふなり。〔即ち〕下忍の中

〔二〕見とは第四の炎慧地を指し、勝とは第五の難勝地、現法は第六の現前地なり。

〔三〕遠とは第七の遠行地にして、不動は第八の不動地、觀慧は第九の善慧地なり。

に行ずるを名けて菩薩と爲し、上忍の中に行ずるを一切智と爲す。共に第一義諦を觀じて、三界の心習を斷じ、無明を盡すの相を金剛と爲し、相と無相とを盡すを等覺と爲す。〔而して〕世諦と第一義諦との外に超度するを、第十一地の一切智地と爲す。〔こは〕有にもあらず無にもあらず、湛然として淸淨なり。常住不變にして眞〔如實〕際に同じく法性に等し。無緣の大悲を以て一切智の乘に乘じて、來つて三界を化す。』

『善男子よ、一切衆生の煩惱は三界の藏を出でず。一切衆生の果報たる二十二根も三界を出でず、諸佛の應化の法身も亦た三界を出でず。三界の外に衆生なし、佛は何の化する所かあらん。是の故に我は言ふ、三界の外に別に一衆生界の藏ありと云ふは、外道の大有經中の說にして、七佛の所說にあらずと。』

『大王よ、我は常に一切衆生に語れり、三界の煩惱の果報を斷じ盡せるをば名けて佛と爲し、自性淸淨なるを本覺の性と名く。是れ衆生の本業にして、〔また〕諸佛菩薩の本修行せし所たり、五忍の中に十四忍を具足せりと。』佛に白して言さく、

『云何ぞ菩薩は本業淸淨にして衆生を化するや。』佛の言はく、

『そは一地より乃至後の一地にいたるまで、自ら行ずる所と及び佛の行處と一切を知見するを以てなり。本業とは、若し菩薩にして百佛國の中に住するときは、閻浮の四天王と作つて百の法門を修し、

二諦平等の心を以て一切衆生を化す。』

『若し菩薩にして千佛國の中に住するときは、忉利天の王と作つて千の法門を修し、十善道を以て一切衆生を化す。』

『若し菩薩にして十萬佛國の中に住するときは、燄天王と作つて十萬の法門を修し、四禪定を以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして百億佛國の中に住するときは、兜率天王と作つて百億の法門を修し、道品を行じて一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして千億佛國の中に住するときは、化樂天王と作つて千億の法門を修し、二諦と四諦と八諦とを以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして十萬億佛國の中に住するときは、他化天王と作つて十萬億の法門を修し、十二因緣の智を以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして百萬億佛國の中に住するときは、初禪〔天〕の王と作つて百萬億の法門を修し、方便智と願智とを以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして百萬微塵數の佛國の中に住するときは、二禪の梵王と作つて百萬微塵數の法門を修し、雙照の方便神通智を以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして百萬億阿僧祇微塵數の佛國の中に住するときは、三禪の大梵王と作つて百萬億阿僧祇微塵數の法門を修し、四無礙智を以て一切の衆生を化す。』

『若し菩薩にして不可說不可說の佛國の中に住するときは、第四禪の大靜天王三界の主と作つて、不可說不可說の法門を修し、理盡三昧を得て佛の行處に同じて三界の源を盡し、一切衆生を敎化すること佛の境界の如くす。是の故に一切菩薩の本業化行は淸淨なり。』

『若し十方の諸の如來も、亦た是の業を修して無上覺の果に登れば、三界の王と作つて一切の衆生を化す。』

爾の時に百萬億恒河沙の大衆は各座より起つて、無量不可思議の華を散じ、無量不可思議の香を燒き、釋迦牟尼佛及び無量の大菩薩を供養し、掌を合せて、波斯匿王の般若波羅蜜多を說くを聽き、今佛前に於いて偈を以て讃して曰く、

『世尊導師は金剛の體なり、心行寂滅にして法輪を轉じ、八辯の洪音もて衆の爲に說き給ふ。時に衆の道を得たもの百萬億なり。』

『時に六天と人とは出家して、道［の爲］に比丘衆と成つて菩薩を行ず。』

『五忍の功德は妙法門にして、十四の正士は能く諦かに了れり。三賢と十聖とは忍の中に行じ、唯佛一人のみ能く源を盡し給ふ。』

『佛と僧と法との海は三寶の藏にして、無量の功德その中に攝在せり。十善の菩薩は大心を發して、長く三界苦輪の海に別る。』

『中下品の善は粟散王となり、上品の十善は鐵輪王となる。』

『〔十住の菩薩なる〕習種〔性の人〕は銅輪〔王として〕二天下に〔王と〕なり、〔十行の菩薩なる〕性種性〔の人〕は銀輪〔王として〕三天〔下に王〕となり、〔十廻向の菩薩なる〕道種〔性の〕堅德は轉輪王となり、七寶の金光は四天下〔を光被す〕。

『伏忍の聖胎は三十人、〔卽ち〕十信と十止と十堅心となり。三世の諸佛は中に於いて行じ、此の伏忍に由つて生ぜざるなし。』

『〔これ〕一切の菩薩行の本源なり、是故に發心信心を難しとなす。若し信心を得れば必らず退かず、進んで無生の初地の道に入り、衆生を敎化して覺の中に行ず、是を菩薩の初發心と名く。』

『善覺の菩薩は四天の王として、二諦平等の道を雙べ照す。』

『權に衆生を〔敎〕化して百國に遊び、始て一乘無相の道に登り、理の般若に入るを名けて住と爲し、住して德行を生ずるを地と爲す。』

『初住の一心に德行を〔具〕足すれば、第一義に於て而も動せざるなり。』

『(四)離達の開士は忉利王として、形を六道の千國土に現じ、無緣無相にして第三諦なり、死も無く

【四】離達。離とは破戒の垢を離るるとを云ふ。達とは三觀に通達するを云ふ。開士とは空法の道を開く人と云ふ義なり。

生も無く「また」二照もなし。』

『明慧の　(五)空照は燄天王として、形を萬國に應じて群生を導く。忍心は無二なり、三諦の中に有を出でて無に入り變化して生ず。』

『善覺と離「達」と明「慧」の三道の人は、能く三界の色の煩惱を滅し、還つて三界の身口の色を觀じて、法性第一なれば遺なく照す。』

『燄慧の妙光は大精進なり、兜率天の王として億國に遊ぶ。實智は緣寂なり、方便道を以て無生に達して空有を照し了る。』

『勝慧は三諦自ら達して明かに、化樂天の王として百億の國あり。空空を諦觀して二相なく、六道に變化して入ること無間なり。』

『(六)法現の開士は自在の王たり、無二無照にして理空に達し、三諦現前して大智光あり、千億の「國」土を照して一切を敎ふ。』

『燄と勝と法現とは、無相の定を以て能く三界の迷心の惑を洗ふ。空慧は寂然として緣觀なく、還つて心空を觀ずるに無量の報あり。』

『遠達の無生は初禪の王として、常に萬億の土に「遊んで」衆生を敎ふ。』

『未だ報身を度せずんば一生あり、進んで等觀法流の地に入り、始めて無緣の金剛忍に入り、三界

【五】空照。別教の人は三地に於いて人法の二空に達し忍を成就す、之を空照と云ふ。圓教にては則ち十住の第三住なり。

【六】法現。別教の第六地の菩薩の般若を圓滿せるを法現と云ふ。圓教にては第六住の中に於いて理空に達せるを云ふなり。

の報形永く受けず、第三義を觀じて二照なく、二十一生空寂を〔觀ずるを以て〕行と〔爲〕す。』
『三界の愛習順道の定は、遠達の正士のみ獨り諦かに了ず。』
『等觀の菩薩は三禪の王たり、變生の法身は無量の光あり、百恒の土に入りて一切を〔敎〕化し、圓に三世恒劫の事を照す。
『(七)返照と樂虛と無盡源とは、第三の諦に於いて常に寂然たり。』
『(八)慧光の開士は三禪の王として、能く千恒に於いて一時に現じ、常に無爲に在て空寂を行とし、恒沙の佛藏を一念に了ず。』
『(九)灌頂の菩薩は四禪の王たり、億恒の土に於いて群生を〔敎〕化し、始めて金剛に入りて一切を了じ、二十九の生をば永く已に度す。』
『〔これ〕寂滅忍中の下忍の觀なり、一たび轉ずれば妙覺常に湛然たり。』
『等と慧と灌頂との三品の士は、前の餘習の無明の緣を除く。無明の習相の故煩惱は、二諦の理窮むるを以て一切盡す。』
『(一〇)圓智の無相は三界の王たり、三十生を盡して大覺に等し。』
『大寂にして無爲なるは金剛藏なり、一切の報盡きて極まりなきの悲あり、第一義諦は常に安穩にして、源を窮め性を盡して妙智を存す。』

【七】返照とは過去七地已前の事を照すを云ひ、樂虛とは現在の事を緣ずるを云ひ、無盡源は未來の事を照すを云ふ。
【八】慧光とは第九善慧地の菩薩なり。
【九】灌頂。華嚴經第二十七に曰く、譬へば輪王の太子にして王相を成就すれば、四大海の水を取つて太子の頂上に灌ぎ、初めて灌頂の大王と名くるが如く、菩薩も亦是の如し。佛職を受くる時、諸佛は智水を以て是の菩薩の頂に灌ぐを灌頂の法王と名く。
【一〇】圓智無相。一切種智を圓滿して無相の相を盡すが故に圓智無相と云ふ。

『三賢十聖は果報に住し、唯佛一人のみ淨土に居り給ふ。一切の衆生は暫く報に住し、金剛の源に登れば淨土に居す。』

『如來の三業の德は極まり無し、我いま月光は三寶を禮す。』

『法王は無上にして人中の樹なり、大衆を覆蓋して無量の光あり。常に口に法を說いて義なきに非ず、心智寂滅にして無緣を照し給ふ。』

『人中の獅子「大」衆の爲に說き給へば、大衆歡喜して金華を散じ、百億萬の土は六たび大いに「震」動し、含生の類も妙果を受く。』

『天尊は快よく十四の王を說き給ふ、是の故に我いま略して佛を歎じ上つる。』

時に諸の大衆は、月光王の十四王の無量の功德藏を歎ずるを聞いて、大いなる法利を得たり。卽ち座の中に於いて、十恒河沙の天王と、十恒河沙の梵王と、十恒河沙の鬼神王と、乃至三趣とありて無生法忍を得、八部の阿須輪王は現に鬼身を轉じて天上に道を受け、三生にして正位に入る者あり、或は四生五生乃至十生にして正位に入ることを得、聖人の性を證して、一切無量の果報を得ぬ。

佛は諸の道果を得る實の天衆に告げ給はく、

「善男子よ、是の月光王は、已に過去の十千劫中の龍光王佛の法中に於いて、四住の開士となり、我は八住の菩薩たりき。今わが前に於いて大獅子吼すること是の如し。汝が解する所の如きは、眞の義

を得て、說くこと思議すべからず、度量す可からず。唯佛と佛とのみ乃ち斯の事を知り給ふ。』

『善男子よ、其說く所の十四の般若波羅蜜〔多〕の三忍と地地の上中下の三十忍とは、一切の行藏にして〔又〕一切の佛藏なり不可思議なり。何となれば一切の諸佛も是の中に生じ、是の中に滅し、是の中に化し、而かも生も無く、滅も無く、化も無く、自もなく、他もなく、第一にして無二なり。化に非ず、不化に非ず、相に非ず、無相に非ず、來もなく、去もなく、虚空の如くなるを以てなり。一切の衆生は、生滅なく縛解なく、因に非ず果に非ず、〔又〕因果にあらざるにも非ず。煩惱は我と人と知と見と受者となり。我所〔は空なり、そは〕一切の苦受の行は空なるを以てなり。一切の法集は、幻化の五陰にして合もなく散もなし。〔そは〕法は法性に同じく寂然として空なるを以てなり。法は境界空なり。空にして無相なれば、轉せず顚倒せず幻化に順ぜず、三寶もなく聖人も無く六道も無し。虚空の如くなるが故に。般若は知も無く見も無く、行にあらず緣にあらず、因にあらず受にあらず、一切の照相を得ざるが故に行道の相なり。斯の行道の相は虚空の如し。故に法の相も是の如し、何ぞ有心の得〔又は〕無心の得なる可けんや。是を以て般若の功德は、衆生の中に行ず可らざるを行じ、五陰の法の中に行ず可らざるを行じ、境の中に行ず可らざるを行じ、解の中に行ず可らざるを行ず。是の故に般若は不可思議なり。而も一切の諸佛菩薩は、中に於て行ずるが故に亦た不可思議なり。一切の諸の如來が、幻化無住の法中に於いて、化することも亦た不可思議なり。

『善男子よ、此の功德藏は、假使無量恒河沙の第十三灌頂の開士この功德を說くとも、百千億分［の一］に中り、王の所說の如きは、大海の一滴の如くならん。我いま略して分義の功德を述るに、大いに一切衆生を利益することあり。亦過去［未］來［現］今の無量の諸の如來の爲に述ぶる所は、三賢十聖の讃歎すること無量なりとも、是れ月光王の分義の功德ならん。』

「善男子よ、是の十四の法門は、三世の一切の衆生、一切の三乘［及び］一切の諸佛の修習する所なり。未來の諸佛も亦復是の如し。若し一切の諸佛菩薩は、此の門に由らずして、薩婆若を得と云はば、是の處あることとなし。何となれば一切の諸佛及び菩薩は異路なきを以てなり。是の故に一切の善男子よ、若し人あり諸忍の法門の信忍、止忍、堅忍、善覺忍、離達忍、明慧忍、焰慧忍、勝慧忍、法現忍、遠達忍、等覺忍、慧光忍、灌頂忍［及び］圓覺忍を聞かば、是の人は百劫千劫無量恒河沙の生生の苦難を超過し、此の法門に入りて、現身に報を得ん。時に諸の衆中に、十億の同名の虛空藏海の菩薩ありて、歡喜し法樂して、各に散花し、虛空の中に於いて變じて無量の花臺と成り、［其の］上に無量の大衆ありて十四の正行を說けり。十八の梵六欲天王も亦寶華を散じ、各虛空の臺上に坐して十四の正行を說き、［これを］受持し讀誦して其の義理を解せり。［また］無量の諸の鬼神も、現身に般若波羅蜜［多］を修行せり。」

佛、大王に告げたまはく、『汝は先に云何なる相を以てか衆生を化すべきと言へり。若し幻化の身

を以て幻化の者を見るが如きは、是れ菩薩の眞に衆生を行化するなり。衆生の識の初一念も木石に異なり、生得の善、生得の惡あり。惡は無量の惡識の本たり、善は無量の善識の本たり。初の一念より金剛の終の一念にいたるまで、中に於て不可說不可說の識を生じて衆生の色心を成す。是れ衆生の根本なり。色をば色蓋と名け、心をば識蓋想蓋受蓋行蓋と名く。蓋とは陰覆を用と爲し、身をば積聚に名く。大王よ、此の一色の法は無量の色を生ず。眼の所得を色と爲し、耳の所得を聲と爲し、鼻の所得を香と爲し、舌の所得を味と爲し、身の所得を觸と爲す。堅持するを地と名け、水を潤と名け、火を熱と名け、輕動を風と名け、五識を生ずる處を根と名く。是の如く一色一心に不可思議の色心あり。大王よ、凡夫の六識は麤なるが故に、假名の靑黃方圓等の無量の假の色法を得、聖人の六識は淨なるが故に、實法の色香味觸の一切の實の色法を得るなり。』

『衆生とは世諦の名なり。若しくは有、若しくは無、但衆生の憶念より生ずるを名けて世諦と爲す。世諦は假誑幻化の故に有なり、乃至六道も幻化なり、衆生の見も幻化なり。幻化にして、幻化の婆羅門刹「帝」利毘舍首陀神我等の色と心とを見るを幻諦と名く。』

『幻諦の法は、佛の出世なき前には、名字もなく義もなきを幻法と名けぬ。幻化は名字もなく、體相もなく、三界の名字も無く、善惡の果報六道の名字も無し。』

『大王よ、是の故に諸佛は世に出現して、衆生の爲の故に、說いて三界六道の名字を作し給ふ。是を

無量の名字と名く。空法と四大法と心法と色法との如し。相續の假法は、一にあらず異にあらず。一も亦續かず、異も亦續かず。一にあらず異にあらざるが故に相續諦と名く。』
『相待の假法をば、一切相待と名け、亦は不定相待と名く。五色等の法と有と無と一切等法との如し。一切の法は皆緣より成り、假りに衆生を成す。倶時の因果、異時の因果、三世の善惡は一切の幻化なり。是れ幻諦の衆生なり。大王よ、若し菩薩も上の所見の如く、衆生も幻化なり、皆是れ假誑なり、空中の花の如し。十住の菩薩「及び」諸佛の五眼は、幻諦の如くに見て、菩薩の衆生を化することも此のごとしと爲し給へり。』
時に諸の無量の天子及び諸の大衆ありて、伏忍を得たるものあり、「又は」空無生忍を得たるものあり、乃至一地十地不可說の德行を得たるものありき。

二諦品第四

爾の時に波斯匿王は、佛に白して言さく、『第一義諦の中に世諦ありや、不や。若し無しと言はば、智は應に「眞智俗智の」二なるべからず。若し有りと言はば、智は應に一なるべからず。一二の義その事いかん。』佛、大王に告てのたまはく、

『汝は過去七佛「の時」に於いて、已に一義二義を問ひき。汝も今聽くことなく、我も今說くことなし。聽くことなく說くことなきを卽ち一義二義とするが故に、諦かに聽き諦かに聽きて、善く之を思念し、法の如くに修行せよ。七佛の偈も是の如し。』

『無相の第一義は。自も無く他作も無し。因緣は、本より自ら有にして、自も無く他作も無し。』

『法性は本より無性なり。第一義も空如なり。諸有は本より有法にして、〔一〕三假の集は假有なり。』

『無と無との諦は實に無なり、寂滅にして第一空なり。諸法は因緣の有なり。有無の義は是の如し。』

『有と無とは本より自ら二なり、譬へば牛の二角の如し　照解すれば無二なりと見るも、二諦は常に卽せず。』

『解心は不二なりと見る、二を求むるに不可得なり。二諦は一なりと謂ふにあらず、非二も何ぞ得

【一】三假とは一に名假、二に受假、三に法假なり。

ぺけんや。』

『解に於いては常に自ら一にして、諦に於いては常に自ら二なり。此の無二に通達すれば、眞に第一義に入る。』

『世諦は幻化より起る、譬へば虚空の華の如し。影と[二]三手との無なるが如く。因緣の故に誑有なり。』

『幻化は幻化を見る、衆生を幻諦と名く。幻師は幻法を見れども、諦實は則ち無なり。』

【二】三手とは三本の手を有する人間と云ふ意味なり。

『「これを」名けて諸佛の觀と爲す、菩薩の觀も亦た然かなり。』

『大王よ、菩薩摩訶薩は、第一義の中に於いて常に二諦を照して衆生を「教」化す。佛と及び衆生とは、一にして而も無二なり。何となれば衆生空なるを以ての故、菩提の空に置くことを得、菩薩空なるを以ての故に、衆生の空に置くことを得ればなり。一切の法は空なるを以ての故に、空も「亦た」空なり。何となれば般若は無相にして二諦は虚空なり、般若空なれば、無明より乃至薩婆若にいたるまで、自相もなく他相も無きを以てなり。五眼を成就する時は、見れども所見なし。行も亦受けず、不行も亦受けず。非行非不行も亦た受けず、乃至一切の法も亦受けず。菩薩の未だ成佛せざる時は、菩提を以て煩惱となし。菩薩の成佛する時は、煩惱を以て菩提と爲す。何となれば第一義に於いては「此の二は」不二なるを以てなり。諸佛如來も乃至一切の法も如なるを以てなり。』

〔大王〕佛に白して言さく、『十方の諸の如來と一切の菩薩とは、文字を離れずして而も諸法の相を行ずるや。』

〔佛の言はく〕『大王よ、法輪とは、㈢法本も如なり。重誦も如なり。受記も如なり。不誦偈も如なり。無問自說も如なり。戒經も如なり。譬喩も如なり。法界も如なり。㈣本事も如なり。㈤方廣も如なり。㈥未曾有も如なり。㈦論議も如なり。是の名味句も音聲も、果たる文字記句も、一切如なり。若し文字を取るものは空を行ぜざるなり。』

『大王よ、如如の文字を修するは、諸佛の㈧智母なり。一切衆生の性、根本の智母を卽ち薩婆若の體と爲す。諸佛の未だ成佛せざるときは、當佛を以て智母と爲し、未得を㈨性と爲し、已得を薩婆若となす。三乘の般若は不生不滅にして自性常住なり、〔そは〕一切の衆生は、此を以て覺性とするを以てなり。若し菩薩は受も無く文字も無く、文字を離れて〔而〕も文字にあらざるにもあらず、修すれども修なきを文字を修するものと爲す。〔斯くて〕般若の眞性を得れば、〔これ〕般若波羅蜜〔多〕なり。大王よ、菩薩の佛を護り衆生を〔敎〕化するを護り、十地の行を護ることは此の如しと爲す。』

【三】法本とは修多羅卽ち經の異譯なり。

【四】本事とは闍多伽の譯語にして、釋尊の因地の修行を物語體に譯せる經典なり。

【五】方廣とはヴイプリャの譯語なり。

【六】未曾有とは阿浮陀達磨の譯語にして、又の譯名を最勝經と云ふ。

【七】上の法本より此の論議までを十二分敎と云ふ。

【八】智母。因緣生の智は敎を智母と爲す。而して空は文字の如く、文字は空の如し。故に如如と云ふ。此の如如に因つて佛智を生ず、故に智母と云ふなり(科註)。

【九】性とは佛性の略なり。此

〔大王〕佛に白して言さく、『無量の品の衆生なれば、根も亦た無量なりや、行も亦た無量なりや、法門は一となさんや、二となさんや、〔將た〕無量となさんや。』〔佛の言はく、〕

『大王よ、一切の法の觀門は、一にあらず二にあらず、乃至無量ならんや。一切の法は亦有相にあらず、無相にあらざるに非ず。若し菩薩は衆生を見るに、一とも見二とも見、又は一とも見ず二とも見ず。不二とは第一義諦なり。大王よ、若しくは有、若しくは無とは卽ち世諦なり。三諦を以て一切の法を攝す。〔そは〕空諦と色諦と心諦となり。故に我は一切の法は三諦を出でずと說く。我も人も知も見も五受陰も空なり、乃至一切の法も空なり。衆生の品品根行の不同なるが故に、法門も一にあらず二にあらず。大王よ、七佛の摩訶般若波羅蜜〔多〕を說き給ふと、我が今般若波羅蜜〔多〕を說くとは、二もなく別もなし。汝等大衆よ、當に此經を受持し讀誦し解說するの功德によりて、無量不可說不可說の諸佛あり、一一の佛は無量不可說の衆生を敎化し、一一の衆生みな成佛することを得ん。是の佛は復無量不可說の衆生を敎化して皆成佛することを得せしめん。是れ上の三佛の般若波羅蜜多を說き給ふ時八百萬億の偈あり、一偈の中に於いて、復分ちて千分と爲し、一分の中に於いて、一分の句義を說くとも、〔其の功德〕窮盡すべからず。況んや復此の經中に於いて、一念の信を起さば、此の諸の衆生は百劫千劫十地等の功德を超えん。何に況んや、〔此の經を〕受持し讀誦し解說するものの功德をや。

の句の意味は、衆生の身にありては佛性と名け、佛の身にありては一切種智と名くと云ふことなり。

〔彼等は〕卽ち十方の諸佛と等うして異りあること無けん。當に知るべし是の人は卽ち是れ如來なり、佛を得んこと久しからざらん。』

時に諸の大衆此の經を說き給ふを聞き、〔其の中〕十億の人は三空忍を得、百萬億の人は大空忍の十地の性を得ぬ。

『大王よ、此の經を名けて、仁王問般若波羅蜜經と爲す。汝等は、〔此の〕般若波羅蜜經を受持せよ。此の經に復無量の功德あれば、名けて護國土の功德と爲す。亦は一切の國王の法藥と名く。〔これを〕服行するに大用あらずと云ふこと無し。〔此の經には〕舍宅を護るの功德あり。亦た一切衆生の身を護る〔功德あり〕。卽ち、此の般若波羅蜜は、是れ國土を護ること、城塹墻壁刀劒鉾楯の如し。汝應に受持せば般若波羅蜜も亦復是の如くなるべし。』

巻の下

護國品第五

爾の時に佛、大王に告げたまはく、「大王よ、汝等善く聽け、吾いま正に國土を護る法用を說かん。汝當に、般若波羅蜜を受持すべし。國土亂れ、破壞し、劫燒し、賊來つて國を破らんと欲する時に當つて、當に百の佛像と百の菩薩像と百の「阿」羅漢像と百の比丘衆と四大衆と七衆とを請じて、共に是の經を聽き、百の法師を請じて、般若波羅蜜を誦せしむべし。「又」百の獅子吼の高座の前に、百燈を燃し、百の和香を燒き、百種の色花を以て用ひて、三寶を供養し、三衣什物もて法師を供養し、小飯中食また復時を以てせよ。大王よ、一日二時に此の經を讀誦せよ。汝が國土の中に、百部の鬼神あり、是の一一の部に復百部ありて、此の經を聞かんと樂ふ。此の諸の鬼神は、汝が國を護るべし。大王よ、國土亂るる時は、先づ鬼神亂る。鬼神亂るるが故に、萬民亂れ、賊來つて國を劫し、百姓亡喪して、臣と君と太子と王子と百官と共に是非を生ず。「加之」天地怪異にして、二十八宿星の道も日月も「共に」時を失し度を失し、多くの賊起ることあり。大王よ、若し火難水難風難「及び」一切の諸難あらば、亦應に此の經を講讀すべし。法用は上に說くが如し。』

『大王よ、但國を護るのみにあらず亦福を護ることあり。〔卽ち〕富貴官位七寶を求めば、意の如く行來せん。男女を求め、慧解名聞を求め、六天の果報、人中の九品の果樂を求めんにも、亦た此の經を講讀すべし。法用は上に說くが如し。』

『大王よ、但福を護るのみにあらず、亦衆難を護るなり。若しくは疾病苦難、杻械枷鎖その身を檢繫し、四重の禁〔戒〕を破り、五逆の因を作し、八難の罪を作して六道の事を行じ、一切の無量の苦難にも、亦此の經を講讀すべし。法用は上に說くが如し。』

『大王よ、昔日王あり、釋提桓因と云ふ。頂生王來りて天上に上り其の國を滅ぼさんと欲す。時に帝釋天王卽ち七佛の法用の如く、百の高座を敷き、百の法師を請じて、般若波羅蜜を講說せしかば、頂生〔王〕は卽ち退〔却〕しぬ。滅罪經の中に說くが如し。』

『大王よ、昔天羅國に王ありき。〔彼に〕一りの太子あり、王位に登らんと欲す。班足太子と名く。外道の羅陀師より、千〔人〕の王頭を取つて以て塚神を祭らば、自ら其の位に登るべしとの敎を受けぬ。已にして九百九十九王を得たれども一王を少けり。卽ち北の方萬里を行いて一王を得たり、名を普明王と曰ふ。其の普明王、班足王に白して言さく、「願くは一日を聽されよ。〔われ〕沙門に飯食せしめて、三寶を頂禮せん」と。かくて班足王は一日の間之を許しぬ。時に普明王は卽ち過去七佛の法に依りて、百の法師を請じ、百の高座を敷き、一日二時に、般若波羅蜜の八千億の偈を講說し竟りぬ。其

の第一の法師は、普明王の爲に、偈を說いて言はく、

『劫燒くること終に訖はれば、乾坤も洞然たり。須彌も巨海も、都て灰となつて颺がらん。』

『天龍も福盡きて、中に於いて凋喪し、二儀すら尙ほ殞ぶ、國〔家〕何の常かあらん。』

『生老病死は、輪轉して際なし、事と願と違へば、憂悲して害を爲す。』

『欲深ければ禍重し、瘡疣は外に無し、三界は皆苦なり、國に何の賴かあらん。』

『有は本自より無なり、因緣を以て諸〔物〕を成す。盛なる者は必ず衰へ、實なるものは必ず虛し。』

『衆生は蠢々として、都て幻居の如し。聲も響も倶に空にして、國土も亦如なり。』

『識神は形なく、假に四馳に乘せり。眼なくして保養し、以て樂を車と爲す。』

『形には常の主なく、神には常の家なし。形神すら尙ほ離る、豈に國あらんや。』

『爾の時に法師此の偈を說き已れば、普明王の眷屬は(一)法眼空を得、王自らは虛空等定を證得し、聞法解悟して、還つて天羅國班足王の所に至り、衆の中に於いて、九百九十九王に告げて言はく、「命〔終〕の時いたりぬ、人人皆、過去七佛の仁王般若波羅蜜經中の偈句を誦すべし」と。時に班足王は諸王に問うて言はく、「皆何の法をか誦する」と。時に普明王は卽ち上の偈を以て王に答へしかば、王は是の法を聞いて空三昧を得。九百九十九王も亦た法を聞き已つて三空門定を證せり。』

【一】法眼空とは人空のことにして、虛空等定は卽ち法空なり。

『時に班足王は極めて大いに歡喜して、諸王に告げて言はく、「我、外道の邪師の爲に誤らる、君等の過にあらず。汝〔等〕。本國に還りて、各法師を請じて、般若波羅蜜の名味句を講說すべし」と。時に班足王は國を以て弟に付し、出家し道を爲めて、無生法忍を證せり。〔これ〕十王經の中に說くが如し。五千の國王も常に是の經を誦して、現世に報を生じぬ。大王よ、十六大國の王の國を護るの法を修することも應に是の如くなるべし。汝當に受持すべし。天上人中六道の衆生も皆應に七佛の名味句を受持すべし。未來世の中に復無量の小國王ありて、國土を護らんと欲するものも亦復然り。〔乃ち〕法師を請じて般若波羅蜜の名味句を說かしむべし。』

爾の時に釋迦牟尼佛、般若波羅蜜多を說き給へば、〔其の〕衆中の五百億の人は(二)初地に入ることを得、復六欲の諸の天子八十萬人ありて(三)性空地を得。復十八梵ありて無生法忍を得、〔或は〕無生法樂忍を得、復先に已に菩薩を學する者ありて、一地二地三地乃至十地を證し、復八部の阿須輪王ありて(四)十三昧門を得、二の三昧門を得、鬼身を轉じて天上の正受を得、此の會にあるものも皆自性信乃至無量空信を得ぬ。吾いま略して天等の功德を說く、具には〔說き〕盡すべからず。

【二】初地とは十信の初心地なり。
【三】性空地とは無明の性空を觀ずることを云ふ。
【四】十三昧門とは前に擧げたる十一切入のことにして二の三昧門とは眞俗二諦のことなり。

散華品第六

爾の時に、十六大國の王は、佛の十萬億の偈をもて、般若波羅蜜を說き給へるを聞き、歡喜無量なりき。卽ち百萬億の華を散ずるに、虛空の中に於いて變じて一座と爲る。十方の諸佛は共に〔其の〕一座に坐して般若波羅蜜を說き給ふ。無量の大衆は、共に一座に坐し、金羅華を持して、釋迦牟尼佛の上に散ずるに、萬輪の華と成つて大衆の上を蓋ひ、復た八萬四千の般若波羅蜜の華を散ずるに、虛空の中に於いて變じて白雲の臺と成る。臺中の光明王佛は、無量の大衆と共に、般若波羅蜜を說き給ふ。臺中の大衆は、雷吼華を持して、釋迦牟尼佛及び諸の大衆に散ず。復妙覺華を散ずるに虛空の中に於いて變じて金剛城と作る。城中の獅子吼王佛は、十方の佛と大菩薩衆と共に第一義諦を論じ給ふ。時に城中の菩薩は、光明華を持して、釋迦牟尼佛の上に散ずるに、一の華臺と成り、臺中の十方の諸佛及び諸の天人は、天華を釋迦牟尼佛の上に散ずるに、虛空の中に於いて、紫雲の蓋と成り、三千大千世界を覆ふ。蓋中の天人は恒河沙の華を散ずるに雲の如くに下れり。

時に諸の國王は、散華し供養し已つて、過去の佛、現在の佛、及び未來の佛に般若波羅蜜を說き給へと願ふ。一切の受持する者は、比丘・比丘尼。信男・信女の求むる所、意の如くにして、常に般若波羅蜜を行ぜよと願ふ。佛、大王に告げ言はく、是の如し、是の如し。王の說く所の如く、般若波羅蜜は

應に說くべく應に受くべし。是れ（一）諸佛の母なり、諸菩薩の母なり、神通の生處なり。』

時に佛は王の爲に五の不思議神變を現じ、一華を無量華に入れ、無量華を一華に入れ、一佛土を無量の佛土に入れ、無量の佛土を一佛土に入れ、無量の佛土を一毛孔の土に入れ、一毛孔の土を無量の毛孔の土に入れ、無量の須彌と無量の大海とを芥子の中に入れ、一佛身を無量の衆生身に入れ、無量の衆生身を一佛身に入れ、六道身に入れ、地水火風身に入れ給ふ。

佛身も不可思議なり、衆生身も不可思議なり、世界も〔亦た〕不可思議なり。佛の神足を現じ給ふ時、十方の諸の天人は佛華三昧を得、十恒河沙の菩薩は現身に成佛し、三恒河沙の八部の神王は菩薩の道を成じ、十千の女人は、現身に神通三昧を得たり。善男子よ、是の般若波羅蜜は、三世の利益あり、過去には已に說き、現在には今說き、未來には當に說かん。諦かに聽き諦かに聽きて、善く之を思念し、法の如くに修行すべし。

【一】諸佛の母は實相般若にして、菩薩の母は觀照般若、而して神通は文字般若なり。文字は能く智慧を發す、智慧生ずれば卽ち神通發る。

受持品第七

爾の時に月光は心に念じて口に言さく、『(一)釋迦牟尼佛を見上まつれば無量の神力を現じ給ひ、亦た千華臺上の寶滿佛を見上つれば、是れ一切の佛の化身の主なり。復た千華葉の世界の上の佛を見上つれば、諸佛は各般若波羅蜜を說き給ふ』と。佛に白して言さく、『是の如き無量の般若波羅蜜は、說く可らず、解す可らず、識を以て識る可らず。云何ぞ諸の善男子は、是の經の中に於いて、明了に覺解して、法の如くに、一切の衆生に(二)空法の道を開かしめんとするや。』大牟尼言はく、『十三の觀行を修行する諸の善男子ありて大法王と爲り、習忍より金剛頂に至るまで皆法師たり、〔衆生を〕依持し〔正法を〕建立するなり。汝等大衆は、應に佛を供養するが如くに之を供養し、應に百萬億の天華天香を持し、以て奉上すべし。』

『善男子よ、其の法師とは、是れ習種性の菩薩なり。在家の優婆塞優婆夷、若くは出家の比丘比丘尼は、十善を修行して、自ら己身の地水火風空識は分分不淨なりと觀じ、復十四根を觀ず。謂はゆる五情と(三)五受と男と女と意と命とに、等しく無量の罪過あり〔と觀ずるが〕故に、卽ち無上菩提の心を

【一】一に釋尊の神力を見るは法身佛、二に寶滿を見るは報身佛、三に千華の上の佛を見るは化身佛なり。

【二】空とは此所にては般若の智慧を云ふ。此の智慧によりて能く神通變化を得るなり。

【三】五受とは苦と樂と憂と喜と捨となり。

發し、常に三界の一切の念念みな不淨なりと修するが故に、不淨忍の觀門を得、佛家に住在して六の和敬を修す。〔六和敬とは〕謂ゆる三業と同戒と同見と同學となり。〔斯くて〕八萬四千の波羅蜜の道を行ず。』

『善男子よ、習忍以前に十善を行ずる菩薩に退あり進あり。譬へば輕毛の風に隨つて東西するが如く、是の諸の菩薩も亦復是の如し。十千劫を以て十正道を行じ、三菩提心を發して、乃ち當に習忍の位に入り、亦常に三伏忍の法を學すと雖も、而も字を以て名く可らず、是れ不定の人なり。定の人は生空の位に入る。〔そは〕聖人の性なるが故に、必らず五逆（四）六重二十八輕を起さざればなり。佛法の經書に反逆の罪を作つて佛說にあらずと言ふは、是の處あること無し。能く一阿僧祇劫を以て、伏道忍の行を修して、始めて（五）僧伽陀位に入ることを得るなり。』

『復次に性種性は、十慧の觀を行じて、十顚倒を滅す。及び我人知見は分分に假僞なり。但名のみあり、但受のみあり、但法のみあり、不可得にして、定相なし、自他の相なきが故に、空觀を守護す。亦た常に、百萬の波羅蜜を行じて、念念に心を去らしめず。二阿僧祇劫を以て、正道の法を行じて、（六）波羅陀の位に住す。』

【四】六重とは(一)殺、(二)盜、(三)婬、(四)妄語、(五)沽酒、(六)在家出家の四衆の過失を說くを云ふ。二十八輕は優婆塞戒經を見よ。

【五】僧伽陀位とは譯して離著假者と云ふ。

【六】波羅陀とは此に守護と譯す。

『復次に道種性は、堅忍の中に住して、一切の法を生なく住なく滅なしと觀ず。謂ゆる五受も三界も二諦も自他の相なし。如實の性にして不可得なるが故に。常に第十の第一義諦に入れば、心心寂滅なり。而も生を三界に受く。何となれば業習の果報未だ壞盡せず、道に順じて生ずるを以てなり。復三阿僧祇劫を以て、八萬億の波羅蜜を修し、當に平等の聖人地を得べし。故に（七）阿毘跋致の正位に住す。』

【七】阿毘跋致とは此に不退轉と譯す。

『復次に善覺の菩薩摩訶薩は、平等に住して四攝を修行し、念念に心を去らしめず、無相の捨に入りて、三界の貪煩惱を滅し、第一義諦に於いて不二なるを法性の無爲と爲す。理を緣じて一切の相を滅するが故に、智緣滅にして無相無爲と爲す。初忍に住する時、未來の無量の生死は智緣に由らずして滅するが故に、非智緣滅にして無相無爲なり。自他の相なければ無相なり、無相なるが故に無量の方便みな現前す。』

『實相の方便を觀ずる者は、第一義諦に於いて、沈まず出でず轉せず顚倒せざるなり。』

『遍く方便を學ぶとは、證にあらず不證にあらず、而も一切を學す。』

『回向方便とは、果に住するにもあらず、果に住せざるにもあらず、而も薩婆若に向ふ。』

『魔自在方便とは、非道に於いて佛道を行ずれば、四魔のために動ぜられざるなり。』

『一乘方便とは、不二の相に於いて、衆生の一切の行に通達するなり。』

『變化方便とは、願力を以て、自在に一切の淨佛國土に坐するなり。』

『善男子よ、是の如きは是れ初學の智なり。有無の相に於いて而も不二なれば、是れ實智の照す功用なり。沈まず出でず倒せざるは是れ方便の觀なり。譬へば水と波とは、一にあらず異にあらざるが如し。乃至、一切の行波羅蜜と禪定と陀羅尼と不一不二なるが故に、一一の行成就し、四阿僧祇劫の行を以て行ずるが故に、此の功德藏門に入る。三界業習の生なきが故に、故を擧へて新しきを造らず。願力を以ての故に、化して一切の淨土に生ず。常に捨觀を修するが故に、〔八〕鳩摩羅伽の位に登り、四大寶藏を以て常に人に授與す。』

『復次に德慧の菩薩は、四無量心を以て三有の瞋等の煩惱を滅し、中忍の中に住して一切の功德を行ずるが故に、五阿僧祇を以て大慈の觀心を行じ、心つねに現在前して、無相の〔九〕闍陀波羅の位に入りて一切の衆生を化す。』

『復次に明慧の道人は、常に無相忍の中に三明の觀を行ずるを以て、三世の法は來もなく去もなく住處もなしと知り、心心寂滅す。三界の癡煩惱を盡して、三明の一切功德の觀を得るが故に、常に六阿僧祇劫に無量の明波羅蜜を集む。〔是の〕故に〔一〇〕伽羅陀の位に入り、無相の行を以て、一切の法を受持す。』

『復次に爾焰聖覺達の菩薩は順法忍を修行して、五見の流に逆らひ、無量の功德を集めて、須陀

【八】鳩摩羅伽は此に勝惡魔と譯す。
【九】闍陀波羅は此に滿足又は無畏と翻す。
【一〇】伽羅陀とは此に度邊と譯す。癡等の邊を度するなり。

洹の位に住す。「そは」常に天眼天耳宿命「及び」他心身の通達を以て、念念の中に於いて、能く三界の一切の見を滅するを以てなり。亦七阿僧祇劫に、五神通、恒河沙の波羅蜜を行ずるを以て、常に心を離れず。』

『復次に勝達の菩薩は、順道忍に於いて四無畏を以て、那由他の諦と内道論と外道論と藥方と工巧と呪術とを觀るが故に、我はこれ一切智人なり、三界の疑等の煩惱を滅するが故に我相已に盡せり、地地に所出あることを知るが故に。出道と名く。所不出あり故に障道と名く。三界の疑に逆らひ、無量の功徳を修集するが故に、斯陀含の位に入る。復八阿僧祇劫の中に修行して、諸の陀羅尼門を行ずるが故に、常に無畏觀を行じて心を去らしめず。』

『復次に常現の眞實は、順忍の中に住して中道の觀を作し、三界の集因集業の一切の煩惱を盡すが故に、「また」有にあらず無にあらず、一相無相にして無二なりと觀ずるが故に阿那含の位を證す。』

『復九阿僧祇劫に於いて、照明の中道を習ふが故に、藥力を以て、一切の佛國土に生ず。』

『復次に玄達の菩薩は、十阿僧祇劫の中に無生法樂忍を修して、三界の集因業果を滅し、後身の中に住して、無量の功徳の行みな成就し、無生智と盡智と五分法身と皆滿足して、第十地の阿羅漢梵天の位に住す。「彼は」常に三つの空門の觀を行じ、百千萬の三昧を具足して法藏を弘化す。』

『復次に等覺忍とは、無生忍の中に住して心心の寂滅を觀ずれども、而も無相の相、無身の身、

無知の知なり。而して心を用ひて群方の方に乘じ、淡泊にして無住の住に住し、有に在れども常に空を修し、空に處すれども常に萬化す。一切の法を雙べて照し、是處非是處乃至一切智の十力觀を知るが故に、能く（一）摩訶羅伽の位に昇り、一切の國土の衆生を〔敎〕化す。〔斯くて彼は〕千阿僧祇劫に十力の法を行じ、心心相應して常に見佛三昧に入る。』

『復次に慧光の神變は、上上の無生忍に住して（二）心心の相を滅す。法眼は一切の法を見、三眼は色と空とを見、大願力を以て常に一切の淨土に生ず。〔彼は〕萬阿僧祇劫に無量の佛光三昧を集めて、而も能く百萬恒河沙の諸佛の神力を現じ、婆伽梵の位に住して、常に佛華三昧に入る。』

『復次に觀佛の菩薩は、寂滅忍に住するものの、始めて發心せしより今に至るまで、百萬阿僧祇劫の功德を經て、百萬阿僧祇劫の功德を修するが故に、一切の法解脫に登りて金剛臺に住す。』

『善男子よ、習忍より頂三昧に至るまで、皆名けて一切の煩惱を伏すと爲す。而も無相の信を以て一切の煩惱を滅し、解脫の智を生じて第一義諦を照すは、名けて見と爲さず。謂ゆる見とは是れ薩婆若なり。是の故に我昔より以來、常に唯佛のみ知見し覺り給ふ所なりと說く。灌頂三昧より以下習忍に至るまでは、〔これを〕見ず知らず覺らざる所なり。唯佛のみ頓に解し給ふ。〔故に〕名けて信と爲さず、

（一）摩訶羅伽は此に大將と譯す。

（二）心心の相とは心王と心所の相と云ふことなり。卽ち意を滅するを滅心と名け、心所を滅するを滅相と名く。

漸漸に伏する者なり。慧は起滅すと雖も、能生なく、滅なきを以てなり。此の心若し滅すれば、則ち累として滅せざるなし。無生無滅にして、理盡三昧に入れば、眞際に同じく法性に等し。而も未だ無等の等に等しきこと能はざるなり。譬へば人あり大高臺に登つて、下の一切を見るに、ことごとく了せざるなきが如し。理盡三昧に住することも亦復斯の如し。常に一切の行を修して功德の藏を滿て、婆伽度の位に入つて、亦復常に佛慧三昧に住す。』

『善男子よ、是の如く諸の菩薩は皆能く一切十方の如來の國土の中に於いて、衆生を「敎」化して正しく正義を說き、實相を受持し讀誦し解達して、我が今日の如く等うして異あることなし。』

佛、波斯匿王に告げ言はく、『我が滅度の後、法の滅盡する時に當つて、諸の國王等は、皆まさに是の般若波羅蜜を受持し、大いに佛事を作すべし。一切の國土の安立し、萬姓の快樂ならんことは、皆この般若波羅蜜に由れり。是故に諸の國王に付囑して、比丘比丘尼、「及び」淸信男淸信女に付囑せず。何となれば王の威力なきを以てなり。故に汝は當に受持し讀誦して、此經の義理を解すべし。』

『大王よ、吾が今化する所は、百億の須彌と百億の日月となり。「而して」一一の須彌に四天下あり。其の南閻浮提に十六の大國と五百の中國と十千の小國とあり。其國土の中に七つの畏るべき難あり。一切の國王は、是の難を除かんが爲めの故に、般若波羅蜜を講讀せば、七難卽ち滅し、七福卽ち生じ、萬姓安樂にして帝王歡喜せん。何をか難と爲すや。「謂く」日月度を失し、時節反逆し、或は赤き日出

で黑き日出で、二三四五日出で、或は日蝕して光なく、或は日輪の一重なると二三四五重の輪現はる、是を一難と爲す。かく變怪の時に當つて此の經を讀說せよ。二十八宿度を失す、〔卽ち〕金星彗星輪星鬼星火星水星風星刀星南斗北斗五鎭の大星一切國の主星と三公星と百官星と、是の如きの諸星各〻變現す、これを二の難となす。〔かかる時にも〕亦此の經を讀說せよ。大火の國を燒いて萬姓燒き盡され、或は鬼火龍火天火山神火樹木火賊火あらば、是の如きの變怪にも亦此の經を讀說せよ。これを三の難と爲す。大水百姓を漂沒し、時節反逆し、冬の雨あり夏の雪あり、冬の時に雷電霹靂し、六月に雨ふり氷霜雹ふり、赤水黑水青水を雨ふらし、土山石山を雨ふらし、沙礫石を雨ふらし、江河逆さまに流れ、山を浮べ石を流す、是の如き變〔怪〕の時にも亦此の經を讀說せよ。これを四の難と爲す。大風吹いて萬姓を殺し、國土山河一時に滅沒し、時ならずして大風黑風赤風青風天風地風火風水風ふく、是の如く變ずる時にも亦此の經を讀說せよ。これを五の難と爲す。天地國土は亢陽として炎火洞然たり。百草亢旱して五穀實らず。土地赫然として萬姓滅盡す　是の如き變怪の時にも亦此の經を讀說せよ。これを六の難と爲す。四方より賊來りて國を侵し、內外に賊起り、火賊水賊風賊鬼賊ありて、百姓荒亂し刀兵劫〔掠〕起る。是の如く變怪の時にも亦此經を讀說せよ。これを七の難と爲すなり。』

『大王よ、是の般若波羅蜜は、是れ諸佛菩薩、〔及び〕一切衆生の心識の神本なり。一切の國王の父母なり。又は神符と名け、又は辟鬼珠と名け、亦は如意珠と名け、亦は護國珠と名け、亦天地鏡と名け、

亦は龍寶神王と名く。』佛、大王に告げ言はく、
『應に九色の旛の長さ九丈なると九色の華の高さ二丈なると千支の燈の高さ五丈なると九玉の箱と九玉の巾とを作るべし。亦七寶の案を作つて經卷を以て〔其の〕上に置くべし。若し王行かん時は、常に其の前の一百歩の所に於いて、是の經は常に千の光明を放ち、千里の內をして七難起らず、罪過をして生ぜざらしめん。若し王住する時は、七寶の帳を作つて、帳の中の七寶の高座に經卷を以て上に置き、日月を供養し、散華燒香して、父母に事ふるが如く帝釋に事ふるが如くせよ。大王よ、吾いま五眼を以て、明かに三世の一切の國土を見るに、皆過去世に五百の佛に侍ふるに由りて、帝王の主となることを得たり。是の故に一切の聖人羅漢は、彼の國に來り生じて大利益を作さん。若し王の福盡ん時には、一切の聖人は皆捨て去らん。若し一切の聖人去らん時は七難必らず起らん。』
『大王よ、若し未來世に於ける諸の國王の三寶を受持するあらば、我は五大力の菩薩をして、往いて其の國を護らしめん。〔卽ち〕一に金剛手菩薩は、手に千寶相の輪を持て、往いて彼の國を護り、二に龍王吼菩薩は、手に金輪燈を持て、往いて彼の國を護り、三に無畏十力吼菩薩は、手に金剛杵を持て、往いて彼の國を護り、四に雷電吼菩薩は、手に千寶の羅網を持て、往いて彼の國を護り、五に無量力吼菩薩は、手に五千の劒輪を持て、往いて彼の國を護らん。是の五大士は、五千の大鬼神の王なり。汝が國中に於いて、大いに利益を作さん。當に形像を立てて之を供養すべし。』

『大王よ、吾いま三寶を以て汝等一切の諸王に付囑す。憍薩羅國と舍衛國と、摩竭提國と波羅㮈國と迦夷羅衛國と鳩尸那國と鳩睒彌國と鳩留國と罽賓國と彌提國と伽羅乾國と乾陀衛國と沙陀國と僧伽陀國と健拏掘闍と波提國と、是の如き一切の諸國王等は、皆まさに般若波羅蜜を受持すべし。』時に諸の大衆及び阿須輪王は、佛の未來世に七つの畏るべき難あるを說き給ふを聞き、聲をあげ大いに叫んで言はく、「願くは彼の國に生ぜざらん」と。時に十六大國の王は、國事を以て弟に付〔囑〕して出家し、道を修して四大四色〔三〕勝出の相を觀ず。四大四色不用識の空は入の行相にして、三十忍の初地の相、第一義諦は九地の相なり。是の故に大王は凡夫の身を捨てて六住の身に入り、七報身を捨てて八法身に入り、一切の行般若波羅蜜を證せり。十八の梵天、阿須輪王は、三乘の觀を得て、無生の境に同じ、復空華と法性華と聖人華と順華と無生華と法樂華と金剛華と緣觀中道華と三十七品華とを散華し供養して、佛及び九百億の大菩薩衆の上に散じ、其の餘の一切の衆は、道迹果を證して、心華と空華と心樹華と六波羅蜜華と妙覺華とを佛及び一切衆の上に散じ、十千の菩薩は、來世の衆生を念じて、卽ち妙覺三昧と圓明三昧と金剛三昧と世諦三昧と眞諦三昧と第一義諦三昧とを證せり。此の三諦の三昧は、是れ一切の三昧の王三昧なり。亦無量の諸餘の三昧を得たり、七財三昧二十五有三昧一切行三昧これなり。復十億の菩薩ありて金剛頂に登り、現に正覺を成じ給へり。

〔三〕勝出。地水火風の能造の四大と青黃赤白の所造の四色とに於いて貪欲を出離するが故に勝出と云ふ。

囑累品第八

【流通分】佛、波斯匿王に告げたまはく、「我誠に汝等に敕す。我が滅度の後、八十年八百年八千年の中に、佛も無く法もなく僧もなく信男信女も無き時あらん。〔故に〕此の經と三寶とを諸の國王と四部の弟子とに付囑す、〔須らく〕受持し讀誦して其の義を解說すべし。三界の衆生の爲に空慧の道を開き、七賢の行と十善の行を修して一切の衆生を〔敎〕化せよ。後の五濁の世には比丘比丘尼四部の弟子天龍八部一切の神王國王大臣太子王子〔等〕は、自ら高貴を恃んで吾が法を滅破し、明かに制法を作りて我が弟子の比丘比丘尼を制し、出家して道を行ずることを聽さず、亦復佛像の形も佛塔の形も造作することを聽さず、統官を立てて衆を制し、籍を安じて僧を記るし、比丘をば地に立て白衣をば高座せしめ、兵奴は比丘となつて別請の法を受け、知識の比丘も共に心を一にすることを爲し、親善の比丘も爲に齋會を作して、福を求むること外道の法の如くならば、都て〔これ〕吾が法にあらず。當に知るべし、爾の時に正法の將に滅せんこと久しからざることを。』

『大王よ、吾が道を壞亂せんこと、是れ汝等が自ら作す所ならん。〔汝等若し〕自ら威力を恃んで、我が四部の弟子を制せば、百姓疾病して苦難せずと云ふことなけん。是れ破國の因緣なり。五濁の罪を說くこと劫を窮むれども盡きず。』

『大王よ、法末の世の中に四部の弟子あらんに、國王大臣〔等〕は各非法の行を作して、橫に佛と法と僧とのために大非法を作し、諸の罪過を作り、法に非ず律にあらずして比丘を繫縛し、〔以て〕獄囚の法の如くならば、當に知るべし、爾の時は法滅すること久しからざらんことを。』

『大王よ、我が滅度の後、未來世の中に四部の弟子、諸の小國の王、太子、王子〔等〕の乃ち是れ住持して三寶を護らんものにして、轉た更に三寶を滅破すること、〔恰も〕獅子の身中の蟲の、自ら獅子を食ふが如くならば、〔これ〕外道の我が佛法を壞するに非ずして、〔彼等自ら佛法を破滅して〕大なる罪過を得るなり。正敎衰薄にして、民に正行なく、漸く惡を爲すを以て、其の壽日日に減じて百歲に至らん時、人は佛敎を壞して復孝子なく、六親不和にして天神も祐けず、疾疫の惡鬼日に來つて侵害し、災怪首尾し連禍縱橫ならん。死しては地獄餓鬼畜生に入り、若し出でて人とならば兵奴の果報〔を受くること〕、響の聲に應ずるが如く、人の夜書するに火滅するも字存するが如くならん。三界の果報も亦復是の如し。』

『大王よ、未來世の中の一切の國王太子王子四部の弟子は、橫に佛弟子の爲に制戒を書記し、白衣の法の如く兵奴の法の如くせん。若し我が弟子、比丘比丘尼にして籍を立てて官の爲に使はるれば、都て我が弟子にあらず、是れ兵奴の法なり。統官を立てて僧典を攝し、僧の籍を主どる大小の僧統共に相攝縛せんこと、獄囚の法〔或は〕兵奴の法の如し。當に知るべし、此の時は佛法久しからざらんこ

とを。』

『大王よ、未來世の中の諸の小國の王、四部の弟子にして、自ら此の罪「を造り」破國の因緣を作し、自ら之を受けば、佛法僧に非ず。』

『大王よ、未來世の中に此の經を流通せば、七佛の法器たり、十方の諸佛の常に行道し給ふ所なり。諸の惡比丘は、多く名利を求めて、國王太子王子の前に於いて、自ら佛法を破るの因緣と國を破るの因緣を說かんに、其の王「この理を」別まへずして此の語を信聽し、橫に法制を作つて佛の戒に依らずんば、是を破佛破國の因緣と爲す。當に知るべし、爾の時は正法將に滅せんこと久しからざることを。』

爾の時に十六大國の王は、佛の七たび誡めて說き給ふ所の未來世の事を聞き、悲啼涕泣しぬ。而して其の聲三千を動かし、日月五星二十八宿は光を失して現せざりき。時に諸の國王等は、各至心に佛語を受持し、四部の弟子の出家行道を制せずして當に佛の敎の如くなるべき「を誓ひぬ。」

爾の時に大衆、十八の梵天王、六欲の諸天子皆、悉く歎じて言はく、『爾の時に當つて世間空虛にして是に無佛の世とならん。』

爾の時に無量の大衆の中に百億の菩薩あり、彌勒獅子月等と、百億の舍利弗須菩提等と五百億の十八の梵六欲の諸天と、三界六道と阿須輪王等は、佛の說き給へる護佛果の因緣と護國土の因緣とを聞

いて、歡喜すること無量なり、爲に佛に禮を作して般若波羅蜜を受持しき。

國譯仁王般若波羅蜜經　終

摩訶般若波羅蜜多心經解題

唐三藏法師玄奘譯

如來の法輪を轉じ給ふや、或は數十百言なるあり、或は數百千言なるあり、或は數千萬言なるあり、言逾夥して、義逾詳かに、義詳かなれば則ち曉り易し。若し夫れ般若心經は語數僅に二百六十字のみ。言少なしと雖も義極めて宏く、三藏を該ねて衆典を攝す。之れ蓋し古來各宗各派の間に、普く讀誦研究せらるる所以なる歟。然り、此の經は、我が佛教聖典中、最も簡潔なるものの一にして、又最も義深く、巧に大乘教の要諦を說破せるものの第一位を占む。是故に現代日本佛教各宗派の中にありても、一二の宗旨を除けば、概ね朝夕の勤行に讀誦せざるものなし。これ彼の法藏菩薩が、「般若心經は、實に謂ゆる昏衢を曜すの高炬にして、苦海を濟るの迅航なり。物を拯ひ迷を導く、是より最たるは莫し」と讚稱せし所以なり。

此の經の要旨に關しては、古來諸家の見る所、一にして止らず。即ち法相宗にありては、窺基の幽贊、三論宗にありては、智光の述義、華嚴宗にありては、法藏の略疏、天台宗にありては、智旭の釋要、禪家にありては、慧能の檀經、密教にありては、空海の祕鍵等、各その解釋に徑庭あり、春蘭秋

菊、互に其の美を競ひ妙を爭ふと雖も、吾人を以て之を見れば、天地同根萬物一體の大原理を道破するに空の一字を以てし、諸法無所得の妙義を明かせるものに外ならず。蓋し此の空は、外道の有を除いて空とせると同日の論にあらず、萬有の現前するを邪魔物にせず、明鏡の衆影を容れて、毫も碍へざる底の眞空なり。人もし經中、「色卽是空、空卽是色」、又は「無智亦無得」等の句に讀み到らば、吾人の言説の大過なきを了らん。抑も佛敎敎理の二大系統の一たる實相論家の高唱する「諸相實相」とは、必らずしも實在常恒の相を云ふにあらず。有と云ひ無と云ふ相對的の言議を絶せる不可知界の相と云ふほどの義なり。卽ち定名の稱すべきなく、定相の認むべきなく、言語の形容を超え、認識の筌蹄を脱す。是の故に實相と云ふも無相と云ふも妨なし。而して般若哲學者は正に之を空と道破せしなり。空の意義それ斯の如し。今それ我が般若心經は、「大品般若」の習應品、「大般若」の第二會觀照品の要義を骨子として、菩薩の深般若經を示し、諸法皆空の玄旨を觀じ、四諦、十二因緣、及び聖智涅槃等に關する有所得の見を斥破し、更に要約して羯諦、羯諦、波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提娑婆訶の大明咒に歸結せり。

【此經の飜譯】 本經の異譯及び異本として、古來左の八種を數ふ。

一　摩訶般若波羅蜜大明咒經　一卷　鳩摩羅什

二　摩訶般若波羅蜜多心經　一卷　玄奘

三　般若波羅蜜多那提經　一卷　菩提留支（缺）

四　摩訶般若隨心經　一卷　實叉難陀（缺）

五　般若波羅蜜多心經　一卷　般若利言等

六　普遍智藏般若波羅蜜多心經　一卷　法月

七　般若波羅蜜多心經　一卷　智慧輪

八　聖母般若波羅蜜多經　一卷　施護

【本經の註釋】　金剛般若經の註釋家が、多く鳩摩羅什譯に遵由せるに反し、此の經の註釋書は、概ね玄奘譯に依憑せり。即ち支那にありては、慧淨、靖邁の『經疏』各一卷、窺基の『幽贊』二卷、法藏の『略疏』二卷、圓測の『心經贊』一卷、明曠の『心經略疏』一卷、慧忠の『心經註』一卷等を首とし、宋、明、清の疏註四十六種の多きを以て數へらる。又我國にありても弘法の『祕鍵』を首として數多の註釋書を出し、殊に禪家に於ては、道隆の『注心經』、天桂の『略註』、東嶺の『心經註』、萬松黃泉の『忘算』等、枚擧に遑あらず。以て此の經が如何に廣く研究し、讀誦せられしものなるかを察するに足らん。

【本經の梵本】　此の經の原典は、もと我國に存せしが、印刷の便宜上、英國の印度學者マクス・ミューラー博士の手によりて倫敦にて出版せられ、附するに英譯を以てせり。然るに我が國にありても斯道に熱心なる榊亮三郎博士の如きあり。氏は明治四十年一月を以て、英國の刊行本と慈雲尊者の梵篋

マ博士の梵文に二三の修正を加へて、印刷出版せられたり。吾人は榊博士の勞を多とすると同時に、滿腔の謝意を表せざる可らず。

補訂稽校して、三本の原典とを比較し、傍ら秦唐兩譯の般若心經を參酌し、

譯者　山上曹源　識

國譯(一)摩訶般若波羅蜜多心經

(二)觀自在菩薩、(三)深般若波羅蜜多を行ずる時、(四)五蘊皆(五)空なりと照見して一切の苦厄を度したまふ。(六)舍利子、色は空に異ならず、空は色に異ならず、色即ち是れ空、空即ち是れ色、受想行識も亦復是の如し。舍利子、是の諸法は(七)空

【一】Prajñā-pāramitā-hṛdaya-sūtraṁ とは、智の彼岸に到達せる狀態、即ち漢譯して「智度經」と云ふ。弘法大師の著「般若心經祕鍵」には、「Buddha-bhāṣa-mahā-Prajñā-pāramitā-hṛdaya-sūtraṁ」とあり、譯して「佛說大般若波羅蜜多心經」と云ふべし。

此の經の名稱を解釋するに古來二種の見解あり。一は慈恩家一派の解釋にして、他は弘法大師一派の密敎徒の解釋なり。即ち前者は此の經を以て大般若六百卷の精要を萃めたるものとなし、後者は本經の密呪の部分は、般若菩薩の眞言と同一なるが故に、本經を以て、般若菩薩の內證三昧を說けるものとなす。

【二】Avalokiteśvara ＝ Avalokita＋Īśvara を鳩摩羅什は、「觀世音」と譯し、玄奘は「觀自在」と譯せり。而して玄奘は羅什の譯を誤譯なりとして盛んに攻擊し排斥すれども、そは玄奘が直譯の鬼窟裡に沒頭して自ら出づることを知らざりし弱點の暴露のみ。人もし羅什と玄奘の飜譯に成る經典を手にし比較硏究せば、前者が如何にも自由自在なる義譯的態度を持せるに反し、後者が如何にも不自由不自然にして拙劣なる直譯的態度に出づるかを認得せん。

今それ羅什が「觀自在菩薩」と直譯すべきを敢て「觀世音菩薩」と譯せるは、榊博士の指摘せるが如く、「一心稱名・觀世音菩薩・卽時觀其音聲・皆得解脫」と言へる意味より來れる義譯なりと知るべし。

【三】深とは物を除いて空を觀じ、果を貪つて行を修する底の小乘の徒の淺行に揀ぶ。

【四】五蘊とは、色と受と想と行と識となり。最初の色は物質の義にして後の四蘊は精神的現象なり。故に要約して、身心の二者、即ち個人を構成する要素なりと見れば大過なし。

【五】空とは空無の空にあらず

相にして、生せず滅せず、垢つかず淨からず、増さず減らず。是の故に空中には、色もなく、受想行識もなく、眼耳鼻舌身意もなく、色聲香味觸法もなく、(八)眼界もなく乃至意識界もなく、(九)無明もなく、亦無明の盡ることもなく、乃至老死もなく、亦老死の盡くることもなく、(一〇)苦集滅道もなく、

即ち英語の nothingness にあらず、又虚無の空にもあらず、眞空妙有の空なり。故に賢首大師は「眞空は未だ嘗て有ならずんばあらず、有に卽して以て空を辨ず。幻有は未だ始より空ならずんばあらず、空に卽して以て有を明す。有は空の有なるが故に有にあらず空は有の空なるが故に空にあらず」と說破せり。

【六】舍利子とは舍利弗（Śāri-putra）尊者のこと。

【七】空相とは、色にあらず心にあらず、有にあらず無にあらず、因にあらず果にあらざる眞空妙有の體相を云ふなり。見よ、外道は斷無を空といひ、物質を實在なりと認む。然るに菩薩は色空不二の妙理に通達す。全氷これ水、全水これ波なるにあらずや。月の衆水に浮ぶ、色にして空なり。春の百華に入る、空にして色なり。春の斷無なるにあらず月の常色なるにあらず、眞空は萬有を容れ、眞色は本空より顯はる。此の兩端を叩き竭して始めて甚深般若の玄義を解せん。

【八】眼界乃至意識とは、所謂十八界の首と尾とを擧げて、中の十六界を省略せるなり。故に具には「眼界もなく、色界もなく、眼識界もなく、耳界もなく、聲界もなく、耳識界もなく、鼻界もなく、香界もなく、鼻識界もなく、舌界もなく、味界もなく、舌識界もなく、身界もなく、觸界もなく、身識界もなく、意界もなく、法界もなく、意識界もなし」と言ふべきなり。

【九】無明以下乃至老死とは十二因緣の首尾を擧げて、中の十を省略せる文なり。十二因緣とは、無明（Avidyā）行（Saṁskāra）識（Vijñāna）名色（Nāma-rūpa）六入（Ṣaḍāyatana）觸（Sparśa）受（Vedanā）愛（Tṛṣṇā）取（Upādāna）有（Bhava）生（Jāti）老死（Jarā-maraṇa）なり。

【一〇】苦集滅道とは、迷界の因果と、悟界の因果となり。これを四諦と云ふ。故に四諦とは四種の原理、四種の眞理と言ふに同じ。

【一一】智もなく亦得もなしとは病已に癒ゆれば藥氣も除くべく、大海已に渡れば船筏の必要なきが如きを云ふ。

【一二】心罣礙なしとは、心に何の障碍もなく、任運自由なるを云ふ。

【一三】顚倒夢想。心外に物ありと見るを顚と云ひ、因に背いて果を求むるを倒と云ふ。無中に物を見るを夢と云ひ、愛

(一二)智もなく亦得もなし。所得なきを以ての故に、菩提薩埵。般若波羅蜜多に依るが故に、(一三)心罣礙なし。罣礙なきが故に恐怖あることなし。一切の(一三)顛倒夢想を遠離して涅槃を究竟す。三世諸佛も般若波羅蜜多に依るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たまへり。故に知る、般若波羅蜜多は是れ(一四)大神咒なり。是れ大明咒なり。是れ無上咒なり、是れ無等等咒なり。能く一切の苦を除きて、眞實にして虚ならず。故に般若波羅蜜多の咒を説く。即ち咒を説いて曰はく、(一五)羯諦、羯諦、波羅羯諦・波羅僧羯諦、菩提娑婆訶。

國譯摩訶般若波羅蜜多心經　終

憎のために心動ずるを想と云ふ。今それ此の經の立場より見れば、十界の昇沈は影響の生滅の如く、阿鼻地獄に墮つるも、西方淨土に昇るも、昨夢の吉凶のみ、故に遠離と云ふなり

【一四】障を除いて妙用あるを神と云ひ、昭然として癡闇を破るを明と云ひ、萬物に卓出するを無上と云ひ、不群に拔群なるを無等等と云ふ。

【一五】古來咒文は、解説せざることになり居れるが、試に此の梵語を文字通りに譯すれば、羯諦は「到り」、波羅羯諦は「更に到り」、波羅僧羯諦は「更に更に到り」、菩提は「覺智」、娑婆訶は「圓滿・究竟・成就」等の義なるが故に、咒文全體の意味は「到り、到り、更に到り、更に更に到りて、覺智を圓滿し究竟成就せん」といふほどの義なり。

勝鬘師子吼一乘大方便方廣經解題

劉宋天竺三藏求那跋陀羅譯

一

勝鬘經には前後三譯あり、第一譯は北涼の曇無讖の譯にして、「勝鬘經一卷、亦云二勝鬘師子吼一乘大方便一」と經錄に見ゆ。第二譯は、劉宋の求那跋陀羅「譯して功德賢といふ」譯する所にして、現に今日廣く行はるる所のもの是なり。勝鬘師子吼一乘大方便方廣經一卷と經錄に見ゆ。文帝の元嘉十三年（本邦にては日本書紀の年代にて允恭天皇即位二十五年に當る）八月十四日、丹陽郡に於て出す、寶雲傳語、慧觀筆受と、同じく經錄にあり。第三譯は、唐の菩提流志の譯にして、其の譯述編成せる大寶積經一百二十卷四十九會の中に於て、二十九會は、流志の新に譯する所、餘の二十三會は前代の譯者の譯出する所を採用し、合して此の一大經を大成せり。中に於て第四十八會は、即ち勝鬘夫人會一卷にして、流志の新譯にかかり、原本は、蓋し功德賢譯する所と大同なり。以上三譯の中に於て、第一譯は闕失して今日傳はらざるが故、之を二存一闕とす。

宋譯の譯主求那跋陀羅(Guṇabhadra)は、中天竺の人にして、其の大乘の學に深きを以て摩訶衍(Mahāyāna)と呼ばれたりといふ。摩訶衍は大乘の義なり。元嘉十二年、舶に乘じ、支那の廣州に著す。文帝之を楊都に迎へ、深く之を尊び、多く祇洹寺に於て、諸經を譯出し、後丹陽郡に於て勝鬘經、楞伽經等を出す、其の傳語の任に當れる寶雲は、嘗て印度に赴き、親しく佛國の狀況を見、梵音に熟し、歸りて後、自ら諸經を譯出せし名僧にして、筆受惠觀は、羅什三藏門下の英俊、關中四傑の一人と稱せられ、其の學最も淵博、當時比なしとして推重せらる。求那跋陀羅、此の二人の上に立ちて、其の譯業を成し、支那に居ること前後三十年にして、明帝の太始四年正月春秋七十五にして寂せり。

支那に於ける勝鬘經研究の事實を考ふるに、此の經、求那跋陀羅により譯出せらるるや、之が講解注疏を出すもの、早く既に少からず、法瑤は求那跋陀羅同時の後輩にして、勝鬘經義疏を著はし、其の同輩道猷は、羅什門下の首班、道生の弟子にして、また勝鬘の註五卷ありしといふ。後に豫州の道慈法師なるものあり、道猷を祖述し、其の註する所の勝鬘經を删りて兩卷となせりといふ。當時道場寺に僧馥なるものあり、其の傳甚だ詳ならざれども、また勝鬘經義疏二卷の著ありしと傳へ、法瑗法師は、惠觀の弟子にして、また勝鬘の註ありといひ、略ぼ同時の頃の人にして惠通法師あり、また勝鬘經義疏を著はすといふ。其の他北魏の道辯には勝鬘の註ありしといひ、梁の武帝も亦自ら勝鬘の義疏を製したりと傳へたり。其の當時如何に學者の注意を促したりしかを見るに足るべし。寶窟、

中にまた「無臂林云」として引けるものあり、然らば無臂林の註疏と稱するものありしが如く見ゆ、無臂林とは、其の何人なるやを知らず、傳に、禪宗の二祖惠可大師の友、林法師一臂なし、世無臂林と呼ぶとあり、但し無臂林の言を引くも、必ずしも無臂林に勝鬘の註ありしにはあらざるべきか。

其の他註疏の述作なしと雖、莊嚴寺の曇斌は、劉宋時代學者中の屈指にして、嘗て勝鬘を法瑤に受け、曇斌の門に出でし僧宗も勝鬘を善くし、其の講說、聽者常に千人と稱す。梁の寶亮、また一代の宗にして、勝鬘を講ずること前後四十二遍といひ、梁の三大法師の一人と稱せらるる僧旻は、嘗て武帝の命により、惠輪殿に於て勝鬘經を講じ、帝親ら之を臨聽せり。

隋の世に至り、涅槃宗の學者として第一に推されし延興寺の曇延に勝鬘經疏あり、同じく涅槃、十地の權威たる淨影寺の惠遠法師に、勝鬘經義記二卷あり、三論宗大成の祖たる嘉祥大師吉藏に勝鬘經寶窟三卷あり、唐に至り法相宗の第二祖慈恩大師窺基に勝鬘經述記二卷あり、門人義令の錄する所、また新羅の元曉に勝鬘經疏二卷あり、靖邁法師に同じく疏一卷あり、遁倫法師に、また疏一卷ありといふ。註疏の多きこと斯くの如く盛なりと雖、現存するものは極めて稀にして、唯嘉祥の寶窟獨り學者の翫ぶところとなる。蓋し嘉祥自ら「余翫味既重、鑽鑽累年、捃拾古今、捜檢經論」といふを以て見るも、自ら恃む所の大なるものあるを知るべく、また古來の註疏、多く其の日を經たるを想ふべし。

本邦にては、有名なる聖德太子三經疏の中に、勝鬘義疏一卷あり、法隆寺古今目錄抄によれば、之に初疏と廣疏の二種ありといふも、果して事實なるや否やは之を詳にせず。今世に存するものは、所謂其の廣疏にして、後に製作し給ふ所なれば、或は後疏と呼ぶものなりといふ。日本書紀によれば、太子嘗て、推古天皇の御前に於て、三日間、勝鬘經を講讚し給ふ、法王帝說また此の事を載す、事實の確實なることは疑ふべからず。古今目錄抄には、太子の勝鬘經講讚に前後二回あることを說くも、正史の上に明徵なし、其の講讚の處に就いても、確實の說なしと雖、普通の傳說には、橘宮、卽ち今の橘寺所在の地といふ。此の時、天皇之を賞して播摩佐勢の地を賜ふといへり。蓋し太子また御前に於て法華を講ず、此等講經の勞に酬ゆるなり。法隆寺聖靈院安置の太子尊像は、卽ち勝鬘講讚の像と傳ふる所のものなり。

太子の三經の研究に、殆んど渾身の力を殫し、自ら三經學士と稱したる、東大寺の凝然大德は、此の太子の勝鬘義疏に就いて、勝鬘經疏詳玄記十八卷を著はせり。また傳によるに、太子の義疏、支那に傳へられ、天台荊溪湛然門下の徒明空、之に略註を加へて世に弘む、勝鬘經義疏私鈔といひ、六卷あり、我が天台の慈覺大師、入唐の際、之を携へて還る所といふ。此の書の文によるに、唐の代宗の大曆七年、我が國の僧使誡明、得淸等八人、太子の法華義疏と共に之を支那に傳へ、楊州龍興寺の靈祐に與へたるものなりとあり。思ふに太子の疏、其の據く所を知らずといへども、往往「本義云」とし

て擧ぐるものあり、蓋し太子の師、高麗の惠慈の傳承する所に據り給ふか、間寶窟引用する所の古註と合するもの少からず、必ず當時、學者の傳へし所に憑據し給ふを想像するに足らん。註文簡潔なりといへども、最も要を得て、經の本旨を發揮するもの多し。

德川氏の世に至り、普寂律師、勝鬘經顯宗鈔三卷、分科一卷を出し、一家の見を立てて盛んに寶窟の說を是非し、淨影、慈恩に至りては一顧の價値なきものとなし、而して盛んに太子義疏の說を揚げ、世の學者獨り寶窟を重んずるを慨せり。蓋し能く古今の說を勘定し、最も大義を該羅し得たるものとして、先づ第一に本書を推すべし。

二

勝鬘經は、詳に言へば、勝鬘師子吼一乘大方便方廣經といふ。經の終りに、佛、自ら本經の十六名を說き給ふ中に於て、說勝鬘師子吼といふもの、これ本經名の由來する所なるべし。又の名、斷一切疑決定了義入一乘道ともあり、一乘大方便方廣は、此の意を取り、合して一名となせるに似たり。十六名中、此の二名を總名とし、他の十四名は、經の內容について、其の一部に命せし所なれば、經全體の名稱とはなすべからず。

本經に就いて、古來の釋家皆序正宗流通の三分を分つ、正宗分にまた十四章を設く、これ前に言ひ

し、

經末佛說十六名中の、前の十四名によりて設くる所なり、卽ち左の如し。

歎如來眞實第一義功德……………………………歎佛眞實功德章
不思議大受…………………………………………十大受章
一切願攝大願………………………………………三大願章
說不思議攝受正法…………………………………攝受正法章
說入一乘……………………………………………一乘章
說無邊聖諦…………………………………………無邊聖諦章
說如來藏……………………………………………如來藏章
說法身………………………………………………法身章
說空義隱覆眞實……………………………………空義隱覆眞實章
說一諦………………………………………………一諦章
說常住安穩一依……………………………………一依章
說顚倒眞實…………………………………………顚倒眞實章
說自性淸淨心隱覆…………………………………自性淸淨章
說如來眞子…………………………………………如來眞子章

此の如く經名と相配して十四章を分つと雖、歎佛眞實功德章は、開說の端緒にして、なほこれ正宗分中の序たり、十大受章に於て、勝鬘夫人、佛に向ひ、三聚淨戒を堅持すべきを誓ひ、三大願章に於て、また佛前に三種の大願を立つ、本經の歸著は、既に此の十大受、三大願に現はれたり。何となれば、十大受の最尾の誓に於て攝受正法といひ、三大願の終りに於てまた攝受正法といふ、本經の要旨は、此の攝受正法の一語に盡きたればなり。正法とは何ぞや、曰く大乘摩訶衍なり、大乘とは何ぞや、曰く一乘なり、一乘の外に二乘三乘なければ、之を眞の一乘となす、大乘の外に小乘なければ、之を眞の大乘となす、本經一部、述ぶる所、實に此の一理に歸す。これ十大受、三大願の攝受正法の一語、即ち本經の歸著をなすものといふ所以なり。攝受正法章は、進んで廣く攝受正法の何たるかを說き、一乘章に於ては攝受正法の大乘たることを示し、小乘と大乘との所說の相違する所を比較計量し、畢竟大乘の遙に小乘に超越する所以を明にし、しかも二乘は終に一乘に歸し、聲聞乘緣覺乘は、終に佛乘に入るべしと會通し、一乘は、如來の究竟法身の開顯なりと說く、蓋し此の一乘章は、本經中の大部を占むる一段にして、最も重要なる部分を成すものといふべし。無邊聖諦章は更に一乘と二乘を對說し、二乘の四聖諦は眞の聖諦にあらず、彼れは唯見思を斷じて無明を斷せず、眞の聖諦は、一切の煩惱を斷ずる第一義智の開說する所なりとなす、此の聖諦、之を呼びて無邊の聖諦といふ、小乘有邊の聖諦に對するの語なり。然らば其の聖諦とは何ぞや、衆生本具の如來藏是れなりと現はす、之

を如來藏章となす。如來藏を知るは、これ四聖諦を知るなり、何となれば、本具の如來藏開顯すれば、苦集滅道の理自ら證得せらるればなり、之を名づけて無量無作の四聖諦といふ、此の如來藏、煩惱に纏繞せられて、隱覆せらるるが故に如來藏の名あり、若し開顯すれば、これ如來の法身なり、此の理を示すもの之を法身章とす。空義隱覆眞實章は、二乘は、眞の空智を得ず、二乘の空智は、未だ此の如來藏を見る能はざるを說き、一諦章は、四章諦中、唯一滅諦のみ第一義諦にして常樂我淨の四德を具す、これ無常、苦、無我、不淨の顚倒に執ずる二乘の境界にあらずと述ぶ。故に知るべし、一滅諦とは、これ如來の法身にして、自性如來藏に外ならざることを、これ大乘なり、これ一乘なり、而してこれ攝受正法なり。一依章は、佛、二乘のために四依智(四諦智)を說き給ふといへども、唯此の一滅諦のみ第一義依なりと述べ給ふ一段にして、顚倒眞實章は、獨り世出世の善法、如來藏に根源するのみならず、生死迷妄の法も亦如來藏に出づと示し、此の理を知るを眞實とし、知らざるを顚倒となすと明し、此の如來藏、既に煩惱に纏繞せらるるといへども、其の本體は、煩惱と交渉なし、本來自性淸淨なりと述ぶるもの、之を自性淸淨章となす。最後に如來眞子章を說く、之を眞子章と名づくる所以は、佛子に三忍あり、信忍、順忍、無生法忍なり、無生法忍に至りて、大乘道に入る、これ八地已上の菩薩なり。本章此の三忍を說くが故に如來眞子章と名づく。

但し自性淸淨章の終に於て、また信順二忍を說く、而して終りの眞子章に於てまた三忍を說く、

これ自性清淨章は、信順二忍の位は、未だ如來藏開顯せず、故に煩惱纏縛中に、自性清淨の本性あることを示す。今眞子章は、如來の眞子を明す、故に並びに三忍を説く。然るに古來の學者中、或は信順二忍の一段を以て（若し、我が弟子、隨信、信增上云云以下）眞子章とし、三忍を説ける（爾の時勝鬘云云の本書に所謂眞子章となせる所）一段を以て、別に勝鬘師子吼章と名づけ、十六名の第十五を之に配し、正宗分を分ちて十五章となせるものあり、嘉祥の寶窟、淨影の疏等皆これなり。しかも今之を取らざるものは太子の疏によるなり、蓋し之を以て妥當とす。勝鬘師子吼の名は、經の總名にして、部分的名稱にあらざることは甚だ明にして、單に最後の一段のみを勝鬘師子吼章となす、理に於てあるべからざることなり、これ殆んど辯を要せざる所なるべし。

菩薩の階級を説く、或は五十二といひ、或は四十一といひ、廣略多少の差ありと雖、要は五十二以上に出でず。中に於て地上地前を二大別とし、地上をまた七地以前、八地以上に區別するは、これ本經釋家の説なり。蓋し經中、隨信と信增上と隨順法智と甚深法智との四位を説く、之を仁王經所説の五忍位の名によりて釋する時は、甚深法智は無生法忍にして、隨順法智は順忍に當る、順は隨順にして、道に趣向する方便、前手段を意味し、無生法忍は、道に冥契したる入道位なり。信增上は信忍にして、隨信は伏忍に配すべきか。卽ち信忍以下は地前にして、信忍を初地以上とし、順忍を四地以上とし、無生法忍を八地以上とす。五忍の中、寂滅忍は本經之を説かず。而して本經終始八地以上を目

標として説をなす、蓋し八地以上に至りて始めて入道の人とし、眞如の理を體達したる人となすを得べければなり、これまた本經を讀むものの豫め注意し置くべき一點なり。
なほ本經十六章の區分は、便宜上序分以下、皆括弧内に之を標置して、本文各段の上に加へたり、これ固より本經本文に存するものにあらざれば、特にここに之を一言す。

譯者　境野黃洋識

國譯勝鬘師子吼一乘大方便方廣經

【序分】 是の如く我聞きき。一時、佛（一）舍衞國の祇樹給孤獨園に住し給ひき。時に波斯匿王と及び末利夫人と、法を信ずること未だ久しからず、共に相謂ひて言はく、

『勝鬘夫人は是れ我が女、聰慧利根通敏にして悟り易し。若し佛を見奉らば、必ず速に法を解して、心疑なきことを得ん。宜しく時に信を遣はして其の道意を發すべし。』

夫人白して言さく、

『今正に是れ時なり。』

と。王及び夫人、勝鬘に書を與へ、略して如來の無量の功德を讚し、卽ち內人の（二）旃提羅と名くるものを遣はす。使人書を奉じて（三）阿踰闍に至り、其の宮內に入り、敬みて勝鬘に授け奉る。勝鬘、書を得て歡喜し、頂受し、讀誦し、受持し、希有の心を生じて旃提羅に向ひて、偈を說いて言く、

【一】 舍衞は、波斯匿王の治下憍薩羅國の一部なり、舍衞は原音Śrāvastī．憍薩羅はKosala．波斯匿は Prasenajit． 末利は Mallikā． 勝鬘は譯語にして、原音室利摩羅(Śrīmālā)なり、蓋し勝鬘は、憍薩羅王波斯匿と末利との間に生れし子にして、阿踰闍王友稱の妃なり、但し勝鬘を、波斯匿王の妃となす說あるも、本經の所說は然らず。

【二】 旃提羅 (Chandra)は譯して在人といふ、宮廷の官人なり。

【三】 阿踰闍は國名、其の王を友稱王といふ、勝鬘は其の妃

『我聞く佛の音聲は、世に未曾有なる所なりと。言ふ所眞實ならば應さに供養を修すべし。仰いで惟みれば佛世尊は、普く世間の爲めに出で給ふ。亦應さに哀愍を垂れて、必ず我をして見ることを得せしめ給ふべし。卽ち此の念を生ずる時、佛空中に於て現じて、普く淨光明を放ち、無比身を顯示し給ふ。勝鬘及び眷屬、頭面をもて足を接して禮し、咸く淸淨の心を以て、佛の實の功德を歎じ奉る。』

【一、歎佛眞實功德章】『如來の妙色身は、世間に與に等しきものなし、無比にして不思議なり、是の故に今敬禮し奉る。

如來の色　無盡なり、智慧も亦復然なり、一切の法は常住なり、是の故に我れ歸依し奉る。

㈣心の過惡と、身の四種とを降伏して、已に㈤難伏地に到る、是の故に法王を禮し奉る。

一切の㈥爾炎の、智慧身自在にして、一切の法を攝持し給ふを知る、是の故に今敬禮し奉る。

なり、阿踰闍は Ayodhya にして今のオード Gude 附近に當る。

【四】心の過惡は、未來の果を招感する原因、身の四種は、過去の因により招感せし結果此の因と果とを降伏する意、身の四種とは生老病死の四なり。

【五】難伏地は佛果の異名。

【六】爾炎(Jñeya)は梵語、譯して智母といふ、眞諦は空理、俗諦は差別、空智有智の二之より生ずるが故に智母といふ、二諦の智母より生ずる二智の作用を智慧身自在と言へり、これ眞實智を嘆す、一切の法を攝持すとは、此の眞實智より方便を起し、一切衆生を攝持し、化度し給ふ方便智を嘆す。

過稱量を敬禮し、無譬類を敬禮し、無邊法を敬禮し、難思議を敬禮し奉る。
哀愍して我を覆護し、法種をして增長せしめ、此の世及び後生、願はくは佛常に攝受し給へ。
（佛言はく）我久しく汝を安立す、前世既に開覺せり、今復汝を攝受す、未來の生も亦然なり。
（勝鬘白して言さく）我已に功德をなしき、現在及び餘世、是くの如きの衆の善本あり、唯願はくは攝受せられんことを。』

爾の時、勝鬘及び諸の眷屬、頭面をもて、佛を禮し奉る。

佛、衆中に於て、卽ち爲めに受記し給はく、『汝、如來の眞實の功德を歎ず、此の善根を以て、當さに無量(七)阿僧祇劫に於て、天人の中に於て、自在王となるべし。一切の生處に於て、常に我を見ることを得て、現前に讃歎せんこと、今の如く、異なることなかるべし、當さに復、無量阿僧祇劫の佛を供養し、二萬阿僧祇劫を過ぎて、當さに作佛することを得て、普光如來

【七】阿僧祇はAsaṃkhyaにして、譯して無數、無量數等といふ。倶舍論に十千爲萬、十萬爲洛叉（億）、十洛叉爲度洛叉（十億）、十度洛叉爲倶胝（百億）、十倶胝爲末陀（千億）、十末陀爲阿庾多（萬億）、十阿庾多爲大阿庾多（十萬億）、十大阿庾多爲那庾多（百萬億）、十那庾多爲大那庾多（千萬億）、十大那庾多爲鉢羅庾多（萬萬億）、十鉢羅庾多爲大鉢羅庾多、十大鉢羅庾多爲矜羯羅、十矜羯羅爲大矜羯羅、十大矜羯羅爲頻跋羅、十頻跋羅爲大頻跋羅、十大頻跋羅爲阿芻婆、十阿芻婆爲大阿芻婆、十大阿芻婆爲毘婆訶、十毘婆訶爲大毘婆訶、十大毘婆訶爲嗢蹭伽、十嗢蹭伽爲大嗢蹭伽、十大嗢蹭伽爲婆喝那、十婆喝那爲大婆喝那、十大婆喝那爲地致婆、十地致婆爲大地致婆、十大地致婆爲醯都、十醯都爲大醯都、十大醯都爲羯臘婆、十羯臘婆爲大羯臘婆、十大羯臘婆爲印達羅、十印達羅爲大印達羅、十大印達羅爲三磨鉢耽、十三磨鉢耽爲大三磨鉢耽、十大三磨鉢耽爲揭底、十揭底爲大揭底、十大

(八)應正遍知と號すべし。彼の佛の國土には、諸の惡趣、老病衰惱、不適意の苦しみなし。亦不善惡業道の名もなし。彼の國の衆生は、色力、壽命、五欲の衆具、皆悉く快樂にして、(九)他化自在の諸天に勝らん。彼の諸の衆生は、純一大乘にして、有らゆる善根を修習する衆生、皆彼れに集まらん。』

勝鬘夫人、受記を得る時、無量の衆生、諸天、及び人、彼の國に生れんと願ふ。世尊悉く記す、皆當さに往生すべしと。

【二、十大受章】爾の時、勝鬘、受記を聞き已りて、恭敬して(一〇)十大受を受く。

『世尊、我今日より乃し(一一)菩提に至るまで、所受の戒に於て犯心を起さず。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、諸の尊長に於て慢心を起さず。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、諸の衆生に於て恚心を起さず。

掲底爲ニ拈筏羅閣ニ、十拈筏羅閣爲ニ大拈筏羅閣ニ、十大拈筏羅閣爲ニ姥達羅ニ、十姥達羅爲ニ大姥達羅ニ、十大姥達羅爲ニ跋藍ニ、十跋藍爲ニ大跋藍ニ、十大跋藍爲ニ珊若ニ、十珊若爲ニ大珊若ニ、十大珊若爲ニ毘步多ニ、十毘步多爲ニ大毘步多ニ、十大毘步多爲ニ跋羅攙ニ、十跋羅攙爲ニ大跋羅攙ニ、十大跋羅攙爲ニ阿僧企耶ニ とあり、阿僧企耶卽ち阿僧祇に同じ、其の數量の測るべからざるを知るべし。

【八】應正遍知は應供正遍知の略、佛を或は大應供といひ、或は正遍知ともいふ、佛の異名十種中の一なり。

【九】他化自在は、欲界最上の天にして快樂極まりなし。

【一〇】十大受の中、一より五に至るまでは、自己の行爲に就いて防非止惡を誓ふ、これ攝律儀戒なり、六より九に至るまでは、專ら利他を誓ふ、これ攝衆生戒なり、第十は上の二の止惡を主とするに對し、作善を旨とするが故に之を攝善法戒となす。凡そ戒の條目を擧ぐるに種種の說あるも、大乘菩薩戒は總べて此の三種に盡く、之を三聚淨戒と名く、梵網經、瓔珞經等の說、卽ち是なり。

【一一】菩提は梵語、譯して覺といふ、智を以て理を開顯覺了せし佛果を指す。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、他の身色及び外の衆具に於て嫉心を起さず。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、内外の法に於て慳心を起さず。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、自ら己れがために財物を受畜せず、凡て所受あれば、貧苦の衆生を成熟せしむることをせん。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、自ら己れがために（三）四攝法を行せず、一切衆生の爲めの故に、無愛染心、無厭足心、無罣礙心を以て衆生を攝受せん。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、若し孤獨、幽繫、疾病、種種の厄難・困苦の衆生を見ては、終に暫らくも捨せず、必ず安穩ならしめんと欲し、義を以て饒益し、衆苦を脱せしめ、然る後に捨せん。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、若し捕と養と衆の惡律儀と及び諸の犯戒とを見ては、終に棄捨せずして、我、力を得ん時、彼彼の處に於て、此の衆生を見ては、應さに折伏すべきものは之を折伏し、攝受すべきものは之を攝受せん。何を以ての故に。折伏、攝受を以ての故に、法をして久住せしむればなり。法の久住とは、天人充滿し、惡道減少して、能く如來所轉の法輪に於て、而かも隨轉することを得て、是の利を見るが故に、救攝して捨せず。

【三】四攝とは布施、愛語、利行、同事なり、布施は法財二施をいひ、愛語は親愛の語、利行は、身口意三業の行を以て利益を與ふ、同事は、衆生の境遇に同じ、自己を彼と同位地に投ずること、以上の四を以て、衆生を親近ならしめ、之を化度する手段とする四攝法といふ。

世尊、我今日より乃し菩提に至るまで、〔一三〕正法を攝受して終に忘失せず。何を以ての故に。法を忘失するものは大乘を忘る、大乘を忘るるものは、則ち〔一四〕波羅蜜を忘る、波羅蜜を忘るるものは、則ち大乘を欲せず、若し菩薩、大乘を決定せざるものは、則ち正法を攝受することを得ること能はず、所樂に隨ひて入らんと欲するに、永く凡夫地を越ゆるに堪忍せず。我是くの如きの無量の大過を見、又未來に正法を攝受する〔一五〕菩薩摩訶薩の無量の福利を見るが故に、此の大受を受く。

法主世尊、現に我が爲に證し給へ。佛世尊、現前に證知し給ふと雖、而も諸の衆生は、善根微薄にして、或は疑網を起さん。十大受は極めて度し難きを以ての故に、彼れ或は長夜に非義をもて饒益して安樂を得ず、彼を安んぜんがための故に、今佛前に於て誠實の誓を說く、我れ此の十大受を受けて說の如く行せば、此の誓を以ての故に、大衆の中に於て當さに天華を雨らし、天の妙音を出すべし。』

是の語を說く時、虛空の中より、衆の天華を雨らし、妙聲を出して言く、

【一三】正法とは實相の理、卽ち道なり、本具の如來藏心を開顯して、此の道、我れにあることを見る、これ第八地已上の菩薩にして、所謂攝受正法は八地已上の位に就いていふ、太子疏には勝鬘七地の位にあり、故に八地已上を得んと願ふ、此の誓ある所以なりと。

【一四】波羅蜜は梵語、到彼岸と譯す、迷界を此岸とし、涅槃界を彼岸とす、迷の此岸より涅槃の彼岸に到達すべき道、之を波羅蜜と名づく。

【一五】菩薩摩訶薩は梵語、菩薩は菩提薩陲の略にして覺有情といひ、また大士等といふ、摩訶薩は摩訶薩埵にして、摩訶は大なれば大有情と譯す、覺有情は利他心を以て、他の有情をして、眞理を覺知せしむる有情の義、大士は大心の士にして、大心は利他心なり

『是くの如し、是くの如し。汝が所說の如き、眞實にして異なることなし。』
彼の妙華を見、及び音聲を聞いて、一切の衆會、疑惑悉く除いて喜踊すること無量なり。而して發願して言はく、
『恒に與に、勝鬘と、常に共に倶に會して其の所行を同じうせん。
世尊悉く一切の大衆、其の所願の如しと記し給ふ。』

【三、三大願章】 爾の時、勝鬘、復、佛前に於て三大願を發して此の言を作さく、
『此の實願を以て、無量無邊の衆生を安慰せん。此の善根を以て、一切衆生に於て（二六）正法智を得ん、是れを第一の大願と名づく。
我れ、正法智を得已りて、無厭心を以て衆生の爲めに說かん、是れを第二の大願と名づく。
我れ攝受正法に於て身命財を捨し、正法を護持せん、是れを第三の大願と名づく。』
爾の時世尊、即ち勝鬘に記し給ふ、
『三つの大誓願は、一切の色の悉く空界に入るが如く、是の如きの菩薩恒沙の諸願は、皆悉く此の

【二六】寶窟には第一願を求正法智願、第二願を說智願、第三願を護法願と名づく。正法智とは宇宙の根本義に體達するの智にして、菩薩八地已上の智を指す、之を實智といふ、實智の用は利他方便の活作用となる、之を權智と呼ぶ、權實の二智、合せて一の根本義體達の智なれば、之を正法智とす、此の智を得んと願ふ、これ第一大願、權智發して利他說法の用となる、これ第二大願、自利、利他の根本たる攝受正法護持を誓ふものこれ第三大願なり、但し身命財を捨すとは、別に深義あり、後段の經文に明なり。

三大願の中に入る、此の三願は眞實にして廣大なり。』

【四　攝受正法章】　爾の時、勝鬘、佛に白して言く、

(一七)『我今當さに復佛の威神を承けて、調伏の大願の眞實にして異なることなきを説かん。』

佛、勝鬘に告げ給はく、

『恣に汝に説くことを聽るす。』

勝鬘、佛に白して言さく、

『菩薩の有らゆる恒沙の諸願は、一切皆一大願中に入る、所謂(一八)攝受正法なり。攝受正法は眞に大願となす。』

佛、勝鬘を讚し給はく、

『善い哉善い哉、智慧方便、甚深にして微妙なり。汝既に長夜に諸の善本を植う。來世の衆生、久しく善根を植ゑたるものは、乃ち能く汝が所説を解らん。汝が所説の攝受正法は、皆是れ過去、未來、現在の諸佛の、已に説き、今説き、當さに説くべき所なり。我、今無上菩提を得て、亦常に此の攝受正法を説くべし。是くの如く、我説く、攝受正法の有らゆる功德は

【一七】　上來十大受三大願等、皆自分行といふ、自分行とは有功用行にして、道の本體より自然任運に流出する行にあらず、これ七地已下の行なり、八地已上は無功用にして、自己の爲作造作によらず、道の當體より任運に流出するの行なれば、之を他分行といふ、佛の威神を承け以下は他分行なり、勝鬘は七地の人なり、八地已上の行を説く能はず、故に佛の威神力を承けて之を説く、故に佛の神力を承くといふ、説、勝鬘の口に藉るも、實は佛説なることを表す。

【一八】　攝受正法は、八地已上一念無功用の用なれば、七地已下有功用恒沙の諸願も、皆此の願中に入る、大乘佛敎の目

的は一に此の宇宙の根本義に體達するにあり、其の他幾多の諸願・萬行、畢竟唯此の一願に歸す。

邊際を得ず、如來の智慧辯才も亦邊際なし。何を以ての故に。是の攝受正法は、大功德あり、大利益あればなり。』

勝鬘、佛に白さく、

『我れ、當さに佛の神力を承けて、更に復攝受正法廣大の義を演說すべし。』

佛言はく、

『便ち說け。』

勝鬘、佛に白して言さく、

『攝受正法廣大の義とは、卽ち是れ無量なり、一切の佛法を得て、八萬四千の法門を攝するなり。譬へば、劫の初めて成ずる時、普く大雲を興して、衆色の雨、及び種種の寶を雨らすが如し。是くの如く、攝受正法も、無量の福報と無量の善根の雨とを雨らす。世尊、又劫の初めて成ずる時、大水の聚まることありて、三千大千世界藏と、及び四百億の種種の類洲とを出生するが如し。是くの如く、攝受正法も、大乘の無量界藏と、一切菩薩の神通の力と、一切世間の安穩快樂と、一切世間の如意自在と、及び出世間の安樂とを出生す。劫成にも、乃至天人にも、本より未だ得ざる所、皆中に於て出づ。又大地の四の重擔を持するが如し。何等をか四となす。一には大海、二には諸山、三には草木、四には衆生なり。是くの如く、攝受正法の善男子善女人は、大地を建立して、四種の重任を荷負する

に堪能なること、彼の大地に踰えたり。何等をか四となす。謂はく、善智識を離れたる無聞非法の衆生には、人天の功德善根を以て之を成熟し、聲聞を求むるものには、聲聞乘を授け、緣覺を求むるものには緣覺乘を授け、大乘を求むるものには、授くるに大乘を以てす、是れを攝受正法の善男子善女人は、大地を建立して、四種の重任を荷負するに堪能なりと名づく。世尊、是くの如く攝受正法の善男子善女人は、大地を建立して、四種の重任を荷負するに堪能にして、普く衆生の爲めに不請の友となり、大悲をもて衆生を安慰し、哀愍し、世の法母となる。又大地に四種の寶藏あるが如し、何等をか四となす。一には無價、二には上價、三には中價、四には下價なり、是を大地の四種の寶藏と名づく。是くの如く攝受正法の善男子善女人も、大地を建立して、衆生の四種の最上大寶を得。何等をか四となす。攝受正法の善男子善女人は、無聞非法の衆生には、人天の功德善根を以て之を授與し、聲聞を求むるものには聲聞乘を授け、緣覺を求むるものには緣覺乘を授け、大乘を求むるものには、授くるに大乘を以てす。是くの如く、大寶を得る衆生とは、皆攝受正法の善男子善女人は、此の奇特希有の功德を得るによる。世尊、大寶藏とは卽ち是れ攝受正法なり。世尊、(一九)攝受の正法と攝受正法とは、異の正法なく、異の攝受正法なし、正法とは卽ち是れ攝受正法なり。(攝受正法とは、卽ち是れ正法なり。)世尊、異の波羅蜜なく、異の

【一九】原文には「攝受正法、攝受正法者無異正法」云云とあり、前の攝受正法は攝受の正法にして、攝受せらるる正法なり、次ぎの攝受正法は、正法を攝受する心にして、卽ち攝受正法の心なり、八地已上に至りては、萬行正法を以て

攝受正法なし、攝受正法は卽ち是れ波羅蜜なり。(波羅蜜は卽ち是れ攝受正法なり。) 何を以ての故に。攝受正法の善男子善女人は、應さに〔二〇〕施を以て成熟すべきものには、施を以て成熟し、乃至身の支節を捨し、將さに彼の意を護して之を成熟せんとす、彼の成熟する所の衆生、正法を建立す、是を檀波羅蜜と名づく。應さに戒を以て成熟すべきものには、六根を守護し、身口意業を淨め、乃至正威儀を以て、將さに彼の意を護して之を成熟せんとす、彼の成熟する所の衆生、正法を建立す、之を尸波羅蜜と名づく。應さに忍を以て成熟すべきものには、若し彼の衆生、罵詈し、毀辱し、誹謗し、恐怖せんに、無恚心と、饒益心と、第一忍力と、乃至顏色無變とを以て、將さに彼の意を護して之を成熟せんとす、彼の成熟する所の衆生、正法を建立す、是を羼提波羅蜜と名づく。應さに精進を以て成熟すべきものには、彼の衆生に於て懈心を起さず、大欲心を生せん、第一精進乃至若ろに四威儀をもて、將さに彼の意を護して之を成熟せんとす、彼の成熟する所の衆生、正法を建立す、之を毗梨耶波羅蜜と名づく。應さに禪を以て成熟すべきものには、彼の衆生に於て、不亂心、不外向心、第一正念、

心となし、心を以て萬行正法となし、心法一體にして無二、別相なき、これ正法卽ち攝受正法、攝受正法卽ち正法なり、道と冥契せる攝受正法の心、自然に一切の萬行を流出す、萬行と心と無別なる所以なり、一切の萬行は、之を六波羅蜜に包括す、故に六波羅蜜卽ち正法にして、六波羅蜜之を攝受正法とし、攝受正法卽ち六波羅蜜なり。

【二〇】施は布施、檀は檀那の略、檀那は梵語、譯して布施といふ、戒は持戒、尸は尸羅の略、尸羅は梵語、譯して戒といふ、忍は忍辱、梵語は羼提の譯、毗梨耶、譯して精進といふ、禪は禪那、譯して靜慮といふ、禪定なり、般若、譯して智慧となす、以上を六波羅蜜と名づく。

乃至久時所作、久時所説を以て、終に忘失せず、將さに彼の意を護して、之を成熟せんとす、成熟する所の衆生、正法を建立す、是を禪波羅蜜と名づく。應さに智慧を以て成熟すべきものには、彼の諸の衆生、一切義を問はば、無畏心を以て、爲めに一切の論と、一切の工巧とを演説して、明處と乃至種種の工巧の諸事とを究竟して、將さに彼の意を護して之を成熟せんとす、彼の成熟する所の衆生正法を建立す、是を般若波羅蜜と名づく。是の故に世尊、異の波羅蜜なく、異の攝受正法なし、攝受正法は卽ち是れ波羅蜜なり。（波羅蜜は卽ち是れ攝受正法なり。）』

『世尊、我、今佛の威神を承けて更に大義を説かん。』

佛言はく、

『便ち説け。』

勝鬘、佛に白して言さく、

『攝受の正法と攝受正法とは、異の攝受の正法なし。異の攝受正法なしとは、攝受正法の善男子善女人は、卽ち是れ攝受正法なり。何を以ての故に。若し攝受正法の善男子善女人は、攝受正法の爲めに三種の分を捨す。何等をか三となす。謂はく身と命と財となり。善男子善女人、身を捨するとは、生死と後際と等しく老病死を離れて、不壞常住と、無有變易と不可思議功德と、如來の法身とを得るなり。命を捨するとは、生死と後際と、等しく畢竟して老病死を離れて、無邊と、常住と、不可思議

功徳とを得て、一切甚深の佛法に通達するなり。財を捨するとは、生死と後際と、等しく一切衆生に共せざる、無盡、無滅、畢竟常住不可思議の具足功徳を得ると、一切衆生の殊勝の供養を得るとなり。世尊、是くの如く三分を捨する善男子善女人は、正法を攝受して、常に一切諸佛の爲めに記せられ、一切衆生の瞻仰する所なり。世尊、又善男子善女人の正法を攝受するものは、法の滅せんと欲する時、〔三〕比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、朋黨諍訟し、破壞離散せんに、不諂曲、不欺誑、不幻僞を以て、正法を愛樂し、正法を攝受して法朋の中に入れん。法朋に入るものは、必ず諸佛の授記する所と爲らん。世尊、我、攝受正法の、是くの如きの大力あるを見る、佛は實眼、實智たり、法の根本たり、通達法たり、正法の依たり、亦悉く知見し給ふ。』

爾の時、世尊、勝鬘所說の攝受正法の大精進力に於て、隨喜の心を起し給ふ。

『是くの如し勝鬘、汝の所說の如し。攝受正法の大精進力は、大力士の、少しく身分に觸るるも大苦痛を生ずるが如し。是くの如く勝鬘、少しき攝受正法は、魔をして苦惱せしむ。我れ餘の一の善法も、魔をして憂苦せしむること、少しき攝受正法の如くなるを見ず。又牛王の形色無比にして、一切

【三】比丘は梵語 Bhikṣu 譯して乞士といふ、僧侶、道を修するもの、毎日村落に出でて食を乞ひ、日に一食す、故に乞食といひ、また乞士と呼ぶ。比丘尼 (Bhikṣuṇī) は其の女性なり、乞士女と譯す。優婆塞 (Upāsaka) は、譯して近事男といふ、道を慕うて出家人に近づき事へ、同じく道を修する在家人なり。優婆夷 (Upāsikā) は其の女性にして近事女と譯す。

の牛に勝ぐるるが如し。是くの如く、大乘の少しき攝受正法は、一切の二乘の善根に勝れたり。廣大なるを以ての故に。又〔三〕須彌山王の端嚴殊特にして、衆山に勝るるが如し。是くの如く大乘に身命財を捨して以て心を攝取し、正法を攝受するは、身命財を捨せずして、初めて大乘に住する、一切の善根に勝ぐれたり、何に況んや二乘をや、廣大なるを以ての故に。是の故に勝鬘、當さに攝受正法を以て衆生を開示し、衆生を敎化し、衆生を建立すべし。是くの如く勝鬘、攝受正法は、是くの如きの大利、是くの如きの大福、是くの如きの大果あり。勝鬘、我れ阿僧祇阿僧祇劫に於て、攝受正法の功德義利を說くとも邊際を得ず。是の故に勝鬘、攝受正法には、無量無邊の功德あり。』

【五、一乘章】佛、勝鬘に告げ給はく、

『汝今、更に一切諸佛所說の攝受正法を說くべし。』

勝鬘、佛に白して言さく、

『善い哉世尊、唯然り。』

敎を受けて卽ち佛に白して言さく、

『世尊、攝受正法とは卽ち是れ〔三〕摩訶衍なり。何を以ての故に。摩訶衍とは一切の聲聞、緣覺、世

〔三〕須彌山は、印度の傳說にて、世界の中心に立てる高山とす、世界は此の高山を廻りて四方に存すと想像せらる。原語蘇迷盧(Sumeru)、譯して妙高といふ。

〔三〕摩訶衍(Mahāyāna)は譯して大乘といふ、これ根本の道、絕對の道、道の本體なり、一切の道と善法とは悉く之より生ず。起信論にも、道の用を明して、「用大、能生ニ一切世間、出世間善因果一故」といへり、此の意に同じ。

間、出世間の善法を出生す。世尊、(二四)阿耨達池の八大河を出すが如く、是くの如く摩訶衍は、一切聲聞、緣覺、世間、出世間の善法を出生す。世尊、又一切の種子は、皆地に依りて生長することを得るが如く、是くの如く一切の聲聞、緣覺、世間、出世間の善法は、大乘に依りて增長することを得。是の故に世尊、大乘に住して、大乘を攝受するは、卽ち是れ二乘に住して、二乘と一切の世間、出世間の善法とを攝受するなり。世尊の六處を說き給ふが如し。何等をか六とする。謂はく、(二五)正法住と、正法滅と、波羅提木叉と、毘尼と、出家と、受具足となり。大乘の爲めの故に、此の六處を說く。何を以ての故に。正法住とは、大乘の爲めの故に說く、大乘住すれば、卽ち正法住するなり。正法滅とは、大乘の爲めの故に說く、大乘滅すれば、卽ち正法滅するなり。波羅提木叉と毘尼と、此の二法は、義は一にして名は異なり、毘尼とは卽ち大乘の學なり。何を以ての故に。佛に依りて出家して具足を受くるを以てなり。是の故に、大乘の威儀戒は是れ毘尼なりと說く、是れ出家なり、是れ受具足なり、是の故に、阿羅漢は別の出家と受具足となし。何を以ての故に。阿羅漢は、如來に依りて出家

【二四】阿耨達池は Anavatapta にして、清涼、無熱惱と譯す、印度の諸大河の源泉と想像せらる。或は曰く、今雪山北境西藏の山地に此の池ありと。

【二五】正法住と正法滅は、時により教に興衰あるを示す、波羅提木叉は譯して別解脫といふ、毘尼は滅惡といふ、波羅提木叉は得善なり、毘尼は滅惡なれば、戒に得離あることを示す、出家は入道の初め、受具足は、具足戒を受けて、比丘の資格を完備す、これ人に始終ある事を示す、佛滅後五百年正法住し、五百年後正法滅すといふ、これ一般に小乘に就いていふも、大乘の外に小乘なければ、實は大乘の正法住、正法滅なり、波羅提木叉、毘尼は、小乘の戒について得離を語るものなるも、大乘戒

して具足を受くるが故に。阿羅漢は佛に(二六)歸依す、阿羅漢は恐怖するこ
とあり。何を以ての故に。阿羅漢は、(二七)一切無行に於て、怖畏の想に住す
ること、人の劒を執りて、來りて己を害せんと欲するが如し。是の故に、
阿羅漢には究竟の樂なし。何を以ての故に。世尊は依にして不求依なり、
衆生、依無ければ彼彼に恐怖す、恐怖を以ての故に則ち歸依を求むるが如し。
是くの如く阿羅漢は怖畏あり、恐怖を以ての故に如來に依る。世尊。阿羅
漢と辟支佛とは怖畏あり、是の故に、阿羅漢と辟支佛とは、有餘の生法
盡きず、故に生あり、有餘の梵行成ずるが故に純ならず、事、究竟せざる
が故に當さに所作あるべし、彼を度せざるが故に所斷あるべし、斷せざる
を以ての故に、涅槃界を去ること遠し。何を以ての故に。唯、如來應正等
覺のみありて般涅槃を得給ふ、(二八)一切の功德を成就するが故に。阿羅漢と
辟支佛とは一切の功德を成就せず、涅槃を得ると言ふものは、是れ佛の方
便なり。唯、如來のみありて般涅槃を得給ふ、無量の功德を成就するが故
に、阿羅漢と辟支佛とは、有量の功德を成就す、涅槃を得ると言ふものは、
是れ佛の方便なり。唯、如來のみありて般涅槃を得給ふ、不可思議の功德

の外に小乘戒なし、故にこれ大乘戒の得離なり、出家受具足も此の理なり、今姑らく此の三を擧げて、小乘の因行畢竟大乘の外に存せざることを明し、以て二乘を大乘に會す。

【二六】以上は二乘の因行に就いて、二乘も大乘を離れて存せざることを示し、以下は二乘の果を擧げて大乘に會す。二乘の果に就て其の德未だ圓滿ならざるが故、歸依の語あり、圓滿なるものは、上に歸依すべきなし。其の煩惱未だ斷盡せざるが故に恐怖あり、煩惱なきものは恐怖なし、恐怖とは生死の恐怖を指す、二乘は見思を斷じて分段生死の恐怖なきも、なほ餘惑ありて變易生死を受く、故に恐怖ありといふなり。

【二七】一切無行とは、二乘は、三界分段の生死を脱するの行

を成就するが故に。阿羅漢と辟支佛とは思議の功德を成就す、涅槃を得ると言ふものは、是れ佛の方便なり。唯、如來のみありて般涅槃を得給ふ、一切の斷ずべき所の過は、皆悉く斷滅して、第一清淨を成就するが故に。阿羅漢と辟支佛とは、餘過あり、第一清淨にあらず、涅槃を得ると言ふものは、是れ佛の方便なり。唯如來のみありて般涅槃を得給ふ、一切衆生の瞻仰する所となりて、阿羅漢、辟支佛、菩薩の境界を出過す。是の故に、阿羅漢と辟支佛とは、涅槃界を去ること遠し、阿羅漢、辟支佛の、觀察し、解脱し、四智究竟して、蘇息處を得るとは、亦是れ如來の方便、有餘不了義の說なり。何を以ての故に。二種の死あり。何等をか二となす、謂はく、(二九)分段の死と、不思議變易の死となり。分段の死とは、謂はく虛僞の衆生なり。不思議變易の死とは、謂はく、阿羅漢、辟支佛、(三〇)大力の菩薩の意生身と乃至無上菩提を究竟するとなり。二種の死の中、分段の死を以ての故に、阿羅漢と辟支佛の智を(三一)我生已盡と說き給ふ。有餘の果證を得るが故に、梵行已立と說き給ふ、凡夫人天の辨ずる能はざる所なり。七種の學人は、先きより未だ作さざる所の、虛僞の煩惱を斷ずるが故に、所作已辨と

あるも、三界外の治道については一切無行なるの意なり。

【二八】一切の功德、無量の功德、不可思議の功德、第一清淨の功德の四を擧ぐ、寶窟には之を廣狹、淺深、麤細、清淨不清淨の四對に配せり、而して終りの所瞻仰を總結とす、又佛性論を引いて、一切は第八地、無量は第九地、不可思議は第十地、第一清淨は佛地の功德なりともいへり。

【二九】分段生死は身に大小あり、壽に長短あり、故に分段といふ、三界內の生死なり。二乘は三界を超脱し、分段を出で、以て寂滅に歸り、無生界を得たりとなす、而かも三界の外になほ受生の所あり、ここにて一種の生死を受く、之を不思議變易生死といふ、故に二乘は、未だ眞に生死を斷盡したるものにはあらず。

說き給ふ。阿羅漢、辟支佛の所斷の煩惱は、更に後有を受くること能はざるが故に、不受後有と說き給ふ。一切の煩惱を盡すにあらず、一切の受生を盡すにあらず、故に不受後有と說き給ふ。何を以ての故に。煩惱あり・是れ阿羅漢、辟支佛の斷ずる能はざる所なり。煩惱に二種あり。何等をか二となす。謂はく、住地の煩惱と起煩惱となり。(三二)住地に四種あり。何等をか四となす。謂はく見一切處住地・欲愛住地・色愛住地、有愛住地なり。此の四種の住地は、一切の起煩惱を生ず、起とは、刹那心と刹那相應となり。世尊、心不相應は、無始の無明住地なり。世尊此の四住地の力は、(三三)一切の上の煩惱の依種たるも、無明住地に比するに、算數譬喩も及ぶ能はざる所なり。世尊、是くの如く、無明住

【三〇】 大力の菩薩とは、過去の業により、繫縛せられて生死を受けず、自己の意により、自在に受生す、之を大力といひ、其受生の身を意生身といふ。これまた變易生死なり。但し菩薩、分段を出で、變易を受くる位に就いては種種の說あり、卽ち大力の菩薩の位を判ずるに諸說不同なり、或は地前の菩薩なほ大力にして變易を受くといひ、或は七地以上を大力とし、六地以前は分段なりといひ、決判し難し。乃至無上菩提を究竟すとは、無上菩提を究竟するものは、これ佛なり、佛に至るまでの因位の菩薩は皆生死あり、卽ち菩薩最高の位を金剛心の菩薩といひ、此の究竟の菩薩なほ變易生死を受く、之を乃至無上菩提等といふなり。

【三一】 我生已盡・梵行已立、所作已辨、不受後有、之を阿羅漢の四智といふ、而かも之を大乘より見れば、實は四智共に圖滿ならざることを明す、四智未究竟の說明、後段にあり。

【三二】 住地の四煩惱とは一は見惑にして、智識上の誤解に基く惑なり、之を見一切處住地とす、見惑に對し、感情上の惑を思惑といふ、見惑を斷じたる後、更に思惟を加へて久うして漸く斷ずる惑なり、此の思惑の欲界にて斷ぜらるるを欲愛住地とし、色界にあるを色愛住地、無色界にあるを有愛住地とす。此の四住地より起る見思の現行を起煩惱と呼ぶ、起は初めあるなり、心王と心所と相應じて起るに初めあり、刹那心は心王にして、刹那相應は心所なり、之に反して無明は初めなし、故に心

地の力は、有愛と數との四住地に於て、無明住地は、其の力最も大なり。譬へば惡魔波旬の、他化自在天に於て、色力、壽命、眷屬、衆具の自在殊勝なるが如く、是くの如く無明住地の力は、有愛と數との四住地に於て、其の力、最勝なり。恒沙に等しき數の上の煩惱の依たり、亦四種の煩惱をして久しく住せしむ。阿羅漢、辟支佛智の斷ずる能はざる所にして、唯如來の菩提智のみ能く斷ずる所なり。是くの如く世尊、無明住地は最も大力となす。世尊、又取を緣とし、有漏の業を因として、(三四)三有を生ずるが如く、是くの如く無明住地を緣とし、無漏の業を因として、阿羅漢と、辟支佛と、大力の菩薩との三種の意生身を生ず。此の(三五)三地と、彼の三種の意生と、身生と、及び無漏業の生とは、無明住地に依りて、緣となることあり、緣となることなきにあらず。是の故に、三種の意生身と及び無漏の業とは、無明住地を緣とするなり。世尊、是くの如く、有

不相應にして無始なりといふ。

【三三】一切の上の煩惱とは、恒沙無數の諸德の上を覆蔽する煩惱の意なり、此等の煩惱、皆無明より起る、故に此等の煩惱の起るに對し、無明の力、四住の力の比すべきにあらず故に二乘は四住を斷じ、見思を滅するも、無明を斷ずる能はざれば、なほ恒沙の上の煩惱續起することと止まず。

【三四】三有は欲界、色界、無色界の三界なり。

【三五】三地は、阿羅漢、辟支佛及び大力の菩薩を指す、此の三地の意生身、卽ち三種の意生身たり、身生は分段の生な

指す、意生身は、無漏業を因とし無明を緣とし 無漏業、無明の力に助けられて受くる所の身なり、故に之を無漏業の生といふ。因の上より言へば無漏業の生、果の上より言へば意生身なり。ここに三地と三種の意生身といひ、更に重ねて三界の分段身生と無漏業の生といへるは、獨り意生身に對し、無明其の緣となるのみならず、また身生に對しても緣となるを示したるなり、緣となることありは三地三種身に對して緣となるをいふ、緣となることなきにあらずは身生に對しても緣となることを示す。

愛住地と數との四住地は、無明住地の業と同じからず、無明住地は、異にして四住地を離れたり。佛地の所斷なり。佛菩提智の所斷なり。何を以ての故に。阿羅漢、辟支佛は、四種の住地を斷ず、無漏盡きざるを以て自在力を得ず、亦證を作さざれば、無漏盡きざるは、卽ち是れ無明住地なり。世尊、阿羅漢と、辟支佛と、最後身の菩薩とは、無明住地のために覆障せらるるが故に、彼彼の法に於て不知不覺なり。知見せざるを以ての故に、斷ずべき所のものを斷ぜず、究竟せず。斷ぜざるを以ての故に、有餘過の解脫と名づく、一切過を斷じたる解脫にはあらず。有餘清淨と名づく、一切清淨にはあらず。有餘の功德を成就すと名づく、一切の功德を成就するにはあらず。有餘の解脫と、有餘の清淨と、有餘の功德とを成就するを以ての故に、有餘の苦を知り、有餘の集を斷じ、有餘の滅を證し、有餘の道を修す。是を少分の涅槃を得ると名づく。少分の涅槃を得たるものは、涅槃界に向ふと名づく。若し一切の苦を知り、一切の集を斷じ、一切の滅を證し、一切の道を修すれば、無常壞の世間と、無常病の世間とに於て、常住の涅槃界を得、無覆護の世間と、無依の世間とに於て、護となり、依となる。何を以ての故に。法に優劣なきが故に涅槃を得、智慧等しきが故に涅槃を得、解脫等しきが故に涅槃を得、清淨等しきが故に涅槃を得。是の故に、涅槃は一味なり、等味なり、謂はく解脫味なり。世尊、若し無明住地を斷ぜず、究竟せざるものは、一味、等味、謂はく明解脫味を得ず。何を以ての故に。無明住地を斷ぜず、究竟せざるものは、恒沙等に過ぎたる所應斷の法を斷ぜず、究竟せ

ず。恒沙等に過ぎたる所應斷の法を斷ぜざるが故に、恒沙等に過ぎたる法の、應さに得べきを得ず、應さに證すべきを證せず。是の故に、無明住地、積聚して、一切の修道斷の煩惱、(三六)上の煩惱を生ず。彼れ、心上の煩惱、止上の煩惱、觀上の煩惱、禪上の煩惱、正受上の煩惱、方便上の煩惱、智上の煩惱、果上の煩惱、得上の煩惱、力上の煩惱、無畏上の煩惱を生ず。是くの如く、恒沙等に過ぎたる上の煩惱は、如來菩提智の所斷なり。一切皆無明住地に依りて建立する所、一切の上の煩惱の起ることは、皆無明住地を因とし、無明住地を緣とす。世尊、此の起煩惱に於て、刹那心と刹那と相應す。世尊、心の不相應なるは無始の無明住地なり。世尊、若し恒沙に過ぎたる、如來菩提智の所應斷の法は、一切皆是れ無明住地に持せられ、建立する所なり。譬へば、一切の種子は皆地によりて生じ、建立し、增長す、若し地、壞すれば、彼れも亦隨ひて壞するが如く、是くの如く、恒沙等に過ぎたる如來菩提智の所應斷の法は、一切皆無明住地に依りて生じ、建立し、增長す。若し無明住地斷ずれば、恒沙等に過ぎたる、如來菩提智の所應斷の法も、皆亦隨ひて斷ず。是くの如く一切の煩惱、上の煩惱を斷ずれば、恒沙等に過ぎたる如來所得の一切の諸法、通達無礙なり。一切知見は一切の過惡を離れ、一切の功德を得、法王、法主にして自在を得、一切法自在の地を證し、如來應等正覺

【三六】諸德を覆ふが故に上の煩惱、これ煩惱の總名なり、心上の煩惱は菩提心を覆ふ意、止は定、觀は慧の根本なること言ふに及ばず、禪は八禪ともいひ、或は四禪とも解す、正受は滅盡定ともいひ、或は三三昧等ともいふ、方便と智は慧の果なり、果は涅槃、得は菩提、力と無畏とは共に菩提の一方面を指すのみ。

師子吼す。我が生已に盡き、梵行已に立し、所作已に辨じ、後有を受けず。是の故に世尊、師子吼を以て、了義により、一向に記說し給ふ。世尊、(三七)不受後有智に二種あり、謂はく、如來は、無上の調御を以て(三八)四魔を降伏し、一切世間を出でて、一切衆生の瞻仰する所となり給ふ。不思議の法身を得て、一切爾炎地に於て、無礙自在にして、上に於て更に所作なく、所得なき地を得、(三九)十力勇猛にして、第一無上無畏の地に昇り、一切爾炎と無礙智とをもて觀じて他に由らず、不受後有智をもて師子吼し給ふ。世尊、阿羅漢、辟支佛、生死の畏を度して次第に解脫の樂を得んに、是の念を作さく、我は生死の恐怖を離れて生死の苦を受けずと。世尊、阿羅漢、辟支佛の觀察する時、不受後有を得て、第一蘇息處の涅槃地を觀ず。世尊、彼れ先きの所得の地にして法に愚ならず、他に由らずして、亦自ら有餘の地を得て、必ず當さに阿耨多羅三藐三菩提を得べしと知る。何を以ての故に。聲聞緣覺乘は皆大乘に入る、大乘とは卽ち是れ佛乘なり、是の故に三乘は卽ち是れ一乘なり。一乘を得るものは、(四〇)阿耨多羅三藐三菩提を得、阿耨多羅三藐三菩提とは、卽ち是れ涅槃界なり、涅槃界とは卽ち是れ(四一)如來の法身なり、究竟

【三七】不受後有智に二種ありとは、如來の不受後有と二乘の不受後有を指す。

【三八】四魔とは、天魔、煩惱魔、陰魔、死魔なり、天魔と煩惱魔とは惡果を招感せしむる因緣、陰魔と死魔とは、之によりて受けたる惡結果なり、陰魔の陰は五陰にして、卽ち現に受け得たる心身を指す。

【三九】十力は、(一)知是處非處智力、(二)知過現未來業報智力、(三)知諸禪解脫三昧智力、(四)知諸根勝劣智力、(五)知種種解智力、(六)知種種界智力、(七)知一切至處道智力、(八)知天眼無礙智力、(九)知宿命無漏智力、(十)知永斷習氣智力にして、佛所具の智力を數へしなり、詳解は今略す。

【四〇】阿耨多羅三藐三菩提（ア

の法身を得るとは、則ち究竟の一乘なり。異の如來なく、異の法身なし、如來は卽ち是れ法身なり、究竟法身を得るとは、則ち究竟一乘なり、究竟とは卽ち是れ無邊不斷なり。世尊、如來は限齊の時あることなくして住す、如來應等正覺は、後際と等しく住す。如來は限齊なければ、大悲も亦限齊なくして世間を安慰す。無限の大悲・無限に世間を安慰す。是の說をなすものを、是を善く如來を說くと名づく。若し復說いて、無盡の法なり、常住の法なり、一切世間の所歸依なりと言はば、亦善く如來を說くと名づく。是の故に、未度の世間、無依の世間、後際と等しく無盡の歸依をなさん。常住の歸依とは、謂はく如來の應等正覺なり。法とは卽ち是れ一乘の道を說くなり、僧とは是れ三乘衆なり。此の二の歸依は究竟の歸依にあらず、少分の歸依と名づく。何を以ての故に。一乘道の法のみ能く究竟法身を得ると說いて、上に於て更に一乘の法を說くことなければなり。三乘の衆とは、恐怖ありて如來に歸依し、出でんと求めて、修學して阿耨多羅三藐三菩提に向す、是の故に二依は究竟の依にあらず、是れ有限依なり。若し衆生ありて如來に調伏せられ、如來に歸依し、法の津澤を得て信樂の心を生じ、法僧に歸依する。此の二の歸依は、此の二の歸依にあらず、是れ如來に歸依するなり、第一義に歸依するは、是れ如來に歸依するなり、此の二の歸依と、第一義とに於てするは、是れ究竟して如來に歸依するなり。何を以ての故に。異の

ヌツタラサミヤクサンボーデイ nuttarasamyaksaṃbodhi)は譯して無上正眞道といふ・無上は絕對なり・正眞は邪僞に對す、道は本體に名づく。

【四二】 如來卽ち一乘と云ひて、如來に歸するは卽ち三寶に歸する所以なるを說く、之を同體三寶の說とす。

如來なく、異の二なし、如來に歸依するは、卽ち三の歸依なり。何を以ての故に。一乘の道を說き給へばなり。如來(四二)四無所畏成就師子吼の說なり。若し如來、彼の所欲に隨ひて、方便を以て說き給へることは、卽ち是れ大乘なり、二乘あることなし、二乘は一乘に入る、一乘とは卽ち是れ第一義乘なり。

【六、無邊聖諦章】世尊、聲聞緣覺の(四三)初觀の聖諦は、一智を以て諸の住地を斷ず、一智と、四斷智と、功德作證とを以て、亦善く此の四法の義を知る。世尊、出世間の上上智あることなし、(四四)四智の漸至と、及び四緣の漸至となり、無漸至の法は、是れ出世間の上上智なり。世尊、金剛喩とは、是れ第一義智なり。世尊、聲聞緣覺の無明住地を斷ぜざる、初めの聖諦智は、是れ第一義智にあらず。世尊、無二の聖諦智を以て諸の住地を斷ず。世尊、如來應等正覺は、一切の聲聞緣覺の境界にあらず、空智を以て一切の煩惱藏を斷ず。世尊、若し一切の煩惱藏を壞するは究竟の智なり、是れを第一義智と名づく。初めの聖諦智は究竟智にあらず、阿耨多羅三藐三菩提に向する智なり。世尊、聖の義とは、一切の聲聞緣覺にあらず、聲聞緣覺は有量の功德を成就し、聲聞緣覺は少分の功德を成就するが故に、

【四二】四無所畏は、(一)能持無所畏、これ記憶該博にして、衆中の說法に畏るる所なし、(二)知根無所畏、聽者の機根を知悉するが故に、說法に畏るる所なし、(三)決疑無所畏、如何なる疑問に對しても剖判し、明快の答辯を與へ、畏るる所なし、(四)答報無所畏、一切の所問に對し、應酬無礙にして、畏るる所なきなり。

【四三】聖諦に有作の聖諦あり、無作の聖諦あり、智に有作智あり、無作智あり、二乘は有作智を以て有作諦を觀じ、四住地の惑を斷ず、之を初觀の聖諦は一智を以て諸の住地を斷ずといふ、功德作證は、斯くして得たる無爲功德の境、卽ち二乘の作證の地なり、四法は四聖諦にして、苦集滅道

之を名けて聖となす。聖諦とは聲聞緣覺の諦にあらず、亦聲聞緣覺の功德にもあらず。世尊、此の諦は、如來應等正覺、初め始めて覺知し、然る後に、（四五）無明𣪊藏の世間のために開現し、演說し給ふ、是の故に聖諦と名づく。

【七、如來藏章】 聖諦とは甚深の義を說く、微細にして知り難し、思量の境界にあらず、是れ智者の所知なり、一切世間の信ずる能はざる所なり。何を以ての故に、此の甚深如來の藏を說く。（四六）如來藏とは、是れ如來の境界なり、一切の聲聞緣覺の所知にあらず。如來藏處に聖諦の義を說く、如來藏處、甚深なるが故に、聖諦も亦甚深なりと說く、微細にして知り難し、思量の境界にあらず、是れ知者の所知にして、一切世間の信ずる能はざる所なり。若し無量の煩惱藏所纏の如來藏に於て疑惑せざるものは、無量の煩惱藏を出づる法身に於て亦疑惑なし。如來藏と、如來の法身との不思議の佛の境界を說き、及び方便の說とに於て、心に決定を得たるもの、此れは則ち二の聖諦の義を說くことを信解す。是くの如く知り難く解し難きは、謂はく、二の聖諦の義を說くを以てなり。何等をか二の聖諦の義を說くとなすや。謂はく、（四七）作の聖諦の義を說き、無作の聖諦の義を說く。作の聖

の四諦なり。

【四四】 四智漸至とは、四智になほ未到達の餘地ある意、四緣漸至は、四諦に於てなほ未盡の餘地あるを示す、既に餘地あり、未滿なれば上上にあらざるなり。

【四五】 𣪊藏は、鷄子の卵中にありて、母鷄に懷抱せられ、生氣ある狀態を指す、無明𣪊藏の世間は迷界に外ならず。

【四六】 小乘の四聖諦は有量有作の聖諦なり、大乘の四聖諦は無量無作なり、無量無作の聖諦の體は、衆生本具の如來藏なりと闡顯す。

【四七】 作無作は、有爲無爲といふに同じ、現象相の上に四諦を見るは、これ作の四聖諦なり、無爲の一道の上に、自然任運の四諦を觀ずるは、これ無作の四聖諦なり、他に因るは、外界の事相に因るをいふ、

諦の義を說くとは、是れ有量の四聖諦の義を說くなり。何を以ての故に。他に因りて能く一切の苦を知り、一切の集を斷じ、一切の滅を證し、一切の道を修するにはあらず。是の故に世尊、有爲の生死と無爲の生死とあり、涅槃も亦是くの如し、有餘と及び無餘となり。無作の聖諦の義を說くとは、無量の四聖諦の義を說くなり。何を以ての故に。能く自力を以て一切の受苦を知り、一切の受集を斷じ、一切の受滅を證し、一切の受滅の道を修す。是の如きの（四八）八聖諦をもて、如來四聖諦を說き給ふ。是の如きの無作の四聖諦の義は、唯如來應等正覺のみ、事究竟し給へり。阿羅漢、辟支佛は、事究竟するにあらず。何を以ての故に。下中上の法は、涅槃を得るにはあらざればなり。何を以ての故に。如來應等正覺は、無作の四聖諦の義に於て事究竟し給ふ。一切の如來應等正覺は、一切未來の苦を知り、一切の煩惱、上煩惱に攝受せらるる一切の集を斷じ、一切の意生身の陰を滅し、一切の苦滅を作證し給ふを以てなり。世尊、非壞の法なるが故に、名けて苦滅となす。言ふ所の苦滅とは、無始、無作、無起と名づく。無盡なり、離盡なれば常住なり、自性清淨にして、一切の煩惱藏を離れたり。

自力を以てとは自己本具の理上に觀ずるなり、他に因るは一切を究竟して智盡すにあらず、故に有量なり、自力は、一念に一切を具すれば無量なり。

【四八】八聖諦は、作と無作と各四聖諦あるをいふ。

【四九】不離不脫等は、法身、恒沙の煩惱と相纏繞して、一にして二、二にして一なる狀態なるを指す、煩惱に纏繞せられて衆生の中にあり故に如來藏といふ、これ因位なり、如來藏開顯すれば法身といふ、これ果位なり、如來藏を不空とし、法身を空とす、故に如來藏を照破するの智、これ法身を開顯するの智なり、之を如來藏智はこれ如來空智といふ、空智は法身を照すの智なり、畢竟如來藏は、これ如來法身なりと明す。

【八、法身章】 世尊、恒沙に過ぎたる（四九）不離不脫不異不思議の佛法成就するを、如來の法身と名づく。世尊、是くの如きの如來法身は、煩惱藏を離れざるを如來藏と名づく。世尊、如來藏智は、是れ如來空智なり。世尊、如來藏とは、一切の阿羅漢、辟支佛、大力の菩薩の、本見ざるところ、本得ざる所なり。

【九、空義隱覆眞實章】（五〇）世尊、二種の如來藏空智あり。世尊、空如來藏は、若しは離、若しは脫、若しは異、一切煩惱藏なり。世尊、不空如來藏は、恒沙に過ぐる、不離・不脫・不異、不思議の佛法なり。世尊、此の二空智に於て、諸大聲聞、能く如來を信ず、一切の阿羅漢、辟支佛の空智は、四不顚倒の境界に於て轉ず。是の故に、一切の阿羅漢、辟支佛は、本見ざる所、本得ざる所なり。一切の苦滅は、唯佛のみ得證し給ふ、一切の煩惱藏を壞し、一切の滅苦の道を修し給ふ。

【十、一諦章】 世尊、此の（五一）四聖諦は、三は是れ無常、一は是れ常なり。何を以ての故に。三諦は有爲の相に入る、有爲の相に入る者は是れ無常なり、無常なるものは是れ虛妄の法なり、虛妄の法とは諦にあらず、常にあらず、依にあらず、是の故に、苦諦、集諦、道諦は第一義諦にあらず、常にあらず、依にあらず。一の苦滅諦は有爲の相を離る、有爲の相を離るるものは是れ常なり、常なるもの

【五〇】空義は、空、苦、無常、無我等の小乘の敎義を指す、從來小乘の空義等を說いて、衆生本具の如來藏を隱覆して說かざりし理由を明すを此の一章とす

【五一】之を四聖諦と說くも、苦集道の三は無常有爲なり、唯一滅諦のみ、常住無爲なり。一滅諦とは歸する所如來藏なりと示す

は虚妄の法にあらず、虚妄の法にあらざるものは是れ諦なり。是れ常なり、是れ依なり、是の故に、滅諦は是れ第一不思議なり。是の滅諦は一切衆生の心識の所緣に過ぎたり、亦一切の阿羅漢、辟支佛の智慧の境界にもあらず、譬へば生盲の衆色を見ず、七日の嬰兒の日輪を見ざるが如し　苦滅も亦復斯くの如し、一切凡夫心識の所緣にあらず、亦二乘の智慧の境界にもあらず。凡夫の識は（五二）二見顚倒なり、一切阿羅漢、辟支佛智は、則ち是れ清淨なり。邊見とは、凡夫（五三）五受陰に於て、我見妄想計著して二見を生ず、是を邊見と名づく。所謂常見、斷見なり。諸行は無常なりと見るは、是れ斷見にして正見にあらず。涅槃は常なりと見るは、是れ常見にして正見にあらず、妄想見の故に、是くの如きの見を作す。身の諸根に於て分別思惟して、現法の壞するを見、相續あるに於ては見ずして斷見を起す、妄想の見なるが故に。心の相續に於て、愚闇にして解せず、刹那の間の意識の境界を知らずして常見を起す、妄想の見なるが故に。此の妄想の見は、彼の義に於て、若しは過ぎ、若しは及ばずして異想の分別を作す、若しは斷、若しは常なり。顚倒の衆生、五受陰に於て、無常に常想あり、苦に樂想あり、無我に我想あり、不淨に淨想あり。一切の阿羅漢、辟支佛の淨智とは、一切智の境界及び如來の法身に於て本見ざる所なり。或は衆生あり、佛語を信ずるが故に、常想、樂想、我想、淨想を起す。顚倒の見にはあらず、是れを正見

（五二）二見は斷常の二見、下に釋す。

（五三）五受陰は、色受想行識の五なり、色は物質なり、受想の二は心所なり、受想以外の心所等は總べて行陰に攝む識は心王なり。

と名づく。何を以ての故に。如來の法身は是れ常波羅蜜、樂波羅蜜、我波羅蜜、淨波羅蜜なり。佛の法身に於て、此の見を作すものは、是れを正見と名づく。正見の者は是れ佛の眞子なり、佛口より生じ、正法より生じ、法化より生じて法の餘財を得。

【十一、一依章】 世尊、淨智とは、一切阿羅漢、辟支佛の智波羅蜜なり、此の(五四)淨智とは、淨智といふと雖、彼の滅諦に於ては、なほ境界にあらず、況んや四依智をや。何を以ての故に。(五五)三乘の初業は、法に愚ならず、當覺當得なり。彼れがための故に、世尊四依を說き給ふ。世尊、此の四依とは是れ世間の法なり。世尊、一依とは、一切の依の上なり、出世間上上なり、第一義依は所謂滅諦なり。世尊、生死とは、如來藏に依る、如來藏を以ての故に、本際不可知と說く。

【十二、顚倒眞實章】 世尊、如來藏あるが故に生死を說く、是れを善說と名づく。世尊、生死、生死とは諸受根の沒して、次第に根の起ることを受けず、是を生死と名づく。世尊、生死とは、此の二法は是れ如來藏なり、世間言說の故に、死あり生あり、死とは諸根の壞するなり、生とは新に諸

【五四】 見思を斷じ分段を脫す、故に淨智といふ、しかも無作の滅諦に於ては其の境界にあらず、況んや因中の四依智に於てをや、四依智とは、四諦に依りて生ずる智にして、見思を斷ずる因行中の智なり、二乘の果位なほ其の境界にあらず、因中の智之を知るを得ざるは明らかなり。

【五五】 前の一乘章に、三乘の初業は法に愚ならずといふ、故に一乘の外に三乘なし、しかも法に愚ならざるもの、一乘を現覺現得するの意にあらず當覺當得するの謂なるが故、現在に於ては淨智も其の境界にあらずといふなり。無作の一滅諦これ一依なり、一依の一滅諦とはこれ如來藏なり、如來藏、無明の中にありて、

根の起るなり。(五六)如來藏に生あり、死あるにはあらず、如來藏は有爲の相を離る、(五七)如來藏は常住にして不變なり。是の故に如來藏は是れ依たり、是れ持たり、是れ建立たり。世尊、(五八)不離、不斷、不脱、不異、不思議の佛法なり。世尊、斷と脱と異との外の、有爲法の依持建立たるもの是れ如來藏なり。世尊、如來藏なくんば、苦を厭ひ、涅槃を樂求することを得ず。何を以ての故に。此の六識及び(五九)心法の智に於て、此の七法は刹那も住せず。衆苦を種ゑず、苦を厭ひ、涅槃を樂求することを得ず。世尊、如來藏とは、前際なし、起らず、滅せず、法、諸の苦を植ゑ、苦を厭ひ、涅槃を樂求することを得。世尊、如來藏は、我にあらず、衆生にあらず、命にあらず、人にあらず。如來藏とは、

一切世間出世間の根本となることを明す、顚倒は世間なり、眞實は出世間なり。

【五六】前には、生死も、如來藏によりて生ずることを說き、次ぎに如來藏の本體は、生死を離るることを說く。

【五七】如來藏の自體常住にして生死の依となる、これを依たりといふ、此の常住の自性本來具有する所なるが故に修して之を開顯す、本有の義、これ持の意なり、本有の佛性を開顯するによりて、佛の果德を成ず、之を建立となす。

【五八】不離不斷不脱不異不思議の佛法とは淨法なり、斷脱異外の有爲法は染法なり、染淨二法共に如來藏に於て依持建立す、如來藏の體は離すべからず、斷ずべからず、脱すべからず、異すべからず、小乘三乘地外に超越す、故に不思議の佛法といふ、斷脱異外は之に反す、外は如來藏の體と交渉せざるの意なり。

【五九】心法の智とは、普寂律師釋して、六識の上に起る厭欣等の心所となす、若し如來藏心内熏の力によらずんば、六識刹那も住せず、厭欣等の心所の所依となるべからず。

【六〇】虛妄の法を執じて我我所となす、これ身見なり、此の衆生、終に眞實の如來藏を解せず、如來藏の常樂我淨を知らず、唯無常、苦、無我、不淨を執ず、之を顚倒の衆生となす、初發心の菩薩、涅槃と聞いて、法を斷滅して、空涅槃ありと思惟す、之を空亂意の衆生といふ。

【六一】如來藏と最後の自性淸淨藏は、客塵煩惱に覆蔽せらるる上に就いて名づく、法界藏は、此の理開顯すれば、法界

（六〇）身見に墮する衆生と、顚倒の衆生と、空亂意の衆生とは、其の境界にあらず。

【十三、自性淸淨章】 世尊、（六一）如來藏とは、是れ法界藏なり、法身藏なり、出世間上上藏なり、自性淸淨藏なり。此の自性淸淨如來藏、而かも客塵煩惱と上煩惱とに染せらる、不思議の如來の境界なり。何を以ての故に。（六二）刹那の善心は煩惱の所染にあらず。刹那の不善心も亦煩惱の所染にあらず、煩惱は心に觸れず、心は煩惱に觸れず。云何ぞ觸れざる。法而かも能く心を染することを得んや、世尊、然かも煩惱あり、煩惱の心を染することあり。自性淸淨心にして染あること、了知すべきこと難し、唯佛世尊のみ、實眼と實智とをもて、法の根本となり、通達の法となり、正法の依となり、實の如く知見し給ふ。』

勝鬘夫人、是の難解の法を說きて、佛に問ひ奉る時、佛卽ち隨喜し給ひ、『是くの如し、是くの如し、自性淸淨の心にして、而も染汚あることは、了知すべきこと難し。二法ありて了知すべきこと難し。謂はく自性淸淨心は了知すべきこと難し、彼の心、煩惱のために染せらるることも、亦了知すべきこと難し。是くの如きの二法、汝及び大法を成就せる菩薩摩訶薩、

と一にして、天地を方寸に容るるの義なり、法身藏と出世間上上藏とは、共にこれ開顯の上に就いて名づく、之を五藏の義となす。

（六二）如來藏心の本性固より煩惱と遠く相距りて沒交涉なり此の心起る時、善心の得べきなく、不善心の取るべきなし、之を刹那の善心、不善心、煩惱の所染にあらずといふ。實は刹那心に善心、不善心なきなり、此の心起りて相續する時、始めて善心あり、不善心あり、此に於て煩惱に染せらる。

乃ち能く聽受す。諸餘の聲聞は唯佛語を信ず。若し我が弟子、(六三)隨信、信增上の者、明信に依り已りて法智に隨順するものは、而も究竟を得たり。法智に隨順するとは、(六四)根と意解と境界とを觀察し、施設し、業報を觀察し、阿羅漢の眠を觀察し、心自在の樂、禪定の樂を觀察し、阿羅漢と辟支佛と大力の菩薩との聖自在通とを觀察するなり。此の五種の巧便の觀、成就して、我が滅後の未來世の中に於て、若し我が弟子の、隨信、信增上のもの、明信に依りて法智に隨順するものは、自性清淨心、彼の煩惱のために染汚せられて、而も究竟することを得ん。是の究竟は、(六五)大乘の道に入るの因なり。如來を信ずるものは、是くの如きの大利益ありて、深義を謗せず。』

【十四、如來眞子章】　爾の時、勝鬘、佛に白して言さく、

『更に餘の大利益あり、我當さに佛の威神を承けて、復斯の義を說かん。』

佛、言はく、

『便ち說け。』

勝鬘、佛に白して言さく、

【六三】隨信と信增上と隨順法智とを、菩薩の階級に配するに諸說一定せず、太子の疏には信增上を、初地二地三地に配し、隨信を其の方便として地前に配し、隨順法智を四五六地に配す、卽ち隨信と、信增上とを信忍とし、明信は信增上に同じ、此の明信を方便として得たる隨順法智を順忍とす、但しここには、隨信と信增上とを方便として得たる隨順法智を擧ぐるを目的とすと釋せり、究竟を得たりは順忍の究竟にして第七地を指すといふ、八地已上は無生法忍にしてここには擧げずとす。

【六四】根は六根、意解は六識、境は六境にして卽ち十八界なり、業報は因果、阿羅漢の眠は無明住地、心自在は智慧、禪定は定、聖自在通は、神通力なり。

(六六)『三種の善男子善女人、甚深の義に於て自の毀傷を離れ、大功德を生じ、大乘の道に入る。何等をか三となす。謂はく若しくは善男子善女人、自ら甚深の法智を成就すると、若しくは善男子善女人、隨順の法智を成就すると、若しくは善男子善女人、諸の深法に於て、自ら了知せずして、仰いで世尊に推し奉り、我が境界にあらず、唯佛の所知なりといふ、是れを善男子善女人、仰いで如來に推し奉ると名づく。此の諸の善男子善女人を除き已りて、諸の餘の衆生は、諸の深法に於て、妄說に堅著し、正法に違背し、諸の外道の腐敗の種子を習ふものは、當に王力及び天龍鬼神の力を以て之を調伏すべし。』

爾の時、勝鬘、諸の眷屬と佛足を頂禮し奉る。佛言はく、

『善い哉善い哉勝鬘、甚深の法に於て方便守護して、非法を降伏すること善く其の宜しきを得たり。汝已に百千億の佛に親近して能く此の義を說けり。』

【流通文】爾の時、世尊、勝光明を放ちて普く大衆を照し、身、虛空に昇ること高さ七(六七)多羅樹、足虛空を步みて舍衞國に還り給ふ。時に勝鬘夫人、諸の眷屬と合掌して

【六五】大乘の道は八地已上の無生法忍の位を指す、七地以下の信順二忍は大乘の因なり。

【六六】此の章には甚深法智、隨順法智、仰推智の三種の人を擧ぐ、自の毀傷を離るとはこれ仰推智の人、大功德を生ずとはこれ隨順法智の人、大乘の道に入るは、これ甚深法智の人なり、仰推智の人とは、上に擧げたる隨信、信增上にして卽ち信忍なり、隨順法智の順忍なること既に述べしが如し、甚深法智は八地已上の無生法忍なり、今此の三人を總べて擧げて、之を佛の眞實子となし、眞子章の名を加ふ。

【六七】多羅樹は梵語ターラなり、もと樹名、高さ七八十尺、故にこゝに計量に用ふ。

佛に向ひ奉り、觀るに厭足なく目暫くも捨てず。眼の境を過ぎ已りて、踊躍し、歡喜し、各各に如來の功德を稱嘆し奉り、具足して佛を念じ奉り、還りて城中に入り、(六八)友稱王に向ひて大乘を稱嘆す。城中の女人七歲已上は、化するに大乘を以てし、友稱大王も、亦大乘を以て、諸の男子七歲已上のものを化し、國を擧げて人民皆大乘に向ひき。

爾の時、世尊(六九)祇洹林に入り。長老阿難に告げ、及び天帝釋を念じ給ふ。時に應じて帝釋、諸の眷屬と、忽然として至りて佛前に住す。爾の時、世尊、天帝釋及び長老阿難に向ひて、廣く此の經を說き給ふ。說き已りて帝釋に告げて言はく、

『汝、當さに此の經を受持し、讀誦すべし。(七〇)憍尸迦、善男子善女人ありて、恒沙劫に於て菩提行を修し、六波羅蜜を行せん。若し復善男子善女人ありて、聽受し、讀誦し、乃至經卷を執持せんに、福彼れより多からん、何に況んや廣く人の爲めに說くをや。是の故に憍尸迦、當さに此の經を讀誦して、三十三天のために分別し廣說すべし。』

復阿難に告げ給はく、

『汝も亦受持し讀誦して、四衆のために廣く說くべし。』

時に天帝釋、佛に白して言さく、

【六八】友稱王(Mitrayaśas)は勝鬘の夫にして、阿踰闍の國王なること前に述ぶるが如し。

【六九】祇洹林(Jetavana)は舍衞國の祇洹精舍なり、前の給孤獨園に同じ、佛歸還し給ふなり。

【七〇】憍尸迦は、Kauśika にして、帝釋を指す。

『世尊、當さに何んが此の經を名づけ、云何んが奉持し奉るべき。』
佛、帝釋に告げ給はく、
『此の經は、無量無邊の功德を成就せり、一切の聲聞緣覺は、究竟し、觀察し、知見すること能はず。憍尸迦、當さに知るべし、此の經は甚深微妙にして大功德聚なり。今當さに汝が爲めに略して其の名を說かん。諦に聽け、諦に聽け、善く之を思念せよ。』
時に天帝釋及び長老阿難、佛に白して言さく、
『善い哉世尊、唯然り、敎を受けん。』
佛言はく、
『此の經をば歎如來眞實第一義功德といふ、是くの如く受持せよ。不思議大受といふ、是くの如く受持せよ。一切願攝大願といふ、是くの如く受持せよ。說不思議攝受正法といふ、是くの如く受持せよ。說入一乘といふ、是くの如く受持せよ。說無邊聖諦といふ、是くの如く受持せよ。說如來藏といふ、是くの如く受持せよ。說法身といふ、是くの如く受持せよ。說空義隱覆眞實といふ、是くの如く受持せよ。說一諦といふ、是くの如く受持せよ。說常住安隱一依といふ、是くの如く受持せよ。說顚倒眞實といふ、是くの如く受持せよ。說自性淸淨心隱覆といふ、是くの如く受持せよ。說如來眞子といふ、是くの如く受持せよ。說勝鬘夫人師子吼といふ、是くの如く受持せよ。復次ぎに憍尸迦、

此の經の所說、斷一切疑決定了義入一乘道といふ。憍尸迦、今此の說勝鬘夫人師子吼經を以て汝に付囑す、乃至法の住には、受持し、讀誦し、廣く分別して說くべし。』

帝釋、佛に白して言さく、

『善い哉世尊、頂受尊敬せん。』

時に天帝釋、長老阿難、及び諸の大會の天人、阿修羅、乾闥婆等、佛の所說を聞いて歡喜奉行しき。

國譯勝鬘師子吼一乘大方便方廣經　終

後秦三藏法師鳩摩羅什譯

梵網經解題

梵網經の支那に飜譯せられたるもの、若し經錄によれば前後二譯あり、所謂前譯と稱するもの、後漢の康孟詳の出す所にして、經錄には、「梵網經二卷、或三卷」と見えたれども、闕失して今日に傳はらざれば、之を知ること能はず。康孟詳は、後漢末獻帝の時代に支那に歸化したる康居の人にして、支那佛教初期の譯經者なれば、此の點より言へば、梵網經の支那に譯出せられしは頗る古しといふべきものなり。但し近く松本文三郎氏は、此の康孟詳の梵網初譯と傳ふるもの、恐らくは梵網經にあらず、蓋し小乘經中の梵動經を、經錄に誤り傳へたるものならんと言へり。若し此の說に隨ふ時は、此の經唯現存の一譯あるのみ。次ぎに現行の梵網經は卽ち鳩摩羅什の譯にして、本經の卷首、僧肇の手に成れる序文によれば、

弘始三年。淳風東扇、於是詔天竺法師鳩摩羅什、在長安草堂寺、及義學沙門三千餘僧、手執梵文、口翻解釋五十餘部、唯梵網經一百二十卷六十一品、其中菩薩心地品第十、專明菩薩行地、

是時道融、道影三百餘人等、卽受菩薩戒、人各誦此品以爲心首、師徒義合、敬寫一品八十一部、流通於世云云。

とあり、之によつて見れば、梵網經の原本は一百二十卷六十一品の大部のものにして、梵網經は、其の中の一部、菩薩心地品第十の一品を譯出したるものなり。經錄によるに、此の經の譯出は弘始八年にして、僧肇筆受の任に當る。譯本は上下二卷より成り、上卷には專ら十發趣、十長養、十金剛、十地の菩薩の階位について其の一一を說明し、下卷には主として十重禁戒、四十八輕戒の菩薩の戒律を示したり。本書は卽ち專ら此の下卷全部を採りて譯收したり。但し下卷の中に於て、卷首の長行(散文)を除き、「我れ今盧舍那佛」以下を取りて別卷とし、題して菩薩戒本といひ、或は菩薩戒經といふ、天台の智者、華嚴の賢首等釋する所のものは卽ち此の本なり。

賢首大師の疏によれば、

別錄此下卷之中、偈頌已後所說戒相、獨爲一卷、名作梵網經盧舍那佛說菩薩十重四十八輕戒一卷、卷首別標當時受戒羯磨等事、仍云、此羯磨出梵網經律藏品內、盧舍那佛、爲妙海王、及王千子、受菩薩戒法。

と。卽ち本經譯出の初め、下卷を別本とし、卷頭に受戒羯磨の實際の作法を抄出して之を附し、以て大戒授受の便に供せしが、此の作法は、卽ち本經大本の律藏品より抄出せしものといふなり。律藏

品によれば、此の作法たる、盧舍那佛の妙海王、及び王の千子に授戒せし作法にして、釋尊之を盧舍那佛によりて受誦し、以て阿逸多菩薩(彌勒)に傳與し、斯くの如く二十餘人の菩薩遞傳傳受して羅什法師に至りしものなりと傳へたり。

蓋し戒に大乘戒、小乘戒の別あり、小乘戒には薩婆多、摩訶僧祇、四分、五分等幾多の分派あり、支那に傳譯せられしものも、以上四部の外、迦葉遺部、正量部等の律本論釋一二譯出せられたるものあり、而かも實際に於て、受戒羯磨の作法は專ら四分律によりて行はれ、就中南北朝以後は、四分の研究勃然として起り、惠光僧都を始めとし、唐に入りて相部宗の法礪あり、東塔宗の懷素あり、南山宗の道宣あり、互に註疏を製し、釋論を著はし、各主張を異にして相雄視す、世に之を律の三宗と呼べり、然れども後代獨り其の勢を得しものは、實に道宣律師の南山宗なりとす。所謂比丘の二百五十戒、比丘尼の三百四十八戒を具足戒とし、之を止惡の戒とし、授戒、說戒等、別に作善の犍度を說くものは、卽ち是れなりとす。

大乘戒の傳來に至りては、若し康孟詳の梵網初出を言ふ時は、其の起原頗る古きに似たりと雖、其の事頗る疑はし。之より後大乘律のことに關しては、殆んど見るに足るべき述作翻譯のことなし。勿論古くは安世高の法律三昧經より、竺法護、其の弟子の居士聶道眞以下、諸譯宗の手に成れる、大乘律の一部の作法等を傳へし小篇の譯出なかりしにはあらずといへども、未だ之を以て大乘律の傳來弘

布として見ること能はず、而して其のこれあるは、實に羅什譯出の梵網經、及び北涼沮渠氏の世、大涅槃經の譯出を以て有名なる、于闐國の三藏曇無讖に端を發するものとす。曇無の譯する所に、菩薩地持經十卷と、菩薩戒本一卷と、并びに優婆塞經七卷等あり。

蓋し大乘律を說ける聖典中の主要なるものは梵網經、地持經、菩戒經、本業瓔珞經等にして、中に於て地持經は、彌勒菩薩の所說と傳ふる瑜伽師地論中の一部、卽ち本地分中の菩薩地を譯したるものにして、或は菩薩戒經、又菩薩地經とも呼びたれども、既に佛說にあらざるが故、之を菩薩地持論とも呼べり。善戒經には廣略の二本あり、共に劉宋の求那跋摩の譯にして、廣本は九卷(或は十卷)、略本は一卷あり、其の內容は大體に於て、地持經と同一にして、唯序分と、終りに奉行の文ありて、佛說の體を成せる等、少異なきにあらず。古來の學者之を解して、善戒經はこれ佛說なり、彌勒菩薩、親しく佛によりて之を承受し、佛滅後九百年の時、彌勒、兜率天より降來して、在世親聞の律を說く、これ瑜伽、地持なりと。思ふに瑜伽中說戒の一部、抄出別行せしこと既に古く、傳承流布の間に於て、形に多少の變化を生じ、終に佛說として繼承せらるるにも至りしものならん。

瓔珞經には前後三譯あり、第一譯は姚秦の竺佛念譯するところの二卷にして、現行の本是れなり、第二譯は劉宋の智嚴譯一卷、第三譯は同道嚴譯二卷ありといふも、共に今日に存せず、三譯中二缺一存なるものとす。

以上の事實によりて考ふるに、羅什は曇無讖に稍先ちて支那に來りしものなれば、大乘戒初傳の功は、羅什を推さざるを得ず。其の他の大乘律に關する聖典は、皆多少之より後れて譯出せられたり。

梵網經は、斯くの如く、大乘律初傳の聖典として、鳩摩羅什によりて譯出せられたり。然るに其の說相の前後を案ずるに華嚴經と頗る密接の關係あるものに似たり。華嚴經は、其の一部分の抄出譯傳せられたることは頗る古しといへども、其の全部の完譯は、覺賢三藏によりて翻せられたる六十卷本を最初とす。覺賢は羅什と同時の人にして、羅什の長安にあるや、覺賢は南方建康にありて譯業に從事し、華嚴經の譯成りしは、羅什の滅後、實に五年にあり。華嚴經は、世に釋迦佛成道後、直ちに金剛菩提樹下に說かれたる、最初隨自意の法門と稱する所なるが、此の梵網經も亦、

於寂滅道場、坐金剛華光王座、乃至摩醯首羅天宮、其中次第十住處所說。

といへり。寂滅道場とは、即ち佛成道の菩提樹下を指すものにして、本經の終りにも、

從摩醯首羅天王宮、至此道場樹下、十住處說法品。

ともあり、又、

我今在此樹下、略開七佛法戒。

とも言へり。十住處とは、經首にあるが如く、妙光堂、帝釋宮、燄天、兜率天、化樂天、他化天、初禪天、三禪天、二禪天、四禪天なり。釋尊、身菩提道場にあり、更に座を起ちて、此等十所に現じて

法を說き給ふことを示す。然るに華嚴經も亦寂滅道場會の說法の外、欲界の六天に現じて法を說き給ふことを言ふ、華嚴經は七處と明し、本經は十住處と示す、多少の相違ありといへども、決して相類似せずと言ふべからず。これ古來の學者が、本經を以て華嚴經の結經なりと判ずる所以なり。

本經能說の佛、卽ち說主は、華嚴經と同じく盧舍那報身如來なり。此の佛所居の淨土を蓮華藏世界とし、其の形蓮華と同じ。花瓣千葉なり。千葉の一葉ごとに一佛ありて、光華臺上の本佛より影現す、之を千葉の大釋迦となし。一大釋迦の下、一葉ごとに百億の須彌山を中心とせる世界ありて、一世界ごとに、一釋迦また大釋迦より分身影現す。故に一千葉ごとに百億の須彌山、百億の日月、百億の四天下あり。百億の小釋迦、ここに出でて說法して衆生を敎化す、斯くの如く報身盧舍那本佛を中心として、大小二重の釋迦の影現を說く。これ卽ち本經上卷の卷首の文に明す所にして、

　是諸佛子、諦聽善思修行。我已百阿僧祇劫、修二行心地一、以レ之爲レ因、初捨二凡夫一成二等正覺一、爲二盧舍那一住二蓮華臺藏世界海一、其臺周徧有二千葉一、一葉一世界爲二千世界一、我化爲二千釋迦一據二千世界一、後就二一葉世界一復有二百億須彌山、百億日月、百億四天下、百億南閻浮提、百億菩薩釋迦一、坐二百億菩提樹下一、各說二汝所レ問菩提薩埵心地一、其餘九十九釋迦、各各現二千百億釋迦一、亦復如レ是、千葉上佛是吾化身、千百億釋迦。是千釋迦化身。吾以爲二本源一、名爲二盧舍那佛一。

といふもの是なり。

凡そ大乘戒は、其の戒目多しといへども、大に分つ時は攝律儀戒、攝善法戒、攝衆生戒の三を出でず、律儀は止惡門にして、善法は作善門なり、此の二を自利戒とし、衆生戒を以て之を利他戒とし、自利と利他と相備足す、名けて之を三聚淨戒といふ、瓔珞經には、自性戒、受善法戒、利益衆生戒の名あり、善戒經には、戒と、受善法戒と、爲利衆生故行戒を擧ぐ、此等は皆三聚淨戒の異名なり、今梵網經の中、明に三聚の名なしといへども、十重四十八輕、また終に三聚を出でざることを知るべし。故に賢首大師は、十重に各三聚の意あることを述べ、

若從勝爲論、此十戒總是律儀攝、以俱止惡故、二若通辨、皆具三聚、謂於此十中一一不犯律儀攝、修彼對治十罪之行、攝善法攝、謂一慈悲行、二少欲行、三淨梵行、四諦語行、五施明惠行、六護法行、七息惡推善行、八財法俱施行、九忍辱行、十讃三寶行、以此二戒教他衆生、令如自所作、卽爲攝衆生戒、是故十戒一一皆具三聚

と。卽ち十重禁戒も、單に一面より見れば止惡の律儀戒に似たりと雖、止惡の他面には作善の積極の意を含むが故に、攝善法戒たり、此の二を推して、他に教へて倣はしむ、これ攝衆生戒なりといふの意なり。十重既に四聚の意ありとすれば、四十八輕、また必ず三聚の義を含むこと明なり、故に新羅の大賢撰述する所の梵網經古迹記には、四十八輕戒に就いて、

如此諸戒、一一皆具三聚戒義、隨要開合、諸教不定。

といへり。藕益大師は、光明金剛寶戒を釋して、

又炤二一切法一、名爲二光明一、攝善戒也、體是無漏、名爲二金剛一、律儀戒也、濟物利用、名レ之爲レ寶、攝生戒也。

といふ。此の光明金剛寶戒、卽ち梵網の一戒なることは、本文に入りて知るべし。今便宜のため、本經所說の十重四十八輕の名稱を左に列擧し置くべし。其の間に揭ぐるところの品名は、本經大本中、特に此の戒を詳說せりと稱し、本經中に其の品名の擧げられたるものを示すなり、經文と參照して知るべし。

十重禁戒

一、殺戒　二、盜戒　三、婬戒
四、妄語戒　五、酤酒戒　六、說四衆過戒
七、自讚毀他戒　八、慳惜加毀戒　九、瞋心不受悔戒
一〇、謗三寶戒

以上「八萬威儀品」の所明

四十八輕戒

一、不敬師友戒　二、飮酒戒　三、食肉戒

四、食五辛戒　五、不敎悔戒　六、不供給請法戒
七、懈怠不聽法戒　八、背大向小戒　九、不看病戒
一〇、畜殺衆生具戒

以上「心地品」以下の六品の所明

一一、國使戒　一二、販賣戒　一三、謗毀戒
一四、放火燒戒　一五、僻敎戒　一六、爲利倒説戒
一七、恃勢乞求戒　一八、無解作師戒　一九、兩舌戒
二〇、不行放救戒

以上「滅罪品」の所明

二一、瞋打報仇戒　二二、憍慢不請法戒　二三、憍慢僻説戒
二四、不習學佛戒　二五、不善和衆戒　二六、獨受利養戒
二七、受別請戒　二八、別請僧戒　二九、邪命自活戒
三〇、不敬好時戒

以上「制戒品」の所明

三一、不行救贖戒　三二、損害衆生戒　三三、邪業覺觀戒

三四、暫念小乘戒　三五、不發願戒　三六、不發誓戒
三七、冒難遊行戒　三八、乖尊卑次序戒　三九、不修福慧戒
以上「梵壇品」の所明
四〇、揀擇受戒戒　四一、爲利作師戒　四二、爲惡人說戒戒
四三、無慙受施戒　四四、不供養經典戒　四五、不化衆生戒
四六、說法不如法戒　四七、非法制限戒　四八、破法戒

以上の名稱は、姑らく天台によりて擧ぐ。賢首等によれば、多少の相違あるも、固より用語の異同のみ、敢て是非するに及ばざるなり。

なほ此の經の註疏に就いて一言せんに、此の經の解釋書として、最も古きものは梁の惠皎の、梵網經疏三卷にして、これ蓋し、羅什の譯出ありてより、少くとも一百餘年の後なり。之によりて見れば、此の經の討究に就いては、最初未だ一般の大なる注意を惹かざりしものに似たり、蓋し羅什、また薩婆多律の譯に與り、此等小乘律、却つて廣く學者の間に行はれ居たりしものの如し。而して此の經の註疏あるは、寧ろ天台の智者大師の疏ありて以後のことにして、天台の疏は、菩薩戒經義疏と題し、天台之を說き、章安之を記すること三大部等と同じ。之が結果として、天台の學者、多く書を著はして祖述す。また華嚴の賢首大師の梵網經菩薩戒本疏六卷あり、其の他末註の如き、今一一擧ぐるの要

なかるべし。

終りに梵網經の名稱に就いて一言せん。此の經、別錄の本に就くに、或は單に菩薩戒本、若しくは菩薩戒經といふも、原本の本名にはあらず、菩薩の戒を明すが故に、便宜に命じたる所なるべし。譯本は、元來梵網盧舍那佛說菩薩心地品と題し、單に品名を安んじたるに過ぎず。上卷の卷首に、

爾時釋迦牟尼佛、在第四禪地中、摩醯首羅天王宮、與無量天梵天王、不可說不可說菩薩衆、說蓮華臺藏世界盧舍那佛所說心地法門品。

とあり、盧舍那佛・菩薩の心地を說き給へる經なることを示す。菩薩の心地を開顯するに、初發心(十信)、十發趣(十住)、十長養(十行)、十金剛(十回向)、十地の區別ありと雖、畢竟衆生本有の自性に外ならず。之を梵網といふは譬喩なり。經中の文に、

時佛觀諸大梵天王羅網幢、因爲說無量世界猶如網孔、一一世界各各不同別異、無量佛敎門亦復如是。

とあるによりて、其の意を知るべし。佛の敎門無量にして、しかも相障へず、無碍なること、大梵天の羅網の網孔無量にして、しかも相關連したるに比するなり。

なほ本經を上下二卷に分つに、本書收むる所の如く、盧舍那佛、分身流出、轉敎勸說より下卷となすものあり、或は之を以て付囑弘傳の文とし、上卷に收め、釋尊の兜率來入、魔受化經を說くより以

下を下卷となすものあり、或は分本菩薩戒經の如く、偈頌以下を取りて、之を下卷に收め、其の以前を總べて上卷に探り、解釋したるものあり、蓋し學者の所見に隨ふのみ、今明藏本により、姑らく前者に隨ふ。

なほ十重四十八輕戒の一一は、本文について之を標示したりと雖、これ固より經に此の標示あるにあらず、故に本文に分ち、標示の文字は特に之を括弧内に置きたり。且つ異本彼此參照するに、多少文字の異同なきにあらず、此くの如きは、文中括弧を加へて、一本に無く一本に存するものを擧示したり。

譯者　境野黄洋　識

國譯梵網經

爾の時（一）盧舍那佛、此の大衆の爲めに略して百千恒河沙不可說の法門の中の心地を開くこと、毛頭許の如し。是れ過去一切の佛已に說き、未來の佛當さに說くべく、現在の佛今說き、三世の菩薩も已に學し、當さに學すべく、今學す。我れ已に（二）百劫、是の心地を修業し、吾を號して盧舍那と爲す。汝諸の佛子、我が所說を轉じて、一切の衆生のために、心地の道を開け。時に（三）蓮華臺藏世界、（四）赫赫天光師子座上に、（五）盧舍那佛、光光を放ち、千華上の佛に告ぐ、我が心地法門品を持して去り、復轉じて千百億及び一切衆生の爲めに、次第に我が上の心地法

【一】盧舍那（Vairocana）は梵語、譯して淨滿といふ、煩惱盡きて淸淨、衆德圓備するが故に名づく、蓋し報身の佛を指す、梵語の毘盧遮那と同じ、但し支那の學者は、毘盧遮那と盧舍那を區別し、前を法身とし、後を報身とせり。

【二】百劫は、百劫波なり、劫波（Kalpa）は梵語、譯して長時といふ、上卷には「我れ已に百阿僧祇劫、心地を修行して、之を以て因となし云云」とあれば、此の百劫は百阿僧祇劫なり、阿僧祇（Asaṃkhya）また梵語、譯して無數といふ、其の時間の長きこと、計量を越えたるをいふなり。

【三】蓮華臺藏世界は、報身佛所居の淨土なり、其の形蓮華の如く、而かも宇宙を包藏して一切漏すなし、故に蓮華藏といふ、臺は華の中心にあり報佛臺上に居す。

【四】赫赫師子座は、佛の坐し給ふ座なり、師子は智慧の威德を表す

【五】舍那放光のこと、本經上卷の首に、

是時釋迦身放ニ慧光一、所レ照從レ此天王宮、乃至蓮華臺藏世界、其中一切世界、一切衆生、各各相視、歡喜快樂、而未ダ能ハ知ルコトヲ此光ノ光何因何緣ナルヲ、皆生ス疑念ヲ、無量ノ人天亦生ニ疑念一、爾時衆中玄通華光

門品を説き、汝等も受持讀誦し、一心にして行ぜよ。爾の時、千華上の佛、千百億の釋迦、蓮華藏世界の赫赫師子座より起ち、各各に辭退して、擧身に不可思議光を放ち、(六)光光、無量の佛と化し、一時に無量の青黄赤白の花を以て盧舍那佛を供養し、上に説く所の心地法門品を受持し竟り、各各に此の蓮華藏世界より沒し、沒し已りて、(七)體性虚空華光三昧に入り、本源世界の閻浮提菩提樹下に還り、體性虚空華光三昧より出で、出で已りて、方さに(八)金剛千光王座に坐し、及び(九)妙光堂に十世界法門海を説き、復座より起ちて帝釋宮に至り、十住を説き、復座より起ちて燄天中に至り、十行を説き、復座より起ちて第四天の中に至り、十迴向を説き、復座より起ちて化樂天に至り、十禪定を説き、

主菩薩、從大莊嚴華光明三昧起、以佛神力、放金剛白雲色光、光照一切世界、是中一切菩薩、皆來集會、與共同心異口、問此光光爲何等相云云

これ卽ち釋迦の放光、菩薩の放光の二なり、今「盧舍那佛光を放つ」といふもの舍那放光なり、之に就いて藕益智旭の「梵網經合注」の言を左に引かん、

「若しくは本、若しくは迹、若しくは因、若しくは果、智を以て前導と爲さざるはなし、故に始めは則ち釋迦放光發起す、本覺の性を表し、能く始覺に熏ずることを表す、次ぎは則ち菩薩放光衆を集む、始覺の智德、能く本覺を尋ぬることを表す、今は則ち舍那放光囑授す、果より因を起すことを表し、妙に理本を彰はす、卽ち後復釋迦放光戒を誦す、卽ち因果を成ずることを表す云云」

と言へり、「後復釋迦放光」とは此の下の文に、

佛卽口放無量光明

とあり、以て、十重四十八輕を説き給ふ所を指す、故に本經總べて放光の瑞を擧ぐること四回なり、但し放光の文に「盧舍那佛放光光告千華上佛」とあり、之を馴して「盧舍那佛、光を放ち、光千華上の佛に告ぐ」と、光明の千華の大釋迦に告ぐるものと解するあり、或は「盧舍那佛、光光を放ちて、千華上の佛に告ぐ」とし、光光は、多光なりと解したるあり。

【六】光光無量の佛と化すとは智は諸佛の母にして、諸佛皆此の智より出生することを表

復座より起ちて他化天に至り、十地を說き、復一禪中に至り、十金剛を說き、復二禪中に至り、十忍を說き、復三禪中に至り、十願を說き、復四禪中の摩醯首羅天王宮に至り、我が本源蓮華藏世界の盧舍那佛所說の心地法門品を說く、其の餘の千百億の釋迦も亦復是くの如く、二なく別なし、賢劫品の中に說くが如し。

爾の時、釋迦牟尼佛、初め蓮華藏世界に現じてより。(一〇) 東方天宮の中に來入し、魔受化經を說き已りて、南(一一)閻浮提迦夷羅國に下生し、母を摩耶と名づけ、父の字は白淨、吾が名は(一二)悉達、七歲にして出家し、三十にして成道し、吾を號して釋迦牟尼佛と爲す。寂滅道場に於て、金剛華光王座に坐し、乃至摩醯首羅天宮なり、其の中に次第に、十住處所に說く。時に

す、無量の華を以て供養すとは、花は妙因を表す、妙因に一果德より起り、却つて果德を莊嚴することを示す。

【七】體性虛空華光三昧とは、體性虛空は眞如の無礙な意味し、法身の德を表す、體性如虛空の理を證すれば、華光の用自ら外に現ず、華は解脫の德を表し、光は般若の德を表す、卽ち法般解の三德を全うしたる三昧なり、三昧は三摩地と同じ、梵語なり、譯して等持といひ、或は定といふ、禪定なり。

【八】金剛千光王座は、後の文に金剛華光王座とあれば、千光は華光の誤ならんといふ、金剛は法身、華は解脫、光は般若なり、三德祕藏の正法を以て其の座となすことを表す。

【九】妙光堂は、華嚴經の普光明殿なり、帝釋宮は、忉利天の首、華嚴經には忉利天宮會とあり、餘天は夜摩天、以下特に說明する要なし、一一に「座より起ち」とあり、華嚴經には、佛、寂滅道場の座を起たずして、七處八會の說あり、不起の起、起の不起、理自ら同じ、總べて十處十會の法門なり、華嚴經の七處は寂滅道場、普光法堂、忉利天、夜摩天、兜率天、他化自在天、給孤獨園にして、本經の如く六欲の帝釋天以上と四禪天の全部に涉らず、本經は普光堂より、摩醯首羅天宮に至るまで色界の絕頂に達す、總べて十會とす、十世界海は十方佛土の法門を指す、十住以下に明すに及ばず、十禪定とは、出家清淨禪、近善知識清淨禪、阿蘭若處禪、離喧閙禪、身心柔軟禪、智慧寂靜一切智禪、七覺支八聖道禪、[illegible]味

佛、諸大梵天王の羅網幢を見、因りて爲めに、無量の世界は猶ほし網孔の如し、一一の世界は各各不同にして、別異無量なり、佛の教門も亦復是くの如し。吾今此の世界に來ること八千返、此の娑婆世界の爲めに金剛華光王座に坐し、乃至摩醯首羅天王宮にて、是の中の一切の大衆のために、略して心地法門を開き竟れり。復天王宮より、下りて閻浮提菩提樹下に至り、此の地上の一切の衆生、凡夫癡暗の人の爲めに、我が本盧舍那佛心地中の、初發心中に、常に誦する所の一戒、(一三)光明金剛寶戒を說く。是れ一切の佛の本源、佛性の種子なり。一切の衆生は皆佛性あり、一切の意識色心、是れ情、是れ心、皆佛性戒の中に入る。(一四)當當常有の因なるが故に、當當常住の法身なり。是くの如きの十(一五)波

著諸煩惱垢禪、通明清淨禪、內知方便遊戲神通清淨禪なり。其の他、十金剛は、覺了諸法心、化度衆生心、莊嚴世界心、善根廻心、奉事大師心、實證諸法心、廣行忍辱心、長時修行心、自滿足心、令他願滿心なり、十忍は音聲忍、順忍、無生法忍、如幻忍、如焰忍、如夢忍、如響忍、如影忍、如化忍、如空忍なり、十願は、無限善根願、法愛增上願、親近增上願、獲大神通願、自證正智願、令他了解願、攝受正法願、廣利群生願、荷負衆生願、如實修行願なり、此等の一一に就ては詳にする遑なし。

【一〇】東方天宮の中に來入しは前の「體性虛空華光三昧に入り」の一段を承くるものにして、此の三昧に入りて此の娑婆世界に還來し、東方の天宮に來入せしなり。東方の天宮とは、兜率天を指す、此の天より人間に下生し、菩提樹下にて成道し給ふなれば、前には略して、三昧より菩提樹下に還り給ふと說きしなり、「體性虛空三昧に入り、本源世界の閻浮提菩提樹下に還り」と言ひしは、蓮華臺藏世界より忽然菩提樹下に出現せし意にはあらず、摩醯首羅（Maheśvara）は第四禪天の絕頂色究竟天に居る。譯して大自在といふ。前の妙光堂より第三禪天に至る十門說法は、分說にして、大自在天宮の說法は、合說なり。心地法門はもと大自在天宮放光中より發起すること前に述べしが如し。故に他の說法皆之より分流す。

【一一】閻浮提（Jambudvīpa）は梵語、須彌山（Sumeru）を中心として、四方海中に四洲あり、閻浮提は其の南方に在る

羅提木叉、世界に出づ。是の法戒は、是れ三世の一切の衆生、頂戴受持す。吾今當さに此の大衆の爲めに、重ねて十無盡藏戒品を説かん。是れ一切衆生の戒の本源にして、自性淸淨なり。

『我れ今盧舍那、方さに蓮華臺に坐し、周匝せる千華の上に、復千の釋迦を現ず。

一華に百億の國あり、一國に一釋迦あり、各菩提樹に坐し、一時に佛道を成じ給ふ。

是くの如きの千と百億とは、盧舍那を本身とす、千と百億の釋迦と、各微塵の衆を接して、倶に我が所に來至す、我が（一六）佛戒を誦するを聽け、甘露の門卽ち開く。

是の時千と百億と、本道場に還り至りて、各菩提樹に坐す。

我が本師の戒を誦す、十重四十八なり、戒

洲名、卽ち今日吾人所住の處是なり、譯して穢樹といふ、閻浮樹といふ大樹木を中心として洲を成せりと想像せらる。

【一二】悉達は薩婆悉達の略、釋尊の俗名、母を摩耶夫人とし、父を白淨王（又淨飯王）といふ梵名首圖檀那なり、七歳出家の說、他諸經多く之を見ず、また一異說として見るべし。

【一三】光明金剛寶戒には、此の大乘戒を指す、心地の法門、位に依て究明する所差別あるも、皆發心の最初に於て此の戒を受く、卽此の一戒實に成佛の最初の勝因緣たり、暗黑を照破するが故に光明といひ、煩惱を摧破するが故に金剛といひ、一切の功德を含藏するが故に寶といふ、此の戒畢竟衆生本具の戒にして、菩薩心地の戒なり、故に佛の本源、佛性の種子等といふ、本來本有の佛性戒なり。

【一四】當當常有の因は、佛性は法身開顯の、常有の親因たるをいふ、當當は當來を指す、當來一にあらず、何人も何時も、一切の當來を含むが故に當當といふ、此の當當常有の因によりて、開顯せらるる當來の法身の果を、當當常住の法身といふ。

【一五】波羅提木叉（プラティモークシャ Pratimokṣa）は梵語、譯して別解脫といふ、身口等の業を、別別に解脫するの意なり、詳に言へば、波羅提は解脫、木叉は別なり、此の方の語に翻じて別解脫、又は別別解脫とす。

【一六】佛戒を誦す、戒は之を說くと言はずして、必ず誦すといふ、佛の自ら造作する所にあらず、本有の法門なることを示すなり。

【一七】明なる日月の如くは、暗

は（二七）明なる日月の如く、亦瓔珞珠の如し、微塵の菩薩衆、是に由りて正覺を成ず。

是れ盧舍那誦し給ふ、我も亦是くの如く誦す、汝新學の菩薩、頂戴して戒を受持せよ。

是の戒を受持し已りて、轉じて諸の衆生に授けよ。

諦に聽け我れ正さに誦せん、佛法中の戒藏波羅提木叉を。

大衆心に諦に信せよ。汝は是れ當成の佛、我は是れ已成の佛なり。

常に是くの如きの信を作せば、戒品已に具足す、一切の心ある者は、皆應さに佛戒を攝すべし。

衆生、佛戒を受くれば、卽ち（二八）諸佛の位に入る。位、大覺に同うし已れば、眞に是れ諸佛の子なり。大衆皆恭敬して、至心に我誦するを聽け。」

爾の時、釋迦牟尼佛、初めて菩提樹下に坐して、無上正覺を成じ已りて、初めて菩薩の波羅提木叉を結し給ふ。父母、師僧、三寶に孝順せよ、孝順は至道の法なり、孝を名づけて戒となし、亦制止と名づく。佛卽ち口より無量の光明を放ち給ふ。是の時百萬億の大衆、諸の菩薩、（二九）十八梵天、

を破する光明に喩ふ、瓔珞は、寶物なり、貧窮を救ふに足る。戒によりて、衆生を迷妄より拔濟するに比す。

【二八】戒體は、菩薩心地に差別あり、佛地に至りて始めて究明するも、初發心時と其の體異なるに非ず、故に受戒し終れば、戒體諸佛に同じきを、諸佛の位に入るといふ。

【二九】十八梵天　六欲天子は、次にあり、十六大國王は、長阿含經に、央伽、摩竭、迦尸、居薩羅、跋祇、末羅、支提、跋沙、居樓、槃闍羅、阿濕婆、婆蹉、薩羅婆、乾陀羅、劍設沙、阿黎提の名を擧げたり。

【三〇】發心より十地に至る五十位のことは前に述べたり、本經上卷專ら此の十發趣以下の階級を詳にす、これ菩薩心地の差別なり。

六欲天子、十六大國王、合掌して、至心に、佛の一切諸佛の大乘戒を誦し給ふを聽く。佛、諸の菩薩に告げて言はく、我れ今半月半月に、自ら諸佛の法戒を誦す。汝等一切の（二〇）發心の菩薩、乃至十發趣、十長養、十金剛、十地の諸菩薩も亦誦せよ。是の故に（二一）戒光、口より出づ、緣あり、因なきにあらざるが故に、光光、青黄赤白黑にあらず、色にあらず、心にあらず、有にあらず、無にあらず、因果の法にあらず、是れ諸佛の本源、菩薩の道を行ずるの根本、是れ大衆諸佛子の根本なり。是の故に大衆諸佛子、應さに受持すべし、應さに讀誦善學すべし。佛子諦に聽け、若し佛戒を受けんものは、國王王子、百官宰相、比丘比丘尼、（二二）十八梵天、六欲天子、庶民黄門、婬男婬女、奴婢八部、鬼神金剛神、畜生乃至變化の人、但法師の語を解すれば、盡く戒を受得す、皆第一清淨の者と名づく。佛、諸の佛子に告げて言はく、十重の波羅提木叉あり。若し菩薩戒を受けて此の戒を誦せざるものは、菩薩にあらず、佛の種子にあらず、我れも亦是くの如く誦す、一切の菩薩已學し、一切の菩薩當學し、一切の菩薩今學す、已に略して菩薩の波羅提木叉の相貌を說く、應當に敬心に奉持すべし。

【一、殺生戒】（佛言はく）佛子、若し自ら殺し、人を教へて殺さしめ、方便

【二一】戒によりて煩惱の闇を破す、故に戒光といふ、佛今戒を說き給はんとす、戒光口より出づる所以なり、衆生本有の戒體を當當の因とし、佛の說戒を緣として、法身自ら開顯す、之を緣あり、因なきにあらずといふ

【二二】十八梵天は、色界四禪天に、總べて十八天あり、今之を指す、六欲天子は、欲界の天部四天王、忉利天、夜摩天、兜率天、化樂天 他化自在天なり、八部は天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦樓羅、緊那羅、

して殺し、讃嘆して殺し、作すを見て隨喜し、乃至咒殺せば、(二三)殺の因、殺の緣、殺の法、殺の業あり、乃至一切有命の命は、故らに殺すことを得ざれ。是の菩薩は、應さに常住の慈悲心、孝順心を起して、方便して一切衆生を救護すべし、而も反て自ら心を恣にし、意を快うして殺生せば、是れ菩薩の(二四)波羅夷罪なり。

【二、盜戒】若佛子、自ら盜し、人を敎へて盜せしめ、方便して盜し、(讃嘆して盜せしめ、作すを見て隨喜し、乃至)咒して盜せば、盜の因、盜の緣、盜の法、盜の業あり、乃至(二五)鬼神有主の物、劫賊の物、一切の財物、一針一草も、故らに盜することを得ざれ。而も菩薩は、應さに佛性の孝順心、慈悲心を生じて、常に一切人を助けて、福を生じ、樂を生ぜしむべし。而も反て更に人の財物を盜せば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【三、婬戒】若佛子、自ら婬し、人を敎へて婬せしめ、乃至一切の女人、故らに婬することを得ざれ。婬の因、婬の緣、婬の業あり、乃至畜生の女、諸天鬼神の女、及び非道に婬を行ぜんや。而も菩薩は、應さに孝順心を生じて、一切衆生を救度し、淨法を人に與ふべし。而も反て更に一切の人の婬を起さしめ、畜生を擇ばず、乃至母女、姉妹、六親に婬を行じて慈悲心なけ

摩睺羅伽にして、佛法の守護神と思惟せらる

【二三】殺さんとする心を殺因とし、刀杖等の具を緣とし、殺害の方便手段を法とし、正しく命根を斷ずるを殺業とす。

【二四】波羅夷(Pārājika)は梵語、譯して斷頭といふ、斬罪なり、佛法の中に於て、出家として生命を斷じ、衆中より擯斥す、之を最重罪とす。

【二五】鬼神有主の物は神廟等の物、有主は所有主あるなり、既に神廟に納む、神物なればなり、劫賊の物は、假令賊の物といへども、之を盜することを許さざるなり。

れば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【四、妄語戒】若佛子、自ら妄語し、人を教へて妄語せしめ、方便して妄語せば、妄語の因、妄語の緣、妄語の法、妄語の業あり。乃至見ざるを見たりと言ひ、見たるを見ずと言ひ、身心に妄語す。而も菩薩は、常に正語、正見を生じ、亦一切衆生の正語、正見を生ぜしむべし。而も反て更に一切衆生の邪語、邪見、邪業を起さしめば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【五、酤酒戒】（二六）若佛子、自ら酤酒し、人を教へて酤酒せしめば、酤酒の因、酤酒の緣、酤酒の法、酤酒の業あり、一切の酒は酤ることを得ざれ、是れ酒は罪を起す因緣なり。而も菩薩は、應さに一切衆生の明達の慧を生ぜしむべし。而も反て更に一切衆生の顛倒の心を生ぜしめば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【二六】飲酒は輕垢罪なれ共、酤酒戒は波羅夷罪とす、菩薩は利他を本とす、他の心を昏迷せしむるの罪は、自ら飲みて昏迷するの罪に過ぐ。

【二七】四衆とは出家の比丘比丘尼、在家の優婆夷優婆塞。

【六、說四衆過戒】（二七）若佛子、自ら出家在家の菩薩、比丘比丘尼の罪過を說き、人を教へて罪過を說かしめば、罪過の因、罪過の緣、罪過の法、罪過の業あり。而も菩薩は、外道惡人、及び二乘惡人の、佛法の中の非法非律を說くを聞いては、常に慈心を生じて、是の惡人の輩を教化して、大乘の善信を生ぜしむべし。而も反て更に自ら佛法の中の罪過を說かば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【七、自讚毀他戒】若佛子、自讚毀他し、亦人を教へて自讚毀他せしめば、毀他の因、毀他の緣、毀

他の法、毀他の業あり。而も菩薩は、應さに一切の衆生に代りて毀辱を加ふるを受け、惡事は自ら己れに向ひ、好事は他人に與ふべし。若し自ら己れが德を揚げ、他人の好事を隱し、他人をして毀を受けしめば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【八、**慳惜加毀戒**】若佛子、自ら慳し、人を敎へて慳せしめば、慳の因、慳の緣、慳の法、慳の業あり。而も菩薩は、一切の貧窮の人の來り乞はん者を見ては、前人の須むる所に隨ひて、一切給與すべし。而も菩薩は、惡心、瞋心を以て、乃至一錢一針一草をも施さず、法を求むるものあらんに、爲めに一句一偈一微塵許りの法をも說かずして、而も反て更に罵辱せば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【九、**瞋心不受悔戒**】若佛子、自ら瞋り、人を敎へて瞋らしめば、瞋の因、瞋の緣、瞋の法、瞋の業あり。而も菩薩は、應さに一切衆生の中の、善根無諍の事を生ぜしめ、常に慈悲心、孝順心を生ずべし。而も反て更に一切衆生の中に於て、乃至非衆生の中に於て、惡口を以て罵辱し、加ふるに手打及以刀杖を以てし、意猶ほ息まず、前人悔を求め、善言にて懺謝するに、猶ほ瞋りて解けずんば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。

【十、**謗三寶戒**】若佛子、自ら三寶を謗じ、人を敎へて三寶を謗ぜしめば、謗の因、謗の緣、謗の法、謗の業あり。而も菩薩は、外道及以惡人の、一言も、佛を謗ずる音聲を見ては、三百の鉾、心を刺すが如くなるべし。況んや口に自ら謗じて、信心、孝順心を生ぜざらんや。而も反て惡人、邪見の人

助けて謗せしめば、是れ菩薩の波羅夷罪なり。(二八)

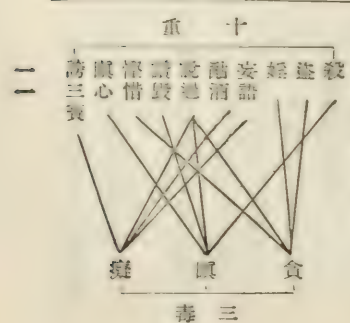
善學の諸の仁者、是れ菩薩の波羅提木叉なり、應當に學すべし。中に於て一一に犯ずること、微塵許りの如くもすべからず、何に況んや具足して十戒を犯せんをや。若し犯ずることある者は、現身に菩提心を發することを得ず、亦國王の位、轉輪王の位を失ひ、亦比丘、比丘尼の位を失ひ、亦十發趣、十長養、十金剛、十地、佛性常住の妙果を失ふ、一切皆失つて三惡道の中に墮し、二劫三劫、父母三寶の名字をも聞かず、是を以て一一に犯ずべからず。汝等一切の諸菩薩、今學し、當さに學すべく、已に學す、是の(如く)十戒、應當に學して敬心に奉持すべし。八萬威儀品に、當さに廣く明すべし。

佛、諸の菩薩に告げて言はく、已に十波羅提木叉を說き竟んぬ。四十八輕を、今當さに說くべし。

【一、不輕師友戒】 若佛子、國王の位を受けんと欲する時、轉輪王の位を受くる時、百官の位を受くる時、應に先づ菩薩戒を受くべし。一切の鬼神は、王の身、百官の身を救護し、諸佛は歡喜し給ふ。既に戒を得已らば、

【二八】 以上十重戒の中、殺戒、自讚毀他戒、瞋心不受悔戒の三は瞋心を制す、瞋心、外に現はれて、三業となる、これ此の三業なり。盜婬慳の三は貪心を制す、盜と慳とは財に對する貪、盜は他物を望み、慳は自物を慳む、自他異なり、婬は色に對する貪なり、妄語と酤酒及び謗三は癡を制す、酒は癡の因たり 妄語、謗三は癡の果たり、因果を異にす、說過戒は三に通ず、斯くの如く、十戒は畢竟貪瞋癡の三毒を對治するを旨とす。

十重：殺　盜　婬　妄語　酤酒　說過　讚毀　慳惜　瞋心　謗三寶

三毒：貪　瞋　癡

孝順心、恭敬心を生ずべし。(二九)上座、和尚、阿闍梨、大德、同學、同見、同行の者を見ては、應さに起ちて承迎し、禮拜し、問訊すべし。而も菩薩反て憍心、慢心、癡心、瞋心を生じて、起ちて承迎、禮拜、問訊せず、一一に如法に供養せず、自ら身と國城と男女とを賣れる(三〇)七寶百物を以て之を供給すべし。若し爾らずんば輕垢罪を犯す。

【二、飲酒戒】若佛子、故らに酒を飲まんか、而も酒は過失を生ずること無量なり。若し自身、手づから酒器を(三一)過たして人に與へて酒を飲ましむるものすら、五百世手無し、何に況んや自ら飲むをや。亦一切の人を敎へて飲ましめ、及び一切衆生に酒を飲ましむることを得ざれ、況んや自ら酒を飲まんをや、一切の酒は飲むことを得ざれ、若し故らに自ら飲み、人を敎へて飲ましめば、輕垢罪を犯す。

【三、食肉戒】若佛子、故らに肉を食せんか、一切の肉は食することを得ざれ、夫れ肉を食するものは、大慈悲の佛性の種子を斷つ、一切衆生、見て而かも捨て去る。是の故に一切の菩薩は、一切の衆生の肉を食することを得ざれ、肉を食すれば、無量の罪を得ん、若し故らに食すれば輕垢罪を

但し詳細に言はば、十戒皆三毒に通ずべし、今は大體上より言ふなり。

【二九】 上座(Sthavira)は僧衆中の上首として統轄の任を帶ぶる者、和尚は梵の鄔波陀那(Upādhyāya)譯して力生といひ、和尚は于闐の語なりといふ、力生は、其の力、能く受戒者の法身を生長せしむるの義なり、受戒の時の敎授師をいふ、阿闍梨は梵語 Acārya 軌範師と譯す、戒師なり。

【三〇】 七寶は金、銀、瑠璃、頗黎、硨磲、赤珠、瑪瑙なり、なほ異說あれども、要するに高價貴重の寶物なり。

【三一】 過は度なりとあり、杯を取り次ぐ意なり、五百世手なしとは、手なきは畜生なり、畜生に轉生するの意、酒は人をして昏迷愚癡ならしめ、智慧の光を滅す、無智愚癡の畜

犯す。

【四、食五辛戒】若佛子、五辛を食することを得ざれ、（三二）大蒜、茖葱（革葱）、慈葱、蘭葱、興渠（興蕖）なり、是の五辛（五種）は、一切の食の中に食することを得ざれ、若し故らに食するものは輕垢罪を犯す。

【五、不敎悔戒】若佛子、一切衆生の、（三三）八戒、五戒、十戒を犯し、禁を毀り、（三四）七逆八難、一切の犯戒の罪を見ては、應さに敎へて懺悔せしむべし。而も菩薩敎へて懺悔せしめず、同じく住し、僧の利養を同じくし、而も共に（三五）布薩し、（同）一衆に（住し）說戒して而も其の罪を擧げず、敎へて悔過せしめずんば、輕垢罪を犯す。

【六、不供給請法戒】若佛子、大乘の法師、大

生に轉生すと稱せらるる所以なり。

【三二】大蒜はオホヒル、俗にロクタウといふと、茖葱はノビル、慈葱はヒトモジ、蘭葱はニンニク、興渠は一說にクレノハジカミ、一說支那日本に此の物なしと、蓋し梵語 Hiṅgu（ヒング）樹汁を凝結せしめ、削りて食物に和し、今も印度人多く之を用ふ、臭氣最も甚し。

【三三】殺盗婬妄の四に飮酒戒を加へて五戒とし、之に香油塗身戒、歌舞觀聽戒、高廣大牀戒、非時食戒を加へて八戒といふ、詳に言へば八齋戒にして、八戒に非時食の一齋を加ふ、之に捉金銀寶戒を加へて之を十戒とす、五戒は在俗の戒、十戒は沙彌の戒、八戒は在俗の人、一日一夜を限り持つ所の出家の戒なり、以上は普通に說く小乘に五八十戒なり、大乘の五八十は、多少之に異なり、菩薩の五戒は善生經に出づ、菩薩の八戒は文殊問經に出づ、菩薩の十戒は本經の十重戒なりと賢首の疏に言へり、天台の釋には、大乘の八戒は、地持の八重といへり。

【三四】七逆は下にあり、第四十揀擇受戒戒の下を見よ、八難は、地獄、畜生、餓鬼、盲聾瘖瘂、諸根不具、生邪見家、世智辯聰、佛前佛後、北洲、無想天等に受生することなり、北洲は、須彌の北、閻浮提と反對の海中にあり、四洲中の一なり、此の洲のもの佛法に遇ふこと能はずと說かる、無想天は、色界天中の一天、此の天に生るるもの、また佛敎に入らず。

【三五】布薩（Upavasatha）（ウパヴサタ）は梵語、淨住と譯す、半月每に僧衆集

乘の同學、同見、同行の、僧房、舍宅、城邑に來入し、若しは百里、千里より來るを見ば、卽ち起ちて來るを迎へ、去るを送り、禮拜供養すべし。日日三時に供養し、日に（三六）三兩の金を食せしめ、百味の飲食、（醫藥）牀座もて法師に供事せよ、一切の所須、盡く之を給與すべし。常に法師を請じて三時に法を說かしめ、日日三時に禮拜し、瞋心、患惱の心を生ぜざれ。法の爲めに身を滅するも、法を請じて懈らざれ。若し爾らずんば輕垢罪を犯す。

【七、懈怠不聽法戒】若佛子、一切の處に、法（三七）毗尼經律を講ずることあり、大宅舍の中に、講法の處（有らん）、是の新學の菩薩は、應さに經律の卷を持じて、法師の所に至りて聽受諮問すべし。若しは山林樹下、僧地房中、一切の說法の處、悉く至りて聽受すべし。若し彼れに至りて聽受（諮問）せずんば、輕垢罪を犯す。

【八、背大向小戒】若佛子、心大乘常住の經律に背いて、佛說にあらずと言つて、二乘聲聞、外道の惡見の一切の禁戒、邪見の經律を受持せんものは、輕垢罪を犯す。

【九、不看病戒】若佛子、一切の疾病の人を見ては、常に應さに供養せんこと、佛の如くにして異なることなかるべし、（三八）八福田の中には、看病福田、是れ第一の福田なり。若し父母師僧弟子の病、諸

まりて、半月間に犯せる罪を懺悔する儀式なり。

【三六】三兩の金を食せしむは三兩に値する食物を供する意。

【三七】毘尼（Vinaya）は梵語、毘奈耶に同じ、譯して律といふ、法と毘尼に、經と律といふに同じ、法は經なり、今語を重ねて言ふのみ。

【三八】八福田は曠路義井、建造橋梁、平治險隘、孝養父母、恭敬三寶、給事病人、救濟貧窮、設無遮會にして、看病福田は、第六給事病人に同じ、

根不具にして百種の病苦惱あらば、皆供養して差えしめよ。而も菩薩瞋恨の心を以て看ず、乃至僧房(の中)、城邑曠野山林道路の中にして、病を見て救濟せずんば、輕垢罪を犯す。

【十、畜殺衆生具戒】 若佛子、一切の刀杖弓箭、鉾斧鬪戰の具を畜ふることを得ざれ。及び惡羅網(惡網羅罟)殺生の器、一切畜ふることを得ざれ。而も菩薩は、乃至父母を殺すすら尚ほ報を加へず、況んや一切衆生を殺すをや、衆生を殺す具を畜ふることを得ざれ。若し故らに畜へば輕垢罪を犯す。

是くの如きの十戒、應當に敬心に奉持すべし。下の六品の中に廣く明す。

【十一、國使戒】 若佛子、利養惡心の爲めの故に、國の使命を通じ、軍陣に合會し、師を興して相伐ち、無量の衆生を殺さしむることを得ざれ。而も菩薩は、尚ほ軍中に入りて往來することを得ず、況んや故らに國賊と作らんをや。若し故らに作らば輕垢罪を犯す。

【十二、販賣戒】 若佛子、故らに良人、奴婢、六畜を販賣し、棺材の板木、死を盛るの具を市易すること、尚ほ自ら作すべからず、況んや人をして作さしむるをや。若し故らに自ら作し、人を敎へて作さしめば、輕垢罪を犯す。

【十三、謗毀戒】 若佛子、惡心を以ての故に、事なきに他の良人善人、法師師僧、國王貴人を謗りて、七逆十重を犯すと言はん。父母兄弟〔三九〕六親の中に於ては、孝順心、慈悲心を生ずべし。而も反て更に逆害を加へて、不如意處に墮せしめば、輕垢

【三九】六親は、父母兄弟妻子なり。

罪を犯す。

【十四、放火燒戒】若佛子、惡心を以ての故に、大火を放ちて山林曠野を燒くこと（四〇）四月より乃し九月に至る、若し他人の家、屋宅城邑、僧房田木、及び鬼神官物を燒かん。一切の（四一）有主（有生）の物は、故らに燒くことを得ざれ。若し故らに燒かば輕垢罪を犯す。

【十五、僻教戒】若佛子、佛弟子より外道惡人、六親、一切の善智識に及ぶまで、應さに一一に敎へて大乘の經律を受持（授持）せしむべし。敎へて（應さに）義理を解せしめ、菩提心、十發趣心、十長養心、十金剛心を發し、三十心の中に於て、一一に其の次第法用を解せしむべし。而も菩薩、惡心瞋心を以て、横に二乘聲聞の經律、外道の邪見の論等を敎へば、輕垢罪を犯す。

【十六、爲利倒說戒】若佛子、應さに好心をもて、先づ大乘威儀の經律を學して、廣く義味を開解すべし。後新學の菩薩、百里千里より來りて、大乘の經律を求むるあらんを見ては、應さに如法に爲めに一切の（四二）苦行を說き、若しは身を燒き、臂を燒き、指を燒かしむべし。若し身臂指を燒いて諸佛を供養せずんば、出家の菩薩にあらず、乃至餓

【四〇】四月より九月に至る間は蟲類發生の節に當る、卽ち雨期の前後を含む、雨期は五月より八月なり。

【四一】有主物は誤れり、有生物正しといふ說あり、四月より九月と限るは、有生物を保護する意なり、有主物を燒却するを禁ずるに、何ぞ四月より九月と限るべけんと、蓋し理あるに似たり。

【四二】苦行を說いて、身肉一切を捨てて、顧慮する所なからしむるは、其の心を固うし、然る後に正法を說いて、開解せしむるなり。

ゑたる虎狼師子、一切の餓鬼に、悉く應さに身肉手足を捨てて之を供養せしむべし。然る後に一一に次第に爲めに正法を說いて、心開け意に解せしめよ。而も菩薩、利養の爲めの故に、(名聞の爲めの故に)應さに答ふべきを答へず、倒に經律を說いて、文字前なく後なく、三寶を謗じて說かば、輕垢罪を犯す。

【十七、恃勢乞求戒】若佛子、自ら飲食錢財、利養名譽の爲めの故に、國王王子、大臣百官に親近して、恃んで形勢を作して、(四三)乞索し、打拍し、牽挽して橫に錢財(錢物)を取り、一切利を求むるを名づけて惡求多求となす。他人に敎へて求めしめ、都べて慈心なく、孝順心なくんば、輕垢罪を犯す。

【十八、無解作師戒】若佛子、(戒を學誦せんものは、日日六時に)應さに(四四)十二部經を學し、戒を誦し、日日六時に(一本此の語前にあり、ここになし)、菩薩戒を持ちて、其の義理佛性の性を解すべし。而かも菩薩、一句一偈、及び持律の因緣を解せずして、詐つて能く解すと言ふものは、卽ち自ら欺誑し、亦他人を欺誑すとなす。一一に解せず、一切の法を知らずして、而も他人の爲めに師と作つて戒を授け(受けしめ)ば、輕垢罪を犯す。

【四三】乞索して與へざれば、打拍して拍を以て之に逼り、打拍して應ぜざれば、牽挽して奪ふなり、打拍は、打つこと、牽挽は引きずり廻はすこと。

【四四】十二部經とは、佛所說の經の全體を云ふ。故に單に經といふに同じ。之を十二部といふは、佛所說の經に十二種の說法の形式あり、故に經を十二部經と呼ぶなり、十二種の形式とは、長行(散文)、重頌(長行所說の義を重ねて韻文にて說く)、授記、孤起(韻文)、無問自說(問者を俟たずして佛自ら說く)、因緣、譬喩、本事(菩薩の過去譚)、本生(佛の過去譚)、方廣、未曾有、論議なり。

【十九、兩舌戒】若佛子、惡心を以ての故に、持戒の比丘、手に香爐を捉りて菩薩の行を行ずるを見て、(四五)過を兩頭に鬪はしめ、(兩頭を鬪構し)賢人を謗欺し、惡として造らずといふことなしといふ者は、輕垢罪を犯す。

【二十、不行放救戒】若佛子、慈心を故ての故に放生の業を行ぜよ。應さに是の念を作すべし、一切の男子は、是れ我が父、一切の女人は、是れ我が母なり。我れ生生に、之に從つて生を受けずといふことなし、故に六道の衆生は、皆我が父母なり、而も殺し、而も食せば、卽ち我が父母を殺し、我が故身を殺すなり。一切の地水は是れ我が先身、一切の火風は是れ我が本體なり。故に常に放生(の業)を行じ、生生に生を受けし(むるを常住の法とし、人を敎へて放生せし)めよ。若し世人の畜生を殺すを見ん時は、應さに方便して救護し、其の苦難を解くべし。常に敎化して菩薩戒を講說し、衆生を救度せよ。若し父母兄弟死亡の日は、應さに法師を請じて、菩薩戒經律を講じ、福をもて、亡者を資け、諸佛を見ることを得、人と天上とに生せしむべし。若し爾らずんば輕垢罪を犯す。

是くの如きの十戒、應當に敬心に奉持すべし、滅罪品の中に、廣く一一の戒相を明すが如し。

【二十一、瞋打報仇戒】佛言はく、佛子、(若佛子)瞋を以て瞋に報じ、打を以て打に報ずることを得ざれ。若し父母兄弟六親を殺すとも、報を加ふることを得ざれ。若し國主、他人の爲に殺さるとも、亦

【四五】彼此兩人の過を聞き、其の間に立ちて、兩者の過を相互に說き、以て相爭はしむるを、過を兩頭に鬪はしむといふ。

報を加ふることを得ざれ。生を殺して生に報ずるは、孝道に順ぜず。尚ほ奴婢を畜へて打拍罵辱せず。日日に三業を起す、罪を得ること無量なり、況んや故らに七逆の罪を作らんをや。而も出家の菩薩、慈心無くして讎を報じ、(報讎し)乃至六親の中に、故らに報を作さば、(報せば)輕垢罪を犯す。

【二十二、憍慢不請法戒】 若佛子、初始めて出家して、未だ所解あらざるに、而も自ら聰明有智を恃み、或は(四六)高貴年宿を恃み、或は大姓高門、大解(大福)大富、饒財七寶を恃み、此れを以て憍慢して先學の法師に經律を諮受せず、其の法師とは、少姓年少、卑門貧窮、下賤、諸根不具なり、而も實に德ありて一切の經律盡く解す。而も新學の菩薩、法師の種姓を見ることを得ざれ。而も來つて法師に第一義諦を諮受せずんば、輕垢罪を犯す。

【二十三、憍慢僻說戒】 若佛子、佛滅度の後、好心を以て菩薩戒を受けんと欲する時は、佛菩薩の形像の前に於て、自ら誓つて戒を受けよ、當さに七日(を以て)佛前に懺悔すべし。(四七)好相を見ることを得ば、便ち戒を受くることを得ん。若し好相を得ざる時は、(得ずんば)二七、三七、乃至一年にも、要ず好相を得べし。好相を得已りて、便ち佛菩薩の形像の前にして受戒することを得。若し好相を得ずんば、佛像の前にして受戒すと雖、得戒(と名づけず)せず。若し現前、先きに菩薩戒を受けし法師の前にして受戒すれば、(する時は)要ず好相を

【四六】 高貴は位階爵祿等、年宿は年齡、大姓は姓種(婆羅門、刹帝利等)、高門は門閥、大解は學問智識、大富等は財產。

【四七】 好相とは、佛出現して摩頂し給ふ等の瑞相あるなり、後の第四十一、爲利作師戒を見よ。

見ることを須ひず。何を以ての故に。是の法師は、師師相授くる故に好相を須ひず。是を以て、法師の前にして戒を受くれば即ち得戒す。至重の心を生ずるを以ての故に便ち得戒す。若し千里の内に、能く戒を授くる師なくんば、佛菩薩の形像の前にして、自ら誓つて戒を受くることを得。而も要ず好相を見るべし。若し法師自ら經律大乘の學戒を解すると、國王太子百官のために、以て善友たるとに倚りて、而も新學の菩薩、來りて若しくは經の義、若しくは律の義を問はんに、輕心、惡心、慢心にして、一一に好く問に答へずんば、輕垢罪を犯す。

【二十四、不習學佛戒】 若佛子、佛の經律、大乘の法、(四八)正見、正性、正法身あらんに、而かも勤學し、修習すること能はず、而も(四九)七寶を捨てて、反つて邪見の二乘、外道の俗典と(五〇)阿毘曇の雜論と、一切の書記とを學せば、是れ佛性を斷つ、障道の因緣なり、菩薩の道を行ずる(者)にあらず。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

【二十五、不善和衆戒】 若佛子、佛の滅度の後、說法の主となり、(行法の主となり)、僧房の主(となり)、(教化の主)坐禪の主、(五一)行來の主とならんに、應さに慈心を生じて、善く鬪諍を和し、善く三寶物を守りて、度なく用ふることと、自己の有の如くすることなかるべし。

【四八】正見は、見解の正しきなり、正性は、衆生本有の佛性なり、正法身は、佛性の開顯せるなり、故に正性を因とし、正法身を果とす。

【四九】七寶は、大乘の尊貴に喩ふ。

【五〇】阿毘曇(Abhidharma)は、阿毘達磨に同じ、梵語、譯して對法といふ、小乘教を指す、雜論は、外道、小乘の諸論を概稱す、其の他一切此等の記述を、一切の書記といふ。

【五一】行來の主は、徒衆を統率して、諸方を巡遊修行する者の意。

而も反て衆を亂して鬪諍せしめ、心を恣にして（五二）三寶物を用ひば、輕垢罪を犯す。

【二十六、獨受利養戒】若佛子、先きに僧坊の中に在りて住し、後に客菩薩比丘の、僧坊、舍宅、城邑、若しくは國王の宅舍の中、乃至（五三）夏坐安居の處、及び大會の中に來入せんと見ば、先住の僧、應さに來るを迎へ、去るを送り、飮食供養し、房舍臥具、繩床木床、事事に給與すべし。若し物なくんば、應さに自身及び男女の身を賣るべし、（應さに）自の身肉を割いて賣りて供給し、所須、悉く以て之に與ふべし。若し檀越ありて來りて衆僧を請せば、（客僧に）利養の分あらしめよ、僧坊の主、應さに次第に客僧を差して請を受けしむべし。而も先住の僧、獨り請を受けて客僧を差さずんば、僧坊の主、無量の罪を得、畜生と異なることなし、沙門にあらず、釋種姓にあらず。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

【二十七、受別請戒】若佛子、一切、（五四）別請を受けて利養を己れに入るることを得ざれ。而も此の利養は十方僧に屬す、而も別に請を受くるは、卽ち（是れ）十方僧の物を取りて己れに入るるなり。（及び）（五五）八福田の中の、

【五二】僧衆の中、事務を分擔する者を知事（下の第二十八戒に出づ）といひ、十誦律によるに知事僧に十四の區別ありといふ、今此等知事僧を戒め、三寶物の處置不公平等より、僧衆の和合を害せざらしむ。

【五三】夏坐安居は、雨期は五月より八月にして、此の間僧侶は總べて外出せず、一處に集まりて修行す、之を安居といひ、また雨安居、夏安居ともいふ、一夏九十日間、故にまた夏座といふ。

【五四】僧衆の中にて、獨り特殊の請を受けて檀越の施物を取るをいふ、檀越の請を受けて之に趣くには自ら順次あり、知事僧之が差遣の任に當る、賢首の疏には、若し別請を受くれば一壞如來僧次之法、二損施主無限之福、三累自身、

諸佛聖人、一一の師僧、父母病人の物を、自己に用ふるが故に、輕垢罪を犯す。

【二十八、別請僧戒】 若佛子、出家の菩薩、在家の菩薩、及び一切の檀越ありて、僧の福田を請じて願を求めん時は、應さに僧坊に入りて知事の人に問ふべし、今僧を請じて願を求めんと欲すと。知事報へて言へ、(五六)次第に請せば、卽ち十方賢聖の僧を得ん。而も世人、別に五百の羅漢菩薩僧を請ずるは、僧次の一りの凡夫僧に如かず。若し別に僧を請せば、是れ外道の法なり、(五七)七佛に別請の法なし、孝道に順せず。若し故らに僧を請せば、輕垢罪を犯す。

【二十九、邪命自活戒】 若佛子、惡心を以ての故に、利養の爲めに、(五八)男女の色を販賣し、自ら手づから食を作り、自ら磨り、自ら舂つき、男女を占相し夢の吉凶、是れ男、是れ女を解し、咒術し、工巧し、調鷹(調醫)の方法をなし、百種の毒藥、千種の毒藥、蛇毒、生金銀(毒)、蠱毒を和合せば、都べて慈愍心なく、孝順心なし。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

【三十、不敬好時戒】 若佛子、惡心を以て、自身に三寶に傍ひ(を謗り)、

取ニ此不レ應レ取物一といへり。

【五五】 八福田とは、一佛、二聖人、三和尙、四阿闍梨、五僧、六父、七母、八病人なり、此の八を福田となす、前に擧げし八福田とは異なる。

【五六】 次第によりて一凡僧を請ずるは、なほ賢聖の僧を請ずるに勝る。請ずる心に簡別なければ、凡聖何れを請ずるも功德は一なり、凡聖無別福田なれば、凡を請ずるも賢聖に同じ。なほ一掬の水を飮むも、大海の水たるに於て異なるなきが如し。之れを次第に請ぜば、卽ち十方賢聖の僧を得んといふなり。十方の賢聖皆一凡僧を請ずる無簡別の心に、其の平等の功德を生ず。

【五七】 七佛は毗婆尸佛 (Vipaśyin)、尸棄佛(Śikhi)、毗舍浮佛 (Viśvabhū)、拘留孫佛 (Krakucchanda)、倶那含牟尼佛

詐りて親附を現じ、口には便ち空を說いて、行は有の中にあり、(白衣を經理し)白衣の爲めに、男女を通致して婬色を交會し、諸の縛著を作し、(五九)六齋日、年の三長齋月に於て、殺生、劫盜、破齋、犯戒を作さば、輕垢罪を犯す。

是くの如きの十戒、應當に敬心に奉持すべし、制戒品の中に廣く解す(明すが如し。)

【三十一、不行救贖戒】佛言はく、佛子、佛の滅度の後、惡世の中に於て、若し外道、一切の惡人、劫賊の、佛菩薩父母の形像を賣り、及び經律を賣り、比丘比丘尼を販賣し、亦發(菩提)心の菩薩道人を賣り、或は官の使となし、一切の人に與へて奴婢と作すものを見ば、而も菩薩の是の事を見已りて、應さに慈悲心を生じて方便救護し、處處に敎化して物を取り、佛菩薩の形像、及び比丘比丘尼、(發心の菩薩)一切の經律を贖ふべし。若し贖はずんば輕垢罪を犯す。

【三十二、損害衆生戒】若佛子、(六〇)刀杖弓箭を畜へ(販賣し)、輕秤小斗を販賣し(畜へ)、官の形勢に因りて人の財物を取り、害心をもて繋縛し、

(Kanakamuni)、迦葉佛(Kāśyapa)、釋迦牟尼佛(Śākyamuni)にして、釋尊に至るまでの過去の諸佛一切を指す。

【五八】男女の色を販賣するは婬業なり、生金銀(毒)は、或は藥の名なりとあり、或は假金銀を合せて人を誑惑すと、金銀を假製するなり、故に毒字なし。蠱毒は鬼を使ふ等といふも、蟲類より毒藥を得るならん。

【五九】六齋日とは毎月八、十四、十五、二十三、二十九、三十日(小月は二十八、二十九)の六日なり。四天王及び其の太子、世間巡視の日と稱す。三長齋月は、正五九の三月にして、毘沙門天王、南閻浮提を鎭する月とす、賢首の疏には、年三月六、皆外道罪を作れるもの、神を祀りて恩福を求むる時なりとあり。姑らく此の

（六一）成功を破壞し、猫狸猪狗を長養することを得ざれ。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

【三十三、邪業覺觀戒】若佛子、惡心を以ての故に、一切男女等の鬪、軍陣の兵將、劫賊等の鬪を觀・亦吹貝、鼓角、琴瑟、箏笛、箜篌、歌叫、妓樂の聲を聽くことを得ざれ。（六二）樗蒲、圍碁、波羅塞戲 彈棊、六博、拍毱、擲石投壺、牽道（八道）行城し、爪鏡、蓍草、楊枝、鉢盂、髑髏をもて、卜筮を作すことを得ざれ、盜賊の使命を作すことを得ざれ、一一に作すことを得ざれ。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

【三十四、暫念小乘戒】若佛子、禁戒を護持して、行住坐臥、晝夜六時に是の戒を讀誦し、猶ほし金剛の如くし、（六三）浮嚢を帶持して大海を渡らんと欲するが如くし、（六四）草繫の比丘の如くせ

月日を以て持齋して、戒愼せしむるなり。

【六〇】第十の畜殺衆生具戒に、已に刀杖弓箭を畜ふることを禁ぜり、今恐らくは、刀杖弓箭を販賣することを禁ずるなり、輕秤小斗は販賣にあらず、之を畜へて量升丈尺等を欺くものなれば、販賣と畜と、文顚倒せるものとなす、正しきが如し。

【六一】成功を破壞するは、官の勢力を恃み、他の成功を妨害して己れに利を收むるなり、猫狸猪狗を長養せざれとは、他の生物を殺すものを畜はずとの意なり。

【六二】樗蒲はカルタ、波羅塞戲（Prasenakrid）は西國の兵戲とあり、將棊の如きものならん、彈棊は指を以て棋を彈す、圍棊盤の如きものか、六博は雙陸、拍毬は蹴毬、擲石投壺は文字の如し、賢首の疏に、古は石を用ひ、今は矢を用ふとあれば、當時行はれしものと見ゆ、我が國の投扇の如き類ならんか、牽道行城は、縱横に八路あり、棋を以て之を行ふとあり、故に八道行城といふ、我が國に「十六むさし」といふものあり、之に似たらんか、爪鏡は、賢首の疏に、西國の術師、爪甲に藥を塗り、呪して吉凶を見ると、蓍草は賢首また云く、芝草を用ひて術を作すと、其の他楊枝、鉢盂、髑髏等の古法、今知るべからず。

【六三】浮嚢を帶持するは、浮嚢は、毫も輕重缺漏あることを得ざるが如く、深く留意して侵犯せざるをいふ。

【六四】草繫の比丘のこと莊嚴論に出づ、

有二諸比丘一、爲レ賊爲レ剝、裸

よ。常に大乘の善信を生じて、我は是れ未成の佛、諸佛は是れ已成の佛なることを知れ、菩提心を發して、念念に心を去らざれ。若し一念も二乘外道の心を起さば、輕垢罪を犯す。

【三十五、不發願戒】 若佛子、常に應さに一切の願を發して、父母師僧に孝順し、好師と、同學の善知識との、常に我れに大乘の經律を敎へ、十發趣、十長養、十金剛、十地、我れをして開解せしむるを得て、如法に修行し、堅く佛戒を持たんと願ふ、寧ろ身命を捨つるとも、念念に心を去らしめざれ。若し一切の菩薩、是の願を發せずんば、輕垢罪を犯す。

【三十六、不發誓戒】 若佛子、(是の)十大願を發し已りて佛の禁戒を持ちて (六五)(一)是の願を(誓ひて)作して言ふべし、寧ろ此の身を以て、熾然たる猛火の、大坑刀山に投ずとも、終に三世の諸佛の經律を毀犯して、一切の女人と不淨の行を作さずと。(二)復是の願を作せ、寧ろ熱鐵の羅網を以て、千重周匝して身を纏ふとも、終に(此の)破戒の身を以て、信心の檀越の一切の衣服を受けずと。(三)復是の願を作せ、寧ろ此の口を以て、熱鐵丸及び大流猛火を呑みて百千劫を經とも、終に(此の)破戒の口を以て、信心の

形伏地、以草連根縛之。經宿不轉、國王因獵見草中裸形、謂是外道、傍人答曰、是佛弟子、何以得知、以其右膊全黑、是褊袒之相、王即以偈問云、看時似無病、肥壯有多力、如何爲草縈、日夜不轉側、比丘以偈答、此草甚危脆、斷時豈有難、但爲佛世尊金剛戒所制、王發信心、解放與衣、將至宮中、爲造新衣、種種供養。と。これ草もなほ生命あり。佛戒を守りて、其の縛を解いて、草を斷じ、枯れしめんことを欲せざりし、比丘の行を稱せしなり。微罪なほ犯さざる斯くの如くならざるべからずとなり

【六五】 此の十三願の中、一より七までは出家の戒なり、八以下は出家在家に通ずべし。

檀越の、百味の飲食を食せずと。(四)復是の願を作せ、寧ろ此の身を以て、大(流)猛火の羅網、熱鐵の地上に臥すとも。終に(此の)破戒の身を以て、信心の檀越の百種の牀座を受けずと。(五)復是の願を作せ、寧ろ此の身を以て、三百の鉾をもて身を刺すことを受けて一劫二劫を經とも、終に(此の)破戒の身を以て、信心の檀越の百味の醫藥を受けずと。(六)復是の願を作せ、寧ろ此の身を以て熱鐵鑊に投じて百千劫を經とも。終に(此の)破戒の身を以て、信心の檀越の、千種の房舍、屋宅、園林田地を受けずと。(七)復是の願を作せ、寧ろ鐵槌を以て此の身を打碎して、頭より足に至るまで微塵の如くならしむとも、終に(此の)破戒の身を以て、信心の檀越の恭敬禮拜を受けずと。

(八)復是の願を作せ、寧ろ百千の熱鐵の刀鉾を以て其の兩目を挑るとも、終に此の破戒の心を以て他の好色を視ずと。(九)復是の願を作せ、寧ろ百千の鐵錐を以て耳根を劖刺して一劫二劫を經とも、終に(此の)破戒の心を以て、好音聲を聽かずと。(十)復是の願を作せ、寧ろ百千の刃刀を以て其の鼻を割去すとも、終に(此の)破戒の心を以て、諸の香を貪齅せずと。

(十一)復是の願を作せ、寧ろ百千の刃刀を以て、其の舌を割斷すとも、終に(此の)破戒の心を以て、人の百味の淨食を食せずと。(十二)復是の願を作せ、寧ろ利斧を以て其の身を斬斫(斬破)すとも、終に(此の)破戒の心を以て、好觸を貪著せずと。(十三)復是の願を作せ、願はくは一切衆生(悉く)成佛せん(することを得ん)。菩薩若し是の願を發せずんば輕垢罪を犯す。

【三十七、冒難遊行戒】若佛子、常に應に二時に(六六)頭陀し、(六七)冬夏に坐禪し、結夏安居すべし。常に(六八)楊枝、澡豆、三衣、缾、鉢、坐具、錫杖、香爐(奩)、漉水嚢、手巾、刀子、火燧、鑷子、繩床、經律、佛像、菩薩の形像を用ひよ。而も菩薩、頭陀を行ずる時、及び遊方の時、百里千里に行來せんに、此の十八種の物、常に其の身に隨ふべし。頭陀は、正月十五日より三月十五日に至り、八月十五日より、十月十五日に至る。是の二時の中に、(此の)十八種の物、常に其の身に隨ふこと、鳥の二翼の如くせよ。若し布薩の日は、新學の菩薩、半月半月に、(常に)布薩して十重四十八輕(戒)を誦すべし。若し戒を誦する時は、(當さに)諸佛菩薩の形像の前に於て誦せよ(すべし)。一人布薩せば一人誦せよ、若しは二及び三人より百千人に至るも、(二人。若しは三人。乃至百千人なりとも)亦一人誦せよ、誦するものは高座、聽くものは下坐せよ。各各に九條七條五條の袈裟を披るべし。結夏安居(の時)も、一一如法にすべし。若し頭陀(を行ぜん)の時は、難處に入ること莫れ、若しは國難、惡王、(惡國界、若しは惡國王)土地の高下、草木の深邃、師子虎狼、水火風(難、及び)劫賊、道路に毒蛇あ

【六六】頭陀(Dhūta)は梵語、譯して洗除、抖擻等といふ、之に十二の區別あり、十二頭陀行といふ、(一)在阿蘭若處、(二)常行乞食、(三)次第乞食、(四)受一食法、(五)節量食、(六)中後不飮果蜜等漿、(七)糞掃衣、(八)但三衣、(九)塚間住、(十)樹下止、(十二)露地坐、(十二)但坐不臥なり。

【六七】冬は大寒、靜に坐禪すべし、夏時は雨期、結夏安居すべし。

【六八】楊枝は口を清む、澡豆は垢膩を去り身を洗ふ、三衣は僧伽棃(九條)、鬱多羅(七條)、安陀會(五條)なり、缾は水を容れ、鉢は食を容る、坐具は地に布いて衣の穢るるを防ぎ、錫杖は害蟲等を止め、香爐奩は香具、或は單に香爐、漉水嚢は、小蟲を飮まざるため

る、一切の難處には悉く入ることを得ざれ。若し頭陀行道、乃至夏坐安居の時も、是の諸の難處亦入ることを得ざれ。若し故らに入らば輕垢罪を犯す。

【三十八、乖尊卑次序戒】 若佛子、應さに如法に次第に坐すべし。先受戒の者は前に在りて坐し、後受戒の者は、後に在りて坐すべし。老少と、比丘比丘尼と、貴人、國王、王子と、乃至（六）黄門と奴婢とを問はず、皆應に先受戒の者は前に在りて坐し、後受戒の者は、次第にして坐せよ。外道癡人の、若しは老、若しは少、前無く、後無く、次第なきが如く、（七）兵奴の法の如くなること莫れ。我が佛法の中には、先の者は先に坐し、後の者は後に坐す。而も菩薩、一一に如法に次第に坐せずんば、輕垢罪を犯す。

【三十九、不修福慧戒】 若佛子、常に應さに一切の衆生を敎化して、僧房、山林、園田を建立し、佛塔を立作すべし。冬夏の安居、坐禪の處所、一切の行道の處、皆應さに之を立つべし。而も菩薩は、一切の衆生の爲めに、大乘の經律を講說すべし。若し疾病、國難、賊難、父母兄弟、和尚、阿闍梨亡滅の日、及び三七日、四五七日、乃至七七日も、亦應さに大乘の經律を講(說)ずべし。一切齋會して福を求め、行來治生し、大火(に燒かれ)、大水に漂

水を漉す囊、手巾は手を拭ひ、刀子は小刀、火燧は火器、鑷子は毛拔き、繩床は說法の時の座、經律佛像は言ふに及ばず、此等日常所用の具、之を十八物といふ、十八は三衣を三とし、佛菩薩像を一とする故十八あるなり、一說楊枝、澡豆を除いて、佛菩薩像は之を二とすと、或は云く、三衣を一とし、經、律、佛、菩薩を四とすと。

【六】 黄門のこと、第四十戒の中にあり。

【七】 兵奴の法は、印度の軍隊を指す、强弱により次第して、老少長幼の序によらざるをいふ。

はされ、黑風に船舫を吹かれ、江河大海羅剎の難にも、此の經律を讀誦し、講說すべし。乃至一切の罪報、三惡八難七逆、扭械枷鎖して其の身を繫縛し、多婬多瞋多愚癡多疾病にも、皆應さに此の經律を(讀誦)講(說)ずべし。而も新學の菩薩、若し爾せずんば輕垢罪を犯す。

是くの如きの九戒、應當に學し、敬心に奉持すべし、梵壇品の中に當さに說くべし(廣く明すべし)。

【四十、揀擇受戒戒】 佛言はく佛子、(若佛子)人に受戒を與へん時、一切の國王王子、大臣百官、比丘比丘尼、信男信女、婬男婬女、十八梵天、六欲天子、(七二)無根二根、黃門奴婢、一切の鬼神を揀擇することを得ず、盡く戒を受くることを得せしめよ。應さに敎へて、身に著くるところの袈裟は皆(七三)壞色にして道と相應せしむべし。皆染めて青黃赤黑紫色ならしめて一切染衣にし、乃至臥具、盡く以て壞色にせよ。身に著くる所の衣をば、一切染色にし、若し一切の國土の中の國人所著の衣服は、比丘は皆應さに其の俗服と異ならしむべし。若し戒を受けんと欲する時は、(師)應さに問うて言ふべし、(汝)現身に七逆罪を作らざるや(否や)、菩薩の法師、七逆の人のために、現身に戒を受けしむることを得ざれ。七逆とは、出佛身血、殺父、殺母、殺和尚、殺阿闍梨、破羯磨轉法輪僧、殺聖人なり。若し七逆を具

【七二】無根は男女根を缺ける者、二根は陰陽二根を具するものなり、黃門は罪のために陰部を切割されしもの、卽ち支那に所謂宦官なり、極めて賤しき罪人なれば、ここに擧ぐ、支那の宦官黃衣にして門を守る、故に黃門といふ。

【七三】壞色は不正色にして、五色の正色にあらず、合色して五色の明鮮の色にあらざるをいふ。

せば、卽ち現身に得戒せず。餘の一切の人は、盡く戒を受くることを得。出家人の法は、國王に向つて禮拜せざれ、父母に向つて禮拜せざれ、六親敬を敬はず、鬼神を禮せず、但だ法師の語を解して、百里千里より來りて法を求むるものあらんに、而も菩薩の法師、惡心瞋心を以て、而も卽ち一切の衆生に戒を授與せずんば、輕垢罪を犯す。

【四十一、爲利作師戒】若佛子、人を敎化して信心を起さしむる時、菩薩、他人のために敎誡の法師とならば、戒を受けんと欲する人を見て、(應さに)敎へて二師を請ぜしむべし、和尙と阿闍梨となり。二師應さに問うて言ふべし、汝(七三)七遮罪ありや不や。若し現身に七遮罪あらば、師應さに、ために戒を授くべからず。若し七遮なくんば、ために戒を授くるを得。若し十(重)戒を犯ずるあらん者には、應さに敎へて懺悔せしむべし。佛菩薩の形像の前に在りて、日夜六時に、十重四十八輕戒を誦して、苦到に三世の千佛を禮し、好相を見ることを得よ。若しは一七日、二三七日、乃至一年、要ず好相を見よ。好相とは、佛來りて摩頂し、光花と(光を見、花を見)種種の異相とを見、便ち罪を滅することを得。若し好相なくんば、懺すと雖、益なし。是の人、現身に亦得戒せず、而も增長受戒の益を得(增して戒を受くることを得)。若し四十八輕戒を犯ずる者は、對首懺悔して罪便ち滅することを得、七遮に同じからず。而も敎誡の師、是の法の中に於て、一一に能く解すべし。若し大乘の經律の。若しは輕、若しは重、

【七三】七遮罪とは、七逆に同じ、七逆は受戒を障ふるを以て遮と名づく。

是非の相を解せず、(七四)第一義諦、習種性、長養性、不可壞性、道種性、正覺性、(正法性)其の中の多少の觀行の出入、(七五)十禪支、一切の行法を解せざれば、此の法の中の意を得ず、而も菩薩、利養の爲め(の故に)、名聞の爲めの故に、惡求多求し、弟子を貪利して、而も詐りて一切の經律を解すと現ず、供養の爲めの故にせん、是れ自ら欺詐し、亦他人を欺詐するなり。故らに人の爲めに戒を授けば、輕垢罪を犯す。

【四十二、爲惡人說戒戒】 若佛子、利養の爲めの故に、未だ菩薩戒を受けざるものの前、若しくは外道惡人の前に於て、此の千佛の大戒を說くことを得ざれ、邪見の人の前にも、亦說くことを得ざれ、國王を除いて、餘の一切の人にも說くことを得ざれ。是の惡人の輩は、佛戒を受けざれば、名づけて畜生となす、生生(の處)三寶を見ず、木石の心無きが如し、名づけて外道邪見の輩となす、木頭と異なることなし。而も菩薩、是の惡人の前に於て七佛の教誡を說かば、輕垢罪を犯す。

【四十三、無慚受施戒】 若佛子、信心をもて出家し、佛の正戒を受けて、故らに心を起して聖戒を毀犯せば、一切の檀越の供養を受くることを得ざ

【七四】第一義諦は根本の眞理、習種性以下は菩薩の階級にして、其の行法を解せざるを指す、本業經に六種性を說く、習種性、性種性、道種性、等覺性、妙覺性なり、今の六之に當る、習種性は十發趣にして十住、長養性は十長養にして十行、不可壞性は十金剛にして十迴向、道種性は十地なり、六種性の聖種性に當る、今は等覺性を略したれば、正覺性、即ち佛を合せて五種なり。

【七五】十禪支は賢首の疏に、本經上卷第十心を明す所に、八百三昧十禪支とあるも、其の名を列ねざれば知り難しとあり、又舊說を擧げて、十八禪支を束ねて十禪支とすとの說を示せり。

れ、亦國王の地の上に行くことを得ざれ、國王の水を飲むことを得ざれ。五千の大鬼常に其の前を遮ぎり、鬼、大賊なりと言はん。若し房舍と、城邑の宅中に入らば、鬼復其の脚の迹を掃ふ。一切の世人、咸く皆罵りて佛法の中の賊といふ。一切の衆生、眼に犯戒の人を見んことを欲せず、畜生と異なることなし、木頭と異なることなし。若し故らに正戒を破らば輕垢罪を犯す。

【四十四、不供養經典戒】若佛子、常に應さに一心に、大乘の經律を誦持し、讀誦し、皮を剝ぎて紙と爲し、血を刺して墨と爲し、髓を以て水と爲し、骨を折りて筆となし、佛戒を書寫すべし。木皮穀紙、絹素竹帛、亦(應さに)悉く書持すべし。常に七寶無價の香華、一切の雜寶を以て箱嚢となし、經律の卷を盛るべし。若し如法に供養せずんば輕垢罪を犯す。

【四十五、不化衆生戒】若佛子、常に大悲心を起し、若し一切の城邑舍宅に入りて、一切の衆生を見ては、應さに唱へて言ふべし、汝等衆生、盡く應さに(七六)三歸十戒を受くべしと。若し牛馬猪羊一切の畜生を見ては、應さに心に念じ、口に言ふべし、汝は是れ畜生、菩提心を發せよと。而も菩薩、一切の處、山川林野に

十禪支	
初禪天	覺支、觀支、喜支、樂支、一心支
二禪天	內淨支、喜支、樂支、一心支
三禪天	捨支、念支、慧支、樂支、一心支
四禪天	不苦不樂支、捨支、念清淨支、一心支

同を捨て異を擧げて、十支とせしなり。此等の詳なる說明は略す。

【七六】三歸は佛法僧の三寶に歸依するなり。十戒は前に述べたり。

入るに、皆一切衆生をして、菩提心を發さしめよ。是の菩薩、若し衆生を教化する心を發さずんば、輕垢罪を犯す。

【四十六、說法不如法戒】 若佛子、常に(應さに)教化(を行)して大悲心を起せ。檀越貴人の家に入りては、一切の衆中にして、立ちて白衣の爲めに說法することを得ざれ。應さに白衣衆の前にありて、高座の上に坐すべし。法師の比丘、地に立ちて、四衆(白衣)の爲めに、說法することを得ざれ、若し說法の時は、法師は高座にして、香華もて供養し、四衆の聽く者は、下座にして、父母に孝順するが如くし、師敎に敬順すること、事火婆羅門の如くせよ。其の說法は、若し不如法に說かば、輕垢罪を犯す。

【四十七、非法制限戒】 若佛子、皆信心を以て(佛)戒を受くる者、若し國王太子百官、四部の弟子、自ら高貴を恃んで、佛法の戒律を破滅し、明に制法を作りて、我が四部の弟子を制し、出家行道することを聽さず、亦復形像、佛塔、經律を造立することを聽さず、統(官)を立てて衆を制し、籍を安んじて僧を記し、菩薩の比丘は地に立ち、白衣は高座にし、廣く非法を行ずること、兵奴の主に事ふるが如くせん。而も菩薩は(正さに)應さに一切の人の供養を受くべし、而も反て官の爲めに走使して非法非律ならんや。若し國王百官、好心もて佛戒を受けん者、是の三寶を破するの罪を作すこと莫れ。而も(若し)故らに破法を作さば輕垢罪を犯す。

【四十八、破法戒】若佛子、好心を以て出家して、而も名聞利養の爲めに、國王百官の前に於て佛戒を說く者は、橫に比丘比丘尼の菩薩戒の弟子のために、繫縛の事を作して、獄囚の法(の如くし)、兵奴の法の如くす、師子身中の蟲の、自ら師子の肉を食うて、餘の外の蟲にあらざるが如し。是くの如く佛子自ら佛法を破す、外道天魔の能く破するにあらず。若し佛戒を受くる者は、應さに佛戒を護して、一子を念ふが如く、父母に事ふるが如くすべし、毀破すべからず。而も菩薩、外道惡人の、惡言を以て佛戒を謗(破)ぜん聲を聞かば、三百の鉾、心を刺し、千刀萬杖、其の身を打拍するが如く、等うして異なることあることなし。寧ろ自ら地獄に入りて百劫を經とも、而も一たびも(惡人の)惡言を以て佛戒を謗破するの聲を聞かず、而も況んや自ら佛戒を破し、人に破法の因緣を敎へ、亦孝順の心なからんをや。若し故らに作さば輕垢罪を犯す。

是くの如きの九戒、應當に敬心に奉持すべし。

諸の佛子、是の四十八輕戒、汝等受持すべし。過去の諸の菩薩已に誦し、未來の諸の菩薩當さに誦すべく、現在の諸の菩薩今誦す。諸の佛子、(諦に)聽け、(此の)十重四十八輕戒は、三世の諸佛已に誦し、當さに誦すべく、今誦す、我れ今亦是くの如く誦す。汝等一切の大衆、若しは國王王子百官、比丘比丘尼信男信女、菩薩戒を受持する者は、應さに佛性常住の戒卷を受持し、讀誦し、解說し、書寫すべし。三世の一切衆生に流通して、化化絕えざれば、千佛を見ることを得、佛佛(の爲め)に手を

授けられ、世世に惡道八難に墮せず、常に人道天中に生ず。我今此の樹下に在りて、略して七佛の法戒を開く、汝等大衆、當さに一心に波羅提木叉を學して、歡喜奉行すべし。無相天王品の勸學の中に一一に廣く明すが如し。三千の學士、時に坐して聽く者、佛の自ら誦し給ふを聞いて、心心に頂戴して喜躍(歡喜)し、受持す。

爾の時、釋迦牟尼佛、上の蓮華臺藏世界の、盧舍那佛(所說の)心地法門品の中の、十無盡戒法品を說き竟んぬ。千百億の釋迦も亦是くの如く說き給へり。摩醯首羅天宮より此の道樹の下に至るまで、十住處にして法品を說き給ふ。一切の菩薩、不可說の大衆の爲めに、受持讀誦し、其の義を解說し給ふこと亦是くの如し。千百億の世界、蓮華藏世界の微塵世界と、一切の佛の(七七)心藏と、地藏と、戒藏と、無量行願藏と、因果佛性常住藏と、是くの如きの一切の、佛の說き給ふ無量の一切の法藏竟んぬ。千百億の世界の中の、一切の衆生、受持し、歡喜し、奉行す。若し廣く心地の相相を開くことは、佛華光王七行品の中に說くが如し。

「明人は忍慧强くして、能く是くの如きの法を持つ、未だ佛道を成ぜざる間に、五種の利を安獲す。

一には十方の佛、憫念して常に守護す。

【七七】心藏は三十心、十發趣等、地藏は十地、戒藏は十重四十八輕、無量行願藏は六度萬行、十大願王等、因果佛性常住藏とは、佛性は因果を超絕して而かも當に常住の因、當當常住の法身なれば、因果佛性常住といふ、此等菩薩の心地と、菩薩の行願と常住の因果と、佛法略ぼ之に盡く、以上の法藏な無量一切の法藏といふ。

二には命終の時、正見にして心歡喜す。
三には生生の處、諸の菩薩の友となる。
四には功德聚まりて、戒度悉く成就す。
五には今後世に、性戒福慧滿ず。
此れは是れ諸佛の子(佛の行處)なり。
智者能く思量せよ、計我著相の者は、是の法を生ず(信ず)ること能はず。
滅壽(滅盡)取證の者は、亦下種の處にあらず。菩提の苗を長じ、光明、世間を照さんと欲せば、
應當に靜に觀察すべし。
諸法眞實の相を、不生亦不滅、不常復不斷、不一亦不異、不來亦不去、是くの如く一心の中に、
方便して勤めて莊嚴せよ。
菩薩の作すべき所、應當に次第に學すべし。學に於ても無學に於ても、
分別の想を生ずること勿れ。是を第一の道と名づく、亦摩訶衍と名づく。
一切戲論の惡、悉く是の處よりして滅す。諸佛の(七八)薩婆若、悉く是の處に由りて出づ。
是の故に諸の佛子、宜しく大勇猛を發して、諸佛の淨戒に於て、護持すること明珠の如くすべし。

【七八】薩婆若(Sarvajña)は梵語一切智と譯す。

過去の諸の菩薩は、已に是の中に於て學しき、未來の者は當さに學すべし、現在の者は今學す。
此れは是れ佛の行處にして、衆主の稱嘆し給ふ所なり。
我れ已に隨順して說く、福德無量の聚、迴して以て衆生に施し、共に一切智に向はん、願はくは
是の法を聞かん者、悉く（疾く）佛道を成することを得んことを。』

國譯梵網經 終

摩訶般若波羅蜜經卷第十六

〔麗藏〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

大如品第五十四 丹本大如相品

爾時欲界諸天子色界諸天子。以天末梅檀香。以天青蓮華赤蓮華紅蓮華白蓮華遙散佛上。來至佛所頂禮佛足一面住白佛言。世尊。諸佛阿耨多羅三藐三菩提。甚深難見難解不可思惟知。微妙寂滅智者能知。一切世間所不能信。何以故。是深般若波羅蜜中如是說。色卽是薩婆若。薩婆若卽是色。乃至一切種智卽是薩婆若。薩婆若卽是一切種智。色如相薩婆若如相。是一如無二無別。乃至一切種智如相薩婆若如相。一如無二無別。佛告欲色界諸天子。如是如是。諸天子。色卽是薩婆若。薩婆若卽是色。乃至一切種智卽是薩婆若。薩婆若卽是一切種智。色如相乃至一切種智如相。一如無二無別。諸天子。以是義故佛初成道時。心樂默然不樂說法。何以故。是諸佛阿耨多羅三藐三菩提法甚深難見難解不可思惟知。微妙寂滅智者能知。一切世間所不能信。何以故。阿耨多羅三藐三菩提。無得者無得處無得時。是名諸法甚深相。所謂無有二法。諸天子。如虛空甚深故是法甚深。如甚深故是法甚深。法性甚深實際甚深。不可思議無邊甚深故是法甚深。無來無去甚深故是法甚深。不生不滅無垢無淨無知無得甚深故是法甚深。諸天子。我甚深乃至知者見者甚深故是法甚深。諸天子。色甚深受想行識甚深故是法甚深。檀那波羅蜜甚深乃至般若波羅蜜甚深故是法甚深。內空乃至無法有法空甚深故是法甚深。四念處甚深乃至一切種智甚深故是法甚深。爾時欲色界諸天子白佛言。世尊。是所說法一切世間所不能信。世尊。是甚深法不爲受色故說。不爲捨色故說。不爲受受想行識故說。不爲捨受想行識故說。不爲受須陀洹果故說。不爲捨須陀洹果故說。乃至不爲受一切種智故說。不爲捨一切種智故說。說諸世間皆受著行。所謂色是我是我所。受想行識是我是我所。乃至十八不共法是我是我所。須陀洹果是我是我所。乃至一切種智

諸上同無說字

修下同有行字下同

佛下三本俱無口字

亦下同無如是二字

檀上明無無字

是我是我所.佛告諸天子.如是如是.諸天子.是法非爲受色故說.非爲捨色故說.乃至非爲受一切種智故說.非爲捨一切種智故說.諸天子.若有菩薩爲受色故行.乃至爲受一切種智故行.是菩薩不能修般若波羅蜜.不能修禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜.不能修檀那波羅蜜.乃至不能修一切種智.須菩提白佛言.世尊.是法隨順一切法.云何是法隨順一切法.是法隨順般若波羅蜜.乃至隨順檀那波羅蜜.是法隨順內空.乃至隨順無法有法空.是法隨順四念處.乃至隨順一切種智.是法無礙.不礙於色不礙受想行識.乃至不礙一切種智.諸天子.是法名無礙相.如虛空等故.如法性法住實際不可思議性等故.空無相無作等故.是法不生相.色不生不可得故.受想行識不生不可得故.乃至一切種智不生不可得故.是法無處色處不可得故.受想行識處不可得故.乃至一切種智處不可得故.是時欲色界諸天子白佛言.世尊.須菩提是佛子隨佛口生.何以故.須菩提所說皆與空合.爾時須菩提語諸天子.汝等言.須菩提是佛子隨佛生.云何爲隨佛生.諸天子.如相故須菩提隨佛生.何以故.如來如相不來不去.須菩提如相亦不來不去.是故須菩提隨佛生.復次須菩提.從本以來隨佛生.何以故.如來如相即是一切法如相.一切法如相即是如來如相.是如相中亦無如相.是故須菩提爲隨佛生.復次如來如常住相.須菩提如亦常住相.如來如相無異無別.須菩提如相亦如是無異無別.是故須菩提爲隨佛生.如來如相無有礙處.一切法如相亦無礙處.是如來如相一切法如相.一如無二無別.是如相無作終不不如.是故是如相一如無二無別.是故須菩提爲隨佛生.如來如相一切處無念無別.須菩提如相亦如是.一切處無念無別.如來如相不異不別不可得.須菩提如相亦如是.以是故須菩提爲隨佛生.如來如相不遠離諸法如相.是如相終不不如.是故須菩提.如不異故爲隨佛生亦無所隨.復次如來如相不過去不未來不現在.諸法如相亦不過去不未來不現在.是故須菩提爲隨佛生.復次如來如不在過去如中.過去如不在如來如中.如來如不在未來如中.未來如不在如來如中.如來如不在現在如中.現在如不在如來中.過去未如來現在如如來如.一如無二無別.色如如來如.受想行識如如來如.是色如受想行識如如來如.一如無二無別.我如乃至知者見者如如來如.一如無二無別.無檀那波羅蜜如.乃至般若波羅蜜如.內空如乃至無法有法空如.四念處如乃

踊同作涌下同
不上三本俱無亦字次同
十元明俱作千次同
異別三本俱作別異〇有同作行〇道上同有菩薩二字〇力下同有故字

至一切種智如如來如。一如無二無別。須菩提。菩薩摩訶薩得是如故名爲如來。說是如相品時。是三千大千世界大地六種震動。東踊西沒西踊東沒。南踊北沒北踊南沒。中央踊四邊沒。四邊踊中央沒。是時諸欲天子諸色天子。以天末栴檀香。散佛上及散須菩提上。白佛言。未曾有也。世尊。須菩提以如來如隨佛生。須菩提。復爲諸天子說言。諸天子。須菩提不從色中隨佛生。亦不從色如中隨佛生。不離色隨佛生。亦不離色如隨佛生。須菩提。不從受想行識中隨佛生。亦不從受想行識如中隨佛生。不離受想行識隨佛生。亦不離受想行識如隨佛生。乃至不從一切種智中隨佛生。亦不從一切種智如中隨佛生。亦不離一切種智中隨佛生。亦不離一切種智如中隨佛生。須菩提。不從無爲中隨佛生。亦不從無爲如中隨佛生。亦不離無爲中隨佛生。亦不離無爲如中隨佛生。何以故。是一切法皆無所有不可得。無隨生者亦無隨生法。爾時舍利弗白佛言。世尊。是如實不虛。法相法住法位甚深。是中色不可得。色如不可得。何以故。色尚不可得。何況色如當可得。受想行識不可得。受想行識如不可得。何以故。受想行識尚不可得。何況受想行識如當可得。乃至一切種智不可得。一切種智如不可得。何以故。一切種智尚不可得。何況一切種智如當可得。佛告舍利弗。如是如是。舍利弗。是如實不虛法相法住法位甚深。是中色不可得。色如不可得。何以故。色尚不可得。何況色如當可得。乃至一切種智不可得。一切種智如不可得。何以故。一切種智尚不可得。何況一切種智如當可得。舍利弗說是如相時。二百比丘不受一切法故。漏盡得阿羅漢。五百比丘尼遠塵離垢。諸法中得法眼生。天人中。五千菩薩摩訶薩得無生法忍。六十菩薩諸法不受故。漏盡心得解脫成阿羅漢。舍利弗。是六十菩薩先世値五百佛親近供養。於五百佛法中行布施持戒忍辱精進禪定。無般若波羅蜜無方便力故。行別異相作是念。是布施是持戒是忍辱是精進是禪定。無般若波羅蜜無方便力故。布施持戒忍辱精進禪定行異別相。行異別相故不得無異相。不得無異相故不得入菩薩位。不得入菩薩位故。得須陀洹果乃至得阿羅漢果。舍利弗。菩薩摩訶薩雖有道。若空若無相若無作法。遠離般若波羅蜜無方便力故。便於實際作證取聲聞乘。舍利弗白佛言。世尊。何因緣故。俱行空無相無作法。遠離方便力。於實際作證取聲聞乘。菩薩摩訶薩亦修空無相無作法。有方便力故得阿耨多羅三藐三菩提。佛告舍利弗。有菩薩遠離薩婆若

心修空無相無作法。無方便力故取聲聞乘。舍利弗。復有菩薩摩訶薩不遠離薩婆若心。修空無相無作法。有方便力故入菩薩位。得阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗。譬如有鳥身長百由旬。若二百三百由旬而無有翅。從三十三天自投閻浮提。舍利弗。於汝意云何。是鳥中道作是念。欲還上三十三天。能得還不。不得也世尊。舍利弗。是鳥復作是願。到閻浮提欲使身不痛不惱。舍利弗。於汝意云何。是鳥得不痛不惱不。舍利弗言。不得也世尊。是鳥到地若痛若惱若死若死等苦。何以故。世尊。是鳥身大而無翅故。舍利弗。菩薩摩訶薩亦如是。雖如恒河沙等劫修布施持戒忍辱精進禪定。發大事生大心。爲得阿耨多羅三藐三菩提故受無量願。是菩薩遠離般若波羅蜜方便力故。若墮阿羅漢若墮辟支佛道。何以故。是菩薩遠離薩婆若心布施持戒忍辱精進禪定。無般若波羅蜜無方便力故。墮聲聞地若辟支佛道中。舍利弗。菩薩摩訶薩雖念過去未來現在諸佛。持戒禪定智慧解脫解脫知見取相受持。是人不知不解諸佛戒定慧解脫解脫知見。但聞空無相無作名字聲而取名字聲。迴向阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩若如是迴向。住聲聞辟支佛地中不能得過。何以故。遠離般若波羅蜜方便力。持諸善根迴向阿耨多羅三藐三菩提故。舍利弗。有菩薩摩訶薩從初發意以來。不遠離薩婆若心。行布施持戒忍辱精進禪定。不遠離般若波羅蜜方便力故。不取相於過去未來現在諸佛戒定慧解脫解脫知見。不取空解脫門相。不取無相無作解脫門相。舍利弗。當知是菩薩摩訶薩不墮聲聞辟支佛道。直至阿耨多羅三藐三菩提。何以故。是菩薩摩訶薩從初發意以來行布施不取相。持戒忍辱精進禪定不取相過去未來現在諸佛戒定慧解脫解脫知見不取相。舍利弗。是名菩薩方便力以離相心行布施持戒忍辱精進禪定。乃至離相心行一切種智。舍利弗白佛言。世尊。如我解佛所說義。若菩薩摩訶薩不遠離般若波羅蜜方便力。當知是菩薩近阿耨多羅三藐三菩提。何以故。是菩薩摩訶薩從初發心以來。無法可知若色若受想行識。乃至一切種智。世尊。有求菩薩道善男子善女人。遠離般若波羅蜜及方便力。當知是人於阿耨多羅三藐三菩提或得或不得。何以故。世尊。是求菩薩道善男子善女人。所有布施皆取相。所有持戒忍辱精進禪定皆取相。以是故。是善男子善女人於阿耨多羅三藐三菩提不定。世尊。以是因緣故菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。不應遠離般若波羅蜜方便力。是菩

三上同有若字

菩上三本俱有若字

以元明俱作已下同

意三本俱作心

法下智下同有已得阿耨多羅三藐三菩提十一字〇不同作〇亦〇可同作所

今下三本俱有如字

薩摩訶薩住般若波羅蜜方便力中。以無得無相心應修布施持戒忍辱精進禪定。乃至以無得無相心應修一切種智。爾時欲色界諸天子白佛言。世尊。阿耨多羅三藐三菩提難得。何以故。是菩薩摩訶薩應知一切諸法。是法亦不可得。佛言。如是如是。諸天子。阿耨多羅三藐三菩提難得。我不得一切法。一切種智。亦無所得無能知。無可知無知者。何以故。諸法畢竟淨故。須菩提白佛言。世尊。如佛所說。阿耨多羅三藐三菩提難得。如我解佛所說義。我心思惟是阿耨多羅三藐三菩提易得。何以故。無有得阿耨多羅三藐三菩提者。亦無可得法。一切法一切法相空。無法可得無能得者。何以故。一切法空故。亦無法可增亦無法可減。所謂布施持戒忍辱精進禪定乃至一切種智。是法皆無可得者無能得者。世尊。以是因緣故。我意謂阿耨多羅三藐三菩提爲易得。何以故。世尊。色色相空受想行識識相空。乃至一切種智一切種智相空。舍利弗語須菩提。若一切法空如虛空。虛空不作是念我當得阿耨多羅三藐三菩提。若菩薩摩訶薩信解一切諸法空如虛空。是阿耨多羅三藐三菩提易得者。今恒河沙等諸菩薩摩訶薩。求阿耨多羅三藐三菩提何以退還。須菩提。以是故知阿耨多羅三藐三菩提不易得。須菩提語舍利弗。於意云何。色於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。受想行識於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。乃至一切種智於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。離色有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不離受想行識有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不乃至離一切種智有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。舍利弗。於意云何。色如相於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。受想行識如相乃至一切種智如相。於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。離色如相有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。離受想行識如相。乃至離一切種智如相有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。舍利弗。於意云何。如於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。法性法住法位實際不可思議性。於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。舍利弗。於意云何。離如有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。離法性法住法位實際不可思議性有法於阿耨多羅三藐三菩提退還不。舍利弗言不。須菩提語舍利弗。若諸法畢竟不可得。何等法於阿耨多羅三藐三菩提退還。舍利弗語須菩提。如須菩提

說上同有所字

乘下同有不字〇如中乃至三乘同作三乘分別中有如可得

沒同作怖

讚下三本俱有歎字〇不行同作行不〇他人同作人行不三字〇人上同無他字

那下羅下同無波羅蜜三字

所說。是法忍中無有菩薩於阿耨多羅三藐三菩提、退還者若不退還。佛說求道者有三種。阿羅漢道。辟支佛道。佛道。是三種爲無分別。如須菩提說。獨有一菩薩摩訶薩求佛道。是時富樓那彌多羅尼子語舍利弗。應當問須菩提。爲有一菩薩乘不。爾時舍利弗問須菩提。須菩提。爲欲說有一菩薩乘。須菩提語舍利弗。於諸法如中。欲使有三種乘聲聞乘辟支佛乘佛乘耶。舍利弗言不也。舍利弗。如中可得分別有三乘不。舍利弗言不也。舍利弗。是如有若一相若二相若三相不。舍利弗言不也。舍利弗。汝欲於如中乃至有一菩薩不。舍利弗言不也。如是四種中三乘人不可得。舍利弗。云何作是念。是求聲聞乘人。是求辟支佛乘人。是求佛乘人。舍利弗。菩薩摩訶薩聞是諸法如相。心不驚不沒不悔不疑。是名菩薩摩訶薩能成就阿耨多羅三藐三菩提。爾時佛讚須菩提言。善哉善哉。須菩提。汝所說者皆是佛力。須菩提。若菩薩摩訶薩聞說是如。無有諸法別異。心不驚不怖不畏不難不沒不悔。當知是菩薩能成就阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗白佛言。世尊。成就何等菩提。佛言。成就佛阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提應云何行。佛言。應起等心。於一切衆生亦等心與語無有偏黨。於一切衆生中起大慈心。亦以大慈心與語。於一切衆生中下意。亦以下意與語。於一切衆生中應生安隱心。亦以安隱心與語。於一切衆生中應生無礙心。亦以無礙心與語。於一切衆生中應生無惱心。亦以無惱心與語。於一切衆生中應生愛敬心。如父如母如兄如弟。如姊妹如兒子。如親族如知識。亦以愛敬心與語。是菩薩摩訶薩應自不殺生亦教人不殺生。讚不殺生法。歡喜讚歎諸不殺者。乃至自不行邪見亦教他人不行邪見。讚歎不邪見法。歡喜讚歎不邪見者。如是須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提當如是行。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。應自行初禪亦教他人行初禪。讚歎行初禪法。歡喜讚歎行初禪者。二禪三禪四禪亦如是。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。應自行慈心亦教人行慈心。讚歎行慈心法。歡喜讚歎行慈心者。悲喜捨心亦如是。自行虛空處亦教人行虛空處。讚歎行虛空處法。歡喜讚歎行虛空處者。識處無所有處非有想非無想處亦如是。自具足檀那波羅蜜。亦教人具足檀那波羅蜜。讚歎具足檀那波羅蜜法。歡喜讚歎具足檀那波羅蜜者。尸羅波羅蜜羼提毗梨耶禪那般若波羅蜜

逆上同無行字

亦三本俱作而
次同
辟上同無得字

亦如是。復次菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。自行內空亦教人行內空。讚歎行內空法。歡喜讚歎行內空者。乃至無法有法空亦如是。自行四念處亦教人行四念處。讚歎行四念處法。歡喜讚歎行四念處者。乃至八聖道分亦如是。自修空三昧無相無作三昧。亦教人修空無相無作三昧。讚歎修空無相無作三昧法。歡喜讚歎修空無相無作三昧者。自行八背捨亦教人行八背捨。讚歎行八背捨法。歡喜讚歎行八背捨者。自行九次第定亦教人行九次第定。讚歎行九次第定法。歡喜讚歎行九次第定者。自具足佛十力亦教人具足佛十力。讚歎具足佛十力法。歡喜讚歎具足佛十力者。自行四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。亦教人行四無所畏乃至大慈大悲。讚歎行四無所畏乃至大慈大悲法。歡喜讚歎行四無所畏乃至大慈大悲者。自逆順觀十二因緣。亦教人行逆順觀十二因緣。讚歎逆順觀十二因緣法。歡喜讚歎逆順觀十二因緣者。須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提應如是行。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。自應知苦斷集證滅修道。亦教人知苦斷集證滅修道。讚歎知苦斷集證滅修道法。歡喜讚歎知苦斷集證滅修道者。自生須陀洹果證知。亦不證實際。亦教人著須陀洹果中。讚歎須陀洹果法。歡喜讚歎得須陀洹果者。斯陀含果阿那含果阿羅漢果亦如是。自生辟支佛道證智。亦不證辟支佛道。亦教人著辟支佛道中。讚歎得辟支佛道法。歡喜讚歎得辟支佛道者。自入菩薩位亦教人入菩薩位。讚歎入菩薩位法。歡喜讚歎入菩薩位者。自淨佛國土成就衆生。亦教人淨佛國土成就衆生。讚歎淨佛國土成就衆生法。歡喜讚歎淨佛國土成就衆生者。自起菩薩神通亦教人起菩薩神通。讚歎起菩薩神通法。歡喜讚歎起菩薩神通者。自生一切種智亦教人生一切種智。讚歎生一切種智法。歡喜讚歎生一切種智者。自斷一切結使習亦教人斷一切結使習。讚歎斷一切結使習法。歡喜讚歎斷一切結使習者。須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提應如是行。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。自取壽命成就。亦教人取壽命成就。讚歎取壽命成就法。歡喜讚歎取壽命成就者。自成就法住亦教人成就法住。讚歎成就法住法。歡喜讚歎成就法住者。須菩提。菩薩摩訶薩欲成就阿耨多羅三藐三菩提。應如是行。亦應如是學般若波羅蜜方便力。是菩薩如是學如是行時。當得無礙色。得無礙受想行識。乃

至得無礙法住。何以故。是菩薩摩訶薩從本以來不受色。不受受想行識。乃至不受一切種智。何以故。色不受者爲非色。乃至一切種智不受者。爲非一切種智。說是菩薩行品時。二千菩薩得無生法忍

摩訶般若波羅蜜經不退品第五十五

須菩提白佛言。世尊。以何等行何等類何等相貌。知是阿惟越致菩薩摩訶薩。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩能知凡夫地聲聞地辟支佛地佛地。是諸地如相中無二無別。亦不念亦不分別。入是如中聞是事直過無疑。何以故。是如中無一無二相故。是菩薩摩訶薩亦不作無益語。但說利益相應語。不視他人長短。須菩提。以是行類相貌。知是阿惟越致菩薩摩訶薩。須菩提言。世尊。復以何行類相貌。知是阿惟越致菩薩摩訶薩。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩能觀一切法。無行無類無相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。須菩提白佛言。世尊。若一切法無行無類無相貌。菩薩於何等法轉名不轉。佛言。若菩薩摩訶薩色中轉。受想行識中轉。是名菩薩不轉。復次須菩提。菩薩摩訶薩檀那波羅蜜中轉。乃至般若波羅蜜中轉。內空中乃至無法有法空中轉。四念處中乃至十八不共法中轉。聲聞辟支佛地中轉。乃至阿耨多羅三藐三菩提中轉。當知是菩薩摩訶薩不轉。何以故。須菩提。色性無。是菩薩何所住。乃至阿耨多羅三藐三菩提性無。是菩薩何所住。復次須菩提。菩薩摩訶薩不觀相外道沙門婆羅門面貌言語。不作是念是諸外道若沙門若婆羅門實知實見。若說正見無有是事。復次菩薩不生疑。不著戒取。不墮邪見。亦不求世俗吉事以爲清淨。不以華香瓔珞幡蓋伎樂禮拜供養餘天。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩常不生下賤家。乃至不生八難之處。常不受女人身。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。菩薩摩訶薩常行十善道。自不殺生。不教人殺生。讚歎不殺生法。歡喜讚歎不殺生者。乃至自不邪見。不教人邪見。不讚歎邪見法。不歡喜讚歎行邪見者。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。菩薩摩訶薩乃至夢中。亦不行十不善道。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。菩薩摩訶薩爲益一切衆生故行檀那波羅蜜。

以元明俱作已
品目不退三本俱作阿毗跋致四字
惟越同作毗跋下同
視宋作觀
菩上三本俱無若字
是下三本俱有名字()觀下元明俱無相字
菩上三本俱有是字

妬路同作多羅○憂同作優

疑下同有悔字

疑下同無處字

薩下宋有不亂心三字

詳元明俱作庠

蘭三本俱作練○但下同有受字

乃至爲益一切衆生故行般若波羅蜜.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩所有諸法.受讀誦說正憶念.所謂修妬路乃至憂波提舍.是菩薩法施時作是念.是法施因緣故滿一切衆生願.以是法施功德與一切衆生共之.廻向阿耨多羅三藐三菩提.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩於甚深法中不疑不悔.須菩提言.世尊.菩薩於甚深法中何因緣故不疑不悔.佛言.是阿惟越致菩薩都不見有法可生疑處.若色受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提.不見是法可生疑處悔處.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩身口意業柔軟.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩以慈身口意業成就.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩不與五蓋俱.婬欲瞋恚睡眠掉悔疑.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩一切處無所愛著.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩出入去來坐臥行住常念一心.出入去來坐臥行住擧足下足安隱詳序.常念一心視地而行.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩所著衣服及諸臥具人不惡穢.好樂淨潔少於疾病.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.常人身中有八萬戶蟲侵食其身.是阿惟越致菩薩摩訶薩身無是蟲.何以故.是菩薩功德出過世間.以是故.是菩薩無是戶蟲.是菩薩功德增益.隨其功德得身清淨得心清淨.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.須菩提白佛言.世尊.云何菩薩摩訶薩.得身清淨得心清淨.佛言.菩薩摩訶薩隨其所得增益善根.滅除心曲心邪.須菩提.是名菩薩摩訶薩身清淨心清淨.以是身心清淨故.能過聲聞辟支佛地入菩薩位中.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩不貴利養.雖行十二頭陀.不貴阿蘭若法.乃至不貴但三衣法.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩常不生慳貪心.不生破戒心瞋動心懈怠心散亂心.不生愚癡心.不生嫉妬心.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩心住不動智慧.深入一

薩下同有摩訶薩三字
是下同作有一切二字
受上三本俱有若字
魔上同有惡字
是同作此
行同作用
不下同有得字

心聽受所從聞法。及世間事皆與般若波羅蜜合。是菩薩摩訶薩不見產業之事不入法性者。是事一切皆見與般若波羅蜜合。以是因緣故。須菩提。是名阿惟越致菩薩阿惟越致相。復次須菩提。若惡魔於阿惟越致菩薩前化作八大地獄。一一地獄中有千億萬菩薩。皆被燒煮受諸辛酸苦毒。語菩薩言。是諸菩薩皆是阿惟越致。佛所授記墮大地獄中。汝若為佛授阿惟越致記者。當入是大地獄中。佛為授汝地獄記。汝不如還捨菩薩心。可得不墮地獄得生天上。須菩提。若是菩薩見是事聞是事。心不動不疑不驚。作是念。阿惟越致菩薩若墮地獄畜生餓鬼中。終無是處。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。惡魔化作比丘被服來至菩薩所。語菩薩言。汝先聞應如是淨修六波羅蜜。乃至應如是淨修得阿耨多羅三藐三菩提。是事汝疾悔捨。汝先於過去未來現在諸佛所。從初發心乃至法住。於其中間所作善根。隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提。是事汝亦疾放捨。若汝疾捨我當語汝眞佛法。汝先所聞皆非佛法非佛教。皆是文飾合集作耳。我所說是眞佛法。若是菩薩聞作是說心驚疑悔。當知是菩薩未得諸佛授記。未定住阿惟越致性中。若是菩薩心不動不驚不疑不悔。隨順依止無作無生法。不信他語不隨他行。行六波羅蜜時不隨他語。乃至行阿耨多羅三藐三菩提時亦不隨他語。須菩提。譬如漏盡阿羅漢。不信他語不隨他行。現見諸法實相惡魔不能轉。如是須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩亦如是。求聲聞道辟支佛道人。不能破壞不能折伏其心。須菩提。是菩薩摩訶薩。必定住阿惟越致地中。不隨他語乃至佛語不直信取。何況求聲聞辟支佛人及惡魔外道梵志語。終無是處。何以故。是菩薩不見有法可隨信者。所謂若色受想行識。若色如乃至識如。乃至不見若阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提如。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。魔作比丘身來到菩薩所。語菩薩言。汝所行者是生死法非薩婆若道。汝今身取苦盡證。是時惡魔為菩薩。用世間行說似道法。是似道法是三界繫。所謂骨相若初禪乃至非有想非無想語。善男子。用是道用是行。當得須陀洹果乃至當得阿羅漢果。汝行是道今世苦盡。汝用受生死中種種苦惱為。今是四大身尚不用受。何況當更受來身。須菩提。若是菩薩摩訶薩心不驚不疑不悔作是念。是比丘益我不少。為我說似道法。行是似道法。不至須陀洹果證。不得至阿羅漢辟支佛道證。何況

遮同作障下同

是下同無不字

說下同有相字○行元明俱作法

是下三本俱有名字次同

無元明俱作不

得至阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩益復歡喜作是念。是比丘益我不少。爲我說遮道法。我知是遮道法。是不遮學三乘道。是時惡魔知菩薩歡喜作是言。善男子。汝欲見是菩薩摩訶薩供養如恒河沙等諸佛。衣被飲食臥具醫藥資生所須。亦於如恒河沙等諸佛所。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。亦親近如恒河沙等諸佛。諮問菩薩摩訶薩道。世尊。菩薩摩訶薩云何住菩薩摩訶薩乘。云何行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。四念處乃至大慈大悲。是菩薩摩訶薩如佛所敎。如是住如是行如是修。是菩薩摩訶薩如是敎如是學。尚不得阿耨多羅三藐三菩提不得薩婆若。何況汝當得阿耨多羅三藐三菩提。若菩薩摩訶薩聞是事。心不異不驚。益復歡喜作是念。是比丘益我不少。爲我說遮道法。是遮道法不得須陀洹道乃至不得阿羅漢辟支佛道。何況得阿耨多羅三藐三菩提。是時惡魔知是菩薩心不沒不驚。卽於是處化作多比丘。語菩薩言。此皆是發意求佛道菩薩。今皆住阿羅漢地。是輩尚不能得阿耨多羅三藐三菩提。汝云何能得。若菩薩摩訶薩卽作是念。此是惡魔說似道行。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不應轉阿耨多羅三藐三菩提心。亦不應墮聲聞辟支佛道中。復作是念。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至一切種智。不得阿耨多羅三藐三菩提無有是處。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。菩薩摩訶薩作是念。若菩薩能如佛所說不遠離般若波羅蜜心乃至一切種智。是菩薩終不退阿耨多羅三藐三菩提。若菩薩覺知魔事。亦不失阿耨多羅三藐三菩提。以是行類相貌。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩相。須菩提白佛言。世尊。於何法轉名爲不轉。佛言。於色相轉於受想行識相轉。於十二入相十八界相婬欲瞋恚愚癡相。邪見相四念處相。乃至聲聞辟支佛相。乃至佛相轉。以是故名爲不退轉菩薩摩訶薩相。何以故。是阿惟越致菩薩摩訶薩。以是自相空法。入菩薩位得無生法忍。何以故。名無生法忍。是中乃至少許法不可得。不可得故不作。不作故無生。是名無生法忍。菩薩摩訶薩以是行類相貌。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩

摩訶般若波羅蜜經卷第十六

摩訶般若波羅蜜經卷第十七

〔麗藏〕、宋海〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

堅固品第五十六 丹本轉不轉品

復次須菩提。惡魔到菩薩所壞其心作是言。薩婆若與虛空等空無所有相。諸法亦與虛空等。空無所有相。是虛空等諸法。空無所有相中。無有得阿耨多羅三藐三菩提者。亦無有不得者。是諸法皆如虛空。空無所有相。汝唐受勤苦。汝所聞阿耨多羅三藐三菩提皆是魔事非佛所說。汝當放捨是願。汝莫長夜受是不安隱憂苦墮惡道中。是諸善男子善女人。聞是語時應如是念。是惡魔事壞我阿耨多羅三藐三菩提心。諸法雖如虛空無所有自相空。而衆生不知不見不解。我亦以如虛空等無所有自相空。大誓莊嚴得一切種智。爲衆生說法令得解脫。得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩摩訶薩。從初發意已來聞如是法。應堅固其心不動不轉。菩薩摩訶薩以是堅固心不動不轉心。行六波羅蜜當入菩薩位中。須菩提白佛言。世尊。不轉故名阿惟越致。轉故名阿惟越致。佛言。不轉故名阿惟越致。轉故亦名阿惟越致。須菩提白佛言。世尊。云何不轉故名阿惟越致。轉故亦名阿惟越致。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩於聲聞地辟支佛地不轉。是故名不轉。若菩薩摩訶薩於聲聞地辟支佛地轉。是故亦名不轉。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩相。以是行類相貌故。惡魔不能壞其心令離阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。阿惟越致菩薩若欲入初禪第二第三第四禪乃至滅定禪卽得入。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩。若欲修四念處乃至修八聖道分。空無相無作三昧乃至五神通卽得修。是菩薩雖修四念處乃至五神通。是人不受四念處果。雖修諸禪不受諸禪果。乃至不受滅定禪果。不證須陀洹果乃至不證辟支佛道。是菩薩故爲衆生受身。隨其所應而利益之。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩。常憶念阿耨多羅三

經題七三本俱作九
品目堅固同作轉不轉三字
虛空明作空虛〇等下同無空字〇無上三本俱無空字
語同作阿
位下同無中字
惟越同作毗跋下同
心三本俱作意〇薩下同有摩訶薩三字〇滅下同有受想二字下同〇八上同無修字〇得同作能

是下同無名字

名二本俱作爲

行上同有而字

藐三菩提。終不遠離薩婆若心。不遠離薩婆若心故。不貴色不貴相。不貴聲聞辟支佛。不貴檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。不貴四禪四無量心四無色定。不貴五神通。不貴四念處乃至八聖道分。不貴佛十力乃至十八不共法。不貴淨佛國土。不貴成就衆生。不貴見佛。不貴種善根。何以故。一切法自相空。不見可貴法能生貴心者。何以故。是一切法與虛空等。無所有自相空。須菩提。是阿惟越致菩薩摩訶薩成就是心。於四種身威儀中。出入來去坐臥行住一心不亂。須菩提。以是行類相貌。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩若在居家。以方便力爲利益衆生故受五欲。布施衆生。須食與食須飲與飲。衣服臥具乃至資生所須盡給與之。是菩薩自行檀那波羅蜜教人行檀那。讚歎行檀那法。歡喜讚歎行檀那波羅蜜者。尸羅波羅蜜乃至般若波羅蜜亦如是。須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩在家時。能以滿閻浮提珍寶施與衆生。乃至三千大千世界滿中珍寶給施衆生。亦不自爲常修梵行。不陵易虜掠他人令其憂惱。須菩提。以是行類相貌。當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩。執金剛神王常隨逐。作是願是菩薩摩訶薩。當得阿耨多羅三藐三菩提。我常隨逐乃至五性執金剛神常隨守護。以是故若天若魔若梵。若餘世間大力者不能破壞。是名菩薩摩訶薩薩婆若心。乃至得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是名菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。菩薩摩訶薩當具足菩薩五根。信根精進根念根定根慧根。是名阿惟越致相。復次須菩提。阿惟越致菩薩摩訶薩爲上人不爲下人。須菩提白佛言。世尊。云何爲上人。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩一心行阿耨多羅三藐三菩提。心不散亂是名上人。以是行類相貌。當知是名阿惟越致相。復次須菩提。阿惟越致菩薩一心常念佛道爲淨命故。不作呪術合和諸藥。不呪鬼神令著男女。問其吉凶男女。蘇相壽命長短。何以故。須菩提。是菩薩摩訶薩知諸法自相空。不見諸法相故。不行邪命行淨命。須菩提。以是行類相貌當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩相。復次須菩提。今當更說阿惟越致菩薩摩訶薩行類相貌。一心諦聽。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。常不遠離阿耨多羅三藐三菩提心故。不說五陰事。不說十二入事。不說十八界事。何以故。常念觀五陰空相十二入十八界空相故。是菩薩摩訶薩不好說官事。何以故。是菩薩諸法空相中住不見

住同作於○有同作若次同

有同作是○我下同有是字

愛樂同作樂法愛三字

名同作爲

不上同有知字

人上明有有字

修宋元俱作脩下同

國三本俱作土次同○殖明作植○實上三本俱有於字

法若貴若賤不好說賊事.何以故.諸法自相空故不見若得若失.不好說軍事.何以故.諸法自相空故不見若多若少.不好說鬪事.何以故.是菩薩摩訶薩住諸法如中不見法有憎有愛.不好說城邑事.何以故.住諸法空中不見好醜故.不好說聚落事.何以故.諸法自相空故不見法若合若散.不好說婦女事.何以故.住諸法實際中不見有勝有負.不好說國事.何以故.住實際中不見法有所屬有不屬.不好說我事.何以故.法性中住不見法有我無我.乃至不見知者見者.如是等不說種種世間事.但好說般若波羅蜜不遠離薩婆若心.若行檀那波羅蜜時不爲慳貪事.行尸羅波羅蜜時不爲破戒事.行羼提波羅蜜時不爲瞋諍事.行毗梨耶波羅蜜時不爲懈怠事.行禪那波羅蜜時不爲散亂事.行般若波羅蜜時不爲愚癡事.是菩薩雖行一切法空.而愛樂法.是菩薩雖行法性常讚不壞法而愛樂善知識.所謂諸佛及菩薩聲聞辟支佛.諸能敎化令樂住阿耨多羅三藐三菩提者.是人常願欲見諸佛聞在所處.佛國土中有現在佛隨願往生如是心常晝夜行.所謂念佛心.如是須菩提.阿惟越致菩薩摩訶薩.行初禪乃至非有想非無想處.以方便力故起欲界心.若衆生能行十善道者.及現在有佛處在中生.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.阿惟越致菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.住內空外空乃至無法有法空.住四念處乃至空無相無作解脫門.於自地中了了不疑.我是阿惟越致非阿惟越致.何以故.乃至不見少許法於阿耨多羅三藐三菩提中若轉若不轉.須菩提.譬如人得須陀洹果住須陀洹地中.自了了知終不疑不悔.阿惟越致菩薩摩訶薩亦如是.住阿惟越致地中終不疑.住是地中淨佛國土成就衆生.種種魔事起卽時覺知.亦不隨魔事破壞魔事.須菩提.譬如有人作五逆罪.五逆罪心乃至死時常逐不捨.雖有異心不能障隔.須菩提.阿惟越致菩薩摩訶薩亦如是.自住其地心常不動.一切世間天人阿修羅不能動轉.何以故.是菩薩摩訶薩出一切世間天人阿修羅上.入正法位中自證地中住.具足諸菩薩神通.能淨佛國土成就衆生.從一佛國至一佛國.於十方佛所殖諸善根親近諮問諸佛.是菩薩如是住.種種魔事起覺而不隨.以方便力處魔事著實際中.自證地中不疑不悔.何以故.實際中無疑相故.知是實際非一非二.以是因緣故.是人乃至轉身終不向聲聞辟支佛地.是菩薩摩訶薩諸法自相空中.不見法若生若滅若垢若淨.須菩提.是菩薩摩訶薩乃至

菩上同有是字
忍法同作法忍
受同作授下同
作上宋元俱無復字
說上三本俱有所字
是下同有法字
法上同有於字
聲上三本俱有辟字○那宋元俱作陀○就下三本俱有故字

轉身亦不疑.我當得阿耨多羅三藐三菩提若不得.何以故.須菩提.諸法自相空卽是阿耨多羅三藐三菩提.須
菩提.是菩薩摩訶薩住自證地中.不隨他語無能壞者.何以故.是阿惟越致菩薩摩訶薩.成就不動智慧故.須菩
提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致菩薩摩訶薩.復次須菩提.菩薩摩訶薩.若惡魔作佛身來.語菩薩言.汝今
於是間取阿羅漢道.汝亦無阿耨多羅三藐三菩提記.汝亦未得無生忍法.汝亦無是阿惟越致行類相貌.亦無
是相得受阿耨多羅三藐三菩提記.須菩提.若菩薩摩訶薩聞是語.心不異不沒不驚不怖不畏.是菩薩應自知
我必從諸佛受阿耨多羅三藐三菩提記.何以故.諸菩薩以是法受記.我亦有是法得受記.須菩提.若惡魔若爲
魔所使作佛形像.來與菩薩受聲聞辟支佛記.須菩提.是菩薩作是念.是惡魔若魔所使作佛形像來.諸佛不應
教菩薩遠離阿耨多羅三藐三菩提.教作聲聞辟支佛道.須菩提.以是行類相貌.當知是名阿惟越致相.復次須
菩提.惡魔復作佛身來到菩薩所.作是言.汝所學經書非佛所說.亦非聲聞說.是魔所說.須菩提.是菩薩摩訶薩
當作是知是惡魔若魔所使.教我遠離阿耨多羅三藐三菩提.須菩提.當知是菩薩已爲過去佛所受記.住阿惟
越致地.何以故.諸菩薩所有阿惟越致行類相貌.是菩薩亦有是行類相貌.是名阿惟越致菩薩相.復次須菩提.
阿惟越致菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.爲護持諸法故不惜身命何況餘物.是菩薩護持法故作是念.我不爲
護持一佛法.我爲護持三世十方諸佛法故.須菩提.云何菩薩摩訶薩護持法故不惜身命.須菩提.如佛說一切
諸法眞空.是時有愚癡人破壞不受.作是言.是非法非善非世尊教.須菩提.菩薩護持如是法故不惜身命.菩薩
亦應作是念.未來世諸佛我亦在是數中.在中受記是法亦是我法.以是故不惜身命.須菩提.菩薩見是利益故.
護持法不惜身命.須菩提.以是行類相貌知是阿惟越致相.復次須菩提.阿惟越致菩薩摩訶薩聞佛說法不疑
不悔.聞已受持終不忘失.何以故.得陀羅尼故.須菩提言.世尊.得何等陀羅尼聞佛所說諸經而不忘失.佛告須
菩提.菩薩得聞持等陀羅尼故.佛說諸經不忘不失不疑不悔.須菩提白佛言.世尊.但聞佛說法不忘不失不疑
不悔.聲聞辟支佛說天龍鬼神阿修羅緊那羅摩睺羅伽說.亦復不忘不失不疑不悔耶.佛告須菩提.所有言說
衆事.得陀羅尼菩薩皆不忘不失不疑不悔.須菩提.如是行類相貌成就.當知是阿惟越致菩薩摩訶薩

品月深上同有燈炷二字
是下同有阿毗跋致四字
閡同作礙下同
○是下同有四字○恒上同有如字
寂滅離同作寂滅
阿上同有是字
薩下同無摩訶薩三字

摩訶般若波羅蜜經深奧品第五十七 丹本燈炷品

須菩提白佛言。世尊。是阿惟越致菩薩摩阿薩大功德成就。世尊。是阿惟越致菩薩摩訶薩無量功德成就無邊功德成就。佛告須菩提。如是如是。是阿惟越致菩薩摩訶薩大功德成就。是阿惟越致菩薩摩訶薩無量無邊功德成就。何以故。是菩薩摩訶薩得無量無邊智慧。不與一切聲聞辟支佛共故。阿惟越致菩薩住是智慧中生四無閡智。得是無閡智故。一切世間天及人無能窮盡。須菩提白佛言。世尊。佛能以恒河沙等劫。歎說阿惟越致菩薩摩訶薩行類相貌。須菩提言。世尊。何等深奧處。阿惟越致菩薩摩訶薩。住是中行六波羅蜜時。具足四念處乃至具足一切種智。佛讃須菩提。善哉善哉。須菩提。汝爲阿惟越致菩薩摩訶薩。問是深奧處。須菩提。深奧處者空是其義。無相無作無起無生無染。寂滅離如法性實際涅槃。須菩提。如是等法是爲深奧義。須菩提白佛言。世尊。但空乃至涅槃是深奧。非一切法深奧耶。佛言。一切法亦是深奧義。須菩提。色亦深奧受想行識亦深奧。眼亦深奧乃至意色乃至法。眼界乃至意識界。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提亦深奧。世尊。云何色深奧乃至阿耨多羅三藐三菩提亦深奧。佛言。色如深奧故色深奧。受想行識如。乃至阿耨多羅三藐三菩提如深奧故。阿耨多羅三藐三菩提深奧。世尊。云何色如深奧。乃至阿耨多羅三藐三菩提如深奧。須菩提。是色如非是色非離色。乃至識如非是識非離識。乃至阿耨多羅三藐三菩提如。非是阿耨多羅三藐三菩提。非離阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。希有世尊。微妙方便力故。令阿惟越致菩薩摩訶薩離色處涅槃。亦令離受想行識處涅槃。亦令離一切法若世間若出世間。若有諍若無諍。若有漏若無漏法處涅槃。佛言。如是如是。須菩提。佛以微妙方便力故。令阿惟越致菩薩離色處涅槃。乃至離有漏無漏法處涅槃。復次須菩提。若菩薩摩訶薩如是甚深法。與般若波羅蜜相應觀察籌量思惟。作是念。我應如是行如般若波羅蜜中敎。我應如是學如般若波羅蜜中說。須菩提。若是菩薩摩訶薩能如說行如說學。如般若波羅蜜中。觀具足勤精進一念生時。當得無量無邊阿僧祇福德。是菩薩摩訶薩超越無量劫。近阿耨多羅三藐三菩提。何況常行般若波羅蜜。應阿

布上三本俱無行字

甚多世尊同作世尊甚多甚多六字

耨多羅三藐三菩提念。須菩提。譬如多婬欲人與端正淨潔女人共期。此女人限閡不得時往。於須菩提意云何。是人所念爲在何處。世尊。是人念念常在彼女人所。恒作是念。憶想當來與共坐臥歡樂。須菩提。是人一日一夜爲有幾念生。須菩提言。世尊。是人一日一夜。其念甚多甚多。佛告須菩提。菩薩摩訶薩念般若波羅蜜。如般若波羅蜜中說行是道。一念頃超越劫數。亦如彼人一日一夜心念之數。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜遠離衆罪。所謂離阿耨多羅三藐三菩提罪。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。一日所得善根功德。假令滿如恒河沙等三千大千世界中。功德猶亦不滅。於餘殘功德百分不及一分。千分千億萬分乃至算數譬喩所不能及。復次須菩提。若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。如恒河沙等劫布施三寶佛寶法寶比丘僧寶。須菩提。於汝意云何。是菩薩摩訶薩以是因緣故得福多不。須菩提言。世尊甚多。無量無邊阿僧祇。佛告須菩提。不如菩薩摩訶薩深般若波羅蜜中。一日如說修行得福多。何以故。般若波羅蜜是諸菩薩摩訶薩道。乘是道疾得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。如恒河沙等劫。供養須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛及諸佛。於須菩提意云何。是菩薩摩訶薩以是因緣故得福多不。須菩提言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是菩薩摩訶薩。深般若波羅蜜如說修行一日得福多。何以故。菩薩摩訶薩行是般若波羅蜜。過一切聲聞辟支佛地入菩薩位。漸漸得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。如恒河沙等劫。行布施持戒忍辱精進禪定智慧。於汝意云何。是人以是因緣故得福多不。須菩提言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜如說修行。一日布施持戒忍辱精進禪定智慧得福多。何以故。須菩提。般若波羅蜜是菩薩摩訶薩母故。是般若波羅蜜能生諸菩薩摩訶薩。諸菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中。能具足一切佛法故。須菩提。若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。如恒河沙等劫壽行法施。須菩提。於汝意云何。是人得福多不。須菩提言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人。深般若波羅蜜如說修行。乃至一日法施得福多。何以故。須菩提。是菩薩摩訶薩不遠離般若波羅蜜。則不遠離一切種智。不遠離一切種智。則不遠離般若波羅蜜。以是故。須菩提菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。不當遠離般若波羅蜜。須菩提。若菩薩摩訶薩。如恒河沙等劫遠離般若波羅蜜。修行四念處乃至八聖道分

沙下三本俱無等字

沙下同有等字

起下同有作字下同

離上同有遠字

內空乃至一切種智。須菩提。於汝意云何。是善男子善女人得福多不。須菩提言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人。深般若波羅蜜如說。一日修行四念處乃至一切種智得福多。何以故。須菩提。若菩薩摩訶薩不遠離般若波羅蜜。於薩婆若轉者無有是處。須菩提。若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。於薩婆若轉則有是處。須菩提。以是故。菩薩摩訶薩常不應遠離般若波羅蜜行。須菩提。若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜。如恒河沙等劫壽。財施法施及禪定福德。迴向阿耨多羅三藐三菩提。於汝意云何。是人得福多不。須菩提言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人。深般若波羅蜜如說修行。乃至一日財施法施禪定福德迴向阿耨多羅三藐三菩提得福多。何以故。是第一迴向。所謂般若波羅蜜迴向。若遠離般若波羅蜜迴向。是不名迴向。須菩提。以是故。若菩薩摩訶薩。欲得阿耨多羅三藐三菩提。應方便學般若波羅蜜迴向。須菩提。若善男子善女人。遠離般若波羅蜜如恒河沙劫壽。過去未來現在諸佛及弟子善根。和合隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。於汝意云何。是人得福多不。須菩提言。世尊。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人。深般若波羅蜜如說修行。乃至一日隨喜善根迴向阿耨多羅三藐三菩提得福多。須菩提。以是故。菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。應學般若波羅蜜中方便。迴向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。如佛所說。因緣起法從妄想生非實。云何善男子善女人得大福德。世尊。以是因緣起法。不應得正見入法位。不應得須陀洹果。乃至不應得阿耨多羅三藐三菩提果。佛告須菩提。如是如是。須菩提。以是因緣起法。不應得正見入法位。乃至不應得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。行般若波羅蜜菩薩摩訶薩。知因緣起法亦空無堅固虛誑不實。何以故。須菩提。是菩薩摩訶薩善學內空。乃至善學無法有法空故。是菩薩摩訶薩住是十八空。種種觀作法空。即不遠離般若波羅蜜。若菩薩摩訶薩如是漸漸不離般若波羅蜜。漸漸得無數無量無邊福德。須菩提白佛言。世尊。無數無量無邊有何等異。須菩提。無數者。名不墮數中若有爲性中若無爲性中。無量者。量不可得。若過去若未來若現在。無邊者。諸法邊不可得。須菩提言。世尊。頗有色亦無數無量無邊。頗有受想行識亦無數無量無邊。須菩提。有因緣色亦無數無量無邊。受想行識亦無數無量無邊。世尊。何等因緣故。色亦無數無量無邊。受想行識亦無數無量無邊。佛告須菩提。色空故無

有下三本俱無是字

及下同無諸字

具同作俱

數無量無邊。受想行識空故無數無量無邊。世尊。但色空受想行識空。非一切法空耶。須菩提。我不常說一切法空耶。須菩提言。世尊。佛說一切法空。世尊。諸法空卽是不可盡。無有數無量無邊。世尊。空中數不可得量不可得邊不可得。以是故。世尊。是不可盡。無數無量無邊義無有是異。佛告須菩提。如是如是。是法義無別異。須菩提。是法不可說。佛以方便力故分別說。所謂不可盡無數無量無邊無著。空無相無作無起無生無滅無染涅槃。佛種種因緣以方便力說。須菩提白佛言。希有世尊。諸法實相不可說。而佛以方便力故說。世尊。如我解佛所說義。一切法亦不可說。佛言。如是如是。須菩提。一切法不可說。一切法不可說相卽是空。是空不可說。世尊。不可說義有增有減不。佛言。不也須菩提。不可說義無增無減。世尊。若不可說義無增無減。檀那波羅蜜亦當無增無減。乃至般若波羅蜜亦當無增無減。四念處乃至八聖道分亦當無增無減。四禪四無量心四無色定。五神通八背捨八勝處九次第定。佛十力四無所畏四無閡智十八不共法。亦當無增無減。世尊。若菩薩摩訶薩。六波羅蜜不增。乃至十八不共法不增者。云何菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是如是。須菩提。不可說義無增無減。菩薩摩訶薩習行般若波羅蜜有方便力故。不作是念我增般若波羅蜜乃至增檀那波羅蜜。當作是念但名字故名檀那波羅蜜。是菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。是心及諸善根如阿耨多羅三藐三菩提相迴向。乃至行般若波羅蜜時。是心及諸善根如阿耨多羅三藐三菩提相迴向。須菩提白佛言。世尊。何等是阿耨多羅三藐三菩提。佛言。一切法如相。是名阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。何等是一切法如相。是阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。色如相受想行識如相。乃至涅槃如相。是阿耨多羅三藐三菩提是如相。亦不增不減。須菩提。是菩薩摩訶薩不離般若波羅蜜。常觀是如法。不見有增有減。以是因緣故。須菩提。不可說義無增無減。檀那波羅蜜亦不增不減。乃至十八不共法亦不增不減。須菩提。菩薩摩訶薩以是不增不減法故。應般若波羅蜜行。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩用初心得阿耨多羅三藐三菩提。用後心得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。是初心不至後心。後心不在初心。世尊。如是心心數法不具。云何善根增益。若善根不增。云何當得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。我當爲汝說譬喩。智者得譬喩則於義易解。須菩提。譬如然燈。爲用初焰燋炷。爲用後焰燋炷。須

非三本俱作不

薩下同有摩訶薩三字

菩上同有若字

爲同作處○行明校譌曰南藏智論俱作相

菩提言。世尊。非初焰燋炷亦非離初焰。世尊。非後焰燋炷亦非離後焰。須菩提。於汝意云何。炷爲燋不。世尊。炷實燋。佛告須菩提。菩薩摩訶薩如是。不用初心得阿耨多羅三藐三菩提。亦不離初心得阿耨多羅三藐三菩提。不用後心得阿耨多羅三藐三菩提。亦不離後心得阿耨多羅三藐三菩提。而得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是中菩薩摩訶薩從初發意行般若波羅蜜。具足十地得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。何等是十地。菩薩具足已得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。菩薩摩訶薩具足乾慧地性地八人地見地薄地離欲地已作地辟支佛地菩薩地佛地。具足是地得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩摩訶薩學是十地已。非初心得阿耨多羅三藐三菩提。亦不離初心得阿耨多羅三藐三菩提。非後心得阿耨多羅三藐三菩提。亦非離後心得阿耨多羅三藐三菩提。而得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提言。世尊。是因緣法甚深。所謂非初心非離初心。非後心非離後心得阿耨多羅三藐三菩提。而得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。於汝意云何。若心滅已是心更生不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。心生是滅相不。世尊。是滅相。須菩提。於汝意云何。心滅相是滅不。不也世尊。佛告須菩提。於汝意云何。亦如是住不。須菩提言。世尊。亦如是住如如住。佛告須菩提。於汝意云何。若是心如如住。當作實際證不。不也世尊。佛告須菩提。於汝意云何。是如甚深不。世尊。甚深甚深。須菩提。於汝意云何。但如是心不。不也世尊。離如是心不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。如見如不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。若菩薩能如是行。爲行深般若波羅蜜不。須菩提言。世尊。若菩薩摩訶薩能如是行。爲行深般若波羅蜜。須菩提。於汝意云何。若菩薩摩訶薩如是行是何處行。須菩提言。世尊。若菩薩摩訶薩作如是行。爲無處所行。何以故。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜住諸法如中。無如是念無念處亦無念者。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩如是行爲何處行。須菩提言。世尊。是菩薩摩訶薩如是行。爲第一義中行。二行不可得故。須菩提。於汝意云何。若菩薩第一義無念中行爲行相不。不也世尊。於汝意云何。是菩薩摩訶薩壞相不。不也世尊。佛告須菩提。云何名不壞相。須菩提言。世尊。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不作是念我當壞諸法相。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。未具足佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法。不得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。菩薩摩訶薩以方便力故。於諸法亦不取相亦不壞

相何以故.世尊.是菩薩摩訶薩知一切諸法自相空故.菩薩摩訶薩住是自相空中.爲衆生故入三三昧.用是三三昧成就衆生.須菩提言.世尊云何菩薩摩訶薩入三三昧成就衆生.佛言.菩薩住是三三昧.見衆生作法中行.菩薩以方便力教令得無作.見衆生我相中行.以方便力教令行空.見衆生一切相中行.以方便力故教令行無相.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.入三三昧以三三昧成就衆生

摩訶般若波羅蜜經夢行品第五十八 丹夢入三昧品

爾時舍利弗問須菩提.若菩薩摩訶薩.夢中入三三昧空無相無作三昧.寧有益於般若波羅蜜不.須菩提報舍利弗.若菩薩晝日入三三昧.有益於般若波羅蜜.夜夢中亦當有益.何以故.晝夜夢中等無有異.舍利弗.若菩薩摩訶薩晝日行般若波羅蜜有益.是菩薩夢中行般若波羅蜜亦應有益.舍利弗問須菩提.菩薩摩訶薩若夢中所作業.是業有集成不.如佛所說一切法如夢.以是故不應集成.何以故.夢中無有法集成.若覺時憶想分別應有集成.須菩提語舍利弗.若人夢中殺衆生.覺已憶念取相分別我殺是快耶.舍利弗.是事云何.舍利弗言.無緣業不生.無緣思不生.有緣業生.有緣思生.舍利弗.如是如是.無緣業不生.無緣思不生.有緣業生.有緣思生.於見聞覺知法中心生.不從不見聞覺知法中心生.是中心有淨有垢.以是故.舍利弗.有緣故業生.不從無緣生.有緣故思生.不從無緣生.舍利弗語須菩提.如佛說一切諸業諸思自相離.云何言有緣故業生.無緣業不生.有緣故思生.無緣思不生.須菩提語舍利弗.取相故有緣業生.不從無緣生.取相故有緣思生.不從無緣生.舍利弗語須菩提.若菩薩摩訶薩夢中有布施持戒忍辱精進禪定智慧.是善根福德迴向阿耨多羅三藐三菩提.是實迴向不.須菩提語舍利弗.彌勒菩薩今現在前.佛授不退轉記當作佛.當問彌勒.彌勒當答.舍利弗白彌勒菩薩.須菩提言.彌勒菩薩今現在前.佛授不退轉記當作佛.彌勒當答.彌勒菩薩語舍利弗.當以彌勒名答耶.若色受想行識空答耶.若色空答耶.若受想行識空答耶.是色不能答.受想行識不能答.色空不能答.受想行識空不能答.我不見是法可答.不見能答者.我不見是人受記.亦不見法可受記者.亦不見受記處.是一切法皆無二無別.舍利弗

益下三本俱有般若波羅蜜五字

緣下同無業字

緣下同無思字

勒下同有菩薩二字

命三本俱作壽

蜜下同無我作佛時四字○姊下同有如字

欲同作慾○調元明俱作掉

語彌勒菩薩。如仁者所說。如是爲得法作證不。彌勒答舍利弗。如我所說法如是不證。爾時舍利弗作是念。彌勒菩薩智慧甚深。久行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。用無所得故能如是說。爾時佛告舍利弗。於汝意云何。汝用是法得阿羅漢見是法不。舍利弗言。不見也。舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜亦如是。不作是念。是法當得受記是法已受記。是法當得阿耨多羅三藐三菩提。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不疑我若得若不得。自知實得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。有菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。若見衆生飢寒凍餓衣服弊壞。菩薩摩訶薩當作是願。我隨爾所時行檀那波羅蜜。我得阿耨多羅三藐三菩提時。令我國土衆生無如是事。衣服飲食資生之具。當如四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足檀那波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時。見衆生殺生乃至邪見。短命多病顏色不好。無有威德貧乏財物。生下賤家形殘醜陋。當作是願。我隨爾所時行尸羅波羅蜜。如我得佛時令我國土衆生無如是事。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足尸羅波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行羼提波羅蜜時。見諸衆生互相瞋恚罵詈刀杖瓦石共相殘害奪命。當作是願。我隨爾所時行羼提波羅蜜。我作佛時令我國土衆生無如是事。相視如父如母如兄如弟如姊妹。如善知識皆行慈悲。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足羼提波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行毗梨耶波羅蜜時。見衆生懈怠不勤精進。棄捨三乘聲聞辟支佛佛乘。當作是願。我隨爾所時行毗梨耶波羅蜜。如我得阿耨多羅三藐三菩提時。令我國土衆生無如是事。一切衆生勤修精進。於三乘道各得度脫。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足毗梨耶波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行禪那波羅蜜時。見衆生爲五蓋所覆婬欲瞋恚睡眠調悔疑。失於初禪乃至第四禪。失慈悲喜捨虛空處識處無所有處非有想非無想處。當作是願。我隨爾所時行禪那波羅蜜。如我得阿耨多羅三藐三菩提時。令我國土衆生無如是事。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足禪那波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。見衆生愚癡失世間出世間正見。或說無業無業因緣。

近上三本俱無疾字下同

杌宋作兀

爾宋元俱作於

剎下宋無帝字

或說神常或說斷滅。或說無所有。當作是願。我隨爾所時行般若波羅蜜。淨佛國土成就衆生。如我得阿耨多羅三藐三菩提時。令我國土衆生無如是事。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足般若波羅蜜。疾近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生住於三聚。一者必正聚。二者必邪聚。三者不定聚。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我得佛時令我國土衆生無邪聚乃至無其名。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜疾近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見地獄中衆生畜生餓鬼中衆生。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我得佛時令我國土中乃至無三惡道名。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見是大地株杌荊棘山陵溝坑穢惡之處。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土無如是惡地平如掌。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見是大地純土無有金銀珍寶。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土以黃金沙布地。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有所戀著。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無所戀著。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見四姓衆生剎帝利婆羅門毘舍首陀羅。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無四姓之名。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有下中上下中上家。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無如是優劣。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生種種別異色。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無種種別異色。一切衆生皆端正淨潔妙色成就。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有主。當作是願。我

其三本俱作異

五下三本俱有神字

善根故同作福德二字

隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無有主名。乃至無其形像。除佛法王。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有六道別異。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無六道之名。是地獄是畜生是餓鬼是神是天是人。一切衆生皆同一業。修四念處乃至八聖道分。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜疾近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有四生卵生胎生濕生化生。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生無三種生等一化生。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生無五神通。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我國土衆生一切皆得五通。乃至疾近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有大小便患。當作是願。我作佛時令我國土中衆生皆以歡喜爲食無有便利之患。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生無有光明。當作是願。我作佛時令我國土中衆生皆有光明。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見有日月時節歲數。當作是願。我作佛時令我國土中無有日月時節歲數之名。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生短命。當作是願。我作佛時令我國土中衆生壽命無量劫。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生無有相好。當作是願。我作佛時令我國土中衆生皆有三十二相成就。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生離諸善根當作是願。我作佛時令我國土中衆生諸善根成就。以是善根故能供養諸佛。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有三毒四病。當作是願。我作佛時令我國土衆生無四種病冷熱風病。三種雜病及三毒病。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有三乘。當作是願。我作佛時令我國土中衆生無二乘之名純一大乘。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。見衆生有增上慢。當作是願。我作佛時令我國土中衆生無增上慢之名。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。應作是願。若我光明壽命

僧明作㽵次同

菩上三本俱有須菩提三字

有量僧數有限。當作是願。我行六波羅蜜淨佛國土成就衆生。我作佛時令我光明壽命無量僧數無限。乃至近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。應作是願若我國土有量。當作是願。我隨爾所時行六波羅蜜。淨佛國土成就衆生。我作佛時令我一國土如恒河沙等諸佛國土。須菩提。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時。當作是念。雖生死道長衆生性多。爾時應如是正憶念。生死邊如虚空。衆生性邊亦如虚空。是中實無生死往來亦無解脱者。菩薩摩訶薩作如是行。能具足六波羅蜜近一切種智

摩訶般若波羅蜜經卷第十七

摩訶般若波羅蜜經卷第十八

〔麗藍〕〔宋海〕〔元海〕〔明海〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

河天品第五十九

爾時有女人字恒伽提婆。在衆中坐。是女人從座起。偏袒右肩右膝著地合手白佛言。世尊。我當行六波羅蜜取淨佛國土。如佛般若波羅蜜中所說我盡當行。是時女人以金銀華及水陸生華種種莊嚴供養之具。金縷織成氎兩張以散佛上。散已於佛頂上虛空中化成四柱寶臺端正嚴好。是女人持是功德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。爾時世尊。知是女人深心因緣卽時微笑。如諸佛法種種色光從口中出。青黃赤白紅縹。遍照十方無量無邊佛國。還繞佛三匝從頂上入。爾時阿難從座起。右膝著地合手白佛。佛何因緣微笑。諸佛法不以無因緣而笑。佛告阿難。是恒伽提婆姊。未來世中當作佛。劫名星宿。佛號金華。阿難。是女人。畢是女身受男子形。當生阿閦佛阿鞞羅提國土。於彼淨修梵行。阿難。是菩薩在彼國土亦號金華。是金華菩薩於彼壽終復至他方佛國。從一佛國至一佛國不離諸佛。譬如轉輪聖王從一觀至一觀。從生至終足不蹈地。阿難。是金華菩薩摩訶薩亦如是從一佛國至一佛國。乃至阿耨多羅三藐三菩提未常不見佛。時阿難作是念言。是金華菩薩摩訶薩。後作佛時諸菩薩摩訶薩會。當知爲如佛會。佛知阿難意所念告阿難言。如是如是。金華佛時菩薩摩訶薩會。當知爲如佛會。阿難。是金華佛。比丘僧無量無邊不可稱不可數若干百千萬億那由他。阿難。是金華菩薩作佛時。其國土無有衆惡如上所說。阿難白佛言。世尊。是女人從何處殖德本種善根。佛告阿難。是女人從然燈佛種善根初發阿耨多羅三藐三菩提心。以是功德迴向阿耨多羅三藐三菩提。亦以金華散然燈佛上。求阿耨多羅三藐三菩提。阿難。如我爾時以五華散然燈佛上。求阿耨多羅三藐三菩提。然燈佛知我善根成就。與我受阿耨多羅三藐三菩提記。是女人聞我受記發心言。願我當來世亦如是菩薩。得受阿耨多羅三藐三菩提記。阿難。當

經題十八三本俱作二十
品目河天同作恒伽提婆四字
女上元明俱有一字
氎宋作疊
手三本俱作掌
畢下同無是字
鞞同作毗
國同作土下同
常元明俱作嘗
稱三本俱作數〇數同作稱〇有下同有是諸二字〇殖明作植〇受三本俱作授下同

品呂不上元明倶有學空二字

證上明有不作證三字

伎元明倶作技

嶮明作險次同

知是女人。於然燈佛初發心。阿難白佛言。世尊。是女人。久習行阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是如是。是女人。久習行阿耨多羅三藐三菩提

摩訶般若波羅蜜經不證品第六十 丹學空不證品

須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩欲行般若波羅蜜。云何學空三昧云何入空三昧。云何學無相無作三昧。云何入無相無作三昧。云何學四念處。云何修四念處。乃至云何學八聖道分。云何修八聖道分。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應觀色空受想行識空十二入十八界空。乃至應觀欲色無色界空。作是觀時不令心亂。是菩薩摩訶薩若心不亂則不見是法。若不見是法則不作證。何以故。是菩薩摩訶薩善學自相空故。不有餘不有分。證法證者皆不可見。須菩提白佛言。世尊。如佛所說菩薩摩訶薩不應空法作證。世尊。云何菩薩住空法中而不作證。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩具足觀空先作是願。我今不應空法作證。我今學時。非是證時。菩薩摩訶薩不專攝心繫在緣中。以是故。菩薩摩訶薩於阿耨多羅三藐三菩提中不退。亦不取漏盡證。須菩提。若菩薩摩訶薩如是大善妙法成就。何以故。住是空中作是念。我今是學時非是證時。須菩提。菩薩摩訶薩應如是念。我是學檀那波羅蜜時非是證時。學尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜時。修四念處時乃至修八聖道分時非是證時。修空三昧無相三昧無作三昧時非是證時。修佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲時非是證時。我今學一切種智時。非是得須陀洹果證乃至阿羅漢果辟支佛道證時。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。學空觀住空中。學無相無作觀住無相無作中。修四念處不證四念處。乃至修八聖道分不證八聖道分。是菩薩雖學三十七品。雖行三十七品。而不作須陀洹果證乃至辟支佛道。須菩提。譬如壯夫勁勇猛健善於兵法六十四能。堅持器仗安立不動巧諸伎術。端正淨潔人所愛敬。少修事業得報利多。以是因緣故。衆所恭敬尊重讚歎。見人敬重倍復歡喜。少有因緣當至他處。扶將老弱過諸嶮難恐怖之處。安慰父母曉喩妻子。莫有恐懼我能過此必無所苦。嶮難道中多有怨賊潛伏劫害。其人智力具足故。能度惡道還歸本處。不

不下三本俱有作字

前墮同作墮地

著下同無見字

不下同無應字

遇賊害歡喜安樂。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。於一切衆生中慈悲喜捨心遍滿是。爾時菩薩摩訶薩。行四無量心具足六波羅蜜。不取漏盡證學一切種智。入空無相無作解脫門。是時菩薩不隨一切諸相。亦不證無相三昧。以不證無相三昧故。不墮聲聞辟支佛地。須菩提。譬如有翼之鳥飛騰虛空而不墮落。雖在空中亦不住空。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。學空解脫門學無相無作解脫門亦不作證。以不證故不墮聲聞辟支佛地。未具足佛十力大慈大悲無量諸佛法一切種智。亦不證空無相無作解脫門。須菩提。譬如健人學諸射法善於射術。仰射空中復以後箭射於前箭。箭箭相拄不令前墮隨意自在。若欲令墮便止後箭爾乃墮地。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。行般若波羅蜜以方便力故。為阿耨多羅三藐三菩提。諸善根未具足不於實際作證。若善根成就是時便於實際作證。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應如是觀諸法法相。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩所為甚難。何以故。雖學是諸法相學實際學如學法性學畢竟空乃至學自相空及三解脫門。終不中道墮落。世尊。是甚希有。佛告須菩提。是菩薩摩訶薩不捨一切衆生故作如是願。須菩提。若是菩薩摩訶薩作是念。我不應捨一切衆生。一切衆生沒在無所有法中。我應當度。爾時即入空解脫門無相解脫門無作解脫門。須菩提。當知是菩薩摩訶薩。成就方便力。未得一切種智。行是解脫門亦不中道取實際證。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲觀是諸甚深法。所謂內空乃至無法有法空。四念處乃至三解脫門。爾時菩薩摩訶薩應生如是心。是諸衆生長夜行我相乃至知者見者相。著於得法。為衆生斷是諸相故。得阿耨多羅三藐三菩提時當說法。爾時菩薩行空解脫門無相無作解脫門。亦不應取實際證。以不證故不墮須陀洹果乃至辟支佛道。須菩提。是菩薩摩訶薩以是心。欲成就善根故。不中道實際作證。不失四禪四無量心四無色定。四念處乃至八聖道分空無相無作。佛十力四無所畏四無礙智。大慈大悲十八不共法。是時菩薩摩訶薩成就一切助道法。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不衰滅。是菩薩有方便力故常增益善法。諸根通利勝於阿羅漢辟支佛根。復次須菩提。若菩薩摩訶薩作是念。衆生長夜著四顛倒常相樂相淨相我相。為是衆生故求薩婆若。我得阿耨多羅三藐三菩提時。為說無常法苦不淨無我法。是菩薩成就是心。以方便力行般若波羅蜜不得佛三昧。未具足佛十力四無所畏四無礙智大慈大

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若十八不共法,亦不實際作證,爾時菩薩修無作解脫門,要未得阿耨多羅三藐三菩提,亦不實際作證.復次須菩提,若菩薩摩訶薩作是念,眾生長夜著得法,所謂我眾生乃至知者見者,是色是受想行識,是人是界,是四禪四無量心四無色定.我如是行,如我得阿耨多羅三藐三菩提時,令眾生無是得法.菩薩是心成就,以方便力行般若波羅蜜,未具足佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲十八不共法,不於實際作證,爾時菩薩具足修空三昧.復次須菩提,若菩薩摩訶薩作是念,眾生長夜行諸相,所謂男相女相色相無色相,我如是行,如我得阿耨多羅三藐三菩提時,令眾生無是諸相過失.是心成就,以方便力行般若波羅蜜,未具足佛十力乃至十八不共法,不於實際作證.爾時菩薩摩訶薩具足修無相三昧.須菩提,若菩薩摩訶薩學六波羅蜜,內空乃至無法有法空,學四念處乃至空無相無作解脫門,學佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲,學十八不共法,如是智慧成就,若著行故若住三界,無有是處.是菩薩摩訶薩學助道法行助道法時,應當如是問.菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提,云何學是法諸空不證實際,以不證故不墮須陀洹果乃至辟支佛道,應無相無作無起無生無所有.若不以證實際而修行般若波羅蜜,應如是問.須菩提,若諸菩薩摩訶薩若如是答,菩薩摩訶薩但應觀空無相無作無起無生無所有,是菩薩摩訶薩不應學空無相無作無起無生無所有.不應學是助道法,須菩提當知是菩薩摩訶薩,諸佛未授阿耨多羅三藐三菩提記.何以故,是人不能說阿惟越致菩薩所學相,不能示不能答.若是菩薩摩訶薩能說能示能答阿惟越致所學相,當知是菩薩摩訶薩已習學菩薩道人,當喚如說阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致.須菩提白佛言,世尊頗有未得阿惟越致菩薩能如是答不.佛言有,須菩提,是菩薩摩訶薩六波羅蜜,若聞若不聞,能如是答如阿惟越致菩薩摩訶薩.須菩提言,世尊,多有菩薩求佛道,少有菩薩能如是答,如阿惟越致菩薩摩訶薩學道地中.佛語須菩提,如是如是,是菩薩甚少,何以故,菩薩摩訶薩少有如是得受記阿惟越致地.若有得受記,是人能如是答.是人善根明了,諸天世人所不能壞.

摩訶般若波羅蜜經夢誓品第六十一

丹本第廿 不證品

那同作陀
國同作佛
斷宋元俱作級
斷二字明作級

佛告須菩提。若菩薩摩訶薩乃至夢中不貪聲聞辟支佛地亦不貪三界。觀諸法如夢如幻如響如焰如化亦不作證。須菩提。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。菩薩摩訶薩夢中見佛與無數百千萬億比丘比丘尼優婆塞優婆夷。天龍鬼神緊那羅等說法。從佛聞法卽解中義隨法行。須菩提。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。菩薩摩訶薩夢中見佛三十二相八十隨形好。放大光明踊在虛空。於大比丘僧中說法。現大神力化作化人。到他國土施作佛事。須菩提。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。若菩薩摩訶薩夢中見兵起。若破聚落若破城邑。若失火時。若見虎狼獅子猛害之獸。若見欲來斷其頭者。若見父母喪亡兄弟姊妹及諸親友知識死者。見如是等種種愁苦之事。而不驚不怖亦不憂惱。從夢覺已。卽時思惟三界虛妄皆如夢耳。我得阿耨多羅三藐三菩提時。亦當爲衆生說三界如夢。須菩提。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。云何當知是阿惟越致菩薩摩訶薩。得阿耨多羅三藐三菩提時國中無三惡道。須菩提。菩薩摩訶薩若夢中見地獄畜生餓鬼。作是念我當勤精進得阿耨多羅三藐三菩提時。令我國中無一切三惡道。何以故。是夢及諸法無二無別。須菩提。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。復次須菩提。菩薩摩訶薩夢中見地獄火燒衆生。作是誓若我實是阿惟越致者是火當滅。是火卽滅若地獄火卽滅。是阿惟越致相。復次若菩薩晝日見城郭火起。作是念我夢中見阿惟越致行類相貌。我今實有是者。自立誓言是火當滅。若火滅者當知是菩薩得受阿耨多羅三藐三菩提記住阿惟越致地。若火不滅燒一家置一家。燒一里置一里。須菩提。當知被燒家破法業因緣厚集。以是故燒一家置一家。是諸衆生今世受破法餘殃故被燒。須菩提。以是因緣故。當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相。佛告須菩提。今當更爲汝說阿惟越致行類相貌。須菩提。若男子若女人爲非人所持。是時菩薩摩訶薩作是念。若我爲過去諸佛所受記我心淸淨求阿耨多羅三藐三菩提。行淸淨正道遠離聲聞辟支佛心。遠離聲聞辟支佛念。應當成阿耨多羅三藐三菩提。我必得阿耨多羅三藐三菩提非不得。十方國土中現在無量諸佛。無所不知無所不見。無所不解無所不證。諸佛知我深心審定必當得阿耨多羅三藐三菩提。以是至誠誓故是男子女人爲非人所持爲非人所惱。是非人當遠去。須菩提。是

柔和三本俱作和柔〇言上同有語字〇他同作而〇如敷座宋元俱作如敷坐明作加趺坐〇語下三本俱有菩薩二字〇亦下同無必字〇

菩薩摩訶薩如是誓.若非人不去者.當知是菩薩摩訶薩未從過去諸佛受阿耨多羅三藐三菩提記.須菩提.若菩薩摩訶薩如是誓若非人去者.當知是菩薩摩訶薩已從過去諸佛受阿耨多羅三藐三菩提記.須菩提.以是行類相貌.當知是阿惟越致菩薩摩訶薩阿惟越致相.復次須菩提.菩薩摩訶薩遠離六波羅蜜及方便力.不久行四念處乃至不久行空無相無作三昧.未入菩薩位是菩薩爲惡魔所嬈.菩薩作是誓.若我實從諸佛受記者.是非人當去.是時惡魔即作方便勅非人令去.惡魔有威力勝諸非人故非人即去.是時菩薩作是念.以我誓力故非人去.不知是惡魔力.恃是證故輕弄毀蔑諸餘菩薩.作是言我已從諸佛受記汝等未得.用是空誓無方便力故生增上慢.以是事故遠離薩婆若.遠離阿耨多羅三藐三菩提.須菩提.當知是人墮於二地.若聲聞地若辟支佛地.以是誓因緣故起於魔事.是人以不親近依止善知識不問阿惟越致相故.爲魔所縛益復堅固.所以者何.是菩薩不久行六波羅蜜無方便力故.須菩提.當知是爲菩薩魔事.須菩提.云何菩薩摩訶薩不久行六波羅蜜.乃至未入菩薩位爲惡魔所嬈.須菩提.惡魔變化作種種身.語菩薩言.汝於諸佛所得受阿耨多羅三藐三菩提記.汝字某.汝父字某.汝母字某.汝兄弟姉妹字某.汝七世父母名字如是.汝在某方某國某城某聚落中生.若見菩薩性行和柔.語菩薩言.汝先世亦復柔和.若見急性卒暴便言.汝先世亦爾.若見菩薩修阿蘭若行語言.汝先世亦修阿蘭若行.若見菩薩乞食納衣中後不飮漿.一坐食一鉢他食.死尸間住露地住樹下止.常坐不臥如敷座.但受三衣若少欲若知足.若遠離住若不塗脚若少言語.便語言汝先世亦有是行.何以故.汝今有此頭陀功德.汝先世亦必有是功德.是菩薩聞是先世事及名姓.聞今讚頭陀功德即歡喜生憍慢心.是時惡魔語菩薩言.汝有如是功德如是相.汝實從諸佛受阿耨多羅三藐三菩提記.須菩提.惡魔或作比丘被服.或作居士形或作父母身來到菩薩所.如是言汝已得受阿耨多羅三藐三菩提記.何以故.是阿惟越致功德相.汝盡具足有之.須菩提.我所說實阿惟越致行類相貌是人永無.須菩提.當知是菩薩摩訶薩爲魔所持.何以故.是阿惟越致行類相貌是人永無.以聞是名字故.生憍慢心輕弄毀蔑餘人.須菩提.是名菩薩摩訶薩爲魔所持.當知是爲菩薩魔事.復次須菩提.菩薩摩訶薩不久行六波羅蜜不知名字相.不知色相不知受想行識相.惡魔來語言.汝當來

惟　同作維

住　三本俱作在

憒閙行而依受　同作依受憒閙行

世得阿耨多羅三藐三菩提時有如是名字。隨其本念說其名號。是無智無方便菩薩作是念。我先亦有是成佛名號。念是人如我所念說。是人所說合我本念。我必爲諸佛所受記。須菩提。我所說阿惟越致行類相貌是人永無。但以空名字輕弄毀蔑餘人。以是事故遠離阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜無方便力。遠離善知識。與惡知識相得故墮二地聲聞辟支佛地。若有卽是身悔過久久往來生死中。然後還依止般若波羅蜜。若値善知識常隨逐親近故。當得阿耨多羅三藐三菩提。是人於是身若不卽悔。當墮二地若阿羅漢地若辟支佛地。須菩提。譬如比丘於四重禁法若犯一事非沙門非釋子。是人現身不得四沙門果。須菩提。是菩薩著空名字菩薩心亦如是。輕弄毀蔑餘人故。當知是罪重於比丘四禁。須菩提。置是重罪其罪過於五逆。以受是名字故。生高心輕弄毀蔑餘人。若生是心當知其罪甚重。如是名字等微細魔事菩薩皆當覺知。復次須菩提。菩薩在空閑山澤曠遠之處。魔來到菩薩所讚歎遠離法。作是言。善男子。汝所行者是佛所稱譽遠離法。須菩提。我不讚是遠離。所謂但在空閑山澤曠遠之處。名爲遠離。須菩提言。世尊。若空閑山澤曠遠之處。非遠離法者。云何更有異遠離法。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩遠離聲聞辟支佛心。住空閑山澤曠遠之處。是佛所許遠離法。須菩提。如是遠離法。菩薩摩訶薩應所修行。晝夜行是遠離法。是名遠離行菩薩。須菩提。若惡魔所說遠離法。空閑山澤曠遠之處。是菩薩心在憒閙。所謂不遠離聲聞辟支佛心。不勤修般若波羅蜜。是菩薩摩訶薩不能具足一切種智。是菩薩行惡魔所說遠離法。心不淸淨而輕餘菩薩城傍心淨無聲聞辟支佛憒閙心。亦無諸餘雜惡心具足禪定解脫智慧神通者。是離般若波羅蜜無方便菩薩摩訶薩。雖在絕曠百由旬外禽獸鬼神羅刹所住之處。若一歲百千萬億歲若過萬億歲。不知是菩薩遠離法。所謂諸菩薩以是遠離法。深心發阿耨多羅三藐三菩提不雜行。是菩薩憒閙行而依受著是遠離法。是人所行佛所不許。須菩提。我所說實遠離法。是菩薩不在是中。亦不見是遠離相。何以故。但行是空遠離故爾時惡魔來在虛空中住讚言。善哉善哉。善男子。此是佛所說眞遠離法。汝行是遠離疾得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩念著是遠離。而輕易諸餘求佛道淸淨比丘以爲憒閙。以憒閙爲不憒閙。以不憒閙爲憒閙。應恭敬而不恭敬。不應恭敬而恭敬。是菩薩作是言。非人念我來稱讚我。

以同作似

過罪同作罪過

是上同有須菩提三字

是下元明俱無菩薩二字○道上三本俱無菩薩摩訶薩五字○三上同有及字次同

相下元明俱無自性二字

我所行者是眞遠離，住城傍者誰當稱美汝。以是因緣故輕餘菩薩摩訶薩。須菩提。當知是名菩薩旃陀羅汙染諸菩薩。是人以像菩薩實是天上人中之大賊。亦是沙門被服中賊。如是人諸求佛道者。所不應親近不應供養恭敬。何以故。須菩提。當知是人墮增上慢。以是故。若菩薩摩訶薩。欲不捨一切智。欲得阿耨多羅三藐三菩提。一心欲求阿耨多羅三藐三菩提。欲利益一切衆生。不應親近是人恭敬供養。菩薩摩訶薩法常應勤求自利厭患世間。心常遠離三界。於是人當起慈悲喜捨心。我行菩薩道不應生如是過罪。若生當疾滅。須菩提。菩薩摩訶薩當善覺是事。是事中善自勉出。復次須菩提。菩薩摩訶薩深心欲得阿耨多羅三藐三菩提者。當親近恭敬供養善知識。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩善知識。佛告須菩提。諸佛是菩薩摩訶薩善知識。諸菩薩摩訶薩亦是菩薩善知識。須菩提。阿羅漢亦是菩薩善知識。是爲菩薩摩訶薩善知識。復次須菩提。六波羅蜜亦是菩薩善知識。四念處乃至十八不共法亦是菩薩善知識。須菩提。如實際法性亦是菩薩善知識。須菩提。六波羅蜜是菩薩。世尊。六波羅蜜是菩薩摩訶薩道。六波羅蜜是大明。六波羅蜜是炬。六波羅蜜是智。六波羅蜜是慧。六波羅蜜是救。六波羅蜜是歸。六波羅蜜是洲。六波羅蜜是究竟道。六波羅蜜是父是母。四念處乃至一切種智亦如是。何以故。六波羅蜜三十七道法。亦是過去諸佛父母。六波羅蜜三十七道法。亦是未來現在十方諸佛父母。何以故。須菩提六波羅蜜三十七道法中。生過去未來現在十方諸佛故。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。淨佛國土成就衆生。當學六波羅蜜三十七道法。及四攝法攝取衆生。何等四。布施愛語利益同事。須菩提。以是利益故。我言六波羅蜜及三十七道法是諸菩薩摩訶薩。世尊。是道是大明是炬是智是慧是救是歸是洲是究竟道是父是母。須菩提。以是故。菩薩摩訶薩欲不隨他人教住。欲斷一切衆生疑。欲淨佛國土成就衆生。當學是般若波羅蜜。所以者何。是般若波羅蜜中廣說諸法。是菩薩摩訶薩所應學處。爾時須菩提白佛言。世尊。何等是般若波羅蜜相。佛告須菩提。如虛空相是般若波羅蜜相。須菩提。般若波羅蜜無所有相。須菩提白佛言。世尊。頗有因緣如般若波羅蜜相。諸法相亦如是耶。佛告須菩提。如是如是。如般若波羅蜜相諸法相亦如是。何以故。須菩提。一切法離相自性空相。以是因緣故。須菩提。如般若波羅蜜相諸法相亦如是。所謂離相空

相故。須菩提白佛言。世尊。若一切法一切法離。一切法一切法空。云何知衆生若垢若淨。世尊。離相法無垢無淨。空相法無垢無淨。離相空相法不能得阿耨多羅三藐三菩提。離相空相無法可得。世尊。離相中空相中無有菩薩得阿耨多羅三藐三菩提者。世尊。我云何當知佛所說義。佛告須菩提。於汝意云何。是衆生長夜行我我所心不。如是世尊。衆生長夜行我我所心。於汝意云何。是我我所心離相不空相不。須菩提言。世尊。我我所心離相空相。於汝意云何。以此我我所心。衆生往來生死中不。如是世尊。以此我我所心。衆生往來生死中。如是須菩提。衆生往來生死中故知有垢惱。須菩提。若衆生無我我所心無著心。是衆生不復往來生死中。若不往來生死中則無垢惱。如是須菩提。衆生有淨。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩如是行爲不行色不行受想行識。爲不行四念處乃至八聖道分。爲不行內空乃至無法有法空。爲不行佛十力乃至一切種智。何以故。是法不可得。亦無行者亦無行處亦無行法。世尊。菩薩摩訶薩如是行。一切世間諸天人阿修羅。不能降伏。是菩薩摩訶薩。一切聲聞辟支佛所不能及。何以故。所住處無能及故。所謂菩薩位。世尊。是菩薩摩訶薩行應薩婆若心無能及者。須菩提。菩薩摩訶薩如是行疾近薩婆若。須菩提。於汝意云何。若閻浮提衆生盡得人身。得人身已皆得阿耨多羅三藐三菩提。若有善男子善女人。盡其形壽供養恭敬尊重讚歎。持是善根迴向阿耨多羅三藐三菩提。是人以是因緣得福多不。須菩提言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人。於大衆中說是般若波羅蜜。顯示分別照明開演。亦應般若波羅蜜行正憶念其福多。乃至三千大千世界中衆生亦如是。須菩提。於汝意云何。閻浮提中衆生一時皆得人身。得人身已若善男子善女人。教行十善道四禪四無量心四無色定。教令得須陀洹道乃至阿羅漢辟支佛道。教令得阿耨多羅三藐三菩提。持是善根迴向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。於汝意云何。是善男子善女人得福多不。須菩提言。甚多世尊。佛言。不如是善男子善女人。以是甚深般若波羅蜜爲衆生說。顯示分別照明開演。亦不離薩婆若得福多。乃至三千大千世界亦如是。是菩薩摩訶薩不遠離應薩婆若心。則到一切福田邊。何以故。除諸佛無有餘法如菩薩摩訶薩勢力。何以故。諸菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。於一切衆生中起大慈心。見諸衆生趣死地故而起大悲。行是道時歡悅而生大喜。不與想俱便得大捨。須菩提。是爲菩薩摩訶薩

修宋元俱作脩

顯三本俱作出

須上宋有是字
行上元明俱無常字
忘三本俱作亡

大智光明。大智明者。所謂六波羅蜜。須菩提。是諸善男子善女人雖未作佛。能為一切衆生作大福田。於阿耨多
羅三藐三菩提亦不轉。所受供養衣服飲食臥床疾藥資生所須。行應般若波羅蜜念。能必報施主之恩。疾近薩
婆若。以是故須菩提。若菩薩摩訶薩欲不虛食國中施。欲示衆生三乘道。欲為衆生作大明。欲拔出三界牢獄。欲
與一切衆生眼。應常行般若波羅蜜。常行般若波羅蜜時。若欲有所說但說般若波羅蜜。說般若波羅蜜已。常憶
念般若波羅蜜常憶念般若波羅蜜已。常行般若波羅蜜。不令餘念得生。晝夜勤行般若波羅蜜相應念不息不
休。須菩提。譬如士夫未曾得摩尼珠後時得。得已大歡喜踊躍。後復失之便大憂愁。常憶念是摩尼珠。作是念我
奈何忽忘此大寶。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。常憶念般若波羅蜜。不離薩婆若心。須菩提白佛言。世尊。一切念
性自離。一切念性自空。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不離應薩婆若念。是遠離空法中無菩薩亦無念。無應
薩婆若。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩如是知一切法性自離。一切法性自空。非聲聞辟支佛作亦非佛作。諸法相
常住法相法住法位如實際。是名菩薩行般若波羅蜜不離薩婆若念。何以故。般若波羅蜜性自離性自空不增
不減故。須菩提白佛言。世尊。若般若波羅蜜性自離性自空。云何菩薩摩訶薩與般若波羅蜜等。得阿耨多羅三
藐三菩提。佛告須菩提。菩薩摩訶薩與般若波羅蜜等不增不減。何以故。如法性實際不增不減故。所以者何。般
若波羅蜜非一非異故。若菩薩聞如是般若波羅蜜相。心不驚不沒不畏不怖不疑。須菩提。當知是菩薩摩訶薩
行般若波羅蜜。當知是菩薩摩訶薩必住阿惟越致地中。須菩提白佛言。世尊。般若波羅蜜空無所有不堅固。是
行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。離空更有法行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。是般若波羅蜜行般若波
羅蜜不。不也須菩提。世尊。離般若波羅蜜行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。色是行般若波羅蜜不。不也須菩
提。世尊。受想行識是行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。六波羅蜜是行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。四念
處乃至十八不共法。是行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。色空相虛誑不實無所有不堅固相。色如相法相法
住法位實際。是行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。受想行識乃至十八不共法。空相虛誑不實無所有不堅固
相。如相法相法住法位實際。是行般若波羅蜜不。不也須菩提。世尊。若是諸法皆不行般若波羅蜜。云何行名菩

薩摩訶薩行般若波羅蜜。佛告須菩提。於汝意云何。汝見有法行般若波羅蜜者不。不也世尊。須菩提。汝見般若波羅蜜菩薩摩訶薩可行處不。不也世尊。須菩提。汝所不見法。是法可得不。不也世尊。須菩提。若法不可得是法當生不。不也世尊。須菩提。是名菩薩摩訶薩無生法忍。菩薩摩訶薩成就是忍。得受阿耨多羅三藐三菩提記。須菩提。是名諸佛無所畏無礙智。菩薩摩訶薩行是法勤精進。若不得大智一切種智。所謂阿耨多羅三藐三菩提智。若不得者無有是處。何以故。是菩薩摩訶薩得無生法忍故。乃至阿耨多羅三藐三菩提不滅不退。須菩提白佛言。世尊。諸法無生相。此中得阿耨多羅三藐三菩提記不。不也須菩提。世尊。諸法生相此中得阿耨多羅三藐三菩提記不。不也須菩提。世尊。|諸法非生非不生相。|得阿耨多羅三藐三菩提記不。不也須菩提。世尊。諸菩薩摩訶薩云何知諸法。得阿耨多羅三藐三菩提記。佛告須菩提。汝見有法得阿耨多羅三藐三菩提記不。不也世尊。我不見有法得阿耨多羅三藐三菩提記。我亦不見法有得者得處。佛言。如是如是。須菩提。若菩薩摩訶薩於一切法無所得時。不作是念。我當得阿耨多羅三藐三菩提。用是事得阿耨多羅三藐三菩提。是名阿耨多羅三藐三菩提處。何以故。諸菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。無諸憶想分別。所以者何。般若波羅蜜中無諸分別憶想故

摩訶般若波羅蜜經卷第|十八|

諸法下元明俱有生無生相此中得阿耨多羅三藐三菩提記不不也須菩提世尊諸法二十七字〇得上三本俱有此中二字

經題三本俱作二十一

品目魔愁宋作學

因下三本俱有言字

勝上同有倘字

修同作脩下同

摩訶般若波羅蜜經卷第十九

（麗海三宋藏三元藏三明藏）

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

魔愁品第六十二 丹云同學品

爾時釋提桓因白佛言.世尊.是般若波羅蜜甚深難見.無諸憶想分別畢竟離故.世尊.是衆生聞是般若波羅蜜.能持讀誦說正憶念.親近如說行乃至阿耨多羅三藐三菩提.不離餘心心數法者.不從小功德來.佛言.如是如是.聞是深般若波羅蜜.乃至不離餘心心數法者.不從小功德來.憍尸迦.於汝意云何.若閻浮提衆生.成就十善道四禪四無量心四無色定.復有善男子善女人受持深般若波羅蜜.讀誦親近正憶念如說行.勝於閻浮提衆生成就十善道乃至四無色定.百倍千倍千萬億倍.乃至算數譬喩所不能及.爾時有一比丘語釋提桓因.憍尸迦.是善男子善女人行般若波羅蜜功德勝於仁者.釋提桓因言.是善男子善女人一發心勝於我.何況聞是般若波羅蜜.書持讀誦正憶念如說行.是善男子善女人行般若波羅蜜非但勝我.亦勝一切世間天及人阿修羅.非但勝一切世間天及人阿修羅.亦勝諸須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛.非但勝是須陀洹乃至辟支佛.亦勝菩薩行五波羅蜜遠離般若波羅蜜者.非但勝菩薩行五波羅蜜遠離般若波羅蜜者.亦勝菩薩行般若波羅蜜無方便力者.是菩薩摩訶薩如說行般若波羅蜜.不斷佛種常見諸佛.疾近道場.菩薩如是行.爲欲拔出衆生沈沒長流者.是菩薩如是學.爲不學聲聞辟支佛學.菩薩如是學.四天王天來至菩薩所.如是言.善男子.當勤疾學坐道場成阿耨多羅三藐三菩提時.如過去諸佛所受四鉢.亦當應受.我當持來奉上菩薩.及諸餘天四天王天三十三天.夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天.梵天乃至首陀會天.亦當供養.十方諸佛.亦當念是菩薩摩訶薩如說行是深般若波羅蜜者.是菩薩諸所有世間衰惱勤苦之事.永無復有.一切世間有四百四病.是菩薩身中無是諸病.以行深般若波羅蜜故得是現世功德.爾時阿難作是念.釋提桓因自以力說耶.以佛神力說

乎。釋提桓因知阿難意所念。語阿難言。我之所說皆佛威神。佛告阿難。如是如是。釋提桓因所說皆佛威神。阿難。是菩薩摩訶薩習學是深般若波羅蜜時。三千大千世界中諸惡魔皆生狐疑。今是菩薩爲當得阿耨多羅三藐三菩提。當中道於實際作證。墮聲聞辟支佛地。復次阿難。若菩薩摩訶薩不離般若波羅蜜時。魔復大愁毒如箭入心。是時魔復放大火風四方俱起。欲令菩薩心沒恐怖懈怠。於薩婆若中乃至起一亂念。阿難白佛言。世尊。魔爲都嬈亂諸菩薩。有不嬈亂者。佛告阿難。有嬈者有不嬈者。阿難白佛言。世尊。何等菩薩爲惡魔所嬈。佛言。有菩薩摩訶薩。先世聞是深般若波羅蜜心不信解。如是菩薩魔得其便。復次阿難。菩薩聞說是深般若波羅蜜時意疑。是般若波羅蜜爲實有爲實無。如是菩薩魔得其便。復次阿難。有菩薩遠離善知識。爲惡知識所攝故。不聞深般若波羅蜜。不聞故不知不見不問。云何應行般若波羅蜜。云何應修般若波羅蜜。是菩薩惡魔得其便。復次阿難。若菩薩遠離般若波羅蜜受惡法。是菩薩爲惡魔得便。魔作是念。是輩當有伴黨當滿我願。是菩薩自墮二地。亦使他人墮於二地。復次阿難。若菩薩聞說深般若波羅蜜時。語他人言。是般若波羅蜜甚深我尚不能得底。汝復用聞用學是般若波羅蜜。爲如是菩薩魔得其便。復次阿難。若菩薩輕餘菩薩言。我行般若波羅蜜行遠離空。汝無是功德。是時惡魔大歡喜踊躍。若有菩薩自恃名姓多人知識故輕餘行善菩薩。是人無實阿惟越致行類相貌功德。無是功德故生諸煩惱。但著虛名故輕賤餘人言。汝不在如我所得法中。爾時惡魔作是念。今我境界宮殿不空增益三惡道。惡魔助其威力令餘人信受其語。信受其語故受行其經。如說修學。如說修學時增益諸結使。是諸人心顚倒故身口意業所作皆受惡報。以是因緣增益三惡道。魔之眷屬宮殿益多。阿難。魔見是利故大歡喜踊躍。阿難。若行菩薩道者。與求聲聞道家共諍鬪。魔作是念。是遠離薩婆若。阿難。若菩薩菩薩共諍鬪瞋恚罵詈。是時惡魔便大歡喜踊躍言。兩離薩婆若遠。復次阿難。若未受記菩薩向得記菩薩。生惡心諍鬪罵詈。隨起念多少劫若干劫數。若不捨一切種智。然後乃補爾所劫大莊嚴。阿難白佛言。世尊。是惡心乃經爾所劫數。於其中間寧得出除不。佛言阿難。我雖說求菩薩道及聲聞人得出罪。阿難。若求菩薩道人。共諍鬪瞋恚罵詈懷恨。不悔不捨者我不說有出。必當更爾所劫數。若不捨一切種智然後乃大莊嚴。阿難。若是菩薩鬪諍瞋恚罵詈。

魔下元明俱無復字

惟越三本俱作鞞跋下同

言同作告

更下明有受字

紅三本俱作船

輪下同有轉字

生下同無中字

○躃宋作辟元明俱作躄

便自改悔作是念我爲大失。我當爲一切衆生下屈。今世後世皆使和解。我當忍受一切衆生罵賤。如橋梁如聾如瘂。云何以惡語報人。我不應壞是甚深阿耨多羅三藐三菩提心。我得阿耨多羅三藐三菩提時。應當度是一切苦惱衆生。云何當起瞋恚。阿難白佛言。世尊。菩薩菩薩共住云何。佛告阿難。菩薩菩薩共住。相視當如世尊。何以故。是菩薩摩訶薩應作是念。是我眞伴共乘一舡。彼學我學所謂檀那波羅蜜乃至一切種智。若是菩薩雜行離薩婆若心。我不應如是學。若是菩薩不雜行不離薩婆若心。我亦應如是學。菩薩摩訶薩如是學者是爲同學

摩訶般若波羅蜜經等學品第六十三

須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩等法。菩薩所應學。須菩提。內空是菩薩等法。外空乃至無法有法空。是菩薩等法。須菩提。色色相空。受想行識識相空。乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空。須菩提。是名菩薩摩訶薩等法。住是等法得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩爲色盡故學。爲學薩婆若。爲色離故學無色滅故學。爲學薩婆若。爲色不生故學爲學薩婆若。受想行識亦如是。修行四念處乃至十八不共法盡離滅不生故學爲學薩婆若。佛告須菩提。如須菩提所說。爲色盡離滅不生故學爲學薩婆若。受想行識乃至十八不共法盡離滅不生故學爲學薩婆若。佛告須菩提。於汝意云何。色如受想行識如。乃至阿耨多羅三藐三菩提如佛如。是諸如盡滅斷不。須菩提言。不也世尊。佛告須菩提。菩薩摩訶薩如是學如爲學薩婆若。是如不作證不滅不斷。須菩提。菩薩摩訶薩如是學如爲學薩婆若。須菩提。菩薩摩訶薩如是學爲學六波羅蜜。爲學四念處乃至十八不共法。若學六波羅蜜乃至十八不共法爲學薩婆若。須菩提。如是學爲學盡諸學邊。如是學魔若魔天所不能壞。如是學直到阿惟越致地。如是學爲學佛所行道。如是學爲得擁護法。爲學大慈大悲。爲學淨佛國土成就衆生。須菩提。如是學爲學三轉十二行法輪故。如是學爲學度衆生。如是學爲學不斷佛種。如是學爲學開甘露門。如是學爲學欲示無爲性。須菩提。下劣之人不能作是學。如是學者。爲欲拔沈沒生死衆生。菩薩摩訶薩如是學。終不墮地獄餓鬼畜生中。終不生邊地。終不生旃陀羅家。終不聾盲瘖瘂拘躃諸根不

在明作住次同

缺。眷屬成就終不孤窮。菩薩如是學。終不殺生乃至終不邪見。如是學不作邪命活。不攝惡人及破戒者。如是學
以方便力故不生長壽天。何等是方便力。如般若波羅蜜品中所說。菩薩摩訶薩以方便力故。入四禪四無量心
四無色定。不隨禪無量無色定生。須菩提。菩薩如是學一切法。中得清淨。所謂淨聲聞辟支佛心。須菩提白佛言
世尊。一切法本性清淨。云何言菩薩一切法中得清淨。佛告須菩提。如是如是。一切諸法本性清淨。若菩薩摩訶
薩於是法中。心通達不沒。即是般若波羅蜜。如是諸法一切凡夫人不知不見。菩薩摩訶薩爲是衆生故。行檀那
波羅蜜乃至般若波羅蜜。行四念處乃至一切種智。須菩提。菩薩如是學。於一切法中得智力無所畏。如是學爲
了知一切衆生心所趣向。譬如大地少所處出金銀珍寶。須菩提。衆生亦如是。少所人能學般若波羅蜜。多墮聲
聞辟支佛地。須菩提。譬如少所人受行轉輪聖王業。多受行小王業。如是須菩提。少所衆生行般若波羅蜜求一
切智。多行聲聞辟支佛道。須菩提。諸菩薩摩訶薩發心求阿耨多羅三藐三菩提中少有如說行。多住聲聞辟支
佛地。多有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。無方便力故少所人住阿惟越致地。須菩提。以是故菩薩摩訶薩欲在阿
惟越致地。欲在阿惟越致數中。應當學是深般若波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩學是般若波羅蜜時。不生慳
貪心。不生破戒瞋恚懈怠散亂愚癡心。不生諸餘過失心。不生取色相心取受想行識相心。不生取四念處相心。
乃至不生取阿耨多羅三藐三菩提相心。何以故。是菩薩摩訶薩行是深般若波羅蜜無有法可得。以不可得故
於諸法不生心取相。須菩提。菩薩摩訶薩如是學深般若波羅蜜總攝諸波羅蜜。令諸波羅蜜增長。諸波羅蜜悉
隨從。何以故。須菩提。是深般若波羅蜜諸波羅蜜悉入中。須菩提。譬如我見中悉攝六十二見。如是須菩提。是深
般若波羅蜜悉攝諸波羅蜜。須菩提。譬如人死命根滅故餘根悉隨滅。如是須菩提。菩薩摩訶薩行深般若波羅
蜜時。諸波羅蜜悉隨從。須菩提。菩薩摩訶薩欲令諸波羅蜜度彼岸。應學深般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩學
是深般若波羅蜜者。出一切衆生之上。須菩提。於汝意云何。三千大千世界中衆生多不。須菩提言。一閻浮提中
衆生尚多。何況三千大千世界。佛告須菩提。若三千大千世界中衆生一時皆得人身。悉得阿耨多羅三藐三菩
提。若有菩薩形盡壽供養爾所佛衣服飲食臥具湯藥資生所須。須菩提。於汝意云何。是人以是因緣故得福德

多不。須菩提言。甚多甚多。佛言。不如是善男子善女人學般若波羅蜜如說行正憶念得福多。何以故。般若波羅蜜有勢力。能令菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。以是故菩薩摩訶薩欲出一切衆生之上。當學般若波羅蜜。欲爲無救護衆生作救護。欲與無歸依衆生作歸依。欲與無究竟道衆生作究竟道。欲與盲者作目。欲得佛功德。欲作諸佛自在遊戲。欲作諸佛師子吼。欲撞擊佛鍾鼓。欲吹佛貝。欲昇佛高座說法。欲斷一切衆生疑。當學深般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩若學深般若波羅蜜。諸善功德無事不得。須菩提白佛言。世尊。寧復得聲聞辟支佛功德不。佛言。聲聞辟支佛功德皆能得。但不於中住。以智觀已。直過入菩薩位中。須菩提。菩薩摩訶薩如是學。近薩婆若。疾得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩摩訶薩如是學。爲一切世間天及人阿修羅作福田。須菩提。菩薩摩訶薩如是學。過諸聲聞辟支佛福田之上。疾近薩婆若。須菩提。菩薩摩訶薩如是學。是名不捨不離般若波羅蜜。常行般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩如是學深般若波羅蜜。當知是不退轉菩薩。疾近薩婆若。遠離聲聞辟支佛。近阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。若作是念是般若波羅蜜。我以是般若波羅蜜得一切智。若如是念。不名行般若波羅蜜。須菩提。若不作是念。是般若波羅蜜。是人般若波羅蜜。是般若波羅蜜法。是人行是般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。是名行般若波羅蜜。須菩提。若菩薩作是念。無是般若波羅蜜。無人有是般若波羅蜜。無有行是般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。一切法如法性實際常住故。如是行。是爲菩薩摩訶薩行般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經淨願品第六十四 丹隨喜品

爾時釋提桓因作是念。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜乃至十八不共法時。出一切衆生之上。何況得阿耨多羅三藐三菩提時。是諸衆生聞是薩婆若信解者。得人中之善利壽命中最。何況發阿耨多羅三藐三菩提意。是衆生能發阿耨多羅三藐三菩提意者。其餘衆生應當願樂。爾時釋提桓因以天文陀羅華而散佛上。發是言以是福德。若有求阿耨多羅三藐三菩提者。令此人

與三本俱作爲

德下同無不字

般上元明俱有有字

品目淨願三本俱作願樂隨喜四字

文元明俱作曼

許宋作所
世界三本俱作國土次同
終下明無無字〇念上元明俱有惡字〇土明作國次同
惟三本俱作維

具足佛法。具足一切智。具足自然法。若求聲聞者令具足聲聞法。世尊。若有菩薩發阿耨多羅三藐三菩提意者。我終不生一念令其轉還。我亦不生一念令其轉還墮聲聞辟支佛地。世尊。我願諸菩薩倍復精進於阿耨多羅三藐三菩提。見衆生生死中種種苦惱。欲利益安樂一切世間天及人阿修羅。以是心作是願。我既自度亦當度未度者。我既自脱當脱未脱者。我既安隱當安未安者。我既滅度當使未入滅度者得滅度。世尊。善男子善女人於初發意菩薩功德。隨喜心得幾許福德。於久發意菩薩功德。隨喜心得幾許福德。於阿惟越致菩薩功德。隨喜心得幾許福德。於一生補處菩薩功德。隨喜心得幾許福德。佛告釋提桓因言。憍尸迦。四天下國土可稱知斤兩。是隨喜福德不可稱量。復次憍尸迦。是三千大千世界皆可稱知斤兩。是隨喜心福德不可稱量。復次憍尸迦。三千大千世界滿中海水。取一髮破爲百分。以一分髮渧取海水可知渧數。是隨喜心福德不可數知。釋提桓因白佛言。世尊。若衆生心不隨喜阿耨多羅三藐三菩提者。皆是魔眷屬。諸心不隨喜者從魔中來生。何以故。世尊。是諸發隨喜心菩薩。爲破魔境界故生。是故欲愛敬三尊者應生隨喜心。隨喜已應迴向阿耨多羅三藐三菩提。以不一不二相故。佛言。如是如是。憍尸迦。若有人於菩薩心能如是隨喜迴向者。常値諸佛終不見惡色。終不聞惡聲。終不嗅惡香。終不食惡味。終不觸惡觸。終無不隨念。終不遠離諸佛。從一佛土至一佛土親近諸佛種善根。何以故。善男子善女人爲無量阿僧祇初發意菩薩。諸善根隨喜迴向。爲無量阿僧祇第二地第三地乃至第十地一生補處諸菩薩摩訶薩善根。隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提。以是善根因緣故疾近阿耨多羅三藐三菩提。是諸菩薩得阿耨多羅三藐三菩提已。度無量無邊阿僧祇衆生。憍尸迦。以是因緣故善男子善女人於初發意菩薩善根。應隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提。非心非離心。於久發意阿惟越致一生補處善根。隨喜迴向阿耨多羅三藐三菩提。非心非離心。須菩提白佛言。世尊。是心如幻。云何能得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。於汝意云何。汝見是心如幻不。不也世尊。我不見幻亦不見心如幻。須菩提。於汝意云何。若無幻亦無心如幻。汝見是心不。不也世尊。須菩提。於汝意云何。離幻離心如幻。汝見更有法得阿耨多羅三藐三菩提不。不也世尊。我不見離幻離心如幻更有法得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。我不見更有法何等法可説若有若無。是法相畢竟離

禪下三本俱有那字

故不墮有不墮無。若法畢竟離者。不能得阿耨多羅三藐三菩提。無所有法。亦不應得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。世尊。一切法無所有。是中無垢者無淨者。世尊。以是故。般若波羅蜜畢竟離。禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜畢竟離。乃至阿耨多羅三藐三菩提亦畢竟離。若法畢竟離則不應修不應壞。行般若波羅蜜亦無有法可得畢竟離故。世尊。若般若波羅蜜畢竟離者。云何因般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。阿耨多羅三藐三菩提亦畢竟離。二離中云何能有所得。佛告須菩提。善哉善哉。是般若波羅蜜畢竟離。禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜畢竟離。乃至一切種智畢竟離。須菩提。若般若波羅蜜畢竟離。乃至一切種智畢竟離。以是故能得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若般若波羅蜜非畢竟離。乃至一切種智非畢竟離。是不名般若波羅蜜。不名禪波羅蜜乃至一切種智。須菩提。若般若波羅蜜畢竟離。乃至一切種智畢竟離。以是故。須菩提。非不因般若波羅蜜得阿耨多羅三藐三菩提。亦不以離得離。而得阿耨多羅三藐三菩提。非不因般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩所行義甚深。佛言。如是須菩提。菩薩摩訶薩所行義甚深。須菩提。諸菩薩摩訶薩能爲難事。所謂行是深義。而不證聲聞辟支佛地。須菩提白佛言。世尊。如我從佛聞義。菩薩摩訶薩所行不爲難。何以故。是菩薩摩訶薩不得是義可作證。亦不得般若波羅蜜作證。亦無作證者。世尊。若一切法不可得。何等是義可作證。何等是般若波羅蜜作證。何等是作證者。作證已得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。是名菩薩摩訶薩無所得行。菩薩行是於一切法皆得明了。世尊。若菩薩摩訶薩聞是法心不驚不沒不怖不畏。是名爲行般若波羅蜜。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不見我行般若波羅蜜。亦不見是般若波羅蜜。亦不見我當得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不作是念聲聞辟支佛地去我遠。薩婆若去我近。世尊。譬如虛空不作是念。有法去我遠去我近。何以故。世尊。虛空無分別故。世尊。行般若波羅蜜菩薩亦不作是念。聲聞辟支佛地去我遠。薩婆若去我近。何以故。般若波羅蜜中無分別故。世尊。譬如幻人不作是念。幻師去我近觀人去我遠。何以故。幻人無分別故。行般若波羅蜜菩薩不作是念。聲聞辟支佛地去我遠。薩婆若去我近。世尊。譬如鏡中像不作是念。所因者去我近。餘者去我遠。何以故。像無分別故。行般若

波羅蜜菩薩亦不作是念。聲聞辟支佛地去我遠。薩婆若去我近。何以故。般若波羅蜜中無分別故。世尊。行般若波羅蜜菩薩無愛無憎。何以故。般若波羅蜜自性不可得故。世尊。譬如佛無愛無憎。行般若波羅蜜菩薩無愛無憎亦如是。何以故。般若波羅蜜中無憎無愛故。世尊。譬如佛一切分別想斷。行般若波羅蜜菩薩亦如是。一切分別想斷畢竟空故。世尊。譬如佛所化人不作是念。聲聞辟支佛去我遠。阿耨多羅三藐三菩提去我近。何以故。佛所化人無分別故。行般若波羅蜜菩薩亦如是。不作是念。聲聞辟支佛去我遠。阿耨多羅三藐三菩提去我近。世尊。譬如有所爲故作化。所化事無分別。世尊。般若波羅蜜亦如是。有所爲事而修是事成就。而般若波羅蜜亦無分別。世尊。譬如工匠若工匠弟子有所爲故。作木人若男若女象馬牛羊。是所作亦能有所作。是牛馬無分別。世尊。般若波羅蜜亦如是。有所爲故說是事成就。而般若波羅蜜亦無分別。舍利弗問須菩提。但般若波羅蜜無分別。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜亦無分別。須菩提語舍利弗。禪那波羅蜜無分別。乃至檀那波羅蜜亦無分別。舍利弗問須菩提。色無分別乃至識亦無分別。眼乃至意無分別。色乃至法無分別。眼識觸乃至意識觸無分別。眼觸因緣生受乃至意觸因緣生受。四禪四無量心四無色定四念處。乃至八聖道分空無相無作。佛十力四無所畏四無礙智。大慈大悲十八不共法。阿耨多羅三藐三菩提無爲性亦無分別。須菩提。若色無分別。乃至無爲性無分別。若一切法無分別。云何分別有六道生死。是地獄是餓鬼是畜生是天是人是阿修羅。云何分別是須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛諸佛。須菩提報舍利弗。衆生顚倒因緣故。造作身口意業。隨欲本業報受六道身。地獄餓鬼畜生人天阿修羅身。如汝言。云何分別有須陀洹乃至佛道。舍利弗。須陀洹即是無分別故有。須陀洹果亦是無分別故有。乃至阿羅漢阿羅漢果。辟支佛辟支佛道佛佛道。亦是無分別故有。舍利弗。過去諸佛亦是無分別斷分別故有。以是故。舍利弗。當知一切法無有分別。不壞相諸法如法性實際故。舍利弗。如是菩薩摩訶薩應行無分別般若波羅蜜。行無分別般若波羅蜜已。便得無分別阿耨多羅三藐三菩提

摩訶般若波羅蜜經度空品第六十五　丹稱揚品

如下同有人字○所化同作化所作三字○無上三本俱有亦字

品目度空宋作稱揚

法上元明俱無深字

國土三本俱作世界

舍利弗語須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。爲行眞實法。爲行無眞實法。須菩提報舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。爲行無眞實法。何以故。是般若波羅蜜無眞實。乃至一切種智無眞實故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。無眞實不可得。何況眞實。乃至行一切種智。無眞實法不可得。何況眞實法。爾時欲色界諸天子作是念。諸有善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提意。如深般若波羅蜜所說義。行於等法不作實際證。不墮聲聞辟支佛地。應當爲作禮。須菩提語諸天子。諸菩薩摩訶薩於等法不證聲聞辟支佛地不爲難。諸菩薩摩訶薩大莊嚴。我當度無量無邊阿僧祇衆生。知衆生畢竟不可得而度衆生。是乃爲難。諸天子。諸菩薩摩訶薩發阿耨多羅三藐三菩提心。作是願我當度一切衆生。衆生實不可得。是人欲度衆生如欲度虚空。何以故。虚空離故當知衆生亦離。虚空空故當知衆生亦空。虚空無堅固當知衆生亦無堅固。虚空虚誑當知衆生亦虚誑。諸天子。以是因緣故當知菩薩所作爲難。爲利益無所有衆生故而大莊嚴。是人爲衆生結誓。爲欲與虚空共鬪。是菩薩結誓已。亦不得衆生而爲衆生結誓。何以故。衆生離故當知大誓亦離。衆生虚誑故當知大誓亦虚誑。若菩薩摩訶薩聞是深法心不驚不沒。當知是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。何以故。色離即是衆生離。受想行識離即是衆生離。色離即是六波羅蜜離。受想行識離即是六波羅蜜離。乃至一切種智離即是六波羅蜜離。若菩薩摩訶薩聞是一切諸法離相。心不驚不沒不怖不畏。當知是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。佛告須菩提。何因緣故。菩薩摩訶薩於深般若波羅蜜中心不沒。須菩提白佛言。世尊。般若波羅蜜無所有故不沒。般若波羅蜜離故不沒。般若波羅蜜寂滅故不沒。世尊。以是因緣故。菩薩於深般若波羅蜜中心不沒。何以故。是菩薩不得沒者。不得沒事不得沒處。是一切法皆不可得故。世尊。若菩薩摩訶薩聞是法。心不驚不沒不怖不畏。當知是菩薩爲行般若波羅蜜。何以故。沒者沒事沒處。是法皆不可得故。菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜。諸天及釋提桓因天。梵天王天及世界主天皆爲作禮。佛告須菩提。不但釋提桓因諸天梵王。及諸天世界主長諸天。禮是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜者。過是上光音天遍淨天廣果天淨居天。皆爲是菩薩摩訶薩作禮。須菩提。今現在十方無量諸佛。亦念是行般若波羅蜜菩薩摩訶薩。當知是菩薩爲如佛。須菩提。若如恒河沙等國土中衆生悉使爲魔。是一一魔復化作魔。如恒河沙

等魔。是一切魔不能留難菩薩行般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩成就二法魔。不能壞何等二。觀一切法空。不捨一切衆生。須菩提。菩薩成就此二法魔不能壞。復次須菩提。菩薩摩訶薩復有二法成就魔不能壞。何等二。所作如所言。亦爲諸佛所念。菩薩成就此二法魔不能壞。須菩提。菩薩如是行。是諸天皆來到菩薩所親近諮問。勸喩安慰作是言。善男子。汝疾得阿耨多羅三藐三菩提不久。善男子。汝當當行是空無相無作行。何以故。善男子。汝行是行。無護衆生汝爲作護。無依衆生爲作依。無救衆生爲作救。無究竟道衆生爲作究竟道。無歸衆生爲作歸。無洲衆生爲作洲。冥者爲作明。盲者爲作眼。何以故。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。十方現在無量阿僧祇諸佛。在大衆中說法時。自讃歎稱揚是菩薩摩訶薩名姓。言某甲菩薩成就般若波羅蜜功德。須菩提。如我今說法時。自稱揚寶相菩薩尸棄菩薩。復有諸菩薩摩訶薩在阿閦佛國中。行般若波羅蜜淨修梵行。我亦稱揚是菩薩名姓。須菩提。亦如東方現在諸佛說法時。是中有菩薩摩訶薩淨修梵行。佛亦歡喜自稱揚讃歎是菩薩。南西北方四維上下亦如是。復有菩薩從初發意。欲具足佛道乃至得一切種智。諸佛說法時亦歡喜。自稱揚讃歎是菩薩。何以故。是諸菩薩摩訶薩所行甚難不斷佛種行。須菩提白佛言。世尊。何等菩薩摩訶薩諸佛說法時自讃歎稱揚。佛告須菩提。阿惟越致菩薩。諸佛說法時自讃歎稱揚。須菩提言何等阿惟越致菩薩爲佛所讃。佛言。如阿閦佛爲菩薩時所行所學。諸菩薩亦如是學。是諸阿惟越致菩薩諸佛說法時歡喜讃歎。復次須菩提。有菩薩行般若波羅蜜。信解一切法無生未得無生忍法。信解一切法空未得無生忍法。信解一切法虛誑不實無所有不堅固。未得無生忍法。須菩提。如是等諸菩薩摩訶薩諸佛說法時歡喜自讃歎稱揚名字。須菩提。若諸菩薩摩訶薩諸佛說法時歡喜自讃歎者。是菩薩滅聲聞辟支佛地。當得阿耨多羅三藐三菩提記。須菩提。若菩薩摩訶薩諸佛說法時歡喜自讃歎者。是菩薩當住阿惟越致地。住是地已當得薩婆若。復次須菩提。菩薩摩訶薩聞是深般若波羅蜜。其心明利不疑不悔。作是念是事如佛所說。是菩薩亦當於阿閦佛及諸菩薩所。廣聞是深般若波羅蜜亦信解。信解已如佛所說。當住阿惟越致地。如是須菩提。但聞般若波羅蜜得大利益何況信解。信解已如說住如說行如說住。如說行已住一切種智中。須菩提白佛言。世尊。若佛說菩薩摩訶薩如所說住。如所說行住

冥宋作瞑

喜下三本俱有自字

字同作姓

蜜下同有時字

法下明有可得二字

無下三本俱有所字

薩婆若。若菩薩摩訶薩無所得法。云何住薩婆若。佛告須菩提。菩薩摩訶薩住諸法如中。住薩婆若。須菩提言。世尊。除如更無法可得誰住如中。住如中已當得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中當說法。如尚不可得。何況住如得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中而說法無有是處。佛告須菩提。如汝所言。除如更無法誰住如中。住如中已當得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中當說法如尚不可得。何況住如得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中而說法無有是處。佛言。如是如是。須菩提。除如更無有法可得誰住如中。住如中已當得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中當說法。如尚不可得。何況住如得阿耨多羅三藐三菩提。誰住如中而說法。何以故。是如生不可得滅不可得。住異不可得。若法生滅住異不可得是中誰當住如。誰當住如已得阿耨多羅三藐三菩提。誰當住如而說法無有是處。釋提桓因白佛言。世尊。諸菩薩摩訶薩所爲甚難。深般若波羅蜜中欲得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。世尊。無有如中住者。亦無當得阿耨多羅三藐三菩提者。亦無說法者。菩薩摩訶薩於是處。心不驚不沒不怖不畏不疑不悔。爾時須菩提語釋提桓因。汝憍尸迦。說菩薩摩訶薩所爲甚難。是甚深法中。心不驚不沒不怖不畏不疑不悔。憍尸迦。諸法空中誰驚誰沒誰怖誰畏誰疑誰悔。是時釋提桓因語須菩提。須菩提所說。但爲空事無罣礙。譬如仰射空中箭去無礙。須菩提。說法無礙亦如是

摩訶般若波羅蜜經卷第十九

摩訶般若波羅蜜經卷第二十

〔麗海〕〔宋鹹〕〔元鹹〕〔明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

爾時釋提桓因白佛言。世尊。我如是說如是答。爲隨順法不爲正答不。佛告釋提桓因言。憍尸迦。汝所說所答實皆隨順。釋提桓因言。希有世尊。須菩提所樂說。皆是爲空爲無相爲無作。爲四念處乃至爲阿耨多羅三藐三菩提。佛告釋提桓因。須菩提比丘行空時檀那波羅蜜不可得。何況行檀那波羅蜜者。乃至般若波羅蜜不可得何況行般若波羅蜜者。四念處不可得何況修四念處者。乃至八聖道分不可得何況修八聖道分者。禪解脫三昧定不可得何況修禪解脫三昧定者。佛十力不可得何況修佛十力者。四無所畏不可得何況能生四無所畏者。四無礙智不可得何況生四無礙智者。大慈大悲不可得何況行大慈大悲者。十八不共法不可得何況生十八不共法者。阿耨多羅三藐三菩提不可得何況得阿耨多羅三藐三菩提者。一切智不可得何況得一切智者。如來不可得何況當作如來者。無生法不可得何況得無生法作證者。三十二相不可得何況得三十二相者。八十隨形好不可得何況得八十隨形好者。何以故。憍尸迦。須菩提比丘一切法離行。一切法無所得行。一切法空行。一切法無相行。一切法無作行。憍尸迦。是爲須菩提比丘所行。欲比菩薩摩訶薩般若波羅蜜行者。百分不及一。千分千萬億分乃至算數譬喩所不能及。何以故。除佛行。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。於聲聞辟支佛諸行中最尊最妙最上。以是故。菩薩摩訶薩欲得於一切衆生中最上。當行是般若波羅蜜行。何以故。憍尸迦。諸菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。過聲聞辟支佛地。入菩薩位。能具足佛法得一切種智。斷一切煩惱習作佛。

累教品第六十六 丹囑累品

是時會中諸三十三天。以天曼陀羅華散佛及僧。是時八百比丘從座起以華散佛。偏袒右肩合掌右膝著地白佛言。世尊。我等當行是無上行聲聞辟支佛所不能行。爾時佛知諸比丘心行。便微笑如諸佛法。種種色光青黃赤白紅縹從

經題二十同作二十二

品目累教同作囑累

因下同有言字

無上同無爲字

是下三本俱無時字

曇宋作文

口中出。遍照三千大千世界。繞佛三匝還從頂入。爾時阿難偏袒右肩右膝著地白佛言。世尊。何因緣微笑。諸佛
不以無因緣而笑。佛告阿難。是八百比丘於星宿劫中。當得阿耨多羅三藐三菩提。佛名散華。皆同一字。比丘僧
國土壽命皆等。各各過十萬歳出家作佛。是時諸國土常雨五色天華。以是故。阿難。菩薩摩訶薩欲行最上行。應
當行般若波羅蜜。佛告阿難。若有善男子善女人能行是深般若波羅蜜。當知是菩薩人中死此間生。若兜率天
上死來生此間。若人中若兜率天上廣聞是深般若波羅蜜。阿難。我見是諸菩薩摩訶薩能行是深般若波羅蜜。
阿難。若有善男子善女人。聞是深般若波羅蜜受持讀誦親近正憶念。轉復以般若波羅蜜教行菩薩道者。當知
是菩薩面從佛聞深般若波羅蜜。乃至親近亦從諸佛種善根。善男子善女人當作是念。我等非聲聞所種善根。
亦不從聲聞所聞是深般若波羅蜜。阿難。若有善男子善女人受持是深般若波羅蜜。讀誦親近隨義隨法行。當
知是善男子善女人則爲面見佛。阿難。若有善男子善女人聞是深般若波羅蜜。信心清淨不可沮壞。當知是善
男子善女人曾供養佛種善根與善知識相得。阿難。念諸佛福田種善根。雖不虚誑。要得聲聞辟支佛而得解脱。
應當深了了行六波羅蜜乃至一切種智。阿難。若菩薩深了了行六波羅蜜乃至一切種智。是人若住聲聞辟支
佛道。不得阿耨多羅三藐三菩提無有是處。是故阿難。我以般若波羅蜜囑累汝。阿難。汝若受持一切法。除般若
波羅蜜若忘若失其過小小無有大罪。阿難。汝受持深般若波羅蜜若失一句其過甚大。阿難。汝若受持深般若
波羅蜜還忘失其罪甚多。以是故。阿難。囑累汝是深般若波羅蜜。汝當善受持讀誦令利。阿難。若有善男子善女
人受持般若波羅蜜。則爲受持過去未來現在諸佛阿耨多羅三藐三菩提。阿難。若善男子善女人現在供養我
恭敬尊重讚歎華香瓔珞擣香澤香衣服幡蓋。應當受持般若波羅蜜讀誦説。親近供養恭敬尊重讚歎華香乃
至幡蓋。阿難。供養般若波羅蜜。則爲供養我。亦供養過去未來現在佛已。若有善男子善女人聞説深般若波羅
蜜。信心清淨恭敬愛樂。則爲信心清淨恭敬愛樂過去未來現在諸佛已。阿難。汝愛樂佛不捨離。當愛樂般若波
羅蜜莫捨離。阿難。深般若波羅蜜乃至一句不應令失。阿難。我説囑累因緣甚多。今但略説。如我爲世尊。般若波
羅蜜亦是世尊。以是故。阿難。種種因緣囑累汝般若波羅蜜。阿難。今我於一切世間天人阿修羅中囑累汝諸欲

教下三本俱有化字
念明作於
失上元明俱有忘字
修三本俱作脩下同

六上同無阿難二字得上同有當字

句下元明俱無義字

陀三本俱作那〇漏已盡無復同作諸漏盡無〇俱同作好

不捨佛不捨法不捨僧。不捨過去未來現在諸佛阿耨多羅三藐三菩提者。愼莫捨般若波羅蜜。阿難。是我所教化弟子法。阿難。若善男子善女人受持深般若波羅蜜。讀誦說正憶念。復爲他人種種廣說其義。開示演暢分明令易解。是善男子善女人疾得阿耨多羅三藐三菩提。疾近薩婆若。何以故。般若波羅蜜中生諸佛阿耨多羅三藐三菩提。阿難。過去未來諸佛阿耨多羅三藐三菩提。皆從般若波羅蜜中生。今現在東方南方西方北方四維上下諸佛阿耨多羅三藐三菩提。亦從般若波羅蜜生。以是故。阿難。諸菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。應當學六波羅蜜。何以故。阿難。六波羅蜜是菩薩摩訶薩母。生諸菩薩故。阿難。若有菩薩摩訶薩學是六波羅蜜。皆得阿耨多羅三藐三菩提。以是故。我以六波羅蜜倍復囑累汝。阿難。是六波羅蜜是諸佛無盡法藏。阿難。十方諸佛現在說法。皆從六波羅蜜法藏中出。過去諸佛亦從六波羅蜜中。學得阿耨多羅三藐三菩提。未來諸佛亦從六波羅蜜中。學得阿耨多羅三藐三菩提。過去未來現在諸佛弟子。皆從六波羅蜜中學得滅度。已得今得當得滅度。阿難。汝爲聲聞人說法。令三千大千世界中衆生。皆得阿羅漢果證。猶未爲我弟子事。汝若以般若波羅蜜相應一句義。教菩薩摩訶薩則爲我弟子事。我亦歡喜勝教三千大千世界中衆生令得阿羅漢。復次阿難。是三千大千世界中衆生。不前不後一時皆得阿羅漢果證。是諸阿羅漢。行布施功德持戒禪定功德。是功德多不。阿難言。甚多世尊。佛言。不如弟子以般若波羅蜜相應法。爲菩薩摩訶薩說乃至一日其福甚多。置一日但半日。置半日但一食頃。置一食頃但須臾間說。其福甚多。何以故。菩薩摩訶薩善根勝一切聲聞辟支佛故。菩薩摩訶薩自欲得阿耨多羅三藐三菩提。亦示教利喜他人令得阿耨多羅三藐三菩提。阿難。如是菩薩行六波羅蜜。行四念處乃至行一切種智。增益善根若不得阿耨多羅三藐三菩提。無有是處。說是般若波羅蜜品時。佛在四衆中天人龍鬼神緊陀羅摩睺羅伽等。於大衆前而現神足變化。一切大衆皆見阿閦佛。比丘僧圍繞說法。大衆譬如大海水。皆是阿羅漢漏已盡無復煩惱皆得自在得俱解脫心解脫慧解脫。其心調柔譬如大象。所作已辦逮得已利。盡諸有結正智得解脫。一切心心數法中得自在。及諸菩薩摩訶薩無量功德成就。爾時佛攝神足。一切大衆不復見阿閦佛聲聞人菩薩摩訶薩。及其國土不與眼作對。何以故。佛攝神足故。爾時佛告阿難。如是阿難。

知三本俱作見 ○見同作知

諸上同有是字

閡智明作礙知

羅三本俱作隣 下同

品目無同作不 可二字

一切法不與眼作對。法法不相見。法法不相知。如是阿難。如阿閦佛弟子菩薩國土。不與眼作對。如是阿難。一切法不與眼作對。法法不相知。法法不相見。何以故。一切法。無知無見無作無動。不可提不可思議。如幻人無受無覺無眞實。菩薩摩訶薩如是行。爲行般若波羅蜜亦不著諸法。阿難。菩薩摩訶薩如是學。名爲學般若波羅蜜。欲得諸波羅蜜當學般若波羅蜜。何以故。如是學名爲第一學最上學微妙學。如是學安樂利益一切世間。無護者爲作護。如是學諸佛所學。諸佛住是學中。能以右手擧三千大千世界還著本處。是中衆生無覺知者。何以故。阿難。諸佛學是般若波羅蜜。過去未來現在法中得無閡智見。阿難。般若波羅蜜。於諸學中最尊第一微妙無上。阿難。有人欲得般若波羅蜜邊際。爲欲得虛空邊際。何以故。阿難。般若波羅蜜無有量。我初不說般若波羅蜜量。名衆句衆字衆是有量。般若波羅蜜無有量。阿難白佛言。世尊。般若波羅蜜。何以故。無有量。佛告阿難。般若波羅蜜無盡故無有量。般若波羅蜜離故無有量。阿難。過去諸佛皆學是般若波羅蜜得度。是般若波羅蜜故不盡。未來世諸佛亦學是般若波羅蜜得度。是般若波羅蜜故不盡。現在十方諸佛皆學是般若波羅蜜得度。是般若波羅蜜故不盡。已不盡今不盡當不盡。阿難。欲盡般若波羅蜜爲欲盡虛空。般若波羅蜜不可盡。已不盡今不盡當不盡。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜不可盡。已不盡今不盡當不盡。乃至一切種智亦如是。何以故。是一切法皆無生。若法無生云何有盡。爾時佛出覆面舌相。告阿難。從今日於四衆中廣演開示分別般若波羅蜜。當令分明易解。何以故。是深般若波羅蜜中廣說諸法相。是中求聲聞辟支佛乘佛者皆當於中學。學已各得成就。阿難。是深般若波羅蜜則是一切字門。行是深般若波羅蜜。能入陀羅尼門。學是陀羅尼諸菩薩得一切樂說辯才。阿難。般若波羅蜜是三世諸佛妙法。以是故。阿難。我爲汝了了說。若有人受持深般若波羅蜜讀誦親近。是人則能持三世諸佛阿耨多羅三藐三菩提。阿難。我說般若波羅蜜是行者足。汝持是般若波羅蜜。得陀羅尼故則能持一切諸法

摩訶般若波羅蜜經無盡品第六十七

是上三本俱有如字

蜜下同無應字

爾時須菩提作是念。是諸佛阿耨多羅三藐三菩提甚深。我當問佛。作是念已。白佛言。世尊。是般若波羅蜜不可盡。佛言。虛空不可盡故。般若波羅蜜不可盡。世尊。云何應生般若波羅蜜。佛言。色不可盡故。般若波羅蜜應生。受想行識不可盡故。般若波羅蜜應生。檀那波羅蜜不可盡故。般若波羅蜜應生。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜不可盡故。般若波羅蜜應生。乃至一切種智不可盡故。般若波羅蜜應生。復次須菩提。癡空不可盡故。菩薩摩訶薩般若波羅蜜應生。行空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。識空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。名色空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。六處空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。六觸空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。受空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。愛空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。取空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。有空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。生空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。老死憂悲苦惱空不可盡故。菩薩般若波羅蜜應生。如是須菩提。菩薩摩訶薩般若波羅蜜應生。須菩提。是十二因緣是獨菩薩法。能除諸邊顛倒。坐道場時應如是觀當得一切種智。須菩提。若有菩薩摩訶薩以虛空不可盡法。行般若波羅蜜觀十二因緣。不墮聲聞辟支佛地。住阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若求菩薩道而轉還者。皆離般若波羅蜜念故。是人不知云何行般若波羅蜜。應以虛空不可盡法觀十二因緣。須菩提。若求菩薩道而轉還者。皆不得是方便力故。於阿耨多羅三藐三菩提而轉還。須菩提。若菩薩摩訶薩。於阿耨多羅三藐三菩提不轉還者。皆得是方便力故。須菩提菩薩摩訶薩應以虛空不可盡法觀般若波羅蜜。應以虛空不可盡法生般若波羅蜜。如是須菩提。菩薩摩訶薩觀十二因緣時。不見法無因緣生。不見法常不滅。不見法有我人壽者命者衆生乃至知者見者。不見法無常。不見法苦。不見法無我。不見法寂滅非寂滅。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。應如是觀十二因緣。須菩提。若菩薩摩訶薩能如是行般若波羅蜜。是時不見色若常若無常若苦若樂。若我若無我若寂滅若非寂滅。受想行識亦如是。須菩提。菩薩摩訶薩是時亦不見般若波羅蜜。亦不見以是法見般若波羅蜜禪那波羅蜜乃至阿耨多羅三藐三菩提。亦不見阿耨多羅三藐三菩提。亦不見以是法見阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。一切法不可得故。是為應般若波羅蜜行。若菩薩行無所得般若波羅蜜時。惡

惡上同有是字

坐同作座

品目攝五三本俱作六度相攝四字

魔愁毒如箭入心。譬如人新喪父母。如是須菩提。惡魔見菩薩行無所得般若波羅蜜時。便大愁毒如箭入心。須菩提白佛言。世尊。但一魔愁毒。三千大千世界中魔亦復愁毒。佛告須菩提。三千大千世界中諸惡魔。皆愁毒如箭入心。各於其坐不能自安。須菩提。菩薩摩訶薩能如是行般若波羅蜜。是時一切世間天及人阿修羅。不能得其便令其憂惱。須菩提。以是故菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。當行是般若波羅蜜。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。具足修檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時具足諸波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。云何具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。佛告須菩提。菩薩摩訶薩所有布施。皆迴向薩婆若。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。具足檀那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩所有持戒。皆迴向薩婆若。是為具足尸羅波羅蜜。菩薩摩訶薩所有忍辱。皆迴向薩婆若。是為具足羼提波羅蜜。菩薩摩訶薩所有精進。皆迴向薩婆若。是為具足毗梨耶波羅蜜。菩薩摩訶薩所有禪定。皆迴向薩婆若。是為具足禪那波羅蜜。菩薩摩訶薩所有智慧。皆迴向薩婆若。是為具足般若波羅蜜。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜具足六波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經攝五品第六十八 丹本六度相攝品

須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜。取尸羅波羅蜜。佛告須菩提。菩薩摩訶薩布施時。持是布施迴向薩婆若。於衆生中住慈身口意業。是為菩薩住檀那波羅蜜取尸羅波羅蜜。世尊。云何菩薩住檀那波羅蜜取羼提波羅蜜。佛告須菩提。菩薩布施時。受者瞋恚罵辱惡言加之。是時菩薩忍辱不生瞋恚心。是為菩薩住檀那波羅蜜取羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩住檀那波羅蜜取毗梨耶波羅蜜。佛言。菩薩布施時受者瞋恚罵辱惡言加之。菩薩增益布施心作是念。我應當施不應有所惜。即時生身精進心精進。是為菩薩住檀那波羅蜜取毗梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜取禪那波羅蜜。佛言。菩薩布施時迴向薩婆若。不趣聲聞

劫下同無奪字

支宋作肢○節上三本俱無用字

漚恕拘舍羅同作方便二字

辟支佛地但一心念薩婆若。是爲菩薩住檀那波羅蜜取禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜取般若波羅蜜。佛言。菩薩布施時知布施空如幻。不見爲衆生布施有益無益。是爲菩薩住檀那波羅蜜取般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜。取檀那波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。佛告須菩提。菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜中。身口意生布施福德。助阿耨多羅三藐三菩提。持是功德不取聲聞辟支佛地。住尸羅波羅蜜中。不奪他命。不劫奪他物。不行邪婬。不妄語不兩舌不惡口不綺語。不貪嫉不瞋恚不邪見。所有布施。飢者與食渴者與飲。須乘與乘須衣與衣。須香與香須瓔珞與瓔珞。塗香臥具房舍燈燭資生所須。盡給與之。持是布施與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。如是迴向不墮聲聞辟支佛地。須菩提。是爲菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜取檀那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜取羼提波羅蜜。佛言。菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜中。若有衆生來節節支解。菩薩於是中不生瞋恚心乃至一念。作是言。我得大利。衆生來取我支用節。我無一念瞋恚。是爲菩薩住尸羅波羅蜜中取羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜取毘梨耶波羅蜜。佛言。若菩薩摩訶薩身精進心精進常不捨作是念。一切衆生在生死中。我當拔著甘露地。是爲菩薩住尸羅波羅蜜中取毘梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜取禪那波羅蜜。佛言。菩薩入初禪第二第三第四禪。不貪聲聞辟支佛地。作是念。我當住禪那波羅蜜中。度一切衆生生死。是爲菩薩住尸羅波羅蜜取禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜取般若波羅蜜。佛言。菩薩住尸羅波羅蜜中。無有法可見若作法若無作法。若數法若相法若有若無。但見諸法不過如相。以般若波羅蜜漚恕拘舍羅力故。不墮聲聞辟支佛地。是爲菩薩住尸羅波羅蜜取般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜取檀那波羅蜜。佛言。菩薩從初發心乃至道場。於其中間若一切衆生來。瞋恚罵詈若節節支解。菩薩住於忍辱作是念。我應布施一切衆生不應不與。是衆生須食與食須飲與飲。乃至資生所須盡皆與之。持是功德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩迴向時不生二心。誰迴向者迴向何處。是爲菩薩住羼提波羅蜜取檀那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜取尸羅波羅蜜。佛言。菩薩從初發心乃至道

國土同作世界下同

當應三本俱作應當

法上宋明俱有作是二字

行元明俱作住

提下三本俱有菩薩二字

場。於其中間終不奪他命。不與不取。乃至不邪見。亦不貪聲聞辟支佛地。持是功德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩迴向時三種心不生。誰迴向阿耨多羅三藐三菩提。用何法迴向。迴向何處。是爲菩薩住羼提波羅蜜取尸羅波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜取毘梨耶波羅蜜。佛言。菩薩住羼提波羅蜜生精進作是念。我當往一由旬若十由旬百千萬億由旬。過一國土乃至過百千萬億國土。乃至教一人令持五戒。何況令得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。持是功德與一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。是爲菩薩住羼提波羅蜜取毘梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜取禪那波羅蜜。佛言。菩薩住羼提波羅蜜離欲離惡不善法有覺有觀。離生喜樂。入初禪乃至入第四禪。是諸禪中淨心心數法。皆迴向薩婆若。迴向時是菩薩諸禪及禪支皆不可得。是爲菩薩住羼提波羅蜜取禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住羼提波羅蜜取般若波羅蜜。佛言。菩薩住羼提波羅蜜。觀諸法若離相若寂滅相若無盡相。不以寂滅相作證。乃至坐道場得一切種智。從道場起便轉法輪。是爲菩薩住羼提波羅蜜取般若波羅蜜。不取不捨故。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住毘梨耶波羅蜜取檀那波羅蜜。佛告須菩提。菩薩住毘梨耶波羅蜜。身心精進不懈不息作是念。我必當應得阿耨多羅三藐三菩提不應不得。是菩薩爲利益衆生故。往一由旬若百千萬億由旬。若過一國土若過百千萬億國土。住毘梨耶波羅蜜中。若不得一人教令入佛道中。若聲聞道中若辟支佛道中。或得一人教令行十善道精進不懈。法施及以財施令具足。持是功德與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。不迴向聲聞辟支佛地。是爲菩薩住毘梨耶波羅蜜取檀那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住毘梨耶波羅蜜取尸羅波羅蜜。佛言。菩薩住毘梨耶波羅蜜。從初發意乃至坐道場自不殺生不教他殺。讚不殺生法。歡喜讚歎不殺生者。乃至自遠離邪見教他遠離邪見。讚不邪見法。歡喜讚歎不邪見者。是菩薩行尸羅波羅蜜因緣。不求欲界色界無色界福。不求聲聞辟支佛地。持是功德與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提不生三種心。不見迴向者。不見迴向法。不見迴向處。是爲菩薩住毘梨耶波羅蜜取尸羅波羅蜜。世尊云。何菩薩摩訶薩住毘梨耶波羅蜜取羼提波羅蜜。佛言。菩薩住毘梨耶波羅蜜。從初發意乃至坐道場。於其中間若人若非

國同作土下同
薩下三本俱無摩訶薩三字
慾同作欲
取上同無不字

人來節節支解。菩薩作是念。割我者誰。截我者誰。奪我者誰。復作是念。我大得善利。我為衆生故受身。衆生還自來取。是時菩薩正憶念諸法實相。持是功德與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。不迴向聲聞辟支佛地。是為菩薩住毗黎耶波羅蜜取羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住毗黎耶波羅蜜取禪那波羅蜜。佛言。菩薩住毗黎耶波羅蜜。離欲離惡不善法有覺有觀。離生喜樂。入初禪第二第三第四禪。入慈悲喜捨乃至入非有想非無想處。持是禪無量無色定不受果報。生於利益衆生之處。以六波羅蜜成就衆生。所謂檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。從一佛國至一佛國。親近供養諸佛種善根故。是為菩薩住毗黎耶波羅蜜取禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住毗黎耶波羅蜜取般若波羅蜜。佛言。菩薩住毗黎耶波羅蜜。不見檀那波羅蜜法不見檀那波羅蜜相。乃至不見禪那波羅蜜法不見禪那波羅蜜相。四念處乃至一切種智。亦不見法亦不見相。見一切法非法非非法。於法中無所著。是菩薩所作如所言。是為菩薩住毗黎耶波羅蜜取般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜取檀那波羅蜜。佛言。菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜。離諸欲離惡不善法。有覺有觀離生喜樂。入初禪第二第三第四禪。入慈悲喜捨乃至非有想非無想處。住禪那波羅蜜中心不亂行二施。以施衆生法施財施。自行二施教他行二施。讚歎二施法。歡喜讚歎行二施者。持是功德與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。不向聲聞辟支佛地。是為菩薩住禪那波羅蜜取檀那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜取尸羅波羅蜜。佛言。菩薩住禪那波羅蜜。不生婬慾瞋恚愚癡心。不生惱他心。但修行一切智相應心。持是功德與衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。不向聲聞辟支佛地。是為菩薩住禪那波羅蜜取尸羅波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜取羼提波羅蜜。佛言。菩薩住禪那波羅蜜。觀色如聚沫。觀受如泡。觀想如野馬。觀行如芭蕉。觀識如幻。作是觀時。見五陰無堅固相。作是念。割我者誰。截我者誰。誰受誰想誰行誰識。誰罵者誰受罵者。誰生瞋恚。是為菩薩住禪那波羅蜜取羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜取毗黎耶波羅蜜。佛言。菩薩住禪那波羅蜜。離欲離惡不善法。有覺有觀離生喜樂。入初禪第二第三第四禪。是諸禪及支不取相。生種種神通。履水如地入地如水。如先說。天耳聞二種聲若天若人。知他心若攝心若亂心。乃至有上心無上

得下元明俱無諸法二字次同○如上三本俱無是字

讃下三本俱無歎字

諸元明俱作此

道上三本俱有坐字○動下元明俱無恚字○

心。憶種種宿命。如先說。以天眼淨過人眼。見衆生乃至如業受報。如先說。菩薩住是五神通。從一佛國至一佛國。親近供養諸佛種善根。成就衆生淨佛國土。持是功德與衆生共之。廻向阿耨多羅三藐三菩提。是爲菩薩住禪那波羅蜜取毘梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住禪那波羅蜜取般若波羅蜜。佛言。菩薩住禪那波羅蜜。不得色不得受想行識。不得檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜。不得般若波羅蜜不得四念處。乃至不得一切種智。不得諸法有爲性。不得諸法無爲性。不得故不作。不作故不生。不生故不滅。何以故。有佛無佛是如法相法性常住不生不滅。常一心應薩婆若行。是爲菩薩住禪那波羅蜜取般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜取檀那波羅蜜。佛言。菩薩住般若波羅蜜。內空內空不可得。外空外空不可得。內外空內外空不可得。空空空空不可得。乃至一切法空一切法空不可得。菩薩住是十四空中。不得色相若空若不空。不得受想行識相若空若不空。不得四念處若空若不空。乃至不得阿耨多羅三藐三菩提若空若不空。不得有爲性無爲性若空若不空。是菩薩摩訶薩如是住般若波羅蜜中。所有布施若飲食衣服種種資生之具。觀是布施空。何等空。施者受者及財物空。不令慳著心生。何以故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。從初發意乃至坐道場有無妄想分別。如諸佛得阿耨多羅三藐三菩提時無慳著心。菩薩摩訶薩亦如是。行般若波羅蜜時無慳著心。是菩薩所可尊者般若波羅蜜是。是爲菩薩住般若波羅蜜取檀那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜取尸羅波羅蜜。佛言。菩薩住般若波羅蜜不生聲聞辟支佛心。何以故。是菩薩聲聞辟支佛地不可得。趣向聲聞辟支佛心亦不可得。是菩薩摩訶薩從初發意乃至坐道場。於其中間自不殺生不教他殺。讃不殺法。歡喜讃歎不殺生者。乃至自不邪見不教他邪見。讃歎不邪見法。歡喜讃歎不邪見者。以是持戒因緣。無法可取若聲聞若辟支佛地。何況餘法。是爲菩薩住般若波羅蜜取尸羅波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜取羼提波羅蜜。佛言。菩薩住般若波羅蜜隨順法忍生。作是念。諸法中無有法若起若滅若生若死。若受罵詈若受惡口。若割若截若破若縛若打若殺。是菩薩從初發意乃至道場。若一切衆生來罵詈惡口。刀杖瓦石割截傷害。心不動恚作是念甚可怪。此法中無有法受罵詈惡口割截傷害者。而衆生受諸苦惱。是爲菩

諸明作是宋元俱無
含下三本俱有果字次同
處同作定

薩住般若波羅蜜取羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜取毗梨耶波羅蜜。佛言。菩薩住般若波羅蜜爲衆生說法。令行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。教令行四念處乃至八聖道分。令得須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢果辟支佛道。令得阿耨多羅三藐三菩提。不住有爲性中。不住無爲性中。是爲菩薩住般若波羅蜜取毗梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩住般若波羅蜜取禪那波羅蜜。佛言。菩薩住般若波羅蜜除諸佛三昧。入餘一切三昧。若聲聞三昧若辟支佛三昧若菩薩三昧皆行皆入。是菩薩住諸三昧。逆順出入八背捨。何等八。內有色相外觀色。是初背捨。內無色相外觀色。二背捨。淨背捨身作證。三背捨。過一切色相滅有對相。不念種種相故。入無量虛空處。四背捨。過一切虛空處入無邊識處。五背捨。過一切識處。入無所有處。六背捨。過一切無所有處。入非有想非無想處。七背捨。過一切非有想非無想處。入滅受想處。八背捨。於是八背捨。逆順出入九次第定。何等九。離諸欲離諸惡不善法。有覺有觀離生喜樂。入初禪乃至過非有想非無想處。入滅受想定。是名九次第定逆順出入。是菩薩依八背捨九次第定。入師子奮迅三昧。云何名師子奮迅三昧。須菩提。菩薩離欲離惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。入初禪乃至入滅受想定。從滅受想定起。還入非有想非無想處。非有想非無想處起。乃至還入初禪。是菩薩依師子奮迅三昧。入超越三昧。云何爲超越三昧。須菩提。菩薩離欲離諸惡不善法。有覺有觀離生喜樂入初禪。從初禪起乃至入非有想非無想處。非有想非無想處起。入滅受想定。滅受想定起還入初禪。從初禪起入滅受想定。滅受想定起入二禪。二禪起入滅受想定。滅受想定起入三禪。三禪起入滅受想定。滅受想定起入四禪。四禪起入滅受想定。滅受想定起入空處。空處起入滅受想定。滅受想定起入識處。識處起入滅受想定。滅受想定起入無所有處。無所有處起入滅受想定。滅受想定起入非有想非無想處。非有想非無想處起入滅受想定。滅受想定起入散心中。散心中起入滅受想定。滅受想定起還入散心中。散心中起入非有想非無想處。非有想非無想處起還住散心中。散心中起入無所有處。無所有處起住散心中。散心中起入識處。識處起住散心中。散心中起入空處。空處起住散心中。散心中起入第四禪中。第四禪中起住散心中。散心中起入第三禪中。第三禪中起住散心中。散心中起入第二禪中。第

二禪中起住散心中。散心中起入初禪中。初禪中起住散心中。是菩薩摩訶薩住超越三昧。得諸法等相。是爲菩薩住般若波羅蜜取禪那波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經卷第二十

經題一三本俱作三
品目方上同有大字以元明俱作已次同
名下三本俱有爲字
亦下同無復字

摩訶般若波羅蜜經卷第二十一

〔麗海〕〔宋鹹〕〔元鹹〕〔明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

方便品第六十九

爾時須菩提白佛言。世尊。是菩薩摩訶薩如是方便力成就者。發意以來幾時。佛告須菩提。是菩薩摩訶薩能成就方便力者。發意以來無量億阿僧祇劫。須菩提言。世尊。是菩薩摩訶薩如是成就方便力者。爲供養幾佛。佛言。是菩薩成就方便力者。供養如恒河沙等諸佛。須菩提白佛言。世尊。菩薩得如是方便力者種何等善根。佛言。菩薩成就如是方便力者。從初發意以來。於檀那波羅蜜無不具足。於尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜無不具足。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩成就如是方便力者甚希有。佛言。如是如是。須菩提。菩薩摩訶薩成就如是方便力者甚希有。須菩提。譬如日月周行照四天下多有所益。般若波羅蜜亦如是。照五波羅蜜多有所益。須菩提。譬如轉輪聖王若無輪寶不得名爲轉輪聖王。輪寶成就故。得名轉輪聖王。五波羅蜜亦如是。若離般若波羅蜜不得波羅蜜名字。不離般若波羅蜜故。得波羅蜜名字。須菩提。譬如無夫婦人易可侵陵。五波羅蜜亦如是。遠離般若波羅蜜。魔若魔天壞之則易。譬如有夫婦人難可侵陵。五波羅蜜亦如是。得般若波羅蜜。魔若魔天不能沮壞。須菩提。譬如軍將鎧仗具足。隣國强敵所不能壞。五波羅蜜亦如是。不遠離般若波羅蜜。魔若魔天若增上慢人。乃至菩薩旃陀羅所不能壞。須菩提。譬如諸小國王隨時朝侍轉輪聖王。五波羅蜜亦復如是。隨順般若波羅蜜。譬如衆川萬流皆入於恒河隨入大海。五波羅蜜亦如是。般若波羅蜜所守護故隨到薩婆若。譬如人之右手所作事便。般若波羅蜜亦如是。如人左手造事不便。五波羅蜜亦如是。譬如衆流若大若小俱入大海合爲一味。五波羅蜜亦如是。爲般若波羅蜜所護。隨般若波羅蜜入薩婆若得波羅蜜名字。譬如轉輪聖王四種兵。輪寶在前導。王意欲住輪則爲住。令四種兵滿其所願。輪亦不離其處。般若波羅蜜亦

四上元明倶無常字〇檀下三本倶無那字下同〇禪下同無那字下同〇隨下同有從字

須上明有佛告二字

身元明倶作烏

說上三本倶無假字

如是。導五波羅蜜到薩婆若。常是中住不過其處。譬如轉輪聖王常四種兵。輪寶在前導。般若波羅蜜亦如是。導五波羅蜜到薩婆若。住般若波羅蜜。亦不分別檀那波羅蜜隨從我。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜不隨我。檀那波羅蜜亦不分別我隨從般若波羅蜜。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜不隨從。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜亦如是。何以故。諸波羅蜜性無所能作。自性空虛誑如野馬。爾時須菩提白佛言。世尊。若一切法自性空。云何菩薩摩訶薩行六波羅蜜。當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩摩訶薩行六波羅蜜時作是念。是世間心皆顚倒。我若不行方便力。不能度脫衆生生死。我當爲衆生故。行檀那波羅蜜。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。是菩薩爲衆生故捨內外物。捨時作是念。我無所捨。何以故。是物必當壞敗。菩薩作如是思惟。能具足檀那波羅蜜。爲衆生故終不破戒。何以故。菩薩作是念。我爲衆生發阿耨多羅三藐三菩提。若殺生是所不應。乃至我爲衆生發阿耨多羅三藐三菩提。若作邪見若貪著聲聞辟支佛地。是所不應。菩薩摩訶薩如是思惟。能具足尸羅波羅蜜。菩薩爲衆生故不瞋心乃至不生一念。菩薩如是思惟。我應利益衆生。云何而起瞋心。菩薩如是能具足羼提波羅蜜。菩薩爲衆生故乃至阿耨多羅三藐三菩提。常不生懈怠心。菩薩如是行能具足毗梨耶波羅蜜。菩薩爲衆生故乃至得阿耨多羅三藐三菩提不生散亂心。菩薩如是行能具足禪那波羅蜜。菩薩爲衆生故乃至阿耨多羅三藐三菩提終不離智慧。何以故。除智慧不可以餘法度脫衆生故。菩薩如是行能具足般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。若諸波羅蜜無差別相。云何般若波羅蜜。於五波羅蜜中第一最上微妙。佛告須菩提。如是如是。諸波羅蜜雖無差別。若無般若波羅蜜。五波羅蜜不得波羅蜜名字。因般若波羅蜜。五波羅蜜得波羅蜜名字。須菩提。譬如種種色身。到須彌山王邊皆同一色。五波羅蜜亦如是。因般若波羅蜜到薩婆若中一種無異。不分別是檀那波羅蜜是尸羅波羅蜜是羼提波羅蜜是毗梨耶波羅蜜是禪那波羅蜜是般若波羅蜜。何以故。是諸波羅蜜無自性故。以是因緣故。諸波羅蜜無差別。須菩提白佛言。世尊。若隨實義無分別。云何般若波羅蜜。於五波羅蜜中最上微妙。佛言。如是如是。須菩提。雖實義中無有分別。但以世俗法故。假說檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗

梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。爲欲度衆生生死。是衆生實不生不死不起不退。須菩提。衆生無所有故。當知一切法無所有。以是因緣故。般若波羅蜜於五波羅蜜中最上最妙。須菩提。譬如閻浮提衆女人中玉女寶第一最上最妙。般若波羅蜜亦如是。於五波羅蜜中第一最上最妙。須菩提白佛言。世尊。佛以何意故。說般若波羅蜜最上最妙。佛告須菩提。是般若波羅蜜取一切善法。到薩婆若中住不住故。須菩提白佛言。世尊。般若波羅蜜有法可取可捨不。佛言。不也須菩提。般若波羅蜜無法可取無法可捨。何以故。一切法不取不捨故。世尊。般若波羅蜜於何等法不取不捨。佛言。般若波羅蜜於色不取不捨。於受想行識乃至阿耨多羅三藐三菩提不取不捨。世尊。云何不取色。乃至不取阿耨多羅三藐三菩提。佛言。若菩薩不念色乃至不念阿耨多羅三藐三菩提。是名不取色乃至不取阿耨多羅三藐三菩提。須菩提言。世尊。若不念色乃至不念阿耨多羅三藐三菩提。云何得增益善根善根不增。云何具足諸波羅蜜。若不具足諸波羅蜜。云何得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。若菩薩不念色乃至不念阿耨多羅三藐三菩提。是時善根增益。善根增益故具足諸波羅蜜。諸波羅蜜具足故得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。不念色乃至不念阿耨多羅三藐三菩提時。便得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。何因緣故色不念時乃至阿耨多羅三藐三菩提不念時。便得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。以念故著欲界色界無色界。不念故無所著。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜不應有所著。世尊。菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜當住何處。佛言。菩薩摩訶薩如是行。不住色乃至不住一切種智。世尊。何因緣故色中不住乃至一切種智中不住。佛言。不著故不住。何以故。是菩薩不見有法可著可住。如是須菩提。菩薩摩訶薩以不著不住法。行般若波羅蜜。須菩提。若菩薩摩訶薩作是念。若能如是行如是修。是行般若波羅蜜。我今行般若波羅蜜修般若波羅蜜。若如是取相。則遠離般若波羅蜜。若遠離般若波羅蜜。則遠離檀那波羅蜜。乃至遠離一切種智。何以故。般若波羅蜜無有著處亦無著者。自性無故。菩薩摩訶薩若復如是取相。則於般若波羅蜜退。若退般若波羅蜜。則是退阿耨多羅三藐三菩提不得受記。菩薩摩訶薩復作是念。住是般若波羅蜜。能生檀那波羅蜜。乃至能生大悲。若作是念則爲失般若波羅蜜。失般若波羅蜜者則不能生檀那波羅蜜乃至不能生大悲。菩薩若復作是念。諸佛知

相三本俱作想

興元明俱作起下同

離上三本俱無遠字〇菩上同有云何二字〇應云何同作云何應〇忍辱同作修忍〇勤宋作懃

諸法無受相故。得阿耨多羅三藐三菩提。菩薩若作如是演說開示教詔。則失般若波羅蜜。何以故。諸佛於諸法無所知無所得。亦無法可說。何況當有所得。無有是處。須菩提白佛言。世尊。菩薩行般若波羅蜜。云何無是過失。佛言。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜作是念。諸法無所有不可取。若法無所有不可取。則無所得。若如是行為行般若波羅蜜。若菩薩摩訶薩著無所有法。則遠離般若波羅蜜。何以故。般若波羅蜜中無有著法故。須菩提白佛言。世尊。般若波羅蜜遠離般若波羅蜜耶。檀那波羅蜜遠離檀那波羅蜜耶。乃至一切種智遠離一切種智耶。世尊。若般若波羅蜜遠離般若波羅蜜。乃至一切種智遠離一切種智。菩薩云何得般若波羅蜜。乃至得一切種智。佛言。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不生色是色離色。乃至一切種智不生。是一切種智離一切種智。如是菩薩能生般若波羅蜜。乃至能生一切種智。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不觀色若常若無常。若苦若樂。若我若非我。若空若不空。若離若非離。何以故。自性不能生自性。乃至一切種智亦如是。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。如是觀色乃至觀一切種智。能生般若波羅蜜乃至能生一切種智。譬如轉輪聖王有所至處四種兵皆隨從。般若波羅蜜亦如是。有所至處五波羅蜜皆悉隨從。到薩婆若中住。譬如善御駕駟不失平道隨意所至。般若波羅蜜亦如是。御五波羅蜜不失正道至薩婆若。須菩提言。世尊。何等是菩薩摩訶薩道。何等是非道。佛言聲聞道非菩薩道。辟支佛道非菩薩道。一切智道是菩薩摩訶薩道。須菩提。是名菩薩摩訶薩道非道。須菩提言。世尊。諸菩薩摩訶薩般若波羅蜜。為大事故興。所謂示是道是非道。佛言。如是如是。須菩提。般若波羅蜜為大事故興。所謂示是道是非道。須菩提。是般若波羅蜜。為度無量眾生故興。為利益阿僧祇眾生故興。般若波羅蜜雖作是利益。亦不受色亦不受受想行識。亦不受聲聞辟支佛地。須菩提。般若波羅蜜是諸菩薩摩訶薩導示阿耨多羅三藐三菩提。能令離聲聞辟支佛地。住薩婆若。般若波羅蜜無所生無所滅。諸法常住故。須菩提言。世尊若般若波羅蜜無所生無所滅。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應云何布施。云何應持戒。云何應忍辱。云何應勤精進。云何應入禪定。云何應修智慧。佛告須菩提。菩薩摩訶薩念薩婆若應布施。念薩婆若應持戒忍辱精進禪定智慧。是菩薩摩訶薩持是功德與眾生共之。應迴向阿耨多羅三藐三菩提。若如是迴向則具足修六波羅蜜

及慈悲心諸功德。須菩提。若菩薩摩訶薩不遠離六波羅蜜。則不遠離薩婆若。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。應學應行六波羅蜜。菩薩摩訶薩行六波羅蜜。具足一切善根。當得阿耨多羅三藐三菩提。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩應習行六波羅蜜。須菩提言。世尊。云何菩薩摩訶薩應習行六波羅蜜。佛言。菩薩摩訶薩應如是觀。色不合不散。受想行識不合不散。乃至一切種智不合不散。是名菩薩摩訶薩習行六波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩應作是念。我當不住色中。不住受想行識中。乃至不住一切種智中。如是應習行六波羅蜜。何以故。是色無所住。乃至薩婆若無所住。如是須菩提。菩薩摩訶薩以無住法習行六波羅蜜。應當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。譬如士夫欲食菴羅果若波那婆果。當種其子隨時溉灌。守護漸漸生長。時節和合便有果實得而食之。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。欲得阿耨多羅三藐三菩提。當學六波羅蜜以布施攝取衆生。持戒忍辱精進禪定智慧攝取衆生。度衆生生死。如是行當得阿耨多羅三藐三菩提。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩欲不隨他人語。當學般若波羅蜜。欲淨佛國土成就衆生。欲坐道場欲轉法輪。當學般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。應如是學般若波羅蜜耶。佛言。菩薩應如是學般若波羅蜜。欲於諸法得自在。當學般若波羅蜜。何以故。學是般若波羅蜜。於一切諸法中得自在故。復次須菩提。般若波羅蜜於一切諸法中最大。譬如大海於萬川中最大。般若波羅蜜亦如是。於一切諸法中最大。以是故。諸欲求聲聞辟支佛及菩薩道。應當學般若波羅蜜。檀那波羅蜜乃至一切種智。須菩提。譬如射師執如意弓箭不畏怨敵。菩薩摩訶薩亦如是。行般若波羅蜜乃至一切種智魔若魔天所不能壞。以是故。須菩提菩薩摩訶薩欲得阿耨多羅三藐三菩提。應學般若波羅蜜。是行般若波羅蜜菩薩爲十方諸佛所念。須菩提白佛言。世尊。云何十方諸佛念是菩薩摩訶薩。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。十方諸佛皆念。行尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜時。十方諸佛皆念。云何念。布施不可得。持戒忍辱精進禪定智慧不可得。乃至一切種智不可得。菩薩能如是不得諸法故。諸佛念是菩薩摩訶薩。復次須菩提。諸佛不以色故念。不以受想行識故念。乃至不以一切種智故念。須菩提言。世尊。菩薩摩訶薩多有所學實無所學。佛言。如是如是。須菩提。菩薩多有所學實無所學。何以故。是菩薩所學諸

際上明有實字

散上三本俱有有字

所元明俱作能

惟越三本俱作鞞跋下同○學下同無如禪乃至當學九字

法皆不可得。須菩提白佛言。世尊。佛所說法若略若廣。於此法中諸菩薩摩訶薩欲求阿耨多羅三藐三菩提。六波羅蜜若略若廣。應當受持親近讀誦。讀誦已思惟正觀。心心數法不行故。佛告須菩提。如是如是。菩薩摩訶薩略廣學六波羅蜜。當知一切法略廣相。須菩提言。世尊。云何菩薩摩訶薩知一切法略廣相。佛言。知色如相。知受想行識乃至知一切種智如相。如是能知一切法略廣相。須菩提言。世尊。云何色如相。云何受想行識乃至一切種智如相。佛告須菩提。是色如無生無滅無住異。是名色如相。乃至一切種智如相。無生無滅無住異。是名一切種智如相。是中菩薩摩訶薩應學。復次須菩提。菩薩摩訶薩知諸法實際時。知一切法略廣相。世尊。何等是諸法實際。佛言。無際是名實際。菩薩學是際。知一切諸法略廣相。須菩提。若菩薩摩訶薩知諸法法性。是菩薩能知一切法略廣相。世尊。何等是諸法法性。佛言。色性是名法性。是性無分無非分。須菩提。菩薩摩訶薩知法性故。知一切法略廣相。須菩提白佛言。世尊。復云何應知一切法略廣相。佛言。若菩薩摩訶薩知一切法不合不散。須菩提言。世尊。何等法不合不散。佛言。色不合不散。受想行識不合不散。乃至一切種智不合不散。有爲性無爲性不合不散。何以故。是諸法自性無。云何有合散。若法自性無。是爲非法。法與非法不合不散。如是應當知一切法略廣相。須菩提言。世尊。是名菩薩摩訶薩略攝般若波羅蜜。世尊。是略攝般若波羅蜜中。初發意菩薩摩訶薩應學。乃至十地菩薩摩訶薩亦應學。是菩薩摩訶薩學是略攝般若波羅蜜。則知一切法略廣相。世尊。是門利根菩薩摩訶薩所入。佛言。鈍根菩薩亦可入是門。中根菩薩散心菩薩亦可入是門。是門無礙。若菩薩摩訶薩一心學者皆入是門。懈怠少精進妄憶念亂心者所不能入。精進不懈怠正憶念攝心者能入。欲住阿惟越致地。欲逮一切種智者能入。是菩薩摩訶薩如般若波羅蜜所說當學。如禪波羅蜜所說當學。乃至如檀波羅蜜所說當學。是菩薩摩訶薩當得一切智。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。所有魔事欲起即滅。以是故。菩薩摩訶薩欲得方便力當行般若波羅蜜。若菩薩摩訶薩如是行如是習如是修般若波羅蜜。是時無量阿僧祇國土中現在諸佛。念是行般若波羅蜜菩薩。何以故。是般若波羅蜜中生過去未來現在諸佛故。以是故。菩薩摩訶薩應如是思惟。過去未來現在諸佛所得法我亦當得。如是須菩提。菩薩摩訶薩應習般若波羅蜜。若如是習般若波羅蜜疾得阿耨多羅

解上同無得字

陀上同無得字

三藐三菩提。以是故。菩薩摩訶薩常應不遠離薩婆若念。若菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜。乃至彈指頃是菩薩福德甚多。若有人教三千大千國土中衆生。自恣布施。教令持戒禪定智慧。教令得解脫。得解脫知見。教令得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。不如是菩薩修般若波羅蜜乃至彈指頃。何以故。是般若波羅蜜中生布施持戒禪定智慧須陀洹果乃至辟支佛道。十方現在諸佛亦從般若波羅蜜中生。過去未來諸佛亦從般若波羅蜜中生故。復次須菩提。菩薩摩訶薩應薩婆若念行般若波羅蜜。若須臾時若半日若一日若一月若百日若一歲若百歲若一劫若百劫。乃至無量無邊阿僧祇劫。是菩薩修是般若波羅蜜福德甚多。勝於教十方恒河沙等世界中衆生。布施持戒禪定智慧解脫解脫知見。教令得須陀洹果乃至辟支佛道。何以故。諸佛從般若波羅蜜中生。說是布施持戒禪定智慧解脫解脫知見。須陀洹果乃至辟支佛道。若有菩薩摩訶薩如般若波羅蜜所說住。當知是菩薩摩訶薩是阿惟越致。爲諸佛所念。如是方便力成就。當知是菩薩親近供養無量千萬億諸佛種善根。與善知識相隨久行六波羅蜜。久修十八空四念處乃至八聖道分佛十力乃至一切種智。當知是菩薩住法王子地滿足諸願。常不離諸佛不離諸善根。從一佛國至一佛國。當知是菩薩辯才無盡具足得陀羅尼。身色具足受記具足故爲衆生受身。當知是菩薩善知字門善知非字門。善於言善於不言。善於一言善於二言善於多言。善知女語善知男語。善知色乃至識。善知世間性。善知涅槃性。善知法相。善知有爲相善知無爲相。善知有法善知無法。善知自性善知他性。善知合法善知散法。善知相應法善知不相應法。善知相應不相應法。善知如善知不如。善知法性善知法位。善知緣善知無緣。善知陰善知界善知入。善知四諦善知十二因緣。善知四禪。善知四無量心。善知無色定。善知六波羅蜜。善知四念處。乃至善知一切種智。善知有爲性善知無爲性。善知有性善知無性。善知色觀善知受想行識觀。乃至善知一切種智觀。善知色色相空。善知受想行識識相空。乃至善知菩提菩提相空。善知捨道善知不捨道。善知生善知滅善知住異。善知欲善知瞋善知癡。善知不欲善知不瞋善知不癡。善知見善知不見。善知邪見善知正見。善知一切見。善知名善知色善知名色。善知因緣。善知次第緣。善知緣緣。善知增上緣。善知行相。善知苦善知集善知滅善知道。善知地獄善知餓鬼善知畜生。善知人善知天。善

智上明有種字次同

問上三本俱有所字意宋作應

知地獄趣。善知餓鬼趣。善知畜生趣。善知人趣。善知天趣。善知須陀洹。善知須陀洹果。善知須陀洹道。善知斯陀含。善知斯陀含果。善知斯陀含道。善知阿那含。善知阿那含果。善知阿那含道。善知阿羅漢。善知阿羅漢果。善知阿羅漢道。善知辟支佛。善知辟支佛果。善知辟支佛道。善知佛。善知一切智。善知一切智道。善知諸根。善知諸根具足。善知慧。善知疾慧。善知有力慧。善知利慧。善知出慧。善知達慧。善知廣慧。善知深慧。善知大慧。善知無等慧。善知實慧。善知過去世。善知未來世。善知現在世。善知方便。善知得衆生。善知心。善知深心。善知義。善知語。善知分別三乘。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。生般若波羅蜜。修般若波羅蜜。得如是等利益

摩訶般若波羅蜜經三慧品第七十

須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩云何行般若波羅蜜。云何生般若波羅蜜。云何修般若波羅蜜。佛言。色寂滅故色空故色虛誑故色不堅實故。應行般若波羅蜜。受想行識亦如是。如汝所問云何生般若波羅蜜。如虛空生故應生般若波羅蜜。如汝問云何修般若波羅蜜。修諸法破壞故應修般若波羅蜜。須菩提言。世尊。行般若波羅蜜生般若波羅蜜。修般若波羅蜜應幾時。佛言。從初發意乃至坐道場。應行應生應修般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。次第心應行般若波羅蜜。佛言。常不捨薩婆若心不令餘念得入爲行般若波羅蜜爲生般若波羅蜜爲修般若波羅蜜。若心心數法不行故。爲行般若波羅蜜爲生般若波羅蜜爲修般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩修般若波羅蜜。當得薩婆若不。佛言不。世尊。不修般若波羅蜜。得薩婆若不。佛言不。世尊。修不修得薩婆若不。佛言不。世尊。非修非不修得薩婆若不。佛言不。世尊。若不爾云何當得薩婆若。佛言。菩薩摩訶薩得薩婆若如如相。世尊。云何如如相。如實際。云何如實際。如法性。云何如法性。如我性衆生性壽命性。世尊。云何我性衆生性壽命性。佛告須菩提。於汝意云何。我衆生壽命法可得不。須菩提言。不可得。佛言。若我衆生壽命不可得。云何當說有我性衆生性壽命性。若般若波羅蜜中不說有一切法當得一切種智。須菩提言。世尊。但般若波羅蜜是不可說。禪那波羅蜜乃至檀那波羅蜜亦不可說。佛告須菩提。般若波羅蜜不可說。檀那波羅蜜乃至一切法。

若有爲若無爲。若聲聞法若辟支佛法。若菩薩法若佛法亦不可說。世尊。若一切法不可說。云何說是地獄是畜生是餓鬼。是人是天。是須陀洹是斯陀含阿那含阿羅漢。辟支佛是諸佛。佛告須菩提。於汝意云何。是衆生名字實可得不。須菩提言。世尊。不可得。佛言。若衆生不可得。云何當說有地獄餓鬼畜生人天。須陀洹乃至佛。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應當學一切法不可說。須菩提言。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應學色應學受想行識。乃至應學一切種智。佛告須菩提。菩薩摩訶薩學般若波羅蜜時。應學色不增不減。乃至應學一切種智不增不減。須菩提言。世尊。云何色不增不減學。乃至一切種智不增不減學。佛言。不生不滅故學。世尊。云何名不生不滅學。佛言。不起不作諸行業若有若無故。世尊。云何名不起不作諸行業若有若無。佛言。觀諸法自相空故。世尊。云何應觀諸法自相空。佛言。應觀色色相空。應觀受想行識識相空。應觀眼眼相空乃至意色乃至法眼識界乃至意識界意識界相空。應觀內空內空相空。乃至應觀自相空自相空相空。應觀四禪四禪相空。乃至滅受想定滅受想定相空。應觀四念處四念處相空。乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空。如是須菩提。菩薩行般若波羅蜜時。應行諸法自相空。世尊。若色色相空。乃至阿耨多羅三藐三菩提阿耨多羅三藐三菩提相空。云何菩薩摩訶薩應行般若波羅蜜。佛言。不行是名行般若波羅蜜。世尊。云何不行是行般若波羅蜜。佛言。般若波羅蜜不可得故。菩薩不可得。行亦不可得。行者行法行處亦不可得故。是名菩薩摩訶薩行不行般若波羅蜜。一切諸戲論不可得故。世尊。若不行是菩摩薩訶行般若波羅蜜。初發意菩薩云何行般若波羅蜜。須菩提。菩薩從初發意以來應學空無所得法。是菩薩用無所得法故布施持戒忍辱精進禪定。用無所得法故修智慧乃至一切種智亦如是。須菩提白佛言。世尊。云何名有所得。云何名無所得。佛告須菩提。諸有二者是有所得。無有二者是無所得。世尊。何等是二有所得。何等是不二無所得。佛言。眼色爲二乃至意法爲二。乃至阿耨多羅三藐三菩提佛爲二。是名爲二。世尊。從有所得中無所得。從無所得中無所得。佛言。不從有所得中無所得。不從無所得中無所得。須菩提。有所得無所得平等。是名無所得。如是須菩提。菩薩摩訶薩於有所得無所得平等法中應學。須菩提。菩薩摩訶薩如是學般若波羅蜜。是名無所得者無有過失。須菩提白佛言。世尊。

受上三本俱無應學二字　滅上同無不字

相同作性

不上同無亦字

以同作已

以元明倶作已
宋無

若菩薩行般若波羅蜜。不行有所得。不行無所得。云何從一地至一地得一切種智。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不作有所得中從一地至一地。何以故。有所得中住。不能從一地至一地。何以故。須菩提。無所得是般若波羅蜜相。無所得是阿耨多羅三藐三菩提相。無所得亦是行般若波羅蜜者相。須菩提。菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。若般若波羅蜜不可得。阿耨多羅三藐三菩提亦不可得。行般若波羅蜜者亦不可得。云何菩薩摩訶薩分別諸法相是色是受想行識。乃至是阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不得色不得受想行識。乃至不得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。色不可得乃至阿耨多羅三藐三菩提不可得。云何具足檀那波羅蜜乃至具足般若波羅蜜入菩薩法位中。入已淨佛國土成就衆生得一切種智。得一切種智已轉法輪。作佛事度衆生生死。佛告須菩提。菩薩摩訶薩不爲色故行般若波羅蜜乃至不爲阿耨多羅三藐三菩提故行般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。菩薩爲何事故行般若波羅蜜。佛言。無所爲故行般若波羅蜜。何以故。一切諸法無所爲無所作。般若波羅蜜亦無所爲無所作。阿耨多羅三藐三菩提亦無所爲無所作。菩薩亦無所爲無所作。如是須菩提。菩薩摩訶薩應行般若波羅蜜無所爲無所作。須菩提白佛言。世尊。若諸法無所爲無所作。不應分別有三乘聲聞辟支佛佛乘。佛告須菩提。諸法無所爲無所作中無有分別。有所爲有所作中有分別。何以故。凡夫愚人不聞聖法著五受陰。所謂色受想行識。著檀那波羅蜜乃至著阿耨多羅三藐三菩提。是人念有是色得是色。乃至念有是阿耨多羅三藐三菩提。得是阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩作是念。我當得阿耨多羅三藐三菩提。我當度衆生生死。須菩提。我以五眼觀。尚不得色乃至阿耨多羅三藐三菩提。何況是狂愚人無目而欲得阿耨多羅三藐三菩提度脫衆生生死。須菩提白佛言。世尊。若佛以五眼觀。不見衆生生死中可度者。今世尊云何得阿耨多羅三藐三菩提。分別衆生有三聚正定邪定不定。須菩提。我得阿耨多羅三藐三菩提。初不得衆生三聚若正定若邪定若不定。須菩提。以衆生無法有法想。我以除其妄著世俗法故。說有得非第一義。世尊。非住第一義。得阿耨多羅三藐三菩提耶。佛言不也。世尊。住顚倒得阿耨多羅三藐三菩提耶。佛言不也。世尊。若不住第一義中得。亦不住顚倒中得。將無世

相上三本俱有法字
相下元明俱有不應壞三字

尊不得阿耨多羅三藐三菩提耶。佛言不也。我實得阿耨多羅三藐三菩提。無所住若有爲相若無爲相。須菩提。譬如佛所化人。不住有爲相不住無爲相。化人亦有來有去亦坐亦立。須菩提。是化人若行檀那波羅蜜。行尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。行四禪四無量心四無色定五神通。行四念處乃至行八聖道分。入空三昧無相三昧無作三昧。行內空乃至無法有法空。行八背捨九次第定佛十力四無所畏四無礙智大慈大悲。得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪。是化人化作無量衆生有三聚。須菩提。於汝意云何。是化人有行檀那波羅蜜。乃至有三聚衆生不。須菩提言不也。須菩提。佛亦如是。知諸法如化如化人度化衆生。無有實衆生可度。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。如佛所化人行。須菩提白佛言。世尊。若一切法如化。佛與化人有何等差別。佛告須菩提。佛與化人無有差別。何以故。佛能有所作。化人亦能有所作。世尊。若無佛化獨能有所作不。佛言。能有所作。須菩提言。世尊。云何無佛化能有所作。須菩提。譬如過去有佛名須扇多。爲欲度菩薩故化作佛而自滅度。是化佛住半劫作佛事。授應菩薩行者記已滅度。一切世間衆生謂佛實滅度。須菩提。化人實無生無滅。如是須菩提。菩薩行般若波羅蜜。當信知諸法如化。世尊。若佛佛所化人無差別者。云何令布施清淨。如人供養佛是衆生乃至無餘涅槃福德不　。若供養化佛。是人乃至無餘涅槃福德。亦應不盡耶。佛語須菩提。佛以諸法實相故。與一切衆生天及人作福田。化佛亦以諸法實相故。與一切衆生天及人作福田。佛告須菩提。置是化佛及於佛所種福德。若有善男子善女人但以敬心念佛。是善根因緣乃至畢苦其福不盡。須菩提。置是敬心念佛。若有善男子善女人但以一華散虛空中念佛。乃至畢苦其福不盡。須菩提。置是敬心念佛散華念佛。若有人一稱南無佛。乃至畢苦其福不盡。如是須菩提。佛福田中種其福無量。以是故。須菩提。當知佛與化佛無有差別。諸法相無異故。須菩提。菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜入諸法實相中。是諸法實相不應壞。所謂般若波羅蜜相乃至阿耨多羅三藐三菩提相。須菩提白佛言。世尊。若諸法實相不應壞。佛何以壞諸法相。言是色是受想行識。是內法是外法。是善法是不善法。是有漏是無漏。是世間是出世間。是有諍法是無諍法。是有爲法是無爲法等。世尊。將無壞諸法相。佛告須菩提。不也。以名字相故示諸法。欲令衆生解佛不壞諸法法相。須菩

勤宋作懃
悲上三本俱有大字
種下同無智字
佛元明俱作諸
證下三本俱有不字
盡下元明俱有心字下同

提白佛言。世尊。若以名字相故。說諸法令衆生解。世尊。若一切法無名無相。云何以名相示衆生欲令解。佛告須菩提。隨世俗法有名相實無著處。須菩提。如凡人聞說苦著名隨相。須菩提。諸佛及弟子不著名不隨相。須菩提。若名著名相著相。空亦應著空。無相亦應著無相。無作亦應著無作。實際亦應著實際。法性亦應著法性。無爲性亦應著無爲性。須菩提。是一切法但有名相。是法不住名相中。如是須菩提。菩薩摩訶薩但名相中住。應行般若波羅蜜。是名相中亦不應著。世尊。若一切有爲法但名相者。菩薩摩訶薩爲誰故發阿耨多羅三藐三菩提心受種種勤苦。菩薩行道時布施持戒行忍辱勤精進入禪定修智慧。行四禪四無量心。四無色定四念處。乃至八聖道分。行空行無相行無作。行佛十力乃至具足大慈悲。佛言。如須菩提所說。若一切有爲法但有名相者。菩薩摩訶薩爲誰故行菩薩道。須菩提。若有爲法但有名相。等是名相名相亦空。以是故。菩薩摩訶薩行菩薩道得一切種智。得一切種智已轉法輪。轉法輪已以三乘法度脫衆生。是名相亦無生無滅無住異。爾時須菩提白佛言。世尊。世尊說一切種智。佛告須菩提。我說一切種智。須菩提言。佛說一切智說道種智說一切種智。是三種智有何差別。佛告須菩提。薩婆若是一切聲聞辟支佛智。道種智是菩薩摩訶薩智。一切種智是諸佛智。須菩提白佛言。世尊。何因緣故。薩婆若是聲聞辟支佛智。佛告須菩提。一切名所謂內外法。是聲聞辟支佛能知。不能用一切道一切種智。須菩提言。世尊。何因緣故道種智是諸菩薩摩訶薩智。佛告須菩提。一切道菩薩摩訶薩應知。若聲聞道辟支佛道。菩薩道應具足知。亦應用是道度衆生。亦不作實際證。須菩提白佛言。世尊。如佛說菩薩摩訶薩應具足佛道。不應以是道實際作證耶。佛告須菩提。是菩薩未淨佛土未成就衆生。是時不應實際作證。須菩提白佛言。世尊。菩薩住道中應實際作證。佛言不也。世尊。住非道中實際作證。佛言不也。世尊。住道非道實際作證。佛言不也。世尊。住非道亦非非道實際作證。佛言不也。世尊。菩薩摩訶薩住何處應實際作證。佛告須菩提。於汝意云何。汝住道中不受諸法故。漏盡得解脫不。須菩提言。不也世尊。汝住非道漏盡得解脫不。不也世尊。汝住道非道漏盡得解脫不。不也世尊。汝住非道亦非非道漏盡得解脫不。不也世尊。我無所住不受諸法漏盡心得解脫。佛告須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。無所住應實際作證。須菩提言。世尊。云何爲一切種智相。佛言。一相故名一切

三下三本俱有種字
辟上同無若字
菩上同無是字
應上宋無亦字

種智。所謂一切法寂滅相。復次諸法行類相貌。名字顯示說佛如實知。以是故名一切種智。須菩提白佛言。世尊。一切智道種智一切種智。是三智結斷有差別有盡有餘不。佛言。煩惱斷無差別。諸佛煩惱習一切悉斷。聲聞辟支佛煩惱習不悉斷。世尊。是諸人不得無爲法。得斷煩惱耶。佛言不也。世尊。無爲法中可得差別不。佛言不也。世尊。若無爲法中不可得差別。何以故。說是人煩惱習斷是人煩惱習不斷。佛告須菩提。習非煩惱。是聲聞辟支佛身口有似婬欲瞋恚愚癡相。凡夫愚人爲之得罪。是三毒習諸佛無有。須菩提白佛言。世尊。若道無法。涅槃亦無法。何以故。分別說是須陀洹是斯陀含是阿那含是阿羅漢是辟支佛是菩薩是佛。佛告須菩提。是皆以無爲法而有分別是須陀洹是斯陀含是阿那含是阿羅漢是辟支佛是菩薩是佛。世尊。實以無爲法故分別有須陀洹乃至佛。佛告須菩提。世間言說故有差別非第一義。第一義中無有分別說。何以故。第一義中無言說道。斷結故說後際。須菩提言。世尊。諸法自相空中前際不可得。何況說有後際。佛告須菩提。如是如是。諸法自相空中無有前際。何況有後際無有是處。須菩提。以衆生不知諸法自相空故。爲說是前際是後際。諸法自相空中前際後際不可得。如是須菩提。菩薩摩訶薩應以自相空法行般若波羅蜜。須菩提。若菩薩行自相空法。則無所著若內法若外法。若有爲法若無爲法。若聲聞法若辟支佛法若佛法。須菩提白佛言。常說般若波羅蜜。般若波羅蜜以何義故名般若波羅蜜。佛言。得第一義度一切法到彼岸。以是義故名般若波羅蜜。復次須菩提。諸佛菩薩辟支佛阿羅漢。用是般若波羅蜜得度彼岸。以是義故名般若波羅蜜。復次須菩提。分別籌量破壞一切法乃至微塵。是中不得堅實。以是義故名般若波羅蜜。復次須菩提。諸法如法性實際。皆入般若波羅蜜中。以是義故名般若波羅蜜。復次須菩提。是般若波羅蜜無有法若合若散。若有色若無色。若可見若不可見。若有對若無對。若有漏若無漏。若有爲若無爲。何以故。是般若波羅蜜無色無形無對一相。所謂無相。復次須菩提。是般若波羅蜜。能生一切法一切樂說辯一切照明。須菩提。是般若波羅蜜。魔若魔天求聲聞辟支佛人及餘異道梵志怨讎惡人。不能壞菩薩行般若波羅蜜。何以故。是人輩般若波羅蜜中不皆可得故。須菩提。是菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜義。復次須菩提。菩薩摩訶薩欲行深般若波羅蜜義。應行無常義苦義空義無我義。亦應行苦智義集智義滅

無明作非

提下三本俱無言字

智義道智義法智義比智義世智義他心智義盡智義無生智義如實智義如是須菩提菩薩摩訶薩爲般若波羅蜜義故應行般若波羅蜜須菩提白佛言世尊是深般若波羅蜜中義與非義皆不可得云何菩薩爲深般若波羅蜜義故應行般若波羅蜜佛告須菩提菩薩摩訶薩爲深般若波羅蜜義故應如是念貪欲非義如是義不應行瞋恚愚癡非義如是義不應行一切邪見無義如是義不應行何以故三毒如相無有義無有非義一切邪見如相無有義無有非義復次須菩提菩薩摩訶薩應作是念色非義非非義乃至識非義非非義檀那波羅蜜乃至阿耨多羅三藐三菩提非義非非義何以故須菩提佛得阿耨多羅三藐三菩提時無有法可得若義若非義須菩提有佛無佛諸法法相常住無有義無有非義如是須菩提菩薩摩訶薩行般若波羅蜜應離義及非義須菩提白佛言世尊何以故般若波羅蜜非義非非義佛告須菩提一切有爲法無作相以是故般若波羅蜜非義非非義世尊一切賢聖若佛若佛弟子皆以無爲爲義云何佛言般若波羅蜜無有義非義佛言雖一切賢聖若佛若佛弟子皆以無爲爲義亦不以增亦不以損須菩提譬如虛空如不能益衆生不能損衆生如是須菩提菩薩摩訶薩般若波羅蜜無有增無有損世尊菩薩摩訶薩不學無爲般若波羅蜜得一切種智耶佛言如是如是須菩提菩薩摩訶薩學是無爲般若波羅蜜當得一切種智不以二法故世尊不二法能得不二法耶佛言不也須菩提言二法能得不二法耶佛言不也須菩提言世尊菩薩摩訶薩若不以二法不以不二法云何當得一切種智須菩提無所得即是得以是得無所得

摩訶般若波羅蜜經卷第二十一

經題二同作四
成下三本俱有就字〇葉華同作華葉〇果下宋無實字〇薩下三本俱有摩訶薩三字次同〇處上同有天字
所以者何同作何以故
汝上同有如字

摩訶般若波羅蜜經卷第二十二

〔麗海〕〔宋鹹〕〔元鹹〕〔明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

道樹品第七十一 丹種樹品

須菩提白佛言。世尊。是般若波羅蜜甚深。世尊。諸菩薩摩訶薩不得衆生。而爲衆生求阿耨多羅三藐三菩提。是爲甚難。世尊。譬如人欲於虛空中種樹。是爲甚難。世尊。菩薩摩訶薩亦如是。爲衆生故求阿耨多羅三藐三菩提。衆生亦不可得。佛告須菩提。如是如是。諸菩薩摩訶薩所爲甚難。爲衆生故求阿耨多羅三藐三菩提。度著吾我顚倒衆生。須菩提。譬如人種樹。不識樹根莖枝葉華果而愛護漑灌漸漸。長大華葉果實成就皆得用之。如是須菩提。諸菩薩摩訶薩爲衆生故求阿耨多羅三藐三菩提。漸漸行六波羅蜜。得一切種智成佛樹。以葉華果實益衆生。須菩提。何等爲葉益衆生。因菩薩摩訶薩得離三惡道。是爲葉益衆生。何等爲華益衆生。因菩薩得生刹利大姓婆羅門大姓。居士大家。四天王天處。乃至非有想非無想處。是爲華益衆生。何等爲果益衆生。是菩薩得一切種智。令衆生得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道佛道。是衆生漸漸以三乘法。於無餘涅槃而般涅槃。是爲果益衆生。是菩薩摩訶薩不得衆生實法。而度衆生令離我顚倒著。作是念。一切諸法中無衆生我所。爲衆生求一切種智。是衆生實不可得。須菩提白佛言。世尊。當知是菩薩爲如佛。所以者何。是菩薩因緣故。斷一切地獄種一切畜生種一切餓鬼種。斷一切諸難。斷一切貧窮下賤道。斷一切欲界色界無色界。佛言。如是如是。須菩提。當知是菩薩摩訶薩如佛。須菩提。若菩薩摩訶薩不發心求阿耨多羅三藐三菩提。世間則無過去未來現在諸佛。世間亦無辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹。三惡趣及三界亦無斷時。須菩提。汝所說。是菩薩摩訶薩當知如佛。如是如是。須菩提。當知是菩薩實如佛。何以故。以如故說如來。以如故說辟支佛阿羅漢一切賢聖。以如故說色乃至識。以如故說一切法乃至有爲性無爲性。是諸如如實無異。以是故說名爲如。諸菩

緣下同有以是
相三字
學下宋無如字
次同○蜜下同
有如字次同○
足下三本俱無
知乃至已九字
修同作脩下同
菩上同有是字
○般上同有深
字○世界三本
俱作國土下同
倍千同作千萬

薩摩訶薩學是如得一切種智得名如來。以是因緣故說菩薩摩訶薩當知如佛以如相故。如是須菩提。菩薩摩訶薩應學如般若波羅蜜。菩薩學如般若波羅蜜則能學一切法如。學一切法如則得具足一切法如。具足一切法如已。住一切法如得自在。住一切法如得自在已。善知一切衆生根。善知一切衆生根已。知一切衆生根具足。知一切衆生根具足已。亦知一切衆生業因緣。知一切衆生業因緣已得願智具足。得願智具足已淨三世慧。淨三世慧已饒益一切衆生。饒益一切衆生已淨佛國土。淨佛國土已得一切種智。得一切種智已轉法輪。轉法輪已安立衆生於三乘令入無餘涅槃。如是須菩提。菩薩摩訶薩欲得一切功德自利利人。應發阿耨多羅三藐三菩提心。須菩提白佛言。世尊。是諸菩薩摩訶薩能如說行深般若波羅蜜。一切世間天及人阿修羅應當爲作禮。佛告須菩提。如是如是。菩薩摩訶薩能如說行般若波羅蜜。一切世間天及人阿修羅應當爲作禮。世尊。是初發意菩薩摩訶薩爲衆生故求阿耨多羅三藐三菩提。得幾所福德。佛告須菩提。若千世界中衆生皆發聲聞辟支佛意。於汝意云何其福多不。須菩提言。甚多無量。佛告須菩提。其福不如初發意菩薩摩訶薩百倍千倍巨億萬倍。乃至算數譬喩所不能及。何以故。發聲聞辟支佛意者。皆因菩薩出故。菩薩終不因聲聞辟支佛出。二千世界三千大千世界中亦如是。置是三千大千世界中發意求聲聞辟支佛者。若三千大千世界中衆生皆住乾慧地其福多不。須菩提言。甚多無量。佛言。不如初發意菩薩百倍千倍巨億萬倍。乃至算數譬喩所不能及。置是住乾慧地衆生。若三千大千世界中衆生皆住性地八人地見地薄地離欲地已辦地辟支佛地。是一切福德欲比初發意菩薩百倍千倍巨億萬倍。乃至算數譬喩所不能及。須菩提。若三千大千世界中初發意菩薩。不如入法位菩薩百倍千倍巨億萬億倍。乃至算數譬喩所不能及。若三千大千世界中入法位菩薩。不如向佛道菩薩百千萬倍巨億萬倍。乃至算數譬喩所不能及。若三千大千世界中向佛道菩薩。不如佛功德百千萬倍巨億萬倍乃至算數譬喩所不能及。須菩提白佛言。世尊。初發心菩薩摩訶薩當念何等法。佛言。應念一切種智。須菩提言。何等是一切種智。一切種智何等緣。何等增上。何等行。何等相。佛告須菩提。一切種智。無所有無念無生無示。如須菩提所問。一切種智何等緣。何等增上。何等行。何等相。須菩提。一切種智無法緣念爲增上。寂滅爲行。無相爲相。須

菩提。是名一切種智緣增上行相。須菩提白佛言。世尊。但一切種智無法。色受想行識亦無法。內外法亦無法。四禪四無量心四無色定四念處。四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。空三昧無相三昧無作三昧。八背捨九次第定。佛十力四無所畏。四無礙智十八不共法。大慈大悲大喜大捨。初神通第二第三第四第五第六神通。有爲相無爲相亦無法。佛告須菩提。色亦無法乃至有爲相無爲相亦無法。須菩提言。世尊。何因緣故。一切種智無法色無法。乃至有爲無爲相亦無法。佛言。一切種智自性無故。若法自性無是名無法。色乃至有爲無爲相亦如是。世尊。何因緣故。諸法自性無。佛言。諸法和合因緣生法中無自性。若無自性是名無法。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩當知一切法無性。何以故。一切法性空故。以是故。當知一切法無性。須菩提白佛言。世尊。若一切法無性。初發意菩薩以何等方便力。能行檀那波羅蜜淨佛國土成就衆生。能行尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。行初禪乃至第四禪。行慈心乃至捨心。行空處乃至非有想非無想處。內空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。空三昧無相三昧無作三昧。八背捨九次第定。佛十力四無所畏。四無礙智十八不共法大慈大悲。能行一切種智淨佛國土成就衆生。佛告須菩提。菩薩摩訶薩能學諸法無性。亦能淨佛國土成就衆生。知國土衆生亦無性。即是方便力。須菩提。是菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜修學佛道。行尸羅波羅蜜修學佛道。行羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜修學佛道。乃至行一切種智修學佛道。亦知佛道無性。是菩薩摩訶薩。行六波羅蜜修學佛道。乃至未成就佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法大慈大悲一切種智。是爲修學佛道。能具足是佛道因緣已。以一念相應慧得一切種智。爾時一切煩惱習永盡以不生故。是時以佛眼觀三千大千世界。無法尚不可得何況有法。如是須菩提。菩薩摩訶薩應行無性般若波羅蜜。須菩提。是名菩薩摩訶薩方便力。無法尚不可得何況有法。須菩提。是菩薩摩訶薩若布施時。布施無法尚不可知何況有法。受者及菩薩心。無法尚不可知何況有法。乃至一切種智得者得法得處。無法尚不可知何況有法。何以故。一切法本性爾。非佛作非聲聞辟支佛作。亦非餘人作。一切法無作者故。須菩提白佛言。世尊。諸法諸法性離耶。佛言。如是如是。諸法諸法性離。世尊。若諸法諸法性離。云何離法能知離法若有若無。何以故。無法不能

羼上三本俱無行字

以同作用

知無法。有法不能知有法。無法不能知有法。有法不能知無法。世尊。如是一切法無所有相。云何菩薩摩訶薩作是分別。是法若有若無。佛言。菩薩摩訶薩以世諦故。示衆生若有若無。非以第一義。世尊。世諦第一義諦有異耶。須菩提。世諦第一義諦無異也。何以故。世諦如。卽是第一義諦如。以衆生不知不見是如故。菩薩摩訶薩以世諦示若有若無。復次須菩提。衆生於五受陰中有著相故。不知無所有爲是衆生故示若有若無。令知淸淨無所有。如是須菩提。菩薩摩訶薩應當作是行般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經道行品第七十二

須菩提白佛言。世尊。世尊說菩薩行。何等是菩薩行。佛言。菩薩行者。爲阿耨多羅三藐三菩提行。是名菩薩行。世尊。云何菩薩摩訶薩爲阿耨多羅三藐三菩提行。是名菩薩行。佛言。若菩薩摩訶薩行色空。行受想行識空。行眼空乃至意。行色空乃至法。行眼界空乃至意識界。行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。行內空行外空。行內外空行空空。行大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空諸法空性空自相空無法空有法空無法有法空。行初禪第二第三第四禪。行慈悲喜捨。行無量虛空處無量識處無所有處非有想非無想處。行四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。行空三昧。行無相三昧。行無作三昧。行八背捨九次第定。行佛十力。行四無所畏。行四無礙智。行十八不共法。行大慈大悲。行淨佛國土。行成就衆生。行諸辯才。行文字入無文字。行諸陀羅尼門。行有爲性行無爲性。如阿耨多羅三藐三菩提不作二。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。名爲阿耨多羅三藐三菩提行。是名菩薩行。須菩提白佛言。世尊。說言佛何義故名佛。佛告須菩提。知諸法實義故名爲佛。復次得諸法實相故名爲佛。復次通達實義故名爲佛。復次如實知一切法故名爲佛。須菩提言。何義故名菩提。須菩提。空義是菩提義。如義法性義實際義是菩提義。復次須菩提。名相言說是菩提義。菩提實義不可壞不可分別是菩提義。復次須菩提。諸法實相不誑不異。是菩提義。以是故名菩提。復次須菩提。是菩提是諸佛所有故名菩提。復次須菩提。諸佛正徧知故名菩提。須菩提白佛言。世

示下同有衆生二字
品目道同作菩薩二字
菩上同無名字
大上宋無行字○第上三本俱有行字○無上三本俱有行字○相下同無三昧行三字
作同作行
名同作爲○尊下同有世尊二字
義下同有須菩提三字

尊.若菩薩摩訶薩.爲是菩提行六波羅蜜.乃至行一切種智.於諸法何得何失何增何減.何生何滅何垢何淨.佛告須菩提.若菩薩摩訶薩爲菩提行六波羅蜜.乃至行一切種智.於諸法無得無失無增無減.無生無滅無垢無淨.何以故.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.不爲得失增減生滅垢淨故出.須菩提言.世尊.若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.若不爲得失乃至不爲淨垢故出.菩薩摩訶薩.云何行般若波羅蜜.能取檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.云何行內空乃至無法有法空.云何行禪無量心無色定.云何行四念處乃至八聖道分.云何行空無相無作解脫門.云何行佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲.云何行菩薩十地.云何過聲聞辟支佛地入菩薩位中.佛告須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.不以二法故行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜.不以二法故乃至行一切種智.須菩提言.世尊.若菩薩摩訶薩.不以二法故行檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜.不以二法故乃至行一切種智.菩薩從初發意乃至後意.云何善根增益.佛告須菩提.若行二法者善根不得增益.何以故.一切凡夫人皆依二法.不得增益善根.菩薩摩訶薩行不二法.從初發意乃至後意.於其中間增益善根.以是故.菩薩摩訶薩.一切世間天及人阿修羅無能伏.無能壞其善根令墮聲聞辟支佛地.及諸衆惡不善法.不能制菩薩令不能行檀那波羅蜜增益善根.乃至般若波羅蜜亦如是.須菩提.菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜.世尊.菩薩摩訶薩爲善根故行般若波羅蜜不.佛言不也.須菩提.菩薩亦不爲善根故行般若波羅蜜.亦不爲非善根故行般若波羅蜜.何以故.須菩提.菩薩摩訶薩法未供養諸佛.未具足善根.未得眞知識.不能得一切種智.須菩提言.世尊.云何菩薩摩訶薩.供養諸佛具足善根.得眞知識.能得一切種智.佛告須菩提.菩薩摩訶薩從初發意供養諸佛.諸佛所說十二部經修妬路乃至憂波提舍.是菩薩聞持誦利心觀了達.了達故得陀羅尼.得陀羅尼故能起無礙智.起無礙智故所生處乃至薩婆若終不忘失.亦於諸佛所種善根.爲是善根所護終不墮惡道諸難.以是善根因緣故得深心淸淨.得深心淸淨故能淨佛國土成就衆生.以善根所護故常不離眞知識.所謂諸佛諸菩薩摩阿薩.及諸聲聞能讚歎佛法衆者.如是須菩提.菩薩摩訶薩.應供養諸佛種善根親近善知識

提下元明俱有白佛二字　不上同無若字　○淨垢三本俱作垢淨

諸下同無衆字

妬路三本俱作多羅○憂同作優

善上同有是字

品目三善同作種善根三字

不能同作難一字

摩訶般若波羅蜜經三善品第七十三 丹本種善根品

須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩若不供養諸佛。不具足善根。不得眞知識。當得薩婆若不。佛告須菩提。菩薩摩訶薩供養諸佛種善根得眞知識。一切種智尙難得。何況不供養諸佛不種善根不得眞知識。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩供養諸佛種善根得眞知識。何以故。不能得一切種智。佛告須菩提。是菩薩摩訶薩遠離方便力。不從諸佛聞方便力。所種善根不具足。不常隨善知識教。世尊。何等是方便力。菩薩摩訶薩行是方便力。得一切種智。佛言。菩薩摩訶薩從初發意。行檀那波羅蜜應薩婆若念布施。佛若辟支佛若聲聞若人若非人。是時不生布施想受者想。何以故。觀一切法自相空無生無定相。無所轉入諸法實相。所謂一切法。無作無起相。菩薩以是方便力故增益善根。增益善根故行檀那波羅蜜。淨佛國土成就衆生。布施不受世間果報。但欲救度一切衆生故行檀那波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初發意。行尸羅波羅蜜應薩婆若念持戒時。不墮婬怒癡中。亦不墮諸煩惱纏縛及諸不善破道法。若慳貪破戒瞋恚懈怠亂意愚癡慢大慢慢慢我慢增上慢不如慢邪慢。若聲聞心若辟支佛心。何以故。是菩薩摩訶薩。觀一切法自相空無生無定相。無所轉入諸法實相。所謂一切法無作無起相。菩薩成就是方便力故增益善根。增益善根故行尸羅波羅蜜。淨佛國土成就衆生。持戒不受世間果報。但欲救度一切衆生故行尸羅波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初發意。行羼提波羅蜜應薩婆若念。方便力成就故行見諦道思惟道。亦不取須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢果。何以故。是菩薩摩訶薩知諸法自相空。無生無定相無所轉。雖行是助道法。而過聲聞辟支佛地。須菩提。是名菩薩無生法忍。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初發意。行毗棃耶波羅蜜入初禪乃至入第四禪。入四無量心四無色定。雖出入諸禪而不受果報。何以故。是菩薩成就是方便力故。知諸禪定自相空無生無定相無所轉。淨佛國土成就衆生精進不受世間果報。但欲救度一切衆生故行毗棃耶波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初發意。行禪那波羅蜜應薩婆若念。入八背捨九次第定。亦不證須陀洹果乃至不證阿羅漢果。何以故。是菩薩摩訶薩知諸法自相空無生無定相無所轉。復次須

菩提。菩薩摩訶薩從初發意。行般若波羅蜜。學佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。乃至未得一切種智。未淨佛國土。未成就衆生。於其中間應如是學。何以故。是菩薩摩訶薩知諸法自相空無生無定相無所轉須菩提。菩薩摩訶薩應如是行般若波羅蜜。不受果報

摩訶般若波羅蜜經徧學品第七十四

爾時須菩提白佛言。世尊。是菩薩摩訶薩。大智慧成就。行是深法亦不受果報。佛告須菩提。如是如是。菩薩摩訶薩。大智慧成就。行是深般若波羅蜜。亦不受果報何以故。是菩薩摩訶薩。諸法性中不動故。世尊。諸何等法性中不動。佛言。於無所有性中不動。復次須菩提。菩薩摩訶薩。色性中不動。受想行識性中不動。檀那波羅蜜性中不動。尸羅波羅蜜。羼提波羅蜜。毘梨耶波羅蜜。禪那波羅蜜。般若波羅蜜性中不動。四禪性中不動。四無量性中不動。四無色定性中不動。四念處性中不動。乃至八聖道分性中不動。空三昧無相三昧無作三昧。乃至大慈大悲性中不動。何以故。須菩提。是諸法性即是無所有。須菩提。以無所有法。不能得所有法。須菩提言。世尊。所有法能得所有法不。佛言不也。世尊。所有法能得無所有法不。佛言不也。世尊。無所有法能得無所有法不。佛言不也世尊。若無所有不能得所有。所有不能得所有。所有不能得無所有。無所有不能得無所有。將無世尊不得道耶。佛言有得。不以此四句。世尊云何有得。佛言。非所有。非無所有。無諸戲論是名得道。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩戲論。佛告須菩提。菩薩摩訶薩觀色若常若無常。是爲戲論。觀受想行識若常若無常。是爲戲論。觀色若苦若樂。受想行識若苦若樂。是爲戲論。觀色若我若非我。受想行識若我若非我。色若寂滅若不寂滅。受想行識若寂滅若不寂滅。是爲戲論。苦聖諦應見。集聖諦應斷。滅聖諦應證。道聖諦應修。是爲戲論。應修四禪四無量心四無色定。是爲戲論。應修四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。是爲戲論。應修空解脫門無相解脫門無作解脫門。是爲戲論。應修八背捨九次第定。是爲戲論。我當過須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。是爲戲論。我當具足菩薩十地。是爲戲論。我當入菩薩位。是爲戲論。我當淨佛國土。是爲戲論。我

量下三本俱有心字
相下同無三昧二字
菩上同有若字

地下元明俱無
直過二字
忍上三本俱有
法字

當成就衆生是爲戲論、我當生佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。是爲戲論。我當得一切種智。是爲戲論。我當斷一切煩惱習。是爲戲論。須菩提。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。色若常若無常。不可戲論故不戲論。受想行識若常若無常。不可戲論故不戲論。乃至一切種智。不可戲論故不戲論。何以故。性不戲論性。無性不戲論無性。離性無性更無法可得。所謂戲論者。戲論法戲論處。以是故。須菩提。色無戲論。受想行識乃至一切種智無戲論。如是須菩提。菩薩摩訶薩應行無戲論般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何色不可戲論。乃至一切種智不可戲論。佛告須菩提。色性無乃至一切種智性無。須菩提。若法性無。即是無戲論。以是故色不可戲論。乃至一切種智不可戲論。須菩提。若菩薩摩訶薩能如是行無戲論般若波羅蜜。是時得入菩薩位。須菩提白佛言。世尊。若諸法無有性。菩薩行何等道入菩薩位。爲用聲聞道。爲用辟支佛道。爲用佛道。佛告須菩提。不以聲聞道不以辟支佛道不以佛道。得入菩薩位。菩薩摩訶薩徧學諸道得入菩薩位。須菩提。譬如八人先學諸道然後入正位。未得果而先生果道。菩薩亦如是。先徧學諸道然後入菩薩位。亦未得一切種智而先生金剛三昧。爾時以一念相應慧。得一切種智。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩徧學諸道入菩薩位者。八人向須陀洹得須陀洹。向斯陀含得斯陀含。向阿那含得阿那含。向阿羅漢得阿羅漢。辟支佛道佛道。是諸道各各異。世尊。若菩薩摩訶薩徧學諸道然後入菩薩位者。是菩薩若生八道應作八人。生見道應作須陀洹。生思惟道應作斯陀含作阿那含作阿羅漢。若生辟支佛。道作辟支佛。世尊若菩薩摩訶薩作八人然後入菩薩位無有是處。不入菩薩位得一切種智亦無是處。作須陀洹乃至作辟支佛。然後入菩薩位亦無是處。不入菩薩位得一切種智亦無是處。世尊。我云何當知菩薩摩訶薩。徧學諸道得入菩薩位。佛告須菩提。如是如是。若菩薩摩訶薩作八人得須陀洹果。乃至得阿羅漢果得辟支佛道。然後入菩薩位無有是處。不入菩薩位當得一切種智無有是處。須菩提。若菩薩摩訶薩從初發意。行六波羅蜜時。以智觀過八地。何等八地乾慧地性地八人地見地薄地離欲地已辦地辟支佛地直過。以道種智入菩薩位。入菩薩位已以一切種智斷一切煩惱習。須菩提。是八人若智若斷。是菩薩無生法忍。須陀洹若智若斷。斯陀含若智若斷。阿那含若智若斷。阿羅漢若智若斷。辟支佛若智若斷。皆是菩薩無生忍。菩薩

果明作是

以同作似

鞬三本俱作乾
○陀同作那

助善同作善法
助三字

學如是聲聞辟支佛道。以道種智入菩薩位。入菩薩位已以一切種智斷一切煩惱習得佛道。如是須菩提。菩薩摩訶薩徧學諸道具足。應得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提已。以果饒益衆生。須菩提白佛言。世尊。世尊所說道。聲聞道辟支佛道佛道。何等是菩薩道種智。佛告須菩提。菩薩摩訶薩應生一切道種淨智。須菩提。何等是道種淨智。若諸法相貌所可顯示法。菩薩應正知。正知已爲他演說開示。令諸衆生得解。是菩薩摩訶薩應解一切音聲語言。以是音聲說法。徧滿三千大千世界。如響相以是故須菩提。菩薩摩訶薩應先具足學一切道。道智具足已。應分別知衆生深心。所謂地獄衆生。地獄道地獄因地獄果應知應障。畜生餓鬼道。畜生餓鬼因畜生餓鬼果應知應障。諸龍鬼神鞬闥婆緊陀羅摩睺羅伽阿修羅道因果。應知應障。人道因果應知。諸天道因果應知。四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天梵天光音天徧淨天廣果天無想天阿婆羅呵天無熱天易見天憙見天阿迦尼吒天道。因果應知。無邊虛空處無邊識處無所有處非有想非無想處道。因果應知。四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。因果應知。空解脫門無相解脫門無作解脫門佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。因果應知。菩薩以是道令衆生入須陀洹道。乃至阿羅漢辟支佛道。乃至阿耨多羅三藐三菩提道。須菩提。是名菩薩摩訶薩淨道種智。菩薩學是道種智已。入衆生深心相入已隨衆生心如應說法所言不虛。何以故。是菩薩摩訶薩善知衆生根相。知一切衆生心心數法生死所趣。須菩提。菩薩摩訶薩如是應行般若波羅蜜。何以故。一切諸助善道法。皆入般若波羅蜜中。諸菩薩摩訶薩。聲聞辟支佛所應行。須菩提白佛言。世尊。若四念處乃至阿耨多羅三藐三菩提。是一切法皆不合不散。無色無形無對一相。所謂無相。世尊。云何是助道法能取阿耨多羅三藐三菩提。世尊。是不合不散無色無形。無對一相所謂無相。法無所取無所捨。譬如虛空無取無捨。佛言。如是如是。須菩提。諸法自相空。無所取無所捨。須菩提。有衆生不知諸法自相空。爲是衆生故顯示助道法。令至阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。所有色受想行識。所有檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。所有內空外空乃至無法有法空。初禪乃至非有想非無想處。四念處乃至八聖道分三解脫門。八背捨九次第定。佛十力四無所畏。四無礙智十

佛下三本俱無法字
悼同作掉
礙同作對下同
空下同有相字次同

八不共法。大慈大悲一切種智等諸法。於是聖法中皆不合不散。無色無形無對一相。所謂無相。以世俗法故爲衆生說令解。非以第一義。須菩提。於是一切法中。菩薩摩訶薩以智見如法應學。學已分別諸法應用不應用。須菩提言。世尊。何等法菩薩分別已應用不應用。佛言。聲聞辟支佛法分別知不應用。一切種智分別知應用。如是須菩提。菩薩摩訶薩。於是聖法中應學般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。何以故。說名聖法。何等是聖法。佛告須菩提。諸聲聞辟支佛法。諸菩薩摩訶薩及諸佛。於欲瞋癡不合不散。身見戒取疑不合不散。欲染瞋恚不合不散。色染無色染悼慢無明不合不散。初禪乃至第四禪不合不散。慈悲喜捨虛空處乃至非有想非無想處不合不散。四念處乃至八聖道分不合不散。內空乃至大悲有爲性無爲性不合不散。何以故。是一切法皆無色無形無對一相。所謂無相。無色法與無色法不合不散。無形法與無形法不合不散。無礙法與無礙法不合不散。一相法與一相法不合不散。無相法與無相法不合不散。須菩提。是無色無形無礙一相。所謂無相。般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩應學。學已不得諸法相。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩不學色相耶。不學受想行識相耶。不學眼相乃至意相。不學色相乃至法相。不學地種相乃至識種相。不學檀那波羅蜜相。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜相。不學內空乃至無法有法空。不學初禪相乃至第四禪相。不學慈相乃至捨相。不學無邊空相乃至非有想非無想相。不學四念處相乃至八聖道分相。不學空三昧相無相無作三昧相。不學八背捨九次第定相。不學佛十力相四無所畏相四無礙智相十八不共法相大慈大悲相。不學苦聖諦相集滅道聖諦相。不學逆順十二因緣相。不學有爲性相無爲性相耶。世尊。若不學諸法相。菩薩摩訶薩。云何學諸法相若有爲若無爲。學已過聲聞辟支佛地。若不過聲聞辟支佛地云何入菩薩位。若不入菩薩位云何當得一切種智。若不得一切種智云何當轉法輪。若不轉法輪云何以三乘度衆生生死。佛告須菩提。若諸法實有相菩薩應學是相。須菩提。以一切法實無相無色無形無礙一相。所謂無相。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩不學相不學無相。何以故。有佛無佛諸法一相性常住。須菩提白佛言。世尊。若一切法非有相非無相。菩薩摩訶薩云何修般若波羅蜜。若不修般若波羅蜜不能過聲聞辟支佛地。若不過聲聞辟支佛地不能入菩薩位。若不入菩薩位不得無

相下三本俱無壞字

生法忍。若不得無生法忍不能得諸菩薩神通。若不得菩薩神通不能淨佛國土成就衆生。若不淨佛國土成就衆生不能得一切種智。若不得一切種智不能轉法輪。若不轉法輪不能令衆生得須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢果辟支佛道。不能令得阿耨多羅三藐三菩提。亦不能令衆生得布施福。亦不能令得持戒修定福。佛告須菩提。如是如是。諸法無相非一相非異相。若修無相是修般若波羅蜜。須菩提言。世尊。云何修無相是修般若波羅蜜。佛言。修諸法壞是修般若波羅蜜。世尊。云何修諸法壞是修般若波羅蜜。佛言。修色壞是修般若波羅蜜。修受想行識壞。是修般若波羅蜜。修眼壞耳鼻舌身意法壞。是修般若波羅蜜。修色法壞聲香味觸法壞。是修般若波羅蜜。修不淨觀壞。是修般若波羅蜜。修初禪壞第二第三第四禪壞。是修般若波羅蜜。修慈悲喜捨壞。是修般若波羅蜜。修無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處壞。是修般若波羅蜜。修念佛念法念僧念戒念捨念天念滅念阿那般那壞。是修般若波羅蜜。修無常相苦相無我相空相。集相因相生相緣相。閉相滅相妙相出相。道相正相跡相離相壞。是修般若波羅蜜。修十二因緣壞。修我相衆生壽命相壞。乃至修知者見者相壞。是修般若波羅蜜。修常相樂相淨相我相壞。是修般若波羅蜜。修四念處乃至修八聖道分壞。是修般若波羅蜜。修空三昧無相三昧無作三昧壞。是修般若波羅蜜。修八背捨九次第定壞。是修般若波羅蜜。修有覺有觀三昧。無覺有觀三昧。無覺無觀三昧壞。是修般若波羅蜜。修苦聖諦集聖諦滅聖諦道聖諦壞。是修般若波羅蜜。修苦智集智滅智道智壞。是修般若波羅蜜。修盡智無生智壞。是修般若波羅蜜。修法智比智世智他心智壞。是修般若波羅蜜。修檀那波羅蜜壞。是修般若波羅蜜。修尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜壞。是修般若波羅蜜。修內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空諸法空自相空不可得空無法空有法空無法有法空壞。是修般若波羅蜜。修佛十力四無所畏四無礙智十八不共法壞。是修般若波羅蜜。修須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道壞。是修般若波羅蜜。修一切智壞。是修般若波羅蜜。修斷一切煩惱習壞。是修般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何名修色壞。乃至修斷一切煩惱習壞。是修般若波羅蜜。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不念有色法。是修般若波羅蜜。不念有受想

修上三本俱無爲字

二下同有者字次同

行識。乃至不念有斷一切煩惱習法。是爲修般若波羅蜜。何以故。有法念者。不修般若波羅蜜。須菩提。有法念者。不修檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗黎耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。何以故。須菩提。是人著法不行檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。如是著者。無有解脫無有道無有涅槃。有法念者。不修四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。不修空三昧乃至不修一切種智。何以故。是人著法故。須菩提白佛言。世尊。何等是有法。何等是無法。佛告須菩提。二是有法。不二是無法。世尊。何等是二。佛言。色相是二。受想行識相是二。眼相乃至意相是二。色相乃至法相是二。檀那波羅蜜乃至佛相。阿耨多羅三藐三菩提相。有爲無爲性相是二。須菩提。一切相皆是二。一切二皆是有法。適有有法便有生死。適有生死不得離生老病死憂悲苦惱。以是因緣故。須菩提。當知二相者無有檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。無有道無有果。乃至無有順忍。何況見色相乃至見一切種智相。若無修道云何得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。阿耨多羅三藐三菩提及斷一切煩惱習

摩訶般若波羅蜜經卷第二十二

經題三同作五

品目次下同有第行二字

色上三本俱無若字

盡同作滅次同

道下同有時字

支宋作枝

他下三本俱無人字

〔麗海〕〔宋鹹〕〔元鹹〕〔明鹹〕

摩訶般若波羅蜜經卷第二十三

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

三次品第七十五　丹本次第行品

爾時須菩提白佛言。世尊。若有法相者。尚不得順忍何況得道。世尊。若無法相者當得順忍不。若乾慧地若性地若八人地若見地若薄地若離欲地若已辦地。若辟支佛地若菩薩地若佛地。若修道因是修道當斷煩惱不。以是煩惱故不得過聲聞辟支佛地入菩薩位。若不入菩薩位則不得一切種智。不得一切種智則不能得斷一切煩惱習。世尊。若無有法相。是諸法則不生。若不生是諸法。則不能得一切種智。佛告須菩提。如是如是。若無有法者則有順忍。乃至斷一切煩惱習。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時有法相不。所謂色相乃至識相。眼相乃至意相。色相乃至法相。眼界相乃至意識界相。四念處相乃至一切種智相。若色相若色斷相。乃至識相識斷相。十二入十八界亦如是。若無明相若無明斷相。乃至憂悲愁惱相。憂悲愁惱斷相。若欲相若欲斷相。若瞋相若瞋斷相。若癡相若癡斷相。若苦相若苦斷相。若集相若集斷相。若盡相若盡斷相。若道相若道斷相。乃至一切種智相。斷一切煩惱習相。佛言。不也須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。無有法相非法相。即是菩薩順忍。若無有法相無有非法相。即是修道。亦是道果。須菩提。菩薩摩訶薩有法是菩薩道。無法是菩薩果。以是因緣故。當知一切法無所有性。須菩提白佛言。世尊。若一切法無所有性。佛云何知一切法。無所有性故得成佛。於一切法得自在力。佛告須菩提。如是如是。一切法無所有性。我本行菩薩道修六波羅蜜離諸欲。離惡不善法有覺有觀。離生喜樂。入初禪乃至入第四禪。於是諸禪及支不取相。不念有是禪不受禪味不得是禪。無染清淨行四禪。我於是諸禪不受果報。依四禪住起五神通。身通天耳知他人心宿命通天眼通。於諸神通不取相。不念有是神通。不受神通味。不得是神通。我於是五神通不分別行。須菩提。我爾時用一念相應慧得阿耨多羅三藐三

菩提。所謂是苦聖諦是集是滅是道聖諦。成就十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲得作佛。分別三聚衆生正定邪定不定。須菩提白佛言。云何世尊。於諸法無所有性中起四禪|六神通。亦無衆生而分別作三聚。佛告須菩提。若諸欲惡不善法。若有性若自性若他性我本爲菩薩行時。不能觀諸欲惡不善法無所有性入初禪。以諸欲惡不善法無有性若自性若他性皆是無所有性故。我本行菩薩道時。離諸欲惡不善法。入初禪乃至入第四禪。須菩提。若諸神通有性若自性若他性。我不能知是神通無所有性。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提以神通無|有性若自性若他性皆是無所有性。以是故。諸佛於神通知無所有性。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提言。世尊。若菩薩摩訶薩知諸法無所有性。因四禪五神通。得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。新學菩薩摩訶薩。云何於諸法無所有性中。次第行次第學次第道。以是次第行次第學次第道。得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。菩薩摩訶薩若初從諸佛聞。若從多供養諸佛菩薩聞。若諸阿羅漢若諸阿那含若諸斯陀含若諸須陀洹所聞。得無所有故是佛。得無所有故。是阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹。一切賢聖皆以得無所有故有名。一切有爲作法無所有性。乃至無有如毫末許所有。是菩薩摩訶薩聞是已作是念。若一切法無有性。得無所有性故是佛、乃至得無所有性故是須陀洹。我若當得阿耨多羅三藐三菩提。若不得一切法常無有性。我何以不發心得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提已。一切衆生行於有相。當|令住無所有中。須菩提。菩薩摩訶薩如是思惟已。發阿耨多羅三藐三菩提心。爲度一切衆生故。菩薩摩訶薩所行。次第行次第學次第道者。如過去諸菩薩摩訶薩所行道。得阿耨多羅三藐三菩提。是新發意菩薩應學六波羅蜜。所謂檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。是菩薩摩訶薩若行檀那波羅蜜時。自行布施亦教人布施。讚歎布施功德。歡喜讚歎行布施者。以是布施因緣故得大財富。是菩薩遠離慳心。布施衆生飮食衣服香華瓔珞房舍臥具燈燭。種種資生所須盡給與之。菩薩摩訶薩行是布施及持戒。生天人中得大尊貴。以是持戒布施故得禪定衆。以是布施持戒禪定故得智慧衆解脫衆解脫知見衆。是菩薩因是布施持戒禪定衆智慧衆解脫衆解脫知見衆故。過聲聞辟支佛地入菩薩位。入菩薩位已得淨佛國|土成就衆|生得一切種智。得一切種智已

六明作五

有上三本俱有所字

令下三本俱有得字

食飮同作飮食

土下同有淨佛國土已成就衆生九字○生下同有已字

是下同無事字〇以元明俱作已次同〇戒下三本俱無及布施三字

已宋作以

阿羅漢三本俱作聲聞二字

已宋元俱作以

耶下三本俱有波羅蜜三字

已宋作以次同

轉法輪。轉法輪已以三乘法度脫衆生生死。如是須菩提。菩薩以是布施次第行次第學次第道。是事皆不可得。何以故。自性無所有故。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初發意以來。自行持戒教人持戒。讚歎持戒功德。歡喜讚歎行持戒者。持戒及布施因緣故。生天人中得大尊貴。見貧窮者施以財物。不持戒者教令持戒。亂意者教令禪定。愚癡者教令智慧。無解脫者教令解脫。無解脫知見者。教令解脫知見。以是持戒禪定智慧解脫解脫知見故。過聲聞辟支佛地入菩薩位。入菩薩位已得淨佛國土。淨佛國土已成就衆生。成就衆生已得一切種智。得一切種智已轉法輪。轉法輪已以三乘法度脫衆生。如是須菩提。菩薩以是持戒。次第行次第學次第道。是事皆不可得。何以故。一切法自性無所有故。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初已來。自行羼提波羅蜜教人行羼提。讚歎羼提功德。歡喜讚歎行羼提者。行羼提波羅蜜時。布施衆生各令滿足。教令持戒教令禪定乃至解脫知見。以是布施持戒禪定智慧因緣故。過阿羅漢辟支佛地入菩薩位中。入菩薩位中已得淨佛國土。得淨佛國土已成就衆生。成就衆生已得一切種智。得一切種智已轉法輪。轉法輪已以三乘法度脫衆生生死。如是須菩提。菩薩以羼提波羅蜜。次第行次第學次第道。是事皆不可得。何以故。一切法自性無所有故。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初已來。自行毗梨耶教人行毗梨耶。讚歎行毗梨耶功德。歡喜讚歎行毗梨耶者。乃至是事皆不可得。自性無所有故。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初已來。自入禪入無量心入無色定。亦教人入禪入無量心入無色定。讚歎入禪入無量心入無色定功德。歡喜讚歎行禪無量心無色定者。是菩薩住諸禪定無量心。布施衆生各令滿足。教令持戒教令禪定智慧。以是布施禪定智慧解脫解脫知見因緣故。過聲聞辟支佛地入菩薩位。入菩薩位已淨佛國土。淨佛國土已成就衆生。成就衆生已得一切種智。得一切種智已轉法輪。轉法輪已以三乘法度脫一切衆生。乃至是事皆不可得。自性無所有故。復次須菩提。菩薩摩訶薩從初以來。行般若波羅蜜布施衆生各令滿足。教令持戒禪定智慧解脫解脫知見。是菩薩行般若波羅蜜時自行六波羅蜜。亦教他人令行六波羅蜜。讚歎六波羅蜜功德。歡喜讚歎行六波羅蜜者。是菩薩以是檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜因緣及方便力。過聲聞辟支佛地入菩薩位。乃至是事不可得。自性無所有故。須菩提。是名初發

衆宋作本下同

非法無所念三本俱作無所有何以故無憶故九字下同

記上同無有字

已宋作以

意菩薩摩訶薩次第行次第學次第道。復次須菩提。菩薩摩訶薩次第行次第學次第道。菩薩摩訶薩從初已來。以一切種智相應心。信解諸法無所有性修六念。所謂念佛念法念僧念戒念捨念天。須菩提。云何菩薩摩訶薩修念佛。菩薩摩訶薩念佛。不以色念。不以受想行識念。何以故。是色自性無。受想行識自性無。若法自性無。是爲無所有。何以故。無憶故。是爲念佛。復次須菩提。菩薩摩訶薩念佛。不以三十二相念。亦不念金色身。不念丈光不念八十隨形好。何以故。是佛身自性無故。若法無性是爲無所有。何以故。無憶故是爲念佛。復次須菩提。不應以戒衆念佛。不應以定衆智慧衆解脫衆解脫知見衆念佛。何以故。是衆無有自性。若法無自性是爲無所有。何以故。無憶故是爲念佛。復次須菩提。不應以十力念佛。不應以四無所畏四無礙智十八不共法念佛。不應以大慈大悲念佛。何以故。是諸法自性無。若法自性無是爲非法。無所念。是爲念佛。復次須菩提。不應以十二因緣法念佛。何以故。是因緣法自性無。若法自性無是爲非法。無所念是爲念佛如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時應念佛。是爲菩薩初發意次第行次第學次第道。是菩薩摩訶薩次第行次第學次第道中住。能具足四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。修行空三昧無相無作三昧。乃至一切種智。諸法性無所有故。是菩薩知諸法性無所有。是中無有性無無性。須菩提。云何菩薩摩訶薩應修念法。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不念善法不念不善法。不念有記法不念無記法。不念世間法。不念出世間法。不念淨法不念不淨法。不念聖法。不念凡夫法。不念有漏法不念無漏法。不念欲界繫法色界繫法無色界繫法。不念有爲法無爲法。何以故。是諸法自性無。若法自性無是爲非法。無所念是爲念法。念法中學無所有性故。乃至當得一切種智。是菩薩得阿耨多羅三藐三菩提時。得諸法無所有性。是無所有性中非有相非無相。如是須菩提。菩薩摩訶薩應修念法。於是法中乃至無少許念何況念法。須菩提。菩薩摩訶薩。云何應修念僧。須菩提。菩薩摩訶薩念僧無爲法故。分別有佛弟子衆。是中乃至無少許念何況念僧。如是菩薩摩訶薩應念僧。須菩提。菩薩摩訶薩云何應修念戒。須菩提。菩薩摩訶薩從初發意已來應念聖戒。無缺戒無隙戒。無瑕戒無濁戒。無著戒自在戒。智者所讚戒。具足戒隨定戒。應念是戒無所有性。乃至無少許念何況念戒。須菩提。菩薩摩訶薩從初發意已來應念捨。若自念捨

薩下三本俱有摩訶薩三字

法下同有是無所有性五字

無下三本俱有有字

法忍同作忍法

若念他捨。若捨財若捨法。若捨煩惱。觀是捨不可得故。乃至無少許念何況念捨。如是須菩提。菩薩摩訶薩應念捨。須菩提。云何菩薩摩訶薩應念天。須菩提。菩薩作是念。四天王諸天所有信戒施聞慧。此間命終生彼天處。我亦有是信戒施聞慧。乃至他化自在天所有信戒施聞慧。此間命終生彼天處。我亦有是信戒施聞慧。如是須菩提。菩薩摩訶薩應念是天。無所有性中尚無少許念何況念天。須菩提。菩薩摩訶薩行是六念。是名次第行次第學次第道。爾時須菩提白佛言。世尊。若一切法無所有性。所謂念色乃至識眼乃至意色乃至法眼界乃至意識界是無所有性。檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜。內空乃至無法有法空。四念處乃至八聖道分。佛十力乃至一切種智。是無所有性。世尊。若一切法無所有性者。是則無道無智無果。佛告須菩提。汝見是色性實有不。乃至一切種智性實有不。須菩提言。不見也世尊。佛告須菩提。汝若不見諸法實有。云何作是問。須菩提言。世尊。我於是法不敢有疑。但為當來世諸比丘求聲聞辟支佛道菩薩道者。是人當如是言。若一切法無所有性。誰垢誰淨誰縛誰解。是不知不解故。而破於戒破正見。破威儀破淨命。是人破此事故當墮三惡道。世尊。我畏當來世有如是事。以是故問佛世尊。我於是法中信不疑不悔

摩訶般若波羅蜜經一念品第七十六　丹無漏行六度品

須菩提白佛言。世尊。若一切法性無所有。菩薩見何等利益故。為衆生發阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。以一切法性無所有故。菩薩以是故為衆生求阿耨多羅三藐三菩提。何以故。須菩提。諸有得有著者難可解脫。須菩提。諸得相者。無有道無有果無阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。無得相者。有道有果有阿耨多羅三藐三菩提不。須菩提。無所得即是道即是果。即是阿耨多羅三藐三菩提。法性不壞故。若無所得法欲得道欲得果。欲得阿耨多羅三藐三菩提。為欲壞法性。須菩提白佛言。世尊。若無所得法。即是道即是果。即是阿耨多羅三藐三菩提云何有菩薩初地乃至十地。云何有無生法忍。云何有報得神通。云何有報得布施持戒忍辱精進禪定智慧。住是果報法中能成就衆生能淨佛國土。及供養諸佛衣服飲食香華瓔珞房舍臥具燈燭。種種資生

神上同有五字
者上同無施字〇忍下同有辱字
如是行同作行是二字
足下同有行字
蜜下同有故字
無上三本俱有以字次同

所須之具。乃至得阿耨多羅三藐三菩提。不斷是福德。乃至般涅槃後舍利及弟子得供養。爾乃滅盡。佛告須菩提。以諸法無所得相故。得菩薩初地乃至十地。有報得神通布施持戒忍辱精進禪定智慧。成就衆生淨佛國土。亦以善根因緣故能利益衆生。乃至般涅槃後舍利及弟子得供養。須菩提白佛言。世尊。若諸法無所得相。布施持戒忍辱精進禪定智慧諸神通有何差別。佛告須菩提。無所得法布施持戒忍辱精進禪定智慧神通無有差別。以衆生著布施乃至神通故分別說。世尊。云何無所得法布施乃至神通無有差別。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不得布施施者受者。皆不可得而行布施。不得戒而持戒。不得忍而行忍。不得精進而行精進。不得禪而行禪。不得智慧而行智慧。不得神通而行神通。不得四念處而行四念處。乃至不得八聖道分而行八聖道分。不得空三昧無相無作三昧而行空無相無作三昧。不得衆生而成就衆生。不得淨佛國土而淨佛國土。不得諸佛法而得阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。菩薩摩訶薩應如是行無所得般若波羅蜜。菩薩摩訶薩行是無所得般若波羅蜜時。魔若魔天不能破壞。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。一念中具足六波羅蜜。四禪四無量心四無色定。四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。三解脫門。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法大慈大悲。三十二相八十隨形好。佛告須菩提。菩薩摩訶薩所有布施。不遠離般若波羅蜜。所修持戒忍辱精進禪定不遠離般若波羅蜜。四禪四無量心四無色定修四念處乃至八十隨形好不遠離般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩不遠離般若波羅蜜。一念中具足行六波羅蜜乃至八十隨形好。佛言。菩薩行般若波羅蜜時。所有布施不遠離般若波羅蜜以不二相。持戒時亦不二相。修忍辱勤精進入禪定亦不二相。乃至八十隨形好亦不二相。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩布施時不二相。乃至修八十隨形好不二相。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。欲具足檀那波羅蜜。檀那波羅蜜中攝諸波羅蜜及四念處乃至八十隨形好。世尊。云何菩薩布施時攝諸無漏法。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住無漏心布施。於無漏心中不見相。所謂誰施誰受所施何物以是無相心無漏心。斷愛斷慳貪心而行布施。是時不見布施乃至不見阿耨多羅三藐三菩提法。是菩薩無相心無漏心。持戒不見是戒。乃至不見一切佛法。

八上同有不見二字
相下同無三昧二字
及人同作人及○修同作脩下同
婆上三本俱無若字○無相天無無煩天同作無煩天少廣天○賦同作尼

無相心無漏心。忍辱不見是忍辱。乃至不見一切佛法。以無相心無漏心。精進不見是精進。乃至不見一切佛法。以無相心無漏心入禪定不見是禪定。乃至不見一切佛法。以無相心無漏心修智慧不見是智慧。乃至不見一切佛法。以無相心無漏心修四念處不見是四念處乃至八十隨形好。世尊。若諸法無相無作。云何具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。云何具足四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。云何具足空三昧無相三昧無作三昧佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。云何具足三十二相八十隨形好。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以無相心無漏心布施。須食與食。乃至種種所須盡給與之。若內若外若支解其身。若國城妻子布施衆生若有人來語菩薩言。何用是布施爲是無所益行般若波羅蜜。菩薩作是念。是人雖來呵我布施我終不悔。我當勤行布施不應不與。施已與一切衆生共之迴向阿耨多羅三藐三菩提。亦不見是相誰施誰受所施何物。迴向者誰。何等是迴向法。何等是迴向處。所謂阿耨多羅三藐三菩提。是相皆不可見。何以故。一切法以內空故空。外空故空。內外空故空。空空有爲空無爲空畢竟空無始空散空性空一切法空自相空故空。如是觀作是念。迴向者誰迴向何處用何法迴向。是名正迴向。爾時菩薩能成就衆生淨佛國土。能具足檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。乃至三十七助道法空無相無作三昧。乃至十八不共法。是菩薩如是具足檀那波羅蜜。而不受世間果報。譬如他化自在諸天。隨意所須卽皆得之。菩薩亦如是。心生所願隨意卽得。是菩薩摩訶薩。以是布施果報故能供養諸佛。亦能滿足一切衆生天及人阿修羅。是菩薩以檀那波羅蜜攝取衆生。用方便力以三乘法度脫衆生生死。如是須菩提。菩薩摩訶薩於無相無得無作諸法中具足檀那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩云何於無相無得無作法中具足尸羅波羅蜜。須菩提。是菩薩摩訶薩行尸羅波羅蜜時持種種戒。所謂聖無漏入八聖道分戒。自然戒報得戒受得戒心生戒。如是等不缺不破不雜不濁。不著自在戒智所讚戒。用是戒無所取若色若受想行識。若三十二相八十隨形好。若刹利大姓若婆羅門大姓居士大家。若四天王天三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。梵衆天光音天徧淨天廣果天無相天無煩天無熱天妙見天喜見天阿迦膩吒

知上同無以字

皆同作能

以明作已

卽三本俱作是

以元明俱作已

天。虛空處天識處天無所有處天非有想非無想處天。若須陀洹果若斯陀含果若阿那含果若阿羅漢果若辟支佛道。若轉輪聖王若天王。但爲一切衆生共之。迴向阿耨多羅三藐三菩提。以無相無得無二迴向。爲世俗法故非第一實義。是菩薩具足尸羅波羅蜜以方便力。起四禪不味著故得五神通。因四禪得天眼。是菩薩住二種天眼修得報得。得天眼已見東方現在諸佛·乃至得阿耨多羅三藐三菩提·如所見事不失·南西北方四維上下現在諸佛。乃至得阿耨多羅三藐三菩提。如所見不失。是菩薩用天耳淨過於人耳。聞十方諸佛說法如所聞不失。能自饒益亦益他人。是菩薩以知他心智知十方諸佛心。及知一切衆生心。亦能饒益一切衆生。是菩薩用宿命智知過去諸業因緣。是業因緣不失故。是衆生在在處處所生悉知。是菩薩用是漏盡智。令衆生得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。在在處處皆令衆生入善法中。如是須菩提。菩薩摩訶薩於諸法無相無得無作中具足尸羅波羅蜜。世尊。云何諸法無相無作無得。菩薩摩訶薩能具足羼提波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩從初發意以來乃至坐道場。於其中間。若一切衆生來以瓦石刀杖加是菩薩。菩薩是時不起瞋心乃至不生一念。爾時菩薩應修二種忍。一者一切衆生惡口罵詈若加刀杖瓦石。瞋心不起。二者一切法無生無生法忍。菩薩若人來惡口罵詈。或以瓦石刀杖加之。爾時菩薩應如是思惟。罵我者誰。譏訶者誰。誰打擲者誰有受者。卽時菩薩應思惟諸法實性。所謂畢竟空。無法無衆生。諸法尚不可得。何況有衆生。如是觀諸法相時。不見罵者不見割截者。是菩薩如是觀諸法相時。卽得無生法忍。云何名無生法忍。知諸法相常不生。諸煩惱從本以來亦常不生。是菩薩摩訶薩住是二忍。能具足四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分。三解脫門。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。是菩薩住是聖無漏出世間法。不共一切聲聞辟支佛。具足聖神通。住聖神通已以天眼見東方諸佛。是人得念佛三昧乃至阿耨多羅三藐三菩提終不斷絕。南西北方四維上下亦復如是。是菩薩用天耳聞十方諸佛所說法如所聞爲衆生說。是菩薩亦知十方諸佛心。及知一切衆生念。知已隨其心而說法。是菩薩以宿命智。知一切衆生宿世善根。爲衆生說法令其歡喜。是菩薩以漏盡神通。教化衆生令得三乘。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力成就衆生具足一切種智。得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪。如是須菩提。菩薩

至三本俱作到

分下同有精進二字

作明作得

衆上三本俱有是字

國土同作世界

支上同無以字〇土同作城

摩訶薩無相無得無作法中具足羼提波羅蜜。須菩提言。世尊。菩薩摩訶薩云何於諸法無作無作無得法中能具足毗梨耶波羅蜜。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。成就身精進心精進。入初禪乃至入第四禪。受種種神通力。能分一身爲多身。乃至手捫摸日月。成就身精進故。飛至東方過無量百千萬諸佛世界。供養諸佛飲食衣服醫藥臥具花香瓔珞種種所須。乃至阿耨多羅三藐三菩提。福德果報終不滅盡。是菩薩得阿耨多羅三藐三菩提時。一切世間天及人勤設供養衣服飲食。乃至入無餘涅槃後。舍利及弟子得供養。亦以是神通力故。至諸佛所聽受法教。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不違失。是菩薩修一切種智時。淨佛國土成就衆生。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。成就身精進能具足毗梨耶波羅蜜。須菩提。云何菩薩成就心精進能具足毗梨耶波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩心精進。以是心精進聖無漏入八聖道分。不令身口不善業得入。亦不取諸法相。若常若無常。若苦若樂。若我若無我。若有爲若無爲。若欲界若色界若無色界。若有漏性若無漏性。若初禪乃至第四禪。若慈悲喜捨。若無邊虛空處乃至非有想非無想處。若四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。若空無相無作。若佛十力乃至十八不共法。不取相。若常若無常若苦若樂若我若無我。若須陀洹果若斯陀含果若阿那含果若阿羅漢果。若辟支佛道若菩薩道。若阿耨多羅三藐三菩提。若是須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢。若是辟支佛是菩薩是佛。不取相。是衆生斷三結故得須陀洹。是衆生三毒薄故得斯陀含。是衆生斷下分結故得阿那含。是衆生斷上分結故得阿羅漢。是衆生以辟支佛道故作辟支佛。是衆生行道種智故名菩薩。亦不取是諸法相。何以故。不可以性取相。是性無故。是菩薩以是心精進故。廣利益衆生。亦不得衆生。是爲菩薩具足毗梨耶波羅蜜。具足諸佛法淨佛國土成就衆生。不可得故。是菩薩身精進心精進成就故。攝取一切諸善法。是法亦不著故。從一佛國至一佛國爲利益衆生。所作神通隨意無礙。若雨諸華若散諸香若作伎樂。若動大地若放光明。若示七寶莊嚴國土。若現種種身若放大智光明令知聖道。令遠離殺生乃至邪見。或以布施利益衆生或以持戒。或以支解身體。或以妻子或以國土。或以己身給施。隨所方便利益衆生。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。無相無作無得諸法中用身心精進能具足毗梨耶波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩行般

空上三本俱有虛字
殖同作植○國同作土次同○以上同有或字
報上同有得字○不上同有亦字
一切行明作行一切
作宋作得
性三本俱作相

若波羅蜜。住無相無作無得法中能具足禪那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩除佛諸禪定。餘一切諸禪三昧。皆能具足。是菩薩離諸欲諸惡不善法。離生喜樂有覺有觀。入初禪乃至入第四禪。以是慈悲喜捨心遍滿一方乃至十方。一切世間徧滿。是菩薩過一切色相滅有對相。不念別異相故入無邊空處。乃至入非有想非無想處。是菩薩於禪那波羅蜜中住。逆順入八背捨九次第定。入空三昧無相無作三昧。或時入無相三昧。或時入如電光三昧。或時入聖正三昧。或時入如金剛三昧。是菩薩住禪那波羅蜜中。修三十七助道法。用道種智入一切禪定。過乾慧地性地八人地薄地見地離欲地已辦地辟支佛地。入菩薩位。入菩薩位已具足佛地。是諸地中行乃至阿耨多羅三藐三菩提。不中道取道果。是菩薩住是禪那波羅蜜中。從一佛國至一佛國供養諸佛。從諸佛所殖諸善根淨佛國土。從一國至一國利益衆生。以布施攝取衆生。或以持戒或以三昧。或以智慧或以解脫。或以解脫知見攝取衆生。教衆生令得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。諸有善法能令衆生得道皆教令得。是菩薩住此禪那波羅蜜中。能生一切陀羅尼門。得四無礙智報得諸神通。是菩薩終不入母人胞胎。終不受五欲無生不生。雖生不爲生法所汙。何以故。是菩薩見一切作法如幻而利益衆生。亦不得衆生及一切法。教衆生令得無所得處。是世俗法故非第一實義。住是禪那波羅蜜一切行禪定解脫三昧。乃至阿耨多羅三藐三菩提。終不離禪那波羅蜜。是菩薩行如是道種智時。得一切種智斷一切煩惱習。斷已自益其身亦益他人。自益益他已。爲一切世間天及人阿修羅作福田。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。能具足無相禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住無相無作無得法中。修具足般若波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。於諸法不見定實相。是菩薩見色不定非實相。乃至見識不定非實相。不見色生乃至不見識生。若不見色生乃至不見識生。一切法若有漏若無漏。不見來處不見去處亦不見集處。如是觀時。不得色性乃至識性。亦不得有漏無漏法性。是菩薩行般若波羅蜜時。信解一切諸法無所有性。如是信解已。行內空乃至無法有法空。於諸法無所著。若色若受想行識。乃至阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩行無所有般若波羅蜜。能具足菩薩道。所謂六波羅蜜乃至三十七助道法。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法三十二相八十隨形好。是菩

薩住空淨佛道中。所謂六波羅蜜三十七助道法。報得神通以是法饒益衆生。宜以布施攝敎令布施。宜以持戒攝敎令持戒。宜以禪定智慧解脫解脫知見攝敎令修禪定智慧解脫解脫知見。宜以諸道法敎者。敎令得須陀洹果得斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。宜以佛道化者。敎令得菩薩道具足佛道。如是等隨其所應道地而敎化之各令得所。是菩薩現種種神通力時。過無量恒河沙等國土度脫衆生生死。隨其所須皆供給之各各滿足。從一國土至一國土。見淨妙國土以自莊嚴己佛國土。譬如他化自在天中資生所須隨意自至。亦如諸淨佛國離於求欲。是八以是報得檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。報得五神通行菩薩道。道種智成就一切功德。當得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩爾時不受色法乃至識。不受一切法若善若不善。若世間若出世間。若有漏若無漏。若有爲若無爲。如是一切法皆不受。是菩薩得阿耨多羅三藐三菩提時。國土一切所有資生之物皆無有主。何以故。是菩薩行一切法不受。以不可得故。如是須菩提。菩薩摩訶薩無相法中能具足般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經六喻品第七十七 丹夢化六度品

須菩提白佛言。世尊。云何無相不可分別自相空。諸法中具足修六波羅蜜。所謂檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。世尊。云何無異法中而分別說異相。云何般若波羅蜜攝檀尸羼精進禪。云何行異相法。以一相道得果。佛告須菩提。菩薩摩訶薩住五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。住是中行布施持戒修忍辱勤精進入禪定修智慧。知是五陰實如夢如響如影如焰如幻如化。五陰如夢無相乃至如化無相。何以故。夢無自性響影焰幻化皆無自性。若法無自性是法無相。若法無相是法一相。所謂無相。以是因緣故。須菩提。當知菩薩布施無相施者無相受者無相。能如是知布施。是能具足檀那波羅蜜。乃至能具足般若波羅蜜。能具足四念處乃至八聖道分。能具足內空乃至無法有法空。能具足空三昧無相無作三昧。能具足八背捨九次第定五神通五百陀羅尼門。能具足佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。是菩薩住是報得無

施上三本俱無布字○戒上同無持字
斯上同無得字
恒上同有如字○沙下同無等字○各同作令
三本俱以波羅蜜爲卷第二十五終同六喻品以下爲卷第二十六○品目上同無經名
云上同有世尊二字次同○羼下同有提字

知上三本俱無以字
菩上元明俱無是字 具足三本俱作是一字
處下同無生字
菩上同有是字
閡同作礙

漏法中飛到東方無量國土。供養諸佛衣服飲食。乃至隨其所須而供養之。亦利益衆生。應以布施攝者而布施攝之。應以持戒攝者教令持戒。應以忍辱精進禪定智慧攝者。教令忍辱精進禪定智慧而攝取之。乃至應以種種善法攝者。以種種善法而攝取之。是菩薩成就是一切善法。受世間身不爲世間生死所汙。爲衆生故於天上人中受尊貴富樂。以是尊貴富樂攝取衆生。是菩薩以知一切法無相故。知須陀洹果亦不於中住。知斯陀含果阿那含果阿羅漢果亦不於中住。知辟支佛道亦不於中住。何以故。是菩薩用一切種智。知一切法已應當得一切種智。不與聲聞辟支佛共。如是須菩提。菩薩摩訶薩知一切法無相已。知六波羅蜜無相。乃至知一切佛法無相。復次須菩提。是菩薩摩訶薩住五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。能具足無相尸羅波羅蜜。具足戒不缺不破不雜不著。聖人所讃無漏戒入八聖道分。住是戒中持一切戒。所謂名字戒自然戒律儀戒作戒無作戒。威儀戒非威儀戒。是菩薩摩訶薩成就諸戒。不作是願。我以此戒因緣故。生剎利大姓婆羅門大姓居士大家若小王家若轉輪聖王家若四天王天處。生若三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。不作是願。我持戒因緣故。當得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。何以故。一切法無相。所謂一相無相法不能得無相法。有相法不能得有相法。無相法不能得有相法。有相法不能得無相法。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。能具足無相尸羅波羅蜜而入菩薩位。入菩薩位已得無生法忍。行道種智得報得五神通。住五百陀羅尼門得四無閡智。從一佛國至一佛國供養諸佛。成就衆生淨佛國土。雖入五道中生死業報不能染汙。須菩提。譬如化轉輪聖王。雖坐臥行住不見來處不見去處。不見住處坐處臥處。而能利益衆生亦不得衆生。菩薩亦如是。須菩提。譬如須扇多佛。得阿耨多羅三藐三菩提爲三乘轉法輪。無有得菩薩記者。化作佛已捨身壽命入無餘涅槃。須菩提。菩薩亦如是。行般若波羅蜜時能具足尸羅波羅蜜。能具足尸羅波羅蜜已攝一切善法。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時住五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。具足無相羼提波羅蜜。世尊。云何菩薩摩訶薩具足無相羼提波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩住二忍中。能具足羼提波羅蜜。何等二忍。生忍法忍。從初發意乃至坐道場。於其中間若一切衆生來罵詈惡語。或以瓦石刀杖加是菩薩。是菩薩欲具足羼提波羅蜜故。

念惡同作惡念
薩下三本倶有摩訶薩三字
及同作乃至二字成上同無能字
國土同作世界下同
精進同作毗黎耶三字下同〇道下同無分字
非上同有入字

乃至不生一念惡。是菩薩如是思惟。罵我者誰。割我者誰。以惡言加我者誰。以瓦石刀杖害我者誰。何以故是菩薩於一切法得無相忍故。云何作是念。是人罵我害我。若菩薩摩訶薩如是行。能具足羼提波羅蜜。以是羼提波羅蜜具足故得無生法忍。須菩提白佛言。世尊。云何爲無生法忍。是忍何所斷何所知。佛告須菩提。得法忍乃至不生少許不善法。是故名無生忍。一切菩薩所斷煩惱盡。是名斷。用智慧知一切法不生。是名知。須菩提白佛言。世尊。諸聲聞辟支佛無生法忍。菩薩無生法忍。有何等異。佛告須菩提。諸須陀洹若智若斷。是名菩薩忍。斯陀含若智若斷。是名菩薩忍。阿那含若智若斷。是名菩薩忍。阿羅漢若智若斷。是名菩薩忍。辟支佛若智若斷。是名菩薩忍。是爲異。須菩提。菩薩摩訶薩成就是忍。勝一切聲聞辟支佛。住是報得無生忍中。行菩薩道能具足道種智。具足道種智故常不離三十七助道法。及空無相無作三昧。常不離五神通。不離五神通故能成就衆生淨佛國土。能成就衆生淨佛國土已。當得一切種智。如是須菩提。菩薩摩訶薩具足無相羼提波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩住無相五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。行身精進心精進。以身精進故起神通。起神通故到十方國土。供養諸佛饒益衆生。以身精進力教化衆生令住三乘。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。能具足無相精進波羅蜜。是菩薩以心精進聖無漏精進。入八聖道分中能具足毗梨耶波羅蜜。是毗梨耶波羅蜜皆攝一切善法。所謂四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。四禪四無量心四無色定。八背捨九次第定。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。是中菩薩行是法應具足一切種智。具足一切種智已斷一切煩惱習。具足滿三十二相身放無等無量光明。放光明已三轉十二行法輪。法輪轉故三千大千國土六種震動。光明遍照三千大千國土三千大千國土中衆生聞說法聲。皆以三乘法而得度脫。如是須菩提。菩薩摩訶薩住精進波羅蜜中。能大饒益及能具足一切種智。復次須菩提。菩薩住無相五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。能具足禪那波羅蜜。世尊。云何菩薩住五陰。如夢如響如影如焰如幻如化。能具足禪那波羅蜜。須菩提。菩薩摩訶薩入初禪乃至入第四禪。入慈悲喜捨入無量心。入無邊虛空處乃至非有想非無想處。入空三昧無相無作三昧。入如電光三昧。入如金剛三昧。入聖正三昧。除諸佛三昧。諸餘三昧若共聲聞辟支佛入三昧。皆證皆入。亦不受三昧味。

味上同無法字
能上同有卽字
含下三本俱有果字次同
諸下同有法字
有上同無是字

亦不受三昧果。何以故。是菩薩知是三昧無相無所有性。當云何於無相法受無相法味。無所有法受無所有法味。若不受味。則不隨禪定力生。若色界若無色界。何以故。是菩薩不見是二界。亦不見是禪亦不見入禪者。亦不見用是法入禪者。不見入禪處。若不得是法。爾時菩薩能具足無相禪那波羅蜜。菩薩用是禪那波羅蜜。能過聲聞辟支佛地。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩具足無相禪那波羅蜜故。能過聲聞辟支佛地。佛告須菩提。是菩薩善學內空善學外空。乃至善學無法有法。空於是諸空無法可住處。若須陀洹果斯陀含阿那含阿羅漢果乃至一切種智。是諸法空亦空。菩薩摩訶薩行如是諸空能入菩薩位中。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩位。云何非位。須菩提。一切有所得是非菩薩位。一切無所得是菩薩位。世尊。何等是有所得。何等是無所得。須菩提。色是有所得。受想行識是有所得。眼耳鼻舌身意乃至一切種智。是有所得。是非菩薩位。須菩提。菩薩位者。是諸法不可示不可說。何等法不可示不可說。若色乃至一切種智何以故。須菩提。色性是不可示不可說。乃至一切種智性是不可示不可說。須菩提。如是名菩薩位。是菩薩入位中。一切禪定三昧具足。尚不隨禪定三昧力生。何況住婬怒癡於中起罪業生。菩薩但住如幻法中饒益衆生。亦不得衆生亦不得幻。若無所得是時能成就衆生淨佛國土。如是須菩提。是名菩薩具足無相禪那波羅蜜。乃至能轉法輪。所謂不可得法輪。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。知一切法如夢如響如影如焰如幻如化。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩云何知一切法如夢如響如影如焰如幻如化。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不見夢不見見夢者。不見響不見聞響者。不見影不見見影者。不見焰不見見焰者。不見幻不見見幻者。不見化不見見化者。何以故。是夢響影焰幻化。皆是凡夫愚人顚倒法故。阿羅漢不見夢不見見夢者。乃至不見化不見見化者。辟支佛菩薩摩訶薩諸佛亦不見夢亦不見見夢者。乃至不見化亦不見見化者。何以故。一切法無所有性不生不定。若法無所有性不生不定。菩薩摩訶薩當云何行般若波羅蜜。是中取生相定相。是處不然。何以故。若諸法少多有性有生有定。不名般若波羅蜜。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。不著色乃至不著識。不著欲色無色界。不著諸禪解脫三昧。不著四念處乃至八聖道分。不著空三昧無相無作三昧。不著檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪

薩下同有摩訶薩三字

漢下三本俱有果字

性下元明俱有故字

那波羅蜜般若波羅蜜不著故能具足菩薩初地於初地中亦不生著何以故是菩薩不得是地云何生著乃至十地亦如是是菩薩行般若波羅蜜亦不得般若波羅蜜若行般若波羅蜜時不得般若波羅蜜是時見一切法皆入般若波羅蜜中亦不得是法何以故是諸法與般若波羅蜜無二無別何以故諸法入如法性實際故無分別須菩提白佛言世尊若諸法無相無分別云何說是善是不善是有漏是無漏是世間是出世間是有爲是無爲須菩提於汝意云何諸法實相中有法可說是善是不善乃至是有爲是無爲是須陀洹果乃至阿羅漢是辟支佛是菩薩是阿耨多羅三藐三菩提不世尊不可說也須菩提以是因緣故當知一切法無相無分別無生無定不可示須菩提我本行菩薩道時亦無有法可得性若色若受想行識乃至若有爲若無爲須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提如是須菩提菩薩摩訶薩行般若波羅蜜從初發意乃至阿耨多羅三藐三菩提應善學諸法性善學諸法性是名阿耨多羅三藐三菩提道行是道能具足六波羅蜜成就衆生淨佛國土住是法中得阿耨多羅三藐三菩提以三乘法度脫衆生亦不著三乘如是須菩提菩薩摩訶薩以無相法應學般若波羅蜜

摩訶般若波羅蜜經卷第二十三

三本俱不分卷於此

品目四上宋元俱有摩訶般若波羅蜜經八字

檀下三本俱無那字下同

種種因緣同作因緣種種

礙同作對可上同有有字次同

摩訶般若波羅蜜經卷第二十四

〔麗海＝宋鹹＝元鹹＝明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

四攝品第七十八

須菩提白佛言。世尊。若諸法如夢如響如影如焰如幻如化無有實事無所有性自相空者。云何分別是善法是不善法。是世間法是出世間法。是有漏法是無漏法。是有爲法是無爲法。是法能得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。能得辟支佛道。能得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。凡夫愚人得夢得見夢者。乃至得化得見化者。起身口意善業不善業無記業。起福業若罪業。作不動業是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜住二空中。畢竟空無始空。爲衆生說法作是言。諸衆生是色空無所有。受想行識空無所有。十二入十八界空無所有。色是夢受想行識是夢。十二入十八界是夢色是響是影是焰是幻是化。受想行識亦如是。十二入十八界是夢是響是影是焰是幻是化。是中無陰入界。無夢亦無見夢者。無響亦無聞響者。無影亦無見影者。無焰亦無見焰者。無幻亦無見幻者。無化亦無見化者。一切法無根本實性無所有。汝等於無陰中見有陰。無入見有入。無界見有界。是一切法皆從因緣和合生。以顚倒心起屬業果報。汝等何以故。於諸法空無根本中而取根本相。是時菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故於慳法中拔出衆生敎行檀那波羅蜜。持是布施功德得大福報從大福報拔出敎令持戒。持戒功德生天上尊貴處。復拔出令住初禪。初禪功德生梵天處。二禪三禪四禪。無邊空處識處無所有處。非有想非無想處亦如是。衆生行是布施及布施果報。持戒及持戒果報。禪定及禪定果報。種種因緣。拔出安置無餘涅槃及涅槃道中。所謂四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。空解脫門無相無作解脫門八背捨九次第定。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。安隱衆生令住聖無漏法。無色無形。無礙法中。有可得須陀洹果者。安隱敎化令住須陀洹果。可得斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道者。令住斯陀含果阿那

慈下明無心字

隨下同有其所應三字〇攝下同有取字

別上元明俱有分字

菩上三本俱無若字

含果阿羅漢果辟支佛道。可得阿耨多羅三藐三菩提者。安隱教化令住阿耨多羅三藐三菩提中。須菩提白佛言。世尊。諸菩薩摩訶薩甚希有難。及能行是深般若波羅蜜。諸法無所有性。畢竟空無始空而分別諸法。是善是不善。是有漏是無漏。乃至是有爲是無爲。佛告須菩提。如是如是。諸菩薩摩訶薩甚希有難及。能行是深般若波羅蜜。諸法無所有性。畢竟空無始空而分別諸法。須菩提。汝等若知是菩薩摩訶薩希有難及法。則知一切聲聞辟支佛不能報。何況餘人。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩希有難及法。諸聲聞辟支佛所無有。佛告須菩提一心諦聽。有菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。住報得六波羅蜜中。及住報得五神通三十七助道法。住諸陀羅尼諸無礙智到十方國土。可以布施度者以布施攝之。可以持戒度者以持戒攝之。可以忍辱精進禪定智慧度者。隨其所應而攝取之。可以初禪度者以初禪攝之。可以二禪三禪四禪無邊空處無邊識處無所有處非有想非無想處度者。隨其所應而攝取之。可以慈心悲喜捨心度者。以慈悲喜捨心而攝取之。可以四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分空三昧無相無作三昧度者。隨而攝之。世尊。菩薩摩訶薩云何以布施饒益衆生。須菩提。菩薩行般若波羅蜜時。布施隨其所須。飲食衣服車馬香華瓔珞種種所須盡給與之。若供養佛辟支佛阿羅漢阿那含斯陀含須陀洹等無異。若施入正道中人及凡人下至禽獸皆無分別等一布施。何以故。一切法不異不分別故。是菩薩無異無別。布施已當得無分別法報。所謂一切種智。須菩提。若菩薩摩訶薩見乞丐者。若生是心。佛是福田我應供養。禽獸非福田不應供養。是非菩薩法。何以故。菩薩摩訶薩發阿耨多羅三藐三菩提心。不作是念。是衆生應以布施饒益。是不應布施是衆生。布施因緣故。生刹利大姓婆羅門大姓居士大家。乃至以是布施因緣。以三乘法度之令入無餘涅槃。若衆生來從菩薩乞。亦不生異心分別應與是不應與是。何以故。是菩薩爲是衆生故。發阿耨多羅三藐三菩提心。若分別簡擇。便墮諸佛菩薩辟支佛學無學人一切世間天及人呵責處。誰請汝救一切衆生。汝爲一切衆生舍。一切衆生護。一切衆生依。而分別簡擇應與不應與。復次若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。若人若非人。來欲求乞菩薩身體肢節。是時不應生二心若與若不與。何以故。是菩薩摩訶薩爲衆生故受身。衆生來取何可不與。我以饒益衆生故受是身。衆生不乞自應與之。何況乞而不

空下同有故字

常同作得

攝下三本俱無取字〇琉同作瑠〇頗梨明作玻瓈

與。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜應如是學。復次須菩提。若菩薩摩訶薩見有乞者應生是念。是中誰與誰受所施何物。是一切法自性皆不可得。以畢竟空故。空相法無與無奪。何以故。畢竟空故。內空外空內外空大空第一義空自相空故。住是諸空布施。是時具足檀那波羅蜜。具足檀那波羅蜜故。若斷內外法時作是念。截我者誰割我者誰。復次須菩提。我以佛眼見東方如恒河沙等諸菩薩摩訶薩。入大地獄令火滅湯冷。以三事教化。一者神通力二者知他心三者說法。是菩薩以神通力。令大地獄火滅湯冷。知他心以慈悲喜捨隨意說法。是衆生於菩薩生淸淨心。從地獄得脫。漸以三乘法得盡苦際。南西北方四維上下亦如是。復次須菩提。我以佛眼觀十方世界。見如恒河沙等國土中諸菩薩。爲諸佛給使供給諸佛。隨意受樂尊敬。若諸佛所說盡能受持。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不忘失。復次須菩提。我以佛眼觀十方如恒河沙等國土中諸菩薩摩訶薩。爲畜生故捨其壽命。割截身體分散諸方。諸有衆生食是諸菩薩摩訶薩肉者皆愛敬菩薩。以愛敬故。即得離畜生道値遇諸佛。聞佛說法如說修行。漸以三乘聲聞辟支佛佛法。於無餘涅槃而般涅槃。如是須菩提。諸菩薩摩訶薩所益甚多。教化衆生令發阿耨多羅三藐三菩提心。如說修行乃至於無餘涅槃而般涅槃。復次須菩提。我以佛眼見十方如恒河沙等國土中。諸菩薩摩訶薩除諸餓鬼飢渴苦。是諸餓鬼皆愛敬菩薩。以愛敬故得離餓鬼道。値遇諸佛聞諸佛說法如說修行。漸以三乘聲聞辟支佛佛法。而般涅槃乃至無餘涅槃。如是須菩提。菩薩摩訶薩爲度衆生故行大悲心。復次須菩提。我以佛眼見諸菩薩摩訶薩在四天王天上說法。在三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天上說法。諸天聞菩薩說法。漸以三乘而得滅度。須菩提。是諸天衆中有著五欲者。是菩薩示現火起燒其宮殿而爲說法。作是言。諸天一切有爲法悉皆無常。誰常安者。復次須菩提。我以佛眼觀十方世界。見如恒河沙等國土中。諸梵天著於邪見。諸菩薩摩訶薩教令遠離邪見。作是言。汝等云何於空相虛妄諸法中而生邪見。如是須菩提。菩薩摩訶薩作大慈心爲衆生說法。須菩提。是爲諸菩薩希有難及法。復次須菩提。我以佛眼觀十方世界。如恒河沙等國土中諸菩薩摩訶薩。以四事攝取衆生。何等四。布施愛語利益同事。云何菩薩以布施攝取衆生。須菩提。菩薩以二種施攝取衆生。財施法施。何等財施攝取衆生。須菩提。菩薩摩訶薩以金銀琉璃頗

梨眞珠珂貝珊瑚等諸寶物。或以飲食衣服臥具房舍燈燭華香瓔珞。若男若女若牛羊象馬車乘。若以己身給施衆生。語衆生言。汝等若有所須各來取之。如取己物莫得疑難。是菩薩施已。教三歸依。歸依佛歸依法歸依僧。或教受五戒。或教一日戒。或教初禪。乃至教非有想非無想定。或教慈悲喜捨。或教念佛念法念僧念戒念捨念天。或教不淨觀。或教安那般那觀。或相或觸。或教四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。空三昧無相無作三昧。八背捨九次第定。佛十力四無所畏四無礙智。十八不共法大慈大悲。三十二相八十隨形好。或教須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。或教辟支佛道。或教阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力教衆生財施已。復教令得無上安隱涅槃。須菩提。是名菩薩摩訶薩希有難及法。須菩提。菩薩云何以法施攝取衆生。須菩提。法施有二種。一者世間二者出世間。何等爲世間法施。敷演顯示世間法。所謂不淨觀安那般那念。四禪四無量心四無色定。如是等世間法。及諸餘共凡夫所行法。是名世間法施。是菩薩如是世間法施已。種種因緣教化令遠離世間法。遠離世間法已。以方便力令得聖無漏法及聖無漏法果。何等是聖無漏法。何等是聖無漏法果。聖無漏法者。三十七助道法三解脫門。聖無漏法果者。須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。菩薩摩訶薩聖無漏法。須陀洹果中智慧乃至阿羅漢果中智慧辟支佛道中智慧。三十七助道法中智慧。六波羅蜜中智慧。乃至大慈大悲中智慧。如是等一切法若世間若出世間智慧。若有漏若無漏若有爲若無爲。是法中一切種智。是名菩薩摩訶薩聖無漏法。何等爲聖無漏法果。斷一切煩惱習相續。是名聖無漏法果。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩得一切種智不。佛言。如是如是。須菩提。菩薩摩訶薩得一切種智。須菩提言。菩薩與佛有何等異。佛言。有異。菩薩摩訶薩得一切種智。是名爲佛。所以者何。菩薩心與佛心無有異。菩薩住是一切種智中。於一切法無不照明。是名菩薩摩訶薩世間法施。須菩提。菩薩摩訶薩因緣世間法施。得出世間法施。如是須菩提。菩薩摩訶薩教衆生令得世間法。以方便力故教令得出世間法。須菩提。何等是菩薩出世間法。不共凡夫法同。所謂四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。三解脫門八背捨九次第定。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。三十二相八十隨形好。五百陀羅尼

法下三本俱無及字

習下同無相續二字

因下同無緣字○力下三本俱無故字

進上同有精字

三上同無爲字

解脫同作背捨下同〇色上元明俱有有字〇滅下三本俱無一切二字

法諸受宋作法受元明俱作受法〇三本俱以佛十力爲卷第二十六終同云何以下爲卷第二十七四攝品第七十八之餘〇所畏同作畏也

門。是名出世間法。須菩提。云何爲四念處。菩薩摩訶薩觀內身循身觀。觀外身循身觀。觀內外身循身觀。勤精進以一心智慧觀。觀身集因緣生。觀身滅。觀身集生滅行。是道無所依。於世間無所受。受心法念處亦如是。須菩提。云何爲四正勤。未生惡不善法爲不生故勤生欲精進。已生惡不善法爲斷故勤生欲精進。未生善法爲生故勤生欲精進。已生諸善法爲增長修具足故勤生欲精進。是名四正勤。須菩提。云何爲四如意足。欲三昧斷行成就初如意足。精進三昧。心三昧。思惟三昧斷行成就如意足。云何爲五根。信根進根念根定根慧根。云何爲五力。信力精進力念力定力慧力。云何爲七覺分。念覺分擇法覺分精進覺分喜覺分除息覺分定覺分捨覺分。云何爲八聖道分。正見正思惟正語正業正命正精進正念正定。云何爲三三昧。空三昧門無相無作三昧門。云何爲空三昧。以空行無我行攝心。是名空三昧。云何爲無相三昧。以寂滅行離行攝心是名無相三昧。云何爲無作三昧。無常行苦行攝心。是名無作三昧。云何爲八解脫。內色相外觀色是初解脫。內無色相外觀色是二解脫。淨解脫是三解脫。過一切色相滅一切有對相。不念一切異相故。觀無邊虛空入無邊虛空處。乃至過一切非有想非無想處。入滅受想解脫。是名八解脫。云何九次第定。行者離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。入初禪第二第三第四禪。乃至過非有想非無想處。入滅受想定。是名九次第定。云何爲佛十力。是處不是處。如實知衆生過去未來現在諸業諸法諸受。知造業處。知因緣知報。諸禪定解脫三昧定。垢淨分別相如實知。知他衆生諸根上下相。知他衆生種種欲解。知世間種種無數性。知一切到道相。知種種宿命。一世乃至無量劫如實知。天眼見衆生乃至生善惡道。漏盡故無漏心解脫如實知。是爲佛十力。云何爲四無所畏。佛作誠言。我是一切正智人。若有沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆。如實言是法不知。乃至不見是微畏相。以是故。我得安隱得無所畏。安住聖主處。在大衆中作師子吼能轉梵輪。諸沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆實不能轉。一無所畏。佛作誠言。我一切漏盡。若有沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆。如實言是漏不盡。乃至不見是微畏相。以是故。我得安隱得無所畏安住聖主處。在大衆中作師子吼能轉梵輪。諸沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆實不能轉。二無畏也。佛作誠言。我說障法。若有沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆。如實言受是法不障道。乃至不見是微畏相。以

是故。我得安隱得無所畏安住聖主處。在大衆中作師子吼能轉梵輪諸沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆實不能轉。三無畏也。佛作誠言。我所說聖道能出世間。隨是行能盡苦。若有沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆。如實言行是道不能出世間不能盡苦乃至不見是微畏相。以是故。我得安隱得無所畏安住聖主處。在大衆中師子吼能轉梵輪。諸沙門婆羅門若天若魔若梵若復餘衆實不能轉。四無畏也。云何爲四無礙智。一者義無礙智。二者法無礙智三者辭無礙智。四者樂說無礙智。云何爲義無礙智。緣義智慧是爲義無礙智。云何爲法無礙智。緣法智慧是爲法無礙智。云何爲辭無礙智。緣辭智慧是爲辭無礙智。云何爲樂說無礙智。緣樂說智慧是爲樂說無礙智。云何爲十八不共法。一諸佛身無失。二口無失。三念無失四無異想。五無不定心。六無不知已捨心。七欲無減。八精進無減。九念無減。十慧無減。十一解脫無減。十二解脫知見無減。十三一切身業隨智慧行。十四一切口業隨智慧行。十五一切意業隨智慧行。十六智慧知過去世無礙。十七智慧知未來世無礙。十八智慧知現在世無礙。云何三十二相。一者足下安平立平如奩底。二者足下千輻輞輪輪相具足。三者手足指長勝於餘人。四者手足柔輭勝餘身分。五者足跟廣具足滿好。六者手足指合縵網妙好勝於餘人。七者足趺高平好與跟相稱。八者伊泥延鹿蹲蹲纖好。如伊泥延鹿王。九者平住兩手摩膝。十者陰藏相如馬王象王。十一者身縱廣等如尼俱盧樹。十二者一一孔一毛生。色青柔輭而右旋。十三者毛上向青色柔輭而右旋。十四者金色相其色微妙勝閻浮檀金。十五者身光面一丈。十六者皮薄細滑。不受塵垢不停蚊蚋。十七者七處滿。兩足下兩手中兩肩上項中皆滿字相分明。十八者兩腋下滿。十九者上身如師子。二十者身廣端直。二十一者肩圓好。二十二者四十齒。二十三者齒白齊密而根深。二十四者四牙最白而大。二十五者方頰車如師子。二十六者味中得上味。咽中二處津液流出。二十七者舌大輭薄能覆面至耳髮際。二十八者梵音深遠。如迦蘭頻伽聲。二十九者眼色如金精。三十者眼睫如牛王。三十一者眉間白毫相輭白如兜羅綿。三十二者頂髻肉骨成。是三十二相佛身成就。光明遍照三千大千國土。若欲廣照則遍滿十方無量阿僧祇國土。爲衆生故受丈光。若放無量光明。則無日月時節歲數佛音聲遍滿三千大千國土。若欲大聲則遍滿十方無量阿僧祇國土。隨衆生多少音聲遍至。云何

師上三本俱有作字

蹲蹲同作腨腨

停宋作亭

國土同作世界下同〇光下同無明字

琉三本俱作瑠
現同作見
身下同有分字
衆下同有生字
觀下同有者字
如是須菩提乃至而攝取之百五十一字明在名爲佛法下
教下三本俱有化字○五同作六次同

爲八十隨形好。一者無見頂。二者鼻直高好孔不現。三者眉如初生月紺琉璃色。四者耳輪埵成。五者身堅實如那羅延。六者骨際如鉤鎖。七者身一時廻如象王。八者行時足去地四寸而印文現。九者爪如赤銅色薄而潤澤。十者膝骨堅著圓好。十一者身淨潔。十二者身柔軟。十三者身不曲。十四者指長纖圓。十五者指文莊嚴。十六者脈深。十七者踝不現。十八者身潤澤。十九者身自持不逶迤。二十者身滿足。二十一者識滿足。二十二者容儀備足。二十三者住處安無能動者。二十四者威震一切。二十五者一切樂觀。二十六者面不大長。二十七者正容貌不撓色。二十八者面具足滿。二十九者脣赤如頻婆果色。三十者音響深。三十一者臍深圓好。三十二者毛右旋。三十三者手足滿。三十四者手足如意。三十五者手文明直。三十六者手文長。三十七者手文不斷。三十八者一切惡心衆生見者和悅。三十九者面廣姝好。四十者面淨滿如月。四十一者隨衆生意和悅與語。四十二者毛孔出香氣。四十三者口出無上香。四十四者儀容如師子。四十五者進止如象王。四十六者行法如鵝王。四十七者頭如摩陀那果。四十八者一切聲分具足。四十九者牙利。五十者舌色赤。五十一者舌薄。五十二者毛紅色。五十三者毛潔淨。五十四者廣長眼。五十五者孔門相具。五十六者手足赤白如蓮華色。五十七者臍不出。五十八者腹不現。五十九者細腹。六十者身不傾動。六十一者身持重。六十二者其身大。六十三者身長。六十四者手足潔淨軟澤。六十五者邊光各一丈。六十六者光照身而行。六十七者等視衆生。六十八者不輕衆生。六十九者隨衆生音聲不過不減。七十者說法不著。七十一者隨衆語言而爲說法。七十二者一發音報衆聲。七十三者次第有因緣說法。七十四者一切衆生不能盡觀相。七十五者觀無厭足。七十六者髮長好。七十七者髮不亂。七十八者髮旋好。七十九者髮色如青珠。八十者手足有德相。須菩提。是爲八十隨形好佛身成就。如是須菩提。菩薩摩訶薩以二施攝取衆生。所謂財施法施。是爲菩薩希有難及事。云何爲菩薩摩訶薩愛語攝取衆生。菩薩摩訶薩以六波羅蜜爲衆生說法。作是言。汝行六波羅蜜攝一切善法。云何爲菩薩摩訶薩利行攝取衆生。菩薩摩訶薩長夜教衆生令行六波羅蜜。云何爲菩薩摩訶薩同事攝取衆生。菩薩摩訶薩以五神通力故。種種變化入五道中與衆生同事。以此四事而攝取之。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時教化衆生。善男子。當善學分別諸

字亦當善知一字乃至四十二字。一切語言皆入初字門。一切語言亦入第二字門。乃至第四十二字門一切語言皆入其中。一字皆入四十二字。四十二字亦入一字。是衆生應如是善學四十二字。善學四十二字已能善說字法。善說字法已善說無字法。須菩提。如佛善知字法。善知字善知無字。爲無字法故說字法。何以故。須菩提。過一切名字法故名爲佛法。須菩提白佛言。世尊。若衆生畢竟不可得。法亦不可得。法性亦不可得。畢竟空無始空故。世尊。菩薩摩訶薩云何行般若波羅蜜。行禪那波羅蜜毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜時。行四禪四無量心四無色定三十七助道法十八空。行空無相無作三昧八解脫九次第定。佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。三十二相八十隨形好。云何住報得五神通爲衆生說法。衆生實不可得。衆生不可得故。色不可得乃至識亦不可得。五陰不可得故。六波羅蜜乃至八十隨形好皆不可得。是不可得中無衆生無色乃至無八十隨形好。世尊。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。爲衆生說法。世尊。菩薩行般若波羅蜜時。菩薩尚不可得。何況當有菩薩法。佛告須菩提。如是如是。如汝所言。衆生不可得故。當知是內空外空內外空空空大空第一義空有爲空無爲空畢竟空無始空散空諸法空自相空性空不可得空無法空有法空無法有法空。衆生不可得故。當知五陰空十二入十八界空十二因緣空四諦空我空壽者命者生者養育者衆數者人者作者使作者起者使起者受者使受者知者見者皆空。衆生不可得故。當知四禪空四無量心空四無色定空。當知四念處空乃至八聖道分空空空無相空無作空。八解脫空九次第定空。衆生不可得故。當知佛十力空四無所畏空四無礙智空十八不共法空。當知須陀洹果空斯陀含果空阿那含果空阿羅漢果空辟支佛道空。當知菩薩地空阿耨多羅三藐三菩提空。須菩提。菩薩摩訶薩如是見一切法空。爲衆生說法不失諸空相。是菩薩如是觀時知一切法無礙。知一切法無礙已不壞諸法相不二不分別。但爲衆生如實說法。譬如佛所化人。化人復化作無量千萬億人。有教令布施者有教持戒有教忍辱有教精進。有教禪定有教智慧。有教四禪四無量心四無色定者。於汝意云何。佛所化人。有分別破壞諸法不。須菩提言。不也世尊。是化人無心無心數法。云何分別破壞諸法。以是故。須菩提當知。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜爲衆生如應說法。拔出衆生於顚倒地。令衆生各得如所應住地。以

法上三本俱無字字

禪下同無那字下同

入下同有空字○空壽者元明俱作衆生壽○養下三本俱有者字

色上同無是字

果上明有諸字○含下三本俱無果字

不縛不脫法故。何以故。須菩提是。色不縛不脫受想行識不縛不脫。色無縛無脫不是色。受想行識無縛無脫不是識。何以故。色畢竟淸淨故。受想行識乃至一切法若有爲若無爲。亦畢竟淸淨故。如是須菩提。菩薩摩訶薩爲衆生說法。亦不得衆生及一切法。一切法不可得故。菩薩以不住法故住諸法相中。所謂色空乃至有爲無爲法空。何以故。色乃至有爲無爲法。自性不可得故無有住處。無所有法不住無所有法。自性法不住自性法。他性法不住他性法。何以故。是一切法皆不可得故。不可得法當住何處。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以是諸空能如是說法。如是行般若波羅蜜。於諸佛及聲聞辟支佛無有過。何以故。諸佛及菩薩辟支佛阿羅漢得是法已。爲衆生說法。亦不轉諸法相。何以故。如法性實際不可轉故。所以者何。諸法性無故。須菩提白佛言。世尊。若法性如實際不轉。色與法性異不。色與如實際異不。受想行識乃至有爲無爲法。世間出世間有漏無漏異不。佛言不也。色不異法性不異如不異實際。受想行識乃至有漏無漏亦不異。須菩提白佛言。世尊。若色不異法性不異如不異實際。受想行識乃至有漏無漏不異者。云何分別黑法有黑報。所謂地獄餓鬼畜生。白法有白報。所謂諸天及人。黑白法有黑白報。不黑不白法有不黑不白報。所謂須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。世諦故分別說有果報。非第一義。第一義中不可說因緣果報。何以故。是第一義。實無有相無有分別亦無言說。所謂色乃至有漏無漏法。不生不滅相不垢不淨。畢竟空無始空故。須菩提白佛言。世尊。若以世諦故分別說有果報。非第一義者。一切凡夫人應有須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。於汝意云何。凡夫人爲知是世諦是第一義諦不。若知是凡夫人應是須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。以凡夫人實不知世諦。不知第一義諦。不知道。不知分別道果。云何當有諸果。須菩提。聖人知世諦知第一義諦有道有修道。以是故。聖人差別有諸果。須菩提白佛言。世尊。修道得果不。佛言不也。須菩提。修道不得果。不修道亦不得果。亦不離道得果。亦不住道中得果。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。爲衆生故分別果。亦不分別是有爲性無爲性。世尊。若不分別有爲性無爲性。得諸果者。云何世尊自說三結盡故名須陀洹。婬怒癡薄故名斯陀含果。五此間結盡名阿那含果。五彼間結盡

盡下相下並同無故字

空上三本俱無虛字○他下明無人字

品目明無經名下同

法三本俱作事

達上同無善字

事下同無不字

受上同有一切二字

天人同作人天

故名阿羅漢。所有集法皆滅散相故名辟支佛道。一切煩惱習斷故名阿耨多羅三藐三菩提。世尊。我當云何知不分別有爲性無爲性得諸果。佛告須菩提。汝以須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。是諸果是有爲是無爲。須菩提言。世尊。皆是無爲。須菩提。無爲法中有分別不。不也世尊。若善男子善女人。通達一切法若有爲若無爲一相。所謂無相。是時有分別若有爲若無爲不。不也世尊。如是須菩提。菩薩摩訶薩爲衆生說法不分別諸法。所謂內空故乃至無法有法空故。是菩薩自得無所著法。亦教人令得無所著法若檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。初禪乃至第四禪慈悲喜捨無邊虛空處乃至非有想非無想處。若四念處乃至一切種智是。菩薩自不著故。亦教他人令得無所著。無所著故無所礙。譬如佛所化人布施亦不受布施報。但爲度衆生故。乃至行一切種智不受一切。種智報。菩薩摩訶薩亦如是。行六波羅蜜乃至一切法有漏無漏有爲無爲。不住亦不受報。但爲度衆生故。何以故。是菩薩摩訶薩善達一切諸法相故

摩訶般若波羅蜜經善達品第七十九

須菩提白佛言。世尊。云何菩薩善達諸法相。佛告須菩提。譬如化人不行婬怒癡。不行色乃至識。不行內外法。不行諸煩惱結使。不行有漏法無漏法世間法出世間法有爲法無爲法。亦無聖果。菩薩亦如是。無有是法。亦不分別是法。是名善達諸法相。須菩提言。世尊。化人云何有修道。佛言。化人修道不垢不淨。亦不在五道生死。須菩提。於汝意云何。佛所化人有根本實事不。有垢有淨不。須菩提言不也。佛所化人無有根本實事。亦無垢亦無淨。亦不在五道生死。如是須菩提。菩薩摩訶薩善達諸法相亦如是。須菩提言。世尊。一切色如化不。受想行識如化不。佛言。一切色如化。一切受想行識如化。世尊。若一切色如化。一切受想行識如化。一切法如化。化人無色無受想行識無垢無淨。無五道生死亦無解脫處。菩薩有何等功用。佛告須菩提。於汝意云何。菩薩摩訶薩本行菩薩道時。頗見有衆生從地獄餓鬼畜生天人中得解脫不。須菩提言。不也世尊。佛言。如是如是。須菩提。菩薩摩訶薩亦

薩下同無亦如是三字〇法上同有諸字〇慈下同有大字

假上三本俱無但字

末明作來

益上三本俱無利字

如是。不見衆生從三界得解脫。何以故。菩薩摩訶薩見知一切法如幻如化。世尊。若菩薩摩訶薩見知一切法如幻如化。爲何事故行六波羅蜜四禪四無量心四無色定三十七助道法。乃至行大慈悲淨佛國土成就衆生。佛告須菩提。若衆生自知諸法如幻如化。菩薩摩訶薩終不於阿僧祇劫爲衆生行菩薩道。須菩提。以衆生自不知諸法如幻如化。以是故。菩薩摩訶薩於無量阿僧祇劫行六波羅蜜。成就衆生淨佛國土。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。若一切法。如夢如響如影如焰如幻如化。衆生在何處住。菩薩行六波羅蜜而拔出之。須菩提。衆生但住名相虛妄憶想分別中。是故菩薩行般若波羅蜜。於名相虛妄中拔出衆生。須菩提白佛言。世尊。何等是名。何等是相。佛言。此名強作但假施設。所謂此色此受想行識。此男此女。此大此小。此地獄此畜生此餓鬼此人此天。此有爲此無爲。此是須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道此佛道。須菩提。一切和合法皆是假名。以名取諸法。是故爲名。一切有爲法但有名相。凡夫愚人於中生著。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故於名字中教令遠離。作是言。諸衆生是名但有空名。虛妄憶想分別中生。汝等莫著虛妄憶想。此事本末皆無自性空故。智者所不著。如是。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故爲衆生說法。須菩提。是爲名。何等爲相。須菩提。有二種相。凡夫人所著處。何等爲二。一者色相。二者無色相。須菩提。何等名色相。諸所有色若麤若細若好若醜皆是空。是空法中憶想分別著心取相。是名爲色相。何等是無色相。諸無色法憶想分別著心取相故生煩惱。是名無色相。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故教衆生遠離是相著。無相法中令不墮二法。所謂是相是無相。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。教衆生遠離相令住無相性中。須菩提白佛言。世尊。若一切法但有名相。云何菩薩行般若波羅蜜。能自饒益亦教他人令得善利。云何菩薩具足諸地。從一地至一地。教化衆生令得三乘。佛告須菩提。若諸法根本定有。非但名相者。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不能自利益。亦不能利益他人。須菩提。諸法無有根本實事但有名相。是故菩薩行般若波羅蜜時。能具足禪那波羅蜜無相故。毘梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜無相故。具足四禪波羅蜜。四無量心波羅蜜四無色定波羅蜜無相故。具足四念處波羅蜜無相故乃至具足八聖道分波羅蜜無相故。具足內空波羅蜜無相

敎下同有化字

是下三本俱無諸字

故。乃至具足無法有法空波羅蜜無相故。具足解脫波羅蜜無相故。具足九次第定波羅蜜無相故。具足佛十力波羅蜜。乃至具足十八不共法波羅蜜無相故。是菩薩無相故。自具足是諸善法。亦敎他人令具足善法無相故。須菩提。若諸法相當實有如毫釐許者。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。不能知諸法無相無憶念得阿耨多羅三藐三菩提。亦敎衆生令得無漏法。何以故。一切無漏法無相無憶念故。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以無漏法利益衆生。須菩提白佛言。世尊。若一切法無相無憶念。云何數是聲聞法是辟支佛法是菩薩法是佛法。佛告須菩提。於汝意云何。無相法與聲聞法異不。不也世尊。無相法與辟支佛法菩薩法佛法異不。不也世尊。佛告須菩提。無相法卽是須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛法菩薩法佛法。須菩提言。如是世尊。須菩提。以是因緣故當知一切法皆是無相。須菩提。菩薩摩訶薩學是一切法無相。得增益善法。所謂六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處。乃至十八不共法。何以故。菩薩不以餘法爲要。如三解脫門所謂空無相無作。所以者何。一切善法皆入三解脫門。何以故。一切法自相空是名空解脫門。一切法無相是名無相解脫門。一切法無作無起相是名無作解脫門。若菩薩摩訶薩學三解脫門。是時能學五陰相。能學十二入相。能學十八界相。能學四聖諦十二因緣法。能學內空外空乃至無法有法空。能學六波羅蜜四念處乃至八聖道分。能學佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。能學五受陰相。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。知色相知色生滅知色如。云何知色相。知色畢竟空。內分分異虛無實。譬如水沫無堅固。是爲知色相。云何知色生滅。色生時無所從來去無所至。若不來不去是爲知色生滅相。云何知色如。是色如不生不滅不來不去。不增不滅不垢不淨。是名知色如。須菩提。如名如實不虛。如前後中亦爾。常不異是爲知色如。云何知受相。云何知受生滅。云何知受如。菩薩知諸受相。如水中泡一起一滅。是爲知受相。知受生滅者。是諸受無所從來去無所至。是爲知受生滅。知受如者。是如不生不滅不來不去不增不滅不垢不淨。是爲知受如。云何知想相云何知想生滅云何知想如。知想相者。是想如焰水不可得而妄生水想。是爲知想相。知想生滅者。是想無所從來去無所至。是爲知想生滅。知想如者。諸想如不生不滅不來不去不增不滅不垢不淨。不轉

如上元明俱無識字○識下同無相字

界眼三本俱作眼界

得下三本俱有法字○不下同有可字

以下同有故字次同

於實相。是爲知想如。云何知行相云何知行生滅云何知行如。知行相者。行如芭蕉。葉葉除却不得堅實。是爲知行相。知行生滅者。諸行生無所從來去無所至。是爲知行生滅。知行如者。諸行不生不滅不來不去不增不減不垢不淨。是爲知行如。云何知識相云何知識生滅云何知識如。知識相者。識如幻師。幻作四種兵無有實。識相亦如是。是爲知識相。知識生滅者。是識生時無所從來滅時無所去。是爲知識生滅。知識如者。知識不生不滅不來不去不垢不淨不增不減。是爲知識如。云何知諸入。眼眼性空乃至意意性空。色色性空乃至法法性空。云何知界。眼眼界空。色色界空。眼識眼識界空。乃至意識界亦如是。云何知四聖諦。知苦聖諦時遠離二法。知苦諦不二不別。是名苦聖諦。集盡道亦如是。云何知苦如。知苦聖諦即是如。如即是苦聖諦。集盡道亦如是。云何知十二因緣。知十二因緣不生相。是名知十二因緣。須菩提白佛言。世尊。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。各各分別知諸法將無以色性壞法性乃至一切種智性壞法性耶。佛告須菩提。若法性外更有法者應壞法性。法性外法不可得。是故不壞。何以故。須菩提。佛及佛弟子。知法性外法不可得。不可得故不說法性外有法。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜應學法性。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩若學法性爲無所學。佛告須菩提。菩薩摩訶薩學法性則學一切法。何以故。一切法即是法性。須菩提白佛言。世尊。何因緣故一切法即是法性。佛言。一切法皆入無相無爲性中。以是因緣故學法性則學一切法。須菩提白佛言。世尊。若一切法即是法性。菩薩摩訶薩何以學般若波羅蜜禪那波羅蜜毗梨耶波羅蜜羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜。菩薩摩訶薩何以學初禪第二第三第四禪。菩薩摩訶薩何以學慈悲喜捨。何以學無邊虛空處無邊識處無所有處非有想非無想處。何以學四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。何以學空無相無作解脫門。何以學八背捨九次第定佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。何以學六神通。何以學三十二相八十隨形好。何以學生刹利大姓婆羅門大姓居士大家。何以學生四天王天處三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天。何以學生梵天王住處光音天遍淨天廣果天無想天淨居天。何以學生無邊空處。生無邊識處。生無所有處。生非有想非無想處。何以學初發意地第二第三第四第五第六第七第八第九第十地。何以學聲聞地辟支佛地菩薩法位。何以學

羅同作隣
法上同無諸字○如是二字同作爾
相下同有之字
持上三本俱有若字○智下同無慧字
施上同無布字次同
他下同無人字

成就衆生淨佛國土。何以學諸陀羅尼。何以學樂說法。何以學阿耨多羅三藐三菩提。學已得一切種智知一切法。世尊。諸法法性中無是分別。世尊將無菩薩墮非道中。何以故。世尊。法性中無如是分別。法性中無色無受想行識。諸法性亦不遠離色受想行識。色卽是法性。法性卽是色。受想行識亦如是。一切法亦如是。佛告須菩提。如是如是。如汝所言。色卽是法性。受想行識卽是法性。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。若法性外見有法者。爲不求阿耨多羅三藐三菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。知一切法性卽是阿耨多羅三藐三菩提。以是故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。知一切法卽是法性。已以無名相法以名相說。所謂是色是受想行識。乃至是阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。譬如工幻師若幻師弟子。多人處立幻作種種形色男女象馬端嚴園林。及諸廬館流泉浴池。衣服臥具香華瓔珞餚饍飲食。作衆伎樂以樂衆人。又復幻作人。令布施持戒忍辱精進禪定修智慧。是幻師復幻作刹利大姓婆羅門大姓居士大家。四天王天處須彌山。三十三天夜摩天兜率陀天化樂天他化自在天以示衆人。復幻作梵衆天乃至非有想非無想天。又幻作須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩。從初發意行檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。行初地乃至行十地。入菩薩位遊戲神通。成就衆生淨佛國土遊戲諸禪解脫三昧。行佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。具足佛身三十二相八十隨形好以示衆人。是中無智之人歎未曾有。是人多能巧爲衆事娛樂衆人。種種形色乃至三十二相八十隨形好莊嚴佛身。其中有智之士思惟言。未曾有也是中無有實事。而以無所有法娛樂衆人令有形相。無事事相無有有相。如是須菩提。菩薩摩訶薩不見離法性有法行般若波羅蜜。以方便力故雖不得衆生。而自布施亦敎人布施。讚歎布施法歡喜讚歎行布施者。自持戒亦敎人持戒。自忍辱亦敎人忍辱。自精進亦敎人精進。自行禪亦敎人行禪。自修智慧亦敎人修智慧。讚歎修智慧法。歡喜讚歎修智慧者。自行十善亦敎他人行十善。讚歎行十善法。歡喜讚歎行十善者。自受行五戒亦敎他人受行五戒。讚歎五戒法。歡喜讚歎受行五戒者。自受八戒齋亦敎他人受八戒齋。讚歎八戒齋法。歡喜讚歎行八戒齋者。自行初禪乃至自行第四禪。自行慈悲喜捨。自行無邊空處乃至非有想非無想處亦敎他人行。自行四念處乃至八聖道分。自

行三解脫門佛十力乃至自行十八不共法。亦教他人行十八不共法。讃歎十八不共法。歡喜讃歎行十八不共法者。須菩提。若法性前後中有異者。是菩薩摩訶薩不能以方便力故示法性成就衆生。須菩提。以法性前後中無異。是故菩薩行般若波羅蜜。爲利益衆生故行菩薩道

末題四同作七

摩訶般若波羅蜜經卷第二十四

摩訶般若波羅蜜經卷第二十五

〔麗海〕〔宋鹹〕〔元鹹〕〔明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

實際品第八十

須菩提白佛言。世尊。若衆生畢竟不可得。菩薩爲誰故行般若波羅蜜。佛告須菩提。菩薩爲實際故行般若波羅蜜。須菩提。實際衆生際異者。菩薩不行般若波羅蜜。須菩提。實際衆生際不異。以是故。菩薩摩訶薩爲利益衆生故行般若波羅蜜。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以不壞實際法立衆生於實際中。須菩提白佛言。世尊。若實際卽是衆生際。菩薩則爲建立實際於實際。世尊。若建立實際於實際。則爲建立自性於自性。世尊。不應建立自性於自性。世尊。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。建立衆生於實際。佛告須菩提。實際不可建立於實際。自性不可建立於自性。須菩提。今菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以方便力故建立衆生於實際。實際亦不異衆生際。實際衆生際無二無別。須菩提白佛言。世尊。何等是諸菩薩摩訶薩方便力。用是方便力。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。建立衆生於實際亦不壞實際相。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以方便力故建立衆生於布施。建立已說布施先後際相空。作是言。如是布施前際空後際空中際亦空。施者亦空施報亦空受者亦空。諸善男子。是一切法實際中不可得。汝等莫念布施異施者異施報異受者異。若汝等不念布施異施者異施報異受者異。是時布施能取甘露味得甘露味果。汝善男子。以是布施故。莫著色莫著受想行識。何以故。是布施布施相空。施者施者空。施報施報空。受者受者空。空中布施不可得。施者不可得施報不可得受者不可得。何以故。是諸法畢竟自性空故。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以方便力故教衆生持戒。語衆生言。汝善男子。除捨殺生法。乃至除捨邪見法。何以故。善男子。如汝所分別法。是諸法無如是性。汝善男子。常諦思惟何等是衆生而欲奪命。用何等物奪命。乃至邪見亦如是。須菩提。菩薩摩訶薩如是方便力成就衆生。是菩薩

經題五三本俱作八

應同作得

際下同無相字

取同作趣下同

無上同無是諸法三字

惱下宋無習字

修三本俱作脩下同○陀同作那○想下同有處字○性同作相
緣下同有法字

善上同有入字

摩訶薩.即爲衆生說布施持戒果報.是布施持戒果報自性空.知布施持戒果報自性空已.是中不著.不著故心不散.能生智慧.以是智慧斷一切結使煩惱習.入無餘涅槃.是世俗法非第一實義.何以故.空中無有滅亦無使滅者.諸法畢竟空即是涅槃.復次須菩提.菩薩摩訶薩.見衆生瞋恚惱心故言.汝善男子.來修行忍辱.作忍辱人當樂忍辱.汝所瞋者自性空.汝來善男子.如是思惟我於何所法中瞋.誰爲瞋者所瞋者誰.是法皆空是性空法無不空時.是空非諸佛作.非辟支佛聲聞作.非菩薩摩訶薩作.非諸天鬼神龍王阿修羅緊陀羅摩睺羅伽.非四天王天乃至非他化自在天.非梵衆天乃至非淨居天.非無邊空處乃至非有想非無想諸天所作.汝當如是思惟瞋誰.誰是瞋者.何等是瞋事.是一切法性空性.空法無有所瞋.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.以是因緣建立衆生於性空.次第漸漸示教利喜.令得阿耨多羅三藐三菩提.是世俗法非第一實義.何以故.是性空中無有得者.無有得法無有得處.須菩提.是名實際性空法.菩薩摩訶薩爲衆生故行是法.衆生亦不可得.何以故.一切法離衆生相.復次須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.方便力故見衆生懈怠.教令身精進心精進.作是言.諸善男子.諸法性空中.無懈怠法無懈怠者無懈怠事.是一切法性皆空.無過性空者.汝等生身精進心精進.爲生善法故莫懈怠.善法者.若布施若持戒若忍辱若精進若禪定若智慧.若諸禪定解脫三昧.若四念處乃至八聖道分.若空解脫門無相無作解脫門乃至十八不共法莫懈怠.諸善男子.是一切法性空中.當知無礙相.無礙法中無懈怠者無懈怠法.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.教衆生令住性空不墮二法.何以故.是性空中無二無別故.是無二法則無可著處.復次須菩提.菩薩摩訶薩行性空般若波羅蜜時.教衆生令精進.作是言.諸善男子.勤精進若布施若持戒若忍辱若精進若禪定若智慧.若禪定解脫三昧.若四念處乃至八聖道分.若空解脫門無相無作解脫門.若佛十力若四無所畏若四無礙智.若十八不共法.若大慈大悲.是諸法汝等莫念二相.莫念不二相.何以故.是法性皆空是性空法.不應用二相念.不應用不二相念.如是須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜.以方便力故成就衆生.成就衆生已.次第教令得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道菩薩位.令得阿耨多羅三藐三菩提.復次須菩提.菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時.見衆生亂心.以方

菩上三本俱有若字下同

羅同作隣○尼下同無法字

生同作至次同

菩薩道時元明俱作般若波羅蜜五字

便力爲利益衆生故。作是言。諸善男子。當修禪定汝莫生亂想當生一心。何以故。是法性皆空性。空中無有法可得若亂若一心。汝等住是三昧。所有作業若身若口若意。若布施若持戒若行忍辱若勤精進若行禪定若修智慧。若行四念處乃至若行八聖道分。若行諸解脫次第定。若行佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好。若聲聞道若辟支佛道若菩薩道若佛道。若須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。辟支佛道若一切種智。若成就衆生若淨佛國土。汝等皆當應隨所願得住性空故。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。方便力爲利益衆生故。從初發意終不懈廢。常求善法利益衆生。從一佛國至一佛國。供養諸佛從諸佛聞法捨身受身。乃至阿耨多羅三藐三菩提終不忘失。是菩薩常得諸陀羅尼法。諸根具足。所謂身根語根意根。何以故。是菩薩摩訶薩常修一切種智。修一切種智故一切諸道皆修。若聲聞道若辟支佛道若菩薩神通道。行神通道菩薩常利益衆生終不忘失。是菩薩住報得神通利益衆生。入生死五道終不耗減。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜住性空。以禪定利益衆生。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜住性空。以方便力故利益衆生。作是言。汝等諸善男子。觀一切法性空。善男子。汝等當作諸業。若身業若口業若意業。取甘露味得甘露果。性空中無有法退。何以故。性空不退亦無退者。以性空非法亦非非法。於無所有法中云何當有退。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。如是敎衆生常不懈廢。是菩薩自行十善。亦敎他人行十善。五戒八戒成就齋亦如是。自行初禪亦敎他人令行初禪。乃至第四禪亦如是。常自行慈心亦敎他人令行慈心。乃至捨心亦如是。自行無邊空處亦敎他人令行無邊空處。乃至非有想非無想處亦如是。自行四念處亦敎他人令行四念處。乃至八聖道分佛十力乃至八十隨形好亦如是。自於須陀洹果中生智慧亦不住是中。亦敎他人令得須陀洹果。乃至阿羅漢亦如是。自於辟支佛道中生智慧亦不住是中。亦敎他人令得辟支佛道。自生阿耨多羅三藐三菩提道。亦敎他人令生阿耨多羅三藐三菩提道。如是須菩提。菩薩摩訶薩行菩薩道時。方便力故終不懈廢。須菩提白佛言。世尊若諸法性。常空。常空中衆生不可得。法非法亦不可得。菩薩摩訶薩云何求一切種智。佛告須菩提。如是如是。如汝所言。諸法性皆空。空中衆生不可得。法非法亦不可得。須菩提。若一切法性不空。菩薩摩訶薩。

提下宋明俱無心字

不依性空成阿耨多羅三藐三菩提。爲衆生說性空法。須菩提。色性空受想行識性空。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜時。說五陰性空法。說十二入十八界性空法。說四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分性空法。說三解脫門八背捨九次第定佛十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲三十二相八十隨形好性空法。說須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道一切種智斷煩惱習性空法。須菩提。若內空性不空。外空乃至無法有法空性不空者。則壞空性。是性空不常不斷。何以故。是性空無住處。亦無所從來亦無所從去。須菩提。是名法住相。是中無法無衆無散無增無減。無生無滅無垢無淨。是爲諸法相。菩薩摩訶薩住是中發阿耨多羅三藐三菩提心。不見法有所發。無發無住是名法住相。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。見一切法性空。不轉阿耨多羅三藐三菩提。何以故。是菩薩不見有法能障礙。當何處生疑。是名阿耨多羅三藐三菩提。性空不得衆生。不得我不得人。不得壽不得命。乃至不得知者見者。性空中色不可得。受想行識不可得。乃至八十隨形好不可得。須菩提。譬如佛化作四衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷。當爲是諸衆說法千萬億劫不斷。佛告須菩提。是諸化衆。當得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。得阿耨多羅三藐三菩提記不。須菩提言。不也世尊。何以故。是諸化衆無有根本實事故。一切諸法性空亦無根本實事。何等是衆生。得須陀洹果乃至阿羅漢果。得阿耨多羅三藐三菩提記。須菩提。菩薩摩訶薩亦如是。爲衆生說性空法。是衆生實不可得。以衆生墮顚倒故。拔衆生令住不顚倒。顚倒卽是無顚倒。顚倒不顚倒雖一相。而多顚倒少不顚倒。無顚倒處中則無我無衆生。乃至無知者見者。無顚倒處中亦無色無受想行識。無十二入乃至無阿耨多羅三藐三菩提。是名諸法性空。菩薩摩訶薩住是中行般若波羅蜜時。於衆生相顚倒中拔出衆生。所謂無衆生。有衆生相中拔出。乃至知者見者相中拔出。於無色色相中無受想行識受想行識相中拔出衆生。十二入十八界乃至一切有漏法亦如是。須菩提。亦有諸無漏法。所謂四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。如是等法雖無漏法。亦不如第一義相。第一義相者。無作無爲無生無相無說。是名第一義。亦名性空亦名諸佛道。是中不得衆生乃至不得知者見者。不得色受想行識乃至不得八十隨形好。何以故。菩薩摩訶薩。非爲道法故求阿耨多羅三藐三菩提|心。爲諸法實相性空

種種著元明俱作著衆生
亦三本俱作所謂二字
薩婆若同作一切種智四字
以元明俱作已下同

故求阿耨多羅三藐三菩提.是性空前際亦是性空.後際亦是性空.中際亦是性空.常性空無不性空時.菩薩摩訶薩行是性空般若波羅蜜.爲衆生種種著相欲拔出故求道種智.求道種智時遍行一切道.若聲聞道若辟支佛道若菩薩道.是菩薩具足一切道.拔出衆生於邪想著.淨佛國土已隨其壽命.得阿耨多羅三藐三菩提.須菩提.過去十方諸佛道所謂性空.未來現在十方諸佛道亦性空.離性空世間無道無道果.要從親近諸佛聞是諸法性空.行是法不失薩婆若.須菩提白佛言.世尊.甚希有諸菩薩摩訶薩.有行是性空法亦不壞性空相.所謂色與性空異.受想行識與性空異.乃至阿耨多羅三藐三菩提與性空異.須菩提.色卽是性空性空卽是色.乃至阿耨多羅三藐三菩提.阿耨多羅三藐三菩提卽是性空.性空卽是阿耨多羅三藐三菩提.佛告須菩提.若色與性空異.若受想行識與性空異.乃至阿耨多羅三藐三菩提與性空異.菩薩摩訶薩不能得一切種智.須菩提.今色不異性空.乃至阿耨多羅三藐三菩提不異性空.以是故.菩薩摩訶薩知一切法性空.發意求阿耨多羅三藐三菩提.何以故.是中無有法若實若常.但凡夫著色受想行識.凡夫取色相取受想行識相.有我心著內外法故.受後身色受想行識.以是因緣故.不得脫生老病死愁憂苦惱往來五道.以是事故.菩薩摩訶薩行性空波羅蜜.不壞色等諸法相若空若不空.何以故.色性空相不壞色.所謂是色是空是受想行識.乃至阿耨多羅三藐三菩提亦如是.譬如虛空不壞虛空.內虛空不壞外虛空.外虛空不壞內虛空.如是須菩提.色不壞色空相.色空相不壞色.何以故.是二法無有性能有所壞.所謂是空是非空.乃至阿耨多羅三藐三菩提亦如是.須菩提白佛言.世尊.若一切法空無分別.云何菩薩摩訶薩從初發意以來.作是願.我當得阿耨多羅三藐三菩提.世尊.若一切法無分別.云何菩薩發心言.我當得阿耨多羅三藐三菩提.世尊若分別諸法.不能得阿耨多羅三藐三菩提.佛告須菩提.如是如是.若菩薩摩訶薩行二相者.無阿耨多羅三藐三菩提.若分別作二分者.無阿耨多羅三藐三菩提.若不二不分別諸法.則是阿耨多羅三藐三菩提.菩提是不二相不壞相.須菩提.是菩提不色中行.不受想行識中行.乃至菩提亦不菩提中行.何以故.色卽是菩提菩提卽是色.不二不分別.乃至十八不共法亦如是.是菩提非取故行非捨故行.須菩提白佛言.世尊.若菩薩摩訶薩菩提非取故行非捨故行.菩薩摩訶薩菩提何處行.佛

世尊三本俱作何以故三字

難同作雖

佛上三本俱有解脫二字

不同作無○於下同有汝字言同作告

提下同有法字

告須菩提。於汝意云何。如佛所化人。在何處行。若取中行若捨中行。須菩提言。世尊。非取中行非捨中行。佛言。菩薩摩訶薩菩提亦如是。非取中行非捨中行。須菩提。於汝意云何。阿羅漢夢中菩提何處行。若取中行若捨中行不。不也世尊。非取中行非捨中行。世尊。阿羅漢畢竟不眠。云何夢中菩提若取中行若捨中行。須菩提。菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提亦如是。非取中行非捨中行。所謂色中行乃至一切種智中行。世尊。將無菩薩摩訶薩不行十地。不行六波羅蜜。不行三十七助道法。不行十四空。不行諸禪定解脫三昧。不行佛十力乃至八十隨形好。住五神通。淨佛國土成就衆生。得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。如是如是如汝所言。今菩薩離菩提無處行。若不具足十地六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分空無相無作。佛十力乃至八十隨形好。常捨行不誑法不錯謬法。不具足是諸法。終不得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩住色相中。住受想行識相中。乃至住阿耨多羅三藐三菩提相中。能具足十地。乃至得阿耨多羅三藐三菩提。是相常寂滅。無有法能增能減能生能滅能垢能淨能得道能得果。世諦法故。菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提非第一實義。何以故。第一義中無有色乃至無阿耨多羅三藐三菩提。亦無行阿耨多羅三藐三菩提者。是一切法皆以世諦故說。非第一義。須菩提。菩薩摩訶薩從初發意以來。行阿耨多羅三藐三菩提。菩提亦不增衆生亦不減。菩薩亦不增減。須菩提。於意云何。若人初得道時住無間三昧得無漏根成就若須陀洹果若斯陀含果若阿那含果若阿羅漢果。汝爾時有所得若夢若心若道若道果不。須菩提言。世尊不得也。佛言須菩提。云何當知得阿羅漢道者。世尊。世諦法故分別名阿羅漢道。佛言。如是如是。須菩提。世諦故說名菩薩。說名色受想行識乃至一切種智。是菩提中無法可得若增若減。以諸法性空故。諸法性空尚不可得。何況得初地心乃至十地心六波羅蜜三十七助道法空三昧無相無作三昧。乃至一切佛法當有所得無有是處。如是須菩提。菩薩摩訶薩行阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提利益衆生

摩訶般若波羅蜜經具足品第八十一

丹照明品

不下元無可字

以元明俱作知

發上同無能字

須菩提白佛言．世尊．若菩薩摩訶薩行六波羅蜜十八空三十七助道法．佛十力四無所畏四無礙智十八不共法．不具足菩薩道不能得阿耨多羅三藐三菩提．世尊．菩薩摩訶薩．當云何具足菩薩道．能得阿耨多羅三藐三菩提．佛告須菩提．若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．以方便力故行檀那波羅蜜．不得施不得施者不得受者．亦不遠離是法行檀那波羅蜜．是則照明菩薩道．如是須菩提．菩薩以方便力故具足菩薩道．具足已能得阿耨多羅三藐三菩提。持戒忍辱精進禪定智慧．乃至十八不共法亦如是．舍利弗白佛言．世尊．云何菩薩摩訶薩習般若波羅蜜．佛告舍利弗．若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．以方便力故．不壞色不隨色．何以故．是色性無故不壞不隨．乃至受想行識亦如是．舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．以方便力故檀那波羅蜜不壞不隨．何以故．檀那波羅蜜性無故．乃至十八不共法亦如是．舍利弗白佛言．世尊．若諸法無自性可壞可隨者．云何菩薩摩訶薩．能習般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩所學處．何以故．菩薩摩訶薩不學般若波羅蜜．不能得阿耨多羅三藐三菩提．佛告舍利弗．如汝所言．菩薩不學般若波羅蜜．不能得阿耨多羅三藐三菩提．不離方便力故可得．舍利弗．若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜．若有一法性可得應當取．若不可得何所取．所謂此是般若波羅蜜．是禪那波羅蜜．是毗梨耶波羅蜜．是羼提波羅蜜尸羅波羅蜜檀那波羅蜜．是色受想行識乃至是阿耨多羅三藐三菩提．舍利弗．是般若波羅蜜不可取相．乃至一切諸佛法不可取相．舍利弗．是名不取般若波羅蜜乃至佛法．是菩薩摩訶薩所應學．菩薩摩訶薩於是中學時．學相亦不可得．何況般若波羅蜜．佛法菩薩法辟支佛法聲聞法凡夫人法．何以故．舍利弗．諸法無一法有性．如是無性諸法．何等是凡夫人須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩佛．若無是諸賢聖云何有法．以是法故分別說．是凡夫人須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩佛．舍利弗白佛言．世尊．若諸法無性無實無根本．云何知是凡夫人乃至是佛．佛告舍利弗．凡夫人所著處．色有性有實不．不也世尊．但以顚倒心故．受想行識乃至十八不共法亦如是．舍利弗．菩薩摩訶薩．行般若波羅蜜時．以方便力故．見諸法無性無根本故．能發阿耨多羅三藐三菩提心．舍利弗白佛言．世尊．云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．以方便力故．見諸無法無性根本故．能發阿耨多羅三藐三菩提心．佛告舍利弗．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．不見

大下元明俱無誓字次同

福下三本俱有我得大福四字

諸法根本住中退沒生懈怠心。舍利弗。今諸法根本。實無我無所有性常空。但顛倒愚癡故衆生著陰入界是菩薩摩訶薩見諸法無所有性常空自相空時。行般若波羅蜜自立。如幻師爲衆生說法。慳者爲說布施法。破戒者爲說持戒法。瞋者爲說忍辱法。懈怠者爲說精進法。亂者爲說禪定法。愚癡者爲說智慧法。令衆生住布施乃至智慧。然後爲說聖法能出苦。用是法故得須陀洹果。乃至得阿羅漢果辟支佛道乃至阿耨多羅三藐三菩提。舍利弗白佛言。世尊。菩薩摩訶薩得是衆生無所有。教令布施持戒乃至智慧。然後爲說聖法能出苦。以是法故得須陀洹果乃至阿耨多羅三藐三菩提。佛告舍利弗。菩薩摩訶薩。行般若波羅蜜時。無有有所得過罪。何以故。舍利弗。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時不得衆生。但空法相續故名爲衆生。舍利弗。菩薩摩訶薩住二諦中。爲衆生說法世諦第一義諦。舍利弗。二諦中衆生雖不可得。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故。爲衆生說法。衆生聞是法今世吾我尚不可得。何況當得阿耨多羅三藐三菩提者及所用法。如是舍利弗。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。以方便力故爲衆生說法。舍利弗白佛言。世尊。是菩薩摩訶薩心曠大無有法可得。若一相若異相若別相。而能如是大誓莊嚴。用是莊嚴故。不生欲界不生色界不生無色界。不見有爲性不見無爲性。而於三界中度脫衆生亦不得衆生。何以故。衆生不縛不解。衆生不縛不解故無垢無淨。無垢無淨故無分別五道。無分別五道故無業無煩惱。無業無煩惱故亦不應有果報。以是果報故生三界中。佛告舍利弗。如是如是如汝所言。若衆生先有後無。諸佛菩薩則有過罪。諸法五道生死亦如是。若先有後無。諸佛菩薩則有過罪。舍利弗。今有佛無佛。諸法相常住不異。是法相中。尚無我無衆生無壽命乃至無知者無見者。何況當有色受想行識。若無是法。云何當有五道往來拔出衆生處。舍利弗。是諸法性常空。以是故。諸菩薩摩訶薩從過去佛聞是法相。發阿耨多羅三藐三菩提意。是中無有法我當得亦無有衆生定著處法不可出。但以衆生顛倒故著。以是故。菩薩摩訶薩發大誓莊嚴。常不退阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩不疑我當不得阿耨多羅三藐三菩提。我必當得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提已。用實法利益衆生令出顛倒。舍利弗。譬如幻師幻作百千萬億人。與種種飲食令飽滿。歡喜唱言我得大福。於汝意云何。是中有人食飲飽滿不。不也世尊。佛言如是。舍利弗。菩薩摩訶薩從

初發意以來。行六波羅蜜四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分十四空三解脫門八背捨九次第定佛十力乃至十八不共法。具足菩薩道成就衆生淨佛國土。無衆生法可度。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩道。菩薩行是道能成就衆生淨佛國土。佛告須菩提。菩薩摩訶薩。從初發意以來。行檀那波羅蜜。行尸羅羼提毗梨耶禪那般若波羅蜜。乃至行十八不共法。成就衆生淨佛國土。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩。行檀那波羅蜜成就衆生。佛告須菩提。有菩薩摩訶薩。行檀那波羅蜜時。自布施亦敎衆生布施。作是言諸善男子。汝等莫著布施。汝著布施故當更受身。受身故多受衆苦。諸善男子。諸法相中。無所施無施者無受者。是三法性皆空。是性空法不可取。不可取相是性空。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。布施衆生。是中不得布施不得施者不得受者。何以故。無所得波羅蜜是名爲檀那波羅蜜。是菩薩不得是三法故。能敎衆生令得須陀洹果。乃至令得阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時成就衆生。是菩薩自行布施亦敎他人行布施。讚歎布施法。歡喜讚歎行布施者。是菩薩如是布施已。生刹利大姓婆羅門大姓居士大家。若作小王若轉輪聖王。是時以四事攝取衆生。何等四。布施愛語利行同事。是四事攝取衆生已。衆生漸漸住於戒四禪四無量心四無色定四念處八聖道分空無相無作三昧。得入正位中。得須陀洹果。乃至得阿羅漢果。若得辟支佛道。若敎令得阿耨多羅三藐三菩提。作是言。諸善男子。汝等當發阿耨多羅三藐三菩提心。是阿耨多羅三藐三菩提易得耳。何以故。無有定法衆生所著處。但顚倒故衆生著處。是故汝等自離生死亦當敎他離生死。汝等當發心能自利益亦當得利益他人。須菩提。菩薩摩訶薩應如是行檀那波羅蜜。是行檀那波羅蜜因緣故。從初發意以來終不墮惡道。常作轉輪聖王。何以故。隨其所種得大果報。是菩薩作轉輪聖王時。見有乞者不作是念。我爲餘事故受轉輪聖王果。但爲利益一切衆生故。是時作是言。此是汝物汝自取之。莫有所難我無所惜。我爲衆生故受生死。憐愍汝等故具足大悲。行是大悲饒益衆生。亦不得實定衆生相。但有假名字故可說是衆生。是名字亦空如響聲實不可說相。須菩提。菩薩摩訶薩應如是行檀那波羅蜜於衆生中無所惜。乃至不惜自身肌肉何況外物。以是法故能出衆生生死。何等是法。所謂檀那波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波

背捨同作解脫

羅下提下耶下那下並同有波蜜羅三字

受上同有更字○性皆同作皆性

行上同有令字

著下元明俱無處字利上同無得字

我下同有不字

名下三本俱無字字

持戒來同作來持戒
成同作乘○辟上佛上同有若字
緣下同無亦字
汝下同有等字○無下同有有字
般元明俱作得○檀三本俱作禪

羅蜜毗棃耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至十八不共法。令衆生從生死中得脫。復次須菩提。菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜中布施已作是言。諸善男子。汝等持戒來。我當供給汝等令無所乏短衣食臥具乃至資生所須。盡當給汝。汝等乏少故破戒。我當給汝所須令無所乏。若飲食乃至七寶。汝等住是戒律儀中漸漸當得盡苦。成於三乘而得度脫。若聲聞乘辟支佛乘佛乘。復次須菩提。菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜中若見衆生瞋惱。作是言。諸善男子。汝等以何因緣故瞋惱。我當與汝所須。汝等所欲從我取之。悉當給汝令無所乏。若飲食衣服乃至資生所須。是菩薩住檀那波羅蜜中教衆生忍辱。作是言。一切法中無有堅實。汝等所瞋是因緣亦空無堅實。皆從虛妄憶想生。汝以無根本瞋恚壞心。惡口罵詈刀杖相加以至害命。汝等莫以是虛妄法起瞋。故墮地獄畜生餓鬼中及餘惡道受無量苦。汝等莫以是虛妄無實諸法故而作罪業。以是罪業故尚不得人身。何況得生佛世諸人佛世難值人身難得。汝等莫失好時。若失好時則不可救。是菩薩摩訶薩如是教化衆生。自行忍辱亦教他人令行忍辱。讚歎忍辱法歡喜讚歎行忍辱者。是菩薩令衆生住忍辱中。漸以三乘得盡衆苦。如是須菩提。菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜。令衆生住忍辱。須菩提。云何菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜。令衆生精進。須菩提。菩薩見衆生懈怠如是言。汝等何以懈怠。衆生言因緣少故。是菩薩行檀那波羅蜜時語諸人言。我當令汝因緣具足。若布施若持戒若忍辱。如是等因緣故令汝具足。是衆生得菩薩利益因緣故。身精進口精進心精進。身精進口精進心精進故。一切善法具足修習無漏法。修習無漏法故當得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。若得阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。住精進波羅蜜攝取衆生。須菩提。云何菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。教化衆生令修禪那波羅蜜。佛告須菩提言。菩薩見衆生亂心作是言。汝等可修禪定。衆生言。我等因緣不具足故。菩薩言。我當與汝等作因緣。以是因緣故令汝心不隨覺觀心不馳散。衆生以是因緣故。斷覺觀入初禪二禪三禪四禪。行慈悲喜捨心。衆生以是禪無量心因緣故。能修四念處乃至八聖道分。修三十七助道法時。漸入三乘而般涅槃終不失道。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。以檀那波羅蜜攝取衆生令行禪那波羅蜜。須菩提。云何菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜。以般若波羅蜜攝取衆生。須菩提。菩薩見衆生愚癡無

故上同無以字
禪上同無入字
阿上同有若字
羅下同無衆字
資生所須同作所須資生之物六字○當明作等○果三本俱作法○洹下同無果字○苦上同有之字
語同作言

有智慧作是言。汝等何以故不修智慧。衆生言因緣未具足故。菩薩住檀那波羅蜜中作是言。汝等所須得智慧具足從我取之。所謂布施持戒忍辱精進入禪定。是因緣具足已。汝等如是思惟。思惟般若波羅蜜時有法可得不。若我若衆生若壽命乃至知者見者可得不。若色受想行識若欲界色界無色界。若六波羅蜜若三十七助道法。若須陀洹果若斯陀含阿那含阿羅漢果辟支佛道。若阿耨多羅三藐三菩提可得不。是衆生如是思惟時。於般若波羅蜜中無有法可得可著處。若不著諸法是時不見法有生有滅有垢有淨。不分別是地獄是畜生是餓鬼是阿修羅衆是天是人。是持戒是破戒。是須陀洹是斯陀含是阿那含是阿羅漢是辟支佛是佛。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。以般若波羅蜜攝取衆生。須菩提。云何菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜中。以尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜乃至三十七助道法攝取衆生。須菩提。菩薩摩訶薩住檀那波羅蜜中以供養具利益衆生。以是利益因緣故。衆生能修四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分。衆生行是三十七助道法於生死中得解脫。如是須菩提。菩薩摩訶薩以無漏聖法攝取衆生。復次須菩提。菩薩摩訶薩教化衆生時。如是言。諸善男子汝等從我取所須物。若飮食衣服臥具香華。乃至七寶等種種資生所須汝當以是攝取衆生。汝等長夜利益安樂莫作是念。是物非我所有。我長夜爲衆生故集此諸物。汝等當取是物如己物無異。教化衆生令行布施持戒忍辱精進禪定智慧。乃至令得三十七助道法佛十力乃至十八不共法。亦令得諸無漏果。所謂須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道阿耨多羅三藐三菩提。如是須菩提。菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜時。應如是教化衆生令得離三惡道及一切生死往來苦。復次須菩提。菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜。教化衆生作是語。衆生汝等少何因緣故破戒。我當與汝作具足因緣。若布施乃至智慧。及種種資生所須。是菩薩摩訶薩住尸羅波羅蜜。利益衆生令行十善遠離十不善道。是諸衆生持諸戒不破戒不缺戒不濁戒不雜戒不取戒。漸以三乘而得盡苦。尸羅波羅蜜爲首。如檀那波羅蜜。說餘四波羅蜜亦如是

摩訶般若波羅蜜經卷第二十五

經題六同作九

品目土同作佛國二字

解脫元明俱作背捨

法是非法三本俱作此是彼三字

以元明俱作已

摩訶般若波羅蜜經卷第二十六

〔麗海＝宋鹹＝元鹹＝明鹹〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

淨土品第八十二 丹本淨佛國品

爾時須菩提作是念。何等是菩薩摩訶薩道。菩薩住是道能作如是大誓莊嚴。佛知須菩提心所念。告須菩提。六波羅蜜是菩薩摩訶薩道。三十七助道法是菩薩摩訶薩道。十八空是菩薩摩訶薩道。八解脫九次第定是菩薩摩訶薩道。佛十力乃至十八不共法是菩薩摩訶薩道。一切法亦是菩薩摩訶薩道。須菩提。於汝意云何。頗有法菩薩所不學能得阿耨多羅三藐三菩提不。須菩提。無有法菩薩所不應學者。何以故。若菩薩不學一切法。不能得一切種智。須菩提白佛言。世尊。若一切法空。云何言菩薩學一切法。將無世尊無戲論中作戲論耶。所謂是法是非法。是世間法是出世間法。是有漏是無漏。是有爲是無爲。是凡夫人法是阿羅漢法。是辟支佛法是佛法。佛告須菩提。如是如是。一切法實空。須菩提。若一切法不空者。菩薩摩訶薩不得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。今一切法實空故。菩薩摩訶薩能得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。如汝所言。若一切法空。將無佛於無戲論中作戲論。分別此彼是世間法是出世間法乃至是佛法。須菩提。若世間衆生知一切法空。菩薩摩訶薩不學一切法得一切種智。須菩提。今衆生實不知一切法空。以是故。菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提已。分別諸法爲衆生說。須菩提。於是菩薩道從初以來應如是思惟。一切諸法中定性不可得。但從和合因緣起法故有名字諸法。我當思惟諸法實性無所著。若六波羅蜜性若三十七助道法若須陀洹果乃至阿羅漢果若辟支佛道若阿耨多羅三藐三菩提。何以故。一切法一切法性空。空不著空。空亦不可得。何況空中有著。須菩提。菩薩摩訶薩如是思惟。不著一切法而學一切法。住是學中觀衆生心行。是衆生心在何處行。知衆生虛妄不實中行。是時菩薩作是念。是衆生著不實虛妄法易度耳。是時菩薩摩訶薩住般若波羅蜜中以方便力故如是教化衆生言。汝諸衆

故下三本俱有是中無有堅實故若如是教化是名行菩薩道於諸法無所著故二十五字○解脫同作背捨

我同作辟支佛道四字○以同作已下同

生當行布施可得饒財。亦莫恃布施果而自貢高。何以故。是中無堅實法。持戒忍辱精進禪定智慧亦如是。諸衆生行是法。可得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道佛道。莫念有是法。如是教化是名行菩薩道。於諸法無所著故。何以故。一切法無著相。以性無故性空故。須菩提。是菩薩摩訶薩如是行菩薩道時無所住。是菩薩用不住法故。行檀那波羅蜜亦不住是中。行尸羅波羅蜜亦不住是中。行羼提波羅蜜亦不住是中。行毘黎耶波羅蜜亦不住是中。行禪那波羅蜜亦不住是中。行般若波羅蜜亦不住是中。行初禪亦不住是中。何以故。是初禪初禪相空。行禪者亦空。所用法亦空。第二第三第四禪亦如是。慈悲喜捨四無色定八解脫九次第定亦如是。得須陀洹果亦不住是中。得斯陀含果阿那含果阿羅漢果亦不住是中。得辟支佛道亦不住是中。須菩提白佛言。世尊。何因緣故不住是中。佛言。二因緣故不住是中。何等二。一者諸道果性空無住處。亦無所用法亦無住者。二者不以少事爲足。作是念。我不應不得須陀洹果。我必應當得須陀洹果。我但不應是中住。乃至辟支佛道我不應不得。我必應當得。我但不應是中住。乃至得阿耨多羅三藐三菩提不應住。何以故。我從初發意以來更無餘心。一心向阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。菩薩一心向阿耨多羅三藐三菩提中遠離餘心。所作身口意業皆應阿耨多羅三藐三菩提。須菩提是菩薩摩訶薩住是一心能生菩提道。須菩提白佛言。世尊。若一切諸法不生。云何菩薩摩訶薩能生菩提道。佛告須菩提。如是如是。一切法無生。云何無生。無所作無所起者。一切法不生。須菩提白佛言。世尊。有佛無佛諸法法相不常住耶。佛言。如是如是。有佛無佛是諸法法相常住。以衆生不知是法住法相。爲是故菩薩摩訶薩爲衆生故生菩提道。用是道拔出衆生生死。須菩提白佛言。世尊。用生道得菩提。佛言不也。世尊。用不生道得菩提。佛言不也。世尊。用不生非不生得菩提。佛言不也。須菩提言。世尊。云何當得菩提。佛言。非用道得菩提。亦不用非道得菩提。須菩提。菩提卽是道。道卽是菩提。須菩提白佛言。世尊。若菩提卽是道。道卽是菩提。若爾者今菩薩未作佛時。應當得阿耨多羅三藐三菩提。云何說諸佛多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。有三十二相八十種隨形好十力四無所畏四無礙智十八不共法大慈大悲。佛告須菩提。於汝意云何。佛得菩提不。不也世尊。佛不得菩提。何以故。佛卽是菩提。菩提卽是佛。如須菩提所問。菩薩時亦應得菩提。須菩提。是菩薩摩訶

三上三本俱無具足二字

果下宋明俱無證字〇色上三本俱無取字〇眼下同有相字

緣下同有故字次同

薩具足六波羅蜜。具足三十七助道法。具足佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。具足住如金剛三昧。用一念相應慧得阿耨多羅三藐三菩提。是時名爲佛一切法中得自在。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩淨佛國土。佛言。有菩薩從初發意以來。自除身麤業除口麤業除意麤業。亦淨他人身口意麤業。世尊。何等是菩薩摩訶薩身麤業口麤業意麤業。佛告須菩提。不善業若殺生乃至邪見。是名菩薩摩訶薩身口意麤業。復次須菩提。慳貪心破戒心瞋心懈怠心亂心愚癡心。是名菩薩意麤業。復次戒不淨。是名菩薩身口麤業。復次須菩提。若菩薩遠離四念處行。是名菩薩麤業。遠離四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分空三昧無相無作三昧。亦名菩薩麤業。復次須菩提。菩薩摩訶薩貪須陀洹果證。乃至貪阿羅漢果證辟支佛道。是名菩薩摩訶薩麤業。復次須菩提。菩薩取色相受想行識相眼耳鼻舌身意相。色聲香味觸法相男相女相。欲界相色界相無色界相。善法相不善法相。有爲法相無爲法相。是名菩薩麤業。菩薩摩訶薩皆遠離如是麤業相。自布施亦教他人布施。須食與食須衣與衣。乃至種種資生所須盡給與之。亦教他人種種布施。持是福德與一切衆生共之。迴向淨佛國土故。持戒忍辱精進禪定智慧亦如是。是菩薩摩訶薩或以三千大千國土滿中珍寶施與三尊。作是願言。我以善根因緣故令我國土皆以七寶成。復次須菩提。菩薩摩訶薩以天妓樂。樂佛及塔作是願言。以是善根因緣。令我國土中常聞天樂。復次須菩提。菩薩摩訶薩以三千大千國土滿中天香。供養諸佛。及諸佛塔作是願言。以是善根因緣。令我國土中常有天香。復次須菩提。菩薩摩訶薩以百味食。施佛及僧作是願言。以是善根因緣故令我國土中衆生皆得百味食。復次須菩提。菩薩摩訶薩以天香細滑。施佛及僧作是願言。以是善根因緣故令我國土中一切衆生受天香細滑。復次須菩提。菩薩摩訶薩以隨意五欲。施佛及僧幷一切衆生作是願言。以是善根因緣故。令我國土中弟子及一切衆生皆得隨意五欲。是菩薩以隨意五欲。共一切衆生迴向淨佛國土。作是願言。我得佛時是國土中如天五欲應心而至。復次須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。作是願言。我當自入初禪亦教一切衆生入初禪第二第三第四禪慈悲喜捨心。乃至三十七助道法亦如是。我得阿耨多羅三藐三菩提時。令一切衆生不遠離四禪。乃至不遠離三十七助道法。如是須菩提。菩薩摩訶薩能淨佛國土。是菩薩隨

爾所時行菩薩道滿足諸願。是菩薩自成就一切善法。亦成就一切衆生善法。是菩薩受身端正。所化衆生亦得端正。所以者何。福德因緣厚故。須菩提。菩薩摩訶薩應如是淨佛國土。是國土中乃至無三惡道之名。亦無邪見三毒二乘聲聞辟支佛之名。耳不聞有無常苦空之聲。亦無我所有。乃至無諸結使煩惱之名。亦無分別諸果之名。風吹七寶之樹隨所應度而出音聲。所謂空無相無作。如諸法實相之音。有佛無佛一切法相一切法相空。空中無有相。無相中則無可作出如是法音。若晝若夜若坐若臥若立若行常聞此法。是菩薩得阿耨多羅三藐三菩提時。十方國土中諸佛讚歎。衆生聞是佛名。必至阿耨多羅三藐三菩提。是佛得阿耨多羅三藐三菩提時說法。衆生聞者。無有不信而生疑言是法是非法。何以故。諸法實相中皆是法無有非法。諸有薄福之人於諸佛及弟子中。不種善根不隨善知識。沒在我見中。乃至沒在一切種種見中。墮在邊見若斷若常。如是人以邪見故。非佛言佛佛言非佛。如是人非法言法法言非法。如是人破法故身壞命終墮惡道地獄中。諸佛得阿耨多羅三藐三菩提時。見此衆生往來五道。令離邪聚立正定聚中更不墮惡道。如是須菩提。菩薩摩訶薩淨佛國土中衆生無雜穢心。若世間法若出世間法。若有漏若無漏。若有爲若無爲。乃至是國土中衆生必至阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是爲菩薩摩訶薩淨佛國土

摩訶般若波羅蜜經畢定品第八十三

須菩提白佛言。世尊。是菩薩摩訶薩爲畢定爲不畢定。佛告須菩提。菩薩摩訶薩畢定非不畢定。世尊。何處畢定。爲聲聞道中。爲辟支佛道中。爲佛道中。佛言。菩薩摩訶薩非聲聞辟支佛道中畢定。是佛道中畢定。須菩提白佛言。世尊。爲初發意菩薩畢定。爲最後身菩薩畢定。佛言。初發意菩薩亦畢定。阿惟越致菩薩亦畢定。後身菩薩亦畢定。世尊。畢定菩薩墮惡道中生不。不也須菩提。於汝意云何。若八人若須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛生惡道中不。不也世尊。如是須菩提。菩薩摩訶薩從初發意已來布施持戒忍辱精進行禪定修智慧斷一切不善業。若墮惡道若生長壽天。若不得修善法處。若生邊國若生惡邪見家無作見家。是中無佛名無法名無僧名

法下三本俱無相字○無下明無可字

佛三本俱作菩薩

惟越同作毗跋

是三本俱作大〇以下同無是字〇惡同作怨〇有上同無無字〇力下同有不須菩提言無也七字

菩下同有痛字〇等上同無如是二字〇生同作人〇不下同有實字〇菩上同有衆字

得下同有故字

無有是處。須菩提。初發意菩薩於阿耨多羅三藐三菩提。以深心行十不善道無有是處。世尊。若菩薩摩訶薩有如是善根功德成就。如佛自說本生受不善果報。是時善根爲何所在。佛告須菩提。菩薩摩訶薩爲利益衆生故隨而受身。以是身利益衆生。須菩提。菩薩摩訶薩作畜生時有是方便力。若怨賊欲來殺害。以是無上忍辱無上慈悲心。捨身不惱惡賊。汝諸聲聞辟支佛無有是力。以是故。須菩提。當知菩薩摩訶薩欲具足大慈心。爲憐愍利益衆生故受畜生身。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩住何等善根中受如是諸身。佛告須菩提。菩薩摩訶薩從初發意乃至道場。於其中間無有善根不具足者。具足已當得阿耨多羅三藐三菩提。以是故。菩薩摩訶薩從初發意。應當學具足一切善根。學善根已當得一切種智當斷一切煩惱習。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩成就如是白淨無漏法。而生惡道畜生中。佛告須菩提。於汝意云何。佛成就白淨無漏法不。須菩提言。佛一切白淨無漏法成就。須菩提。若佛自化作畜生身。作佛事度衆生實是畜生不。須菩提言不也。佛告。菩薩摩訶薩亦如是。成就白淨無漏法。爲度衆生故受畜生身。用是身教化衆生。佛告須菩提。如阿羅漢作變化身。能使衆生歡喜不。須菩提言能。佛言。如是如是。須菩提。菩薩摩訶薩用是白淨無漏法。隨應度衆生而受身。以是身利益衆生亦不受苦。須菩提。於汝意云何。幻師幻作種種形。若象馬牛羊男女。如是等以示衆生。須菩提是象馬牛羊男女等有實不。須菩提言。不也世尊。佛言。如是須菩提。菩薩摩訶薩白淨無漏法成就。現作種種身以示衆生故。以是身饒益一切亦不受苦。須菩提白佛言。世尊。菩薩摩訶薩大方便力。得畢無漏智慧而隨所應度衆生。身而作種種形以度衆生。世尊。菩薩摩訶薩住何等白淨法。能作如是方便而不受染汙。佛言。菩薩用般若波羅蜜作如是方便力。於十方如恒河沙等國土中。饒益衆生亦不貪著是身。何以故。著者著法著處。是三法皆不可得自性空故。空不著空。空中無著者亦無著處。何以故。空中空相不可得。須菩提。是名不可得空。菩薩住是中能得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。菩薩但住般若波羅蜜中得阿耨多羅三藐三菩提。不住餘法中耶。須菩提。頗有法不入般若波羅蜜者不。世尊。若般若波羅蜜自性空。云何一切法皆入般若波羅蜜中。世尊。空中無有法若入若不入。須菩提。一切法一切法相空不。世尊空。須菩提。若一切法一切法相空。云何言一切法不入空中。須菩提白佛言。世尊。

云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住一切法空中能起神通波羅蜜。住是神通波羅蜜中。到十方如恒河沙等國土。供養現在諸佛聞諸佛說法。於諸佛所種善根。佛告須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。觀是十方如恒河沙等國土皆空。是國土中諸佛性亦空。但假名字故諸佛現身。所假名字亦空。若十方國土及諸佛性不空者空爲有偏。以空不偏故一切法一切法相空。以是故。一切法一切法相空。是故菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。用方便力生神通波羅蜜。住是神通波羅蜜中。起天眼天耳如意足知他心宿命智知衆生生死。若菩薩遠離神通波羅蜜不能得饒益衆生。亦不能得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩神通波羅蜜。是阿耨多羅三藐三菩提利益道。何以故。用是天眼自見諸善法。亦教他人令得諸善法。於善法亦不著。諸善法自性空故。空無所著若著則受味。是空中無有味。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時能生如是天眼。用是眼觀一切法空。見是法空不取相不作業。亦爲人說是法。亦不得衆生相不得衆生名。如是菩薩摩訶薩用無所得法故。起神通波羅蜜。用是神通波羅蜜。神通所應作者能作。是菩薩用天眼過於人眼見十方國土。見已飛到十方饒益衆生。或以布施或以持戒或以忍辱或是精進或以禪定或以智慧饒益衆生。或以三十七助道法。或以諸禪解脫三昧。或以聲聞法或以辟支佛法或以菩薩法或以佛法饒益衆生。爲慳者如是說法。諸衆生當行布施。貧窮是苦惱法。貧窮之人自不能益何能益他。以是故。汝等當勤布施。自身得樂亦能令他得樂。莫以貧窮故共相食噉不得離三惡道。爲破戒者說法。諸衆生破戒法大苦惱。破戒之人自不能益何能益他。破戒法受苦果報。若在地獄若在餓鬼若在畜生。汝等墮三惡道中。自不能救何能救人。以是故。汝等不應墮破戒心死時有悔。若有共相瞋諍者如是說法。諸衆生莫共相瞋。瞋亂人心不順善法。汝等今共相瞋亂心。或墮地獄若餓鬼畜生中。以是故。汝等不應生一念瞋恚心何況多。爲懈怠衆生說法令得精進。散亂衆生令得禪定。愚癡衆生令得智慧亦如是。行婬欲者令觀不淨。瞋恚令觀慈心。愚癡衆生令觀十二因緣。行非道衆生令入正道。所謂聲聞道辟支佛道佛道。爲是衆生如是說法。如汝等所著是法性空。性空法中不可得著。不著相是空相。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。住神通波羅蜜中。爲衆生作利益。須菩提。菩薩若遠離神通。不能隨衆生意善說法。以是故須菩提。菩薩摩訶薩行般

性亦三本俱作亦性
得元明俱作轉
人上同無他字
是下三本俱有天字是上同無如字
如是說同作說如是次同
墮明作隨
恚下三本俱有者字

以三本俱作用
說上同有或字次同
智下同有憶念二字○處下同無憶念二字○念上同有憶字○
施上同無布字
禪下元明俱無那字○解脫同作背捨

若波羅蜜時應起神通。須菩提。譬如鳥無翅不能高翔。菩薩無神通不能隨意敎化衆生。以是故。須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜應起諸神通。起諸神通已若欲饒益衆生隨意能益。是菩薩用天眼見如恒河沙等諸國土。及見是國土中衆生。見已以神通力往到其所。知衆生心隨其所應而爲說法。或說布施或說持戒或說禪定。乃至說涅槃法。是菩薩用天耳聞二種音聲若人若非人。用天耳聞十方諸佛所說法皆能受持。如所聞法爲衆生說。或說布施乃至說涅槃。是菩薩淨他心智。用他心智知衆生心。隨其所應而爲說法。或說布施乃至或說涅槃。是菩薩宿命智種種本生處憶念。亦自憶亦憶他人。用是宿命智念過去在在處處諸佛名字及弟子衆。有衆生信樂宿命者。爲現宿命事而爲說法。或說布施乃至或說涅槃。用如意神通力到種種無量諸佛國土。供養諸佛從諸佛種善根還來本國。是菩薩漏盡神通智證。用是漏盡神通智證故。爲衆生隨應說法。或說布施乃至或說涅槃。如是須菩提。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應如是起諸神通。菩薩用修是神通故。隨意受身苦樂不染。譬如佛所化人作一切事苦樂不染。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。應如是遊戲神通。能淨佛國土成就衆生。復次須菩提。菩薩摩訶薩不淨佛國土不成就衆生。不能得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。因緣不具足故不能得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提白佛言。世尊。何等是菩薩摩訶薩因緣具足已。得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。一切善法是菩薩阿耨多羅三藐三菩提因緣。須菩提白佛言。世尊。何等是善法。以是善法故得阿耨多羅三藐三菩提。佛告須菩提。菩薩從初發意已來。檀那波羅蜜是善法因緣。是中無分別是布施者是受者性空故。用是檀那波羅蜜能自利益亦能利益衆生。從生死拔出令得涅槃。是諸善法皆是菩薩摩訶薩阿耨多羅三藐三菩提因緣。行是道過去未來現在諸菩薩摩訶薩得度生死。已度今度當度。尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毘梨耶波羅蜜禪那波羅蜜般若波羅蜜。四禪四無量心四無色定四念處乃至八聖道分十八空八解脫九次第定陀羅尼門佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。如是等功德。皆是阿耨多羅三藐三菩提道。須菩提是名善法。菩薩摩訶薩具足是善法已當得一切種智。得一切種智已當轉法輪。轉法輪已當度衆生

品目差別三本倶作四諦

得上宋明倶有與字〇菩上三本倶無若字〇薩下同有摩訶薩三字〇是下元無名字〇八下宋無人字〇地下元明倶有人字〇衆上同無若有二字〇善明作罪〇惡同作福〇色下元明倶無界字〇檀下同無那字〇如上三本倶無入字〇已上同無得字〇當同作常〇五同作六下同〇五道往來同作往來六道〇相元明倶作想下同

苦上三本倶有苦字

摩訶般若波羅蜜經差別品第八十四（丹本作四諦品）

須菩提白佛言。世尊。若是諸法是菩薩法。何等是佛法。佛告須菩提。如汝所問。是諸法是菩薩法何等是佛法者。須菩提。菩薩法亦是佛法。若知一切種是得一切種智斷一切煩惱習。菩薩當得是法。佛以一念相應慧知一切法已。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是爲菩薩佛之差別。譬如向道得果異。是二人倶爲聖人。而有得向之異。如是須菩提。若菩薩摩訶薩無礙道中行。是名菩薩。解脱道中無一切闇蔽。是名爲佛。須菩提白佛言。世尊。若一切法自相空。自相空法中云何有差別之異。是地獄是餓鬼是畜生是天是人。是性地人是八人地是須陀洹人是斯陀含阿那含阿羅漢人是辟支佛是菩薩是多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀。世尊。如諸人不可得。業因縁亦不可得。果報亦不可得。佛言。如是如是。如汝所言。自相空法中無衆生。無業因縁無果報。須菩提。若有衆生不知是諸法自相空。是衆生作業因縁。若善若惡若無動。罪業因縁故墮三惡道中。福業因縁故在人天中生。無動業因縁故色無色界中生。是菩薩摩訶薩行檀那波羅蜜乃至十八不共法時。盡受行是助道法入如金剛三昧。得阿耨多羅三藐三菩提。得已饒益衆生。是利當不失故不墮五道生死中。須菩提白佛言。世尊。佛得阿耨多羅三藐三菩提已得六道生死不。佛言。不得也。須菩提言。世尊。得業若黒若白若黒白若不黒不白不。佛言不也。世尊。若不得云何説是地獄餓鬼畜生人天須陀洹乃至阿羅漢辟支佛菩薩諸佛。須菩提。若衆生知諸法自相空。菩薩摩訶薩不求阿耨多羅三藐三菩提。亦不拔衆生於三惡趣乃至五道往來生死中。須菩提。以衆生實不知諸法自性空故。不得脱五道生死。是菩薩從諸佛所聞諸法自相空。發意求阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。諸法不爾。如凡人所著是衆生於無所有法中。顛倒妄想分別得法無衆生有衆生相。無色有色相。無受想行識有受想行識相。乃至一切有爲法無所有。用顛倒妄想心。作身口意業因縁。往來五道生死中不得脱。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。一切善法内般若波羅蜜中。行菩薩道得阿耨多羅三藐三菩提。得阿耨多羅三藐三菩提已。爲衆生説四聖諦苦集苦滅苦滅道開示分別。一切助道善法皆入四聖諦中。用是助道善法故分別有三寶。何

智下元明俱有得度二字次同

中上三本俱有地字

是下同有法字

品目譬同作喻

含下同有所作非三字

非上同無是字

等三。佛寶法寶僧寶。不信拒逆是三寶故。不得離五道生死。須菩提白佛言。世尊。用苦聖諦得度。用苦智得度。用集聖諦得度。用集智得度。用滅聖諦得度。用滅智得度用道聖諦得度。用道智得度。佛告須菩提。非苦聖諦得度。亦非苦智。乃至非道聖諦得度。亦非道智。須菩提。是四聖諦平等故我說即是涅槃。不以苦聖諦不以集滅道聖諦。亦不以苦智不以集滅道智。得涅槃。須菩提白佛言。世尊。何等是四聖諦平等相。須菩提。若無苦無苦智。無集無集智。無滅無滅智。無道無道智。是名四聖諦平等相。復次須菩提。是四聖諦如。不異法相法性法住法位實際。有佛無佛法相常住。爲不誑不失故。是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時。爲通達實諦故行般若波羅蜜。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩摩訶薩爲通達實諦故。行般若波羅蜜如。通達實諦故不墮聲聞辟支佛地。直入菩薩位中。佛告須菩提。若菩薩摩訶薩如實見諸法。見已得無所有法。得無所有法已見一切法空。四聖諦所攝四聖諦所不攝法皆空。若如是觀是時便入菩薩位中。是爲菩薩住性地中不從頂墮。用是頂墮故墮聲聞辟支佛地。是菩薩住性中能生四禪四無量心四無色定。是菩薩住是初定地中分別一切諸法。通達四聖諦。知苦不生緣苦心。乃至知道不生緣道心。但順阿耨多羅三藐三菩提心觀諸法如實相。世尊。云何觀諸法如實相。佛言。觀諸法空。世尊。何等空觀。佛言。自相空。是菩薩用如是智慧觀一切法空。無法性可見。住是性中得阿耨多羅三藐三菩提。何以故。無性相是阿耨多羅三藐三菩提。非諸佛所作非辟支佛所作。非阿羅漢所作亦非向道人所作。亦非得果人所作亦非菩薩所作。但衆生不知不見諸法如實相。以是事故菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。以方便力故爲衆生說法

摩訶般若波羅蜜經七譬品第八十五

須菩提白佛言。世尊。若諸法性無所有非佛所作。非辟支佛所作非阿羅漢所作。非阿那含斯陀含須陀洹所作。非向道人非得果人非菩薩所作。云何分別有諸法異是地獄是畜生是餓鬼是人是天。乃至是非有想非無想天。用是業因緣故知有生地獄者。是業因緣故知有生畜生餓鬼者。是業因緣故知有生人中生四天王天。乃至

人若同作生人
非上同有若字
作宋作性
生下三本俱有中字

生非有想非無想天者．是業因緣故知有得須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛者．是業因緣故知是諸菩薩摩訶薩．是業因緣故知是多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀．世尊．無性法中無有業用．作業因緣故若墮地獄餓鬼畜生．若人若天乃至生非有想非無想天．以是業因緣故得須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛菩薩摩訶薩．行菩薩道當得一切種智．得一切種智故能拔出衆生於生死中．佛告須菩提．如是如是．無性法中無業無果報．須菩提．凡夫人不入聖法．不知諸法無性相．顚倒愚癡故起種種業因緣．是諸衆生隨業得身．若地獄身若畜生身若餓鬼身若人身若天身四天王天身．乃至非有想非無想天身．是無性法無業無果報．無性常是無性．如須菩提所言．若一切法無性．云何是須陀洹乃至諸佛得一切種智．須菩提．於汝意云何．道是無性不．須陀洹果乃至諸佛一切種智是無性不．須菩提言．世尊．道無性須陀洹果亦無性．乃至諸佛一切種智亦無性．須菩提．無性法能得無性法不．不也世尊．佛告須菩提．有性法能得有性法不．不也世尊．須菩提．無性法及道是一切法皆不合不散．無色無形無對一相．所謂無相．須菩提．是菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．以方便力見衆生．以顚倒故著五陰．無常中常相．苦中樂相．不淨中淨相．無我中我相．著無所有處．是菩薩以方便力故．於無所有中拔出衆生．須菩提白佛言．世尊．凡夫人所著．頗有實不異不著故起業．業因緣故五道生死中不得脫．佛告須菩提．凡夫人所著起業處．無如毛髮許實事．但顚倒故．須菩提．今爲汝說譬喩．智者以譬喩得解．須菩提．於汝意云何．如夢中所見．人受五欲樂有實住處不．須菩提白佛言．世尊．夢尙虛妄不可得．何況住夢中受五欲樂．於汝意云何．諸法若有漏若無漏．若有爲若無爲．頗有不如夢者不．世尊．諸法若有漏若無漏若有爲若無爲．無不如夢者．佛告須菩提．於汝意云何．夢中有五道生死往來不．世尊無也．於汝意云何．夢中有修道用是修道若著垢若得淨不．不也世尊．何以故．是夢法無有實事．不可說垢淨．於汝意云何．鏡中像有實事不．能起業因緣用是業因緣．墮地獄餓鬼畜生若人若天四天王天處乃至非有想非無想天處不．須菩提言．不也世尊．是像無有實事但誑小兒是事云何當有業因緣．用是業因緣當墮地獄乃至生非有想非無想處．於汝意云何．是鏡中像有修道用是修道若著垢若得淨不．須菩提言．不也世尊．何以故．是像空無實事．不可說垢淨．於汝意云何．如深淵中有響．是響

生上同有若字
業下同有因緣二字
揵同作乾下同○館同作觀次同
是上三本俱有用字
有下同有得字次同

有業因緣。用是業因緣。若墮地獄乃至生非有想非無想處不。須菩提言。不也世尊。是事空無有實音聲。云何當有業因緣用是業因緣。墮地獄乃至生非有想非無想處。於汝意云何。是響頗有修道用是修道若著垢若得淨不。不也世尊。是事無實不可說是垢是淨。於汝意云何。如焰非水水相非河河相。是焰頗有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無想處不。不也世尊。焰中水畢竟不可得。但誑無智人眼。云何當有業因緣。用是業墮地獄乃至生非有想非無想處。於汝意云何。是焰有修道。用是修道若著垢若得淨不。不也世尊。是焰無有實事不可說垢淨。於汝意云何。揵闥婆城如日出時無揵闥婆城。無智人無城有城想。無廬館有廬館想。無園有園想。是揵闥婆城頗有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無想處不。不也世尊是揵闥婆城畢竟不可得。但誑愚夫眼。云何當有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無相處。於汝意云何。如揵闥婆城有修道。用是修道若著垢若得淨不。不也世尊。是揵闥婆城無有實事不可說垢淨。須菩提。於汝意云何。幻師幻作種種物。若象若馬若牛若羊若男若女。於汝意云何。是幻有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無想處不。不也世尊。是幻法空無實事。云何當有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無想處。於汝意云何。是幻有修道。用是修道若著垢若得淨不。不也世尊。是法無有實事不可說垢淨。須菩提。於汝意云何。如佛所化人。是化人有業因緣。用是業因緣墮地獄乃至生非有想非無想處不。不也世尊。是化人無有實事。云何當有業因緣。用是業因緣。墮地獄乃至生非有想非無想處。於汝意云何。是化人有修道。用是修道若著垢若得淨不。不也世尊。是事無有實不可說垢淨。佛告須菩提。於汝意云何。於是空相中有垢者有淨者不。不也世尊。是中無所有。無有著垢者無有淨者。須菩提。如無有著垢者無有淨者。以是因緣故亦無垢淨。何以故。住我我所衆生有垢有淨。實見者不垢不淨。如實見者不垢不淨。如是亦無垢淨

摩訶般若波羅蜜經平等品第八十六

須菩提白佛言。世尊。見實者不垢不淨。見不實者亦不垢不淨。何以故。一切法性無所有故。世尊。無所有中無垢

所上同無有字
焰宋元俱作炎　○影三本俱作幻　○幻同作影　○檀下同無那字　○下同　○解脫同作背捨　○具上同有我當二字
尊下同無世尊二字
化上元明俱有如字
不能得三本俱作法不能
心同作意
智下同有知字
禪下同無那字
知明作如　○生同作法

無淨。有所有中亦無垢無淨。世尊。無所有中有所有中亦無垢無淨。世尊。云何如實語者不垢不淨。不實語者亦不垢不淨。佛告須菩提。是諸法平等相我說是淨。須菩提。何等是諸法平等。所謂如不異不誑法相法性法住法位實際。有佛無佛法性常住。是名淨。世諦故說非最第一義。最第一義過一切語言論議音聲。須菩提白佛言。世尊。若一切法空不可說。如夢如響如焰如影如幻如化。云何菩薩摩訶薩。用是如夢如響如焰如影如幻如化法。無有根本定實。云何能發阿耨多羅三藐三菩提心。作是願我當具足檀那波羅蜜乃至具足般若波羅蜜。我當具足神通波羅蜜。具足智波羅蜜。具足四禪四無量心四無色定四念處。乃至具足八聖道分。我當具足三解脫門八解脫九次第定。我當具足佛十力乃至具足十八不共法。我當具足三十二相八十隨形好。具足諸陀羅尼門諸三昧門。我當放大光明遍照十方。知諸衆生心如應說法。佛告須菩提。於汝意云何。汝所說諸法。如夢如響如焰如影如幻如化不。須菩提言爾。世尊。世尊若一切法如夢乃至如化。菩薩摩訶薩云何行般若波羅蜜。世尊。是夢乃至化虛妄不實。世尊。不應用不實虛妄法能具足檀那波羅蜜乃至十八不共法。佛告須菩提。如是如是。不實虛妄法。不能具足檀那波羅蜜乃至十八不共法。行是不實虛妄法。不能得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。是一切法皆是憶想思惟作法。用是思惟憶想作法。不能得一切種智。須菩提。是一切法能助道。不能得益果。所謂是諸法無生無出無相。菩薩從初發心已來所作善業。若檀那波羅蜜乃至一切種智。何以故。知諸法皆如夢乃至如化。如是等法不具足檀那波羅蜜乃至一切種智。不能得成就衆生淨佛國土得阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩摩訶薩所作善業。檀那波羅蜜乃至一切種智如夢乃至如化。亦知一切衆生如夢中行。乃至知如化中行。是菩薩摩訶薩不取般若波羅蜜是有法。用是不取故得一切種智。知是諸法如夢無所取。乃至諸法如化無所取。何以故。般若波羅蜜是不可取相。禪那波羅蜜乃至十八不共法是不可取相。是菩薩摩訶薩知一切法是不可取相已。發心求阿耨多羅三藐三菩提。何以故。一切法不可取相。無根本定實。如夢乃至如化。用不可取相法。不能得不可取相法。但以衆生不知不見如是諸法相。是菩薩摩訶薩爲是衆生故。求阿耨多羅三藐三菩提。是菩薩從初發意已來所有布施爲一切衆生故。乃至所有修智慧皆爲一切衆生不爲已身。菩薩摩訶薩不

住下三本俱有住字○想同作相

是上同無如字○有戲論同作戲論相○有下同無有字

等上三本俱有平字下同

世下同有間字

爲餘事故。求阿耨多羅三藐三菩提。但爲一切衆生故。是菩薩行般若波羅蜜時。見衆生無衆生。但衆生相中住。乃至無知者無見者。知見相中住。令衆生遠離顚倒。遠離已置甘露性中。住是中無有妄想。所謂衆生相乃至知者見者相。是時菩薩動心念心戲論心皆捨。常行不動心不念心不戲論心。須菩提。以是方便力故。菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時自無所著。亦教一切衆生令得無所著。世諦故非第一義。須菩提白佛言。世尊。世尊得阿耨多羅三藐三菩提時得諸佛法。以世諦故得。以第一義中得。佛言。以世諦故說佛得是法。是法中無有法可得。是人得是法。何以故。是人得是法是爲大有所得。用二法無道無果。須菩提白佛言。世尊。若行二法無道無果。行不二法有道有果不。佛言。行二法無道無果。行不二法亦無道無果。若無二法無不二法。卽是道卽是果。何以故。用如是法得道得果。用如是法不得道不得果。是爲戲論。諸平等法中無有戲論。無有戲論是諸法平等。須菩提白佛言。世尊。諸法無所有性。是中何等是平等。佛言。若無有有法無有無法。亦不說諸法平等相。除平等更無餘法。離一切法平等相。平等相者若凡夫若聖人。不能行不能到。須菩提白佛言。世尊。乃至佛亦不能行亦不能到。佛言。是諸法平等一切聖人。皆不能行亦不能到。所謂諸須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛。諸菩薩摩訶薩及諸佛。須菩提白佛言。世尊。佛者一切諸法中行力自在。云何說佛亦不能行亦不能到。佛告須菩提。若諸法平等與佛有異。應當如是問。須菩提。今諸凡夫人平等。諸須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛。諸菩薩摩訶薩諸佛。及聖法皆平等。是一平等無二。所謂是凡夫人是須陀洹乃至佛。是一切法等中皆不可得。須菩提白佛言。世尊。若諸法等中皆不可得。是凡夫人乃至是佛。世尊。凡夫人須陀洹乃至佛爲無有分別。佛告須菩提。如是如是。諸法平等中無有分別。是凡夫人是須陀洹乃至是佛。世尊。若無分別諸凡夫人須陀洹乃至佛。云何分別有三寶現於世佛寶法寶僧寶。佛言。於汝意云何。佛寶法寶僧寶與諸法等異不。須菩提白佛言。如我從佛所聞義。佛寶法寶僧寶與諸法等無異。世尊。是佛寶法寶僧寶卽是平等。是法皆不合不散。無色無形無對一相。所謂無相。佛有是力能分別無相諸法處所。是凡夫人是須陀洹是斯陀含是阿那含是阿羅漢是辟支佛。是菩薩摩訶薩是諸佛。佛告須菩提。如是如是。若諸佛得阿耨多羅三藐三菩提不分別諸法。當知是地獄是餓鬼是畜生是人是天。

梵上內上無上佛上並同有是字○天處天處元明俱作處天

相三本俱作性次同

相下同有異字

行上同有能字

一下三本俱無切字

是四天王天乃至是他化自在天．梵天．乃至是非有想非無想天處．是四念處乃至八聖道分．內空乃至無法有法空．佛十力乃至十八不共法不．須菩提言．不知也世尊．以是故．須菩提．當知佛有大恩力．於諸法等中不動而分別諸法．須菩提白佛言．世尊．如佛於諸法平等中不動．凡夫人亦於諸法平等中亦不動．須陀洹乃至辟支佛．亦於諸法平等中不動．世尊．若諸法等相卽是凡夫人相卽是須陀洹相．乃至諸佛卽是平等相．世尊．今諸法各各相．所謂色相異受想行識相異．眼相異耳鼻舌身意相異．地相異水火風空識相異．欲相異瞋癡相異．邪見相異禪相異．無量心相異無色定相異．四念處相異乃至八聖道分相異．檀那波羅蜜相異．乃至般若波羅蜜相異．三解脫門相異十八空相異．佛十力相異四無所畏相異．四無礙智相異十八不共法相異．有爲法相異無爲法相異．是凡夫人相異乃至佛相異．諸法各各相．云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．諸法異相中不作分別．若不作分別不能行般若波羅蜜．若不行般若波羅蜜不能從一地至一地．若不從一地至一地不能入菩薩位不能入菩薩位故不能過聲聞辟支佛地．不能過聲聞辟支佛地故不能具足神通波羅蜜．不具足神通波羅蜜故不能具足檀那波羅蜜．乃至不能具足般若波羅蜜．從一佛國至一佛國供養諸佛．於諸佛所種善根．用是善根能成就衆生淨佛國土．佛告須菩提．如汝所問．是諸法相亦是凡夫人亦是須陀洹乃至佛．世尊．是諸法各各相．所謂色相異乃至有爲無爲法相異．云何菩薩摩訶薩觀一切相不作分別．須菩提．於汝意云何．是色相空不．乃至諸佛相空不．世尊實空．須菩提．空中各各相法可得不．所謂色相乃至諸佛相．須菩提言．不可得．佛言．以是因緣故．當知諸法平等中．非凡夫人亦不離凡夫人．乃至非佛亦不離佛．須菩提白佛言．世尊．是平等爲是有爲法爲是無爲法．佛言．非有爲法非無爲法．何以故．離有爲法無爲法不可得．離無爲法有爲法不可得．須菩提．是有爲性無爲性．是二法不合不散．無色無形無對一相．所謂無相．佛亦以世諦故說非以第一義．何以故．第一義中無身行無口行無意行．亦不離身口意行得第一義．是諸有爲法無爲法平等相卽是第一義．菩薩摩訶薩行般若波羅蜜時．第一義中不動．而行菩薩事饒益衆生

摩訶般若波羅蜜經如化品第八十七

須菩提白佛言。世尊。若諸法平等無可爲作。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。於平等法中不動而行菩薩事。以布施愛語利益同事。佛告須菩提。如是如是。如汝所言。是諸法平等無所作。若是衆生自知諸法平等。佛不用神力於諸法平等中不動而拔出衆生。吾我想以空。度五道生死乃至知者見者相。度色相乃至識相眼相乃至意相。地種相乃至識種相。遠離有爲性相令得無爲性相。無爲性相即是空。須菩提言。世尊。用何等空故一切法空。佛言。菩薩遠離一切法相。用是空故一切法空。須菩提。於汝意云何。若有化人作化人。是化頗有實事不空者不。須菩提言。不也世尊。是化人無有實事而不空。是空及化人二事不合不散。以空故空不應分別是空是化。何以故。是二事等空中不可得。所謂是空是化。何以故。須菩提。色即是化。受想行識即是化。乃至一切種智即是化。須菩提白佛言。世尊。世間法是化出世間法亦復是化不。所謂四念處四正勤四如意足五根五力七覺分八聖道分三解脫門佛十力四無所畏四無礙智十八不共法。幷諸法果及賢聖人。所謂須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛。菩薩摩訶薩諸佛。世尊。是法亦是化不。佛告須菩提。一切法皆是化。於是法中有聲聞法變化。有辟支佛法變化。有菩薩摩訶薩法變化。有諸佛法變化。有煩惱法變化。有業因緣法變化。以是因緣故。須菩提。一切法皆是變化。須菩提白佛言。世尊。是諸煩惱斷。所謂須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果辟支佛道。斷諸煩惱習斷皆是變化不。佛告須菩提。若有法生滅相者皆是變化。須菩提言。世尊。何等法非變化。佛言。若法無生無滅是非變化。須菩提言。何等是不生不滅非變化。佛言。無誑相涅槃是法非變化。世尊。如佛自說諸法平等。非聲聞作非辟支佛作。非諸菩薩摩訶薩作非諸佛作。有佛無佛諸法性常空。性空即是涅槃。云何言涅槃一法非如化。佛告須菩提。如是如是。諸法平等非聲聞所作。乃至性空即是涅槃。若新發意菩薩聞是一切法畢竟性空。乃至涅槃亦皆如化心則驚怖。爲是新發意菩薩故。分別生滅者如化不生不滅者不如化。須菩提白佛言。世尊。云何教新發意菩薩令知性空。佛告須菩提。諸法本有今無耶

可元明俱作所
想三本俱作相
空下同有空字
何以故元明俱作所以者何
世上三本俱有若字
佛下同有佛字
斷元作多明無
法下三本俱有皆字

摩訶般若波羅蜜經卷第二十六

經題二十七同作三十
品目常啼同作薩陀波崙四字
應上同有當字
內下同無莫念二字
法下元無中字○有上三本俱無中字○言上同有聲字
國下三本俱無土字

摩訶般若波羅蜜經卷第二十七

(麗海)(宋鹹)(元鹹)(明鹹)

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

常啼品第八十八

佛告須菩提.菩薩摩訶薩求般若波羅蜜.應如薩陀波崙菩薩摩訶薩.是菩薩今在大雷音佛所行菩薩道.須菩提白佛言.世尊.薩陀波崙菩薩摩訶薩.云何求般若波羅蜜.佛言.薩陀波崙菩薩摩訶薩.本求般若波羅蜜時.不惜身命不求名利.於空閑林中聞空中聲言.汝善男子.從是東行莫念疲極莫念睡眠.莫念飲食莫念晝夜.莫念寒熱莫念內莫念外.善男子.行時莫觀左右.汝行時莫壞身相.莫壞色相莫壞受想行識相.何以故.若壞是諸相於佛法中則爲有礙.若於佛法中有礙.便往來五道生死中.亦不能得般若波羅蜜.爾時薩陀波崙菩薩報空中言.我當從教.何以故.我欲爲一切衆生作大明.欲集一切諸佛法.欲得阿耨多羅三藐三菩提故.薩陀波崙菩薩復聞空中聲言.善哉善哉.善男子.汝於空無相無作之法應生信心.以離相心求般若波羅蜜.離我相乃至離知者見者相.當遠離惡知識.當親近供養善知識.何等是善知識.能說空無相無作無生無滅法及一切種智.令人心入歡喜信樂.是爲善知識.善男子.汝若如是行不久當聞般若波羅蜜.若從經卷中聞.若從菩薩所說聞.善男子.汝所從聞是般若波羅蜜處應生心如佛想.善男子.汝當知恩應作是念.所從聞是般若波羅蜜者.即是我善知識.我用聞是法故疾得不退轉於阿耨多羅三藐三菩提.親近諸佛常生有佛國土中.遠離衆難得具足無難處.善男子.當思惟籌量是功德.於所從聞法處生心如佛想.汝善男子.莫以世利心故隨逐法師.但爲愛法恭敬法故.隨逐說法菩薩.爾時當覺知魔事.若惡魔與說法菩薩作五欲因緣.假爲法故令受.若說法菩薩入實法明.以功德力故受而無所染.又以三事故受是五欲.以方便力故.欲令衆生種善根故.欲與衆生同其事故受.汝於是中莫生汙心當起淨想.自念我未得漚和拘舍羅.大師以方便法.爲度衆生令獲福德故受是諸欲.於菩薩智

慧。無著無礙不爲欲染。善男子。卽當觀諸法實相。何等諸法實相。所謂一切法不垢不淨。何以故。一切法自性空無衆生無人無我。一切法如幻如夢如響如影如焰如化。善男子。觀是諸法實相已當隨法師。汝不久當成就般若波羅蜜。復次善男子。汝當復覺知魔事。若說法菩薩見欲受般若波羅蜜人。意不存念。汝不應起心怨恨。汝但當以法故生恭敬心。莫起厭懈意。常應隨逐法師。爾時薩陀波崙菩薩。受是空中教已從是東行。不久復作是念。我云何不問空中聲。我當何處去。去當遠近。當從誰聞般若波羅蜜。是時卽住啼哭憂愁作是念。我住是中過一日一夜。若二三四五六七日七夜。於此中住不念疲極。乃至不念饑渴寒熱。不聞聽受般若波羅蜜因緣終不起也。須菩提。譬如人有一子卒死憂愁苦毒。唯懷忯惱不生餘念。如是須菩提。薩陀波崙菩薩爾時無有異心。但念我何時當聞般若波羅蜜。我云何不問空中聲。我應何處去。去當遠近。當從誰聞般若波羅蜜。須菩提。薩陀波崙菩薩如是愁念時。空中有佛語薩陀波崙菩薩言。善哉善哉。善男子過去諸佛行菩薩道時。求般若波羅蜜亦如汝今日。善男子。汝以是勤精進愛樂法故。從是東行。去此五百由旬。有城名衆香。其城七重七寶莊嚴。臺觀欄楯皆以七寶挍飾。七寶之塹七寶行樹周帀七重。其城縱廣十二由旬。豐樂安靜人民熾盛。五百市里街巷相當。端嚴如畫橋津如地寬博淸淨。七重城上皆有七寶樓櫓。寶樹行列以黃金白銀硨磲碼碯珊瑚琉璃頗梨紅色眞珠。以爲枝葉。寶繩連綿金爲鈴網以覆城上。風吹鈴聲其音和雅。譬如巧作五樂甚可喜樂。金網寶鈴其音如是以樂衆生。其城四邊流池淸淨冷暖調適。中有諸船七寶嚴飾。是諸衆生宿業所致。乘此寶船娛樂遊戲。諸池水中種種蓮華靑黃赤白。衆雜好華遍覆水上。是三千大千國土。所有衆華皆在其中。其城四邊有五百園觀。七寶莊嚴甚可愛樂。一一園中各有五百池水。池水各各縱廣十里。皆以七寶挍成雜色莊嚴。諸池水中亦有靑黃赤白蓮華彌覆水上。是諸蓮華大如車輪。靑色靑光黃色黃光。赤色赤光白色白光。諸池水中鳧鴈鴛鴦。異類衆鳥音聲相和。是諸園觀適無所屬。是諸衆生宿業果報。長夜信樂深法行般若波羅蜜因緣故受是果報。善男子。是衆香城中有大高臺。曇無竭菩薩摩訶薩宮舍在上。其宮縱廣一由旬。皆以七寶挍成。雜色莊嚴甚可喜樂。垣墻七重皆亦七寶。七寶欄楯七寶樓閣。寶塹七重皆以七寶周匝。深塹七寶累成。七重行樹七寶枝葉七重圍遶。其

相下元明俱無何等二字○相下同有者字

忯三本俱作愰當下同有得字

琉明作瑠下同○頗梨同作玻瓈下同○雅下元明俱有娛樂衆生四字○是下元無以樂衆生其五字○國土三本俱作世界○池水池水各各元明俱作池池各三字○果報三本俱作所致

惟越同作鞞跋

種功德同作功德水

中同作內

當下同有得字

男子明作知識

宮舍中有四種娛樂園。一名常喜。二名離憂。三名華飾。四名香飾。一一園中各有八池。一名賢。二名賢上。三名歡喜。四名喜上。五名安隱。六名多安隱。七名遠離。八名阿惟越致。諸池四邊面各一寶。黃金白銀琉璃頗梨。玫瑰爲池底。其上布金沙。一一池側有八梯陛。種種妙寶以爲嚴飾。諸梯陛間有閻浮檀金芭蕉行樹。一切池中種種蓮華。靑黃赤白彌覆水上。諸池四邊生好華樹。風吹諸華墮池水中。其池成就八種功德。香若栴檀。色味具足。輕且柔軟。曇無竭菩薩與六萬八千婇女。五欲具足共相娛樂。及城中男女俱入常喜等園賢等池中。五欲具足共相娛樂。善男子。曇無竭菩薩與諸婇女遊戲娛樂已。日三時說般若波羅蜜。衆香城中男女大小。於其城中多聚人處。敷大法座。其座四足或以黃金。或以白銀。或以琉璃。或以頗梨。敷以綩綖雜色茵蓐。垂諸幃帶。以妙白氎而覆其上。散以種種雜妙華香。座高五里。張白珠帳。其地四邊散五色華。燒衆名香。澤香塗地。供養恭敬般若波羅蜜故。曇無竭菩薩。於此座上說般若波羅蜜。彼諸人衆如是恭敬供養曇無竭。爲聞般若波羅蜜故。於是大會百千萬衆諸天世人一處和集。中有聽者。中有受者。中有持者。中有誦者。中有書者。中有正觀者。中有如說行者。是時衆生以是因緣故。皆不墮惡道。不退轉於阿耨多羅三藐三菩提。汝善男子。往詣曇無竭菩薩所。當聞般若波羅蜜。善男子。曇無竭菩薩。世世是汝善知識。能教汝阿耨多羅三藐三菩提示教利喜。是曇無竭菩薩。本求般若波羅蜜時亦如汝今。汝去莫計晝夜莫生障礙心。汝不久當聞般若波羅蜜。爾時薩陀波崙菩薩摩訶薩歡喜心悅作是念。我當何時得見是善男子得聞般若波羅蜜。須菩提。譬如有人爲毒箭所中更無餘念。唯念何時當得良醫。拔出毒箭除我此苦。如是須菩提。薩陀波崙菩薩摩訶薩更無餘念。但作是願。我何時當得見曇無竭菩薩令我得聞般若波羅蜜。我聞是般若波羅蜜斷諸有心。是時薩陀波崙菩薩於是處住。念曇無竭菩薩一切法中得無礙智見。卽得無量三昧門現在前。所謂諸法性觀三昧。諸法性不可得三昧。破諸法無明三昧。諸法不異三昧。諸法不壞自在三昧。諸法能照明三昧。諸法離闇三昧。諸法無異相續三昧。諸法不可得三昧。散華三昧。諸法無我三昧。如幻威勢三昧。得如鏡像三昧。得一切衆生語言三昧。一切衆生歡喜三昧。入分別音聲三昧。得種種語言字句莊嚴三昧。無畏三昧。性常默然三昧。得無礙解脫三昧。離塵垢三昧。名字語句莊嚴三昧。見諸法三昧。諸

惟三本俱作維
丈同作大
二下三下同有劫字
已宋作以○諸上三本俱無得字

法無礙頂三昧.如虛空三昧.如金剛三昧.不畏著色三昧.得勝三昧.轉眼三昧.畢法性三昧.能與安隱三昧.師子吼三昧.勝一切衆生三昧.華莊嚴三昧.斷疑三昧.隨一切堅固三昧.出諸法得神通力無畏三昧.能達諸法三昧.諸法財印三昧.諸法無分別見三昧.離諸見三昧.離一切闇三昧.離一切相三昧.解脫一切著三昧.除一切懈怠三昧.得深法明三昧.不可奪三昧.破魔三昧.不著三界三昧.起光明三昧.見諸佛三昧.如是薩陀波崙菩薩住是諸三昧中.卽見十方無量阿僧祇諸佛.爲諸菩薩摩訶薩說般若波羅蜜.是時十方諸佛安慰薩陀波崙菩薩言.善哉善哉.善男子.我等本行菩薩道時.求般若波羅蜜得是諸三昧.亦如汝今所得.我等得是諸三昧善入般若波羅蜜.成就方便力住阿惟越致地.我等觀是諸三昧性.不見有法出三昧入三昧者.亦不見行佛道者.亦不見得阿耨多羅三藐三菩提者.善男子.是名般若波羅蜜.所謂不念有是諸法.善男子.我等於無所念法中住.得是金色身丈光明.三十二相八十隨形好.不可思議智慧.無上戒無上三昧佛無上智慧.一切功德皆悉具足.一切功德具足故.佛尚不能取相說盡.何況聲聞辟支佛及諸餘人.以是故.善男子.於是佛法中倍應恭敬愛念生淸淨心.於善知識中應生如佛想.何以故.爲善知識守護故.菩薩疾得阿耨多羅三藐三菩提.是時薩陀波崙菩薩白十方諸佛言.何等是我善知識.所應親近供養者.十方諸佛告薩陀波崙菩薩言.汝善男子.曇無竭菩薩世世敎化.成就汝阿耨多羅三藐三菩提.曇無竭菩薩守護汝.敎汝般若波羅蜜方便力.是汝善知識.汝供養曇無竭菩薩.若一劫若二若三乃至過百劫頂戴恭敬.以一切樂具三千世界中所有妙色聲香味觸.盡以供養未能報須臾之恩.何以故.曇無竭菩薩摩訶薩因緣故.令汝得如是等諸三昧.得般若波羅蜜方便力.諸佛如是敎化安慰薩陀波崙菩薩.令歡喜已忽然不現.是時薩陀波崙菩薩.從三昧起不復見佛.作是念.是諸佛從何所來去至何所.不見諸佛故復惆悵不樂.誰斷我疑.復作是念.曇無竭菩薩久遠已來.常行般若波羅蜜.得方便力及得諸陀羅尼.於菩薩法中得自在.多供養過去諸佛.世世爲我師常利益我.我當問曇無竭菩薩.諸佛從何所來去至何處.爾時薩陀波崙菩薩於曇無竭菩薩.生恭敬愛樂尊重心作是念.我當以何供養曇無竭菩薩.今我貧窮無華香瓔珞燒香澤香衣服幡蓋金銀眞珠琉璃頗梨珊瑚琥珀.無有如是等物可以供養般若波羅蜜及說法師

賣下元無之字
蔽下三本俱有以其宿因緣故六字
財寶物自欲同作有財寶欲自〇祀同作祠下同〇髓血同作血髓次同
何上同無以字

曇無竭菩薩。我法不應空往曇無竭菩薩所。我若空往喜悅心不生。我當賣身得財爲般若波羅蜜故。供養法師曇無竭菩薩。何以故。我世世喪身無數。無始生死中或死或賣。或爲欲因緣故。世世在地獄中受無量苦惱。未曾爲清淨法故爲供養說法師故喪身。是時薩陀波崙菩薩。中道入一大城至市肆上。高聲唱言。誰欲須人。誰欲須人。誰欲買人。爾時惡魔作是念。是薩陀波崙愛法故欲自賣身。爲般若波羅蜜故供養曇無竭菩薩。當得正問般若波羅蜜及方便力。云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜。疾得阿耨多羅三藐三菩提。當得多聞具足。如大海水。是時不可沮壞。得具足一切功德饒益諸菩薩摩訶薩。爲阿耨多羅三藐三菩提故過我境界。亦教餘人出我境界得阿耨多羅三藐三菩提。我今當壞其事。爾時惡魔隱蔽諸婆羅門居士。令不聞其自賣之聲。除一長者女魔不能蔽。爾時薩陀波崙。賣身不售憂愁啼哭在一面立。涕泣而言。我爲大罪。賣身不售。我自賣身爲般若波羅蜜故。供養曇無竭菩薩。爾時釋提桓因作是念。是薩陀波崙菩薩愛法自賣其身。爲般若波羅蜜故欲供養曇無竭菩薩。我當試之知是善男子。實以深心愛法故捨是身不。是時釋提桓因化作婆羅門身。在薩陀波崙菩薩邊。行問言。汝善男子。何以憂愁啼哭顏色憔悴在一面立。答言。婆羅門。我愛敬法自賣身。爲般若波羅蜜故欲供養曇無竭菩薩。今我賣身無有買者。自念薄福無財寶物。自欲賣身供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩而無買者。爾時婆羅門語薩陀波崙菩薩言。善男子。我不須人。我今欲祀天。當須人心人血人髓。汝能賣與我不。爾時薩陀波崙菩薩作是念。我得大利得第一利。我今便爲具足般若波羅蜜方便力。得是買心髓血者。是時心大歡喜悅樂無憂。以柔和心語婆羅門言。汝所須者我盡與汝。婆羅門言。善男子。汝須何價。答言。隨汝意與我。即時薩陀波崙。右手執利刀刺左臂出血。割右髀肉復欲破骨出髓。時有一長者女。在閣上遙見薩陀波崙菩薩自割身體不惜壽命。作是念。是善男子。以何因緣故困苦其身。我當往問。長者女即下閣。到薩陀波崙所問言。善男子。何因緣困苦其身。用是心血髓作何等。薩陀波崙答言。賣與婆羅門。爲般若波羅蜜故供養曇無竭菩薩。長者女言。善男子。作是賣身欲自出心髓血。欲供養曇無竭菩薩得何等功德利。薩陀波崙答言。善女人。是人善學般若波羅蜜及方便力。是人當爲我說菩薩所應作菩薩所行道。我學是法學是道。得阿耨多羅三藐三菩提時。爲衆生作依止。當得

無礙一切三本俱作一切無礙次同
琉同作瑠
殖同作植下同
琉明作瑠下同

金色身三十二相八十隨形好丈光無量明。大慈大悲大喜大捨四無所畏。佛十力四無礙智十八不共法六神通。不可思議清淨戒禪定智慧。得阿耨多羅三藐三菩提。於諸法中得無礙一切智見。以無上法寶分布與一切衆生。如是等諸功德利我當從彼得之。是時長者女聞是上妙佛法。大歡喜心驚毛竪。語薩陀波崙菩薩言。善男子。甚希有。汝所說者微妙難値。爲是一一功德法故。應捨如恒河沙等身。何以故。汝所說者甚大微妙。汝善男子。汝今所須盡當相與。金銀眞珠琉璃頗梨琥珀珊瑚等諸珍寶物。及華香瓔珞塗香燒香幡蓋衣服伎樂等物供養之具。供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩。汝善男子。莫自困苦其身。我亦欲往曇無竭菩薩所。共汝殖諸善根。爲得如是微妙法如汝所說故。爾時釋提桓因卽復本身。讚薩陀波崙菩薩言。善哉善哉。善男子。汝堅受是事。其心不動。諸過去佛行菩薩道時。亦如是求般若波羅蜜及方便力。得阿耨多羅三藐三菩提。善男子。我實不用人心血髓。但來相試。汝願何等我當相與。薩陀波崙言。與我阿耨多羅三藐三菩提。釋提桓因言。此非我力所辦。是諸佛境界。必相供養更索餘願。薩陀波崙言。汝若於此無力必見供養。令我是身平復如故。是時薩陀波崙。身卽平復無有瘡瘢如本不異。釋提桓因與其願已忽然不現。爾時長者女語薩陀波崙菩薩言。善男子。來到我舍。有所須者。從我父母索之盡當相與。我亦當辭我父母。與諸侍從共汝往供養曇無竭菩薩。爲求法故。卽時薩陀波崙菩薩與長者女。俱到其舍在門外住。長者女入白父母。與我衆妙華香及諸瓔珞塗香燒香幡蓋衣服金銀琉璃頗梨眞珠琥珀珊瑚。及諸伎樂供養之具。亦聽我身及五百侍女先所給使。共薩陀波崙菩薩到曇無竭菩薩所。爲供養般若波羅蜜故。曇無竭菩薩當爲我等說法。我當如說行當得諸佛法。女父母語女言。薩陀波崙菩薩是何等人。女言。是人今在門外。是善男子。以深心求阿耨多羅三藐三菩提。欲度一切衆生無量生死苦。是善男子。爲法故自賣其身供養般若波羅蜜。般若波羅蜜名菩薩所學道。爲供養般若波羅蜜及供養曇無竭菩薩故。在市肆上高聲唱言。誰欲須人。誰欲須人。誰欲買人。賣身不售。在一面立憂愁啼哭。是時釋提桓因化作婆羅門。來欲試之。問言。善男子。何以憂愁啼哭在一面立。答言。婆羅門。我欲賣身爲供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩摩訶薩故。而我薄福賣身不售。婆羅門語是善男子。我不須人。我欲祀天。當用人心人血人髓。汝能賣不。是時是善男

汝上元明俱無如字

法下三本俱無故字

最大宋作最大甚大四字元明俱作大願○爲下三本俱有是字○今同作命○不上元明俱無而字○求上三本俱有勤字○琉同作瑠次同

諸同作得○佛下元明俱有法字○裝飾三本俱作莊嚴

子。不復憂愁其心和悅語是婆羅門。如汝之所須我盡相與。婆羅門言。汝須何價。答言。隨汝意與我。即時是善男子。右手執利刀刺左臂出血。割右髀肉復欲破骨出髓。我在閣上遙見是事。我爾時作是念。是人何故困苦其身。我當往問。我即下閣往問。善男子。汝何因緣故自困苦其身。是善男子。答我言。姊我爲法故欲供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩說法者。我貧窮無所有。無金銀琉璃硨磲碼碯珊瑚琥珀頗梨眞珠華香伎樂。姊我爲供養法故自賣其身。今得買者須人心人血人髓。我用是價供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩說法者。我問是善男子。汝今自出身心血髓。欲供養曇無竭菩薩得何功德。是善男子言。曇無竭菩薩當爲我說般若波羅蜜及方便力。此是菩薩所應學。菩薩所應作。菩薩所應行道。我當學是道得阿耨多羅三藐三菩提。爲一切衆生作依止。我當得金色身三十二相八十隨形好丈光無量明。大慈大悲大喜大捨四無所畏四無礙智佛十力十八不共法六神通。不可思議清淨戒禪定智慧。得阿耨多羅三藐三菩提。於諸法中得無礙一切智見。以無上法寶分布與一切衆生。如是等微妙大法。我當從彼得之。我聞是微妙不可思議法諸佛功德。聞其大願。我心歡喜作是念。是淸淨微妙最大甚希有。乃如是爲一一法故應捨如恒河沙等身。今善男子。爲法能受苦行難事。所謂不惜身命。我多有妙寶。云何而不生願求如是法。供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩。我如是思惟已。語薩陀波崙菩薩。汝善男子。莫困苦其身。我當白我父母。多與汝金銀琉璃硨磲碼碯珊瑚琥珀頗梨眞珠華香瓔珞塗香末香衣服幡蓋及諸伎樂。供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩說法者。我亦求父母與諸侍女共汝俱去供養曇無竭。菩薩說法者。共汝殖諸善根爲得如是等微妙清淨法。如汝所說。父母今聽我幷五百侍女先所給者。亦聽我持衆妙華香瓔珞塗香末香衣服幡蓋伎樂金銀琉璃供養之具。與薩陀波崙菩薩共去。供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩說法者。爲得如是等清淨微妙諸佛法故。爾時父母報女言。汝所讚者希有難及說。是善男子。爲法精進大樂法相。及是諸佛法不可思議。一切世間最爲第一。一切衆生歡樂因緣。是善男子。爲是法故大誓莊嚴。我等聽汝。往見曇無竭菩薩親近供養。汝發大心爲諸佛故如是精進。我等云何當不隨喜。是女爲供養曇無竭菩薩故。得蒙聽許。報父母言。我等亦隨是心歡喜我終不斷人善法因緣。是時長者女。莊嚴七寶車五百乘身及侍女。種種寶物裝飾供

儀三本倶作義

因下同有言字

到同作向

養之具.持種種水陸生華及金銀寶華衆色寶衣好香擣香澤香瓔珞及衆味飲食.共薩陀波崙菩薩五百侍女各載一車.恭敬圍遶漸漸東去.見衆香城七寶莊嚴.七重圍遶七寶之塹.七寶行樹皆亦七重.其城縱廣十二由旬.豐樂安靜甚可喜樂.人民熾盛五百市里街巷相當.端嚴如畫橋津如地寬博淸淨.遙見衆香城既入城中.見曇無竭菩薩坐高臺法座上.無量百千萬億衆恭敬圍遶說法.薩陀波崙菩薩見曇無竭菩薩時.心卽歡喜譬如比丘入第三禪攝心安隱.見已作是念.我等儀不應載車趣曇無竭菩薩.作是念已下車步進.長者女幷五百侍女皆亦下車.薩陀波崙菩薩與長者女及五百侍女.衆寶莊嚴圍遶恭敬倶到曇無竭菩薩所.爾時曇無竭菩薩摩訶薩.有七寶臺赤牛頭栴檀以爲莊嚴.眞珠羅網以覆臺上.四角皆懸摩尼珠寶以爲燈明.及四寶香爐常燒名香.爲供養般若波羅蜜故.其臺中有七寶大牀.四寶小牀重敷其上.以黃金牒書般若波羅蜜置小牀上.種種幡蓋莊嚴垂覆其上.薩陀波崙菩薩及諸女人.見是妙臺衆寶嚴飾.及見釋提桓因與無量百千萬諸天.以天曼陀羅華碎末栴檀磨衆華屑以散臺上.鼓天伎樂於虛空中娛樂此臺.爾時薩陀波崙菩薩問釋提桓因.憍尸迦.何因緣故與無量百千萬諸天.以天曼陀羅華碎末栴檀磨衆寶屑以散臺上.鼓天伎樂於虛空中娛樂此臺.釋提桓因答言.汝善男子不知耶.此是摩訶般若波羅蜜.是諸菩薩摩訶薩母.能生諸佛攝持菩薩.菩薩學是般若波羅蜜成就一切諸功德.得諸佛法一切種智.是時薩陀波崙卽歡喜悅樂.問釋提桓因言.憍尸迦.是般若波羅蜜諸菩薩摩訶薩母.能生諸佛攝持菩薩.菩薩學是般若波羅蜜成就一切功德.得諸佛法一切種智.今在何處.釋提桓因言.善男子.是臺中有七寶大牀.四寶小牀重敷其上.以黃金牒書般若波羅蜜置小牀上.曇無竭菩薩以七寶印印之.我等不能得開以示汝.是時薩陀波崙與長者女及五百侍女.取供養具華香瓔珞幡蓋.分作二分.一分供養般若波羅蜜.一分供養法座上曇無竭菩薩.爾時薩陀波崙菩薩與五百女人.持華香瓔珞幡蓋伎樂及諸珍寶供養般若波羅蜜已.然後到曇無竭菩薩所.到已是曇無竭菩薩在法座上坐.以諸華香瓔珞擣香澤香金銀寶華幡蓋寶衣.散曇無竭菩薩上.爲法故供養.是時諸華香寶衣於曇無竭菩薩上.虛空中化成華臺.碎末栴檀寶屑金銀寶華化成寶帳.寶帳之上所散種種寶衣化爲寶蓋.寶蓋四邊垂諸寶幡.薩陀波崙及諸女

人。見曇無竭菩薩所作變化。大歡喜作是念。未曾有也。曇無竭大師神德乃爾。行菩薩道時神通力尙能如是。何況得阿耨多羅三藐三菩提時。是時長者女及五百女人。清淨信心敬重曇無竭菩薩。皆發阿耨多羅三藐三菩提心。作是願言。如曇無竭菩薩得菩薩諸深法。如曇無竭菩薩供養般若波羅蜜。如曇無竭菩薩於大衆中演說顯示般若波羅蜜義。如曇無竭菩薩得般若波羅蜜方便力成就神通於菩薩事中得自在。我等亦當如是。是時薩陀波崙菩薩及五百女人。香華寶物供養般若波羅蜜及曇無竭菩薩已。頭面禮曇無竭菩薩合掌恭敬一面立。一面立已白曇無竭菩薩言。我本求般若波羅蜜時。於空閑林中聞空中聲言。善男子。汝從是東行當得聞般若波羅蜜。我受是語東行。東行不久作是念。我何不問空中聲。我當何處去去是遠近。當從誰聞。我是時大憂愁啼哭。於是處住七日七夜。憂愁故乃至不念飮食。但念我何時當得聞般若波羅蜜。我如是憂愁一心念般若波羅蜜。見佛身在虛空中語我言。善男子。汝大欲大精進心莫放捨。以是大欲大精進心。從是東行去是五百由旬。有城名衆香。是中有菩薩摩訶薩名曇無竭。從是人所當得聞般若波羅蜜。是曇無竭菩薩世世是汝善知識常守護汝。我從佛受教誨已。便東行更無餘念。但念我何時當見曇無竭菩薩爲我說般若波羅蜜。我爾時中道住。於一切法中得無礙智見。得觀諸法性等諸三昧現在前。住是三昧已見十方無量阿僧祇諸佛說是般若波羅蜜。諸佛讚我言。善哉善哉。善男子。我本求般若波羅蜜時得諸三昧亦如汝今日。得是諸三昧已遍得諸佛法。諸佛爲我廣說法。安慰我已忽然不現。我從三昧起作是念。諸佛從何處來去至何所。我不見諸佛故大愁憂。復作是念。曇無竭菩薩供養先佛殖善根。久行般若波羅蜜善知方便力。於菩薩道中得自在。是我善知識守護我。我當問曇無竭菩薩是事。諸佛從何所來去至何所。我今問大師。是諸佛從何處來去至何處。大師爲我說諸佛所從來所至處令我得知。知已亦常不離見諸佛

摩訶般若波羅蜜經法尙品第八十九 丹本曇無竭品

爾時曇無竭菩薩摩訶薩語薩陀波崙菩薩言。善男子。諸佛無所從來去亦無所至。何以故。諸法如不動相。諸法

見下同有是字
香華三本俱作華香
是同作此
昧下同有門字
善上同有衆字 ○善知明作及以
所至同作去之
品目法尙三本俱作曇無竭

如卽是佛。善男子。無生法無來無去。無生法卽是佛。無滅法無來無去。無滅法卽是佛。實際法無來無去。實際法卽是佛。空無來無去。空卽是佛。善男子。無染無來無去。無染卽是佛。寂滅無來無去。寂滅卽是佛。虛空性無來無去。虛空性卽是佛。善男子。離是諸法更無佛。諸佛如諸法如。一如無分別。善男子。是如常一無二無三。出諸數法無所有故。譬如春末月日中熱時。有人見焰動逐之求水望得。於汝意云何。是水從何池何山何泉來。今何所去。若入東海西海南海北海耶。薩陀波崙言。大師。焰中尚無水。云何當有來處去處。曇無竭菩薩語薩陀波崙菩薩言。善男子。愚夫無智爲熱渴所逼。見焰動無水生水想。善男子。若有人分別諸佛有來有去。當知是人皆是愚夫。何以故。善男子。諸佛不可以色身見。諸佛法身無來無去。諸佛來處去處亦如是。善男子。譬如幻師幻作種種若象若馬若牛若羊若男若女。如是等種種諸物。於汝意云何。是幻事從何處來去至何所。薩陀波崙菩薩言。大師幻事無實。云何當有|來去處。善男子。是人分別佛有來有去亦如是。善男子。譬如夢中見若象若馬若牛若羊若男若女。於汝意云何。夢中所見有來處有去處不。薩陀波崙言。大師。是夢中所見虛妄云何當有來去。善男子。|是人分別佛有來有去亦如是。善男子。佛說諸法如夢。若有衆生不|知諸法如夢。以名字色身是佛。是人分別諸佛有來有去。不知諸法|實相故。皆是愚夫無智之數。是諸人數數往來五道。遠離般若波羅蜜。遠離諸佛法。善男子。佛說諸法如幻如夢。若有衆生如實知。是人不分別諸法若來若去若生若滅。若不分別諸法若來若去若生若滅。則能知佛所說諸法實相。是人行般若波羅蜜近阿耨多羅三藐三菩提。名爲眞佛弟子。不虛妄食人信施。是人應受供養爲世間福田。善男子。譬如大海水中諸寶。不從東方來。不從南方西方北方四維上下來。衆生善根因緣故海生此寶。此寶亦不無因|無緣而生。是寶皆從因緣和合生。是寶若滅亦不去至十方。諸緣合故有。諸緣離故滅。善男子。諸佛身亦如是。從本業因緣果報生。生時不從十方來。滅時亦不去至十方。但諸緣合故有。諸緣離故滅。善男子。譬如箜篌聲。出時無來處滅時無去處。衆緣和合故生。有槽有頸有皮有弦有柱有棍。有人以手鼓之。衆緣和合而有是聲。是聲亦不從槽出。不從頸出。不從皮出。不從弦出。不從棍出。亦不從人手出。衆緣和合爾乃有聲。是因緣離時亦無去處。善男子。諸佛身亦如是。從無量功德因緣生。不從一因一緣一功德生。亦不無

來下三本俱有處字
是同作若
諸法如夢元明俱作是法義三字〇實下三本俱有際字
因下同無無字

便爲同作使一字

誠上三本俱有至字次同

薩下同無與長者女四字

得上同有能字

長上同有及字

昧下同有中字

因緣有。衆緣和合故有諸佛身不獨從一事成來無所從去無所至。善男子。應當如是知諸佛來相去相。善男子。亦當知一切法無來去相。汝若知諸佛及諸法無來無去無生無滅相。必得阿耨多羅三藐三菩提。亦能行般若波羅蜜及方便力。爾時釋提桓因。以天曼陀羅華與薩陀波崙菩薩摩訶薩作是言。善男子。以是華供養曇無竭菩薩摩訶薩。我應當守護供養汝。所以者何。汝因緣力故。今日饒益百千萬億衆生。便爲得阿耨多羅三藐三菩提。善男子。如是善人甚爲難遇。爲饒益一切衆生故。無量阿僧祇劫受諸勤苦。薩陀波崙菩薩摩訶薩受釋提桓因曼陀羅華。散曇無竭菩薩上白言。大師。我從今日以身屬師供給供養。如是白已合掌師前立。是時長者女及五百侍女。白薩陀波崙菩薩言。我等從今日亦以身屬師。我等以是善根因緣故。當得如是法。亦如師所得。共師世世供養諸佛。世世常供養師。是時薩陀波崙菩薩。語長者女及五百女人。若汝等以誠心屬我者我當受汝。諸女言。我等以誠心屬師當隨師教。是時薩陀波崙菩薩與長者女及五百女人。幷諸莊飾寶物上妙供具及五百乘七寶車。奉上曇無竭菩薩白言。大師。我持是五百女人奉給大師。是五百乘車隨師所用。爾時釋提桓因讚薩陀波崙菩薩言。善哉善哉。善男子。菩薩摩訶薩捨一切所有應如是。如是布施疾得阿耨多羅三藐三菩提。作如是供養說法人。必得聞般若波羅蜜及方便力。過去諸佛本行菩薩道時亦如是。住布施中得聞般若波羅蜜及方便力。得阿耨多羅三藐三菩提。爾時曇無竭菩薩。欲令薩陀波崙菩薩善根具足故。受五百乘車長者女及五百侍女。受已還與薩陀波崙菩薩。是時曇無竭菩薩說法日沒起入宮中。薩陀波崙菩薩摩訶薩作是念。我爲法故來不應坐臥。當以二儀若行若立。以待法師從宮中出說法。爾時曇無竭菩薩。七歲一心入無量阿僧祇菩薩三昧。及行般若波羅蜜方便力。薩陀波崙菩薩七歲經行住立。不坐不臥無有睡眠。無欲恚惱心不著味。但念曇無竭菩薩摩訶薩。何時當從三昧起出而說法。薩陀波崙菩薩過七歲已作是念。我當爲曇無竭菩薩摩訶薩敷說法座。曇無竭菩薩摩訶薩當坐上說法。我當灑掃清淨散種種華莊嚴是處。爲曇無竭菩薩摩訶薩當說般若波羅蜜及方便力故。是時薩陀波崙菩薩與長者女及五百侍女。爲曇無竭菩薩摩訶薩敷七寶牀。五百女人各脫上衣以敷座上作是念。曇無竭菩薩摩訶薩當坐此座上。說般若波羅蜜及方便力。薩陀波崙菩薩敷座已。求

水灑地而不能得。所以者何。惡魔隱蔽令水不現。魔作是念。薩陀波崙菩薩求水不得。於阿耨多羅三藐三菩提。乃至生一念劣心異心。則智慧不照善根不增。於一切智而有稽留。爾時薩陀波崙菩薩作是念。我當自刺其身以血灑地。令無塵土來坌大師我何用此身。此身必當破壞。我從無始生死以來數數喪身未曾爲法。即以利刀自刺出血灑地。薩陀波崙菩薩及長者女并五百侍女皆無異心。惡魔亦不能得便。是時釋提桓因作是念。未曾有也薩陀波崙菩薩。愛法乃爾以刀自刺出血灑地。薩陀波崙及衆女人心不動轉。惡魔波旬不能壞其善根。其心堅固發大莊嚴不惜身命。以深心欲求阿耨多羅三藐三菩提。當度一切衆生無量生死苦。釋提桓因讚薩陀波崙菩薩言。善哉善哉。善男子。汝精進力大堅固難動不可思議。汝愛法求法最爲無上。善男子。過去諸佛亦如是。以深心愛法惜法重法。集諸功德得阿耨多羅三藐三菩提。薩陀波崙菩薩作是念。我爲曇無竭菩薩摩訶薩敷法座。掃灑淸淨已訖。當於何處得好名華莊嚴此地。若曇無竭菩薩摩訶薩法座上坐說法時。亦當散華供養。釋提桓因知薩陀波崙菩薩心所念。即以三千石天曼陀羅華與薩陀波崙。薩陀波崙受華。以半散地。留半待曇無竭菩薩摩訶薩坐法座上說法時當供養。爾時曇無竭菩薩摩訶薩。過七歲已從諸三昧起。爲說般若波羅蜜故。與無量百千萬衆恭敬圍遶往法座上坐。薩陀波崙菩薩摩訶薩。見曇無竭菩薩摩訶薩時心得悅樂。譬如比丘入第三禪。爾時薩陀波崙菩薩摩訶薩及長者女并五百侍女。到曇無竭菩薩摩訶薩所。散天曼陀羅華頭面禮畢退坐一面。曇無竭菩薩見其坐已。告薩陀波崙菩薩言。善男子。諦聽諦受。今當爲汝說般若波羅蜜相。善男子。諸法等故當知般若波羅蜜亦等。諸法離故當知般若波羅蜜亦離。諸法不動故當知般若波羅蜜亦不動。諸法無念故當知般若波羅蜜亦無念。諸法無畏故當知般若波羅蜜亦無畏。諸法一味故當知般若波羅蜜亦一味。諸法無邊故當知般若波羅蜜亦無邊。諸法無生故當知般若波羅蜜亦無生。諸法無滅故當知般若波羅蜜亦無滅。虛空無邊故當知般若波羅蜜亦無邊。大海水無邊。故當知般若波羅蜜亦無邊。須彌山莊嚴故當知般若波羅蜜亦莊嚴。虛空無分別故當知般若波羅蜜亦無分別。色無邊故當知般若波羅蜜亦無邊。受想行識無邊故當知般若波羅蜜亦無邊。地種無邊故當知般若波羅蜜。亦無邊。水種火種風種無邊故當知般若波羅蜜

此同作是

華下三本俱有已字

薩下同無摩訶薩三字次同

昧下同無不動三昧無念三昧八字

南下西下三本俱有方字如元明俱作以次同〇以同作已

般上三本俱有是字

失上同有莫字

亦無邊。空種無邊故當知般若波羅蜜亦無邊。如金剛等故當知般若波羅蜜亦等諸法無分別故當知般若波羅蜜亦無分別。諸法性不可得故當知般若波羅蜜性亦不可得。諸法無所有等故當知般若波羅蜜亦無所有等。諸法無作故當知般若波羅蜜亦無作。諸法不可思議故。當知般若波羅蜜亦不可思議。是時薩陀波崙菩薩摩訶薩。即於坐處得諸三昧。所謂諸法等三昧。諸法離三昧。不動三昧。無念三昧。諸法無畏三昧。諸法一味三昧。諸法無邊三昧。諸法無生三昧。諸法無滅三昧。虛空無邊三昧。大海水無邊三昧。須彌山莊嚴三昧。虛空無分別三昧。色無邊三昧。受想行識無邊三昧。地種無邊三昧。水種火種風種空種無邊三昧。如金剛等三昧。諸法無分別三昧。諸法不可思議三昧。如是等得六百萬諸三昧門。爾時佛告須菩提。如我今於三千大千世界中與諸比丘僧圍遶。以是相以是像貌以是名字說般若波羅蜜。薩陀波崙得是六百萬三昧門。見東方南西北方四維上下。如恒河沙等三千大千世界中諸佛。與諸比丘恭敬圍遶。以如是相如是像貌如是名字。說是摩訶般若波羅蜜亦如是。薩陀波崙菩薩從是以後。多聞智慧不可思議如大海水。常不離諸佛生於有佛國中。乃至夢中未曾不見佛時。一切衆難皆悉已斷。在所佛國隨願往生。須菩提。當知是般若波羅蜜因緣。能成就菩薩摩訶薩一切功德得一切種智。以是故。須菩提。諸菩薩摩訶薩若欲學六波羅蜜。欲深入諸佛智慧。欲得一切種智。應受持般若波羅蜜讀誦正憶念。廣爲他人說亦書寫經卷。供養尊重讚歎香華乃至伎樂。何以故。般若波羅蜜是過去未來現在十方諸佛母。十方諸佛所尊重故

摩訶般若波羅蜜經囑累品第九十

爾時佛告阿難。於汝意云何。佛是汝大師不。汝是佛弟子不。阿難言。世尊。佛是我大師。修伽陀是我大師。我是佛弟子。佛言。如是如是。我是汝大師。汝是我弟子。若如弟子所應作者。汝已作竟。阿難。汝用身口意慈業供養供給我。亦常如我意無有違失。阿難。我身現在汝愛敬供養供給心常清淨。我滅度後是一切愛敬供養供給事。當愛敬供養般若波羅蜜。乃至第二第三以般若波羅蜜囑累汝。阿難。汝莫忘莫失莫作最後斷種人。阿難。隨爾所時般

若波羅蜜在世。當知爾所時有佛在世說法。阿難。若有書般若波羅蜜。受持讀誦正憶念爲人廣說。恭敬尊重讚歎華香幡蓋寶衣燈燭種種供養。當知是人不離見佛不離聞法爲常親近佛。佛說般若波羅蜜已。彌勒等諸菩薩摩訶薩。慧命須菩提。慧命舍利弗。大目犍連。摩訶迦葉。富樓那彌多羅尼子。摩訶拘絺羅。大迦旃延。阿難等。并一切大衆及一切世間諸天人。犍闥婆阿修羅等。聞佛所說皆大歡喜

世下同有者字
大同作摩訶
犍同作乾〇修同作脩

摩訶般若波羅蜜經卷第二十七

大般若波羅蜜多經卷第五百七十八　〔麗珍・宋珍・三元珍・明珍〕

三藏法師玄奘奉詔譯

第十般若理趣分

如是我聞。一時薄伽梵。妙善成就一切如來金剛住持平等性智種種希有殊勝功德。已能善獲一切如來灌頂寶冠超過三界。已能善得一切如來遍金剛智大觀自在。已得圓滿一切如來決定諸法大妙智印。已善圓證一切如來畢竟空寂平等性印。於諸能作所作事業。皆得善巧成辦無餘。一切有情種種希願。隨其無罪皆能滿足。已善安住三世平等常無斷盡廣大遍照身語心性。猶若金剛等諸如來無動無壞。是薄伽梵。住欲界頂他化自在天王宮中。一切如來常所遊處。咸共稱美大寶藏殿。其殿無價末尼所成。種種珍奇間雜嚴飾。衆色交暎放大光明。寶鐸金鈴處處懸列。微風吹動出和雅音。綺蓋繒幡花幢綵拂。寶珠瓔珞半滿月等。種種雜飾而用莊嚴。賢聖天仙之所愛樂。與八十億大菩薩俱。一切皆具陀羅尼門三摩地門無礙妙辯。如是等類無量功德。設經多劫讃不能盡。其名曰金剛手菩薩摩訶薩。觀自在菩薩摩訶薩。虛空藏菩薩摩訶薩。金剛拳菩薩摩訶薩。妙吉祥菩薩摩訶薩。大空藏菩薩摩訶薩。發心卽轉法輪菩薩摩訶薩。摧伏一切魔怨菩薩摩訶薩。如是上首有八百萬大菩薩衆前後圍繞。宣說正法。初中後善文義巧妙純一圓滿清白梵行。爾時世尊爲諸菩薩。說一切法甚深微妙般若理趣清淨法門。此門卽是菩薩句義。云何名爲菩薩句義。謂極妙樂清淨句義是菩薩句義。諸見永寂清淨句義是菩薩句義。微妙適悅清淨句義是菩薩句義。渴愛永息清淨句義是菩薩句義。胎藏超越清淨句義是菩薩句義。衆德莊嚴清淨句義是菩薩句義。意極猗適清淨句義是菩薩句義。得大光明清淨句義是菩薩句義。身善安樂清淨句義是菩薩句義。語善安樂清淨句義是菩薩句義。意善安樂清淨句義是菩薩句義。色蘊空寂清淨句義是菩薩句義。受想行識蘊空寂清淨句義是菩薩句義。眼處空寂清淨句義是菩薩句義。耳鼻舌身意處

十明作千

空寂清淨句義是菩薩句義。色處空寂清淨句義是菩薩句義。聲香味觸法處空寂清淨句義是菩薩句義。眼界空寂清淨句義是菩薩句義。耳鼻舌身意界空寂清淨句義是菩薩句義。色界空寂清淨句義是菩薩句義。聲香味觸法界空寂清淨句義是菩薩句義。眼識界空寂清淨句義是菩薩句義。耳鼻舌身意識界空寂清淨句義是菩薩句義。眼觸空寂清淨句義是菩薩句義。耳鼻舌身意觸空寂清淨句義是菩薩句義。眼觸爲緣所生諸受空寂清淨句義是菩薩句義。耳鼻舌身意觸爲緣所生諸受空寂清淨句義是菩薩句義。地界空寂清淨句義是菩薩句義。水火風空識界空寂清淨句義是菩薩句義。苦聖諦空寂清淨句義是菩薩句義。集滅道聖諦空寂清淨句義是菩薩句義。因緣空寂清淨句義是菩薩句義。等無間緣所緣緣增上緣空寂清淨句義是菩薩句義。無明空寂清淨句義是菩薩句義。行識名色六處觸受愛取有生老死空寂清淨句義是菩薩句義。布施波羅蜜多空寂清淨句義是菩薩句義。淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多空寂清淨句義是菩薩句義。眞如空寂清淨句義是菩薩句義。法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界空寂清淨句義是菩薩句義。四靜慮空寂清淨句義是菩薩句義。四無量四無色定空寂清淨句義是菩薩句義。四念住空寂清淨句義是菩薩句義。四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支空寂清淨句義是菩薩句義。空解脫門空寂清淨句義是菩薩句義。無相無願解脫門空寂清淨句義是菩薩句義。八解脫空寂清淨句義是菩薩句義。八勝處九次第定十遍處空寂清淨句義是菩薩句義。極喜地空寂清淨句義是菩薩句義。離垢地發光地焰慧地極難勝地現前地遠行地不動地善慧地法雲地空寂清淨句義是菩薩句義。淨觀地空寂清淨句義是菩薩句義。種性地第八地具見地薄地離欲地已辦地獨覺地菩薩地如來地空寂清淨句義是菩薩句義。一切陀羅尼門空寂清淨句義是菩薩句義。一切三摩地門空寂清淨句義是菩薩句義。五眼空寂清淨句義是菩薩句義。六神通空寂清淨句義是菩薩句義。如來十力空寂清淨句義是菩薩句義。四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法空寂清淨句義是菩薩句義。三十二相空寂清淨句義是菩薩句義。八十隨好空寂清淨句義是菩薩句義。無忘失法空寂清淨句義是菩薩句義。恒住捨性空寂清淨句義是菩薩句義。一切智空寂清淨句義是

性宋作姓

漏下元明俱有法字

菩薩句義。道相智一切相智空寂清淨句義是菩薩句義。一切菩薩摩訶薩行空寂清淨句義是菩薩句義。諸佛無上正等菩提空寂清淨句義是菩薩句義。一切異生法空寂清淨句義是菩薩句義。一切預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩如來法空寂清淨句義是菩薩句義。一切善非善法空寂清淨句義是菩薩句義。一切有記無記法有漏無漏有爲無爲法世間出世間法空寂清淨句義是菩薩句義。所何者何。以一切法自性空故自性遠離。由遠離故自性寂靜。由寂靜故自性清淨。由清淨故甚深般若波羅蜜多最勝清淨。如是般若波羅蜜多。當知即是菩薩句義。諸菩薩衆皆應修學。佛說如是菩薩句義般若理趣清淨法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞此一切法甚深微妙般若理趣清淨法門深信受者。乃至當坐妙菩提座。一切障蓋皆不能染。謂煩惱障業障報障。雖多積集而不能染。雖造種種極重惡業而易消滅不墮惡趣。若能受持日日讀誦精勤無間如理思惟。彼於此生定得一切法平等性金剛等持。於一切法皆得自在。恒受一切勝妙喜樂。當經十六大菩薩生。定得如來執金剛性。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依遍照如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切如來寂靜法性甚深理趣現等覺門。謂金剛平等性現等覺門。以大菩提堅實難壞如金剛故。義平等性現等覺門。以大菩提其義一故。法平等性現等覺門。以大菩提自性淨故。一切法平等性現等覺門。以大菩提於一切法無分別故。佛說如是寂靜法性般若理趣現等覺已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是四種般若理趣現等覺門。信解受持讀誦修習。乃至當坐妙菩提座。雖造一切極重惡業。而能超越一切惡趣。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依調伏一切惡法釋迦牟尼如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多攝受一切法平等性甚深理趣普勝法門。謂貪欲性無戲論故瞋恚性亦無戲論。瞋恚性無戲論故愚癡性亦無戲論。愚癡性無戲論故猶預性亦無戲論。猶預性無戲論故諸見性亦無戲論。諸見性無戲論故憍慢性亦無戲論。憍慢性無戲論故諸纏性亦無戲論。諸纏性無戲論故煩惱垢性亦無戲論。煩惱垢性無戲論故諸惡業性亦無戲論。諸惡業性無戲論故諸果報性亦無戲論。諸果報性無戲論故雜染法性亦無戲論。雜染法性無戲論故清淨法性亦無戲論。清淨法性無戲論故一切法性亦無戲論。一切法性無戲論故當知般若波羅蜜多亦無戲論。佛說如是調伏衆惡般若理趣普勝法已。告金剛手菩

斯下三本俱無復字

性明作極

密同作蜜

薩等言。若有得聞如是般若波羅蜜多甚深理趣。信解受持讀誦修習。假使殺害三界所攝一切有情。而不由斯復墮於地獄傍生鬼界。以能調伏一切煩惱及隨煩惱惡業等故。常生善趣受勝妙樂。修諸菩薩摩訶薩行。疾證無上正等菩提。爾時世尊復以性淨如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切法平等性觀自在妙智印甚深理趣清淨法門。謂一切貪欲本性清淨極照明故能令世間瞋恚清淨。一切瞋恚本性清淨極照明故能令世間愚癡清淨。一切愚癡本性清淨極照明故能令世間疑惑清淨。一切疑惑本性清淨極照明故能令世間見趣清淨。一切見趣本性清淨極照明故能令世間憍慢清淨。一切憍慢本性清淨極照明故能令世間纏結清淨。一切纏結本性清淨極照明故能令世間垢穢清淨。一切垢穢本性清淨極照明故能令世間惡法清淨。一切惡法本性清淨極照明故能令世間生死清淨。一切生死本性清淨極照明故能令世間諸法清淨。以一切法本性清淨極照明故能令世間有情清淨。一切有情本性清淨極照明故能令世間一切智清淨。以一切智本性清淨極照明故能令世間甚深般若波羅蜜多最勝清淨。佛說如是平等智印般若理趣清淨法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是般若波羅蜜多清淨理趣。信解受持讀誦修習。雖住一切貪瞋癡等客塵煩惱垢穢聚中。而猶蓮華不爲一切客塵垢穢過失所染。常能修習菩薩勝行。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切三界勝王如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切如來和合灌頂甚深理趣智藏法門。謂以世間灌頂位施。當得三界法王位果。以出世間無上義施。當得一切希願滿足。以出世間無上法施。於一切法當得自在。若以世間財食等施。當得一切身語心樂。若以種種財法等施。能令布施波羅蜜多速得圓滿。受持種種清淨禁戒能令淨戒波羅蜜多速得圓滿。於一切事修學安忍能令安忍波羅蜜多速得圓滿。於一切時修習精進能令精進波羅蜜多速得圓滿。於一切境修行靜慮能令靜慮波羅蜜多速得圓滿。於一切法常修妙慧能令般若波羅蜜多速得圓滿。佛說如是灌頂法門般若理趣智藏法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是灌頂甚深理趣智藏法門。信解受持讀誦修習。速能滿足諸菩薩行。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切如來智印持一切佛祕密法門如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切如來住持智印甚深理趣金剛法門。謂具攝受一切如來金剛身印當證

一切如來法身。若具攝受一切如來金剛語印於一切法當得自在。若具攝受一切如來金剛心印於一切定當得自在。若具攝受一切如來金剛智印能得最上妙身語心。猶若金剛無動無壞。佛說如是如來智印般若理趣金剛法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是智印甚深理趣金剛法門。信解受持讀誦修習。一切事業皆能成辦。常與一切勝事和合。所欲修行一切勝智。諸勝福業皆速圓滿。當獲最勝淨身語心。猶若金剛不可破壞。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切無戲論法如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多甚深理趣輪字法門。謂一切法空無自性故。一切法無相離衆相故。一切法無願無所願故。一切法遠離無所著故。一切法寂靜永寂滅故。一切法無常性常無故。一切法無樂非可樂故。一切法無我不自在故。一切法無淨離淨相故。一切法不可得推尋其性不可得故。一切法不思議思議其性無所有故。一切法無所有衆緣和合假施設故。一切法無戲論本性空寂離言說故。一切法本性淨甚深般若波羅蜜多本性淨故。佛說如是離諸戲論般若理趣輪字法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞此無戲論般若理趣輪字法門。信解受持讀誦修習。於一切法得無礙智。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切如來輪攝如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多入廣大輪甚深理趣平等性門。謂入金剛平等性能入一切如來性輪故。入義平等性能入一切菩薩性輪故。入法平等性能入一切法性輪故。入蘊平等性能入一切蘊性輪故。入處平等性能入一切處性輪故。入界平等性能入一切界性輪故。入諦平等性能入一切諦性輪故。入緣起平等性能入一切緣起性輪故。入寶平等性能入一切寶性輪故。入食平等性能入一切食性輪故。入善法平等性能入一切善法性輪故。入非善法平等性能入一切非善法性輪故。入有記法平等性能入一切有記法性輪故。入無記法平等性能入一切無記法性輪故。入有漏法平等性能入一切有漏法性輪故。入無漏法平等性能入一切無漏法性輪故。入有爲法平等性能入一切有爲法性輪故。入無爲法平等性能入一切無爲法性輪故。入世間法平等性能入一切世間法性輪故。入出世間法平等性能入一切出世間法性輪故。入異生法平等性能入一切異生法性輪故。入聲聞法平等性能入一切聲聞法性輪故。入獨覺法平等性能入一切獨覺法性輪故。入菩薩法平等性能入一切菩薩法性輪故。入如來法平等性能入一切如來

法性輪故。入有情平等性能入一切有情性輪故。入一切平等性能入一切性輪故。佛說如是入廣大輪般若理趣平等性已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是輪性甚深理趣平等性門。信解受持讀誦修習。能善悟入諸平等性。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切廣受供養眞淨器田如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切供養甚深理趣無上法門。謂發無上正等覺心於諸如來廣設供養。攝護正法於諸如來廣設供養。修行一切波羅蜜多於諸如來廣設供養。修行一切菩提分法於諸如來廣設供養。修行一切總持等持於諸如來廣設供養。修行一切五眼六通於諸如來廣設供養。修行一切靜慮解脫於諸如來廣設供養。修行一切慈悲喜捨於諸如來廣設供養。修行一切佛不共法於諸如來廣設供養。觀一切法若常若無常皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若樂若苦皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若我若無我皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若淨若不淨皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若空若不空皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若有相若無相皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若有願若無願皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若遠離若不遠離皆不可得。於諸如來廣設供養。觀一切法若寂靜若不寂靜皆不可得。於諸如來廣設供養。於深般若波羅蜜多。書寫聽聞受持讀誦思惟修習。廣爲有情宣說流布。或自供養或轉施他於諸如來廣設供養。佛說如是眞淨供養甚深理趣無上法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是供養般若理趣無上法門。信解受持讀誦修習。速能圓滿諸菩薩行。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切能善調伏如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多攝受智密調伏有情甚深理趣智藏法門。謂一切有情平等性卽忿平等性。一切有情調伏性卽忿調伏性。一切有情眞法性卽忿眞法性。一切有情眞如性卽忿眞如性。一切有情法界性卽忿法界性。一切有情離生性卽忿離生性。一切有情實際性卽忿實際性。一切有情本空性卽忿本空性。一切有情無相性卽忿無相性。一切有情無願性卽忿無願性。一切有情遠離性卽忿遠離性。一切有情寂靜性卽忿寂靜性。一切有情不可得性卽忿不可得性。一切有情無所有性卽忿無所有性。一切有情難思議性卽忿難思議性。一切有情無戲論性卽忿無戲論性。一切有情如金剛性卽忿如金剛性。所以者何。一切有情眞調伏性卽是無上正等菩

能明作得
密宋明俱作蜜
○謂三本俱作爲

提。亦是般若波羅蜜多。亦是諸佛一切智智。佛說如是能善調伏甚深理趣智藏法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是調伏般若理趣智藏法門。信解受持讀誦修習。能自調伏忿恚等過。亦能調伏一切有情。常生善趣受諸妙樂。現世怨敵皆起慈心。能善修行諸菩薩行。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切能善建立性平等法如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切法性甚深理趣最勝法門。謂一切有情性平等故甚深般若波羅蜜多亦性平等。一切法性平等故甚深般若波羅蜜多亦性平等。一切有情性調伏故甚深般若波羅蜜多亦性調伏。一切法性調伏故甚深般若波羅蜜多亦性調伏。一切有情有實義故甚深般若波羅蜜多亦有實義。一切法有實義故甚深般若波羅蜜多亦有實義。一切有情即眞如故甚深般若波羅蜜多亦即眞如。一切法即眞如故甚深般若波羅蜜多亦即眞如。一切有情即法界故甚深般若波羅蜜多亦即法界。一切法即法界故甚深般若波羅蜜多亦即法界。一切有情即法性故甚深般若波羅蜜多亦即法性。一切法即法性故甚深般若波羅蜜多亦即法性。一切有情即實際故甚深般若波羅蜜多亦即實際。一切法即實際故甚深般若波羅蜜多亦即實際。一切有情即本空故甚深般若波羅蜜多亦即本空。一切法即本空故甚深般若波羅蜜多亦即本空。一切有情即無相故甚深般若波羅蜜多亦即無相。一切法即無相故甚深般若波羅蜜多亦即無相。一切有情即無願故甚深般若波羅蜜多亦即無願。一切法即無願故甚深般若波羅蜜多亦即無願。一切有情即遠離故甚深般若波羅蜜多亦即遠離。一切法即遠離故甚深般若波羅蜜多亦即遠離。一切有情即寂靜故甚深般若波羅蜜多亦即寂靜。一切法即寂靜故甚深般若波羅蜜多亦即寂靜。一切有情不可得故甚深般若波羅蜜多亦不可得。一切法不可得故甚深般若波羅蜜多亦不可得。一切有情無所有故甚深般若波羅蜜多亦無所有。一切法無所有故甚深般若波羅蜜多亦無所有。一切有情不思議故甚深般若波羅蜜多亦不思議。一切法不思議故甚深般若波羅蜜多亦不思議。一切有情無戲論故甚深般若波羅蜜多亦無戲論。一切法無戲論故甚深般若波羅蜜多亦無戲論。一切有情無邊際故甚深般若波羅蜜多亦無邊際。一切法無邊際故甚深般若波羅蜜多亦無邊際。一切有情有業用故當知般若波羅蜜多亦有業用。一切法有業用故當知般若波羅蜜多亦有業用。

法三本俱作諸　性三本俱作門　過元明俱作遍　底下音註反明

佛說如是性平等性甚深理趣最勝法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是平等般若理趣最勝法門。信解受持讀誦修習。則能通達平等法性甚深般若波羅蜜多。於法有情心無罣礙。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依一切住持藏法如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多一切有情住持遍滿甚深理趣勝藏法門。謂一切有情皆如來藏普賢菩薩自體遍故。一切有情皆金剛藏以金剛藏所灌灑故。一切有情皆正法藏一切皆隨正語轉故。一切有情皆妙業藏一切業事加行依故。佛說如是有情住持甚深理趣勝藏法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是遍滿般若理趣勝藏法門。信解受持讀誦修習。則能通達勝藏法性。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依究竟無邊際法如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多究竟住持法義平等金剛法門。謂甚深般若波羅蜜多無邊故一切如來亦無邊。甚深般若波羅蜜多無際故一切如來亦無際。甚深般若波羅蜜多一味故一切法亦一味。甚深般若波羅蜜多究竟故一切法亦究竟。佛說如是無邊無際究竟理趣金剛法已。告金剛手菩薩等言。若有得聞如是究竟般若理趣金剛法門。信解受持讀誦修習。一切障法皆悉消除。定得如來執金剛性。疾證無上正等菩提。爾時世尊復依遍照如來之相。爲諸菩薩宣說般若波羅蜜多得諸如來祕密法性及一切法無戲論性大樂金剛不空神咒金剛法性。初中後位最勝第一甚深理趣無上法門。謂大貪等最勝成就令大菩薩大樂最勝成就。大樂最勝成就令大菩薩一切如來大覺最勝成就。一切如來大覺最勝成就令大菩薩降伏一切大魔最勝成就。降伏一切大魔最勝成就令大菩薩普大三界自在最勝成就。普大三界自在最勝成就令大菩薩能無遺餘。拔有情界利益安樂一切有情。畢竟大樂最勝成就。所以者何。乃至生死流轉住處有勝智者齊此常能以無等法。饒益有情不入寂滅。又以般若波羅蜜多方便善巧成立勝智善辦一切清淨事業。能令諸有皆得清淨。又以貪等調伏世間。普遍恒時乃至諸有。皆令清淨自然調伏。又如蓮華形色光淨。不爲一切穢物所染。如是貪等饒益世間。住過有過常不能染。又大貪等能得清淨大樂大財三界自在。常能堅固饒益有情。爾時如來即說神咒

納慕薄伽筏帝一　鉢剌壤波囉弭多曳二　薄底丁履反　筏摖七葛反　羅曳三　罨跛履弭多窶拏曳四　薩縛呾他揭多跛

作切下音註反○哷同○同反下三本俱有下同二字○哷下音註弟同作第○同反下同有下同二字○喇同作剌○澁同作泥○[木*柰]同作[扌*柰]○娑羯同作羯娑○同明作圓○㘑宋元俱作㘑訶下明無記數

呾宋元俱作怛

植宋元俱作殖

枉三本俱作枉○滅同作滅

展布視多曳(五) 薩縛呾他揭多奴壞多奴壞多鄔壞多曳(六) 呾姪他(七) 鉢剌哷(弟一反) 鉢剌哷(八) 莫訶鉢喇哷(九) 鉢剌壞婆娑羯囇(十) 鉢剌壞路迦羯囇(十一) 索馱迦囉毗談末澁(十二) 悉遞(十三) 蘇悉遞(十四) 悉殿都漫薄伽筏底(十五) 薩防伽孫達囇(十六) 薄底筏[木*柰]囇(十七) 鉢剌婆履多喝悉帝(十八) 參磨濕縛婆羯囇(十九) 勃陀勃陀(二十) 悉陀悉陀(二十一) 劍波劍波(二十二) 浙羅浙羅(二十三) 曷邏曷邏(二十四) 阿揭車阿揭車(二十五) 薄伽筏底(二十六) 褒毗濫婆(二十七) 莎訶(二十八)

如是神呪三世諸佛皆共宣說同所護念。能受持者一切障滅。隨心所欲無不成辦。疾證無上正等菩提。爾時如來復說神呪

納慕薄伽筏帝(一) 鉢剌壞波囉弭多曳(二) 呾姪他(三) 牟尼達㘑(四) 僧揭洛訶達㘑(五) 過奴揭洛訶達㘑(六) 毗目底達㘑(七) 薩馱奴揭洛訶達㘑(八) 吠室洛末拏達㘑(九) 參漫多奴跛履筏剌呾那達㘑(十) 窶拏僧揭洛訶達㘑(十一) 薩縛迦羅跛履波剌那達㘑(十二) 莎訶(十三)

如是神呪是諸佛母。能誦持者一切罪滅。常見諸佛得宿住智。疾證無上正等菩提。爾時如來復說神呪

納慕薄伽筏帝(一) 鉢剌壞波囉弭多曳(二) 呾姪他(三) 室囇曳(四) 室囇曳(五) 室囇曳(六) 室囇曳細(七) 莎訶(八)

如是神呪具大威力。能受持者業障消除。所聞正法總持不忘。疾證無上正等菩提。爾時世尊說是呪已。告金剛手菩薩等言。若諸有情於每日旦。至心聽誦如是般若波羅蜜多甚深理趣最勝法門無間斷者。諸惡業障皆得消滅。諸勝喜樂當現在前。大樂金剛不空神呪現身必得。究竟成滿一切如來金剛祕密最勝成就。不久當得大執金剛及如來性。若有情類未多佛所植衆善根久發大願。於此般若波羅蜜多甚深理趣最勝法門。不能聽聞書寫讀誦供養恭敬思惟修習。要多佛所植衆善根久發大願。乃能於此甚深理趣最勝法門。下至聽聞一句一字。況能具足讀誦受持。若諸有情供養恭敬尊重讚歎八十殑伽沙等俱胝那庾多佛。乃能具足聞此般若波羅蜜多甚深理趣。若地方所流行此經。一切天人阿素洛等。皆應供養如佛制多。有置此經在身或手。諸天人等皆應禮敬。若有情類受持此經。多俱胝劫得宿住智常勤精進修諸善法。惡魔外道不能稽留。四大天王及餘天衆。常隨擁衛未曾暫捨。終不橫死枉遭衰患。諸佛菩薩常共護持。令一切時善增惡滅。於諸佛土隨願往生。乃至菩

提不墮惡趣．諸有情類受持此經．定獲無邊勝利功德．我今略說如是少分．時薄伽梵說是經已．金剛手等諸大菩薩及餘天衆．聞佛所說皆大歡喜信受奉行

大般若波羅蜜多經卷第五百七十八

譯號天竺三藏三本俱作三藏法師

應云何明作云何應

金剛般若波羅蜜經

（麗羽）（宋翔）（元翔）（明翔）

姚秦天竺三藏鳩摩羅什譯

如是我聞。一時佛在舍衞國祇樹給孤獨園。與大比丘衆千二百五十人俱。爾時世尊食時著衣持鉢入舍衞大城乞食。於其城中次第乞已。還至本處飯食訖。收衣鉢洗足已敷座而坐。時長老須菩提在大衆中。卽從座起偏袒右肩右膝著地。合掌恭敬而白佛言。希有世尊。如來善護念諸菩薩。善付囑諸菩薩。世尊。善男子善女人。發阿耨多羅三藐三菩提心。應云何住。云何降伏其心。佛言。善哉善哉。須菩提。如汝所說。如來善護念諸菩薩。善付囑諸菩薩。汝今諦聽。當爲汝說。善男子善女人。發阿耨多羅三藐三菩提心。應如是住。如是降伏其心。唯然世尊。願樂欲聞。佛告須菩提。諸菩薩摩訶薩應如是降伏其心。所有一切衆生之類。若卵生若胎生若濕生若化生。若有色若無色。若有想若無想。若非有想非無想。我皆令入無餘涅槃而滅度之。如是滅度無量無數無邊衆生。實無衆生得滅度者。何以故。須菩提。若菩薩有我相人相衆生相壽者相。卽非菩薩。復次須菩提。菩薩於法應無所住行於布施。所謂不住色布施。不住聲香味觸法布施。須菩提。菩薩應如是布施不住於相。何以故。若菩薩不住相布施。其福德不可思量。須菩提。於意云何。東方虛空可思量不。不也世尊。須菩提。南西北方四維上下虛空可思量不。不也世尊。須菩提。菩薩無住相布施福德。亦復如是不可思量。須菩提。菩薩但應如所敎住。須菩提。於意云何。可以身相見如來不。不也世尊。不可以身相得見如來。何以故。如來所說身相卽非身相。佛告須菩提。凡所有相皆是虛妄。若見諸相非相則見如來。須菩提白佛言。世尊。頗有衆生得聞如是言說章句生實信不。佛告須菩提。莫作是說。如來滅後後五百歲。有持戒修福者。於此章句能生信心以此爲實。當知是人不於一佛二佛三四五佛而種善根。已於無量千萬佛所種諸善根。聞是章句乃至一念生淨信者。須菩提。如來悉知悉見是諸衆生得如是無量福德。何以故。是諸衆生無復我相人相衆生相壽者相。無法相亦無非法相。何以故。是諸衆生。若心

來上明有不字

不下三本俱有不也二字則明作卽下同

取相則爲著我人衆生壽者．若取法相卽著我人衆生壽者．何以故．若取非法相．卽著我人衆生壽者．是故不應取法．不應取非法．以是義故．如來常說汝等比丘知我說法如筏喻者．法尙應捨何況非法．須菩提．於意云何．如來得阿耨多羅三藐三菩提耶．如來有所說法耶．須菩提言．如我解佛所說義．無有定法名阿耨多羅三藐三菩提．亦無有定法如來可說．何以故．如來所說法皆不可取不可說．非法非非法．所以者何．一切賢聖皆以無爲法而有差別．須菩提．於意云何．若人滿三千大千世界七寶以用布施．是人所得福德寧爲多不．須菩提言．甚多世尊．何以故．是福德卽非福德性．是故如來說福德多．若復有人於此經中．受持乃至四句偈等爲他人說．其福勝彼．何以故．須菩提．一切諸佛及諸佛阿耨多羅三藐三菩提法皆從此經出．須菩提．所謂佛法者卽非佛法．須菩提．於意云何．須陀洹能作是念．我得須陀洹果不．須菩提言．不也世尊．何以故．須陀洹名爲入流而無所入．不入色聲香味觸法．是名須陀洹．須菩提．於意云何．斯陀含能作是念．我得斯陀含果不．須菩提言．不也世尊．何以故．斯陀含名一往來．而實無往來．是名斯陀含．須菩提．於意云何．阿那含能作是念．我得阿那含果不．須菩提言．不也世尊．何以故．阿那含名爲不來而實無來．是故名阿那含．須菩提．於意云何．阿羅漢能作是念．我得阿羅漢道不．須菩提言．不也世尊．何以故．實無有法名阿羅漢．世尊．若阿羅漢作是念．我得阿羅漢道．卽爲著我人衆生壽者．世尊．佛說我得無諍三昧人中最爲第一．是第一離欲阿羅漢．我不作是念．我是離欲阿羅漢．世尊．我若作是念我得阿羅漢道．世尊則不說須菩提是樂阿蘭那行者．以須菩提實無所行．而名須菩提是樂阿蘭那行．佛告須菩提．於意云何．如來昔在然燈佛所．於法有所得不．世尊．如來在然燈佛所．於法實無所得．須菩提．於意云何．菩薩莊嚴佛土不．不也世尊．何以故．莊嚴佛土者則非莊嚴．是名莊嚴．是故須菩提．諸菩薩摩訶薩應如是生清淨心．不應住色生心．不應住聲香味觸法生心．應無所住而生其心．須菩提．譬如有人身如須彌山王．於意云何．是身爲大不．須菩提言．甚大世尊．何以故．佛說非身是名大身．須菩提．如恒河中所有沙數．如是沙等恒河．於意云何．是諸恒河沙寧爲多不．須菩提言．甚多世尊．但諸恒河尙多無數．何況其沙．須菩提．我今實言告汝．若有善男子善女人．以七寶滿爾所恒河沙數三千大千世界．以用布施．得福多不．須菩提言．甚多世尊．佛告須菩提．若

修三本俱作脩下同

非上明有卽字

善男子善女人。於此經中乃至受持四句偈等。爲他人說。而此福德勝前福德。復次須菩提。隨說是經乃至四句偈等。當知此處一切世間天人阿脩羅。皆應供養如佛塔廟。何況有人盡能受持讀誦。須菩提。當知是人成就最上第一希有之法。若是經典所在之處。則爲有佛若尊重弟子。爾時須菩提白佛言。世尊。當何名此經。我等云何奉持。佛告須菩提。是經名爲金剛般若波羅蜜。以是名字汝當奉持。所以者何。須菩提。佛說般若波羅蜜。則非般若波羅蜜。須菩提。於意云何。如來有所說法不。須菩提白佛言。世尊。如來無所說。須菩提。於意云何。三千大千世界所有微塵是爲多不。須菩提言。甚多世尊。須菩提。諸微塵如來說非微塵。是名微塵。如來說世界非世界。是名世界。須菩提。於意云何。可以三十二相見如來不。不也世尊。不可以三十二相得見如來。何以故。如來說三十二相卽是非相。是名三十二相。須菩提。若有善男子善女人。以恒河沙等身命布施。若復有人於此經中乃至受持四句偈等。爲他人說其福甚多。爾時須菩提聞說是經深解義趣。涕淚悲泣而白佛言。希有世尊。佛說如是甚深經典。我從昔來所得慧眼。未曾得聞如是之經。世尊。若復有人得聞是經。信心淸淨則生實相。當知是人成就第一希有功德。世尊。是實相者則是非相。是故如來說名實相。世尊。我今得聞如是經典。信解受持不足爲難。若當來世後五百歲。其有衆生得聞是經信解受持。是人則爲第一希有。何以故。此人無我相人相衆生相壽者相。所以者何。我相卽是非相。人相衆生相壽者相卽是非相。何以故。離一切諸相則名諸佛。佛告須菩提。如是如是。若復有人得聞是經。不驚不怖不畏。當知是人甚爲希有。何以故。須菩提。如來說第一波羅蜜。非第一波羅蜜。是名第一波羅蜜。須菩提。忍辱波羅蜜如來說非忍辱波羅蜜。何以故。須菩提。如我昔爲歌利王割截身體。我於爾時無我相無人相無衆生相無壽者相。何以故。我於往昔節節支解時。若有我相人相衆生相壽者相應生瞋恨。須菩提。又念過去於五百世作忍辱仙人。於爾所世無我相無人相無衆生相無壽者相。是故須菩提。菩薩應離一切相發阿耨多羅三藐三菩提心。不應住色生心。不應住聲香味觸法生心。應生無所住心。若心有住則爲非住。是故佛說菩薩心不應住色布施。須菩提。菩薩爲利益一切衆生。應如是布施。如來說一切諸相卽是非相。又說一切衆生則非衆生。須菩提。如來是眞語者。實語者。如語者。不誑語者。不異語者。須菩提。如來所得法此法無實

無虚。須菩提。若菩薩心住於法而行布施。如人入闇則無所見。若菩薩心不住法而行布施。如人有目日光明照見種種色。須菩提。當來之世若有善男子善女人。能於此經受持讀誦。則爲如來以佛智慧悉知是人悉見是人。皆得成就無量無邊功德。須菩提。若有善男子善女人。初日分以恒河沙等身布施。中日分復以恒河沙等身布施。後日分亦以恒河沙等身布施。如是無量百千萬億劫以身布施。若復有人聞此經典信心不逆。其福勝彼。何況書寫受持讀誦爲人解説。須菩提。以要言之。是經有不可思議不可稱量無邊功德。如來爲發大乘者説。爲發最上乘者説。若有人能受持讀誦廣爲人説。如來悉知是人悉見是人。皆得成就不可量不可稱無有邊不可思議功德。如是人等則爲荷擔如來阿耨多羅三藐三菩提。何以故。須菩提。若樂小法者。著我見人見衆生見壽者見。則於此經不能聽受讀誦爲人解説。須菩提。在在處處若有此經。一切世間天人阿修羅所應供養。當知此處則爲是塔。皆應恭敬作禮圍繞以諸華香而散其處。復次須菩提。善男子善女人受持讀誦此經。若爲人輕賤。是人先世罪業應墮惡道。以今世人輕賤故。先世罪業則爲消滅。當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。我念過去無量阿僧祇劫。於然燈佛前。得値八百四千萬億那由他諸佛。悉皆供養承事無空過者。若復有人於後末世。能受持讀誦此經所得功德。於我所供養諸佛功德。百分不及一。千萬億分乃至算數譬喩所不能及。須菩提。若善男子善女人於後末世。有受持讀誦此經。所得功德我若具説者。或有人聞心則狂亂狐疑不信。須菩提。當知是經義不可思議果報亦不可思議。爾時須菩提白佛言。世尊。善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提心。云何應住云何降伏其心。佛告須菩提。善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩提者。當生如是心。我應滅度一切衆生。滅度一切衆生已而無有一衆生實滅度者。何以故。須菩提。若菩薩有我相人相衆生相壽者相則非菩薩。所以者何。須菩提。實無有法發阿耨多羅三藐三菩提者。須菩提。於意云何。如來於然燈佛所有法得阿耨多羅三藐三菩提不。不也世尊。如我解佛所説義。佛於然燈佛所無有法得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是如是。須菩提。實無有法如來得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若有法如來得阿耨多羅三藐三菩提者。然燈佛則不與我受記。汝於來世當得作佛號釋迦牟尼。以實無有法得阿耨多羅三藐三菩提。是故然燈佛與我受記作是言。汝於來世

罪明作辠次同

提下三本俱有心字次同

受明作授次同

恒上同有如字

等上元明俱有沙字

如上三本俱有佛言二字

當得作佛號釋迦牟尼。何以故。如來者卽諸法如義。若有人言如來得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。實無有法佛得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。如來所得阿耨多羅三藐三菩提。於是中無實無虛。是故如來說一切法皆是佛法。須菩提。所言一切法者。卽非一切法。是故名一切法。須菩提。譬如人身長大。須菩提言。世尊。如來說人身長大則爲非大身。是名大身。須菩提。菩薩亦如是。若作是言。我當滅度無量衆生則不名菩薩。何以故。須菩提。實無有法名爲菩薩。是故佛說一切法無我無人無衆生無壽者。須菩提。若菩薩作是言。我當莊嚴佛土。是不名菩薩。何以故。如來說莊嚴佛土者。卽非莊嚴是名莊嚴。須菩提。若菩薩通達無我法者。如來說名眞是菩薩。須菩提。於意云何。如來有肉眼不。如是世尊。如來有肉眼。須菩提。於意云何。如來有天眼不。如是世尊。如來有天眼。須菩提。於意云何。如來有慧眼不。如是世尊。如來有慧眼。須菩提。於意云何。如來有法眼不。如是世尊。如來有法眼。須菩提。於意云何。如來有佛眼不。如是世尊。如來有佛眼。須菩提。於意云何。恒河中所有沙佛說是沙不。如是世尊。如來說是沙。須菩提。於意云何。如一恒河中所有沙有如是等恒河。是諸恒河所有沙數佛世界。如是寧爲多不。甚多世尊。佛告須菩提。爾所國土中所有衆生若干種心如來悉知。何以故。如來說諸心皆爲非心是名爲心。所以者何。須菩提。過去心不可得。現在心不可得。未來心不可得。須菩提。於意云何。若有人滿三千大千世界七寶以用布施。是人以是因緣得福多不。如是世尊。此人以是因緣得福甚多。須菩提。若福德有實。如來不說得福德多。以福德無故。如來說得福德多。須菩提。於意云何。佛可以具足色身見不。不也世尊。如來不應以具足色身見。何以故。如來說具足色身。卽非具足色身。是名具足色身。須菩提。於意云何。如來可以具足諸相見不。不也世尊。如來不應以具足諸相見。何以故。如來說諸相具足卽非具足。是名諸相具足。須菩提。汝勿謂如來作是念。我當有所說法。莫作是念。何以故。若人言如來有所說法卽爲謗佛。不能解我所說故。須菩提。說法者無法可說。是名說法。爾時慧命須菩提白佛言。世尊。頗有衆生於未來世聞說是法生信心不。佛言。須菩提。彼非衆生非不衆生。何以故。須菩提。衆生衆生者。如來說非衆生。是名衆生。須菩提白佛言。世尊。佛得阿耨多羅三藐三菩提。爲無所得耶。如是如是。須菩提。我於阿耨多羅三藐三菩提。乃至無有少法可得。是名阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩

非上明有卽字

夫下宋元俱有是名凡夫四字

提下三本俱有心字〇滅下同無相字〇寶下三本俱有持用二字〇德下宋明俱有何以故三字

不下三本俱有不也二字

提。是法平等無有高下。是名阿耨多羅三藐三菩提。以無我無人無衆生無壽者。修一切善法則得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。所言善法者。如來說非善法是名善法。須菩提。若三千大千世界中所有諸須彌山王。如是等七寶聚有人持用布施。若人以此般若波羅蜜經乃至四句偈等。受持讀誦爲他人說。於前福德百分不及一。百千萬億分乃至算數譬喩所不能及。須菩提。於意云何。汝等勿謂如來作是念。我當度衆生。須菩提。莫作是念。何以故。實無有衆生如來度者。若有衆生如來度者。如來則有我人衆生壽者。須菩提。如來說有我者則非有我。而凡夫之人以爲有我。須菩提。凡夫者如來說則非凡夫。須菩提。於意云何。可以三十二相觀如來不。須菩提言。如是如是。以三十二相觀如來。佛言。須菩提。若以三十二相觀如來者。轉輪聖王則是如來。須菩提白佛言。世尊。如我解佛所說義。不應以三十二相觀如來。爾時世尊而說偈言

若以色見我　以音聲求我　是人行邪道　不能見如來

須菩提。汝若作是念。如來不以具足相故。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。莫作是念。如來不以具足相故。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。汝若作是念。發阿耨多羅三藐三菩提者說諸法斷滅相。莫作是念。何以故。發阿耨多羅三藐三菩提心者。於法不說斷滅相。須菩提。若菩薩以滿恒河沙等世界七寶布施。若復有人知一切法無我得成於忍。此菩薩勝前菩薩所得功德。須菩提。以諸菩薩不受福德故。須菩提白佛言。世尊。云何菩薩不受福德。須菩提。菩薩所作福德不應貪著。是故說不受福德。須菩提。若有人言。如來若來若去若坐若臥。是人不解我所說義。何以故。如來者無所從來亦無所去故名如來。須菩提。若善男子善女人。以三千大千世界碎爲微塵。於意云何。是微塵衆寧爲多不。甚多世尊。何以故。若是微塵衆實有者。佛則不說是微塵衆。所以者何。佛說微塵衆則非微塵衆。是名微塵衆。世尊。如來所說三千大千世界則非世界。是名世界。何以故。若世界實有者則是一合相。如來說一合相則非一合相。是名一合相。須菩提。一合相者則是不可說。但凡夫之人貪著其事。須菩提。若人言佛說我見人見衆生見壽者見。須菩提。於意云何。是人解我所說義不。世尊。是人不解如來所說義。何以故。世尊說我見人見衆生見壽者見卽非我見人見衆生見壽者見。是名我見人見衆生見壽者見。須菩提。發阿耨多

薩明作提

此眞言三本俱不載

羅三藐三菩提心者.於一切法.應如是知如是見如是信解不生法相.須菩提.所言法相者.如來說卽非法相.是名法相.須菩提.若有人以滿無量阿僧祇世界七寶持用布施.若有善男子善女人發菩薩心者.持於此經乃至四句偈等.受持讀誦爲人演說.其福勝彼.云何爲人演說.不取於相如如不動.何以故

一切有爲法　如夢幻泡影　如露亦如電　應作如是觀

佛說是經已.長老須菩提及諸比丘比丘尼優婆塞優婆夷.一切世間天人阿修羅.聞佛所說皆大歡喜.信受奉行

金剛般若波羅蜜經

眞言

那謨婆伽跋帝　鉢喇壤　波羅弭多曳　唵　伊利底　伊室利　輸盧馱　毗舍耶　毗舍耶　莎婆訶

佛說仁王般若波羅蜜經卷上

（麗羽）（宋翔）（元翔）（明翔）

姚秦三藏鳩摩羅什譯

序品第一

如是我聞.一時佛住王舍城耆闍崛山中.與大比丘衆八百萬億.學無學皆阿羅漢.有爲功德無爲功德.無學十智.有學八智.有學六智.三根十六心行.法假虛實觀.受假虛實觀.名假虛實觀.三空觀門.四諦十二緣.無量功德皆成就.復有八百萬億大仙緣覺.非斷非常.四諦十二緣皆成就.復有九百萬億菩薩摩訶薩.皆阿羅漢實智功德.方便智功德.行獨大乘.四眼五通三達十力.四無量心四辯四攝.金剛滅定.一切功德皆成就.復有千萬億五戒賢者.皆行阿羅漢十地迴向五分法身具足.無量功德皆成就.復有十千五戒清　女.皆行阿羅漢十地皆成就.始生功德住生功德終生功德.三十生功德皆成就.復有十億七賢居士.德行具足.二十二品.十一切入.八除入.八解脫.三慧.十六諦.四諦.四三二一品.觀得九十忍.一切功德皆成就.復有萬萬億九梵.三淨三光三梵.五憘樂天.天定功德.定味常樂神通十八生處功德皆成就.復有億億六欲諸天子.十善果報神通功德皆成就.復有十六大國王.各各有一萬二萬乃至十萬眷屬.五戒十善三歸功德.淸信行具足.復有五道一切衆生.復有他方不可量衆.復有變十方淨土.現百億高座.化百億須彌寶華.各各坐前華上.復有無量化佛.有無量菩薩比丘八部大衆.各各坐寶蓮華.華上皆有無量國土.一一國土佛及大衆.如今無異.一一國土中一一佛及大衆.各各說般若波羅蜜.他方大衆及化衆.此三界中大衆.十二大衆.皆來集會.坐九劫蓮華座.其會方廣九百五十里.大衆僉然而坐.爾時十號三明大滅諦金剛智釋迦牟尼佛.初年月八日方坐十地.入大寂室三昧.思緣放大光明照三界中.復於頂上出千寶蓮華.其華上至非想非非想天.光亦復爾.乃至他方恒河沙諸佛國土.時無色界雨無量變大香華.香如車輪華.如須彌山王.如雲而下.十八梵天王雨百變異色華.六欲諸天雨無量色華.其佛座前

經題元明俱無佛說二字王下三本俱有護國二字下卷亦同

天子　三本俱作大天

坐同作座〇無上同無有字

衆上同無大字〇劫同作級

上上同無其華二字

自然生九百萬億劫(丹本作級)華。上至非想非非想天。是時世界其地六種震動。爾時諸大衆俱共僉然生疑。各相謂言。四無所畏十八不共法五現法身大覺世尊。前已爲我等大衆。二十九年說摩訶般若波羅蜜。金剛般若波羅蜜。天王問般若波羅蜜。光讚般若波羅蜜。今日如來放大光明斯作何事。時十六大國王中。舍衛國主波斯匿王名曰月光。德行十地六度三十七品。四不壞淨。行摩訶衍化。次第問居士寶蓋法淨名等八百人。復問須菩提舍利弗等五千人。復問彌勒師子吼等十千人。無能答者。時波斯匿王即以神力作八萬種音樂。十八梵六欲諸天亦作八萬種音樂。聲動三千乃至十方恒河沙佛土。有緣斯現彼他方佛國中南方法才菩薩共五百萬億大衆俱來入此大會。東方寶柱菩薩共九百萬億大衆俱來入此大會。北方虛空性菩薩共百千萬億大衆俱來入此大會。西方善住菩薩共十恒河沙大衆俱來入此大會。六方亦復如是。作樂亦然。亦復共作無量音樂覺悟如來。佛即知時得衆生根。即從定起方坐蓮華師子座上。如金剛山王。大衆歡喜。各各現無量神通。地及虛空大衆而住

仁王般若波羅蜜護國經觀空品第二

爾時佛告大衆。知十六大國王意欲問護國土因緣。吾今先爲諸菩薩。說護佛果因緣護十地行因緣。諦聽諦聽善思念之。如法修行。時波斯匿王言。善大事因緣故。即散百億種色華。變成百億寶帳蓋諸大衆。爾時大王復起作禮白佛言。世尊。一切菩薩云何護佛果。云何護十地行因緣。佛言。菩薩化四生不觀色如。受想行識如。衆生我人常樂我淨如。知見壽者如。菩薩如。六度四攝一切行如。二諦如。是故一切法性眞實空。不來不去無生無滅。同眞際等法性。無二無別如虛空。是故陰入界無我無所有相。是爲菩薩行化十地般若波羅蜜。白佛言。若諸法爾者。菩薩護化衆生。爲化衆生耶。大王。法性色受想行識常樂我淨。不住色不住非色不住非非色。乃至受想行識亦不住非非住。何以故。非色如。非非色如。世諦故三假故名見衆生。一切生性實故。乃至諸佛三乘七賢八聖亦名見。六十二見亦名見。大王。若以名名見一切法乃至諸佛三乘四生者。非非見一切法也。白佛言。般若波羅蜜

劫宋明俱作級元作種同字下三本俱無夾註

梵下同有天字

悟同作寤

品目宋元俱無護國二字明無仁王般若波羅蜜護國經十字下並同

生三本俱作法

若下同無法字

若下同無有字

相同作切

國下同有土字

薩下三本俱有藏字

天衆同作衆皆

有法非非法。摩訶衍云何照。大王。摩訶衍見非非法。法若法非非法。是名非非法空。法性空。色受想行識空。十二入十八界空。六大法空。四諦十二緣空。是法卽生卽住卽滅。卽有卽空。刹那刹那亦如是。法生法住法滅。何以故。九十刹那爲一念。一念中一刹那經九百生滅。乃至色一切法亦如是。以般若波羅蜜空故。不見緣不見諦。乃至一切法空內空外空內外空有爲空無爲空無始空性空第一義空般若波羅蜜空因空佛果空空空故空。但法集故有。受集故有。名集故有。因集故有。果集故有。十行故有。佛果故有。乃至六道一切有。善男子。若有菩薩見法衆生我人知見者。斯人行世間不異於世間。於諸法而不動不到不滅。無相無無相。一相法亦如也。諸佛法僧亦如也。是卽初地一念心。具足八萬四千般若波羅蜜。卽載名摩訶衍。卽滅爲金剛。亦名定。亦名一切行。如光讚般若波羅蜜中說。大王。是經名味句。百佛千佛百千萬佛說名味句。於恒河沙三千大千國土中成無量七寶施。三千大千國中衆生皆得七賢四果。不如於此經中起一念信。何況解一句者。句非句非非句故。般若非句句非般若。般若亦非菩薩。何以故。十地三十生空故。始生住生終生不可得。地地中三生空故。亦非薩婆若。非摩訶衍空故。大王。若菩薩見境見智見說見受者。非聖見也。倒想見法凡夫人也。見三界者衆生果報之名也。六識起無量欲無窮。名爲欲界藏空。或色所起業果名爲色界藏空。或心所起業果名無色界藏空。三界空。三界根本無明藏亦空。三地九生滅。前三界中餘無明習果報空。金剛菩薩得理盡三昧故。或果生滅空。有果空因空故空。薩婆若亦空。滅果空。或前已空故。佛得三無爲果。智緣滅。非智緣滅。虛空薩婆若果空也。善男子。若有修習聽說。無聽無說。如虛空。法同法性。聽同說同。一切法皆如也。大王。菩薩修護佛果爲若此。護般若波羅蜜者爲護薩婆若。十力十八不共法。五眼五分法身。四無量心一切功德果爲若此。佛說法時無量人天衆得法眼淨。性地信地有百千人。皆得大空菩薩大行

仁王般若波羅蜜護國經菩薩教化品第三

白佛言。世尊。護十地行菩薩云何行可行。云何行化衆生。以何相衆生可化。佛言大王。五忍是菩薩法。伏忍上中

上下同有中字○想同作相下同
忍下同有也字
煩惱習同作習煩惱
婆同作云下同
語三本俱作說○本上同無本業二字
生下同有夾註初地二字下八生下如次有夾註二地二字乃至九地二字

下。信忍上中下。順忍上中下。無生忍上中下寂滅忍上下。名爲諸佛菩薩修般若波羅蜜。善男子初發想信。恒河沙衆生修行伏忍。於三寶中生習種性十心。信心精進心念心慧心定心施心戒心護心願心廻向心。是爲菩薩能少分化衆生。已超過二乘一切善地。一切諸佛菩薩長養十心爲聖胎也。次第起乾慧性種性有十心。所謂四意止。身受心法。不淨苦無常無我也。三意止。三善根。慈施慧也。三意止。所謂三世過去因忍。現在因果忍。未來果忍。是菩薩亦能化一切衆生。已能過我人知見衆生等想。及外道倒想所不能壞。復有十道種性地。所謂觀色識想受行。得戒忍知見忍定忍慧忍解脫忍。觀三界因果。空忍無願忍無想忍。觀二諦虛實。一切法無常名無常忍。一切法空得無生忍。是菩薩十堅心作轉輪王。亦能化四天下。生一切衆生善根。又信忍菩薩所謂善達明中行者斷三界色煩惱縛。能化百佛千佛萬佛國中。現百身千身萬身神通無量功德。常以十五心爲首。四攝法。四無量心。四弘願。三解脫門。是菩薩從善地至於薩婆若。以此十五心爲一切行根本種子。又順忍菩薩所謂見勝現法。能斷三界心等煩惱縛故。現一身於十萬佛國中無量不可說神通化衆生。又無生忍菩薩所謂遠不動觀慧。亦斷三界心色等煩惱習故。現不可說不可說功德神通。復次寂滅忍佛與菩薩。同用此忍入金剛三昧。下忍中行名爲菩薩。上忍中行名爲薩婆若。共觀第一義諦。斷三界心習。無明盡相爲金剛。盡相無相爲薩婆若。超度世諦第一義諦之外。爲第十一地薩婆若。覺非有非無。湛然清淨常住不變。同眞際等法性。無緣大悲敎化一切衆生。乘薩婆若乘來化三界。善男子。一切衆生煩惱不出三界藏。一切衆生果報二十二根不出三界。諸佛應化法身亦不出三界。三界外無衆生。佛何所化。是故我言。三界外別有一衆生界藏者。外道大有經中說。非七佛之所說。大王。我常語。一切衆生斷三界煩惱果報盡者名爲佛。自性淸淨名覺薩婆若性。衆生本業是諸佛菩薩本業本所修行。五忍中十四忍具足白佛言。云何菩薩本業淸淨化衆生。佛言。從一地乃至後一地。自所行處及佛行處。一切知見故。本業者。若菩薩住百佛國中。作閻浮四天王。修百法門。二諦平等心化一切衆生。若菩薩住千佛國中。作忉利天王。修千法門。十善道化一切衆生。若菩薩住十萬佛國中。作燄天王。修十萬法門。四禪定化一切衆生。若菩薩住百億佛國中。作兜率天王。修百億法門。行道品化一切衆生。若菩薩住千億佛國中。作化樂天王。

四上同無以字　淨上同無淸字○淨下同有夾註十地二字○生下同有夾註佛地二字　億萬同作萬億　唯同作惟下同○原同作源下同　形明作行　死三本俱作無○炎同作燄下同　化樂宋作自在○自在同作化樂

修千億法門二諦四諦八諦化一切衆生。若菩薩住十萬億佛國中。作他化天王。修十萬億法門。十二因緣智化一切衆生。若菩薩住百萬億佛國中。作初禪王。修百萬億法門。方便智願智化一切衆生。若菩薩住百萬微塵數佛國中作二禪梵王。修百萬微塵數法門。雙照方便神通智化一切衆生。若菩薩住百萬億阿僧祇微塵數佛國中。作三禪大梵王。修百萬億阿僧祇微塵數法門。以四無礙智化一切衆生。若菩薩住不可說不可說佛國中。作第四禪大靜天王三界主。修不可說不可說法門。得理盡三昧同佛行處。盡三界原敎化一切衆生如佛境界。是故一切菩薩本業化行淸淨。若十方諸如來亦修是業登薩婆若果。作三界王。化一切無量衆生。爾時百萬億恒河沙大衆。各從座起。散無量不可思議華。燒無量不可思議香。供養釋迦牟尼佛及無量大菩薩。合掌聽波斯匿王說般若波羅蜜。今於佛前以偈歎曰

世尊導師金剛體　心行寂滅轉法輪　八辯洪音爲衆說　時衆得道百億萬　時六天人出家道
成比丘衆菩薩行　五忍功德妙法門　十四正士能諦了　三賢十聖忍中行　唯佛一人能盡原
佛衆法海三寶藏　無量功德攝在中　十善菩薩發大心　長別三界苦輪海　中下品善粟散王
上品十善鐵輪王　習種銅輪二天下　銀輪三天性種性　道種堅德轉輪王　七寶金光四天下
伏忍聖胎三十人　十信十止十堅心　三世諸佛於中行　無不由此伏忍生　一切菩薩行本原
是故發心信心難　若得信心必不退　進入無生初地道　敎化衆生覺中行　是名菩薩初發心
善覺菩薩四天王　雙照二諦平等道　權化衆生遊百國　始登一乘無相道　入理般若名爲住
住生德行名爲地　初住一心具德行　於第一義而不動　離達開士忉利王　現形六道千國土
無緣無相第三諦　無死無生無二照　明慧空照炎天王　應形萬國導群生　忍心無二三諦中
出有入無變化生　善覺離明三道人　能滅三界色煩惱　還觀三界身口色　法性第一無遺照
炎慧妙光大精進　兜率天王遊億國　實智緣寂方便道　達無生照空有了　勝慧三諦自達明
化樂天王百億國　空空諦觀無二相　變化六道入無間　法現開士自在王　無二無照達理空

三諦現前大智光　照千億土敎一切　炎勝法現無相定　能洗三界迷心惑　空慧寂然無緣觀
還觀心空無量報　遠達無生初禪王　常萬億土敎衆生　未度報身一生在　進入等觀法流地
始入無緣金剛忍　三界報形永不受　觀第三義無二照　二十一生空寂行　三界愛習順道定
遠達正士獨諦了　等觀菩薩二禪王　變生法身無量光　入百恒土化一切　圓照三世恒劫事
返照樂虛無盡原　於第三諦常寂然　慧光開士三禪王　能於千恒一時現　常在無爲空寂行
恒沙佛藏一念了　漢頂菩薩四禪王　於億恒土化群生　始入金剛一切了　二十九生永已度
寂滅忍中下忍觀　一轉妙覺常湛然　等慧灌頂三品士　除前餘習無明緣　無明習相故煩惱
二諦理窮一切盡　圓智無相三界王　三十生盡等大覺　大寂無爲金剛藏　一切報盡無極悲
第一義諦常安隱　窮原盡性妙智存　三賢十聖住果報　唯佛一人居淨土　一切衆生暫住報
登金剛原居淨土　如來三業德無極　我今月光禮三寶　法王無上人中樹　覆蓋大衆無量光
口常說法非無義　心智寂滅無緣照　人中師子爲衆說　大衆歡喜散金華　百億萬土六大動
含生之類受妙報　天尊快說十四王　是故我今略歎佛

時諸大衆聞月光王歎十四王無量功德藏。得大法利。卽於坐中。有十恒河沙天王。十恒河沙梵王。十恒河沙鬼神王。乃至三趣得無生法忍。八部阿須輪王現轉鬼身天上受道。三生入正位者。或四生五生乃至十生得入正位。證聖人性得一切無量報。佛告諸得道果實天衆善男子。是月光王已於過去十千劫中龍光王佛法中。爲四住開士。我爲八住菩薩。今於我前大師子吼。如是如是。如汝所言。得眞義說不可思議不可度量。唯佛與佛乃知斯事。善男子。其所說十四般若波羅蜜。三忍地地上中下三十忍。一切行藏一切佛藏不可思議。何以故。一切諸佛是中生是中滅是中化。無生無滅無化。無自無他第一無二非化非不化。非相非無相。無來無去。如虛空故。一切衆生無生無滅無縛解。非因非果非不因果。煩惱我人知見受者我所者。一切苦受行空故。一切法集幻化五陰。無合無散法同法性。寂然空故。法境界空。空無相不轉不顚倒。不順幻化。無三寶無聖人無六道。如虛空故。般

洗三本俱作灑
返同作反
類同作生
坐同作座
天三本俱作大
言同作解
相非同作無一字〇去上滅上六上同並無無字

道下同有相字
諸下同無佛字
渧同作滴
集同作習
佛上同有諸字
十上同無有字
義理同作理義
衆上同無是字
出上三本俱無未字
名下同無相字

若無知無見。不行不緣不因不受。不得一切照相故。行道斯行道相如虛空故。法相如是。何可有心得無心得。是以般若功德。不可衆生中行而行。不可五陰法中行而行。不可境中行而行。不可解中行而行。是故般若不可思議。而一切諸佛菩薩於中行。故亦不可思議。一切諸如來於幻化無住法中化。亦不可思議。善男子。此功德藏。假使無量恒河沙第十三灌頂開士。說是功德。百千億分中。如王所說如海一渧。我今略述分義功德。有大利益一切衆生。亦爲過去來今無量諸如來之所述。可三賢十聖讚歎無量。是月光王分義功德。善男子。是十四法門。三世一切衆生一切三乘一切諸佛之所修集。未來諸佛亦復如是。若一切諸佛菩薩不由此門得薩婆若者無有是處。何以故。一切佛及菩薩無異路故。是故一切諸善男子。若有人聞諸忍法門信忍止忍堅忍善覺忍離達忍明慧忍簇慧忍勝慧忍法現忍遠達忍等覺忍慧光忍灌頂忍圓覺忍者。是人超過百劫千劫無量恒河沙生生苦難。入此法門現身得報。時諸衆中有十億同名虛空藏海菩薩。歡喜法樂。各各散華於虛空中。變成無量華臺。上有無量大衆。說十四正行。十八梵六欲天王。亦散寶華各坐虛空臺上。說十四正行。受持讀誦解其義理無量諸鬼神。現身修行般若波羅蜜。佛告大王。汝先言。云何衆生相可化。若以幻化身見幻化者。是菩薩眞行化衆生衆生識初一念識異木石。生得善生得惡。惡爲無量惡識本。善爲無量善識本。初一念金剛終一念。於中生不可說不可說識成衆生色心是衆生根本。色名色蓋。心名識蓋想蓋受蓋行蓋。蓋者陰覆爲用。身名積聚。大王。此一色法生無量色。眼所得爲色。耳所得爲聲。鼻所得爲香。舌得爲味。身得爲觸。堅持名地。水名潤。火名熱。輕動名風。生五識處名根。如是一色一心。有不可思議色心。大王。凡夫六識麤故。得假名青黃方圓等無量假色法。聖人六識淨故。得實法色香味觸一切實色法。衆生者。世諦之名也。若有若無但生衆生憶念。名爲世諦。世諦假誑幻化故有。乃至六道幻化衆生見幻化。幻化見幻化。婆羅門剎利毘舍首陀。神我等色心。名爲幻諦。幻諦法無。佛未出世前無名字無義名。幻法幻化無名字無體相。無三界名字。無善惡果報六道名字。大王。是故佛佛出現於世。爲衆生故。說作三界六道名字。是名無量名字。如空法四大法心法色法。相續假法非一非異。一亦不續異亦不續非一非異故。名相續諦。相待假法一切名相待。亦名不定相待。如五色等法。有無一切等法。一切法皆緣成假成

衆生。俱時因果時異因果。三世善惡一切幻化。是幻諦衆生。大王。若菩薩如上所見衆生幻化。皆是假誑如空中華。十住菩薩諸佛五眼。如幻諦而見菩薩化衆生。爲若此。說此法時有無量天子及諸大衆得伏忍者。得空無生忍乃至一地十地不可說德行

仁王般若波羅蜜護國經二諦品第四

爾時波斯匿王言。第一義諦中有世諦不。若言無者。智不應二。若言有者智不應一。一二之義其事云何。佛告大王。汝於過去七佛。已問一義二義。汝今無聽我今無說。無聽無說。卽爲一義二義故。諦聽諦聽善思念之。如法修行七佛偈如是

無相第一義　無自無他作　因緣本自有　無自無他作　法性本無性　第一義空如　諸有本有法
三假集假有　無無諦實無　寂滅第一空　諸法因緣有　有無義如是　有無本自二　譬若牛二角
照解見無二　二諦常不卽　解心見不二　求二不可得　非謂二諦一　非二何可得　於解常自一
於諦常自二　通達此無二　眞入第一義　世諦幻化起　譬如虛空華　如影三手無　因緣故誑有
幻化見幻化　衆生名幻諦　幻師見幻法　諦實則皆無　名爲諸佛觀　菩薩觀亦然

大王。菩薩摩訶薩於第一義中。常照二諦化衆生。佛及衆生一而無二。何以故。以衆生空故得置菩提空。以菩提空故得置衆生空。以一切法空故空空。何以故。般若無相。二諦虛空般若空。從無明乃至薩婆若。無自相無他相故。五眼成就時見無所見。行亦不受。不行亦不受。非行非不行亦不受。乃至一切法亦不受。菩薩未成佛時以菩提爲煩惱。菩薩成佛時以煩惱爲菩提。何以故。於第一義而不二故。諸佛如來乃至一切法如故。白佛言。云何十方諸如來一切菩薩不離文字而行諸法相。大王。法輪者。法本如。重誦如。受記如。不誦偈如。無問而自說如。戒經如。譬喩如。法界如。本事如。方廣如。未曾有如。論義如。是名味句音聲果文字記句一切如。若取文字者不行空也。大王。如如文字修諸佛智母。一切衆生性根本智母。卽爲薩婆若體。諸佛未成佛。以當佛爲智母。未得爲性。已得

是同作已
說此法時同作時諸
一上同無第字
從同作於

上薩三本俱無爲字○非非宋作非爲非三字明作爲非○修上宋無爲字○修下元有爲修二字○文字明作修無修三字
受上三本俱無應當二字
超同作起

爲薩婆若。三乘般若。不生不滅自性常住。一切衆生。以此爲覺性故。若菩薩無受無文字。離文字非非文字。修無修爲修文字者。得般若眞性般若波羅蜜。大王。若菩薩護佛。護化衆生。護十地行爲若此。白佛言。無量品衆生根亦無量。行亦無量。法門爲一爲二。爲無量耶。大王。一切法觀門。非一非二。乃有無量一切法。亦非有相非非無相。若菩薩見衆生見一見二。卽不見一不見二。一二者第一義諦也。大王。若有若無者卽世諦也。以三諦攝一切法。空諦色諦心諦故。我說一切法不出三諦。我人知見五受陰空乃至一切法空。衆生品品根行不同故。非一非二法門。大王。七佛說摩訶般若波羅蜜。我今說般若波羅蜜。無二無別。汝等大衆。應當受持讀誦解說是經功德。有無量不可說不可說諸佛。一一佛敎化無量不可說衆生。一一衆生皆得成佛。是佛復敎化無量不可說衆生。皆得成佛。是上三佛說般若波羅蜜經八萬億偈。於一偈中復分爲千分。於一分中說一分句義不可窮盡。況復於此經中起一念信。是諸衆生超百劫千劫十地等功德。何況受持讀誦解說者功德。卽十方諸佛等無有異。當知是人卽是如來得佛不久。時諸大衆聞說是經。十億人得三空忍。百萬億人得大空忍十地性。大王。此經名爲仁王問般若波羅蜜經。汝等受持般若波羅蜜經。是經復有無量功德。名爲護國土功德。亦名一切國土法藥服行無不大用護舍宅功德。亦護一切衆生身。卽此般若波羅蜜。是護國土如城塹牆壁刀劍鉾楯。汝應受持般若波羅蜜。亦復如是

佛說仁王般若波羅蜜經卷上

佛說仁王般若波羅蜜經卷下

〔麗羽〕〔宋翔〕〔元翔〕〔明翔〕

姚秦三藏鳩摩羅什譯

護國品第五

爾時佛告大王。汝等善聽。吾今正說護國土法用。汝當受持般若波羅蜜。當國土欲亂破壞劫燒賊來破國時。當請百佛像百菩薩像百羅漢像。百比丘衆。四大衆七衆共聽。請百法師講般若波羅蜜。百師子吼高座前燃百燈。燒百和香。百種色花。以用供養三寶。三衣什物供養法師。小飯中食亦復以時。大王。一日二時講讀此經。汝國土中有百部鬼神。是一一部復有百部樂聞是經。此諸鬼神護汝國土。大王。國土亂時先鬼神亂。鬼神亂故萬民亂。賊來劫國百姓亡喪。臣君太子王子百官共生是非。天地恠異二十八宿。星道日月失時失度。多有賊起。大王。若火難水難風難一切諸難。亦應講讀此經。法用如上說。大王。不但護國亦有護福。求富貴官位七寶如意行來。求男女。求慧解名聞。求六天果報人中九品果樂。亦講此經。法用如上說。大王不但護福。亦護衆難。若疾病苦難。杻械枷鎖檢繫其身。破四重罪。作五逆因。作八難罪。行六道事。一切無量苦難。亦講此經。法用如上說。大王。昔日有王。釋提桓因爲頂生王。來上天欲滅其國。時帝釋天王卽如七佛法。用敷百高座請百法師。講般若波羅蜜。頂生卽退如滅罪經中說。大王。昔有天羅國王。有一太子欲登王位。一名班足。太子爲外道羅陀師受敎。應取千王頭以祭家神自登其位。已得九百九十九王少一王。卽北行萬里。卽得一王名普明王。其普明王白班足王言。願聽一日飯食沙門頂禮三寶。其班足王許之一日。時普明王卽依過去七佛法。請百法師敷百高座。一日二時講般若波羅蜜八千億偈竟。其第一法師。爲普明王而說偈言

劫燒終訖　乾坤洞然　須彌巨海　都爲灰颺　天龍福盡　於中彫喪　二儀尙殞　國有何常
生老病死　輪轉無際　事與願違　憂悲爲害　欲深禍重　瘡疣無外　三界皆苦　國有何賴

講下三本俱無讀此二字
講下同無讀字
樂同作報〇護元作獲
普明王而三本俱作王卽二字〇颺同作颶〇彫同作凋

有本自無　因緣成諸　盛者必衰　實者必虛　衆生蠢蠢　都如幻居　聲響俱空　國土亦如
識神無形　假乘四馳　無明寶象　以爲樂車　形無神主　神無常家　形神尚離　豈有國耶

爾時法師說此偈已。時普明王眷屬得法眼空。王自證虛空等定。聞法悟解。還至天羅國班足王所衆中。即告九百九十九王言。就命時到。人人皆應誦過去七佛仁王問般若波羅蜜經中偈句。時班足王問諸王言。皆誦何法。時普明王。即以上偈答王。王聞是法得空三昧。九百九十九王亦聞法已皆證三空門定。時班足王極大歡喜。告諸王言。我爲外道邪師所誤。非君等過。汝可還本國各各請法師講般若波羅蜜名味句。時班足王以國付弟。出家爲道證無生法忍。如十王地中說。五千國王常誦是經現世生報。大王。十六大國王修護國之法。法應如是。汝當奉持。天上人中六道衆生。皆應受持七佛名味句。未來世中有無量小國王欲護國土亦復爾者。應請法師說般若波羅蜜。爾時釋迦牟尼佛說般若波羅蜜時。衆中五百億人得入初地。復有六欲諸天子八十萬人得性空地。復有十八梵王得無生忍。得無生法樂忍。復有先以學菩薩者。證一地二地三地乃至十地。復有八部阿須輪王得什三昧門。得三三昧門。得轉鬼身天上正受。在此會者皆得自性信乃至無量空信。吾今略說天等功德。不可具盡

仁王般若波羅蜜護國經散華品第六

爾時十六大國王。聞佛說十萬億偈般若波羅蜜歡喜無量。即散百萬億蓮華。於虛空中變爲一座。十方諸佛共坐此座。說般若波羅蜜。無量大衆共坐一座。持金羅華散釋迦牟尼佛上。成萬輪華蓋大衆上。復次八萬四千般若波羅蜜華。於虛空中變成白雲臺。臺中光明王佛。共無量衆說般若波羅蜜。臺中大衆持雷吼華。散釋迦牟尼佛及諸大衆。復散妙覺華於虛空中。變作金剛城。城中師子吼王佛共十方佛大菩薩論第一義諦。時城中菩薩持光明華散釋迦牟尼佛上。成一華臺。臺中十方佛。諸天散天華於釋迦牟尼佛上虛空中。成紫雲蓋覆三千大千世界。蓋中天人散恒河沙華如雲而下。時諸國王散華供已。願過去佛現在佛未來佛常說般若波羅蜜。願一

都明作常
馳三本俱作虵○寶象同作保養○證下同有得字
普上三本俱無時字○定元明俱作是
地三本俱作經○法應同作應亦○奉同作受
梵下同無王字○以同作已○十元明俱作一○三同作二
蓮三本俱作行
此同作一〇華下同有蓋字
衆上同有大字
佛下同有及字○天下同有人字○供下同有養字

切受持者比丘比丘尼信男信女所求如意常行般若波羅蜜。佛告大王。如是如是。如王所說。般若波羅蜜應說應受。是諸佛母諸菩薩母。神通生處。時佛爲王現五不思議神變。一華入無量華無量華入一華。一佛土入無量佛土無量佛土入一佛土。無量佛土入一毛孔土一毛孔土入無量毛孔土。無量須彌無量大海入芥子中。一佛身入無量衆生身無量衆生身入一佛身。入六道身。入地水火風身。佛身不可思議。衆生身不可思議。世界不可思議。佛現神足時。十方諸天人得佛華三昧。十恒河沙菩薩現身成佛。三恒河沙八部王成菩薩道。十千女人現身得神通三昧。善男子。是般若波羅蜜有三世利益。過去已說現在今說未來當說。諦聽諦聽善思念之如法修行

仁王般若波羅蜜護國經受持品第七

爾時月光心念口言。見釋迦牟尼佛現無量神力。亦見千華臺上寶滿佛。是一切佛化身主。復見千華葉世界上佛。其中諸佛各各說般若波羅蜜。白佛言。如是無量般若波羅蜜。不可說不可解。不可以識識。云何諸善男子。於是經中明了覺解。如法爲一切衆生開空法道。大牟尼言。有修行十三觀門諸善男子。爲大法王。從習忍至金剛頂。皆爲法師依持建立。汝等大衆應如佛供養而供養之。應持百萬億天華天香而以奉上。善男子。其法師者是習種性菩薩。若在家婆差優婆差若出家比丘比丘尼修行十善。自觀己身地水火風空識分分不淨。復觀十四根。所謂五情五受男女意命等。有無量罪過故。卽發無上菩提心。常修三界一切念念皆不淨。故得不淨忍觀門。住在佛家修六和敬。所謂三業同戒同見同學。行八萬四千波羅蜜道。善男子。習忍以前行十善菩薩。有退有進。譬如輕毛隨風東西。是諸菩薩亦復如是。雖以十千劫行十正道發三菩提心乃當入習忍位。亦當學三伏忍法。而不可名字是不定人。是定人者入生空位。聖人性故。必不起五逆六重二十八輕。佛法經書作返逆罪言非佛說無有是處。能以一阿僧祇劫。修伏道忍始。行得入僧伽陀位。復次性種性行十慧觀。滅十顚倒。及我人知見分分假僞。但有名但有受。但有法不可得。無定相無自他相故。修護空觀。亦觀亦行百萬波羅蜜。念念不去心。以二

光下三本俱有王字

是同作此

差憂婆差同作蹉優婆蹉○善同作信○等下同有根字

名字同作字名○返同作反

觀亦同作常一字

入下同有第十二字

無上同無無字

知照功同作智照巧

羅下三本俱無位字

達同作於

習同作集○二下同無故字○於同作作○生下同無忍字○忍下同無者名乃至忍中十五字

阿僧祇劫。行十正道法住波羅陀位。復次道種性住堅忍中。觀一切法無生無住無滅。所謂五受三界二諦無自他相。如實性不可得故。而常入第一義諦。心心寂滅而受生三界。何以故。業習果報未壞盡故順道生。復以三阿僧祇劫。修八萬億波羅蜜。當得平等聖人地故。住阿毗跋致正位。復次善覺摩訶薩。住平等忍修行四攝念念不去。心入無相捨滅三界貪煩惱。於第一義諦而不二。爲法性無爲。緣理而滅一切相故。爲智緣滅無相無爲。住初忍時。未來無量生死不由智緣而滅故。非智緣滅。無相無爲無自他相。無無相故。無量方便皆現前。觀實相方便者。於第一義諦。不沈不出不轉不顚倒。遍學方便者。非證非不證而一切學。廻向方便者。非住果非不住果而向薩婆若。魔自在方便者。於非道而行佛道。四魔所不動。一乘方便者。於不二相。通達衆生一切行故。變化方便者。以願力自在生一切淨佛國土。如是善男子。是初覺智於有無相而不二。是實知照功用不證。不沈不出不到。是方便觀。譬如水之與波不一不異。乃至一切行波羅蜜禪定陀羅尼。不一不二故。而一一行成就。以四阿僧祇劫行行故。入此功德藏門。無三界業習生故。畢故不造新。以願力故變化生一切淨土。常修捨觀故。登鳩摩羅伽位。以四大寶藏常授與人。復次德慧菩薩。以四無量心。滅三有瞋等煩惱住中忍中。行一切功德故。以五阿僧祇劫行大慈觀。心心常現在前。入無相闍陀波羅位化一切衆生。復次明慧道人。常以無相忍中行三明觀。知三世法無來無去無住處。心心寂滅盡三界癡煩惱。得三明一切功德觀故。常以六阿僧祇劫。集無量明波羅蜜故。入伽羅陀位。無相行受持一切法。復次爾燄聖覺達菩薩。修行順法忍。逆五見流。集無量功德住須陀洹位。常以天眼天耳宿命他心身通達。念念中滅三界一切見。亦以七阿僧祇劫行五神通。恒河沙波羅蜜常不離心。復次勝達菩薩。於順道忍以四無畏。觀那由他諦內道論外道論藥方工巧咒術故。我是一切智人。滅三界疑等煩惱故。我相已盡知地地有所出故名出道。有所不出故名障道。逆三界疑。修習無量功德故。卽入斯陀含位。復集行八阿僧祇劫中行諸陀羅尼門故。常行無畏觀不去心。復次常現眞實住順忍中。作中道觀。盡三界集因集業一切煩惱故。觀非有非無一相無相而無二故。證阿那含位。復於九阿僧祇劫集照明中道故。樂力生一切佛國土。復次玄達菩薩。十阿僧祇劫中。修無生忍法樂忍者名爲縛忍。順一切道生而一心忍中滅三界習因業果。住後身中

登同作能

淨三眼同作三昧二字

登同作證

欲滅三本俱作滅盡○般上同無是字

可元作災同下明有畏字

爲明作七○返三本俱作反下同

刀宋作刁○諸三本俱作等○讀同作講○讀下同有誦字

無量功德皆成就。無生智盡智五分法身皆滿足。住第十地阿羅漢梵天位。常行三空門觀百千萬三昧。具足弘化法藏。復次等覺者住無生忍中。觀心心寂滅而無相相無身身無知知而用心乘於群方之方。憺怕住於無住之住。在有常修空。處空常萬化。雙照一切法故。知是處非是處。乃至一切智十力觀故。而登摩訶羅伽位。化一切國土衆生。千阿僧祇劫行十力法。心心相應常入見佛三昧。復次慧光神變者。住上上無生忍滅心心相。法眼見一切法。淨三眼色空見。以大願力常生一切淨土。萬阿僧祇劫集無量佛光三昧。而能現百萬恒河沙諸佛神力。住婆伽梵位。亦常入佛華三昧。復次觀佛菩薩。住寂滅忍者。從始發心至今經百萬阿僧祇劫。修百萬阿僧祇劫功德故。登一切法解脫住金剛臺。善男子。從習忍至頂三昧。皆名爲伏一切煩惱。而無相信。滅一切煩惱生解脫。智照第一義諦。不名爲見。所謂見者是薩婆若。是故我從昔以來常說。惟佛所知見覺。頂三昧以下至於習忍。所不知不見不覺。唯佛頓解不名爲信。漸漸伏者。慧雖起滅。以能無生無滅。此心若滅則累無不滅。無生無滅入理盡金剛三昧。同眞際等法性。而未能等無等等。譬如有人登大高臺下觀一切無不斯了。住理盡三昧。亦復如是。常修一切行滿功德藏。入婆伽度位。亦復常住佛慧三昧。善男子。如是諸菩薩。皆能一切十方諸如來國土中化衆生。正說正義受持讀誦解達實相。如我今日等無有異。佛告波斯匿王。我當滅度後法欲滅時。受持是般若波羅蜜大作佛事。一切國土安立萬姓快樂。皆由此般若波羅蜜。是故付囑諸國王。不付囑比丘比丘尼淸信男淸信女。何以故。無王力故。故不付囑。汝當受持讀誦解其義理。大王。吾今所化百億須彌百億日月。一一須彌有四天下。其南閻浮提有十六大國。五百中國十千小國。其國土中有七可難。一切國王爲是難故。講讀般若波羅蜜。七難卽滅七福卽生。萬姓安樂帝王歡喜。云何爲難。日月失度。時節返逆。或赤日出黑日出。二三四五日出。或日蝕無光。或日輪一重二三四五重輪現。當變恠時讀說此經。爲一難也。二十八宿失度。金星彗星輪星鬼星火星水星風星刀星南斗北斗五鎭大星一切國主星三公星百官星。如是諸星各各變現。亦讀說此經。爲二難也。大火燒國萬姓燒盡。或鬼火龍火天火山神火人火樹木火賊火。如是變恠。亦讀說此經。爲三難也。大水㵱沒百姓。時節返逆。冬雨夏雪。冬時雷電霹靂。六月雨冰霜雹。雨赤水黑水青水。雨土山石山。雨沙礫石。江河逆流。浮山流

讀下同有說字○讀下同有誦字
於宋元俱作放明作施
帳下三本俱有帳字○故同作爲
國上同無有諸二字○護同作受
千宋明俱作十
形像三本俱作像形
舍上同有吼舍離國四字○伽上同無彌提同三字○挐同作拏○切下同無諸字○國下同無王等皆應四字○阿上同無及字○故同作爲

石。如是變時亦讀說此經。爲四難也。大風吹殺萬姓。國土山河樹木一時滅沒。非時大風黑風赤風青風天風地風火風。如是變時亦讀此經。爲五難也。天地國土亢陽炎火洞然。百草亢旱五穀不登。土地赫然萬姓滅盡。如是變時亦讀此經。爲六難也。四方賊來使國內外賊起。火賊水賊風賊鬼賊。百姓荒亂刀兵劫起。如是恠時亦讀此經。爲七難也。大王。是般若波羅蜜。是諸佛菩薩一切衆生心識之神本也。一切國王之父母也。亦名神符。亦名辟鬼珠。亦名如意珠。亦名護國珠。亦名天地鏡。亦名龍寶神王。佛告大王。應作九色幡長九丈。九色華高二丈。千支燈高五丈。九玉箱九玉巾。亦作七寶案以經置上。若王行時常於其前足一百步。是經常放千光明。令千里內七難不起罪過不生。若王住時作七寶帳。中七寶高座以經卷置上。日日供養散華燒香。如事父母如事帝釋。大王。我今五眼明見三世。一切國王皆由過去侍五百佛。得爲帝王主。是故一切聖人羅漢。而爲來生彼國作大利益。若王福盡時。一切聖人皆爲捨去。若一切聖人去時七難必起。大王。若未來世有諸國王護持三寶者。我使五大力菩薩往護其國。一金剛吼菩薩。手持千寶相輪往護彼國。二龍王吼菩薩。手持金輪燈往護彼國。三無畏十力吼菩薩。手持金剛杵往護彼國。四雷電吼菩薩。手持千寶羅網往護彼國。五無量力吼菩薩。手持五千劍輪往護彼國。五大士五千大神王。於汝國中大作利益。當立形像而供養之。大王。吾今三寶付囑汝等一切諸王。憍薩羅國。舍衞國。摩竭提國。波羅柰國。迦夷羅衞國。鳩尸那國。鳩睒彌國。鳩留國。罽賓國。彌提國。伽羅乾國。乾陀衞國。沙陀國。僧伽陀國。犍挐掘闍國。波提國。如是一切諸國王等皆應受持般若波羅蜜。時諸大衆及阿須輪王。聞佛說未來世七可畏。身毛爲竪。呼聲大叫而言。願不生彼國。時十六大國王。卽以國事付弟出家修道。觀四大四色勝出相。四大四色不用識空入行相。三十忍初地相。第一義諦九地相。是故大王捨凡夫身入六住身。捨七報身入八法身。證一切行般若波羅蜜。十八梵天阿須輪王。得三乘觀同無生境。復散華供養空華法性華聖人華順華無生華法樂華金剛華緣觀中道華三十七品華。而散佛上及九百億大菩薩衆。其餘一切衆證道迹果。散心空華心樹華六波羅蜜華妙覺華。而散佛上及一切衆。十千菩薩念來世衆生。卽證妙覺三昧。圓明三昧。金剛三昧。世諦三昧。眞諦三昧。第一義諦三昧。此三諦三昧。是一切三昧王三昧。亦得無量三昧。七財三昧。二十五有三昧。

汝下同無等字○男下同無無字

坐同作座

罪下同有過字

王下同無大臣二字

響應聲三本俱作影如響

家下同無行道二字

一切行三昧。復有十億菩薩登金剛頂現成正覺

仁王般若波羅蜜護國經囑累品第八

佛告波斯匿王。我誡敕汝等。吾滅度後。八十年八百年八千年中。無佛無法無僧。無信男無信女時。此經三寶。付囑諸國王四部弟子。受持讀誦解義。為三界衆生開空慧道。修七賢行十善行。化一切衆生。後五濁世比丘比丘尼四部弟子。天龍八部一切神王國王大臣太子王子。自恃高貴滅破吾法。明作制法制我弟子比丘比丘尼。不聽出家行道。亦復不聽造作佛像形佛塔形。立統官制衆安籍記僧。比丘地立白衣高坐。兵奴為比丘受別請法。知識比丘。共為一心親善比丘為作齋會。求福如外道法。都非吾法。當知爾時正法將滅不久。大王。壞亂吾道。是汝等作。自恃威力。制我四部弟子。百姓疾病無不苦難。是破國因緣。說五濁罪窮劫不盡。大王。法末世時有諸比丘四部弟子。國王大臣多作非法之行。横與佛法衆僧作大非法。作諸罪過非法非律。繫縛比丘如獄囚法。當爾之時法滅不久。大王。我滅度後未來世中四部弟子。諸小國王太子王子。乃是住持護三寶者。轉更滅破三寶。如師子身中蟲自食師子。非外道也。多壞我佛法得大罪過。正教衰薄民無正行以漸為惡。其壽日減至于百歲。人壞佛教無復孝子。六親不和天神不祐。疾疫惡鬼日來侵害。災恠首尾連禍縱横。死入地獄餓鬼畜生。若出為人兵奴果報如響應聲。如人夜書火滅字存。三界果報亦復如是。大王。未來世中一切國王太子王子四部弟子。横與佛弟子書記制戒。如白衣法如兵奴法。若我弟子比丘比丘尼。立籍為官所使。都非我弟子。是兵奴法。立統官攝僧典主僧籍。大小僧統共相攝縛。如獄囚法兵奴之法。當爾之時佛法不久。大王。未來世中諸小國王四部弟子。自作此罪破國因緣。身自受之非佛法僧。大王。未來世中流通此經。七佛法器十方諸佛常所行道。諸惡比丘多求名利。於國王太子王子前。自說破佛法因緣破國因緣。其王不別信聽此語。横作法制不依佛戒。是為破佛破國因緣。當爾之時正法不久。爾時十六大國王。聞佛七誡所說未來世事。悲啼涕出聲動三千。日月五星二十八宿失光不現。時諸王等各各至心受持佛語。不制四部弟子出家行道。當如佛教。爾時大衆十八梵天王。六欲

梵下同無王字〇王下同無等字（說上同無所字）佛下同無果字〇國下同無土字

諸天子歎言。當爾之時世間空虛是無佛世。爾時無量大衆中。百億菩薩彌勒師子月等百億舍利弗須菩提等。五百億十八梵王。六欲諸天。三界六道。阿須輪王等。聞佛所說護佛果因緣護國土因緣。歡喜無量爲佛作禮。受持般若波羅蜜

佛說仁王般若波羅蜜經卷下

般若波羅蜜多心經

〔麗羽〕〔宋翔〕〔元翔〕〔明翔〕

唐三藏法師玄奘譯

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識亦復如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中無色。無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界。乃至無意識界。無無明。亦無無明盡。乃至無老死。亦無老死盡。無苦集滅道。無智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離一切顚倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅蜜多。是大神呪。是大明呪。是無上呪。是無等等呪。能除一切苦。眞實不虛故。說般若波羅蜜多呪。即說呪曰

揭帝揭帝　般羅揭帝　般羅僧揭帝　菩提僧莎訶

般若波羅蜜多心經

譯號宋無唐字（一）奘下三本俱有奉詔二字

帝三本俱作諦下同（二）般同作波次同（三）僧同作薩（四）莎同作婆

勝鬘師子吼一乘大方便方廣經

〔麗裳〕〔宋推〕〔元推〕〔明推〕

宋中印度三藏求那跋陀羅譯

如來眞實義功德章第一

如是我聞。一時佛住舍衞國祇樹給孤獨園。時波斯匿王及末利夫人。信法未久共相謂言。勝鬘夫人是我之女。聰慧利根通敏易悟。若見佛者必速解法心得無疑。宜時遣信發其道意。夫人白言。今正是時。王及夫人與勝鬘書略讃如來無量功德。卽遣內人名旃提羅。使人奉書至阿踰闍國入其宮內敬授勝鬘。勝鬘得書歡喜頂受。讀誦受持生希有心。向旃提羅而說偈言

我聞佛音聲　世所未曾有　所言眞實者　應當修供養
仰惟佛世尊　普爲世間出　亦應垂哀愍　必令我得見
卽生此念時　佛於空中現　普放淨光明　顯示無比身
勝鬘及眷屬　頭面接足禮　咸以清淨心　歎佛實功德
如來妙色身　世間無與等　無比不思議　是故今敬禮
如來色無盡　智慧亦復然　一切法常住　是故我歸依
降伏心過惡　及與身四種　已到難伏地　是故禮法王
知一切爾焰　智慧身自在　攝持一切法　是故今敬禮
敬禮過稱量　敬禮無譬類　敬禮無邊法　敬禮難思議
哀愍覆護我　令法種增長　此世及後生　願佛常攝受
我久安立汝　前世已開覺　今復攝受汝　未來生亦然
我已作功德　現在及餘世　如是衆善本　唯願見攝受

爾時勝鬘及諸眷屬。頭面禮佛。佛於衆中卽爲受記。汝歎如來眞實功德。以此善根當於無量阿僧祇劫。天人之中爲自在王。一切生處常得見我。現前讃歎如今無異。當復供養無量阿僧祇佛。過二萬阿僧祇劫。當得作佛。號普光如來應正遍知。彼佛國土。無諸惡趣老病衰惱不適意苦。亦無不善惡業道名。彼國衆生色力壽命五欲衆具皆悉快樂。勝於他化自在諸天。彼諸衆生純一大乘。諸有修習善根衆生皆集於彼。勝鬘夫人得受記時。無

譯號宋上元明俱有劉字中印度三本俱作天竺二字〇此章以下至第十五章三本俱並無章目

焰三本俱作炎

受同作授次同

量衆生諸天及人願生彼國。世尊悉記皆當往生

十受章第二

爾時勝鬘聞受記已。恭敬而立受十大受。世尊。我從今日乃至菩提。於所受戒不起犯心。世尊。我從今日乃至菩提。於諸尊長不起慢心。世尊。我從今日乃至菩提。於諸衆生不起恚心。世尊。我從今日乃至菩提。於他身色及外衆具不起疾心。世尊。我從今日乃至菩提。於內外法不起慳心。世尊。我從今日乃至菩提。不自爲己受畜財物。凡有所受悉爲成熟貧苦衆生。世尊。我從今日乃至菩提。不自爲己行四攝法。爲一切衆生故。以無愛染心無厭足心無罣礙心。攝受衆生。世尊。我從今日乃至菩提。若見孤獨幽繫疾病種種厄難困苦衆生。終不暫捨。必欲安隱。以義饒益令脫衆苦。然後乃捨。世尊。我從今日乃至菩提。若見捕養衆惡律儀及諸犯戒。終不棄捨我得力時。於彼彼處見此衆生。應折伏者而折伏之。應攝受者而攝受之。何以故。以折伏攝受故。令法久住。法久住者。天人充滿惡道減少。能於如來所轉法輪。而得隨轉。見是利故救攝不捨。世尊。我從今日乃至菩提。攝受正法終不忘失。何以故。忘失法者則忘大乘。忘大乘者則忘波羅蜜。忘波羅蜜者則不欲大乘。若菩薩不決定大乘者。則不能得攝受正法。欲隨所樂入。永不堪任越凡夫地。我見如是無量大過。又見未來攝受正法菩薩摩訶薩。無量福利故。受此大受法主。世尊。現爲我證。雖佛世尊現前證知。而諸衆生善根微薄。或起疑網以十大受極難度故。彼或長夜非義饒益不得安樂。爲安彼故。今於佛前說誠實誓。我受此十大受。如說行者以此誓故。於大衆中當雨天花出天妙音。說是語時於虛空中。雨衆天花出妙聲言。如是如是如汝所說。眞實無異。彼見妙花及聞音聲。一切衆會疑惑悉除。喜踊無量而發願言。恒與勝鬘。常共俱會同其所行。世尊悉記一切大衆如其所願

三願章第三

爾時勝鬘。復於佛前發三大願而作是言。以此實願安隱無量無邊衆生。以此善根於一切生得正法智。是名第

疾同作嫉

救明作故

踊三本俱作躍

隱同作慰

一大願。我得正法智已。以無厭心爲衆生說。是名第二大願。我於攝受正法捨身命財護持正法。是名第三大願。

爾時世尊卽記勝鬘三大誓願。如一切色悉入空界。如是菩薩恒沙諸願。皆悉入此三大願中。此三願者眞實廣大

攝受章第四

爾時勝鬘白佛言。我今當復承佛威神說。調伏大願眞實無異。佛告勝鬘。恣聽汝說。勝鬘白佛。菩薩所有恒沙諸願。一切皆入一大願中。所謂攝受正法。攝受正法眞爲大願。佛讚勝鬘。善哉善哉。智慧方便甚深微妙。汝已長夜殖諸善本。來世衆生久種善根者。乃能解汝所說。汝之所說攝受正法。皆是過去未來現在諸佛已說今說當說。我今得無上菩提。亦常說此攝受正法。如是我說攝受正法所有功德不得邊際。如來智慧辯才亦無邊際。何以故。是攝受正法有大功德有大利益。勝鬘白佛。我當承佛神力更復演說攝受正法廣大之義。佛言便說。勝鬘白佛。攝受正法廣大義者。則是無量。得一切佛法。攝八萬四千法門。譬如劫初成時普興大雲雨衆色雨及種種寶。如是攝受正法。雨無量福報及無量善根之雨。世尊。又如劫初成時有大水聚。出生三千大千界藏及四百億種種類洲。如是攝受正法。出生大乘無量界藏。一切菩薩神通之力。一切世間安隱快樂。一切世間如意自在。及出世間安樂劫成。乃至天人本所未得皆於中出。又如大地持四重擔。何等爲四。一者大海。二者諸山。三者草木。四者衆生。如是攝受正法。善男子善女人。建立大地堪能荷負四種重任。踰彼大地。何等爲四。謂離善知識無聞非法衆生以人天善根而成熟之。求聲聞者授聲聞乘。求緣覺者授緣覺乘。求大乘者授以大乘。是名攝受正法。善男子善女人。建立大地堪能荷負四種重任。世尊。如是攝受正法。善男子善女人。建立大地堪能荷負四種重任普爲衆生作不請之友。大悲安慰哀愍衆生。爲世法母。又如大地有四種寶藏。何等爲四。一者無價。二者上價。三者中價。四者下價。是名大地四種寶藏。如是攝受正法善男子善女人。建立大地得衆生四種最上大寶。何等爲四。攝受正法善男子善女人。無聞非法衆生以人天功德善根而授與之。求聲聞者授聲聞乘。求緣覺者授緣覺

天下元明俱有功德二字

乘.求大乘者授以大乘.如是得大寶衆生.皆由攝受正法.善男子善女人.得此奇特希有功德.世尊.大寶藏者.卽是攝受正法.世尊.攝受正法.攝受正法者.無異正法.無異攝受正法.正法卽是攝受正法.世尊.無異波羅蜜.無異攝受正法.攝受正法卽是波羅蜜.何以故.攝受正法善男子善女人.應以施成熟者.以施成熟.乃至捨身支節.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名檀波羅蜜.應以戒成熟者.以守護六根淨身口意業乃至正威儀.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名尸波羅蜜.應以忍成熟者.若彼衆生罵詈毀辱誹謗恐怖.以無恚心饒益心第一忍力.乃至顏色無變.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名羼提波羅蜜.應以精進成熟者.於彼衆生不起懈心生大欲心第一精進.乃至苦四威儀.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名毗梨耶波羅蜜.應以禪成熟者.於彼衆生以不亂心不外向心第一正念.乃至久時所作久時所說終不忘失.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名禪波羅蜜.應以智慧成熟者.彼諸衆生問一切義以無畏心而爲演說.一切論一切工巧究竟明處.乃至種種工巧諸事.將護彼意而成熟之.彼所成熟衆生建立正法.是名般若波羅蜜.是故世尊.無異波羅蜜.無異攝受正法.攝受正法卽是波羅蜜.世尊.我今承佛威神更說大義.佛言便說.勝鬘白佛.攝受正法攝受正法者.無異攝受正法無異攝受正法者.攝受正法善男子善女人.卽是攝受正法.何以故.若攝受正法善男子善女人.爲攝受正法.捨三種分.何等爲三.謂身命財.善男子善女人.捨身者生死後際等.離老病死.得不壞常住無有變易不可思議功德如來法身.捨命者生死後際等.畢竟離老病死.得無邊常住不可思議功德.通達一切甚深佛法.捨財者生死後際等.得不共一切衆生無盡無減畢竟常住不可思議具足功德.得一切衆生殊勝供養.世尊.如是捨三分.善男子善女人.攝受正法.常爲一切諸佛所記.一切衆生之所瞻仰.世尊.又善男子善女人.攝受正法者.法欲滅時.比丘比丘尼.優婆塞優婆夷.朋黨諍訟破壞離散.以不諂曲不欺誑不幻僞愛樂正法.攝受正法.入法朋中.入法朋者.必爲諸佛之所授記.世尊.我見攝受正法如是大力.佛爲實眼實智.爲法根本.爲通達法.爲正法依.亦悉知見.爾時世尊.於勝鬘所說攝受正法大精進力.起隨喜心.如是勝鬘.如汝所說.攝受正法大精進力.如大力士少觸身分生大苦痛.如是勝鬘.少攝受正法令魔

心三本俱作怠

承明作乘

三下元明俱有種字

苦惱。我不見餘一善法令魔憂苦如少攝受正法。又如牛王形色無比勝一切牛。如是大乘少攝受正法。勝於一切二乘善根。以廣大故。又如須彌山王端嚴殊特勝於衆山。如是大乘捨身命財。以攝取心攝受正法。勝不捨身命財初住大乘一切善根。何況二乘。以廣大故。是故勝鬘當以攝受正法。開示衆生教化衆生建立衆生。如是勝鬘。攝受正法。如是大利。如是大福。如是大果。勝鬘。我於阿僧祇阿僧祇劫說攝受正法功德義利不得邊際。是故攝受正法。有無量無邊功德

一乘章第五

佛告勝鬘。汝今更說一切諸佛所說攝受正法。勝鬘白佛。善哉世尊。唯然受教。即白佛言。世尊。攝受正法者是摩訶衍。何以故。摩訶衍者。出生一切聲聞緣覺世間出世間善法。世尊。如阿耨達池出八大河。如是摩訶衍。出生一切聲聞緣覺世間出世間善法。世尊。又如一切種子皆依於地而得生長。如是一切聲聞緣覺世間出世間善法。依於大乘而得增長。是故世尊。住於大乘攝受大乘。即是住於二乘攝受二乘一切世間出世間善法。如世尊說六處。何等爲六。謂正法住。正法滅。波羅提木叉。比尼出家受具足。爲大乘故說此六處。何以故。正法住者。爲大乘故說。大乘住者。即正法住。正法滅者。爲大乘故說。大乘滅者。即正法滅。波羅提木叉比尼。此二法者。義一名異。比尼者即大乘學。何以故。以依佛出家而受具足。是故說大乘威儀戒。是比尼是出家是受具足。是故阿羅漢。無出家受具足。何以故。阿羅漢依如來出家受具足故。阿羅漢歸依於佛。阿羅漢有恐怖。何以故。阿羅漢於一切無行怖畏想住。如人執劍欲來害己。是故阿羅漢無究竟樂。何以故。世尊。依不求依如衆生無依彼彼恐怖。以恐怖故則求歸依。如阿羅漢有怖畏。以怖畏故。依於如來。世尊。阿羅漢辟支佛有怖畏。是故阿羅漢辟支佛。有餘生法不盡故。有生有餘梵行不成。故不純事。不究竟故。當有所作不度彼故。當有所斷以不斷故。去涅槃界遠。何以故。唯有如來應正等覺得般涅槃。成就一切功德故。阿羅漢辟支佛。不成就一切功德。言得涅槃者。是佛方便。唯有如來得般涅槃。成就無量功德故。阿羅漢辟支佛。成就有量功德。言得涅槃者。是佛方便。唯有如來得般涅槃。成就

祇下三本俱無阿僧祇三字○故下明有勝鬘二字

比三本俱作毗下同

無下同有別字

如下同有是字○怖同作恐行下同無不字

正等同作等正

淨下三本俱有故字
段宋元俱作叚次同
辦同作辨次同
生下三本俱有身字
間下三本俱有於字

不可思議功德故阿羅漢辟支佛成就思議功德。言得涅槃者。是佛方便。唯有如來得般涅槃。一切所應斷過皆悉斷滅。成就第一清淨。阿羅漢辟支佛有餘過。非第一清淨。言得涅槃者。是佛方便。唯有如來得般涅槃。爲一切衆生之所瞻仰。出過阿羅漢辟支佛菩薩境界。是故阿羅漢辟支佛。去涅槃界遠。言阿羅漢辟支佛觀察解脫四智究竟得蘇息處者。亦是如來方便。有餘不了義說。何以故。有二種死。何等爲二。謂分段死。不思議變易死。分段死者。謂虛僞衆生。不思議變易死者。謂阿羅漢辟支佛大力菩薩意生身。乃至究竟無上菩提。二種死中。以分段死故。說阿羅漢辟支佛智。我生已盡。得有餘果證故。說梵行已立。凡夫人天所不能辦。七種學人。先所未作。虛僞煩惱斷故。說所作已辦。阿羅漢辟支佛所斷煩惱。更不能受後有故。說不受後有。非盡一切煩惱。亦非盡一切受生故。說不受後有。何以故。有煩惱。是阿羅漢辟支佛所不能斷煩惱有二種。何等爲二。謂住地煩惱。及起煩惱。住地有四種。何等爲四。謂見一處住地。欲愛住地。色愛住地。有愛住地。此四種住地。生一切起煩惱。起者刹那心刹那相應。世尊。心不相應無始無明住地。世尊。此四住地力。一切上煩惱依種。比無明住地。算數譬喩所不能及。世尊。如是無明住地力。於有愛數四住地。無明住地。其力最大。譬如惡魔波旬。於他化自在天。色力壽命眷屬衆具自在殊勝。如是無明住地力。於有愛數四住地。其力最勝。恒沙等數上煩惱依。亦令四種煩惱久住。阿羅漢辟支佛智所不能斷。唯如來菩提智之所能斷。如是世尊。無明住地最爲大力。世尊。又如取緣有漏業因。而生三有。如是無明住地。緣無漏業因。生阿羅漢辟支佛大力菩薩三種意生身。此三地彼三種意生身生。及無漏業生。依無明住地。有緣非無緣。是故三種意生及無漏業緣無明住地。世尊如是。有愛住地。數四住地。不與無明住地業同。無明住地異離四住地。佛地所斷。佛菩提智所斷。何以故。阿羅漢辟支佛。斷四種住地。無漏不盡。不得自在力。亦不作證。無漏不盡者。卽是無明住地。世尊。阿羅漢辟支佛最後身菩薩。爲無明住地之所覆障故。於彼彼法不知不覺。以不知見故。所應斷者不斷不究竟。以不斷故。名有餘過解脫。非離一切過解脫。名有餘清淨。非一切清淨。名成就有餘功德。非一切功德。以成就有餘解脫。有餘清淨。有餘功德故。知有餘苦。斷有餘集。證有餘滅。修有餘道。是名得少分涅槃。得少分涅槃者。名向涅槃界。若知一切苦。斷一切集。證一切滅。修一切道。於無常壞世間。無

槃下同有界字

登同作證

向宋明俱作切

熖三本俱作炎

來下同有世尊二字

常病世間.得常住涅槃.於無覆護世間.無依世間.爲護爲依.何以故.法無優劣故得涅槃.智慧等故得涅槃.解脱等故得涅槃.清淨等故得涅槃.是故涅槃一味等味.謂解脱味.世尊.若無明住地.不斷不究竟者.不得一味等味.謂明解脱味.何以故.無明住地不斷不究竟者.過恒沙等所應斷法不斷不究竟.過恒沙等所應斷法不斷故.過恒沙等法應得不得應證不證.是故無明住地積聚生一切修道斷煩惱上煩惱.彼生心上煩惱.止上煩惱.觀上煩惱.禪上煩惱.正受上煩惱.方便上煩惱.智上煩惱.果上煩惱.得上煩惱.力上煩惱.無畏上煩惱.如是過恒沙等上煩惱.如來菩提智所斷.一切皆依無明住地之所建立.一切上煩惱起.皆因無明住地緣無明住地.世尊.於此起煩惱刹那心刹那相應.世尊.心不相應無始無明住地.世尊.若復過於恒沙如來菩提智所應斷法.一切皆是無明住地所持所建立.譬如一切種子皆依地生建立增長.若地壞者彼亦隨壞.如是過恒沙等如來菩提智所應斷法.一切皆依無明住地生.建立增長.若無明住地斷者.過恒沙等如來菩提智所應斷法.皆亦隨斷.如是一切煩惱上煩惱斷.過恒沙等如來所得一切諸法.通達無礙一切智見.離一切過惡.得一切功德法王法主.而得自在.登一切法自在之地.如來應等正覺正師子吼.我生已盡.梵行已立.所作已辦.不受後有.是故世尊.以師子吼依於了義.一向記説.世尊.不受後有智有二種.謂如來以無上調御.降伏四魔.出一切世間.爲一切衆生之所瞻仰.得不思議法身.於一切爾焰地得無礙法自在.於上更無所作無所得地.十力勇猛昇於第一無上無畏之地.一切爾炎無礙智觀不由於他.不受後有智師子吼.世尊.阿羅漢辟支佛.度生死畏次第得解脱樂.作是念.我離生死恐怖不受生死苦.世尊.阿羅漢辟支佛觀察時.得不受後有觀第一蘇息處涅槃地.世尊.彼先所得地.不愚於法不由於他.亦自知得有餘地.必當得阿耨多羅三藐三菩提.何以故.聲聞縁覺乘皆入大乘.大乘者卽是佛乘.是故三乘卽是一乘.得一乘者.得阿耨多羅三藐三菩提.阿耨多羅三藐三菩提者.卽是涅槃界.涅槃界者卽是如來法身.得究竟法身者.則究竟一乘無異.如來無異法身.如來卽法身.得究竟法身者.則究竟一乘.究竟者卽是無邊斷不.世尊.如來無有限齊時住.如來應等正覺後際等住.如來無限齊.大悲亦無限齊.安慰世間無限大悲無限安慰世間.作是説者.是名善説.如來若復説言無盡法常住法一切世間之所歸依者.亦名善説.如

身光明俱作事

三乘三乘明作二乘二乘

來是故。於未度世間無依世間。與後際等作無盡歸依。常住歸依者。謂如來應等正覺也。法者卽是說一乘道。僧者是三乘衆。此二歸依非究竟歸依。名少分歸依。何以故。說一乘道法。得究竟法身。於上更無說一乘法身。三乘衆者有恐怖歸依如來。求出修學向阿耨多羅三藐三菩提。是故二依非究竟依。是有限依。若有衆生如來調伏。歸依如來得法津澤。生信樂心歸依法僧。是二歸依非此二歸依。是歸依如來。歸依第一義者。是歸依如來。此二歸依第一義。是究竟歸依如來。何以故。無異如來。無異二歸依。如來卽三歸依。何以故。說一乘道。如來四無畏成就師子吼說。若如來隨彼所欲而方便說。卽是大乘無有三乘。三乘者入於一乘。一乘者卽第一義乘

無邊聖諦章第六

世尊聲聞緣覺。初觀聖諦以一智斷諸住地。以一智四斷智功德。作證亦善知。此四法義。世尊。無有出世間上上智。四智漸至及四緣漸至。無漸至法是出世間上上智。世尊。金剛喩者是第一義智。世尊。非聲聞緣覺不斷無明住地。初聖諦智是第一義智。世尊。以無二聖諦智。斷諸住地。世尊。如來應等正覺。非一切聲聞緣覺境界。不思議空智。斷一切煩惱藏。世尊。若壞一切煩惱藏究竟智。是名第一義智。初聖諦智。非究竟智向阿耨多羅三藐三菩提智。世尊。聖義者。非一切聲聞緣覺。聲聞緣覺成就有量功德。聲聞緣覺成就少分功德。故名之爲聖。聖諦者非聲聞緣覺諦。亦非聲聞緣覺功德。世尊。此諦如來應等正覺。初始覺知。然後爲無明𣫍藏世間開現演說。是故名聖諦

如來藏章第七

聖諦者說甚深義。微細難知。非思量境界。是智者所知。一切世間所不能信。何以故。此說甚深如來之藏。如來藏者。是如來境界。非一切聲聞緣覺所知。如來藏處。說聖諦義。如來藏處甚深故。說聖諦亦甚深。微細難知。非思量境界。是智者所知。一切世間所不能信

諦下三本俱有義字　有下同無有字　四無作同作無作四

法身章第八

若於無量煩惱藏所纏如來藏不疑惑者。於出無量煩惱藏法身亦無疑惑。於說如來藏。如來法身不思議。佛境界及方便說。心得決定者此則信解說二聖諦。如是難知難解者。謂說二聖諦義。何等為說二聖諦義。謂說作聖諦義。說無作聖諦義。說作聖諦義者。是說有量四聖諦。何以故。非因他能知一切苦斷一切集證一切滅修一切道。是故世尊。有有為生死無為生死。涅槃亦如是。有餘及無餘。說無作聖諦義者。說無量四聖諦義。何以故。能以自力知一切受苦斷一切受集證一切受滅修一切受滅道。如是八聖諦。如來說四聖諦。如是四無作聖諦義。唯如來應等正覺事究竟。非阿羅漢辟支佛事究竟。何以故。非下中上法得涅槃。何以故。如來應等正覺。於無作四聖諦義事究竟。以一切如來應等正覺。知一切未來苦。斷一切煩惱上煩惱所攝受一切集。滅一切意生身除一切苦滅作證。世尊。非壞法故名為苦滅。所言苦滅者。名無始無作無起無盡離盡常住。自性清淨離一切煩惱藏。世尊。過於恒沙不離不脫不異不思議佛法成就說如來法身。世尊。如是如來法身不離煩惱藏名如來藏

空義隱覆眞實章第九

世尊。如來藏智。是如來空智。世尊。如來藏者。一切阿羅漢辟支佛大力菩薩。本所不見本所不得。世尊。有二種如來藏空智。世尊。空如來藏。若離若脫若異一切煩惱藏。世尊。不空如來藏。過於恒沙不離不脫不異不思議佛法。世尊。此二空智。諸大聲聞。能信如來。一切阿羅漢辟支佛空智於四不顚倒境界轉。是故一切阿羅漢辟支佛。本所不見。本所不得。一切苦滅。唯佛得證。壞一切煩惱藏。修一切滅苦道

一諦章第十

世尊。此四聖諦。三是無常一是常。何以故。三諦入有為相。入有為相者。是無常。無常者是虛妄法。虛妄法者。非諦

非常非依。是故苦諦集諦道諦。非第一義諦。非常非依

一依章第十一

一苦滅諦。離有爲相。離有爲相者是常。常者非虛妄法。非虛妄法者。是諦是常是依。是故滅諦。是第一義

顚倒眞實章第十二

不思議是滅諦。過一切衆生心識所緣。亦非一切阿羅漢辟支佛智慧境界。譬如生盲不見衆色。七日嬰兒不見日輪。苦滅諦者。亦復如是。非一切凡夫心識所緣。亦非二乘智慧境界。凡夫識者二見顚倒。一切阿羅漢辟支佛智者。則是清淨。邊見者凡夫於五受陰我見妄想計著生二見。是名邊見。所謂常見斷見。見諸行無常。是斷見非正見。見涅槃常。是常見非正見。妄想見故作如是見。於身諸根分別思惟現法見壞。於有相續不見起於斷見。妄想見故。於心相續愚闇不解不知。刹那間意識境界起於常見。妄想見故。此妄想見於彼義若過若不及作異想分別。若斷若常。顚倒衆生於五受陰。無常常想苦有樂想。無我我想。不淨淨想。一切阿羅漢辟支佛淨智者。於一切智境界及如來法身本所不見。或有衆生。信佛語故。起常想樂想我想淨想。非顚倒見。是名正見。何以故。如來法身是常波羅蜜。樂波羅蜜。我波羅蜜。淨波羅蜜。於佛法身。作是見者是名正見。正見者。是佛眞子。從佛口生。從正法生。從法化生。得法餘財。世尊淨智者。一切阿羅漢辟支佛。智波羅蜜。此淨智者。雖曰淨智。於彼滅諦。尙非境界。況四依智。何以故。三乘初業。不愚於法。於彼義當覺當得。爲彼故世尊說四依。世尊此四依者。是世間法。世尊一依者。一切依止。出世間上上。第一義依。所謂滅諦

止三本俱作上

自性清淨章第十三

世尊。生死者依如來藏。以如來藏故。說本際不可知。世尊。有如來藏故說生死。是名善說。世尊。生死生死者。諸受

根沒。次第不受根起。是名死生。世尊。死生者此二法是如來藏。世間言說故。有死有生。死者謂根壞。生者新諸根起。非如來藏有生有死。如來藏者離有爲相。如來藏常住不變。是故如來藏。是依是持是建立。世尊。不離不斷不脫不異不思議佛法。世尊。斷脫異外有爲法依持建立者。是如來藏。世尊。若無如來藏者。不得厭苦樂求涅槃。何以故。於此六識及心法智。此七法刹那不住。不種衆苦。不得厭苦樂求涅槃。世尊。如來藏者。無前際不起不滅法。種諸苦得厭苦樂求涅槃。世尊。如來藏者。非我非衆生非命非人。如來藏者。墮身見衆生顚倒衆生空亂意衆生。非其境界。世尊。如來藏者。是法界藏。法身藏。出世間上上藏。自性清淨藏。此性清淨。如來藏而客塵煩惱上煩惱所染。不思議如來境界。何以故。刹那善心非煩惱所染。刹那不善心亦非煩惱所染。煩惱不觸心心不觸煩惱。云何不觸法。而能得染心。世尊。然有煩惱有煩惱染心。自性清淨心而有染者。難可了知。唯佛世尊。實眼實智。爲法根本。爲通達法。爲正法依。如實知見。勝鬘夫人說是難解之法。問於佛時。佛卽隨喜。如是如是。自性清淨心。而有染汙難可了知。有二法難可了知。謂自性清淨心。難可了知。彼心爲煩惱所染亦難了知。如此二法。汝及成就大法菩薩摩訶薩乃能聽受。諸餘聲聞。唯信佛語

眞子章第十四

若我弟子隨信增上者。依明信已隨順法智。而得究竟。隨順法智者觀察施設根意解境界。觀察業報。觀察阿羅漢眼。觀察心自在樂禪定樂。觀察阿羅漢辟支佛大力菩薩聖自在通。此五種巧便觀成就。於我滅後未來世中。我弟子隨信增上依明信隨順法智。自性清淨心。彼爲煩惱染汙而得究竟。是究竟者入大乘道。因信如來者。有是大利益。不謗深義。爾時勝鬘白佛言。更有餘大利益。我當承佛威神。復說斯義。佛言更說。勝鬘白佛言。三種善男子善女人。於甚深義離自毀傷。生大功德入大乘道。何等爲三。謂若善男子善女人。自成就甚深法智。若善男子善女人。成就隨順法智。若善男子善女人。於諸深法不自了知仰惟世尊。非我境界。唯佛所知。是名善男子善女人仰惟如來。除此諸善男子善女人已

死生同作生死〇謂同作諸　藏下同無者字

性上同有自字

難下同有可字

信上三本俱有信字次同　中下元明俱有若字

有下三本俱有如字〇更同作便　惟同作推次同

勝鬘章第十五

諸餘衆生。於諸甚深法堅著妄說。違背正法習諸外道。腐敗種子者。當以王力及天龍鬼神力而調伏之。爾時勝鬘與諸眷屬。頂禮佛足。佛言。善哉善哉。勝鬘。於甚深法方便守護。降伏非法善得其宜。汝已親近百千億佛能說此義。爾時世尊。放勝光明普照大衆身昇虛空高七多羅樹。足步虛空還舍衛國。時勝鬘夫人與諸眷屬。合掌向佛觀無厭足。目不暫捨。過眼境已踊躍歡喜。各各稱歎如來功德。具足念佛還入城中。向友稱王稱歎大乘。城中女人七歲已上。化以大乘。友稱大王。亦以大乘化諸男子七歲已上。擧國人民皆向大乘。爾時世尊入祇桓林。告長老阿難。及念天帝釋。應時帝釋與諸眷屬。忽然而至住於佛前。爾時世尊向天帝釋及長老阿難。廣說此經。說已告帝釋言。汝當受持讀誦此經。憍尸迦。善男子善女人。於恒沙劫修菩提行。行六波羅蜜。若復善男子善女人。聽受讀誦乃至執持經卷。福多於彼。何況廣爲人說。是故憍尸迦。當讀誦此經爲三十三天分別廣說。復告阿難。汝亦受持讀誦。爲四衆廣說。時天帝釋白佛言。世尊。當何名斯經。云何奉持。佛告帝釋。此經成就無量無邊功德。一切聲聞緣覺不能究竟觀察知見。憍尸迦。當知此經甚深微妙大功德聚。今當爲汝略說其名。諦聽諦聽善思念之。時天帝釋及長老阿難白佛言。善哉世尊。唯然受教。佛言。此經歎如來眞實第一義功德。如是受持。不思議大受。如是受持。一切願攝大願。如是受持。說不思議攝受正法。如是受持。說入一乘。如是受持。說無邊聖諦。如是受持。說如來藏。如是受持。說法身。如是受持。說空義隱覆眞實。如是受持。說一諦。如是受持。說常住安隱一依。如是受持。說顚倒眞實。如是受持。說自性清淨心隱覆。如是受持。說如來眞子。如是受持。說勝鬘夫人師子吼。如是受持。復次憍尸迦。此經所說斷一切疑。決定了義入一乘道。憍尸迦。今以此說勝鬘夫人師子吼經。付囑於汝。乃至法住受持讀誦。廣分別說。帝釋白佛言。善哉世尊。頂受尊教。時天帝釋長老阿難及諸大會天人阿修羅乾闥婆等。聞佛所說。歡喜奉行

勝鬘師子吼一乘大方便方廣經

諸下同無甚字

桓同作洹

說下三本俱有如來二字

末題經下宋有一卷二字

經題三本俱作佛說梵網經卷下七字

譯號後同作姚○同無龜茲國三字○藏下同有法師二字○什下元有第二二字○爾時前行三本俱有菩薩心地品下七字○佛下同有子字○迦下同無及字○光下同有光字○上下同有所字○界下同有法門二字

炎同作焰○定宋作足迦下宋元俱無牟尼佛三字○天下三本俱無王字○其元作共○返同作反○剛下宋元俱無花光王三字○地下同無法門品三字明無品字○闇三本俱作暗

梵網經盧舍那佛說菩薩心地戒品第十卷下

〔麗賢〕〔宋刻〕〔元刻〕〔明安〕

後秦龜茲國三藏鳩摩羅什譯

爾時盧舍那佛。爲此大衆。略開百千恒河沙不可說法門中心地。如毛頭許。是過去一切佛已說。未來佛當說。現在佛今說。三世菩薩已學當學今學。我已百劫修行是心地。號吾爲盧舍那。汝諸佛轉我所說。與一切衆生開心地道。時蓮花臺藏世界。赫赫天光師子座上盧舍那佛放光。光告千花上佛。持我心地法門品而去。復轉爲千百億釋迦及一切衆生。次第說我上心地法門品。汝等。受持讀誦一心而行。爾時千花上佛千百億釋迦。從蓮花藏世界赫赫師子座起。各各辭退擧身放不可思議光。光皆化無量佛。一時以無量青黃赤白花。供養盧舍那佛。受持上說心地法門品竟。各各從此蓮花藏世界而沒。沒已入體性虛空花光三昧。還本源世界閻浮提菩提樹下。從體性虛空華光三昧出。出已方坐金剛千光王座。及妙光堂說十世界海。復從座起至帝釋宮說十住。復從座起至炎天中說十行。復從座起至第四天中說十廻向。復從座起至化樂天說十禪定。復從座起至他化天說十地。復至一禪中說十金剛。復至二禪中說十忍。復至三禪中說十願。復至四禪中摩醯首羅天王宮。說我本源蓮花藏世界盧舍那佛所說心地法門品。其餘千百億釋迦亦復如是無二無別。如賢劫品中說。爾時釋迦牟尼佛。從初現蓮花藏世界。東方來入天王宮中說魔受化經已。下生南閻浮提迦夷羅國。母名摩耶父字白淨吾名悉達。七歲出家三十成道。號吾爲釋迦牟尼佛。於寂滅道場坐金剛花光王座。乃至摩醯首羅天王宮。其中次第十住處所說。時佛觀諸大梵天王網羅幢因爲說。無量世界猶如網孔。一一世界各各不同別異無量。佛教門亦復如是。吾今來此世界八千返。爲此娑婆世界坐金剛花光王座。乃至摩醯首羅天王宮。爲是中一切大衆。略開心地法門品竟。復從天王宮下至閻浮提菩提樹下。爲此地上一切衆生凡夫癡闇之人。說我本盧舍那佛心地中

初發心中常所誦一戒光明。金剛寶戒是一切佛本源。一切菩薩本源。佛性種子。一切衆生皆有佛性。一切意識色心是情是心皆入佛性戒中。當當常有因故。有當當常住法身。如是十波羅提木叉出於世界。是法戒是三世一切衆生頂戴受持。吾今當爲此大衆重說十無盡藏戒品。是一切衆生戒本源自性淸淨

我今盧舍那　方坐蓮花臺　周匝千花上　復現千釋迦　一花百億國　一國一釋迦　各坐菩提樹
一時成佛道　如是千百億　盧舍那本身　千百億釋迦　各接微塵衆　俱來至我所　聽我誦佛戒
甘露門則開　是時千百億　還至本道場　各坐菩提樹　誦我本師戒　十重四十八　戒如明日月
亦如瓔珞珠　微塵菩薩衆　由是成正覺　是盧舍那誦　我亦如是誦　汝新學菩薩　頂戴受持戒
受持是戒已　轉授諸衆生　諦聽我正誦　佛法中戒藏　波羅提木叉　大衆心諦信　汝是當成佛
我是已成佛　常作如是信　戒品已具足　一切有心者　皆應攝佛戒　衆生受佛戒　卽入諸佛位
位同大覺已　眞是諸佛子　大衆皆恭敬　至心聽我誦

爾時釋迦牟尼佛。初坐菩提樹下成無上覺。初結菩薩波羅提木叉。孝順父母師僧三寶。孝順至道之法。孝名爲戒亦名制止。佛卽口放無量光明。是時百萬億大衆諸菩薩。十八梵天六欲天子十六大國王。合掌至心聽佛誦一切佛大乘戒。佛告諸菩薩言。我今半月半月。自誦諸佛法戒。汝等一切發心菩薩亦誦。乃至十發趣十長養十金剛十地諸菩薩亦誦。是故戒光從口出。有緣非無因故。光光非靑黃赤白黑。非色非心。非有非無。非因果法。是諸佛之本源。菩薩之根本。是大衆諸佛子之根本。是故大衆諸佛子應受持應讀誦善學。佛子諦聽。若受佛戒者國王王子百官宰相比丘比丘尼。十八梵天六欲天子。庶民黃門婬男婬女奴婢。八部鬼神金剛神畜生乃至變化人。但解法師語。盡受得戒。皆名第一淸淨者。佛告諸佛子言。有十重波羅提木叉。若受菩薩戒不誦此戒者。非菩薩非佛種子。我亦如是誦。一切菩薩已學。一切菩薩當學。一切菩薩今學。已略說菩薩波羅提木叉相貌。是事應當學敬心奉持

佛言。佛子。若自殺敎人殺方便讚歎殺見作隨喜。乃至呪殺。殺因殺緣殺法殺業。乃至一切有命者不得故殺。是

當上明無有字　則明作卽○佛卽宋元俱作卽○佛上明有諸字○告上宋元俱無佛字○誦元作言○非下宋元俱有無字○菩上三本俱有行字○薩下明有道字○是下宋元俱無故字○誦下明有應字○天下宋元俱無子字○已上三本俱有我字○貌下明無是事二字○言宋元俱作告○便下明有殺字○因殺緣殺法殺業宋元俱作業殺報殺因殺緣○救明作抹次同○自同作反○生下宋元俱無者字○盜因盜緣盜法盜業同作盜業盜報盜因盜緣○呪盜二字明置方便盜下○主下三本俱有物字○應宋元俱作常○順下三本俱有心

字〇人下宋元俱無財字〕是上同無者字下同〇婬緣婬法婬業同作婬業婬法婬緣

妄語緣妄語法妄語業同作妄語業妄語法妄語緣〇語下三本俱無正見二字〇業上宋元俱無邪字〇酤酒緣酤酒法酤酒業同作酤酒業酤酒法酤酒緣〇衆上同無一切二字〇子下三本俱有口字下同〇罪過緣罪過法罪過業宋元俱作罪遑業罪過法罪過緣〕悲門作悲〕毀他來毀他法毀他業宋元俱作毀他業毀他法毀他緣〇慳緣慳法慳業同作慳業慳法慳緣〇瞋下同無以字〕瞋緣瞋法瞋業同作瞋業瞋法瞋緣〕悲上三本俱有慈字〕杖同作他下同〇謗緣謗法謗業

菩薩應起常住悲慈心孝順心。方便救護一切衆生。而自恣心快意殺生者。是菩薩波羅夷罪。若佛子。自盜教人盜方便盜盜因盜緣盜法盜業呪盜乃至鬼神有主劫賊物。一切財物一針一草不得故盜。而菩薩應生佛性孝順慈悲心。常助一切人生福生樂。而反更盜人財物者。是菩薩波羅夷罪。若佛子。自婬教人婬。乃至一切女人不得故婬。婬因婬緣婬法婬業。乃至畜生女諸天鬼神女及非道行婬。而菩薩應生孝順心。救度一切衆生。淨法與人。而反更起一切人婬不擇畜生乃至母女姉妹六親行婬無慈悲心者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自妄語教人妄語方便妄語。妄語因妄語緣妄語法妄語業。乃至不見言見見言不見。身心妄語。而菩薩常生正語正見。亦生一切衆生正語正見。而反更起一切衆生邪語邪見邪業者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自酤酒教人酤酒。酤酒因酤酒緣酤酒法酤酒業。一切酒不得酤。是酒起罪因緣。而菩薩應生一切衆生明達之慧。而反更生一切衆生顚倒之心者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自說出家在家菩薩比丘比丘尼罪過。教人說罪過。罪過因罪過緣罪過法罪過業。而菩薩聞外道惡人及二乘惡人說佛法中非法非律。常生悲心教化是惡人輩。令生大乘善信。而菩薩反更自說佛法中罪過者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自讚毀他亦教人自讚毀他。毀他因毀他緣毀他法毀他業。而菩薩應代一切衆生受加毀辱惡事自向己好事與他人。若自揚己德隱他人好事。令他人受毀者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自慳教人慳。慳因慳緣慳法慳業。而菩薩見一切貧窮人來乞者。隨前人所須一切給與。而菩薩以惡心瞋心。乃至不施一錢一針一草。有求法者。不爲說一句一偈一微塵許法。而反更罵辱者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自瞋教人瞋。瞋因瞋緣瞋法瞋業。而菩薩應生一切衆生中善根無諍之事。常生悲心。而反更於一切衆生中乃至於非衆生中。以惡口罵辱加以手打。及以刀杖意猶不息。前人求悔善言懺謝。猶瞋不解者。是菩薩波羅夷罪

若佛子。自謗三寶教人謗三寶。謗因謗緣謗法謗業。而菩薩見外道及以惡人一言謗佛音聲。如三百鉾刺心。況

口自謗不生信心孝順心．而反更助惡人邪見人謗者．是菩薩波羅夷罪

善學諸仁者．是菩薩十波羅提木叉．應當學．於中不應一一犯如微塵許．何況具足犯十戒．若有犯者不得現身發菩提心．亦失國王位轉輪王位．亦失比丘比丘尼位．亦失十發趣十長養十金剛十地佛性常住妙果．一切皆失墮三惡道中．二劫三劫不聞父母三寶名字．以是不應一一犯．汝等一切諸菩薩今學當學已學．如是十戒應當學敬心奉持八萬威儀品當廣明

佛告諸菩薩言．已說十波羅提木叉竟．四十八輕今當說

佛言．若佛子．欲受國王位時．受轉輪王位時．百官受位時．應先受菩薩戒．一切鬼神救護王身百官之身．諸佛歡喜．既得戒已．生孝順心恭敬心．見上座和上阿闍梨大同學同見同行者．應起承迎禮拜問訊．而菩薩反生憍心慢心癡心．不起承迎禮拜．一一不如法供養．以自賣身國城男女七寶百物而供給之．若不爾者．犯輕垢罪

若佛子．故飲酒而生酒過失無量．若自身手過酒器與人飲酒者．五百世無手．何況自飲．不得教一切人飲．及一切衆生飲酒．況自飲酒．若故自飲教人飲者．犯輕垢罪

若佛子．故食肉一切肉不得食．斷大慈悲性種子．一切衆生見而捨去．是故一切菩薩不得食一切衆生肉．食肉得無量罪．若故食者．犯輕垢罪

若佛子．不得食五辛．大蒜革葱慈葱蘭葱興蕖．是五種一切食中不得食．若故食者．犯輕垢罪

若佛子．見一切衆生犯八戒五戒十戒．毀禁七逆八難一切犯戒罪．應教懺悔．而菩薩不教懺悔．共住同僧利養而共布薩同一衆住說戒．而不擧其罪教悔過者．犯輕垢罪

若佛子．見大乘法師大乘同學同見同行．來入僧坊舍宅城邑．若百里千里來者．即起迎來送去禮拜供養．日日三時供養．日食三兩金百味飲食牀座醫藥供事法師．一切所須盡給與之．常請法師三時說法．日日三時禮拜．不生瞋心患惱之心．爲法滅身請法不懈．若不爾者．犯輕垢罪

若佛子．一切處有講毘尼經律．大宅舍中講法處．是新學菩薩應持經律卷至法師所聽受諮問．若山林樹下僧

宋元俱作謗業○謗法謗緣○皆下宋無失字○是上三本俱無如字

若上三本俱無佛言二字○上明作尚○梨同作黎○大下三本俱有德字○慢心癡宋元俱作癡心慢○心下三本俱有瞋心二字○酒下同有一切酒不得飲六字○食下明有夫食肉者四字○性上三本俱有佛字○故上宋元俱無若字○共三本俱作同○教上同有不字○座下同無醫藥二字○毗上同有法字○應上宋元俱無當字○病上三本俱無疾字○養上同有俱字○惡心瞋供不同作愼恨恨不看乃六字心救下同有濟○○網羅同作字網○餘同作殺○生下明有不得畜殺

衆生具七字〇畜下宋元俱無一切二字明無一切刀杖四字〇杖下宋元俱無者字〇六下明有度字〇中下元明俱無當字當廣宋作廣開〇薩下主本俱有尚字〇不下明有應字〇自宋元俱作故〇若故作者明作若故自作教人作者八字宋元俱無若故作者四字〇父上三本俱無於字〇道下明有惡字〇六上宋元俱無人字〇受三本俱作授〇教上同無應字〇發下同有趣字〇三上同有於字〇教下同無他字〇虎下宋元俱有口字〇子下同有口中二字〇後上三本俱有然字〇故下同有爲名開故四字〇犯上宋元俱無者字下同〇物三本俱作財次同〇子下同有

地房中。一切說法處。悉至聽受。若不至彼聽受者。犯輕垢罪

若佛子。心背大乘常住經律。言非佛說。而受持二乘聲聞外道惡見一切禁戒邪見經律者。犯輕垢罪

若佛子。見一切疾病人。常應供養如佛無異。八福田中看病福田第一福田。若父母師僧弟子疾病。諸根不具百種病苦惱。皆養令差。而菩薩以惡心瞋恨。不至僧房中城邑曠野山林道路中。見病不救者。犯輕垢罪

若佛子。不得畜一切刀杖弓箭鉾斧鬪戰之具。及惡網羅殺生之器。一切不得畜。而菩薩乃至殺父母尚不加報。況餘一切衆生。若故畜一切刀杖者。犯輕垢罪。如是十戒。應當學敬心奉持。下六品中當廣明

佛言。佛子。不得爲利養惡心故。通國使命軍陣合會。興師相伐殺無量衆生。而菩薩不得入軍中往來。況故作國賊。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。故販賣良人奴婢六畜。市易棺材板木盛死之具。尚不自作。況教人作。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。故惡心故無事謗他良人善人法師師僧國王貴人。言犯七逆十重。於父母兄弟六親中。應生孝順心慈悲心。而反更加於逆害墮不如意處者。犯輕垢罪

若佛子。以惡心故放大火。燒山林曠野。四月乃至九月。放火若燒他人家屋宅城邑僧房田木及鬼神官物。一切有主物不得故燒。若故燒者。犯輕垢罪

若佛子。自佛弟子及外道人。六親一切善知識。應一一教受持大乘經律。應教解義理。使發菩提心十發心十長養心十金剛心。三十心中一一解其次第法用。而菩薩以惡心瞋心。橫教他二乘聲聞經律外道邪見論等。犯輕垢罪

若佛子。應好心先學大乘威儀經律。廣開解義味。見後新學菩薩有從百里千里來。求大乘經律。應如法爲說一切苦行。若燒身燒臂燒指。若不燒身臂指供養諸佛非出家菩薩。乃至餓虎狼師子一切餓鬼。悉應捨身肉手足而供養之。後一一次第爲說正法。使心開意解。而菩薩爲利養故應答不答。倒說經律文字無前無後謗三寶說者。犯輕垢罪

應有字作偈○有知本下故無○有字業無人請應本亡其無三○報○無本下字作有元下三本
字十○日下法法二俱宋作若業應○字常放上字俱上字相本讎上高恃俱明○以時俱同字俱
○二者日明下字字作元者故下作生○住生宋○有宋○字俱同同上字作有心○字作無○無
學部日二有宋明○受俱四作三是下生之八元經律元戒○有作有宋○富下三相○以何是以
下經夜字及元有授○無字三本念同下法字俱下字俱下慈心誹作元福○賤本下應○以上字
同四同○字俱不三造若明字俱四有同教○無三○有同下字○字俱三窮二俱同宋相故三○

若佛子。自爲飲食錢物利養名譽故。親近國王王子大臣百官。恃作形勢。乞索打拍牽挽。橫取錢物一切求利。名爲惡求多求。教他人求。都無慈心無孝順心者。犯輕垢罪

若佛子。學誦戒者。日夜六時持菩薩戒。解其義理佛性之性。而菩薩不解一句一偈戒律因緣。詐言能解者。卽爲自欺誑亦欺誑他人。一一不解一切法。而爲他人作師授戒者。犯輕垢罪

若佛子。以惡心故。見持戒比丘手捉香爐行菩薩行。而鬬搆兩頭謗欺賢人無惡不造。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。以慈心故行放生業。一切男子是我父。一切女人是我母。我生生無不從之受生。故六道衆生皆是我父母。而殺而食者。卽殺我父母亦殺我故身。一切地水是我先身。一切火風是我本體。故常行放生。生生受生常住之法。教人放生。若見世人殺畜生時。應方便救護解其苦難。常教化講說菩薩戒救度衆生。若父母兄弟死亡之日。應請法師講菩薩戒經福資亡者。得見諸佛生人天上。若不爾者。犯輕垢罪。如是十戒應當學敬心奉持。如滅罪品中廣明一一戒相

佛言。佛子。不得以瞋報瞋以打報打。若殺父母兄弟六親不得加報。若國主爲他人殺者。亦不得加報。殺生報生不順孝道。尚不畜奴婢打拍罵辱。日日起三業口罪無量。況故作七逆之罪。而出家菩薩無慈報讎。乃至六親中。故報者。犯輕垢罪

若佛子。初始出家未有所解。而自恃聰明有智。或恃高貴年宿。或恃大姓高門大解大福饒財七寶。以此憍慢而不諮受先學法師經律。其法師者。或小姓年少卑門貧窮諸根不具。而實有德一切經律盡解。而新學菩薩不得觀法師種姓。而不來諮受法師第一義諦者。犯輕垢罪

若佛子。佛滅度後。欲心好心受菩薩戒時。於佛菩薩形像前自誓受戒。當七日佛前懺悔。得見好相便得戒。若不得好相。應二七三七乃至一年。要得好相。得好相已。便得佛菩薩形像前受戒。若不得好相。雖佛像前受戒不得戒。若現前先受菩薩戒法師前受戒時。不須要見好相。何以故。以是法師師師相授故。不須好相。是以法師前受戒卽得戒。以生重心故便得戒。若千里內無能授戒師。得佛菩薩形像前受戒而要見好相。若法師自倚解經律

生下三本俱有至字○前下同有自誓二字○法上同無正字○習宋元俱作集○論下明有一切二字○若故作者宋作者故作三字○滅下三本俱有度字○房明作坊下同敎上三本俱有爲字○訟同作諍○在宋元俱作住○後宋作又元明俱作若邑下明有若字○牀下三本俱有木牀二字（及下同無以字○女下同有身應割自身內賣七字○悉下宋元俱無以字（請下三本俱有而字○僧下明有者字○犯上三本俱無若故作者四字）田下同有中字（○下同有請僧求願如事報言八字○善下同無故字○銀下明有毒字○慈下同有憫心無孝順五字（犯上宋

大乘學戒。與國王太子百官以爲善友。而新學菩薩來問若經義律義。輕心惡心慢心。不一一好答問者。犯輕垢罪

若佛子。有佛經律大乘正法正見正性正法身。而不能勤學修習。而捨七寶。反學邪見二乘外道俗典。阿毘曇雜論書記。是斷佛性障道因緣。非行菩薩道。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。佛滅後。爲說法主爲僧房主。敎化主坐禪主行來主。應生慈心善和鬪諍。善守三寶物莫無度用如自己有。而反亂衆鬪諍恣心用三寶物者。犯輕垢罪

若佛子先在僧房中住。後見客菩薩比丘來入僧房舍宅城邑國王宅舍中。乃至夏坐安居處及大會中。先住僧應迎來送去。飲食供養房舍臥具繩牀事事給與。若無物應賣自身及以男女供給所須悉以與之。若有檀越來請衆僧。客僧有利養分。僧房主應次第差客僧受請。而先住僧獨受請不差客僧。僧房主得無量罪。畜生無異非沙門非釋種姓。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。一切不得受別請利養入己。而此利養屬十方僧。而別受請即取十方僧物入己。八福田諸佛聖人一一師僧父母病人物自己用故。犯輕垢罪

若佛子。有出家菩薩在家菩薩及一切檀越。請僧福田求願之時。應入僧房問知事人。今欲次第請者即得十方賢聖僧。而世人別請五百羅漢菩薩僧。不如僧次一凡夫僧。若別請僧者。是外道法。七佛無別請法。不順孝道。若故別請僧者。犯輕垢罪

若佛子。以惡心故爲利養故。販賣男女色。自手作食自磨自舂。占相男女。解夢吉凶。是男是女。呪術工巧調鷹方法。和合百種毒藥千種毒藥蛇毒生金銀毒蠱毒。都無慈心。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。以惡心故自身謗三寶。詐現親附。口便說空行在有中。爲白衣通致男女交會婬色縛著。於六齋日年三長齋月。作殺生劫盜破齋犯戒者。犯輕垢罪。如是十戒。應當學敬心奉持制戒品中廣解

佛言。佛子。佛滅度後。於惡世中。若見外道一切惡人劫賊賣佛菩薩父母形像。販賣經律。販賣比丘比丘尼亦賣

元俱無若故作者四字○心下三本俱無故字○謗明作傍○色下同有作諸二字○是上宋元俱無如字○惡上同無於字○販明作及○應下宋元俱無生字○慈下明有悲字○尼下三本俱無發心菩薩四字○秤宋元俱作稱○作三本俱作養○將宋元俱作闘○得同作聽○賽三本俱作塞○戲宋元俱作戰○毬三本俱作毱○壺下同有牽道二字○城宋元俱作成○爪元作瓜○著宋作芝○不下宋元俱無得字○度三本俱作渡○乘下宋元俱無善字○僧下三本俱無三寶二字○善下同無友字○破上明有此字下同○刺下三本俱有身字○千上宋元俱無經百二字○

發心菩薩道人。或爲官使。與一切人作奴婢者。而菩薩見是事已。應生慈心方便救護處處教化。取物贖佛菩薩形像。及比丘比丘尼發心菩薩。一切經律。若不贖者。犯輕垢罪

若佛子。不得畜刀杖弓箭。販賣輕秤小斗。因官形勢取人財物。害心繫縛破壞成功。長養猫狸豬狗。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。以惡心故觀一切男女等闘軍陣兵將劫賊等闘。亦不得聽吹貝鼓角琴瑟箏笛箜篌歌叫伎樂之聲。不得摴蒱圍碁波羅賽戲彈碁六博拍毬擲石投壺八道行城爪鏡蓍草楊枝鉢盂髑髏而作卜筮。不得作盜賊使命。一一不得作。若故作者。犯輕垢罪

若佛子。護持禁戒。行住坐臥日夜六時讀誦是戒。猶如金剛。如帶持浮囊欲度大海。如草繫比丘。常生大乘善信。自知我是未成之佛。諸佛是已成之佛。發菩提心。念念不去心。若起一念二乘外道心者。犯罪垢罪

若佛子。常應發一切願。孝順父母師僧三寶。願得好師同學善友知識。常教我大乘經律十發趣十長養十金剛十地。使我開解。如法修行堅持佛戒。寧捨身命念念不去心。若一切菩薩不發是願者。犯輕垢罪

若佛子。發十大願已。持佛禁戒。作是願言。寧以此身投熾然猛火大坑刀山。終不毀犯三世諸佛經律與一切女人作不淨行。復作是願。寧以熱鐵羅網千重周匝纏身。終不以破戒之身受於信心檀越一切衣服。復作是願。寧以此口呑熱鐵丸及大流猛火經百千劫。終不以破戒之口食信心檀越百味飲食。復作是願。寧以此身臥大猛火羅網熱鐵地上。終不以破戒之身受信心檀越百種牀座。復作是願。寧以此身受三百鉾刺經一劫二劫。終不以破戒之身受信心檀越百味醫藥。復作是願。寧以此身投熱鐵鑊經百千劫。終不以破戒之身受信心檀越千種房舍屋宅園林田地。復作是願。寧以鐵鎚打碎此身從頭至足令如微塵。終不以破戒之身受信心檀越恭敬禮拜。復作是願。寧以百千熱鐵刀鉾挑其兩目。終不以破戒之心視他好色。復作是願。寧以百千鐵錐遍劖刺耳根經一劫二劫。終不以破戒之心聽好音聲。復作是願。寧以百千刄刀割去其鼻。終不以破戒之心貪嗅諸香。復作是願。寧以百千刄刀割斷其舌。終不以破戒之心食人百味淨食。復作是願。寧以利斧斬斫其身。終不以破戒

鎚宋作椎〕破上三本俱有此字○破上明有此字下同〕錐下同無遍字○鬍宋元俱作擬○戒下宋元俱無之字下同○悉得成佛而三本俱作成佛二字○十上同無此字○輕下明有若誦二字○前下三本俱有誦字〕人同作及○至上同無乃字〕風下同無難及以三字○入下宋有一切難處四字○若同作故○悉三本俱作亦○入下宋元俱有此難處況行頭陀者是難處十一字〕若同作而〕薩下明有一一二字〕不下同有如法二字〕上同作尙○梨同作黎下同○日乃至七宋元俱作四七五三字明作日四五七日乃至七八字〕應讀誦講說宋元俱作講一字明作

之心貪著好觸復作是願。願一切衆生悉得成佛。而菩薩若不發是願者。犯輕垢罪

若佛子。常應二時頭陀冬夏坐禪結夏安居。常用楊枝澡豆三衣瓶鉢坐具錫杖香爐漉水囊手巾刀子火燧鑷子繩牀經律佛像菩薩形像而菩薩行頭陀時及遊方時。行來百里千里。此十八種物常隨其身。頭陀者從正月十五日至三月十五日。八月十五日至十月十五日。是二時中。此十八種物常隨其身如鳥二翼。若布薩日新學菩薩。半月半月布薩誦十重四十八輕戒。時於諸佛菩薩形像前。一人布薩卽一人誦。若二人三人乃至百千人亦一人誦。誦者高座聽者下坐。各各披九條七條五條袈裟。結夏安居一一如法。若頭陀時莫入難處。若國難惡王。土地高下草木深邃。師子虎狼水火風難。及以劫賊道路毒蛇。一切難處悉不得入。若頭陀行道乃至夏坐安居。是諸難處悉不得入。若故入者。犯輕垢罪

若佛子。應如法次第坐。先受戒者在前坐。後受戒者在後坐。不問老少比丘比丘尼貴人國王王子乃至黃門奴婢。皆應先受戒者在前坐。後受戒者次第而坐。莫如外道癡人。若老若少無前無後坐無次第兵奴之法。我佛法中先者先坐後者後坐。而菩薩不次第坐者。犯輕垢罪

若佛子。常應敎化一切衆生建立僧房山林園田立作佛塔。冬夏安居坐禪處所一切行道處。皆應立之。而菩薩應爲一切衆生講說大乘經律。若疾病國難賊難。父母兄弟和上阿闍梨亡滅之日。及三七日乃至七七日。亦應讀誦講說大乘經律。齋會求福行來治生。大火所燒大水所漂。黑風所吹船舫。江河大海羅刹之難。亦應讀誦講說此經律。乃至一切罪報三報七逆八難。杻械枷鎖繫縛其身。多婬多瞋多愚癡多疾病。皆應讀誦講說此經律。而新學菩薩若不爾者。犯輕垢罪。如是九戒。應當學敬心奉持。梵壇品當說

佛言。佛子。與人受戒時。不得簡擇一切國王王子大臣百官。比丘比丘尼信男信女婬男婬女。十八梵天六欲天子無根二根黃門奴婢。一切鬼神盡得受戒。應敎身所著袈裟。皆使壞色與道相應。皆染使靑黃赤黑紫色一切染衣。乃至臥具盡以壞色。身所著衣一切染色。若一切國土中國人所著衣服。比丘皆應與其俗服有異。若欲受戒時師應問言。汝現身不作七逆罪耶。菩薩法師不得與七逆人現身受戒。七逆者。出佛身血。殺父。殺母。殺和上。

應講二字○律下宋元倶有而字明有一切二字○火下三本倶無所燒二字○所同作梵○亦下同無應字○報元明倶作惡○七逆八難三本倶作八難七逆○讀誦講說同作講一字○是上宋元倶無如字次同○蘭元明倶作揀○梵下宋無天字○天下同無子字○其俗服宋元倶作其國土衣服色異與俗服十字○時下三本倶無師字○現上三本倶無汝字○上元明倶作倘次同○遮明作逆○得上宋元倶無盡字○禮下同有拜字○師上三本倶有法字○心下同有瞋心二字○戒下宋無者字○誡同作戒次同○遮下明有罪者二字○受同作授次同○同

殺阿闍梨。破羯磨轉法輪僧。殺聖人。若具七遮即現身不得戒。餘一切人盡得受戒。出家人法不向國王禮拜。不向父母禮拜。六親不敬。鬼神不禮。但解師語。有百里千里來求法者。而菩薩法師。以惡心而不即與授一切衆生戒者。犯輕垢罪

若佛子。敎化人起信心時。菩薩與他人作敎誡法師者。見欲受戒人。應敎請二師和上阿闍梨。二師應問。言汝有七遮罪不。若現身有七遮。師不應與受戒。無七遮者得受。若有犯十戒者。應敎懺悔。在佛菩薩形像前。日夜六時誦十重四十八輕戒。若到禮三世千佛得見好相。若一七日二三七日乃至一年。要見好相。好相者。佛來摩頂見光見華種種異相。便得滅罪。若無好相雖懺無益。是人現身亦不得戒。而得增受戒。若犯四十八輕戒者。對首懺罪滅。不同七遮。而敎誡師於是法中一一好解。若不解大乘經律若輕若重是非之相。不解第一義諦。習種性長養性不可壞性。道種性正性其中多少觀行出入十禪支一切行法。一一不得此法中意。而菩薩爲利養故爲名聞故。惡求多求貪利弟子。而詐現解一切經律。爲供養故。是自欺詐亦欺詐他人。故與人受戒者。犯輕垢罪

若佛子。不得爲利養故於未受菩薩戒者前若外道惡人前說此千佛大戒。邪見人前亦不得說。除國王餘一切不得說。是惡人輩不受佛戒。名爲畜生。生生不見三寶。如木石無心。名爲外道邪見人輩。木頭無異。而菩薩於是惡人前說七佛敎戒者。犯輕垢罪

若佛子。信心出家受佛正戒。故起心毀犯聖戒者。不得受一切檀越供養。亦不得國王地上行。不得飲國王水。五千大鬼常遮其前。鬼言大賊。若入房舍城邑宅中。鬼復常掃其脚跡。一切世人罵言佛法中賊。一切衆生眼不敬見。犯戒之人畜生無異木頭無異。若毀正戒者。犯輕垢罪

若佛子。常應一心受持讀誦大乘經律。剝皮爲紙刺血爲墨。以髓爲水拼骨爲筆書寫佛戒。木皮穀紙絹素竹帛亦應悉書持。常以七寶無價香花一切雜寶。爲箱囊盛經律卷。若不如法供養者。犯輕垢罪

若佛子。常起大悲心。若入一切城邑舍宅。見一切衆生。應當唱言。汝等衆生盡應受三歸十戒。若見牛馬豬羊一切畜生。應心念口言。汝是畜生發菩提心。而菩薩入一切處山林川野。皆使一切衆生發菩提心。是菩薩若不敎

下宋元俱無戒
字○無上明有
若字○受同作
與授戒三字○
十下元明俱有
重字○教上三
本俱無應字○
重宋作戒次同
○若三本俱作
苦○相下同有
者字○華上同
無見字○增下
同有長字○戒
下宋元俱有善
字明有益字○
機下明有悔字
○罪下同有便
得二字○性下
三本俱有性種
性三字○正下
宋有法字元明
俱有覺字○養
下三本俱無故
字○求下宋元
俱無多求二字
〕養下宋無故
字○外上宋元
俱無若字〕入
上三本俱無若
字○人下明有
皆字○毀上同
有故字〕排三
本俱作析○應
下同無當字○
應下開有在字
〕衆下三本俱
有白衣二字○
坐同作座○法

化衆生者。犯輕垢罪

若佛子。常行教化起大悲心入檀越貴人家一切衆中不得立為白衣說法。應白衣衆前高座上坐。法師比丘不得地立為四衆說法。若說法時。法師高座香花供養。四衆聽者下坐。如孝順父母敬順師教。如事火婆羅門。其說法者若不如法說者犯輕垢罪

若佛子。皆以信心受佛戒者。若國王太子百官四部弟子。自恃高貴破滅佛法戒律。明作制法制我四部弟子不聽出家行道。亦復不聽造立形像佛塔經律。破三寶之罪。而故作破法者。犯輕垢罪

若佛子。以好心出家而為名聞利養。於國王百官前說七佛戒。橫與比丘比丘尼菩薩弟子作繫縛事。如師子身中蟲自食師子肉。非外道天魔能破。若受佛戒者。應護佛戒如念一子。如事父母。而菩薩聞外道惡人以惡言謗佛戒時。如三百鉾刺心。千刀萬杖打拍其身等無有異。寧自入地獄經百劫。而不用一聞惡言破佛戒之聲。而況自破佛戒。教人破法因緣。亦無孝順之心。若故作者。犯輕垢罪。如是九戒應當學敬心奉持

諸佛子。是四十八輕戒。汝等受持。過去諸菩薩已誦。未來諸菩薩當誦。現在諸菩薩今誦。諸佛子諦聽。此十重四十八輕戒。三世諸佛已誦當誦今誦。我今亦如是誦。汝等一切大衆。若國王王子百官。比丘比丘尼信男信女受持菩薩戒者。應受持讀誦解說書寫佛性常住戒卷。流通三世一切衆生化化不絕。得見千佛佛佛授手。世世不墮惡道八難。常生人道天中。我今在此樹下。略開七佛法戒。汝等當一心學波羅提木叉歡喜奉行。如無相天王品勸學中一一廣明。三千學士時坐聽者。聞佛自誦心心頂戴喜躍受持。爾時釋迦牟尼佛。說上蓮花臺藏世界盧舍那佛心地法門品中十無盡戒法品竟。千百億釋迦亦如是說。從摩醯首羅天王宮至此道樹十住處說法品。為一切菩薩不可說大衆。受持讀誦解說其義亦如是。千百億世界蓮花藏世界。微塵世界。一切佛心藏地藏戒藏無量行願藏。因果佛性常住藏。如如一切佛說無量一切法藏竟。千百億世界中。一切衆生受持歡喜奉行。若廣開心地相相。如佛花光王品中說

明人忍慧強　能持如是法　未成佛道間　安獲五種利　一者十方佛　愍念常守護　二者命終時

正見心歡喜　三者生生處　爲諸菩薩友　四者功德聚　戒度悉成就　五者今後世　性戒福慧滿
此是佛行處　智者善思量　計我著相者　不能信是法　滅盡取證者　亦非下種處　欲長菩提苗
光明照世間　應當靜觀察　諸法眞實相　不生亦不滅　不常復不斷　不一亦不異　不來亦不去
如是一心中　方便勤莊嚴　菩薩所應作　應當次第學　於學於無學　勿生分別想　是名第一道
亦名摩訶衍　一切戲論處　悉由是處滅　諸佛薩婆若　悉由是處出　是故諸佛子　宜發大勇猛
於諸佛淨戒　護持如明珠　過去諸菩薩　已於是中學　未來者當學　現在者今學　此是佛行處
聖主所稱歎　我已隨順說　福德無量聚　迴以施衆生　共向一切智　願聞是法者　疾得成佛道

下元明俱有說字○戒上三本俱無佛字○律下同有立統制衆安籍記僧菩薩比丘地立白衣高座廣行非法如兵奴事王而菩薩應受一切人供養而反爲官走使非法非律若國王百官好心受佛戒者莫作是六十一字而菩薩比丘宋元俱作比丘菩薩王同作主○以上三本俱有不字○佛上同無七字○戒下明有者字○薩下同有戒字○作繫縛事宋元俱作繫縛二字○如上三本俱有如獄囚法兵奴之法八字○肉下明有非餘外蟲如是佛子自破佛法十二字○毋下三本俱有不可毀破四字○時明作之聲二字○獄下宋元俱無經字○百上明有於字○不用一聞宋元俱作不一聞三字明作不聞一三字○況上三本俱無而字○破下宋元俱有破字○佛上同無諸字○諦聽此三本俱作聽一字○八下宋無輕字○等下明有大衆二字○廣宋元俱作已○士同作者○十三本俱作下○如如三本俱作如是○王下明有七行二字○諸宋作諍元作淨○佛行處三本俱作諸佛子○計元作討○信宋作生元作主○盡三本俱作壽○亦宋元俱作又○處三本俱作惡○由同作從○以宋元俱作已

梵網經盧舍那佛說菩薩心地戒品第十卷下

大正七年四月廿八日印刷
大正七年四月三十日發行
大正八年一月廿八日再版發行
昭和二年五月廿五日三版發行

（岡山製本）

【非賣品】

國譯大藏經　經部第三卷

編輯兼發行者　國民文庫刊行會
東京市神田區小川町一番地

右代表者　鶴田久作
東京市本郷區西片町十番地

印刷者　君島潔
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所　共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所　國民文庫刊行會
電話神田（一五三五番・一八三八番）
振替東京一八五七二番